京都美術工芸大学
卒業制作
梗概集

第１号

工芸学部建築学科

2022

The Summaries of Graduation Works

Department of Architecture of

Faculty of Arts and crafts

KYOTO ARTS AND CRAFTS

UNIVERSITY

vol.1

梗概集の刊行に寄せて

京都美術工芸大学
学長
新谷裕久

京都美術工芸大学は開学 10 年を迎え、工芸学部に加えて新たに建築学部が誕生しました。この記念すべき年に「卒業制作梗概集」ならびに「大学院修士研究梗概集」の第 1 号が発刊され、建築学科 8 期生ならびに大学院生 1・2 期生合わせて 167 編の梗概が掲載されたことは極めて喜ばしいことであります。

本梗概集に収録している卒業制作と修士研究は、芸術系大学の建築分野の学びとして建築デザイン領域、伝統建築領域、融合領域と多岐に渡っています。多様なキャリア・専門性を持つ教員による日々の研究指導や活動の成果であり、本学の特徴の一端を示しております。本梗概集は本学の研究・教育活動の重要な一 環であり、本学の研究力と教育力の水準向上のために来年度以降も刊行して行く所存です。

最後になりましたが，梗概集編集部会をはじめ発刊に際してご尽力いただいた全てのみなさまに心より御礼 申し上げ、巻頭に寄せる言葉といたします。



目次

工芸学部 建築学科

K18105	明石 椋太	ハワイにおける入母屋造りの導入に関する歴史研究ｗ	8
K18117	上久 惇平	Opinion - 光害解決の糸口を見つける -	10
K18132	鹿毛田 裕	孤独と賑やかさ ～健都での各世代の交流を促す運動施設の提案～	12
K18134	柏原 基毅	通勤のない都市住宅	14
K18168	坂下 友暉	寄り一添う、住みやすく。	16
K18169	坂本 蓮太郎	公営住宅共生社会 ～集合住宅の新たな居住のあり方と地域マッチング～	18
K18201	長田 晃宜	川新町 ～高瀬川と共にある新町家～	20
K18233	武藤 佑果	仏堂と仏像の寸法関係について	22
K18238	森重 裕貴	Grow up in the nature ～自然と共に育つ居場所～	24
K19201	青谷 真人	下鴨における近代郊外住宅の研究	26
K19202	明石 拓樹	復興都市における災害公営住宅の在り方について	28
K19203	秋元 幸菜	団地と人と暮らす - 東近江市 長峰団地 -	30
K19204	新 萌華	とまる、広がる -setouchi minato-	32
K19205	足立 啓太	ボランティア視点から考える防災施設	34
K19206	阿比 留莉乃	対馬の生物多様性	36
K19207	阿部 翔汰	宇野港 再生	38
K19208	五十嵐 弥希	「都市型社会」から「界隈性のある街」への起転	40
K19209	池口 聖奈	境のレジリエンス	42
k19210	石井 友梨	『いつもの道』を『いつも楽しい道』に※1	44
K19211	石垣 里紗	近世近江地方における前室付社殿の研究	46
K19212	石崎 真生	TUBOROJI	48
K19214	一幡 建太	Luminous Revenge	50
K19215	井筒 望友	京都市における高経年分譲マンションの管理実態に関する研究※4	52
K19216	岩佐 海里	霊雲院庫裏・小書院の耐震補強計画に関する研究※2	54
K19217	岩永 凪斗	商学校 - 私にとってのネイバーフッド - ※3	56
K19218	上田 悠翔	日常の風景のその先に※5	58
K19219	上村 一世	廃墟の転換から北山杉を後世につなぐ	60
K19221	植本 涼佑	支えが紡ぐ未来 ～光で包む～	62
K19222	上山 凌斗	路地から始まる町おこし ～未来へと歴史を紡ぐ～	64
K19223	内川 喜八	妻木頼黄の広島臨時仮議事堂の設計に関する研究※2	66
K19224	大谷 一晟	欅の陰に留まる ―通過点から居場所へ―※1	68
K19226	大西 稜	空間認知能力の刺激 ～視覚障害者に寄り添って～	70
K19227	岡本 知世	MOYAU ビルヂング ～「織り込ｗむ」交流空間～	72
K19228	岡本 勇真	クリエイターが住む住宅	74
K19230	小椋 幹太	衆知 ～学び得る学生の仕掛け～	76
K19231	小笹 空我	承前啓後 ～子どもと伝統をつなぐ場～※3	78
K19232	尾関 駿	地域の振興を担う商業施設の提案	80
K19233	小名 麦人	カラーパレット・タウン	82
K19234	小野 優声	これからの三世帯住宅	84
K19236	片山 輝昭	スポーツコミュニティーが織りなす建築	86

K19237　片山 綾祐　ヒトとジビエ ～環境学習を主とした食育施設の提案～　88
K19238　金澤 世名　音とつなぐ　90
K19239　上谷 涼馬　いちほまれ 米文化による交流　92
K19240　蒲原 紀子　New CHARM　94
K19242　衣川 尚輝　集まったり集まらなかったり ～教科センター方式を用いた中学校の統合計画～　96
K19243　日下部 海鈴　STEP UP ～夢を叶える場～　98
K19244　工藤 雄介　多宝塔の設計技法における基本設計研究　100
K19245　國松 夏希　定量的分析による高瀬川木屋町の町並み調査　102
K19246　国本 陸斗　彫刻の鼓動 - 彫刻から生まれる宇部のコミュニティー -　104
K19247　倉田 章広　大神神社参道の改善計画　106
K19248　幸松 瞭　人々の集う、自給自足的空間の構築　108
K19249　小﨑 史帆　愛媛県鬼北町における近世神社建築の調査・研究　110
K19250　小島 舞也　生活に緑を　112
K19251　小西 一平　祇園祭 鷹山の復興における巡行に関する研究　114
K19252　小西 賢太　曽根駅前再開発計画の提案 ～自然と共生する商業空間の計画～　116
K19253　小西 真由　Earth box system 169 建築が地球と社会にあるべき理由。　118
K19254　小西 悠矢　新たな企画が集う町工場～町工場のマーケット・イノベーション～　120
K19255　小松 快人　Part of Newtown < 異世代シェアハウス >　122
K19256　古屋敷 有人　高瀬川 舟入舟運※1　124
K19257　近藤 倫加　animal and :Do ～淀の動物保護施設～　126
K19258　呉 楓太　繋ぐ　128
K19259　後藤 愛邑　農業をつなぐ　130
K19260　齋藤 拓海　宇治の歴史的景観特性　132
K19261　斉藤 佑哉　ライフステージの変化に合わせた可変的な集合住宅　134
K19262　酒井　俊紀　パープルタウンの建替え　136
K19264　佐々木 健杜　慶長度二条城天守の復元研究　138
K19265　定村 菜笑　今熊野笑店　140
K19266　佐野 奨真　TIME’S Art Gallery　142
K19268　澤田 真由　とうりゅうもん　144
K19269　椎木 陸斗　木の学び舎 ～学生寮でセルフリノベーション～　146
K19270　島﨑 雄大　マリンテラピー　148
K19271　清水 美洸　孤育てから拠育てへ　150
K19272　庄司 賢人　自然に触れた家　152
K19273　白川 玲緒　公民館＋子供食堂　―子供たちの居場所―　154
K19275　新村 柚月　長居商店街の再生　156
K19276　角田 梨穂　“新しい”と“古い”の間に住む　158
K19277　住吉 美咲　路地をみる - 路地ぐらしのこれまでとこれから -　160
K19278　田尾 祐大　子供のための n 個目の居場所　162
K19279　髙井 佑真　日の目を昇る　164
K19280　高木 玲奈　シン・ゲシュク　166
K19281　高野 晃寛　真宗本堂の研究と計画　168
K19283　竹島 遥奈　創りながら商店街 - 大津市長等商店街再生計画 -　170
K19284　武田 優人　住宅における自動ドアの導入に関する研究　172

K19285	竹村 芳	助け合い、育てていく※1	174
K19286	多々良 風太	橋本遊郭の空き家改修	176
K19287	丸野 浩治	西山家住宅離れ・茶室の構造特性に関する研究※4	178
K19288	田中 千穂	子ども食堂を通してみんなの居場所を作る。	180
K19290	谷口 花道	聖護院のフィットネスジム	182
K19291	谷﨑 海友	大きな住まい 町家、大改修せずに暮らしやすく	184
K19292	谷中 麻里江	みちひろば - 住み続けるまちづくり -	186
K19293	玉山 弦樹	垂木の断面寸法決定方法について	188
K19294	千代 恵奨	道 , 空き家による新たなコミュニティーの形成	190
K19295	佃 桃花	なないろ商店街 〜西新道錦会商店街再生計画〜	192
K19296	土森 ふわり	何して遊ぶ？	194
K19299	戸田 大海	KitayamaR	196
K19301	土井 友裕	Paper-Airport	198
K19304	中村 拓真	百年住宅	200
K19305	永田 怜和	海上移動型保護猫カフェ	202
K19306	永原 史綺	浜寺のみせるリゾート高齢者住宅	204
K19307	灘井 洋一郎	京都競馬場周辺計画	206
K19308	夏目 優大	ホリスティック治療を広めるストレスケアセンター※1	208
K19309	西田 緋彩	建築士試験の出題傾向に関する歴史的研究 〜国外近代建築について〜	210
K19310	西永 昂平	JR 福山駅北口再開発計画	212
K19311	西畑 樹	主要建築と付属建築間における規模の関係について (寺院編)	214
K19312	西邑 陽良	非六枝掛組物の設計技法の研究※2	216
K19313	西村 洸城	未来住計画	218
K19314	西村 卓也	Re:START 〜あいりん地区自立支援施設の統合〜	220
K19315	西元 愛理	北野における勧進能と舞 ww 台建築に関する研究 〜勧進能場の復元〜※7	222
K19316	西山 沙歩	長屋の保存と再生	224
K19317	根本 悠花	蟇股の形状の変容過程に関する研究	226
K19318	野口 聖人	公園住宅	228
K19319	野田 太樹	セカンドハウス ―利用者も職員も笑顔溢れる住宅介護施設―	230
K19320	野中 諒子	開放的な空間とプライバシーの両立	232
K19321	野々村 美映	毎日がっこう　みのりからまなび、まなびがみのる	234
K19322	萩永 楓佳	自然を感じる住宅	236
K19323	濱岡 太陽	Archive 尾道 - 尾道映画歴史観	238
K19324	濵野 佑基	泉ヶ丘 STATION・HILL	240
K19325	馬場 恭輔	愛護 〜自然な形で出会うふれあいの場〜	242
K19326	馬場 貴裕	本のない図書館	244
K19327	東谷 龍星	いなかぐらし 〜移住者・援農者の居住空間の計画〜	246
K19328	東埜 寧於	宝塚駅の活性化	248
K19329	一ツ矢 雄士	折戸コネクションサイクル　地域で子育てを目指すコミュニティ公園	250
K19330	人見 凜　記	憶のかたち 〜棚田風景を後世に残す〜	252
K19332	福永 皓太	あいだで過ごす 〜道路状公園の計画〜※3	254
K19333	藤岡 陸	Dog dock	256
K19334	藤川 美咲	再生し続ける島	258

K19335　藤木 繭穂	夏みかんの寄	260
K19336　藤澤 悠介	働き方、住み方に変化を	262
K19338　藤村 優晴	～介護住宅と地域のための賃貸雑～ 雑貨広場	264
K19340　降簱 優花	善光寺五重塔復元案の再現 立川流・善光寺五重塔図より※2	266
K19342　前田 温人	大阪 Port Shelter ～湾岸の津波避難施設計画～	268
K19343　前田 仁海	絶やさぬ古窯の火	270
K19344　真木 祐梨菜	未来を創る相談所 ～自然と人との交流～※1	272
K19345　増田 修也	ライフ図書館　学生と高齢者の為の世代間交流施設	274
K19346　松井 星	中之島保育作戦	276
K19347　松尾 拓海	京都最古の国際ホテル　也阿弥ホテルの復元考察	278
K19348　松村 夏実	今熊野小学校防災まちづくり	280
K19350　水元 啓裕	重ね、重なり、連なり、紡ぐ　稲荷駅改善プロジェクト※1	282
k19353　宮林 智佐	ミルミルコフン ―塔の林立による新たな古墳の風景―	284
K19355　村田 恵未	おいしく豊かに生きること ~「食」をコンセプトに「食に関わる人々」のコクティブハウス ~※1	286
K19356　森 理咲子	歴史的建造物における鏡の研究	288
K19357　森居 優太	生身天満宮拝殿の改修履歴	290
K19358　森本 安海	近づく自然 ～猪名川が生み出す生活の一部～	292
K19359　森本 紀里佳	川を居場所に - 観光地化するプレイスメイキング-	294
K19360　森山 圭介	災害後に生・活きる	296
K19361　安田 涼真	C-STATION - 園田サテライトオフィス計画 -	298
K19362　矢野 玲	織成 ―ラオス市場から広げる文化―※6	300
K19364　山川 真生	参詣駅の成立とその変容 ～社寺参詣を目的とした駅舎建築の研究～	302
K19365　山口 皓太郎	人々や産業を活性化させる建築空間と場の創造について	304
K19366　山崎 舞花	生物多様性の場を持つ環境共生型住宅	306
K19367　山下 拓己	街を家族へ ～岡町商店街に子供の声を～	308
K19369　吉田 仁美	五重塔の設計技法の研究	310
K19371　渡辺 稔史	Rest Time	312
K19372　渡辺 龍登	コントラスティブ・ハウス若手お笑い芸人のためのシェアハウス	314
T21002　関 優希	Starting Point	316
T21003　竹元 玲浩	繋げ繋がる高架下建築	318
T21004　名原 千晴	高校生の秘密基地	320
T21005　宮島 はるみ	水と布と生きる　星の王子さまミュージアムと音環境	322
T21006　安澤 聖志	TUNAGU - 芹橋一丁目街区再生計画 -	324
T21007　山田 祥永	WINDMILL	326

※1　佳作（設計部門）

※2　佳作（論文部門）

※3　優秀賞（設計部門）

※4　優秀賞（論文部門）

※5　佳作　審査員特別賞（設計部門）

※6　最優秀賞　理事長賞　審査員特別賞（設計部門）

※7　最優秀賞　学長賞　審査員特別賞（論文部門）

工芸学部 建築学科

ハワイにおける入母屋造りの導入に関する歴史研究

Introduction of gabled roof in Hawaiian architecture

学籍番号　K18105
名　前　明石椋太
指導教員　江本研究室

ハワイ　入母屋造り　東アジア
西洋人　浄土真宗　宗教

1　研究目的

東アジアが起源とされている入母屋造り。ハワイに存在している、していたとされる入母屋造りはどのような経緯で活用されるようになったのか。東アジアとの交流で文化が継承されたのか、はたまたハワイ本土で発祥した文化なのかなど、様々な憶測が浮かぶ中で、活用されるようになった経緯を解明することが本研究の目的となる。

2　研究方法

実際にハワイに存在している、していたとされる入母屋造りの建築物を竣工年、建築名、建築家の順で以下に記載している。

① 1896 ALBERT SPENCER WILCOX BEACH COTTAGE 不明
② 1901 PIONEEER INN George Freeland
③ 1903 ヒロ本願寺 不明
④ 1904 WAILUKU EREMENTARY SCHOOL Dickey and Newcomb
⑤ 1910 KOLOA JODO TEMPLE Antaro Michioka
⑥ 1916 PASCHOAL HALL 不明
⑦ 1916 HAMAKUA JODO MISSION Umekichi Tanaka
⑧ 1918 RANNEY SCOTT HOUSE 不明
⑨ 1921 YAMASE AND MASUDA BUILDINGS Jitsutaro Murakami
⑩ 1921 AH DOI SETO BUILDING 不明
⑪ 1922 KIRAUEA EREMENTARY SCHOOL 不明
⑫ 1925 ST. LUKE’S EPISCOPAL CHURCH Lemmon and Freeth
⑬ 1925 AKANA STORE Mamalahoa Hwy
⑭ 1927 FIRE STASTION Davis & Fishbourne
⑮ 1928 LAUPAHOEHOE RAILWAY STATION MANAGER’S HOUSE Mamalahoa Hwy
⑯ 1931 PEW RESIDENCE 不明
⑰ 1931 MAKIKI CHRISTIAN CHURCH Hego Fuchino
⑱ 1931 C. BREWER BUILDING Mayers, Murray and Phillip
⑲ 1931 PINEAPPLE RESEARCH INSTITUTE Harry Sims Bent
⑳ 1937 GAYLORD PARKE WILCOX HOUSE, “KILOHANA” Mark Potter
21 1938 CIRCUIT COURT BUILDING Harry K. Stewart
22 1951 BRENARD C. TING HOUSE 不明
23 1956 KYO-YA RESTARANT 不明
24 1968 BYODO-IN TEMPLE Robert Katsuyoshi
25 1972 C. BREWER HEADQUARTERS Vladimir Ossipoff
26 1979 PANIOLO HALE Boone and Associates
27 1983 ハワイ金刀比羅神社 不明
28 1989 SEA RANCH COTTAGES Media Five Limited
29 1991 KYO-YA RESTARANT Hideto Horiike and Ray K. Yamamoto
30 1992 HAWAII PLANTATION VILLAGE Okinawan House Spencer Mason Architect
31 1993 MCGEE RESIDENCE Dinmore and Cisco Architects
32 1995 BUDDHIST STUDY CENTER Arthur A. Kohara
33 1999 MOLOKAI LODGE Philip K. White and Associates
34 2000 GOLO HOKAMA POST OFFICE BUILDING Richard Matsunaga and Associates
35 2001 KALIHI VALLEY HOMES Group 70 International
36 2003 CHRIST UNITED METHODIST CHURCH Spencer Leineweber

以上で取り上げたようにハワイについての史・資料から、入母屋造りの建築物についてピックアップし、それぞれの特徴を建築的な視点から広げていく。さらにハワイ本土で起こった歴史と入母屋造りを結び付け、どういった経緯で建てられるようになったのかを解明する。

３　ハワイ本土での歴史

ハワイ本土で実際に起こった歴史を第１章、第２章で記述している。

第１章では原住民が暮らしていたハワイ王国へ西洋人が上陸し、持ち込まれた宗教の影響でハワイの一般的な住居（図１）が減少し、西洋建築が見られるようになる時代背景を記述している。



図１　ハワイの茅葺き屋根の住居
出典：Arts and Crafts of Hawaii 1964.

第２章では入母屋造りの起源である東アジアにフォーカスし、移民としてハワイへやってきた人々の起こった歴史を記述している。

４　ハワイの入母屋建築

ハワイの入母屋建築の特徴を「屋根の形状、てり/むくり/直線」「妻入り/平入り」「建物の用途」「東アジアとの関わり度」「日本風な建物」の５つで項目を設け、それぞれを評価した。結果が以下の通りとなる

○　むくり屋根は１つもない
○　建物の用途は様々
○　てり屋根＋平入りの建物は寺や神社など、日本風な建物が多い
○　直線屋根の建物に関しては日本風な建物とはいえない

５　結論

結論として考えられるパターンは３つ浮上した。

①　結果から直線屋根の入母屋造りが存在していることが分かるが、東アジアの文化である入母屋造りがなぜハワイで使用されたのか疑問が残る。それはハワイでは元々入母屋造りに似た文化が存在していた可能性があるということになる。その可能性を見出す記述（図２）がある。

②　浄土真宗の僧侶である今村恵猛（1867-1932）がハワイにて浄土真宗を布教した影響から寺や神社がハワイに建てられるようになり、それがハワイ建築にも影響を及ぼした可能性。

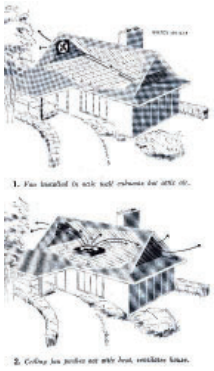


図２　入母屋の役割
出典：House Beautiful Feb 1956

③　入母屋造りは日本人由来だという証言が『House Beautiful Sep 1958』（図３）という建築雑誌に記述されていた。１９５８年に出版されたため、少なくとも１９５８年以降の入母屋造りの建物は、日本人が関わっていた可能性がある。



図３　入母屋は日本人由来だという証言
出典：House Beautiful Sep 1958

参考文献

①Don J. Hibbard 『BUILDINGS OF HAWAII』 2011. ②DON HIBBARD, GLENN MASON, AND KAREN WEITZE 『HART WOOD ARCHITECTURAL REGIONALISM HAWAII』 2011.③ROB SANDLER, JULIE MEHTA 『NEW EDITION ARCHITECTURE IN HAWAII A CHRONOLOGICAL SURVEY』 2008.④GEOFFREY W. FAIRFAX 『THE ARCHITECTURE OF HONOLULU』 1971.⑤Elizabeth Gordon 『House Beautiful』 SEP 1958. ⑥Elizabeth Gordon 『House Beautiful』 FEB 1956.⑦ハワイ日本人移民史刊行委員会編『ハワイ日本人移民史』 1964年.⑧浄土真宗本願寺派国際センター⑨Wikipedia：ハワイの歴史⑩移民たちはどんな暮らしだった？ハワイプランテーションビレッジで歴史散策

Opinion –光害解決の糸口を見つける–

学籍番号　K18117
名　前　上久　惇平
指導教員　安田　光男

Opinion -Finding Clues to Solving Light Pollution-

Student Number　K18117
Name　Jumpei Uehisa
Supervisor　Teruo Yasuda

§1. はじめに

近年、現代社会では夜間照明の存在が欠かせない環境となっている。治安維持の安定化や人間活動の活発化、夜間景観の向上化など多くのメリットが見受けられる反面、照明から発せられる過剰・不要な漏れ光は「光害（ひかりがい）」という形で我々に弊害をもたらしている。日本では 1989 年に岡山県井原市美星町が全国初の光害防止条例を制定。1998 年、旧環境庁が「光害対策ガイドライン」の策定ならびに良好な光環境を目指すべく、各地域の特性に応じた「光環境類型」を設定するなど主に大都市を中心に施策が進められ始めた。しかし、全国規模に視野を広げると未だ不十分の地域が多い。加えて、大衆に光害という言葉自体があまり浸透されておらず光害解決に対して消極的である。これらの問題は、環境省だけではなく建築業界も共に対策を講じなければ、解決の兆しが見えることはないと私は考えている。本計画では、地域住民は勿論のこと、建築業界に携わる多くの建築士・建築学生たちに光害を認知させ、解決案ならびに過剰な漏れ光を発生させない環境づくりを推進する“意識改革”を目的としている。

§2. 光害の弊害

2_1. 人への弊害

・屋外照明が住居内へ侵入し、居住者の睡眠やプライベートを阻害。
・屋外照明の設定、設置が不適切なことでグレアが生じる。
・屋外照明の青色光が概日リズムを崩壊させる可能性がある。

2_2. 動植物への弊害

・砂浜を照らす照明により、ウミガメの産卵等が阻害される。
・走光性や背光性をもつ昆虫の生息域に光が照射され、生息数が変化。それを餌にする爬虫類や鳥類の生態系にも影響が及ぶ。
・屋外照明により農作物も出穂時期が遅れる。

2_3. 夜空への弊害

・上方光束が大気中に散乱し、スカイグローが発生する。
・スカイグローにより星が見えづらくなり、天体観測に影響。

2_4. 電力消費への弊害

・LED が普及するも、照明設計の適した検討が不十分な場所では、上空への放射光強度の推移がさらに増加される。

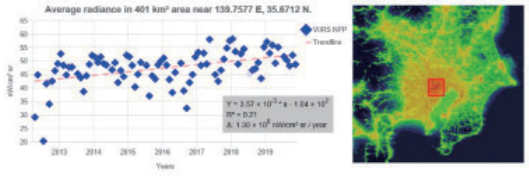


図３　東京都心部における上空への放射光強度の推移[※10]

§3. 現状

先述した光害の対策として、夜間での屋外照明の点灯時間を吟味する、赤外線や超音波などを用いた人感センサーを取り付け自動的に調光する、上方光束比の抑制・相関色温度の低い街灯を設置するなどを行っている。その他、光害対策防止条例やサーチライト規制条例を制定し、積極的な光害対策を行っている自治体は 10 か所程で、東京や大阪などの大都市に見受けられる。また、これら周辺に向かって、環境庁の全国星空維持観測に参加するなどのやや積極的な対策を設けている自治体が広がっており、都市の広域化に伴って光害の被害地域も拡大していることが見受けられる。だが、全国規模に視野を広げると、対策を行っていない自治体がほとんどであり、光害に対する問題意識が低いというのが現状である。LED による電力消費の点に関しては、総合的に判断すると省エネルギー化は停滞傾向であり、期待したほどの効果が得られていないのも見受けられた。

§4. 計画敷地

計画敷地は大阪港の最西端に位置する突堤である。周辺には海遊館や天保山ハーバービレッジなどの観光スポットが存在し、その来客者や定期的に来航する護衛艦・観光船の来場者、ツーリングに来る人などが敷地を訪れる。2025 年には夢洲で大阪万博が開催され、大阪湾周辺は活気あふれる場になると思われる。加えて、地下に開通している大阪港咲州トンネルから経由する来客者がさらに増加すると推測され、現在・将来的にも「集客性」に恵まれている場所である。また、都市周辺の中でもかなり見晴らしが良く空を一望しやすい。駅周辺に比べて屋外照明も少なく“光環境類型 E3”に該当される。しかし、星はほとんど見えず「光害の深刻化」が伺える。この現状を、敷地特有の集客性と E3 に設定されている指針値や漏れ光を考慮した文化施設と組み合わせることで、より多くの人に光害を認知・解決へと促すことができると思われる。

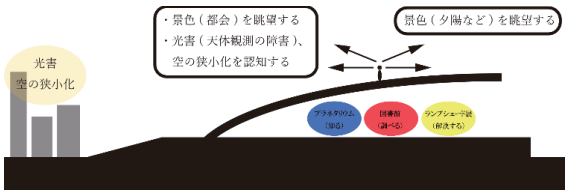


§5. 設計概要

3 つの施設と地上から経由可能な大屋根で構成されている。特に大屋根に関しては、敷地従来の用途である景色の眺望に利用できる他、光害が空に及ぼす弊害を認知させるという役目がある。

所在地：大阪府大阪市港区海岸通 1 丁目
主な用途：文化施設
敷地面積：33,350m
建築面積：14,762 ㎡
延床面積：6,672.53 ㎡
キーワード：光害・空の狭小化・意識改革

Location : 1,Kaigandori,Osaka Shi Minato Ku, Osaka Fu
Main Use : Cultural Facilities
Site Area : 33,350 m^2
Building Floor Area : 14,672 ㎡
Total Floor Area: 6,672.53 ㎡
Keywords : light pollution, narrowing of the sky, changing one's way of thinking



▲断面ダイアグラム

5_1.　文化施設

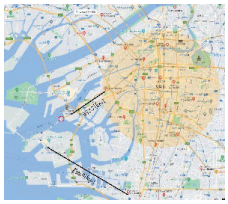
この施設は光害を段階的に理解し、解決の糸口を発見することを目的としている。屋外・屋内照明器具による過度な漏れ光は光害解決に対する説得力に影響してしまうため、自然光の「拡散反射」と人工照明の照射光との「輝度対比」を利用。これらにより生まれる“光の知覚”で空間を形成していく。

1)　プラネタリウム

プラネタリウムは“天文・光害へ興味を抱かせる”ことが目的である。光害による弊害の中でも「天体観測の障害」は最も代表的かつ、誰もが視覚を用いた直感的な理解ができる問題である。光害を知るきっかけを生み出すのに適した施設だと考え、採用した。この施設にはプラネタリウムが２館存在し、座席配置・種類が大きく異なる。一般シートはリクライニング席で、他のプラネタリウムと同様の方法で楽しむことができる演出空間になっている。対するカップルシートは、数種類のソファが投影機を中心に同心円状に配置されており、寝そべりながら演出を楽しむことが可能だ。

2)　図書館

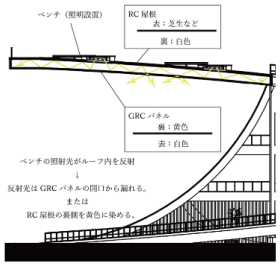
図書館は“光害の詳細を調べる人を増やす”ことが目的である。そのため、3 階には光害に関する書籍や資料・論文などを中心に蔵書している。この施設の構造はスキップフロアになっており、各階の読書コーナーに間接的な繋がりを生み出す「ひとつの大空間」になっている。また、緩やかな曲線を描いている大屋根と白色に統一された仕上げ材は、3 階から差し込む自然光を拡散反射させ、図書館全体の空間を柔らかい光で包み込む。これにより反射率が低い木製本棚と、それに設置されている照明で照らされた面に輝度対比が生まれ、本棚周辺がより明るく見えるようになる。その他、公立図書館は大阪市の中心に集中していることから、敷地に図書館を建設することで周辺、特に咲州の地域住民からの需要が高まり、敷地への集客力向上ならびに光害の認知向上に繋がると思われる。



3)　ランプシェード展

ランプシェード展は“漏れ光の少ない照明デザインを考え、光害解決に貢献してもらう”　ことが目的である。そのため、展示室の他に照明器具の制作室や光害研究室、来客者が気兼ねなくランプシェードの制作体験ができるエリアを設けている。展示室は３種類のテーマで構成されている。特に、2 階の展示室 3　では光害解決を促すための「技術的かつ動的な光制御」という実践的な内容をテーマにしている。ショーケースには液晶調光ガラスやエレクトロクロミック調光ガラスなど、特別な部材を用いており、ボタンを押すことでガラスを曇らせ漏れ光をシャットアウトできる構造にしている。

5_2.　大屋根



光害が空に及ぼす弊害は天体観測の障害の他に、空の狭小化も考えられる。限られた敷地面積を有効活用する日本では将来的に永久的問題のひとつに挙げられるだろう。敷地従来の用途である景色の眺望に加えて、今一度、空を注視する時間・空間を作り、“光害と空の狭小化を認知してもらう”ことを目的としている。この屋根は上記の図のように塗装された RC と GRC パネルのダブルルーフ構造で形成されている。ベンチに取り付けられた照明の光はルーフ内を拡散反射し続け、RC 屋根を黄色く染める。また、GRC パネルの開口からの漏れ光を地上から見上げると星空のように見え、日没後の空の輝度対比と色対比により、より一層鮮やかになる。この星を模した光と実際の夜空を比較することで、光害の深刻さを認知させる。

§6.　まとめ

本計画では、より多くの人への光害の認知・理解ならびに解決への意識改革となる文化施設を設計した。人と光は共依存の関係なため、光害の弊害を完全に無くすことは不可能だろう。しかし、光の知覚や動的な光制御を利用することで解決の兆しは見えてくるはずだ。

参考文献

・環境省 光害対策ガイドライン 令和 3 年 3 月改訂版
・光と音の建築環境工学　著：小林茂雄
・光の建築を読み解く　著：日本建築学会
・空間デザインのための照明手法　著：照明学会

孤独と賑やかさ

～健都での各世代の交流を促す運動施設の提案～

学籍番号　K18132
名　　前　鹿毛田裕
指導教員　井上晋一

Lonely and Bustling

～Athletic facility that encourages interaction among generations in Kento～

Student Number　K18132
Name　　Yutaka　Kakeda
Supervisor　　Shinichi　Inoue



北側アプローチ付近の内観パース



1 階健康増進エリア付近の内観パース



南側アプローチ付近の内観パース

背景と目的

1.1. 少子高齢化により生じる弊害

日本の社会問題のひとつである少子高齢化社会はさまざまな問題を生んでいる。高齢者を介護する介護者の高齢化や人手不足、単身の高齢者の孤独化による孤独死、空き家問題、労働者の不足などの問題が主に挙げられる。少子高齢化問題を建築で直接的に解決するのは難儀であり、不可能に近いだろう。しかし問題により生じる弊害のいずれかを建築で間接的に手助けすることは可能である。

1.2. 子どもと高齢者の交流

少子高齢化問題を建築として現実的に手助けするのには子どもと高齢者の交流の居場所が第一に求められる。この交流を支える役割がこれからの社会を担う学生と大人である社会人である。今回の私の制作では子どもと高齢者の交流の居場所を主体とした空間をつくり、周りが関係性を助長することのできる建築を提案する。(図 1)

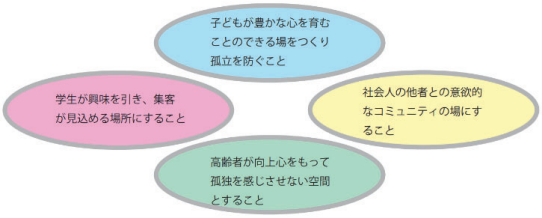


図 1　建築が作用する 4 つの目標

1.3. 選定敷地について

敷地は大阪府吹田市岸辺新町 2 にある健都レールサイド公園。この敷地の新築を想定した制作となる。地域の特徴として健康と医療を推進している地区となる。現在では 3 つの広場としてエリアが分かれており敷地の最東部には健都ライブラリーという図書館がある。

1.4. 目的

制作のテーマとして掲げるのは「孤独」を「賑やかさ」に変えること。すなわち、建築を訪れるきっかけにより、子どもと高齢者の交流を軸に世代間で「賑やかさ」の喜びが感じられる空間をつ

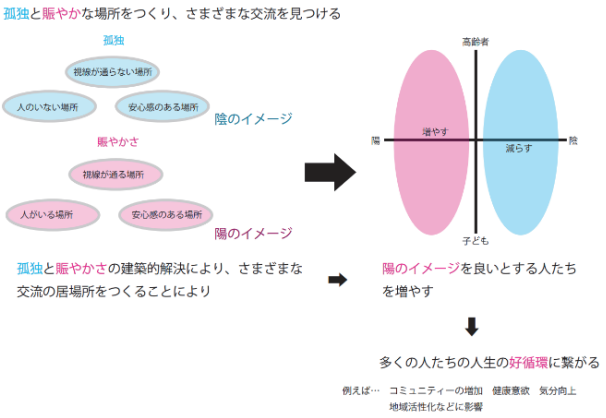


図 2　孤独と賑やかな場所をつくりさまざまな交流を見つける

所在地：大阪府吹田市岸部新町２ 健都レールサイド公園
主な用途：運動施設(屋内運動施設、公園)
敷地面積：26,582 ㎡
建築面積：10,598 ㎡
延床面積：11,633 ㎡
キーワード：子ども、高齢者、孤独、賑やかさ、医療と健康、交流

Location : Kishibe, Shinmachi2 Suita-shi, Osaka
Main Use : exercise facility
Site Area : 26,582 ㎡
Building Floor Area : 10,598 ㎡
Total Floor Area : 11,633 ㎡
Keywords : Child senior citizen loneliness liveliness medical and health Alternating current

くることである。孤独と賑やかさを生む建築的解決によりさまざまな交流の居場所をつくり、多くの人たちの人生の好循環に繋がる、影響力ある建築を提案する。(図 2)

2.1.　計画背景

医療と健康に重点を置いた健都という都市に適する用途は、元ある公園の機能を引き継ぎつつ新しく、人が歩みを進める中で特に視線の交差による交流が生まれやすい建築が適しているのではないか。建物を利用する子どもから高齢者まで、それぞれのアクティビティに間接的に参加できること。交流に参加することが大切であると考える。(図 3)

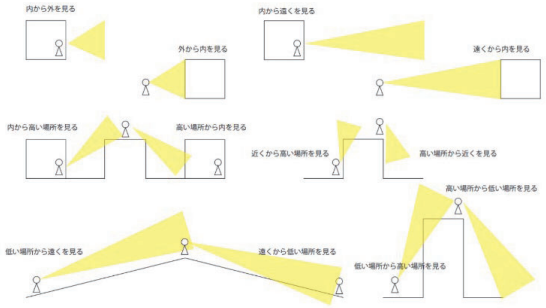
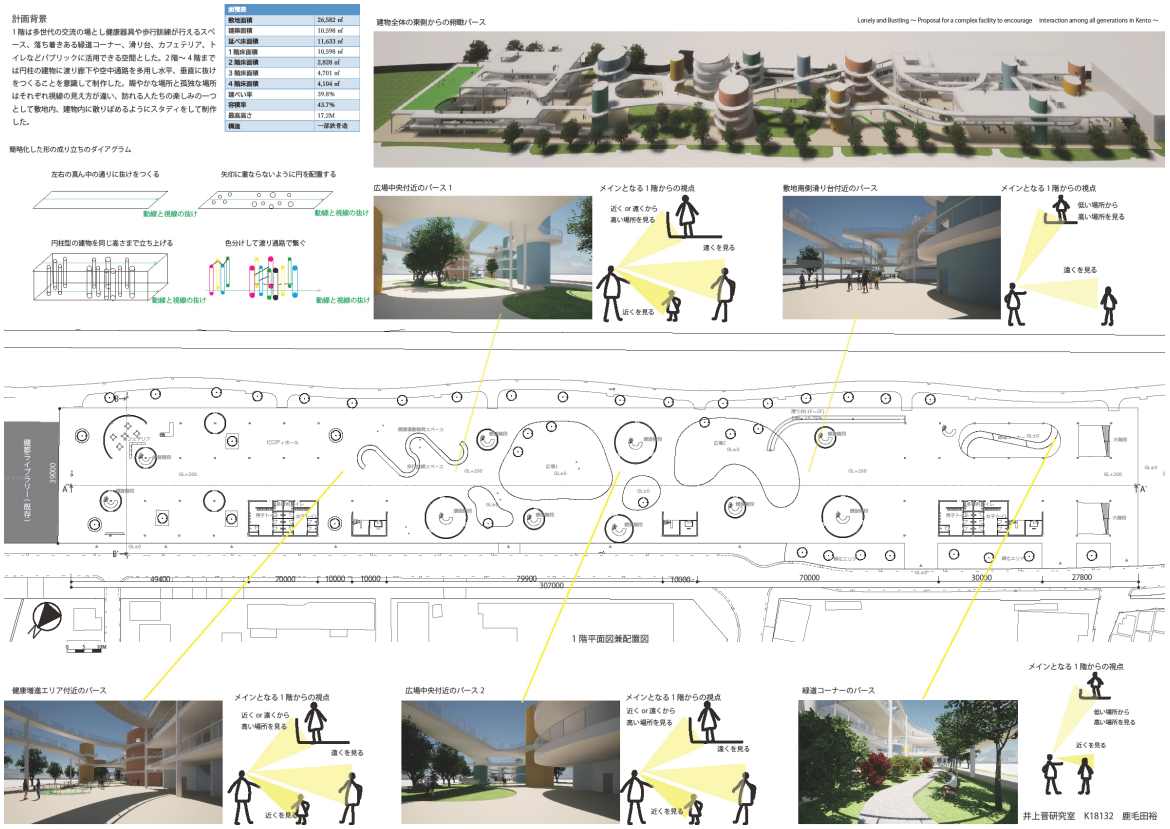


図 3　視線の見え方

●建築的提案

3.1.　建築的提案として重視したのは健都ライブラリーからの視線の抜けである。賑やかな場所と孤独な場所はそれぞれ視線の見え方が違い、訪れる人たちの楽しみの一つとして敷地内、建物内に散りばめるようにスタディをして制作した



１階平面図と１階各視点からの内観パース

通勤のない都市住宅

学籍番号　k18134
名　　前　柏原基毅
指導教員　髙田 光雄

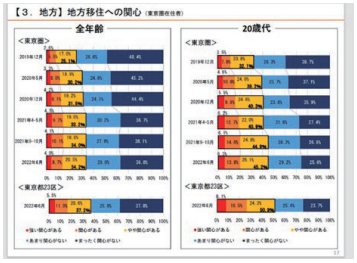
Urban housing without commuting

Student Number　k18134
Name　Motoki Kashihara
Supervisor MituoTakada

設計の目的と背景

近年、インターネットの発達、コロナ禍による影響で、仕事の形態の変化、ライフワークの変化などが主にテレワークなどを中心に急速に起こって来ている。その他にも地方移住に関しても年々興味を持つ人が増えてきている。（図１）

また、テレワークが発達したことにより、わざわざ都心に住んだり、毎朝しんどい思いをしてまで、満員電車に乗る必要性が減ってきたのではないだろうか。今回、ベットタウンは都心の住宅緩和ではなく、ベットタウンに新たな需要として、テレワークを主体とする人を呼び込むことが今回の目的である。



↑図 1

敷地

この部分か敷地は大阪府枚方市中宮東之町１２−１４である。枚方市は京都市と大阪市のほぼ中間にあたる大阪府北東部、大阪市から京都市に向って約 20km の淀川左岸に位置する。今回の敷地選定の理由として、梅田などの人が多い場所に住むのは好ましくないが、かといって自然あふれる田舎に住みたいわけではないひとに向けに選定した。いわゆる都会で生活している今の生活をある程度維持したい人に向けてである。また車を使わなくてもある程度生活できる公共交通関が発達した環境を選んだ。



地図 1



敷地周辺図

計画内容

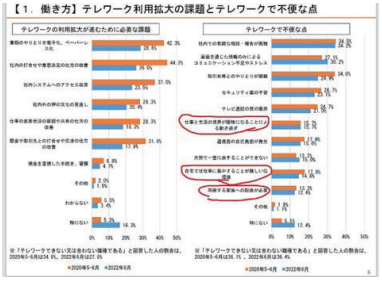
今回は子育てとテレワーク環境の両立についても考えた。 特に重要視した点として仕事場を複数設けることに注力した。テレワークなどの仕事は自宅内で行われるが、仕事場の環境を変えるために、自宅とは別の仕事環境 3 つ設けた。そして環境を変える場所は以下のダイアグラムのように、コモンテラスを通じて行くことが出来るようにした。 1 つ目はオフィスと言い、事務所のように机を並べて、会社で働いている用 に仕事を行える場所を設けた。2 つ目はロビーと言い、ホテルのロビーをイメージし、リラックスした環境で仕事を行えるようにした。3 つ目は個室と言い、いわゆるオンライン会議や雑音を入れたくない環境において、周りをシャットアウト できる環境を作った。 またテレワークをしている親子の課題として、子供と過ごす時間はテレワークする以前と比べると増えたが、子育てとテレワークの両立が難しいと感じる両親が い

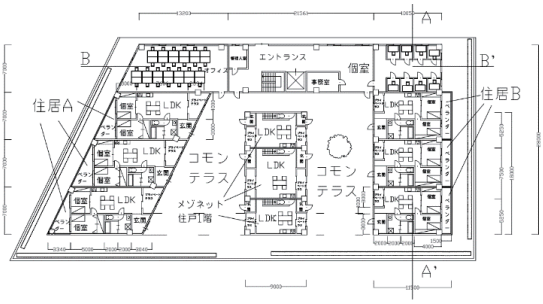
所在地：大阪府枚方市中宮東之町１２−１４
主な用途：集合住宅
敷地面積：2230m²
建築面積：926.9 ㎡　建蔽率 42%
延床面積：2780.7 ㎡　容積率　126%
キーワード：集合住宅　テレワーク　子育て

Location : 12-14,Nakamiyahigashinochou,Hirakatashi,Oosaka
Main Use : housing complex
Site Area : 2230m²
Building Floor Area : 926.9 ㎡ ²
Total Floor Area : 2780.7 ㎡
Keywords : housing complex, Telework, child rearing

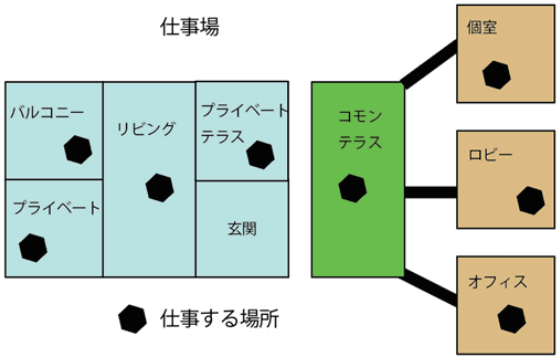
る。（図 2）今回の計画内容としては、リビングアクセス型におけるプライベートとコモンの両立を目指した。仕事環境は、自宅のみならず、コモンテラスを始めとし、 ロビーやオフィス、個室などの複数の仕事場の空間環境を計画した。子育てに関する面では、複数の家族が協力して、子供を見守るためにコモンテラスを設けた。子どもが遊べる環境として、通常であれば、 狭いテラスを住居ごとに共有することで、子供がコモンテラスで走り回れるような設計にした。

↓図 2





↑1 階平面図



↑ダイアグラム

コモンテラス外観↓



参考文献

図 1 図 2

https://www5.cao.go.jp/keizai2/wellbeing/covid/index.ht ml

寄り一添う、住みやすく。

学籍番号　K18168
名　　前　坂下友暉
指導教員　新海ゼミ

More Livable

Student Number K18168
Name　Sakashita Yuki
Supervisor Shinnkai

1. はじめに

我が国では少子高齢化のあおりを受けて、全国的に統廃合が繰り返されている。本計画は将来的に廃校が見込まれている大阪市立内代小学校の廃校後の校舎利用について考えることから出発した。

しかし、その後小学校すぐ隣にある公園が、小学校の廃校の影響を受けて利用状況が変わることに着目し、計画の路線を変更する運びとなった。

本計画で提案するシンボルオブジェクトは、変形的な東屋であり、加えて利用者を増やすための舞台装置としての役割を想定している。

2. 計画の課題

本計画では内代小学校が廃校になった後、吸収合併される高倉小学校近くの公園がより利用され、内代公園の利用者が現在より過疎化することを想定している。

今回の課題は児童の公園利用がほかの公園へ流れてしまうことは避けられないものとして考える。この状況を乗り越えるため、より積極的な公園利用をしたくなるアプローチが必要である。

3. 計画の目的

本計画では広大な敷地の広さを活かし、思わず立ち寄ってみたくなる機能を備えた象徴的な県市区を設計し、また、ほかの公園にも同じような装置を組み込むことにより相乗的な効果のアクティビティが生まれることを狙う。

4. 大阪市の小学生児童数の推移と内代小学校の現状

本計画のきっかけとなった大阪市立内代小学校の廃校可能性についてまずは背景を明らかにしていく。

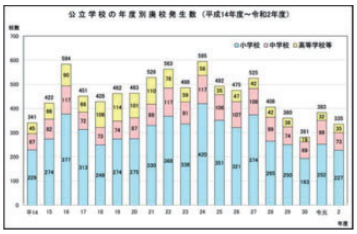
大阪市における学校適正配置について有識者の集まりである大阪市学校適正配置について有識者の集まりである大阪市学校適正審議会において検討され、昭和 56 年の第二次答申以降、教育委員会によって学校配置の適正化が進められてきた。

平成 16 年の答申では学校規模 300 名を過少規模の基準とした考えが妥当であると判断された。さらにこの時児童数が 120 名を下回る学校について引き続き審議を行われた。

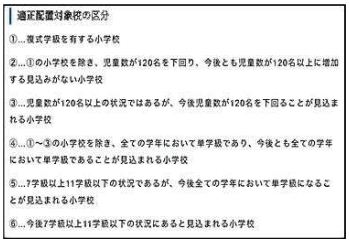
平成 20 年度の答申では、まず、学校の適正規模が 12 学級から 24 学級までであると再定義し、適正化の検討対象として、基本的には統合の手法で進めるべきだと整理された。この答申を受けて教育効果面での課題がより大きいと考えられる 3 校から順次、地域と保護者各員への説明を開始。審議会においても残された課題について検討が重ねられた。その後平成 22 年 2 月の答申で今後の学校配置の適正化の進め方について再整理され、11 学級以下の小学校全体を①から⑦に分類し、適正化の対象とした。

内代小学校の廃校可能性はこの区分から判断され、21 年度で 7 学級 185 人。卒業した六年生が 24 人で 22 年度入学した一年生が 39 人で(一年生の単学級は特別学級を除いて 35 人以内でなければならない)進級後、単学級 40 人の規定内であることから、6 学級 191 人と暫定できる。

これは適正配置対象校の区分の④「①－③の小学校を除き、すべての学年において単学級であり、今後ともすべての学年において単学級が見込まれる小学校」に該当し、今後周辺地域の開発により住民が増えたとしても児童数は微増しか見込めず、適正対象外にはならないだろうことから、将来的に、同じ中学校区に含まれる大阪市立高倉小学校に吸収合併されることが有力な仮説となる。



公立学校の年度別廃校発生数



適正配置対象校の区分

4. 計画敷地

敷地は内代公園を主に取り上げ、統廃合後の学区となる高倉中学校区における公園にもスポットを当てていく。

特に淀川から流れ水運に活用されていた榎並川を埋め立てた跡地に置かれた 9 つの連なる児童遊園は街の景観の中で特殊な動線を作っている。

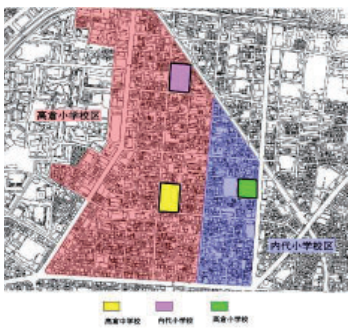
今回は内代公園に加えて、この児童遊園を活用した提案を行う。

5. 都島区の歴史

今回の計画敷地の内代公園並びに榎並川跡にある児童遊園がある都島区は明治 22 年大阪市誕生ののちに、市域拡張や行政区再編を経て誕生した。この淀川はこれまで数えきれないほどの洪水を引き起こしており、明治 18 年の大洪水を契機に改修の取り組みが始まり、その後も行われ大阪の近代化に大きな役割を果たした。

豊富な水利用が注目され、大小の工場が区の中心・北部に進出し、急激な工業地帯化が始まった。

しかし、その後公害対策が社会問題化し、工場は地方へ転出。それから現在にも続く集合住宅群に姿を変えている。



高倉中学校区と含まれる二つの小学校区

所在地：大阪市都島区内代町三丁目３
主な用途：公園の象徴化
敷地面積：6228m^2
建築面積：640m^2
延床面積：118m^2
キーワード：公園・シンボル・コンクリート造

Location : 3-3,Utindai,Miyakojima-ku,Osaka
Main Use : Park
Site Area : 6228 m^2
Building Floor Area : 640 m^2
Total Floor Area : 118 m^2
Keywords : Park, Symbol, Concrete construction

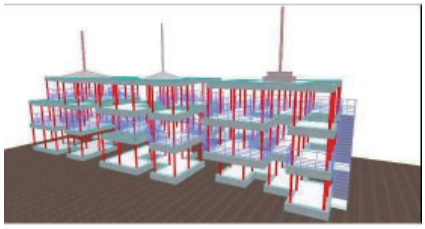
6. 計画の概要

本計画で作られるシンボルオブジェクトは規律ある工程を経て形を成す。同一の秩序から成り立っている複数のオブジェクトは、一目見た人間につかみどころのない違和感を覚えさせる。パターンの違いで複数生み出せるシンボルはそれぞれ個性があらわれる。また、街の中にどこか見覚えのあるものをみつける安心感を持つようになり、公園にあるシンボルを見かけるだけで、ホームの中にいると自覚をもたらす。

壁を持たず、屋根となるスラブの吹き抜け部分がランダムにおこり、この違いが空間にメリハリをもたらす。屋根があっても雨が降れば風によって内部まで運ばれることもあるだろうし、逆に雨も光も届かない場所が生まれることもある。

一つの建築で光の差し込み方など様々な自然条件の中でお気に入りの場所を探すことができ、子供たちの集まる秘密基地のようなわくわく感をもたらしてくれる。

色彩は派手で目立つ警戒色の赤を取り入れた。これにより存在感が増し、自然と目に入るようになる。



異なるシンボルオブジェクトを並べた図

上るという行為を孕ませたシンボルオブジェクトはアイレベルの違いによって普段見ることができない地域・故郷を展望することができ、それぞれが旗を掲げるように長く突出して伸びあがっている柱でそれぞれの存在を確認することができる。

これらの機能により、公園を巡るアクティビティが生まれて、同じ屋根・スラブの下で屯することで“なんとなく”連帯感を芽生えさせることになる。

9 つの児童遊園に立つ塔のようなシンボルが並ぶ光景はユニークで、出かける際のショートカット以外でほとんど利用されていなかったそこに、巨大なオブジェクトの下を潜り抜けるという楽しさが生まれる。これらは街の景観を大きく変化させて、より住みたくなる街の一助となる。



7. 参考文献

1）都島区ホームページ
https://www.city.osaka.lg.jp/miyakojima/index.html
2）ラヴィレット公園ホームページ
https://lavillette.com

公営住宅共生社会

～集合住宅の新たな居住のあり方と地域マッチング～

学籍番号　K18169
名　　前　坂本蓮太郎
指導教員　人見ゼミ

1. はじめに-計画の背景

大阪市営木場住宅にはもともと、17 棟の団地がありましたが、11 棟が建替え予定であり、建替え予定地に公営住宅居住者専用の高齢者支援住宅と地域食堂兼交流センターを提案する。

2. 計画敷地および周辺状況

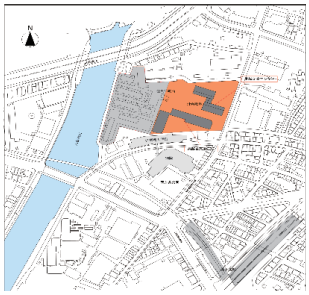
敷地``大阪市営木場住宅

住所``大阪府大阪市此花区西九条5 丁目３

・公営住宅敷地内には元々、17 棟の団地があったが、「大阪市営住宅ストック総合活用計画」の実行によって11 棟が建替え予定であり、現在4 棟の取り壊しが行われた。

・公営住宅敷地の西側には河川があり、2021 年から南海トラフ巨大地震対策として防潮堤耐震工事が行われている。

・北側にある北港通りは、工場やコンテナターミナルのある港から大阪梅田に続いている大通りであり、車やトラックの交通量が多く、計画敷地の全面道路は二車線で大通りに続いてるため、交通量が激しい。



付近見取り図

3. 大阪市営住宅の現状と課題

現在、大阪市では、約11 万戸の市営住宅があり、市内の住宅総数の8.1%、借家全体の約1/7 をしめている。高度経済成長期の昭和30 年代後半から40 年代以に大量に建設された住宅団地は、当初ファミリー世帯を対象として計画されていたが、現在の居住者は単身や二人世帯が多く、住宅の規模と家族がミスマッチを起こしている。また住宅団地の経過年数により、建物の老朽化や空き家の増加、居住者の高齢化が進み、若年層や、子育て世代がいない状況となっているなど、様々な課題が表面化している。多くの住宅団地は敷地の大きさやロケーションから、地域の活性化あるいは衰退に多大な影響を与える存在であり、このまま課題を放置すれば、居住者の減少により、住環境の悪化や、空き家発生に伴う景観悪化・防犯力低下により住宅団地の魅力が低下し、団地外から新規の転入者の見込みができなくなる。

大阪市では、市営住宅を「良好な社会的資産」として、有効活用するため耐震基準に満たさない住宅と浴室のない住宅の解消、住宅の長寿命化を目標として「大阪市営住宅ストック総合活用計画」を策定し、この計画に基づき、老朽化した住宅は建替えにより更新し、長期活用可能な住宅は耐震改修や全面的改善・エレベーター設置により有効に活用するなど、居住水準の向上を図っている。



図４　改修する団地

4. 計画内容

高齢者の多い社会で、未来への生活環境への投資に関する形成としてサポートが必要とする高齢者への医療・福祉サービスの提供や異なる世代が交流できる仕掛け、住宅団地外の地域住民も気軽に出入りできる日常的な魅力の創出等々、住宅団地再生に向けて、人口減少局面に突入したストック活用型社会に相応しい新たなモデルを計画する。

5. 設計趣旨

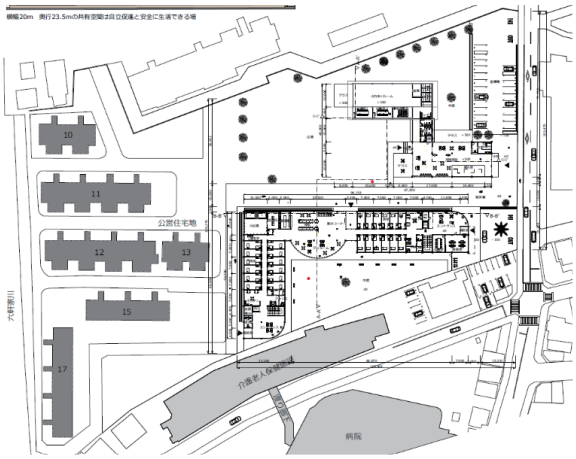
・高齢者支援住宅

介護が必要な高齢者がいままで生活していた馴染みのある環境から、不慣れな場所(病院や老人ホーム) へ転居すると、大きな負担をもたらす。環境への適応能力が低い高齢者にとっては、環境移行が逆に生活能力低下や生活事故の誘因となる。居住者が高齢者なったときに、快適であった住環境が障害物となり、従来の生活が困難になった場合に、環境移行による負担を最低限に抑えるため、公営住宅敷地内に高齢者支援住宅を計画する。対象者は公営住宅居住者であり、要介護になった場合でも、環境変化への対応ができやすくなり、安心して居住できることで、将来高齢者になる若年層や子育て世代の団地への愛着度が向上し、幅広い世代が長期的に居住することが狙いである。高齢者の子ども世帯が泊まることができるサー

ビスや、従来の団地の居住者も支援住宅の食堂を利用できるサービスなど、居住者それぞれの状況に応じた多様なサービスを提案。

・地域食堂兼交流センター

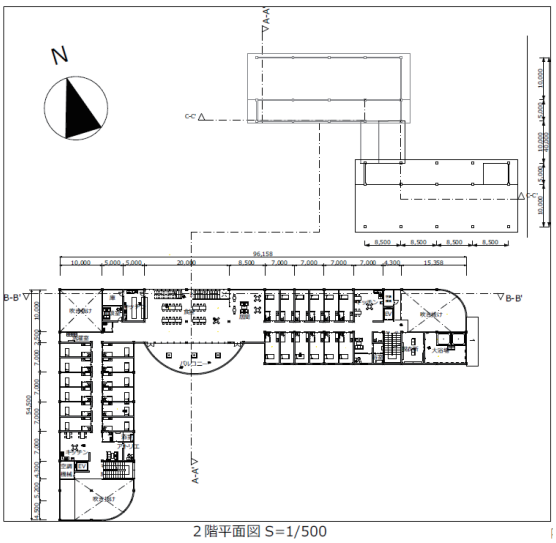
現状、超高齢化住宅地に、高齢者の安心を確保しながら、子育て世代が移り住みたくるような地域の魅力をつくり上げていくために、子供の健全な育成、親子のふれあい、子育て支援を地域と共に支える為の拠点として、幅広い年齢層の地域住民が世代をこえて交流し、文化・教養、健康の維持・増進を図ることを目的とする。地域住民以外の近隣で勤められている人も気軽に立ち寄れことができる食堂を計画した。団地という箱が集まった敷地で、公営住宅居住者のライフステージごとの多様なニーズに応えつつ、世代間や超えて愛着が生まれる自然性や、将来性を備えた魅力ある新たな住宅を目指す。



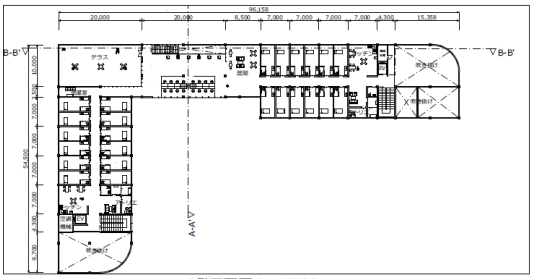
配置図兼

1 階平面図





2 階平面図 S=1/500



3階平面図 S=1/500

参考文献

・空き家を活かす　「空間資源大国ニッポンの知恵」

・建築の明日へ

・大阪市営住宅ストック総合活用計画　大阪市サイト

・様々な問題が顕在化する住宅団地の再生について考える

・大阪市における空き家の状況とこれまでの取組について

川新町
～高瀬川と共にある新町家～

学籍番号　K18201
名　　前　長田　晃宜
指導教員　生川　慶一郎

Kawa shin machi
~Shinmachiya with Takase river~

Student Number　K18201
Name　Akinobu Nagata
Supervisor　keiichirou Narukawa

１．背景と目的

歴史的な町並みは、既存の京町家を保存・再生するだけではなく、それらと共存する新しい京町家を建築することで、昔の知恵が活かされた素晴らしい町並みが次の時代にも持続性を持って受け継がれていくと考えている。京町家は一般的に通りを挟んで両側に開口が狭く、奥行きが深い形状の敷地に連担して建てられ、その多くは奥が庭となっており、行き止まりが前提となっている。本制作では、表が通り、奥が川に面するという立地条件において京都の生活文化の継承・発展につながる新町家を今回提案する。



図１　計画敷地



写真１　計画敷地

２．対象敷地

計画敷地は高瀬川付近の一画の 11 軒が対象とする。町家には、連担が重要であり、新町家が既存の京町家と連なることで、一体的な景観形成ができるような敷地を選定した。本制作はこの区画内の建物の屋根に着目して、新町家に建て替える区画を決定した【図１】。区画内には陸屋根の建物が 4 棟確認され、本制作ではこの 4 棟を新町家として計画し、全 11 区画で未来に受け継がれる「川新町」を提案する。



図２　計画前の連続立面トレース

３．高瀬川と建物の関係

３－１．現在の状況

現在は高瀬川は川自体を傷つけないように配慮しすぎているためか、触れてはいけないものとして扱われている【写真１】。しかし、川という景観を活かした飲食店は多く見られ、持ち出し床がまばらだが存在している【図３】。景観に統一性がなく、京町家と新しい建物が無秩序に混在してしまっており、中途半端な町並みとなっている【図２】。



図３　持ち出し床現状

３－２．高瀬川に対する地域住民の想い

５月中旬の昼頃に高瀬川のゴミ拾いをしていた女性の方２名に、ヒアリングを行った。高瀬川自体を埋めて道路にしようという話があったが、地域住民の反対により今も現存している。川沿いにはソメイヨシノやシダレザクラが続き、蛍も見ることができる。昔は川幅が広かった。最近工事が行われ、川の水位を保ち水面が見えるようにしている。川が大切に扱われていることがわかったが、高瀬川と建物や生活の関係性が傷つけないことを優先しすぎて遮断されてしまっている【図３】。

床の高さは「みそそぎ川」の川床から床板の上面までの距離。	とくに高さ制限は設けない
隣り合う床の高さは、原則そろえる	揃えない
床の部材として木材以外を使用する場合は、原則として周辺に配慮した木質素材色による 塗装を施す	部材は木材のみ
隣り合う「手すり」の高さは揃える	揃えなくてよい
床上面、床の周囲を鉢植等の樹木で囲えない。 床に広告物、色電灯（LED 等も含む。）、イルミネーション等を設けてはいけない。 照明は電球色を原則とし、華美なもの避ける	川に害を与えない程度になら装飾等は制限しない

表１　高瀬川利用ガイドライン

４．高瀬川の利用条件に関する調査

今回高瀬川付近に住居を計画するうえで、ばったり床几の機能や機構を用いたいと考えており、鴨川納涼床審査基準に係るガイドラインを

所在地：京都府京都市下京区清水町
主な用途：住宅
敷地面積：865.2m^2
建築面積：273.2m^2
延床面積：273.2m^2
キーワード：連担、川との景観形成、通り庭、

Location : Shimiutyou Shimogyouku Kyoutosi Kyoutofu
Main Use : Housing
Site Area : 865.2 m^2
Building Floor Area : 273.2 m^2
Total Floor Area : 273.2 m^2
Keywords : Collaborators.Landscape formation with the river.street garden.

参考に高瀬川に合わせて川と建物との間にルールを設けた。【表１】【鴨川納涼床審査基準に係るガイドライン引用】また、高瀬川側から見た連続立面をトレースすることで、町並み景観に貢献する要素と阻害する要素の抽出を試み、本制作の景観形成に活かす。

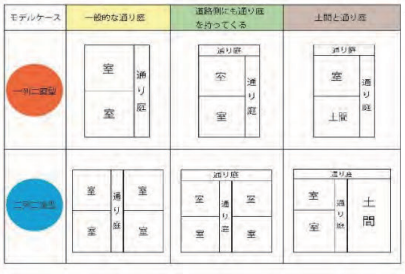


表２　考えられる例

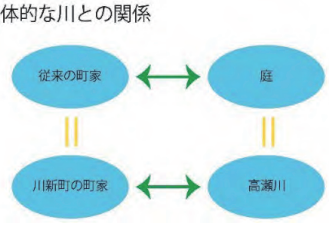


図４　具体的な関係図

５．計画コンセプト

５－１．全体計画

西側と通りと東側の高瀬川と積極的に建築的にも、生活的にもかかわりを持つような新町家を計画する。その新町家には、若年の子育て世帯が移り住むことを想定し、区画としての若返りを図り、コミュニティの再生にも取り組む。

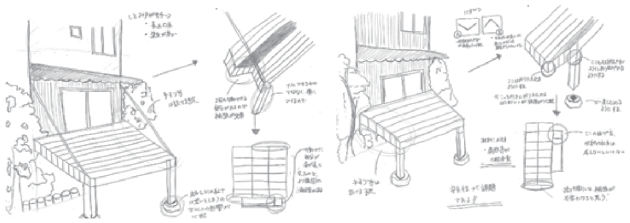


図５　川新町　床案

５－２．通りとの関わり方

今回の計画では、一軒の住宅を計画するのではなく、一画を計画する。よって、町家の連担性が重要となる。一つの建物としての高瀬川側からファサードを意識するのではなく、全体の景観としても新町家と既存の建物とが連なり一体感のあるものにしていく。また、一口に「連担」と言っても建物同士のことだけではなく、そこに住む住民同士にも連担してもらうような計画を目指す。ここでの住民の連担とは、コミュニケーションや助け合いのことを意味し、そのため、閉鎖的な空間を創らず、まちに開けるプランを基本とする。しかし、ある程度のプライバシーも重要であることから、本制作では、「通り庭」のあり方に着目する。通り庭は通りから奥庭まで続く通路であり、土足で通ることができる動線として確保されてきた。さらに、内部と外部をつなぐため採光、通風のにも大きく貢献している。この通り庭を通りと高瀬川をつなぐものとしてだけ使うのではなく、まちとの接点となる空間を活用する【図４】【図５】。



写真２　高瀬川の飛び石ｓ

５－３．住戸プラン

住宅の間取りは、京町家の商家・一列三室型を基本形とし、敷地形状の特異性に併せつ変化させる。今回計画する敷地は奥行きがなく、一列三室型を確保できないため、一列二室型の三建てや、二列二室型の二階建てなど建物として延床面積を子育て世帯として一室に必要な広さを確保する。【表２】

５－４．高瀬川との関わり方

今回高瀬川と建物の関係を強めるものとして、町家の軒下空間の工夫として使われていたばったり床几を用い、川と建物を一体化させていく【図５】。ばったり床几とは、軒下にしつらえられた折り畳み式の縁台であり、店の商品を並べたり、休憩用の椅子として用いられていた。このばったり床几は、多様的に使われ、通りの公的な空間と内側の私的な空間をつなぐ半公共的な空間を形成していた。このばったり床几と川とのイメージとしては、住宅の外部と内部の関係をつなぎゆったりとした空間を造っている縁側と庭との関係に近いものを考えている。その際、川に対しての配慮が重要となる。その問題は、束石を使いはじめからばったり床几の足の置く部分を決めておくことで解決を図る。また、川の反対側に移動できるように飛石を川の中に並べるなど川向こうの通りとの関係性についても考慮する【写真２】【図６】。



引用　新町家のすすめ

図６　計画後の連続立面図　【計画敷地全体】

仏堂と仏像の寸法関係について

学籍番号　K18233
名　　前　武藤佑果
指導教員　大上直樹　特任教授

仏堂　仏像　寸法関係
棟木　天井　鎌倉時代

1、研究概要

1）研究目的

本論文は京都美術工芸大学令和 3 年度卒業生、尾崎星奈の継続研究である。

仏堂とは仏教寺院において仏像を安置し、礼拝供養するための建物である。仏像を安置するために仏堂が造られたことから、仏像の寸法を利用し仏堂が建立されたのではないかと考え、仏堂と仏像の寸法の関係性について比較・研究を行う。

2）既往研究

・古代寺院における仏像と仏堂の計画寸法の関係性について　尾崎星奈　（文献１）

飛鳥時代から平安時代の寺院 7 件について、仏像の高さ、幅と仏堂の計画寸法の関連性を研究している。「唐招提寺金堂、平等院鳳凰堂、醍醐寺薬師堂」について、棟木までが仏像 4 体であり、1 つの基準となっていた可能性があると指摘している。幅に関しては仏像の臂張、膝張を基準に関係性を指摘している。

2、研究方法

1）時代の選定

研究対象として飛鳥時代から鎌倉時代までの仏堂、仏像を選定する。鎌倉時代以降は仏像の数の増加により、重要文化財に指定される仏像の数が減少する。これより仏像に関する資料も限られるため鎌倉時代を下限とする。

2）資料の収集

仏堂、仏像ともに国指定文化財に指定されているものを対象とし、尾崎氏の研究対象と重複する 7 件は今回対象外とする。

仏堂については①修理工事報告書もしくは図面が存在するもの、②修理や改造暦などによる建物の変化が少ないものを対象とする。

仏像については①寸法が把握できるもの、②本尊、中尊であるもの、③仏堂建立当初から存在するものを対象とする。

以上より、表 1 で示す 13 件（平安時代 1 件、鎌倉時代前期 6 件、鎌倉時代後期 6 件）を研究対象とする。

表 1 研究対象

時代	年号	仏堂	建立年代	仏像名	像高（尺）
平安	平安後期	鶴林寺常行堂	平安後期	阿弥陀如来坐像	2.86
鎌倉前期	文永3（1266）	蓮華王院本堂（三十三間堂）	建長3（1251）	千手観音坐像（中尊）	11.44
	建久5（1194）	浄土寺浄土堂	鎌倉時代	阿弥陀如来立像（中尊）	17.49
	鎌倉初期（再建）	西明寺本堂	鎌倉初期	薬師如来立像(本尊)	5.32
	承元4（1210）	興福寺北円堂	承元2（1208）	弥勒如来坐像	4.68
	嘉禎3（1237）	東大寺念仏堂	嘉禎3（1237）	地蔵菩薩像	7.30
	鎌倉前期	金剛峯寺不動堂	平安	阿弥陀如来立像（中尊）	2.71
鎌倉後期	弘安2（1279）	長弓寺本堂	鎌倉時代	十一面観音菩薩立像	3.84
	弘安6（1283）	霊山寺本堂	治暦2（1066）	薬師如来坐像(中尊)	2.05
	弘安8（1285）	薬師寺東院堂	養老頃	聖観世音菩薩立像	6.23
	正安2（1300）	本山寺本堂	平安時代	馬頭観世音菩薩（本尊）	2.50
	元応3（1321）	明王院本堂	平安時代	十一面観音菩薩立像	4.92
	嘉暦2（1327）	浄土寺本堂	平安初期	十一面観音菩薩立像	5.60

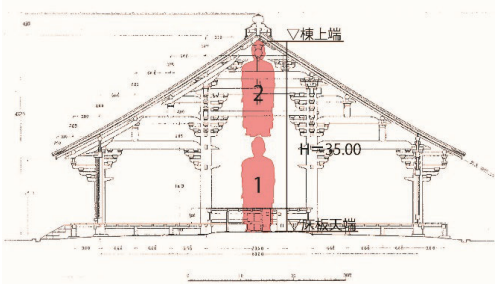
3,研究結果

各仏堂の比較・検討の結果を表 2 にまとめた。

表 2 研究結果

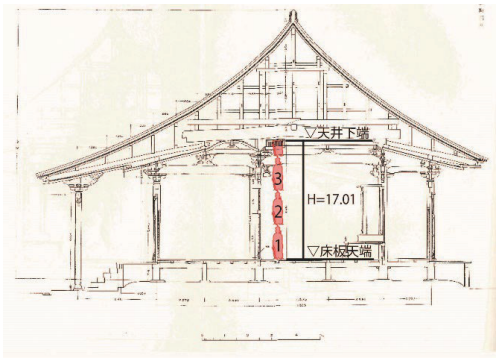
時代	基準（A）		像高・幅（B）		A/B	整数値
	仏堂		仏像			
	名称	高さ・幅（尺）	名称	寸法（尺）		
平安	鶴林寺常行堂	床板天端−棟木下端：19.80	阿弥陀如来坐像	2.86(像高)	6.92	7.00
		須弥壇上端−天井下端：5.72			2.00	2.00
		内陣柱　真々：10.40		2.35(膝張)	4.43	4.50
		内陣柱　内法：9.40			4.00	4.00
		外陣柱　真々：27.00			11.49	11.50
鎌倉前期	蓮華王院本堂（三十三間堂）	礎石上端−棟木下端：40.90	千手観音像（中尊）	11.44(像高)	3.58	3.50
		床板天端−梁下端：22.70			1.98	2.00
		床板天端−棟木上端：39.80			3.48	3.50
		内陣柱　内法：366.28		7.81(膝張)	46.90	47.00
		外陣柱　真々：390.14			49.95	50.00
		中央柱　内法：35.30			4.52	4.50
		中央柱　外法：38.90			4.98	5.00
	浄土寺浄土堂	床板天端−梁上端：35.00	阿弥陀三尊像（中尊）	17.49(像高)	2.00	2.00
		内陣柱　内法：17.80		6.11(肘張)	2.91	3.00
		外陣柱　外法：61.60			10.08	10.00
	西明寺本堂	床板天端−棟木上端：18.20	薬師如来（本尊）秘仏	5.32(像高)	3.42	3.50
		須弥壇上端−棟木下端：13.70			2.58	2.50
	興福寺北円堂	床板天端−宝珠：47.78	弥勒如来坐像	4.68(像高)	10.21	10.00
		内陣柱　真々：19.58		3.86(膝張)	5.07	5.00
		内陣柱　内法：19.25			4.99	5.00
		外陣柱　真々：38.65			10.01	10.00
	東大寺念仏堂	礎石上端−棟木下端：25.55	地蔵菩薩像	7.30(像高)	3.49	3.50
		床板天端−天井下端：18.64			2.55	2.50
		内陣柱　内法：11.69		5.70(膝張)	2.05	2.00
		内陣柱　外法：14.19			2.49	2.50
		外陣柱　外法：34.33			6.02	6.00
	金剛峯寺不動堂	礎石上端−天井下端：10.79	阿弥陀如来立像	2.71(像高)	3.98	4.00
		須弥壇上端−天井下端：6.80			2.51	2.50
鎌倉後期	長弓寺本堂	礎石上端−棟木上端：32.63	十一面観音立像	3.84(像高)	8.49	8.50
		床板天端−棟木下端：29.93			7.99	8.00
		床板天端−棟木上端：30.93			8.05	8.00
		須弥壇上端−棟木上端：28.96			7.53	7.50
	霊山寺本堂	礎石上端−棟木下端：32.80	本尊薬師如来	2.05(像高)	16.00	16.00
		床板天端−天井下端：14.20			6.93	7.00
		床板天端−梁上端：23.60			11.51	11.50
		床板天端−棟木上端：31.90			15.56	15.50
		内陣柱　内法：28.80		1.64(膝張)	17.56	17.50
		外陣柱　内法：45.20			27.56	27.50
	薬師寺東院堂	床板天端−梁下端：22.00	聖観世音菩薩像	6.23(像高)	3.53	3.50
		床板天端−棟木上端：31.10			4.99	5.00
		須弥壇上端−天井下端：12.70			2.04	2.00
		外陣柱　内法：78.80		1.44(肩幅)	54.72	55.00
	本山寺本堂	床板天端−棟木下端：29.86	馬頭観世音菩薩（本尊）	2.50(像高)	11.94	12.00
		須弥壇上端−天井下端：13.91			5.56	5.50
		須弥壇上端−棟木下端：27.66			11.06	11.00
	明王院本堂	礎石上端−天井下端：19.98	十一面観音菩薩立像	4.92(像高)	4.06	4.00
		床板天端−天井下端：17.01			3.46	3.50
		須弥壇上端−天井下端：14.53			2.95	3.00
		須弥壇上端−棟木下端：29.94			6.09	6.00
	浄土寺本堂	礎石上端−天井下端：17.20	十一面観音菩薩	5.60(像高)	3.07	3.00

1)　高さ関係について



鎌倉時代前期：浄土寺浄土堂　断面図

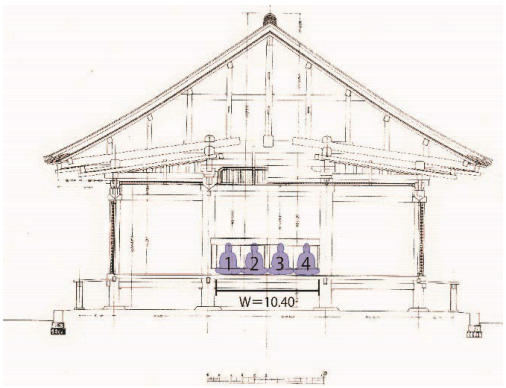
阿弥陀三尊像（中尊）：17,49 尺（像高）
床板天端から棟上端まで：35,00 尺
・床板天端から棟上端まで仏像 2 体分



鎌倉時代後期：明王院本堂　梁行断面図

十一面観音菩薩立像：4.92 尺（像高)
床板天端から天井下端までが：17.01 尺、
・床板天端から天井下端までは仏像 3.5 体分

2)　幅の関係について



平安時代：鶴林寺常行堂　梁行断面図

阿弥陀如来坐像：2.35 尺（膝張）
内陣柱の内法寸法：10.40 尺
・内陣柱の内法寸法は仏像の膝張 4 体分

・4,結論

1)　研究全体を通して

高さ関係については仏堂と仏像の寸法関係が見受けられ、幅の関係についてはあまり関係性が見られなかった。

鶴林寺常行堂は高さと幅について、浄土寺浄土堂、霊山寺本堂は高さについては整数値が算出され、特に仏堂と仏像についての関係性が見られた。

また時代が降るにつれて、基準点が棟木、天井、床や須弥壇へ変化している可能性があると考えられる。

2)　棟木と仏像の寸法関係

尾崎氏の研究結果より、唐招提寺金堂、平等院鳳凰堂、醍醐寺薬師堂は、棟木までが仏像 4 体分であった。蓮華王院本堂、西明寺本堂、東大寺念仏堂は棟木までが仏像 3,5 体分であった。これらより、飛鳥時代から鎌倉時代の仏堂は棟木までを仏像の高さを基準に考えられており、奈良時代から平安時代までは棟木までを仏像 4 体分、鎌倉時代前期には仏像 3.5 体分を 1 つの基準にしている可能性があると考えられる。

3)　天井と仏像の寸法関係

東大寺念仏堂、金剛峯寺不動堂は天井までが仏像 2.5 体分、明王院本堂、浄土寺本堂の天井までが仏像 3 体分であった。以上より鎌倉時代の仏堂は仏像の高さを基準に天井までの計画寸法は考えられており、鎌倉時代前期では仏像 2.5 体分、鎌倉時代後期では仏像 3 体分が一つの基準となっていた可能性があると推測される。

4)　床と仏像の寸法関係

東大寺念仏堂、長弓寺本堂、霊山寺本堂、本山寺本堂、明王院本堂において床板までが仏像 0.5 体分であった。これより鎌倉時代の仏堂の床板までの高さは仏像の高さを基準に、仏像 0.5 体分を一つの基準としていた可能性があると考えられる。

5）須弥壇と仏像の寸法関係

本山寺本堂、明王院本堂については須弥壇上端を基準に棟木、天井、床板までの高さ、須弥壇の高さ全てにおいて仏像の高さの整数倍であることがわかった。鎌倉時代後期の仏堂において、須弥壇上端を基準点として、仏堂の寸法が仏像の高さを基準に考えられている可能性があると推測される

〇参考文献

・（文献 1）京都美術工芸大学工芸学部建築学科　伝統建築コース　大上研究室　尾崎星奈（2021）『古代寺院における仏堂と仏像の計画寸法の関係性について』

Grow up in the nature
～自然と共に育つ居場所～

学籍番号　K18238
名　前　森重　裕貴
指導教員　永井　秀幸　講師

自然離れ　子供　公園
社会問題



図１　全体パース

1.計画概要

子供の自然離れが年々深刻化している。国立青少年教育振興機構が全国の小中高生に行った調査によると、自然体験活動をしたことがない子供の割合が 10 年間で大幅に増加していることが分かった。自然離れは健康面や教育面でマイナスな影響を及ぼす可能性がある。子供に自然の素晴らしさを伝えるとともに成長を感じることのできる施設を目指していく。

2.計画背景

近年、自然の周辺から子供が減ったように感じる。電子媒体が成長し、今では小学生がスマートフォンを持つことが不自然ではない現代ではアウトドアよりインドアの人が増えている。それに比例して自然体験をする子供たちも減り、自然離れが加速している。私自身、山という自然が近いところで生活をして、友達と山の中を探検するのが日課であった。探検をする中で試行錯誤をし、新たな土地を発見した時や落ちている木を組み立てて秘密基地を製作した。子供ながらにトライアンドエラーを繰り返して成長していた実感がある。もちろん電子媒体によるゲームを行う際にも同じ工程を踏むかもしれないが、簡単にはリセットできないということが大きな違いである。自然には多くの学びを得ることができる場所であるため、自然離れを少しでも止める必要があるのではないかと考えた。この問題に注目して研究をしたいと思い、計画を考え始めた。

3.子供の成長過程における自然の重要性

現在、子供が電子機器を持って生活しているのはごく自然なことである。しかし、2012 年のユタ大学の研究によると「被験者に、電子機器から離れ 4 日間自然の中で過ごしてもらったところ、創造性を測るテストのスコアが 50%上昇した」という結果が出ている。他にも、コロラド大学の研究によると「学校の敷地内に樹木など自然に触れられる環境があることで、子供のストレスや集中力の欠陥が緩和される」や表 1 にある文部科学白書によると自然体験が多い子供の方が道徳観・正義感、自己肯定感のそれぞれ体験が少ない子供に比べて長けているなど結果が出ている。これらの研究結果から子供の成長過程において、自然で遊ぶ・学ぶことは切っても切れない関係にあるといえる。

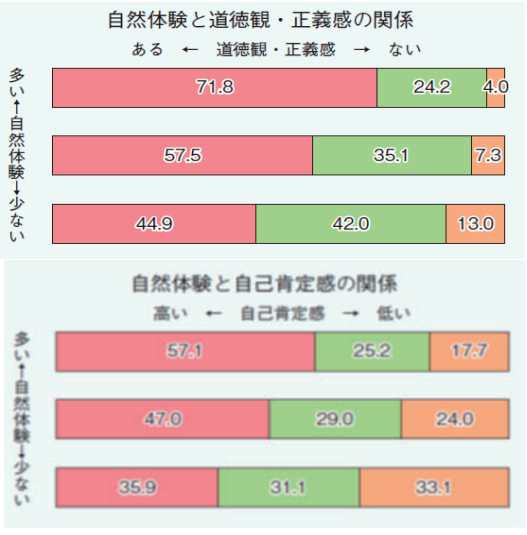


表１　自然体験の多さによる様々な能力の変化

4.敷地選定

敷地は広島県安芸郡府中町にあるえの宮公園を選択した。。住宅街に囲まれ、近くにはりゅうせん幼稚園、府中小学校、府中中学校があり子供が多い地域となっている。図２のえの宮公園は木に囲まれた場所やひらけた場所や川があり、自然が豊富である。自然を楽しむ上において重要なのは自然を大いに感じることができることである。建築として行うことは最小限に抑え、自然に対してどれだけ意欲的に関わる意識を持てるかということを念頭に置いて計画した。えの宮公園の近隣には、りゅうせん幼稚園が存在する。また、川を挟んで向かい側には府中小学校があり、多学年交流の場として優れた位置となっている。しかし、りゅうせん幼稚園の園児がえの宮公園を利用せず、車通りの多い路を歩いて少し遠い公園を利用していた。そこで、今回の提案としては幼稚園の機能を託児所として移転して、南側に下ることによって、府中小学校の児童とも触れ合える幅広い層の子供達に利用される施設となることができる。



図２　えの宮公園敷地図　１/3500

5.建築的手法

街から子供達を引き込み、緑地内に誘導するためにＳ字型のスロープを中心に構成する。スロープで囲まれ、木を中心とした大木広場で子供達を引き込み、建築内を歩いていると自然と緑地内に引き込まれるような建築を計画した。

また、街と緑地の間に位置する敷地の立地を生かし、森と調和のとれた建築を計画した。スロープを使い、丘のような形にすることで景観になじました。建物自体も森をイメージした十字柱を中心とした構成や、木漏れ日をイメージしたトップライトなどを意識して設計した。

そして、この建築は、未就学児から中学生まで様々な体の大きさの人が使うことが想定された。そこで、スロープや階段、腰かけ広場など全ての子供達が利用しやすいスケール感で設計をした。



図３　広場パース

6.参考文献

・文部科学省,平成28年度文部科学白書,子供たちの未来を育む豊かな体験活動の充実
https://www.mlit.go.jp/hakusyo/mlit/h20/hakusho/h21/html/k1100000.html

・DavidL.Strayer,PaulAtchley,
ScienceDaily, Nature nurtures creativity after four days of hiking, University of Utah
https://www.sciencedaily.com/releases/2012/12/121212204826.html

・ LouiseChawla,KellyKeena,illene Pevec, ScienceDirect, Green schoolyards as havens from stress and resources for resilience in childhood and adolescence, University of Colorado
https://www.sciencedirect.com/science/article/abs/pii/S1353829214000379

下鴨における近代郊外住宅の研究

学籍番号　K19202
名　　前　青谷真人
指導教員　井上年和

Y邸　　近代郊外住宅　　下鴨
復原考察

1.　研究目的と方法

今回は近代郊外住宅の変わった事例である Y 邸を調査し、下鴨との関連性を調べ郊外住宅と成立経緯とその後の変遷を明らかにしていく。

方法として、現地調査、実測調査、痕跡調査を実行し、復原考察で当初の姿を明らかにする。

1-2　先行研究

大正 11 年における下鴨の土地利用は、南部に集落が集中し、北部は田園風景が広がっていたが、昭和 4 年に宅地開発が急激に、進み北部まで集落が拡大していたことが判明しているが、りその原因などはどの資料にも記載されていなかった。そこで本研究では、京 都の地図と Y 邸から約 20 年の違いを分析し、原因を探っていく。

2.　下鴨について

2-1　下鴨の歴史

下鴨は元々、下鴨村として扱われていたが大正 7 年に京都市左京区に分割された。

地図からは、大正 4 年頃まで田園風景が広がっていたことが記録。昭和 15 年には宅地開発が進んでいった。



図 1　京都近傍図（1915）　注 1
慶長・昭和　京都地図集成



図 2　地図（1940）　注 2
慶長・昭和　京都地図集成

2-2　京都市電との関係

明治 28 年に京都市電が開業。徐々に拡大していき、Y 邸付近の北大路線が開通したのは昭和 9 年。

元々は琵琶湖疎水から水車を使い水力発電を行った。さらに、電気供給量を増やすため京都市電で発電を行った。しかし、自動車の普及や人との接触事故が原因で昭和 53 年に完全廃止された。

3.　Y 邸について

3-1　Y 邸歴史

法務局のY邸の登記簿を確認すると、昭和 16 年 11 月建立・施主：清水仁太郎と記載。さらに、棟札にも建立、施主、大工方と手傳方が記録。法務局と棟札は一致していた。

昭和 20 年にY氏の祖父が購入。わずか 4 年で清水氏が売却した事実が残され、以降Y氏の家系で所有権が移転していく。

表 1　Y 邸　法務局による登記簿

権利部		
年代	人物	所有権移転原因
昭和16年　11月3日	清水　仁太郎	
昭和20年　12月3日	山内　千造	売買
昭和52年　7月18日	山内　喜美	相続
平成3年　9月30日	山内　千之	相続
平成30年　3月14日	Y氏	相続

3-2　Y 邸構造

元々二棟であったため、建物の堺の壁を壊して行き来が可能になっている。西棟と東棟の柱の位置や部屋の配置はほぼ同じ。茶室と台所の屋根はそれぞれ形が異なる。東棟は入母屋、西棟は片流れになっている。

主体の建物に縁と茶室の庇を付けたような構造をしている。

表 2　Y 邸　法務局により情報

種類	居宅
構造	木造瓦葺二階建て
床面積　1階	47㎡
床面積　2階	38㎡
風呂便所	5㎡
二棟の床面積	
一階	95㎡
二階	77㎡

表 3　Y 邸　法務局による情報

地積	
17の 1　地積	80㎡
17の 2　地積	88㎡
17の 3　地積	90㎡
Y邸地籍	258㎡

3-3　資料調査

Y 邸の古写真から改造の痕跡見つかった。茶室の外は、腰掛が見つかり、今とは違い茶室からも出入りした可能性がある。

Y 邸入り口の塀はデザインが違っていた。昔は、コン

クリート製、今は鉄製になっている。

Y邸の庭の古写真には、竹と木を使った塀が見つかったが、コンクリートブロックに変わり瓦がついている。



図４　塀　古写真



図５　塀　写真



図６　庭　塀　古写真



図７　庭　塀　写真

4.　復原考察

4-1　痕跡調査

Y邸は主に西棟に改造の痕跡が残っていた。中古の柱は茶室と縁に、壁跡は客間と玄関にあったため、形的には東棟がベースとなっていた。

二階の痕跡は、書斎と座敷の堺の柱が中古だったため、壁はなく襖で仕切られていた。

Y邸の隣にある伯父の家は、当初の姿に似ている、玄関は正面から見て横方向に引き違い戸があり、天井に波板の庇がはめられている。よって、外にむき出しになっている可能性があった。



図８　痕跡図　一階

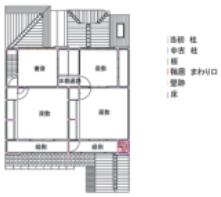


図９　痕跡図　二階

4-2　復原考察

痕跡調査から復原図を制作。玄関は西方向に入り表の間と繋がる。納戸は元々台所だった。居間奥には階段、両棟の廊下には収納があり、東棟と対照的な位置に風呂と便所があった。

二階は、両棟の堺には壁があり、一階玄関には屋根がなく、西棟の座敷は襖で仕切られていた。

このことから両棟はほぼ同じ形をした建物だった。

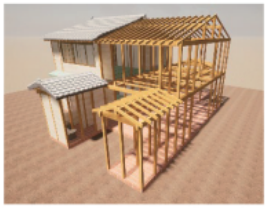


図 10　復原 3D モデル 1

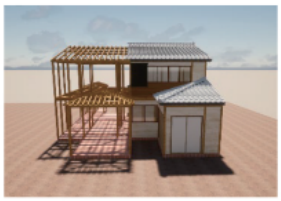


図 11　復原 3D モデル 2

5.　まとめ

建物を実際に調査、図化していくことで、見えなかった部分にも注目し、それぞれを比べ上げることで違いが生まれる。今回では、客間や寝室が同じように設計されていても、長押などが別々の材料で使われていたことや、東棟の階段だった場所を壊して新たに居間奥として、昔とは違った空間を足していくことで、当初とは違うものが作られた。

清水仁太郎という人の建物だったが、そこから祖父がY邸を買い取ったことにより、さらに進化していくことになった。結婚し家族が増えることを見越した結果、Y氏の祖父と父に所有権が移転した時に改修が行われ、広い家に変わり、住みやすくなった。

Y邸は近代郊外住宅の１事例である。リノベーションをした結果、二棟の建物が一棟に繋がった興味深い事例である。

参考文献

注１「左京区基本計画（第 1 期）その１」（京都市左京区 HP）左京区役所
＜https://www.city.kyoto.lg.jp/sakyo/page/0000009793.html＞
注２「慶長・昭和 京都地図集成」（柏書房） 著者：大塚 隆 1994 年
注３「京都市電」（津島軽便堂写真館 HP）
＜http://tsushima-keibendo.a.la9.jp/index.html＞
注４「蹴上発電所」（日本遺産・琵琶湖疎水 HP）琵琶湖疎水沿線魅力創造協議会 ＜https://biwakososui.city.kyoto.lg.jp/place/detail/25＞
注５「京都市電」（津島軽便堂写真館 HP）＜
http://tsushimakeibendo.a.la9.jp/index.html＞
注６「京都市電」（博物館明治村 HP）＜https://www.meijimura.com＞
引用文献
１「京都下鴨における近代の住宅開発に関する研究」（日本建築学会大会学術講演梗概集） 辻 晶子 大場 修 2012 年

復興都市における災害公営住宅の在り方について

学籍番号　K19202
名　　前　明石拓樹
指導教員　新海俊一

The state of Disaster Public Housing in Reconstruction Cities

Student Number K19202
Name AKASHI Hiroki
Supervisor SHINKAI Shunichi

1.計画背景

東日本大震災から 12 年が経過しようとしている中、被災地では 2020 年に全ての整備を終えたばかりであるはずの災害公営住宅が新たな問題に直面しています。その問題とは空室率の高さとそれに付随する避けられない赤字財政への危惧でした。

ついに全ての災害公営住宅が整備されたその 1 年後、岩手、宮城、福島の被災 3 県に対する 2021 年の調査時点では早くも空室率の高さが問題となっており、被災者に求められるべき災害公営住宅ではありますが既に非被災者を 1 割程度迎え入れているにもかかわらず、一般公営住宅よりも高い空室率となってしまっています。

復興事業の財源は基本的に 100%国であることに対し、これまで災害公営住宅に関しては家賃収入があることから 4 分の 1 を自治体が負担することとなっていました。加えて阪神淡路大震災でこの負担が大きかったことから東日本大震災では負担は更にその半分である 8 分の 1 にまで下がりました。しかし、それでもなお自治体は赤字財政を余儀なくされる状況にあります。原因は退去者による空室率の増加にあるのですが、更に言えば被災地全体としての人口減少、高齢化が要因として挙げられます。赤字財政を強いられることとなる自治体としては、退去者が増え空室率が高まれば家賃も上げざるを得なくなります。一世帯当たりの負担が増えれば更に退去者も増えてしまうという悪循環に陥ってしまうことでしょう。ただでさえ被災地は人口減少に対する問題を抱えているにもかかわらず、退去を機に県外へ引っ越されれば貴重な住民を自ら手放すこととなってしまいます。

2.設計意図

建設時の需要の高さに対し数年で著しく需要の低下してしまう災害公営住宅ですが、過剰供給だったのではないかとも思われるかもしれませんが、やはり建設時は需要がありその後空室が目立ってしまうのでしょう。一因は宮城県が調査し公開している「災害公営住宅入居者健康調査報告書」からも読み取れます。調査の始まった 2016 年はまだまだ災害公営住宅の供給が始まったばかりの頃でした。既に全入居者の 50%を 65 歳以上の高齢者が占めており、世帯で見ても全世帯の 33.8%を 65 歳以上の高齢者の一人暮らしが占めていました。厚生労働省による 2022 年の情報では、男性の平均寿命は 81.47 年、女性の平均寿命は 87.57 年と言われており、これらを踏まえて仮に退去者を除いたとしても近い将来に空室率が高くなってしまうことは明白だったと言わざるを得ません。

であるならば、空室率が高くなってから頭を悩ませるのではなくあらかじめ対策を講じておけばいいと考えました。もちろん各自治体も試算をして方針を決めていますが、災害公営住宅の設計段階から取り組むべきでしょう。しかし被災時は迅速な供給が求められ、設計に時間をかけている余裕はありません。そこでもっと早い段階である被災前から被災後の災害公営住宅について考え更には需要が低下した後の用途についても検討し、それが決まればその用途にすぐコンバージョンできる災害公営住宅を設計します。設計も建設会社に丸投げをするのではなく、復興都市における災害公営住宅の在り方について今後運営していかなければならない自治体も一緒に考え設計にかかわります。

3.計画敷地

被災前から設計をするとはいえ、ある程度対象となる災害を決めなければ被害規模も何も分からないため、今回は予測される災害の中でも南海トラフ巨大地震に着目して計画しています。敷地は関西の中でも最も甚大な被害に遭うと予測されている和歌山県とし、都市部である和歌山市の中から選定しました。東日本大震災では一部地域でハザードマップの予測を上回る範囲で津波の被害が発生していましたが、それは津波の歴史が少なかった地域であったからであり、対して和歌山市は過去に複数回も南海トラフ地震によって大きな被害に遭っており、ハザードマップの精度も高いことが予測されるためハザードマップを参考に選定を行っています。津波及び洪水浸水想定区域を避けつつも被災地の中心部であり、被災地でも迅速な供給をするために建築資材の搬入もしやすいよう国道沿いの敷地としました。

和歌山市の本計画では東日本大震災での被災 3 県のうち、最も地形形状及び周辺環境が近しい宮城県仙台市を参考に考えていきます。近しい理由とする共通点としては、沿岸部に開けた都市であり交通インフラが整っている点や、和歌山市には仙台市と同様に津波が届かず被災しない位置にベッドタウンが存在する点がなど挙げられ、被災から復興までの人の流れも近しいことが予測されます。

所在地：和歌山県和歌山市吹上４丁目１−１５
主な用途：災害公営住宅
敷地面積：71,616.43m^2
建築面積：13,855m^2
延床面積：52,940m^2
キーワード：災害公営住宅・コンバージョン・南海トラフ

Location : 4-1-15,Fukiage,Wakayama-shi,Wakayama
Main Use : Disaster Public Housing
Site Area : 71,616.43 m^2
Building Floor Area : 13,855 m^2
Total Floor Area : 52,940 m^2
Keywords : Disaster Public Housing, Conversion, Nankai Trough

4.設計概要

南海トラフ巨大地震に備え、あらかじめ決められた用途にコンバージョン可能な災害公営住宅を設計します。更に被災地全体が抱える問題でもある高齢化と人口減少の要素も取り入れ、高齢者施設と教育機関の 2 つの要素へのコンバージョンで進めます。今回参考にしている仙台市では被災地における人口減少に対して教育に力を入れることでも人口保持の一端を担っていました。仙台市に整備された災害公営住宅は 3,376 戸であり構造形式は大半が RC 造でした。これを和歌山市の人口に置き換えると約 1,180 戸必要であり、そのうち約半数は公営住宅としてそのまま残し、手を加える残りの約半数にあたる 582 戸を設計しました。2 人以下の世帯を 2LDK、3 人以上の世帯を 3LDK とした場合、全世帯の 80%以上は 2 人以下の世帯なため今回設計した 582 戸については全て 2LDK としました。建物の形状及び間取りは「ふくしま復興ステーション」が公開している災害公営住宅の間取り図を参考にコンバージョン後の用途を考慮しつつ設計しました。結果として災害公営住宅とコンバージョン後の用途の両方を生かすスパンとするために構造形式は SRC 造となりました。A 棟 B 棟の建具及び間取りは一般者仕様とし、計 240 戸。C 棟はまず 1 階を全て車いす対応とし、計 76 戸。そして 2 階以降を高齢者仕様とし、計 266 戸。これら 3 種で合計 582 戸となります。

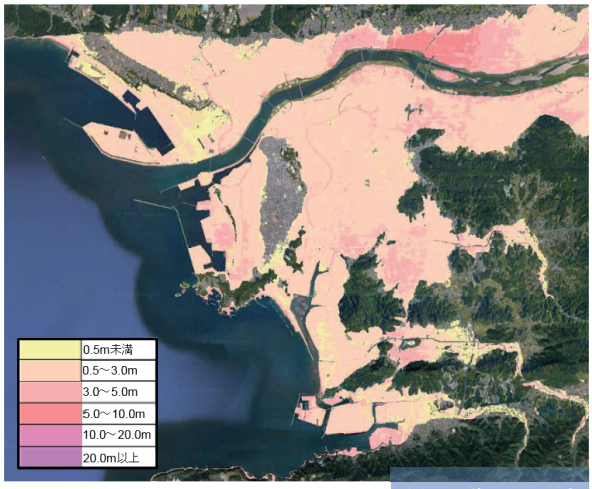


図 1.ハザードマップ

5.コンバージョン

・A 棟 1 と 2 は共に小学校へコンバージョンさせました。2LDK の面積が 66 平方メートルに対して普通教室の平均面積は 64 平方メートルです。ただし集合住宅の住戸は基本的に縦長で並んでいることに対して教室は横長に並んでいるためあらかじめ教室に合わせて設計しました。また、共用廊下に関しても腰壁に加えて垂れ壁を設け、幅を窓サイズとすることで窓をはめることにより屋内廊下にすることができます。

・A 棟 3～6 は解体前提とし、小学校の校庭にしました。同様に北側にあった駐車場には体育館とプールを建設します。

・B 棟はこども園へコンバージョンさせました。こちらも横長の住戸を採用し、あらかじめ回廊性と中庭を要素に取り入れています。

・C 棟 1～4 及び 6～19 は共用廊下だけを屋内廊下へ変更し、住戸の間取りはそのままにサービス付き高齢者向け住宅へコンバージョンさせました。主に自立生活のできる高齢者の生存確認、健康管理、生活相談、交流の場などのサービスがあり、1 人暮らしによる孤独死を防ぎます。

・C 棟 5 は主にサービス付き高齢者向け住宅の事務所の用途でコンバージョンさせました。C 棟全体の中心に位置し、屋内渡り廊下を利用して全ての棟へ移動することができ、逆に全ての棟から利用者も来ることができます。1 階には地域連携薬局も併設させ生活をサポートします。

6.参考文献

朝日新聞（最終閲覧日 2022/11/25）https://www.asahi.com/articles/ASP336FL7P31UTIL04V.html

復興庁 HP（最終閲覧日 2022/11/25）https://www.reconstruction.go.jp/10year/data.html

ハザードマップポータルサイト（最終閲覧日 2022/11/25）https://disaportal.gsi.go.jp/hazardmap/copyright/opendata.html#l2shinsuishin

和歌山県 HP（最終閲覧日 2022/10/21）https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/011400/bousai/pamph/pamphlet_d/fil/jamstec_ts#unamihi.pdf

宮城県 HP（最終閲覧日 2022/11/25）https://www.pref.miyagi.jp/site/ej-earthquake/kannsei-sendai.html

J-STAGE（最終閲覧日 2022/11/25）https://www.jstage.jst.go.jp/article/jssoilphysics/124/0/124_1/_article/-char/ja/

仙台市 HP（最終閲覧日 2022/11/25）https://www.city.sendai.jp/kenkosesaku-zoshin/kurashi/kenkotofukushi/kenkoiryo/documents/r3hokokusyo.pdf

ふくしま復興ステーション（最終閲覧日 2023/1/29）https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal/ps-fukkoukoueikansei000.html

団地と人と暮らす - 東近江市　長峰団地 -

学籍番号　K19203
名　　前　秋元幸菜
指導教員　森重

0.　制作目的

この課題は「より良い暮らしを目指す」を目標として制作を行っていく。団地の中にたくさんある空き地や子どもたちの遊ぶ場所の少なさ、交流を行う機会の減少を今回の計画を通して改善していく。

今回の課題で計画するのは、地域の人たちが集まる「カフェ」、他の区の人たちとも交流が行えるような「直売所&ベーカリー」、子どもたちの新しい遊び場として「公園①、公園②、おおやね公園、広場」、直売所&ベーカリーや公園②へ行き来を行いやすくするための「通路の追加」である。

1.　敷地

対象とする敷地は滋賀県東近江市蒲生堂町、宮川町にある「長峰団地」である。この敷地を選定した理由は、自分が普段生活をしている中で不便に感じた部分や団地の中にたくさんある空き地を活用して、団地をより活気のあるものにしたいという考えからである。また、長峰団地は「西区」、「北区」、「南区」、「東区」の 4 つの区に分かれている。通う小学校が分かれていたり、団地自体が広いために他の区の人たちと交流を行う機会があまり多くない。そのような問題も今回の計画を通して改善していきたいと考えている。

長峰団地は、1972 年（昭和 47 年）に大阪の建設会社大倉建設が造成した。区画数 3500 という県下でも大型団地としてスタートし、「大倉湖南ジャンボビレッジ」という名称で宅地の売り出しを開始した。1975 年（昭和 50 年）には「大倉湖南ジャンボビレッジ」から「長峰団地」に名称が変更となった。

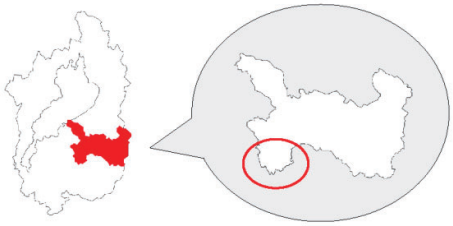


図 1　敷地の場所





図 2,3　長峰団地の様子

Live with housing complex and people - Higashiomi-shi Nagamine danchi -

Student Number　K19203
Name　Akimoto Yukina
Supervisor　Morishige

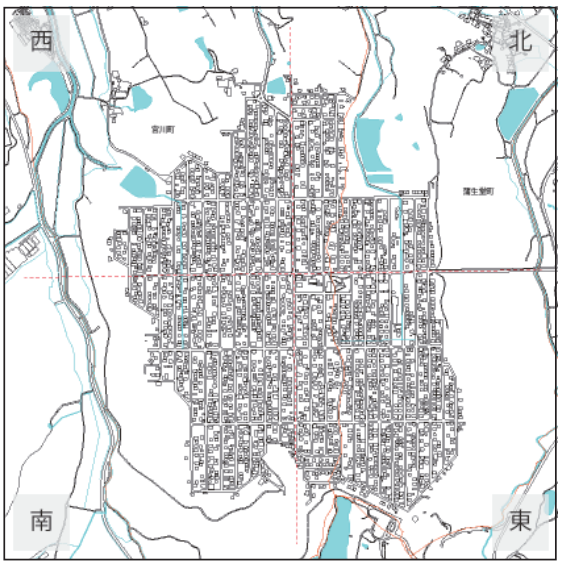


図 4　長峰団地の地図

2.　計画内容

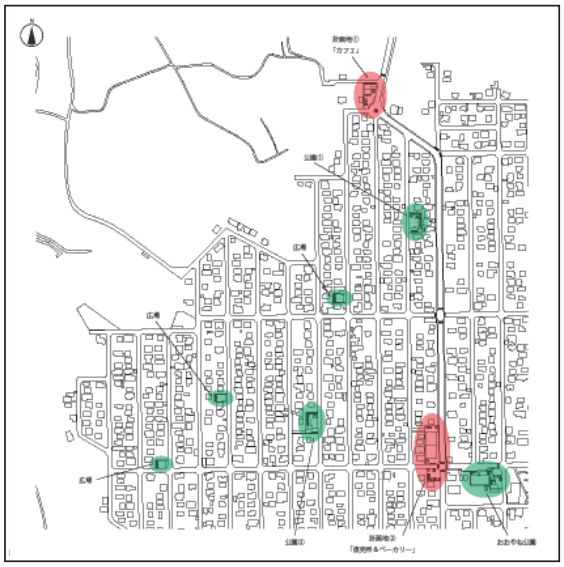


図 5　計画内容の配置位置

店舗の計画

・計画地①

現在売り店舗となっているものを解体し、新しく地域の人たちが集まる「カフェ」を設計する。この場所は小学生や中学生の通学路の近くにあるので、子どもたちの見守りという点でも外に開かれたものとして計画した。店内は個人スペースやカウンター席、

所在地：滋賀県東近江市蒲生堂町、宮川町
主な用途：住宅団地
敷地面積：計画地①，②：735.54 ㎡，1395.11 ㎡，おおやね公園：686.76 ㎡
建築面積：計画地①，②：202.47 ㎡，714.00 ㎡，おおやね公園：312.00 ㎡
延床面積：計画地①，②：158.99 ㎡，420.00 ㎡，おおやね公園：120.00 ㎡
キーワード：交流・空き地・公園・広場

Location : Kamoudou-cho,Miyagawa-cho Higashioumi-shi Shiga-ken
Main Use : Residential complex
Site Area : Planning site ①，②：735.54 ㎡，1395.11 ㎡，Ohyane Park：686.76 ㎡
Building Floor Area : Planning site ①，②：202.47 ㎡, 714.00 ㎡, Ohyane Park：312.00 ㎡
Total Floor Area : Planning site ①，②：158.99 ㎡, 420.00 ㎡, Ohyane Park：120.00 ㎡
Keywords : Alternating current, Vacant, Park, Square

ソファ席、話し合いのできるスペースを計画した。また、店の中心には大きなテーブルを設けることによって、さまざまな人たちと交流を行えるようにした。屋外には屋根付きのテラスを設け、小学生や中学生の登下校を見守れるようにした。また、テーブルやイスは移動させることが可能なので、大勢でバーベキューなどを行うことも可能である。



図 6　カフェの外観パース





図 7,8　カフェの内観パース

・計画地②

現在空き地となっている場所に「直売所」と「ベーカリー」を計画する。この敷地は、バス停などが近くにある団地の中心的な場所なので人の往来が多く、他の区の人たちとも交流が盛んに行えるような空間を目指した。直売所は大通りから店内の様子が見える位置に、ベーカリーは落ち着いた空間となるようにイートインスペースやテラス席を設けた。また、直売所とベーカリーから見える位置には子どもたちの遊べる屋外スペースを計画した。



図 9　直売所&ベーカリーの外観パース





図 10,11　直売所&ベーカリーの内観パース

通路の追加

1 つの街区が約 250m ととても長く移動の際に不便に感じる場合があるため、数か所通り抜けのできる通路を追加する。今回の計画では、計画地②や公園②への行き来を行いやすくするために通路を計画した。現在は住宅が建っているために通路を追加できる部分は多くないが、数十年後には空き地が増えていくことによって、通路を追加できる部分も増えていくと考えている。

空き地の活用

団地の中にたくさんある空き地を利用して、子どもたちがボール遊びなどのできる「公園」や「広場」を数か所計画する。公園①と公園②ではボール遊びなどができるように周りに高い植栽と柵、入口に扉を設けた。公園①は小学生以上の利用を主に考え、遊具をたくさん設置した。公園②は小学生以下の子どもや小学校低学年の利用を主に考え、地面を芝生にし、保護者が見守れる位置にベンチを配置した。おおやね公園は大きな屋根を設けることによって、天気の優れない日でも遊ぶことができるようにした。また、一部に休憩所を計画し、ちょっとした休憩やバスを待つ間にも利用できるようにした。広場は、既存の公園や今回計画した公園などが近くにない場所に数か所計画した。





図 12,13　公園①,②のパース





図 14,15　おおやね公園の外観・内観パース

とまる、広がる
-setouchi minato-

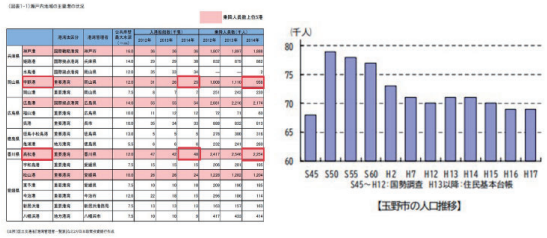
学籍番号　K19204
名　　前　新　萌華
指導教員　小梶　吉隆

Stop,widen
-setouchi minato-

Student Number　K19204
Name　Moeka Atarashi
Supervisor Yoshitaka Kokaji

背景・目的

社会の発展や時代が変わるにつれて昔は栄えていただろう地域やまちが衰退していく問題はよく耳にするが、私の地元、岡山県玉野市も同じ問題を抱えている。岡山県玉野市の中心にある宇野港は宇高連絡船の接続駅・海の玄関口として発展し、地域の人の交流場所・観光地として賑わいがあった。また本州と四国を結ぶ重要な役割をしていた。しかし、昭和 63 年に瀬戸大橋開通と同時に宇野高松間の宇高連絡船が廃止以降、公共交通機関の発達につれ人流・物流が減少傾向にある。公共交通機関が発達するにつれて人流・物流が変化し衰退し続けている港を瀬戸内海の中心となるよう再計画しようと考えた。そこで瀬戸内の新たな魅力を考え、地域の賑わいを取り戻す且つ宇野のまちを多くの人に足を運んでもらえる観光地となるような計画を提案し、地域活性化を目指す。

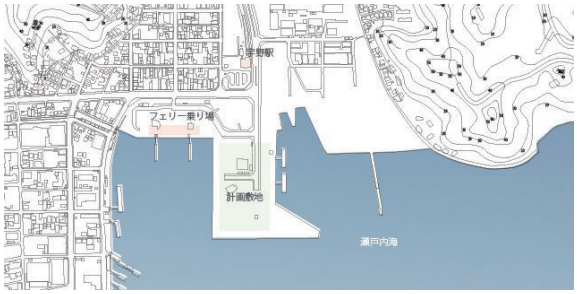


【玉野市の人口推移】

計画敷地

（1）宇野港

「海の玄関」、「造船のまち」として発展をしてきて、地域の人の交流の場・観光地として賑わいがあった。また本州と四国を結ぶ重要な役割をしていた。しかし、昭和 63 年に瀬戸大橋開通と同時に宇野高松間の宇高連絡船が廃止以降、公共交通機関の発達につれ人流・物流が減少傾向にある。現在は瀬戸内国際芸術祭の入り口かつ宇野港自体アートの展示場として人を呼び込んでいるなどの活動が行われている。



（2）敷地と周辺状況

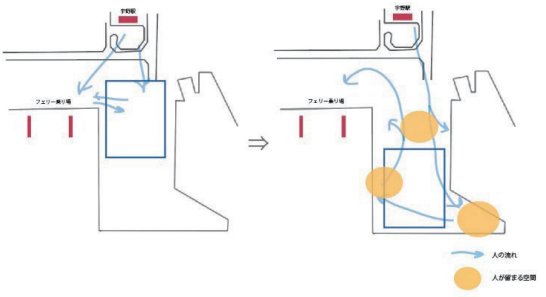
宇野港へのアクセスは主に徒歩 5 分ほどの位置にある JR 宇野駅からと自動車の 2 つである。そのため、宇野港周辺の敷地の使われ方として、主に駐車場が占めている。他には玉野産業復興ビルや大型客船と小型旅客船の 2 種類の乗り口などがある。前述したように宇野港は「海の玄関」として栄えていたが現在の宇野港は四国や島々への「玄関口」らしさがないという印象を受ける。それに加えてフェリーの便待ちの時間を過ごす空間がないため、造船、フェリー、魚市場などの様々な歴史やアートの地としての魅力があるにもかかわらず、ただフェリーを利用するだけの場所となってしまっている。 実際に秋の瀬戸内国際芸術祭の時期に訪れてみたが、イベントが開催されていない時期の宇野港と特に変化もなく、活性化に向けての活動をしたとしても宇野港周辺に何もなければ人が留まることは少ないと感じた。

計画概要

今回、計画を進めるうえで、ただフェリーを利用するための過程ではなく宇野港の周辺を観光地として多くの人に立ち止まってもらえるような計画が必要である。そこで、宇野のまちにある固有性のある魅力を最大限に生かした計画をすることを考えた。今回、私は宇野のまちの自然と文化・歴史の 2 つの要素を元に計画を進める。

（1）配置計画

今回建物自体を海側に計画することで、宇野駅から見える敷地は海を含む島々が広がった景観や穏やかな海が身近に感じることが出来る魅力を活かした。また、宇野港周辺は地域の人が散歩や釣りなどの個々の趣味やリラックスする場であり、地域の人同士の交流の場としても利用されているため、観光客の人の流れを呼び込み、留まるきっかけをつくることにより、地域の人と観光客との交流や繋がりの場として設けることを目的としている。



所在地：岡山県玉野市築港 1 丁目 2
主な用途：ホテル併設複合施設
敷地面積：4740 ㎡
建築面積：3250 ㎡
延床面積：5750 ㎡
キーワード：港、ホテル、親水性

Location : 1-2,Chikko,Tamano City, Okayama
Main Use : A complex attached to the hotel
Site Area : 4740 ㎡
Building Floor Area:3250 ㎡
Total Floor Area :5750 ㎡
Keywords : The port, Hotel, hydrophilic

（2）各施設概要

・美術館

宇野港は瀬戸内国際芸術祭の入り口かつ宇野港自体がアートの展示場になっているため、それに加え常設展示場・貸出展示場を設け、有名芸術家の作品が多くある環境でより芸術に興味を持つ人が増加し芸術祭を街全体で盛り上げることを目的としている。

・劇場

瀬戸内には、18 世紀末から 19 世紀前半にかけて芸能者が「芝居」をするための巡演先が圧倒的に多くなったという歴史があり、18 世紀末から瀬戸内沿岸の下関、伊崎、中関、柳井（山口県）、宮島（広島県）、大三島（愛媛県）等が主な巡演先となっていた。

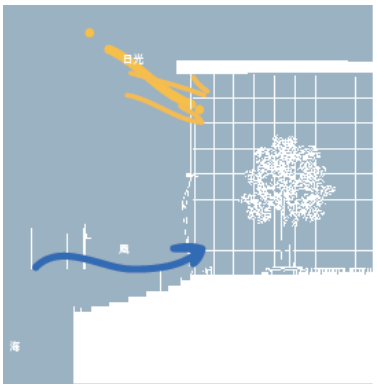
この歴史を踏まえて、宇野港も劇場を作り、島や他の地域とのつながりを作る意味を込めて設けた。

・市場

岡山全体の特産物や海鮮などの市場を 2 階に設け、地域の人と観光者が交流するきっかけとなる場になるようにした。

・カフェ・レストラン

1 階の天井を高く取り、2 階部分も吹き抜けになっているため、瀬戸内海を見渡しながら、食事・休憩をとることが出来るようにした。植栽を囲む座席を設けて、緑を入れることで温かい雰囲気でリラックスできるような空間とした。全体的に瀬戸内の魅力である日当たりや風通しも感じられるよう考慮してカーテンウォールを用いて計画した。



・宿泊施設（1～3 階）

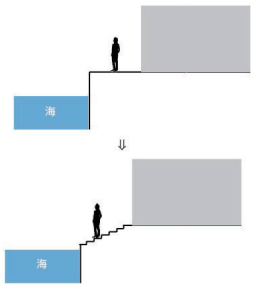
宿泊施設の客室は 52 室（41 ㎡）あり、建物や人の視線が集まらない南東に計画することで、開放感のある瀬戸内海の景色を眺望できるように考慮した。

・「雁木」を用いた大階段

雁木とは本来、瀬戸内特有の御影石で作られた護岸を兼ねた階段状の荷揚げ施設であり、潮の干満差が激しい瀬戸内で常時積み下ろしができるように作られていたものである。

今回、南側に建物を配置したに加えさらに海と人の関係が近くなり、親水性が高まることを目的に計画した。宇野港付近になかったため、雁木をイメージした大階段を敷地の西側、南側東側に広く設けた。時間帯や季節によって海の干満差が異なるため、様々な海の表情や景観を見ることが可能になると同時に、大階段での過ごし方も多様になると考えている。

人と海の関係







参考文献

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jime/55/5/55_632/_pdf

https://www.unokou.com/info3.html

https://www.mlit.go.jp/kowan/minatomachi/images/H16/uno.pdf

https://architecturephoto.net/154204/

http://jpsatobunka.net/meisan/okayama/okayama-04.html

特集 33 瀬戸内テリトーリオの再構築.建築雑誌.2019.5









ボランティア視点から考える防災施設

学籍番号　k19205
名　　前　足立啓太
指導教員　根來宏典

Disaster prevention facilities from the perspective of volunteers

Student Number　k19205
Name　ADACHI Keita
Supervisor　NEGORO Hironori



● **計画背景**

自然災害の多い日本では、地震や津波、豪雨、台風、噴火など多種に渡って日々の生活に影響を及ぼす。そして、大災害が起こると多くの人が住む場所や大切な家族と離れ、避難所へと移動してくる。そこでは、全国からボランティアの人が集まり、過密なスケジュールをこなしながら復興に協力していただける。しかし、ボランティアの人々の宿は周辺の宿泊施設へと移動するか、車中泊をするなど移動の疲れや疲労を取りにくいものが多い。そこで、もっとボランティア参加者の負担軽減はできないかと考えた。

● **設計意図**

日常では地域に開放した施設にし、災害時にはボランティア参加者の宿泊先になり併設の公園に避難してきた人や近隣の避難所へすぐに対応できる防災施設を提案する。また、南海トラフ巨大地震の想定から月日がたち多くの人々の防災意識が低下していると感じる。そこで公園に防災器具を配置したり、施設にギャラリーを設けることで、利用する人が器具や災害に対する情報を日常から目にすることで防災に対する意識を高めていこうと考える。

● **敷地について**

本提案では、赤く示した大阪府大阪市中央区に存在する公園を敷地に選定した。選定敷地は交通の便が良く日常での利用、災害時の利用に良く、南海トラフ巨大地震の想定で比較的安全な場所にあり多くの避難者を呼び込める。また、周りに学校などの避難所があり連携を取りやすいようになっている。

■ 広域避難場所
大規模火災が発生し、延焼拡大した場合の避難場所

■ 災害時避難所
浸水や倒壊により自宅で生活ができなくなった市民が避難生活を送る施設

■ 水害時避難ビル
津波や洪水時の避難場所

■ 一時避難場所
計画、対象敷地



図１．敷地周辺

所在地：大阪府大阪市中央区玉造２丁目 24
主な用途：宿泊施設、公園
敷地面積：6700m^2
建築面積：1262.08m^2
延床面積：2511.17m^2
キーワード：防災施設

Location : 2-24,Tamatukuri,Tyuou-ku,Osaka-shi,Osaka
Main Use : Hotel, Park
Site Area :6700 m^2
Building Floor Area : 1262.08m^2
Total Floor Area : 2511.17 m^2
Keywords : Disaster prevention facility

- **設計意図**

日常利用と災害時での利用を考え必要に応じて様々な利用方法がある設計を考えた。

- **大開口**

内と外をフラットにつなげる事で、日常では公園の様子を感じたり、動線として利用し流れを生む。また、災害時には物資の運搬などをスムーズに行うことができ、避難所の状況を判断しやすいようにした。



- **ベンチ**

間仕切りを設け長いベンチを区切ることで災害時にテントを張ることで個人的空間を簡易的に作ることができる。





- **ギャラリー**

入り口付近や注文カウンター付近に防災ギャラリーを設け、多くの人の目に入るようにすることで、利用者の防災意識を高められるようにした。



- **土間スペース**

外と内をフラットにしスムーズに移動できることで流動性を生み、災害時に様々な用途で利用できたり、物資の運搬をスムーズにできるようにした。



- **動線**

建物の間を縫ったり、公園の様々な場所から出入りできるようにすることで流動性を生み、公園で遊ぶ子供たちの活気を敷地全体に広められるようにした。



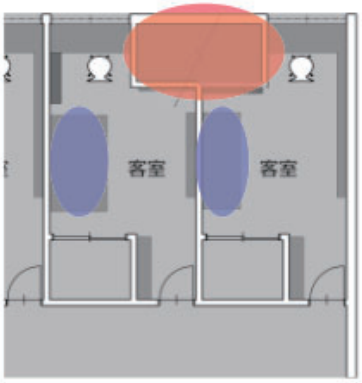


- **客室**

日常では一人での利用を考え設計したが、災害時では収容人数が少なくなるためソファーを伸ばすことでもう一つ寝床を増やし二人部屋になるようにした。







対馬の生物多様性

学籍番号　K19206
名　　前　阿比留莉乃
指導教員　安田光男

Biodiversity of Tsushima

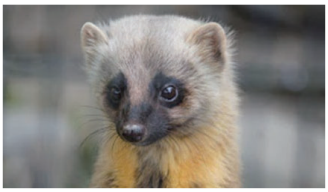
Student Number　K19206
Name　ABIRU Rino
Supervisor　YASADA Teruo

はじめに

長崎県対馬市は日本海の西、九州本土と朝鮮半島のほぼ中央に位置し、南北 82 ㎞・東西 18 ㎞と細長く、面積は約 700 k ㎡で人口は約 2.9 万人の島である。日本と大陸との中間にある対馬は、その地理的条件から、古来より大陸と日本を繋ぐ窓口のような働き方をしてきた。それ故、大陸の影響を強く受けたユニークな生態系が対馬では形成されている。大陸と対馬には分布するが、日本本土には分布しない植物や日本と対馬には分布するが、大陸には分布しない植物などがある。その生態系は現在、減少傾向にあり、天然記念物や絶滅危惧種に指定されている。原因は多々あるが、交通事故、人間が仕掛けた罠、生息地の減少といった人間に関する物が多い。これらの生物が本来の姿、生き方が出来るように様々な取り組みが対馬では実施されている。



対馬の場所



ツシマテン



ツシマヤマネコ



ハクウンキツゲ



ヒトツバタゴ

（1）研究背景・目的

対馬に訪れる機会があり、その度にツシマヤマネコの飛び出し注意の看板を目にしていた。実家でネコを飼うことになり、帰省するたびにかわいいと感じていた。また、ツシマヤマネコのセンターに訪れる機会があり、そこでツシマヤマネコに興味をもち始めた。調べていくうちに、ツシマヤマネコだけでなく対馬に生息する生き物の多くが天然記念物や、国内希少野生動植物などに指定されていること、生息数が年々減少していることから、保護、研究、周知してもらうための施設を計画することにした。この施設を計画することによって、生物が本来の姿、生き方が出来るようにし、これ以上個体数が減少しないようにすることを目的とする。



計画敷地

（2）敷地選定

長崎県対馬市は山に囲まれた島であり、特に敷地の内山地区は山に囲まれた盆地にある。農業を主とした集落でこの地域にも、ツシマヤマネコ等の生き物が生息していた。近年は下対馬の人間の営みによって減少していった。ここを敷地に選定した主な理由は二つある。一つ目は主に農業で栄えていた場所であること二つ目は、敷地の下のほうに川が流れていることである。農業が出来る環境であることは、生物の生きやすい環境であることがわかる。川があることで、今後水生生物の調査・研究も可能である環境であることからこの敷地を選定した。

所在地：長崎県対馬市厳原町内山
主な用途：保護施設
敷地面積：3825.26 ㎡
建築面積：1,856.95 ㎡
延床面積：3,337.81 ㎡
キーワード：保護

Location : Uchiyama,IzuharaTown,TsushimaCity,Nagasaki
Main Use : shelter
Site Area : 3825.26 ㎡
Building Floor Area : 1,856.95 ㎡
Total Floor Area : 3,337.81 ㎡
Keywords : protection

（3）計画内容

今回は、動物の快適さ、生命・生活を脅かされていないかなど動物の営みを最優先とし、普及や啓発など意識を高めることを目的とした施設を計画する。敷地周辺が山であることから、外観は山に沿って丘をイメージした形状にし、自然に溶け込むように設計をする。そうすることによって、近くに生息する生き物が訪れ、強制的に捕獲せずに、通常の生活を観察、研究することが出来るようにする。また、建物の 2 階にインナーバルコニーを設けることによって採光兼生物の観察が出来る計画にする。また、屋根部分には対馬特有の石屋根を用い風景に合わせた見た目にする。室のプランは以下とする。

・普及啓発センター　対馬の島民をはじめより多くの人々に現状を認識してもらえるように活動を行う場所を設ける。
・研究室　生体だけでなく、動物の糞等を研究するために配置し、より生態系について学ぶことが出来るように設ける。
・宿泊施設　長期滞在して研究したり、時間帯によって変わる生態を観察したりするために宿泊施設を設ける。
・管理人室　この施設を管理する人が備品等を置き、また休憩するために利用する。
・資料室　現状を記録した資料や、今までの研究等を記録した資料を置く。

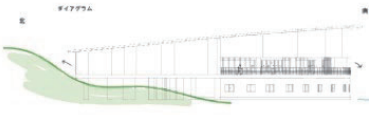


石屋根の例

（3）-1　対馬の石屋根について

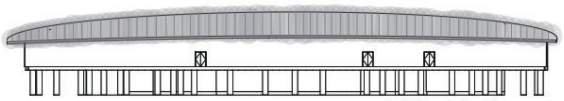
対馬市厳原町には石屋根というこの地方特有の倉庫がある。床は高床式となっており、米・麦及び穀物、衣類什物等を格納する部分が区画された倉庫が利用されていた。この石の素材は大型厚石板で、島内産の頁岩が使われていた。現存する石屋根倉庫は主に大正期に県存されたものがほとんどである。石屋根が用いられていた理由としては、農民に瓦葺が認められていなかった、倉庫の中にあるものを火災から守り、強風による倒壊を防止するなどがあげられる。昭和 52（1972）年に県の重要有形文化財に指定されている。石の重さから建物が潰される可能性も考慮され使われてはいない。

（4）イメージ・ダイアグラム



ダイアグラム

北側に山、南側に川があるため山に生息する生物や
水辺を好む生物などを観察することが出来る。



石屋根　イメージ図

屋根は石屋根を用いるとともに、傾斜をつけることで
山の形状に合わせる計画にする。

参考文献

平成 11 年度　生態系多様性地域調査（対馬沿岸地域）　委託業務報告書　（概要版）　2000 年　長崎県

宇野港　　再生

学籍番号 K19207
名　　前　阿部翔汰
指導教員　山内貴博

Uno　Port　Regeneration

Student Number　K19207
Name　Abe Syouta
Supervisor　Yamauchi Takahiro

宇野港　再計画

○歴史
宇野港は、岡山県玉野市に位置する港である。岡山県の中では南の場所であり目の前には瀬戸内海が広がっています。
玉野市の人口は、約６万人であり主な産業は造船や金属の製造である。

現在の宇野港を形成するために大きな要因となった人物として『檜垣直右（ひがきなおすけ）』があげられる。
１９０２年（明治３５年）に岡山県知事に就任し、４年後の１９０６年（明治３９年）に宇野湾築港に着工。３年後に宇野港が竣工する。

宇野港完成と同時に１９１０年（明治４３年）に岡山駅と宇野駅を繋ぐ宇野線が開通。また宇野港と四国を結ぶ宇高連絡線が開港する。
物資や人の流れが盛んになり、１９３０年（昭和５年）には開港場に指定され外国との貿易も盛んになる。

１９８８年（昭和６３年）瀬戸大橋が開通。開通前日に宇高連絡船は廃止された。しかし民間のフェリーは瀬戸大橋の交通料金が高かったため便数を減らしながらも運航が続いていた。３社あったフェリー会社は現在は四国汽船の１社だけになっている。

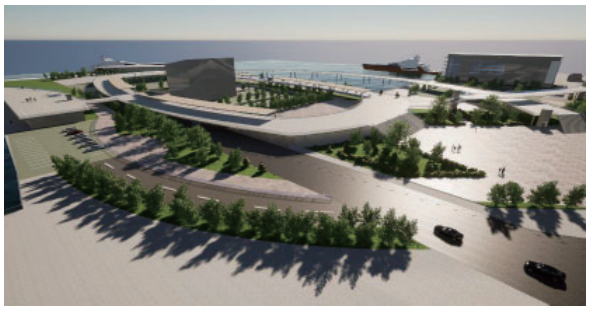
２００２年(平成１４年)には大型客船用のフェリーターミナルが完成する。２０１０年からは瀬戸内国際芸術祭が開催され、観光業にも力を入れており多くの外国人も訪れている。

○周辺施設
近年観光業に力を入れている玉野市は宇野駅の中に観光案内所やお土産ショップを設けたりしている。また駅の外装を瀬戸内国際芸術祭の一貫で海外のアーティストにより塗り替えたりするなどしている。
昨年の夏には宇野駅の横に UNO Hotel が開業する。

瀬戸内国際芸術祭のアート作品も宇野港に多くある。放置自転車を利用したアート作品や海のゴミを使ってチヌなどがある。

○瀬戸内国際芸術祭
芸術祭は瀬戸内海のさまざまな島がメインとなる。その中で本州と四国を結ぶための重要な島が直島である。現在のフェリーの航路は直島を経由しなければ四国へ行くことができなくなっているためである。
直島の他に、豊島、女木島、男木島、小豆島、大島、犬島などの島がある。





敷地全体を覆う歩道橋

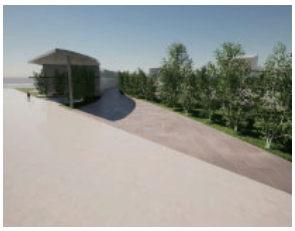
〈歩道橋〉



宇野駅側
広い宇野港の玄関口となるため、それぞれのエリアに行けるよう敷地全体に歩道橋が広がっている。地上との移動もエレベーターと階段を適度に設けているため敷地全体を不便なく利用できるようにした。



瀬戸内海側
主な施設は美術館と休憩所であり、その間には大きな広場がある。人が敷地の奥にまで循環するよう歩道橋で一周しながらそれぞれ場所を訪れることができるようにした。



大型フェリーターミナル
敷地の一番南側は大型フェリーのターミナルであり、そこに美術館を設けた。海からの玄関口から宇野駅に続く歩道を地上にも設けどの道を通っても宇野港を楽しめるよう計画した。



海上歩道橋
宇野港を敷地から大きく飛び出した海上歩道橋は文字通り、海の上を歩くことができる。瀬戸内海を楽しみながら敷地の奥まで人々を呼び込む役割がある。

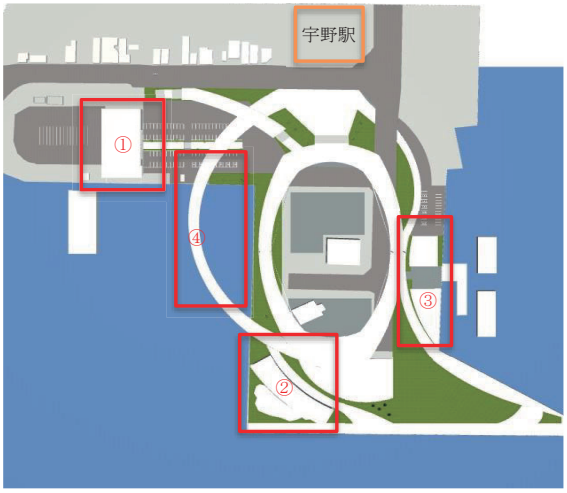
画像引用　https://parosuke9.com/2022/06/02/from-uno-port-to-naoshima-teshima-inujima-outside-the-setouchi-triennale-part-2/

所在地：〒706-0002 岡山県玉野市築港１丁目２
主な用途：宿泊施設　美術館　休憩所
敷地面積：ホテル 2374.65 ㎡　美術館 3496.92 ㎡　休憩所 2961.87 ㎡
建築面積：ホテル 2010 ㎡　美術館 1465.20 ㎡　休憩所 1166.67 ㎡
延床面積：ホテル 12060 ㎡　美術館 2930.4 ㎡　休憩所 2333.34 ㎡
キーワード：芸術祭　循環　旅

Location : Itchome2 Chikko,Tamano-shi, Okayama-ken 706-0002　Japan
Main Use : Hotel　Museum　Rest area
Site Area : ² Hotel2374.65 ㎡　Museum3496.92 ㎡　Rest area2961.87 ㎡
Building Floor Area : Hotel2010 ㎡　Museum1465.20 ㎡ Rest area1166.67 ㎡
Total Floor Area : Hotel12060 ㎡　Museum2930.4 ㎡　Rest area2333.34 ㎡
Keywords : Art Festival　Circulation　Journey

○計画概要
玉野市の中では中心地である宇野港。宇野港周辺も商店街や大きな商業施設があるが撤退や廃業が多くあり賑やかとは言えない場所が増えている。宇野港もその中の一つとであると考える。広大な土地があり有効活用できは場所は多くあるが広すぎるが故に人が流れにくくなっている。
それを解決するため、敷地全体を回れるように巨大な歩道橋を計画した。それに付属する形で海上歩道橋を計画。

新たに計画した施設は、宿泊施設、美術館、休憩所兼チケット販売所である。宿泊施設はより観光業を発展させるためフェリー乗り場の前に設け利便性を高めた。美術館は瀬戸内国際芸術祭のアート作品拡大のため計画した。また瀬戸内海を一望できるような場所に計画することでより人が宇野港全体を楽しめるようにした。休憩所兼チケット販売所は小型のフェリー乗り場の前に計画し、利便性を高めつつ広場で運動した人や旅の休憩ができるように計画した。




ホテル

・計画①　ホテル
フェリー乗り場の真横に設けることで、芸術祭や瀬戸内海の島々を観光する人が利用しやすく計画。一階はカフェ、受付、レストラン、二階から六階まで客室、七階は大浴場になっている。


美術館

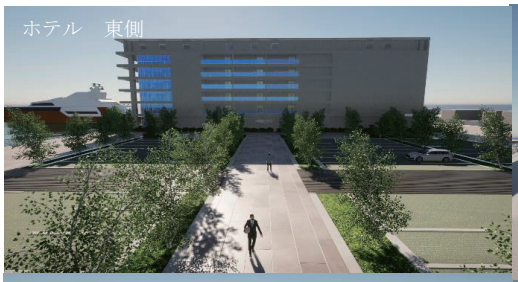
・計画②　美術館
アート作品をさらに増やせるようにし、瀬戸内海とアート作品を同時に楽しめるよう計画。美術館からは瀬戸内海を見渡すことができ大型フェリーターミナルも隣接しており観光業を活性化できるように計画した。

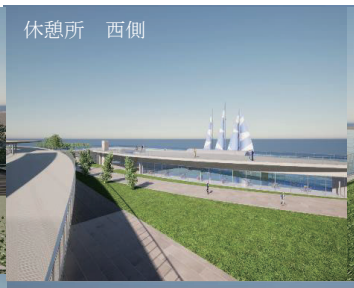

休憩所

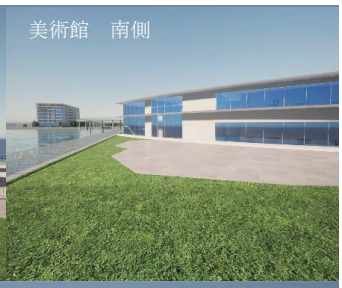
・計画③　休憩所
休憩場兼チケット売所
手前に広がる広場の休憩場として家族連れや船や電車の待ち時間などに利用してもらえるよう計画した。

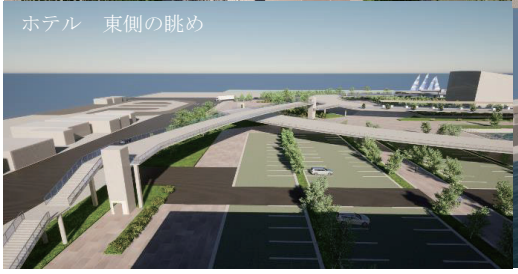

海上歩道橋

・計画④　海上歩道橋
瀬戸内海を一望しながら歩くことができるように計画。また宇野駅から多くの人を広大な宇野港に循環させる役割もある。











「都市型社会」から「界隈性のある街」への起転

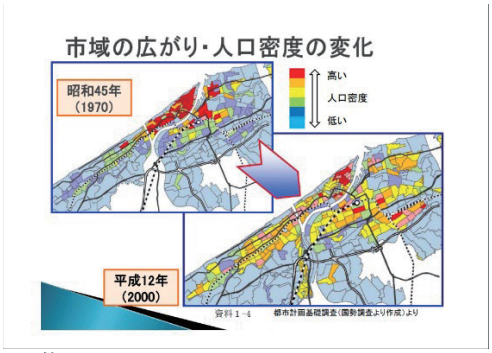
学籍番号　K19208
名　　前　五十嵐弥希
指導教員　安田光男

はじめに

20 世紀の街づくりの価値観は、「無駄のない」機能主義だと感じる。日本は、経済面で合理的な街づくり、低コストで機能的な街づくりを全国規模で推進した結果、街の個性ともいえる「界隈性」の喪失がみられる。しかし、高度経済成長期の当時は、合理主義的かつ機能主義的で無駄を排した科学的なデザインが最先端モノづくりも街づくりも、低コストで高品質・高付加価値なものをいかに合理的に作るかという価値観が主流で、プレハブ工法や画一的なビル建築が経済的に有利である。だが、収益に視点を絞る一方、その土地毎ある歴史や文化的要所が埋もれていくのではないか。「都市型社会」から「界隈性のある街」への起転となる場を設けることはできないのかと私は考える。

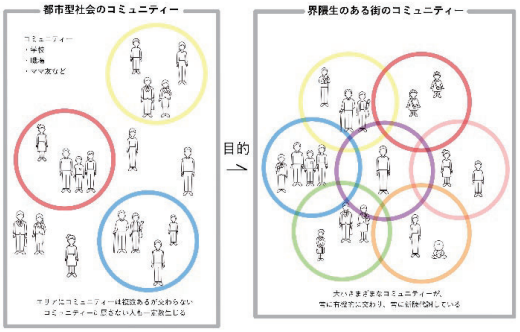
計画背景

新潟県新潟市古町地区はバブル期まで、新潟の中心として栄えていたが商業施設の郊外出店や新潟駅の発展と共に衰退してきた。特に古町地区の文化的要所である古町花街の衰退が問題視されている。かつては長屋が立ち並んでいたが、開発でテナントビルやマンションが増加している。現在も商業複合型マンションの計画が進む。私はテナントビルやマンションといった開発手法による、路地と界隈性の喪失を問題視する。よって界隈性を取り戻し路地といったヒューマンスケールなスキマを取り入れた。商業複合型マンションの代替案を提案する。



計画目的

ある人は片道 1 時間ほどの通勤電車に揺られ、郊外の規則正しく並んだ戸建て住宅からやって来る。週末や休日は駅ビルや郊外の複合商業施設で買い物や映画観賞、フードコートでの食事を楽しむ。ある家族は、父親は職場コミュニティーと家庭の往復、母親はママ友やパートの職場コミュニティーと家庭の往復、子どもたちは学校コミュニティーと家庭の往復で日々を過ごし、それぞれのコミュニティーは基本的に交わることはない。そういった「都市型のコミュニティー」から大小さまざまなコミュニティーが有機的に交わり、新陳代謝している「界隈性のある街」づくりへのきっかけを目的にする。

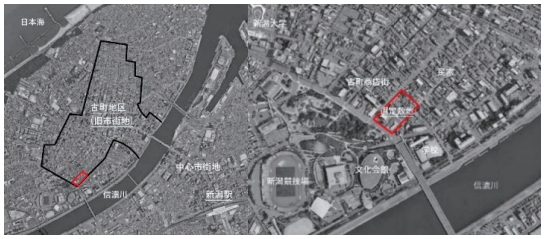


Starting from "urban society" to "town with neighborhood"

Student Number:K19208
Name :IKARASHI Miki
Supervisor :YASUDA Teruo

敷地選定

選定した敷地は、新潟県新潟市古町１番町である。
中心市街地である（新潟駅を含む）万代エリアと旧市街地である古町エリアのちょうど境目に位置する。敷地付近には学校や商店街、文化会館や国立競技場、民家や商業施設など、多種多様な目的で行動する人たちが入り混じるこの空間は様々なコミュニティーの起点なることを推定し、この敷地を選定。



古町地区全体図　　選定敷地及びその周辺

周辺敷地

古町地区には戦前に建てられた歴史的建造物が、幾度の大火をくぐり抜け今なお多く残っている。古町通沿いに多い町屋建築のほか、新道沿いには三業（料亭、茶屋、置屋）の建築とされる花街建築が残されている。長屋が立ち並び、それによって多くの路地空間が形成されている特徴がある。文化財に登録された「鍋茶屋」を含む、現在の料亭が立ち並ぶ花街周辺にマンションや建設中の商業複合施設、コインパーキングなどが点在し、利便性がある駐車場や空間的に収益のあるマンションなど機能的かつ合理的な空間が広がっていき、従来の路地から生まれる界隈性が失われているように感じた。



↑　文化財「鍋茶屋



↑　鍋茶屋通り

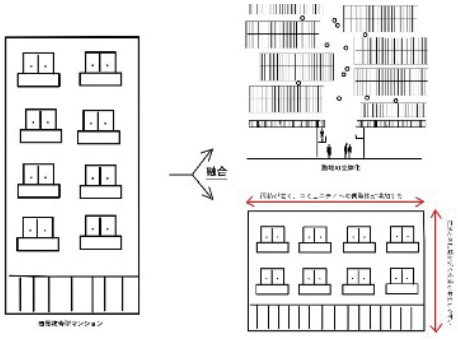


↑　大型ビルの建設予定地

手法

１．路地の立体化

新潟古町の特徴として、長屋や雪国ならではの雁木屋根などがあげられるが、特に路地空間が魅力的だと感じる。古い木造の建物が多く、路地が多い古町花街は実際、30 本以上の路地があり、細いところでは 1.9mほどしかないところも。この地域では両側から私有地である自分の土地を半分ずつ出し合って作られた「出し合いのコウジ」「ヘヤナカサ」と呼ばれるものが多い。路地上に左右から建物がせり出している風景はこのまちの路地ならではの魅力的空間だ。この特徴を計画に取り入れ、新たなコミュニティー形成のきっかけを生み出すことをできないか。



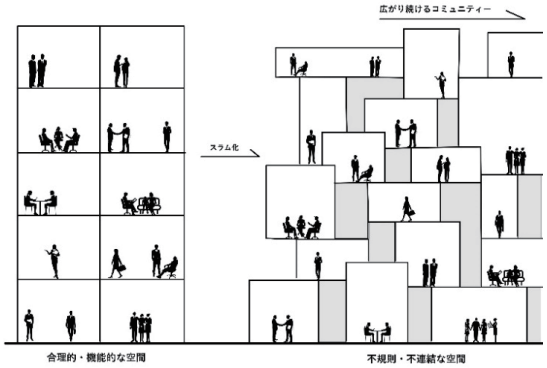
所在地：新潟県新潟市古町１番町
主な用途：商業複合型マンション
敷地面積：10,200m^2
建築面積：9230m^2
延床面積：17,720m^2
キーワード：都市型社会. 界隈性のある街.路地

Location : 1 Furumachi, Niigata City, Niigata Prefecture
Main Use : Commercial complex condominium
Site Area : 10200 m^2
Building Floor Area : 9230 m^2
Total Floor Area : 17,720 m^2
Keywords : Urban society. Neighborhood streets. Alleyways.

案として路地の立体化を提案する。路地は本来平面であるものだが、立体化することによって路地の本数を増やすことができ、路地から生み出すコミュニティーへの偶発性を高めることができるのではないか。また、建物の構造を低く、広くすることによって上下階との交流がしやすくなるとともに、コミュニティーの幅が広がるように構成。

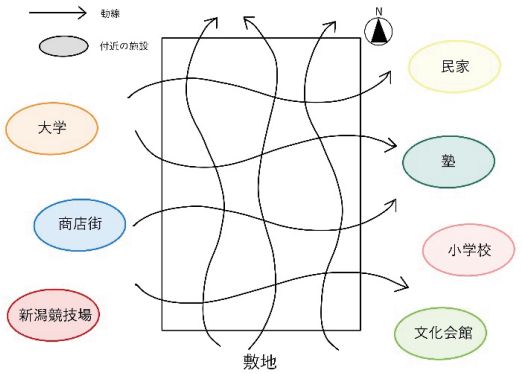
２．スラム建築的要素

スラムでは、無数のコミュニティーにより形成されていることに加え、光や影、風の通り道などが住民によって考慮されており、自然と一体になる作りになっている。連続、不連続という人間生活にありがちな事象を混沌とした空間は斬新でかつ人間味のある温かさを感じた。こういった地域の人たちと協力し合いながら不規則に広がり、新たなコミュニティーの形成し続けるスラム建築的要素は、今回の計画に適していると考える。



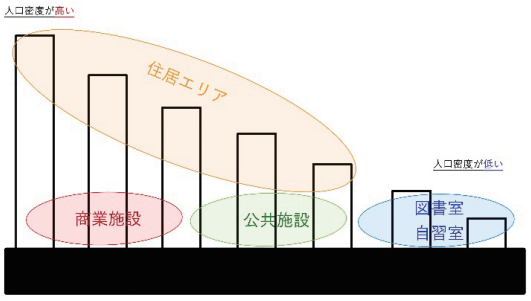
計画過程

敷地周辺には多種多様な施設がある。「学校帰りに」「買い物帰りに」「観光ついでに」など各々が目的の場所に到達する際の通過点として役割を持たせたい。そこで多方面から多数の侵入口を設け気軽にアクセスのできる空間にする。また、単純な直線の動線ではなく、蛇行しそれぞれ複雑に交錯しあう動線にすることで、「飽きない空間」にすることを意識する。



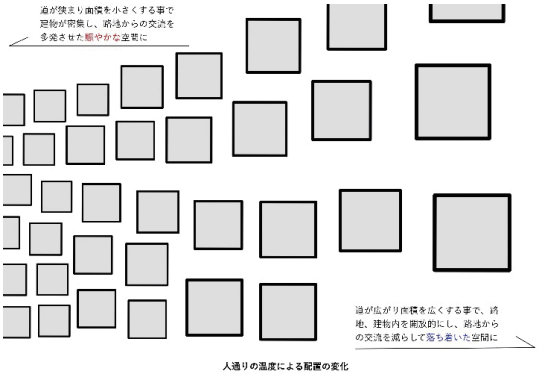
敷地南西側には商店街や新潟競技場、文化会館などがあり、道も広く開け、観光客や買い物客など賑わいを感じる雰囲気だ。対して北東側は、民家や小学校、塾などがあり道も狭く、比較的落ち着いた雰囲気がある。今敷地は丁度その間に位置するため、「賑やかな空間」と「落ち着いた空間」を取り入れえた設計を行う。

１階に商業施設、2階以降に住居空間を設ける前提に置き、それぞれの雰囲気に適した空間にするために、高さによるグラデーションの変化を与える。人通りの多い南側は階層を高く、人通りの少ない北側は低くすることで、人口密度の変化を与える。また、1階エリアには各雰囲気に適する施設を配置する。



高さによるグラデーションの変化

それに加え、人通りの温度による配置の変化を与える。南側に行くほど道が狭まり、面積を小さくする事で建物が密集し、路地からの交流を多発さ
せ、北側に行くほど建物間を広くする事で路地や建物内を開放的にし、路地からの交流を減らすことで、「賑やかな空間」と「落ち着いた空間」を取り入れる。



人通りの温度による配置の変化

まとめ

都心だけではなく、地方でも国道沿いの景色・街並みは全国的に近似しているといわれている。短期的な経済合理性を追い求め、部分最適を追求していくと、おそらくおのずと「街」というものは「都市型コミュニティー」に移り変わっていくと感じる。

この計画により、たまり場として居心地の良く、路地を通して気安く会話ができ、多様な要素の複合として人々が開放的になり、気軽に知らない人に話しかけたりできる、それが許される雰囲気を身にまとった「界隈性のある街」へのきっかけを生み出すことができるのではないか。



参考文献
・花街の景観を構成する建造物の分布及び外観特性
https://www.jstage.jst.go.jp/article/aija/84/763/84_1957/_pdf
・「古町地区将来ビジョン」 の方向性について
https://www.city.niigata.lg.jp/shisei/gyoseiunei/sonota/

境のレジリエンス

学籍番号　K19209
名　　前　池口 聖奈
指導教員　山内 貴博

Boundary resilience

Student Number　K19209
Name　　Seina　Ikeguchi
Supervisor　　Takahiro　Yamauchi



１．はじめに

過疎化する佐世保の中心に位置する米軍基地周辺にある公園は、現在、境界フェンスで囲まれて閉鎖的だ。
その公園を‘‘**ザ・佐世保のグランドレベル**として、まちの居心地を決定づける拠点の場所とすることで「**コミュニティの形成や、アクティビティを誘発する新しい広場**」を計画する。

２．背景と目的

現在日本には 130 以上の基地を含む米軍施設があり今回の選定敷地である長崎県佐世保市もその一つである。騒音、事故など深刻な問題が起こる中在日米軍基地がある地域だけの問題ではなく、日本全体で国民共有の課題として考えていく事件事故も後を絶たない。しかし、日々事件事故が溢れる世の中で多くの偏見や差別は関連性なくあらわれる。閉鎖的という言葉には建築以外にも人間の心理、行動にも影響する中、複雑に変化し続ける自然界を通して誰しもが心地よいと思える空間を整えていくことはその街だけでなく人々の生活にも大きな影響を与えると考える。初めに目に見えるものを第一の印象として捉えがちな私たちだからこそ拒否的な空間から生まれる感情を消し去るため融合した街全体の日常風景を生み出していきたい。居心地の良い空間は一人一人異なりそれと平衡に空間の在り方も変化する。誰にとってもここが出発地点であり、通過地点でありそして到着地点であるような新しい街の中心であるような広場を形成する。

３．敷地の現状

対象敷地（図２参照）は、佐世保市の中心部にあり、周辺には米軍基地、高速道路、アーケード、河川や緑など敷地を挟んでいくつかのエレメントに分かれており、波風の穏やかな入り組んだ地形から独特な風景を生み出している。一方、現在は佐世保港周辺が栄えている。その港に人口は集中し佐世保の中心部は過疎化が進み、気軽に訪れやすい身近な広場にもかかわらず寂しい場となっている。

４．広場の効果（デザインメソッド）

境界は建築内部と外部の間に単にあるだけでなく、所有者の権力を顕現するマイナスの要素である。
本提案の本質は、そうした境界を越えた「ヒューマニズムの関係性とは何か」を問い直し、特に以下の二つの概念に着目する。
１）ホワイトノイズ（高周波音）
森にはゆらぎという心臓の音に似た自然が生み出す独特のリズムが流れており、脳を活性化し、リラックスさせる効果がある。
２）フィトンチッド（森林浴）
樹木が発散する芳香。精神を安定させ、解放感、疲労回復、ストレスの解消などをもたらす。
そして、以下二つの効果を意図させる。

a)　自然の中で誰しもが意識・無意識を問わずに感じる、複雑に変化し続ける自然界の香りを、人工的で閉鎖的な環境から切り離すことを目的とした効果。
b)　既存樹はもちろん新規にデザインする緑地を通して人々にとって意味のある緑となる効果。

５．設計主旨

衰退してしまった街を、その土地で日常を暮らす人々はどうしてもネガティブに捉えがちである。しかし「**雨水が地形に合わせ流れるように、その土地のあるべき姿・形にデザインする**」ことで、建物もランドスケープも永遠のものになると考える。一人一人の個性をその土地に根付かせることは、一見対極に感じるかもしれないが、自然の美しさを奪うのではなく、それぞれの奥深くに潜む感性を

所在地：長崎県佐世保市平瀬町 13－11
主な用途：広場
敷地面積：44000m²
建築面積：1229.2m²
延床面積：1229.2 ㎡
キーワード：広場，緑化，景観，異文化，多文化共生

Location : 13－11,Hirase,Sasebo,Nagasaki
Main Use : square
Site Area :　44000m²
Building Floor Area : 1229.2m²
Total Floor Area : 1229.2m²
Keywords : square,greening,scenery,different culture,multiculturalism

人々や木々、建築に絡ませ合わせていく。また、様々な問題を抱える米軍基地だが、これも一つの貴重な空間的地域資源である。そこに隣接する公園は「**思考や人種、土地の境界を越えて、その空間から生まれる様々なつながりを通して街の中心部にふさわしい、全てに寄り添う広場**」とする。

６．設計内容

６－１．ゾーニング

先述した人工物と自然にわかれたエレメントの中で、広場単体ではなく街全体の波及効果につなげるため、図３のように敷地を細かくゾーニングする。佐世保市や米軍主催のお祭りやオープンベースなどのイベントはもちろん、地域住民や米海軍の方の日常的な利用も含め多種多様に、大勢の人々の為だけではなく一人一人の個人も許容する一人でいても居心地の良い空間とする。
土地を断面から見たときに自然な動きを出し、視線の入り方やシーンが移り変わることによって、その空間にしかないアイデンティティを感じてもらう。交流はもちろん触れあいの空間として設計する。

６－２．店舗・施設計画、緑化計画

広場に足を運んだ人々の共通の目線となる一階建てとすることで、店舗をガラス張りにして楽しく開かれた空間で時間を過ごす。多様な人々の交流は、空間の多様な用途、使い方から生まれるため限られたものにしない。周辺の自然に溶け込み、第一に視覚的に拒否的なものにしないため誰しもに開かれ興味を引く、思い思いの空間を形成する。

ビューロードからの全体パース



サークルポンドと全体パース



ガーデンベット





図２　対象敷地≪佐世保公園、ニミッツパーク≫

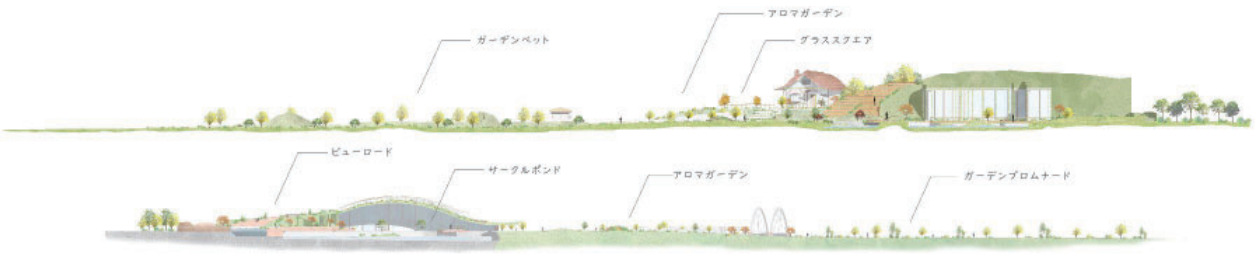


図３　ゾーニングを示す断面図：no-scale

参考文献

国土交通省、都市局、まちづくり推進課、「居心地がよく歩きたくなるグランドレベルデザイン」　P. 4～9

国土交通省、都市局、公園緑地・景観課　「緑による建物の魅力アップガイド」　P.1～6

『いつもの道』を『いつも楽しい道』に

（京都七条通地下道計画案）

学籍番号　k19210
名　　前　石井友梨
指導教員　永井秀幸　講師

Proposal to turn "usual routes" to "always fun paths"

－ Kyoto Shichijo-dori Underpass Project－

Student Number　k19210
Name　Yuri ishii
Supervisor　Hideyuki Nagai

1. 計画概要

七条通に沿って京都駅と京阪七条駅を結ぶ地下道を設け、一体的な交通結節点として整備する。通勤通学及び観光等の利便性を向上させるとともに
地域の小規模の飲食店や作家たちの店舗や住民のたまり場として活用する。夜は地下道から漏れる光を地上に届けて地上部の防犯性や交通の安全性の向上につなげる。

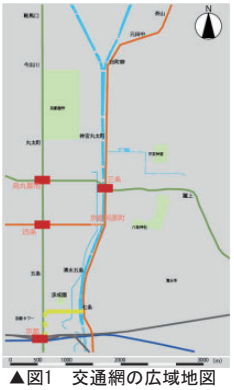
2. 計画背景

京都駅は、多くの鉄道路線が乗り入れる結節点である。
しかし、鴨川沿いに南北を通る京阪の路線へのアクセスはバスや大きく迂回する他の線への乗り換えや住宅街を突っ切る徒歩しかない。特にバスに関して車道が平日・休日問わずに大変混雑していて不便である。[1]
もし、この七条通が一体的な交通結節点として使用できれば公共交通と徒歩での移動者のバランスがよくなり安全で快適な移動ができるのではないか。さらに地下道内部をフレキシブルな商店が集う空間へ変化させることで、このエリアにもにぎわいがもたらされるのではないか。そう考え、この地下道計画案を計画した。

3. 計画案概要

3-1配置計画

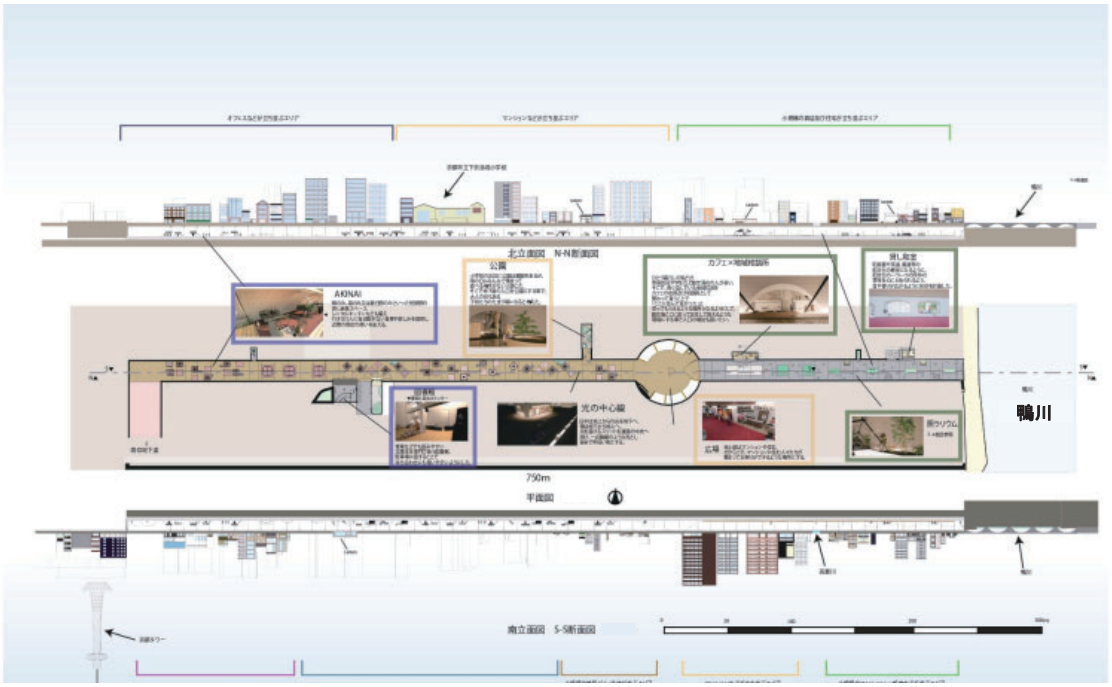
地下道は京都駅から烏丸通りを北方向に延長されている既存の地下道から新たに七条通りの地下道を接続する形で提案する。（図1）
東西方向の距離はおよそ750mで高瀬川の下を潜り、鴨川の付近まで計画を行う。（図2）



▲図1　交通網の広域地図

3-2環境計画

地下と地上の接続部分は自然光や人工照明を利用したものとする。
日中は外からの光を取りこみ、地下部分を照らす。(図3)夜は地下街のにぎわいを地上に届ける。
夜の地上交通安全及び防犯にも繋がるようにする。（図4・5）それらの光の行き来やたまる場所を人の行き来とたまり場を
リンクさせることで人と光の結びつきを強くし、にぎわいを強調できるようにした。

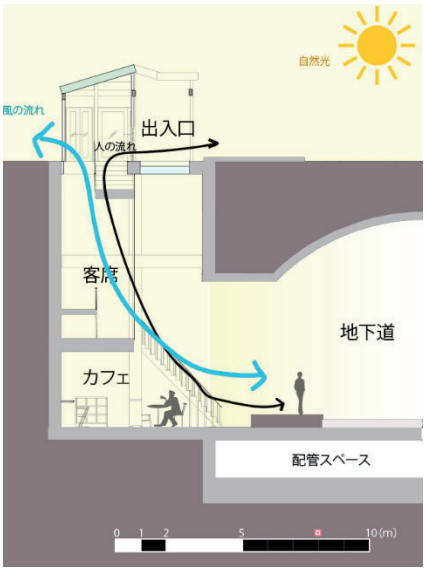


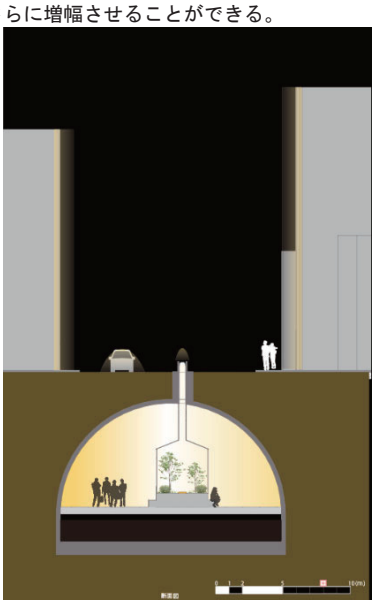
▲図2　地下道全体の配置図兼平面図及び断面図

[1] 京都観光総合調査-京都市産業観光局

所在地：京都府京都市下京区桜木町烏丸通七条上る９８から
用途：地下道・商業・自然展示及び保護スペース
延床面積：11,694.49 ㎡

接続部の地上部分を周辺の住宅の形に合わせ、素材を半透明の和紙のようなものにすることにした。街なみに溶け込みながら、行燈のようにやわらかな癒しの光の効果をさらに増幅させることができる。





◂左　図3：夜の地上と地下の光の関係
◂右　図4：日中の地上と地下の光の関係

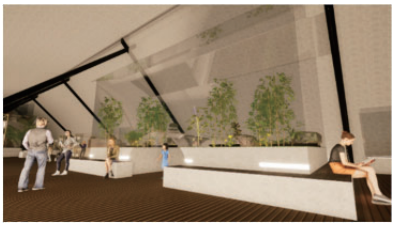
3-3内部計画



内部のエリアは主に二つに分け、七条で活躍する作家や飲食店が使えるショップのブース（図6）と地域に根付いた自然を保護及び鑑賞するためのテラリウム空間（図7）の2つとし、寒暖差が激しい地域での楽しい移動、街の人々を巻き込んだ『にぎわいの創出』の場として地域のたまり場となるような空間とする。

◂図5：夜間の地下の出入り口と地下道のスリットからの明かり

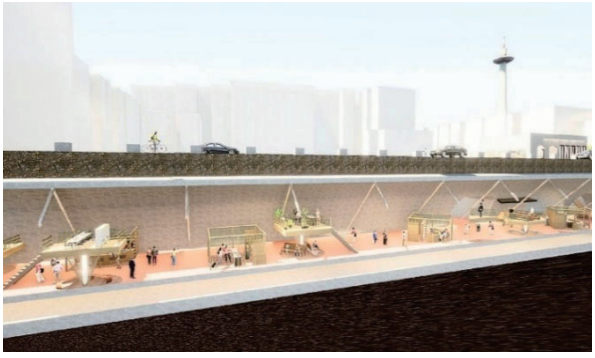




◂左図6：商業エリア　（AKINAI）
◂右図7：照ラリウム（展示・保護空間）

この地域は観光にも適した場所ではあるが、休憩できる場所が乏しい。そのような問題も解決できるように座って休める空間しても活用できるように計画した。また、ベンチなどで構成された通り道の凹凸は人のたまり場ともなるため地域文化の発展にもつながる。

4.　まとめ



鉄道路線及び地上の交通網が複雑化している中で、最も信頼できる移動手段は徒歩である。
その徒歩を選んでもらうためには、街に対する工夫が必要だ。
このように地下道があれば、寒暖差や気候に囚われずに楽しく移動ができる。
毎日が楽しくなれば人の活動は活性化し、社会の発展にも貢献できる。

◂図：8地下道の長手方向の断面パース

近世近江地方における前室付社殿の研究

学籍番号　K19211
名　　前　石垣里紗
指導教員　大上直樹　特任教授

流造　前室付　近世
閉鎖型　開放型　近江地方

研究の目的・調査方法

本論文では、「滋賀県の近世社寺建築」を使用し中世三間社流造の特色としてみられる前室付流造が、近江地方の近世の報告での平面図を比較考察し、時代による変化などを明らかにする。

「滋賀県の近世社寺建築」内で平面図付きで書かれている三間社流造のうち前室付きのものを対象とした。また一部三間社流造と同様の入母屋造や切妻造の神社も研究対象とする。全て合わせて 46 社が対象となる。

対象となる神社の一覧表

表１は「滋賀県の近世社寺建築」と写真での調査を行ったものの情報を年代順に並べたものである。左から建物名、年号、西暦、前面建具、分類（中世の分類方法に基づくもの）、資料（「滋賀県の近世社寺建築」内で使用された文献）、神社本殿の屋根の造りを示している。

中世の前室付社殿の特徴

本論文は大上直樹の前提研究『中世近江地方の三間社流造本殿の平面形式について』に基づき中世における近江地方の三間社流造本殿の特徴的な平面形状を基本的に「前室開放型」と「前室閉鎖型」の二系統に分ける。

表 2　中世の前室付き社殿の特徴

		閉鎖	開放
前室	開口部	正面	正面・側面
	組物	舟肘木（出三斗）	出三斗
	内法長押	○	×
	小壁	○	×
	架木	地覆下に納まる	平桁に納まる
	床	中段長押構え	切目長押の天端揃え
身舎	扉	×	○（両側面前端間）
	組物	舟肘木（出三斗）	出三斗・平三斗

近世の分類方法

中世では表２に当てはまるが、近世では全ての特徴が当てはまらない場合も考慮する。そこで前室部分のみに注目し、正面、側面共に開放的な建具、もしくは吹き抜けの場合は「前室開放型」、それに該当しないものを「前室閉鎖型」とする。

日吉大社大物忌神社本殿

慶長 16 年（1611）に創建された神社である。中世から

表 1　近世近江地方の前室付き社殿の一覧

社寺・建物名	年号	西暦	前室建具	分類	資料	本殿
若宮神社　本殿	明応6年	1497年	一方	閉鎖	棟札	
印岐志呂神社　本殿	慶長4~5年	1599年~1600年	三方	開放	棟札	
日吉大社　早尾神社　本殿	17世紀前半		一方	閉鎖		
日吉大社　大物忌神社　本殿	慶長16年	1611年	一方	閉鎖	[illegible]	
波爾布神社　本殿	正保3年	1646年	一方	閉鎖	社伝	
三大神社　本殿	承応4年	1655年	三方	開放	棟札写	
日吉二宮神社　本殿	寛文3年	1663年	一方	閉鎖	擬宝珠銘	
大島神社　本殿	貞享2年	1685年	一方	閉鎖	墨書	
久留美神社　本殿	元禄2年	1689年	二方	閉鎖	擬宝珠銘	
日雲神社　本殿	元禄4年	1691年	三方	開放	社伝	
望湖神社　本殿	元禄4年	1691年	一方	閉鎖	棟札	
大荒比古神社　本殿	17世紀後期		一方	閉鎖		
八木神社　本殿	17世紀後期		一方	閉鎖		
[illegible]神社　河内神社	17世紀後期		一方	閉鎖		
[illegible]神社　本殿	18世紀前半		×	閉鎖		
熊野神社　本殿	18世紀前期		一方	閉鎖		
日吉神社　本殿	元禄17年	1704年	全開放	開放	社蔵記録	
馬見岡綿向神社　本殿	宝永4年	1707年	三方	開放	擬宝珠銘	入母屋造
三所神社　本殿	宝永5年	1708年	三方	開放	棟札	切妻
阿志都弥神社　本殿	正徳3年	1713年	一方	閉鎖	擬宝珠銘	
岡中神社　本殿	享保2年	1717年	一方	閉鎖	棟札	
苗村神社　天神社	享保2年	1717年	一方	閉鎖	棟札	
大田神社　本殿	享保3年	1718年	一方	閉鎖	棟札	
河桁御河辺神社　本殿	享保10年	1725年	一方	閉鎖	擬宝珠銘	
苗村神社　二ノ宮	享保5年	1730年	一方	閉鎖	擬宝珠銘	
竹田神社　本殿	享保16年	1731年	三方	開放	棟札	入母屋造
日牟礼八幡宮　本殿	元文2年	1737年	×	閉鎖	棟札	
伊夫岐神社　本殿	元文3年	1738年	三方	開放	社蔵記録	
日吉神社　本殿	元文3年	1738年	全開放	開放	棟札	入母屋造
矢川神社　本殿	宝暦6年	1756年	三方	開放	飾金具銘	
八坂赤山神社　本殿	宝暦8年	1758年	一方	閉鎖	棟札	
篠田神社　本殿	安永6年	1777年	三方	開放	擬宝珠銘	
新宮神社　一ノ宮本殿	安永6年	1777年	三方	開放	矢川神社　文書	
[illegible]神社　本殿	寛政2年	1790年	一方	閉鎖	擬宝珠銘	
稲村神社　本殿	寛政5年	1793年	一方	閉鎖	棟札写	入母屋造
八幡神社　本殿	19世紀前期		全開放	開放		入母屋造
白山神社　本殿	文化9年	1812年	二方	閉鎖	擬宝珠銘	
阿自岐神社　本殿	文政2年	1819年	三方	開放	社蔵記録・棟札写	
日吉神社　本殿	文政9年	1826年	三方	開放	棟札	
五個神社　本殿	天保10年	1839年	一方	閉鎖	棟札	
愛知神社　本殿	弘化二年	1845年	三方	開放	擬宝珠銘	
豊満神社　本殿	万延元年	1860年	三方	開放	棟札	
日吉神社　本殿	慶応4年	1868年	×	閉鎖	棟札	
[illegible]神社　本殿	明治3年	1870年	×	閉鎖	擬宝珠銘	
[illegible]神社　本殿	明治5年	1872年	一方	閉鎖	擬宝珠銘	

※本殿の空欄は流造とする。

の前面閉鎖型の特徴を受け継いでいる。前室の前面は蔀戸であり、側面には板扉が併設され、母屋と繋虹梁と内法長押で繋がれている。斗栱は中世の前室閉鎖型初期の本殿と同じく庇・母屋共に舟肘木とする。また、同様に日吉大社境内にある早尾神社本殿とはほぼ細部まで等しい造りをしている。

矢川神社本殿

宝暦 6 年（1756）に創建された神社である。前室開放型の特徴を受け継いでおり、大型の三間社流造である。

前室の三方に格子戸を設け母屋を繋虹梁でつなぐ。繋

虹梁を海老虹梁ではなく水平の虹梁を使用し、側面の虹梁を二段に。木但馬の作品である。斗栱は庇・母屋共に中央平三斗組脇連三斗とする。

近世の前室付社殿

近世の社殿の分類をすると前室開放型が 16 棟（矢川神社本殿や日雲神社本殿など）、前室閉鎖型が 30 棟（早尾神社本殿、唐崎神社本殿など）あることがわかった。

近江地方の前室付社殿の分布

図 1 より、18 世紀に創建されたものが 22 棟と一番多い。19 世紀に 12 棟と二番目に多く、江戸時代後期に建造された。また、湖西の神社本殿は前面閉鎖型の本殿のみである。中世では閉鎖型と開放型の分布は明らかに分かれていたが近世においてその特徴は失われている。

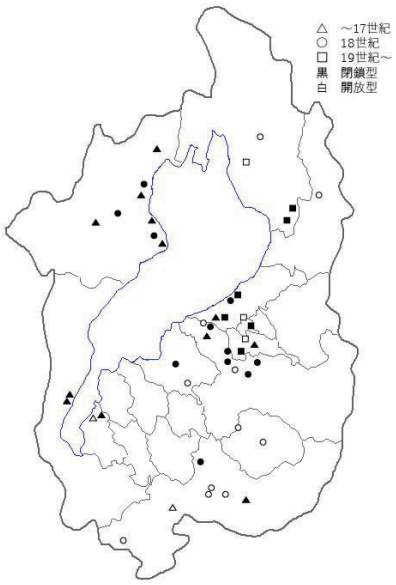


図 1 近世の前室付き社殿の分布

外観の変化

外観において大物忌神社本殿や矢川神社本殿など中世からの特徴をそのまま引き継いでいる社殿が多いが、異なる特徴の社殿がある。

唐崎神社本殿など前室閉鎖型の社殿で全面が板扉のものがある。これを「前室完全閉鎖型」とする。

前室開放型の特徴である母屋にある幣軸構えの扉が壁となる、前室開放型と閉鎖型の中間ともいえる特徴のある愛知神社がある。これを「前室中間型」とする。

また日吉神社のような前室と身舎を一空間と捉え、身舎三間、向拝一間とする社殿も現れる。これを「一体型」とする。以上のことから社殿形状の多様化が進んでいると考えられる。

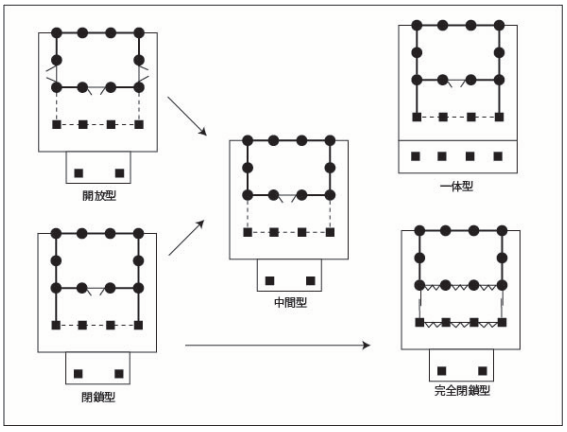


図 3　平面の変化

内陣の変化

中世では前室と身舎の間に板扉を設け、内陣と外陣を分けて分けていたが、近世では祭神を安置する身舎よりも神事を行う前室を広く取り使用されていたことから板扉を設ける場所が変化した社殿が現れる。したがって身舎の奥間に板扉や間仕切りを使用することとなる。

考察

今回の研究から少なくとも中世と形を継承しているが、近世に入るとその形は崩れ厳格に守られる訳ではなく、社殿は多様化するようになると筆者は考える。中世から近世に多くの神社が建てられたことで地域の特色や他の社殿形状が入り混じりその中で前室付き社殿が変化したのだろう。

棟札や歴史資料などを参照し大工の系譜などを調べ関連性を考察することは今後の課題とする。

参考文献

・「滋賀県の近世社寺建築近世社寺建築緊急調査報告書」,滋賀県教育委員会文化部文化財保護課,1986, 458p
・滋賀県神社誌編纂委員会,『滋賀県神社誌』,滋賀県神社庁,1987,689p
・大田博太郎,『日本建築史基礎資料集成二　社殿Ⅱ』,中央公論美術出版,1971,p35-37
・大上直樹,『中世近江地方の三間社流造本殿の平面形状について』,日本建築学会大会学術公演梗概集（関東）,1979,p.1919-1920
・小西佐枝,青柳憲昌,『滋賀県における前室付三間社流造本殿の外観意匠の特徴』,平成 29 年度日本建築学会近畿支部研究発表会,9024,p.589-592
・坂田泉,「前室付本殿の成立に関する一考察」,『日本建築学会計画系論文報告集,第 374 号』,1987,pp93-99

TUBOROJI

学籍番号　k19212
名　　前　石崎真生
指導教員　山内貴博

TUBOROJI

Student Number k19212
Name MaoIshizaki
Supervisor Takahiro Yamauti

1. はじめに

日本最古の庭園書『作庭記』では、自然の山水や国々の名所をモチーフとしている。作庭には築山・池・嶋・白砂平庭・遣水・滝の６つと、泉・前栽をプラスして作庭されるものが日本庭園と記している。これらの表現は今日に至るまで引き継がれており、庭園は平安時代では和歌ややまと絵のモチーフになるほど、日本の芸術と文学を形成する密接なものである。部屋と庭は常に一体はり日本の建物は柱・桁・梁で構造する関係から四周すべて開口部で壁体のないのが原則であり、屋内外を区切ることなく連続するため、部屋と庭は一体となって存在し、まるで絵を見るように屋内から庭を「坐って眺める」という観賞方法。一方壁に囲まれた部屋から外に出て「歩いて眺める」ヨーロッパ庭園には見られない観賞方法であり，また、同じ自然風景式庭園の枠内にある中国・韓国においても、これほど密接に屋内外の結び付いた関係の庭園は存在しない。しかし時代の担い手と共に移り変るたてや部屋と庭は常に一体であるという日本の特質から、変化する建屋と、ひとつの「ありよう」との間に「見せかた」が生まれる。

日本庭園らしさの起承は人々が持つ日本庭園のイメージと写真で見た庭園との間に差異があることによって生じる。つまり、日本庭園らしさの認識構造は違和感を抱く理由の構造と表裏一体と思われる。まず､違和感の認識軸として《自然物一人工物》《景観特徴一要素特徴》《明瞭一不明瞭》の３軸が見出され、これらは日本庭園らしさの認識するときの着目点を示す軸と考えられた。また、人工物による明瞭な境界部と自然物による曖昧な境界部との両者で違和感が生起していたことから境界部の素材や種類によって求められる明瞭さも異なることが明らかとなった。この結果は、「日本度の高い」景観では「丸みを帯びた剪定」が特徴である。つまり、日本庭園の認識に際しては、人工物や植栽、石材、流れと言った主要な要素が目につきやすく、その形態の伝統性や奥行き、隣接要素との納まりが重要であるが考えられる。一方で、色彩やテクスチャーなどの景観要素の周辺とのコントラストも着目され易く、その点の調和性にも留意が必要であることが考察された。

日本の庭園を国際化（最近の日本の庭園的な）した結果、具体的で原初的な思想は失われ、民俗的な伝承もかくれたり、消えたりししまった。誰の目にも見えやすい美しさ、英国風景庭園に通じるようななだらかさは、たしかに日本の庭園のひとつの面ではあるが、それ以外にも日本の文化には中国や東南アジアや、インドや中近東にもつながってゆくような空間が存在する。単純に伝統に帰るといって済むことでもない。「自文化」への過剰な思い込みは異なる問題が想定される。西欧的伝統のみが普遍的なものとして支持される時代でもないであろう。結局、人間であることを共通の支えとして、文化多元主義というようなものへ進むのがのぞましいと考察する。

2. 計画主旨

敷地は京都市左京区下鴨地域にある。下鴨地域は、地理的には賀茂川と高野川に挟まれた三角形状のエリアで南側に下鴨神社がある。近代の住宅地開発以前は近郊農業が行われた愛宕群下鴨村であり 1918（大正７）年に京都市上京区に編入し、後に上京区が分割され左京区に属する。年（昭和９年）には北大路通が整備されるとともに京都市電北大路線が高野まで開通して交通の便が良くなり、これを契機として住宅地の開発が進んだ。また、大正から昭和初期にかけて京都府立植物園、京都府立大学洛北高校、京都府立総合資料館、松竹京都撮影所（後に太秦へ移転）などが建てられ文教地区ともなっている。

実測した住まいの棟札は 1941（昭和 16）年 11 月吉日 建方、棟札の裏面は、施主 清水仁太郎、大工方 寺谷政次、手傳方 平井勝雄。内部は、家主が子供５人を育てる中で造作していった設えがそのまま残っており、当時の暮らしが感じられる。今回の計画では北側露地の一部をデザインした。入口は北側の前面道路からの一か所で、アプローチが露地になっており、露地を通って各住戸にアプローチする形となっているため、住宅１（図１参照）北東側の入口を考えた。

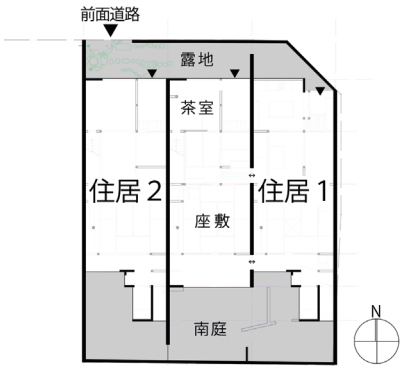
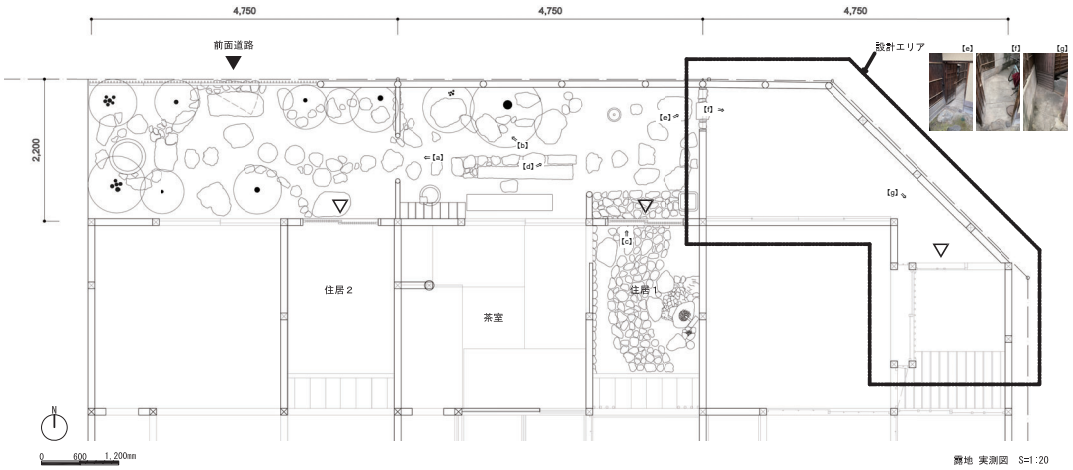


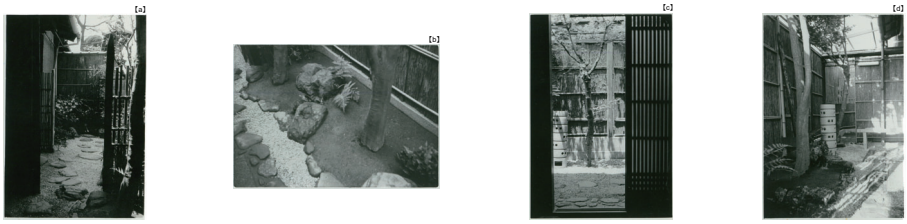
図１

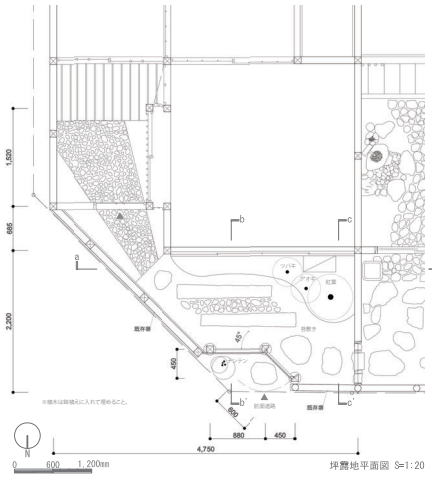


建物の現在の様子



露地 実測図　S=1:20

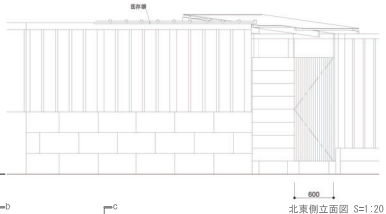




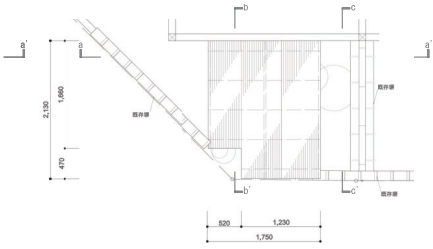
坪露地平面図　S=1:20



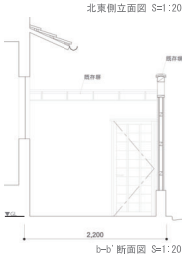
北東側



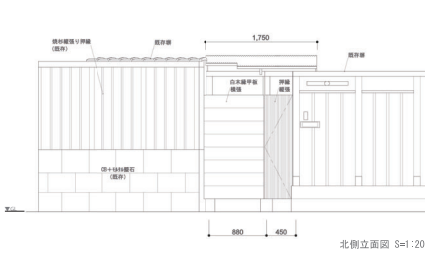
北東側立面図　S=1:20



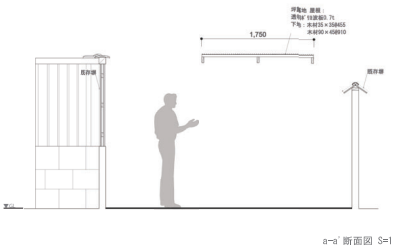
屋根伏図　S=1:20



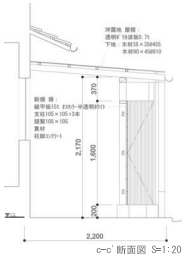
b–b' 断面図　S=1:20



北側立面図　S=1:20



a–a' 断面図　S=1:20



c–c' 断面図　S=1:20

所在地：京都府左京区下鴨地域
用途：住宅
建築面積：9.10 ㎡
キーワード：アプローチ・庭・日本文化
Location:simogamo,sakyo,Kyoto
Main Use:house
building area：9.10 ㎡
Keywords:approach,garden,Japanese culture

参考文献
稲次敏郎：「庭園と住居の《ありやう》と《見せかた・見えかた》」
山海堂　1990
G・カレン著、北原理緒訳：「都市の景観」 鹿島出版会　1975
清水泰博：「京都の空間意匠」 光文社新書　2009
稲次敏郎：「日本庭園入門」 INAX 出版　1996
佐藤昌：「外國仁の見たる庭園」『園芸学会雑誌』 1933
中村一、尾崎博正：「風景をつくる一現代の造園と伝統的日本庭園」
昭和堂　2001
<http://www.nodaigarden.jp/>
東京農業大学海外の日本庭園センター ホームページ，2019

Luminous Revenge

学籍番号　k19214
名　　前　一幡建太
指導教員　宮内智久

Luminous Revenge

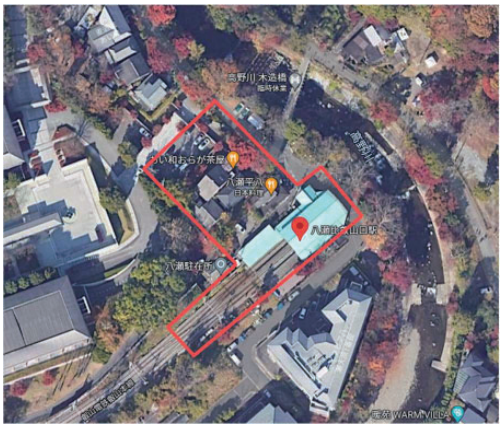
Student Number k19214
Name Kenta Ichihata
Supervisor Tomohisa Miyauchi

①背景

近年、遊園地と言えば USJ や東京ディズニーランドなど規模の大きく集客力も大きい場所ばかりが人々の意識に根付いている為あまり話題には上らないが、地域活性や集客を目的に作られた小さな遊園地は多い。しかし、今のネット社会においてはより目立つことをしなければまず目にも止まらない為、経営不振の末に廃園してしまう事が後を絶たない。

実際、京都にも過去に廃園となった遊園地があった。京阪出町柳から更に叡山電車に乗り継いで現八瀬比叡山口駅を最寄り駅とする「八瀬遊園」という名の遊園地だ。20 年経った今、その最寄り駅だけが名前を変えて使われ続けている。

そこで、この地にもう一度人を呼び込むアトラクション施設をつくろうと考えた。



②敷地調査

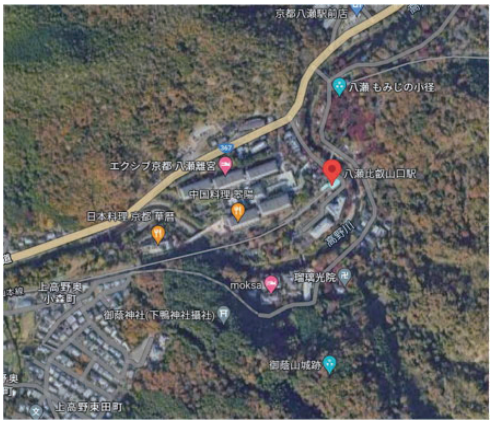
一概にアトラクション施設と言っても旧八瀬遊園の様なジェットコースターやお化け屋敷と言った一般的な遊具を作った所で人は呼び込めないだろう。そもそも以前の敷地はエクシブという高級ホテルがすでに建っている為、買収に多大なお金を投資するのも現実的でない。となると使用できそうな土地は現八瀬比叡山口の駅舎とその周囲の限られたスペースだ。

駅舎の横には清流の高野川が流れており夏には BBQ をやる人が多かったり、近所には瑠璃光院と呼ばれる観光地もあるので秋ごろの紅葉シーズンに利用客が格段に増える。そうした紅葉シーズン以外にも集客が見込める様にする他に現在の利用客になんの影響も与えないアトラクションを作らなければならない。

③コンセプト、プログラム

限られた要素で出来うることを考えた結果「電車そのものをアトラクションにしてしまおう」という計画だ。何も電車に乗ったままジェットコースターの様にアクロバティックな遊具を作るのではなく、あくまでも視覚的に楽しめる物だ。

近年プロジェクションマッピングや AR、VR、MR と言った最新世代の技術が頭角を現し始め、実際に限られたスペースで楽しむ施設などが後を絶たない。その技術を用いて電車に乗ったまま窓の外に広がるプロジェクションマッピングを見ることによって、あたかも異空間に居るような感覚を味わえるという物だ。諸々の設計などは後述するが今回この技術を利用する事は金銭面でもメリットが大きい。何故ならそもそも、構造に拘る必要が無い建築なので USJ や TDL の様な張りぼて建築で事が済む上、一度設備を整えると流す映像を差し替えるだけで如何様にも模様替えできるのだ。近年人気のアニメ等のコラボや季節もののイベントなどにも映像制作費だけで全て対応することが出来るので実際に遊園地を作るよりコストパフォーマンスが良いのが利点である。



④アトラクション施設を通した目標

１．人の集客　　２．叡山電車の終点という機能を喪失しない
３．叡山電車でやる理由

１．人の集客

前述したように近年爆発的に伸びてきている映像技術を使う事は人気が出やすい上に宣伝もしやすい。ネット社会の今の世の中では如何に PR するというのが最も重要な要素だろう。しかし、電車に乗ったまま最新のアトラクションを体験できるというのは目新しい上に視覚的な宣伝を行いやすい。新しい物見たさの人を集客できる上に人の集まるところには日本人は集まりやすい物だ。

ひとたびブームが去ったとしてもその時点では一定の認知度を得ていると思われる。そしてその時の為の施設である。映像を変えられるという事は常に新しい宣伝を世にＰＲすることが出来るのだ。人気アニメとコラボした暁には今までとは違った層の集客も見込めるだろう。そして、そのアニメとのコラボもこの叡山電車だからこそ実現しうる事だという事も目標３にて説明する。

２．叡山電車の終点という機能を喪失しない

観光シーズンだけだが利用客の多いこの駅の機能を喪失せずにアトラクション施設へと作り変えるのが今回の避けては通れない問題だ。そこでプラットフォームの位置は現八瀬比叡山口駅と同じ場所に設置し、乗客の乗り降りはそこで行う。そこで線路を新たに高野川に増設する橋まで延長し、線路を電車ごと覆うモニターを設置することで映像を楽しむという構図を想定している。

こうする事で通常の利用客とアトラクション利用客を分離させることが出来る。

所在地：〒601-1254 京都府京都市左京区八瀬野瀬町
主な用途：駅、イベント会場
キーワード：駅・ARVR・イベント
敷地面積：1864㎡
建築面積：1439㎡

Location : 5-26-20,Shiba,Minato-ku,Tokyo
Main Use : station
Keywords : station, ARVR, event venue

３．叡山電車でやる理由
　今までの説明であれば別に叡山電車で無ければならないわけでは無いので他の沿線でもいいのではないかと思われるだろうが、叡山電車であるのには理由がある。
　叡山電車の現状は高額運賃路線に名を連ねる程に運賃が高い、観光シーズン以外は通勤通学以外の客足がほぼゼロに等しいという京都特有の高額路線となっている。そしてこの電車は人を呼び寄せる為に 10 年以上前から継続的に漫画作品やアニメ作品とのコラボ電車を走らせており、それを見に来る客層もかなり多い。また今回の八瀬比叡山口駅には一両編成の電車しか通っていない事、電車の運行間隔が 15 分～20 分はあるのでアトラクションを行う余裕がある事からこそ今回の計画は叡山電車しかないと考える。

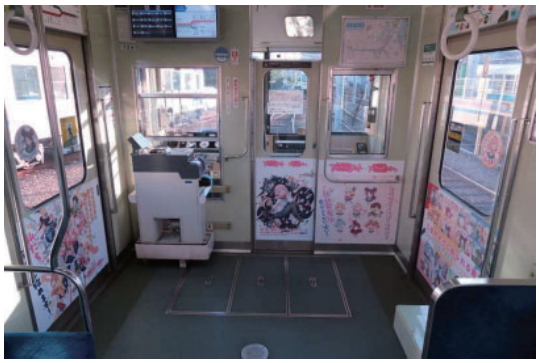


⑤まとめ
今回のアトラクション施設によって叡山電車並びに八瀬周辺の活性化につながる事を期待する。



周辺写真＋アニメコラボイベントの写真







京都市における高経年分譲マンションの管理実態に関する研究

学籍番号　K19215
名　　前　井筒望友
指導教員　生川教授

京都市　分譲マンション　高経年
管理実態　売出価格　中古流通

１．研究の背景と目的

全国の分譲マンションのストック状況として、その総数は約 680 万戸あり、国民の一割が選択している住居形態である。今後抱える問題として、管理組合の担い手不足や建物および建築設備の老朽化等、様々な課題が顕在化してきている。

京都市においてもマンションの高経年化が加速することが必至であり、適切な維持管理を行い、良質なストックとして次の世代に継承していくことが求められている。都市部（下京区，中京区）と、郊外(山科区，伏見区)において建設されたマンションの棟数の推移を比較すると、近年は都市部が郊外を大きく上回っており、同じ京都市内であっても、それぞれのエリア性によっておかれている状況が異なっている。そのために、一元的ではなく個々のマンションの状況に対応した適切かつ着実な対策が重要と考えている。

また、築 40 年以上となる（以下、高経年という）マンションの中古流通は進んでいない。これからはストックの時代である。既存マンションは住宅の大きな選択肢の一つになる。そのため、維持管理が行われている良質なマンションが流通市場において適切に評価される仕組みも必要と考えている。

本研究は、平成 23 年度以降に京都市が実施してきた分譲マンションに関する実態調査の結果を個々マンション毎に統合することにより、時点評価ではなく管理の在り方が建物の劣化状況に与える影響を考察し、個々のマンションの経年変化から分析を行うことで、今後高経年となる築 40 年未満 20 年以上の（以下、経年という）マンションの適切な管理のあり方に資する知見を得ることを目的とする。

２．研究方法

表 1 に示す、平成 23 年度以降に京都市が実施してきた分譲マンションに関する実態調査データ 5 つを統合し、2020 年時点で築 20 年以上となる計 1142 棟を対象に、築年数、総戸数、設備の有無（EV、オートロック、立体駐車場）、管理会社への委託の有無について分析を行い、京都市の高経年および経年マンションの現状を把握する。また、令和 2 年度外観調査結果による、建物の劣化状況に関する総合評価（A：問題なし B；経年相応 C：要修繕）と表 2 に示す建築的特徴および管理実態との関係性について考察する。

また、表 2 に示す建築的特徴の異なる管理状態の良好とされる高経年マンションを対象にヒアリング調査を行い、管理実態を詳細に把握する。物件毎の売出価格の推移からその要因についても考察を行う。

表 1 京都市による分譲マンション実態調査の一覧

京都市平成23年度マンション管理実態調査　（アンケート調査）
京都市令和元年度マンション管理実態調査　（外観調査）
京都市令和2年度マンション管理実態調査　（外観調査）
京都市令和2年度マンション管理実態調査　（アンケート調査）
京都市が管理する分譲マンション一覧

表 2 建築的特徴および管理実態の分類一覧

【建築的特徴】	【管理実態】	
・大規模（100戸以上）EV有	・自主管理	
・大規模（100戸以上）	・全部委託	
・中規模（50～99戸以上）EV有	・部分委託	以上3分類
・中規模（50～99戸以上）		
・中小規模（20～49戸以上）EV有		
・中小規模（20～49戸以上）		
・小規模（19戸以下）EV有		
・小規模（19戸以下）	以上8分類	

３．京都市の高経年および経年マンションの現状と特徴

表 1 に示す二つのアンケートの両方から回答が得られた 160 件を対象に、建物の劣化状況の改善に寄与する管理運営について 5 つの条件を設け比較分析を行った。その中で、大幅な改善が見られた事例を見てみると、全ての分譲マンションがほぼすべての項目において条件を満たしている。この結果からこれらのマンションは 10 年間で管理運営が適切に改善されたに起因すると考えられる。（表 3）次に、悪化が見られた事例を見てみると、10 年間で変化がなく放置されていることが分かる。経年劣化が想定以上に進行してしまったことが予想され、例え条件を満たしていても、現状維持だけでは適切な管理につながっていないことが推測される。（表 4）

４．管理が良好である高経年分譲マンションの管理実態

京都市内で管理が良好とされる高経年マンション 5 棟を対象に、ヒアリング調査を行い、マンションの価値が築年数ではなく、管理状況で評価されている事例を調査した。本稿では山科音羽マンションについて、管理状況を建築・組織・資金・コミュニティの 4 つの項目に分け整理した。（表 5）

表 3 建物の劣化状況が要修繕から大幅に改善が見られた事例

要修繕→問題なし	条件				
分譲マンションID	理事会の開催頻度	建物の維持管理はどのように実施していますか	長期修繕計画書はありますか	理事会等の役員会以外に専門の委員会を設けていますか	管理委託契約の内容を見直していますか
15	○	○	○	○	○
135	○	○	○	○	○
170	○	○	○	○	○
175	○	○	○	○	×

表 4 建物の劣化状況に悪化が見られた事例

経年相応→要修繕	条件				
分譲マンションID	理事会の開催頻度	建物の維持管理はどのように実施していますか	長期修繕計画書はありますか	理事会等の役員会以外に専門の委員会を設けていますか	管理委託契約の内容を見直していますか
80	○	×	×	×	×
93	×	×	×	×	×
292	○	○	○	×	○

表 5 山科音羽マンション管理実態（ヒアリング内容）

管理状況	
建築	概ね10年おきに大規模修繕を行っている。
	修繕は委員会を設けて担当している。建築に詳しい理事（業界ＯＢ）がいて、必要な時に組成する。
組織	3年任期（理事2年、監事1年の3年間）引継ぎができやすい。１年目が見習い、2年目が本番、3年目はサポート、という役割を持たせている。特に3年目の監事の1年は次の役員に仕事内容を教える重要な役割だと感じている。
	理事会は月に1回。総会には40人程度出席している。
	規約の改定も度々ある。組合ニュースで毎月1回、見直し状況等を報告している。
資金	管理費は7,300円程度で、1989年以来、約30以上変更していない。
	修繕積立金は12,000円程度で、2回目の大規模修繕以来値上げしていない。
コミュニティ	居住者は60代以上53%、20~59歳39%、20代未満8%
	バス停、地下鉄等の交通の便やスーパー、病院や介護施設が近くにあり、立地・環境が良いため入居者は高齢者が多い。

５．高経年マンションにおける管理状況が売出価格に与える影響

良質な高経年マンションの流通に資する仕組みのあり方について、実際の中古マンションの売買実績と建物の劣化状況に関する総合評価や管理実態との関係性に着目する。

まず全体的な傾向を把握するため、管理が良好な高経年マンションの売出価格（坪単価）と、年間約 30 万件の不動産の取引価格情報をもとに、全国・ブロック別・都市圏別等に不動産価格の動向を指数化した「不動産価格指数」を比較した。次に地域性や立地特性に配慮して、「公示価格（住宅地と商業地を区別）」と比較し、管理実態が売出価格に与える影響を考察した。葛野ハイツをみてみると、南区の公示価格（住宅地）の緩やかな上昇に合わせて上昇し続けていて、良質な管理が継続的に行われ、それが適切に売出価格に反映されていることが分かる。（図 1）また、四条高倉スカイハイツを見てみると、中京区の中でも公示価格（商業地）が急上昇している地域においても、その上昇率に比例して売出価格が上昇しており適切な管理が不動産評価に反映されているといえる。（図 2）

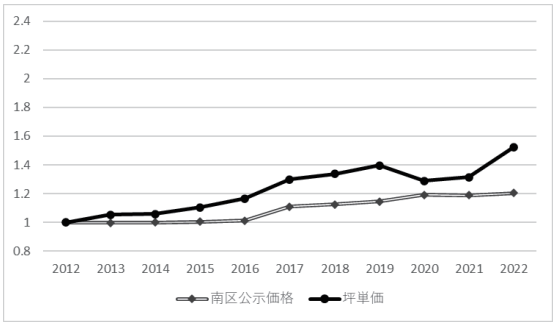


図 1 葛野ハイツの坪単価と南区公示価格

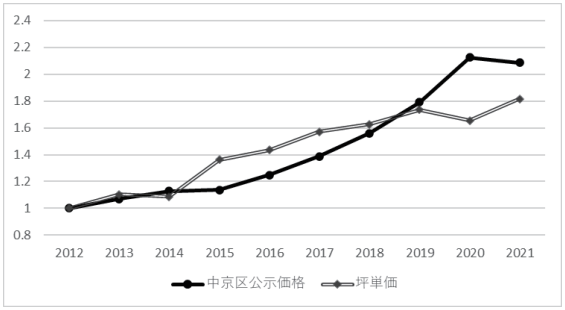


図 2 四条高倉スカイハイツの坪単価と中京区公示価格

６．まとめ

平成 23 年度から京都市が実施してきた分譲マンションに関する実態調査を個々のマンション毎に統合して分析した結果、管理の実態が建物の劣化状況に影響を与えていることが示唆された。また、高経年マンションの管理組合へのヒアリング調査により、個々のマンションで異なる課題を抱え、それぞれで工夫がなされていることが分かった。専門家またはマンション内の人材を活用しながら取り組みを継続していることが良好な管理に繋がり、不動産評価にも良い影響が生じていると推察された。

将来の京都市の良質な分譲マンションの流通の仕組みについては、管理の良いものだけではなく適切な管理が行われていないものにも着目し、2020 年に公布されたマンション管理適正化法改正の一環として開始された国土交通省の「管理計画認定制度」と関連付けながら検討したいと考えている。

【参考文献】
100 年マンションへの道すじ
宮城奈津子,小野尋子：沖縄県の高経年マンションの状況と管理実態に関する研究ー浦安市の高経年分譲マンションを対象としてー

霊雲院庫裏・小書院の耐震補強計画に関する研究
～伝統木造建築を後世へ伝え残すために～

大学名　京都美術工芸大学
名前　岩佐海里
指導教員　井上年和

耐震診断　耐震性能　限界耐力計算
振動解析モデル　補強計画　伝統木造建築

1.はじめに

大地震による被害は、木造建築の耐震性能を改めて見直すきっかけとなった。今日では、新たな耐震診断法が開発されており、耐震診断が身近になってきている。しかし、どの計算法にもデメリットがある。一計算法のみでは、建物の正確な挙動を把握できないと言わざるを得ない。

よって、本研究では、対象建築を3つの方法で計算・解析を行うことで、より正確で詳細な挙動を明らかにする。加えて、最適な補強案を策定することを目的とする。

2.対象建物について

対象建物は、妙心寺塔頭　霊雲院庫裏・小書院である。江戸時代中期に建立と考えられており、庫裏・小書院ともに、京都府指定文化財に登録されている。構造形式は、小書院は一重、西面切妻造、東面庫裏に接続、桟瓦葺。庫裏は一重、切妻造、妻入、西面庇付、南面本堂間廊下棟及び小玄関附属、桟瓦葺。小書院が庫裏に附属するような形となっている。

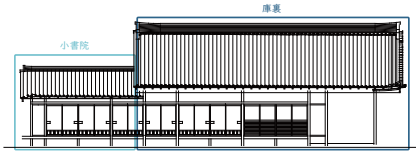


図 2.1 南立面図

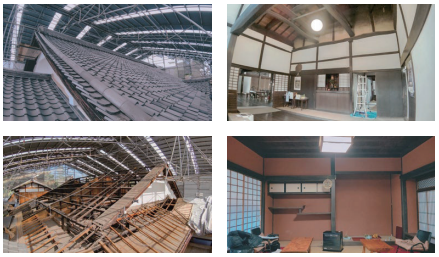


写真 2.1 実際の様子

3.耐震診断について

耐震診断とは、建物の現状の耐震性能を把握し、必要な耐震性能を有しているかどうかを判断することである。

診断には、判断基準が必要となる。その判断基準の目安となるものが、必要耐震性能である。必要耐震性能は、各建物に必要な耐震性能であり、建物の文化的価値や活用方法などに応じて設定する。

3-1. 必要耐震性能

必要耐震性能は、「重要文化財（建造物）耐震診断指針」において、「機能維持水準」、「安全確保水準」、「復旧可能水準」の 3 段階が設定されている。

対象建物は、内部や付近に人が立ち入るため、人的被害を出さないような耐震設計をする必要がある。よって、対象建物の必要耐震性能は、「安全確保水準」に設定する。

3-2 耐震性能目標

次に、判断基準となる「耐震性能目標」を設定する。診断には、限界耐力計算、偏心率、柱脚の滑り量、許容応力度計算を利用する。目標値は以下のように設定した。

表 3.1 耐震性能目標

項目	中地震動	大地震動
層間変形角	1/120rad 以下	1/20rad 以下
偏心率	0.15 以下	0.15 以下
柱脚の滑り量	－	20cm 以下
許容応力度計算	検定値以下	

層間変形角とは、地震力を受けた際の、高さに対する変形量を表したものである。値が大きいほど、変形量が大きく、危険なことを指す。限界耐力計算は層間変形角を診断の指標とする。

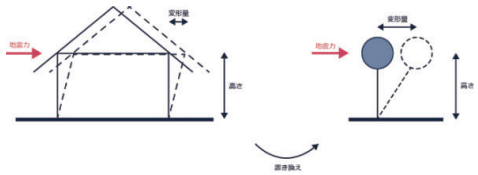


図 3.1 一質点系の考え方と層間変形角

4.耐震診断（現状）

計算の結果、層間変形角と許容応力度計算で NG となった。よって、補強が必要であると判断する。

表 4.1 診断結果

項目		中地震動		大地震動	
		梁間方向	桁行方向	梁間方向	桁行方向
層間変形角 (rad)	応答値	1/114	1/144	1/16	1/16
	目標値	≦1/120	≦1/120	≦1/20	≦1/20
	判定	NG	OK	NG	NG
偏心率	偏心率	0.117	0.067	0.133	0.130
	目標値	≦0.15	≦0.15	≦0.15	≦0.15
	判定	OK	OK	OK	OK
柱脚の滑り量 (cm)	滑り量	–	–	9.65	7.40
	目標値	–	–	≦20	≦20
	判定	–	–	OK	OK
許容応力度計算	判定	柱2本 NG			

5.振動解析

解析には、京都大学生存圏研究所が公開している、wallstat ver.517 を使用した。作成した3D 解析モデルに地震波を与えることで、変形量や倒壊過程を視覚的に確認することができる。

検討用入力地震波はデフォルト収録されていた「極稀地震」と「JMA 神戸」を使用した。

極稀地震による解析結果は、Y 方向つまり、梁間方向の方が弱いことを示した。JMA 神戸は、倒壊により、最大変形等の数値は参考にしない。

表 5.1 振動解析結果

	極稀地震X方向	極稀地震Y方向	JMA神戸（1.5倍）
最大変形 (mm)	X方向：103.7	X方向：11.7	–
	Y方向：11.4	Y方向：121.4	–
層間変形角 (rad)	X方向：1/67	X方向：1/591	–
	Y方向：1/607	Y方向：1/57	–

ここで、JMA 神戸入力時の「12秒」「16秒」を取り上げ、倒壊までの様子を追う。モデルの外観パースを左に、モデル上部からのパースを右に示す。

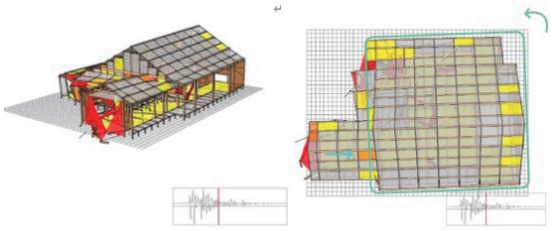


図 5.1 12 秒時のモデル

12秒→小書院（青）が庫裏（緑）を押し、反時計回りのねじれが見られる。

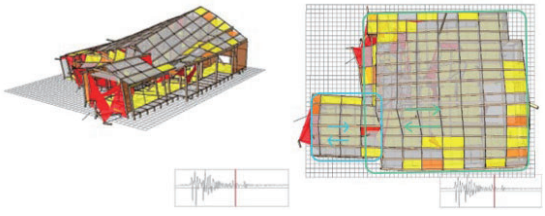


図 5.2 16 秒時のモデル

16 秒→小書院（青）と庫裏（緑）の揺れ方の違いによって、境界部に負荷がかかり、損傷が進む。

6.耐震補強

耐震補強の5原則のうち、「部材を傷めないこと」と「可逆的であること」に重きを置いた。補強方針は、以下の3つとする。

① 葺き土をなくし、屋根重量を減らす。
② 仕口ダンパーを設置し、変形を抑える。
③ 挟み梁を設置し、変形を抑える。

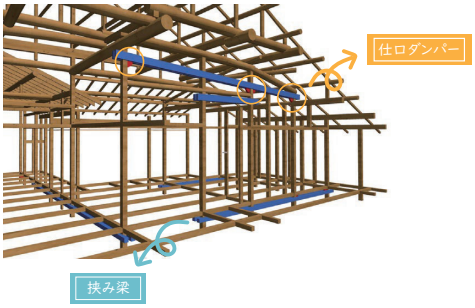


図 6.1 アーキ CAD 軸組模型

7.補強後の耐震診断

計算の結果、すべての項目において目標を満足した。

表 7.1 診断結果

項目		中地震動		大地震動	
		梁間方向	桁行方向	梁間方向	桁行方向
層間変形角 (rad)	応答値	1/186	1/208	1/22	1/23
	目標値	≦1/120	≦1/120	≦1/20	≦1/20
	判定	OK	OK	OK	OK
偏心率	偏心率	0.088	0.017	0.097	0.023
	目標値	≦0.15	≦0.15	≦0.15	≦0.15
	判定	OK	OK	OK	OK
柱脚の滑り量 (cm)	滑り量	–	–	4.74	4.47
	目標値	–	–	≦20	≦20
	判定	–	–	OK	OK
許容応力度計算	判定	OK			

8.まとめ

本研究は、計算法のデメリットを補うために、限界耐力計算を含む地震応答計算、許容応力度計算、振動解析の3つの方法で、構造特性の正確な把握を目指した。結果、それぞれに情報を得ることができ、計算法のデメリットを補うことができた。

この論文を参考にして頂く方には、診断法を臨機応変に使用し、さらに安全な補強案を目指す際には、補強後の振動解析まで行って欲しい。より多くの建物が、よりよい形で後世に伝えられることを望む。

9.参考文献

文化庁文化財部『重要文化財（建造物）基礎診断実施要領』、2012 改正
文化庁文化財部『重要文化財（建造物）耐震診断・耐震補強の手引き』、2013
木造軸組構法建物の耐震設計マニュアル編集委員会『伝統構法を生かす木造耐震設計マニュアル 限界耐力計算による耐震設計・耐震補強設計法』、学芸出版、2004
伝統的構法木造建築物設計マニュアル編集委員会『伝統的構法のための木造耐震設計法 石場建てを含む木造建築物の耐震設計・耐震補強マニュアル』、学芸出版社、2019

商学校

-私にとってのネイバーフッド-

K19217
岩永　凪斗
安田ゼミ

A place of learning in the shopping district

K19217
Nagito Iwanaga

まちづくり　地域コミュニティ　アーケード商店街
生涯学習　　居場所　　ネイバーフッドデザイン



制作背景

着目した社会問題としては地域コミュニティの希薄化である。ライフスタイルや価値観の多様化、単身世帯の増加を背景として、そのうえに新型コロナ感染拡大が重なり、日常的な地域住民同士の触れ合う機会が減少した。その結果繋がりが希薄化し、孤独・孤立化が一層進むことが危惧されている。地域コミュニティの具体的な機能として挙げられるのが、

- 「**親睦機能**」
  住民同士の交流を促進する機能
- 「**地域環境維持機能**」
  地域資源を維持する機能
- 「**行政補完機能**」
  NPO などの連携及び、地域の代表としての機能
- 「**地域課題解決機能**」
  個人や家庭、地域が直面する課題について自らが発見・把握・共有・解決する機能
- 「**地域自治機能**」
  行政と共に地域で公共を担う機能

こうした機能が地域から失われないために、地域住民などの身近な存在が自分たちのまちを主体的によくしていこうという思いやその仕組みを作っていくことが重要だと考える。

希薄化した地域コミュニティを回復する手段としてまず初めに「共創」というキーワードを目にした。共創とは、社会課題の解決を目指し、多様なステークホルダーが自分たちの領域を互いに一歩踏み出して、知を組み合わせることで、新たな価値を創出することである。その共創をデザインする足掛かり的手法としてネイバーフッドデザインに着目した。ネイバーフッドとは「近所」という意味をもつ言葉である。ネイバーフッドデザインとは「同じまちに住む人々が、いざというとき助け合える関係性をつくること」。その関係性が、都市における地域課題、ひいては社会環境問題の解決に繋がってゆくことを根幹の理念とするもの。

ネイバーフッドデザインが人・まちに与える 4 つの価値として「まちに賑わいが生まれる」「景観・施設の保全」「趣味・学びの充実」「困りごとや課題の解決」がある。これらの価値を建築を通して、まちに反映できないかと考えた。

計画敷地

人々の関係性を築くためには、継続的に通うような場が必要ではないかと考えた。それも特定の人を対象とするのではなく、誰もが関わることができ、気軽に足を運べるような場所。そこで商店街という地域住民にとっての日常の場であり、既存の地域コミュニティが存在する場を基盤に新たな関係性が築ける空間を造ろうと考えた。

目的

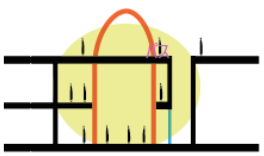
継続的に関われる施設として、武蔵野プレイスを事例とした「知的交流拠点」を計画しようと考えた。施設名を「商学校」とすることで施設へ親しみを感じたり、地域との距離が近くなることを願う。「消費」を軸にした機能を持つ商店街に「学び」という軸を持った施設を計画することで、商店街に通う、商学校に通うというように、誰もが「通う」を行える場所になり、地域に根付いた建築になるのではないかと思う。

提案

既存の商店街を残し、周辺や地下に学びを主とした交流施設（図書館）を設計する。またネイバーフッドデザインを自分なりに解釈し計画に取り入れる。地域の人が魅力を創り出すスペースを設け、関わり代をできるだけ増すことを考えた。具体的な内容として一つの例を挙げると、ZINEのような自費出版物を展示できる本棚を既存の納屋町商店街内の通路脇に設ける。自費出版物を通して、顔の見えない地域の人の人柄、感性、好みなどに触れ「その人」を感じる。さらに、自分の作品が「そこ」にあることで場に愛着が生まれ、場と関係性が生まれる。地域の人との距離が近く感じたり、自分自身の想いがその場に強く残ることでその人にとってのネイバーフッドな場になっていくと考える。

設計

空間コンセプト：アーケードで構成する空間



アーケードの存在により、個人商店が共同体としての一体感が生まれている。その効果をこの場を訪れる人にも付与できないかと考えた。中心に大きな動線空間があり、その両脇に滞留空間がある。そうした空間では必然的に多くの人が大通りを歩くことになる。たくさんの人の活動が見え、気配を感じ、交流のきっかけが生まれる空間になるのではないか。また、既存のアーケード商店街と新設する建築物が馴染むようにアーケードを共通のデザインコードとして

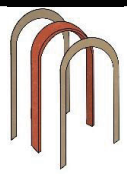
所在地：京都府京都市伏見区納屋町
主な用途：図書館
敷地面積：35,200m²
建築面積：4,088.5m²
構造：S 造、RC 造
設計している。

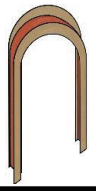
Location : Nayamati,husimi-ku,kyoto
Main Use : Library
Site Area : 32,500 m²
Building Floor Area : 4, 088. 5 m²



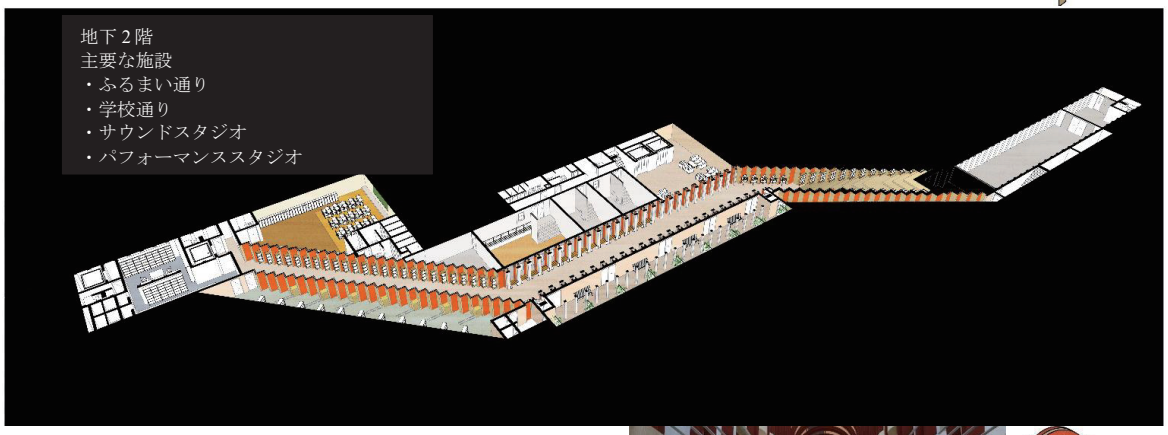
・ギャラリー通り：まちの人々が趣味で制作した制作物を展示する。また、自治体や活動団体などの活動の様子を地域の人に見てもらう場所でもある。
・告板通り：訪れた人が叶えたいことや楽しかった思い出、最近の不満などを大きな黒板に自由に書き込める。それらの告白から何か企画を行ったりするきっかけが生まれるかもしれない。
・デザイン会社：仕組みや空気を創り出すことを目的としたクリエイティブチーム。全員が個人事業主という形態で、企業人、主婦、シニアなど誰でも関われる組織。企業や組織の課題解決型クリエイティブを主軸に、地域の課題解決・価値創造のためのプロジェクトをおこなっている。
・教室スペース：昔を懐かしむ空間。自由な使い方ができる。デザイン会社が定期的に講義を開講していて、月額料金を払えば、専門スキルを学ぶことができる。



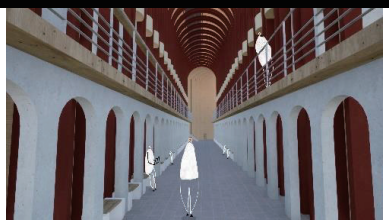


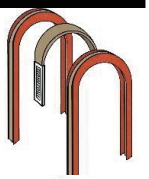


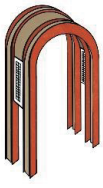
・大階段通り
一直線のアーケードにするのではなく、ジグザグ部分を設けることで、立面的にも、内部の空間も単調にならないようにした。両サイドに窓を設け、ただの壁にならず一つひとつが建物を構成するものだと感じさせる。



・学校通り：体育館の舞台の引き出しを思わせるような、引き出す本棚がある。また、地域の人が本棚の一つの枠の中を期限付きで借り、その人のおすすめ本を紹介できる本棚もある。
・ふるまい通り：個の建物のメイン通り。道の両脇に読書する人、勉強する人、休憩する人、ダンスをする人、音楽を楽しむ人など様々な人々のふるまいを感じることができる。個室スペースや教室などの部屋があるので、ここでは静かにしないといけないという制約は設けない。あくまで通りなので、人々の賑やかさが感じられる方がいいかもしれない。







・ふるまい通り
紅色をアーケードに使い、伏見らしさを感じさせるデザインとした。その際、外観としては紅色が控えめになり、内観では主役になるよう構造を工夫した

日常の風景のその先に

学籍番号　K19218
名　　前　上田 悠翔
指導教員　安田 光男

はじめに

生死一如」という仏教の言葉がある。生と死は表裏一体であり。“生と死“を分け、“死“を遠ざけると“生“が薄まるという意味合いを持つ言葉である。この言葉のように本来、“死“というものは人々の日常の延長線上に存在していた。しかし、近代化と共に“死“は日常から隔離されていき、社会を構成する人々の多くは他者の“死“に接する機会はほとんど無くなった。その結果、死者は居場所を与えてもらえず。死者や遺族のための空間というのは軽んじられ、重要性を失われつつある。こうして生まれた既存の葬祭場の多くは遺族、さらには死者に対して寄り添うことのできる空間ではないというのが現状である

現代の葬送儀式と街の乖離

１.多死社会と NIMBY

世界的な人口の増加が叫ばれ世界人口が８０億人に近づいている現代だが、日本では人口の２９％が６５歳以上の高齢者の「超高齢社会」を迎えるなど人口の減少が続いている。日本の死亡者数自体は人口増加に伴い継続的に増加していたが、平均寿命の伸びるスピードは高齢者の加齢よりも遅く、今後さらに死亡者数は増加し「多死社会」が訪れるとされている。そのため、今後の火葬需要は高まることは当然のことであるが、NIMBY“not in my backyard.“(必要性は理解できるが、近所にはあってほしくない）という問題点などから、増設などの計画が簡単に行えないという問題点がある。このことから将来、火葬需要に対して斎場が不足する可能性がある。また、斎場の不足に合わせて近年では老朽化した小規模の斎場を大規模の斎場に統合し、大規模の斎場の炉数を増やす傾向がみられつつある。これらのことから将来、斎場が効率を重視する必要性が高まり、斎場が遺体処理場化する可能性が危惧されている。

2.地域性の希薄化

新型コロナウィルスの流行も相まって、地域での交流や近隣住民との付き合いというのは、昔に比べ減少傾向にある。さらに、都市から死を遠ざけるという現代の風潮は他人に対して死やその悲しみを隠さなければならないといった考えを遺族に与え、残された遺族は悲しみを打ち明ける相手を見つけられず、孤独に苛まれる可能性がある。

3.葬送感の変化

近年では、持ち家の減少・マンション率の増加、上記の近隣住民との関係性の希薄化に関係し、故人を家に連れて帰る通夜は、時間を短縮する半通夜や、通夜や葬祭自体を行わない直葬が増加しつつあり、葬祭という行為は作業のような意味に形骸化しつつある。

影響

遺族のための空間を考える際の準拠としてグリーフワークというものがある。グリーフ（悲嘆）とは自分にとって大切な何かを失うことで訪れる自然的な反応である、悲嘆・苦悩を表すことばである。グリーフワークとはそういった喪失の苦悩を精神的・行動的・社会的に変化しその後の人生に取り入れ適応していくことを指す。いうなれば「死別への適応作業」ということである。その点において、葬儀といった儀式はグリーフワークとして最も重要な作業といえる。しかし、作業といえ葬儀をただ済ますだけではグリーフワークとは言えない。まず、葬儀や法事といった儀式では生者と故人 2 つの交流が行われる。その交流を通じて遺族は「区切り・別れとしての必要性」と「故人及び周囲への感謝」を感じることとなる。この「故人及び周囲への感謝」は遺族が死別後の世界へと適応していく大きな助けとなる。しかし、見知らぬ土地にある効率重視の斎場での葬儀、地域性が希薄化し周囲からのサポートの知覚の減少。通夜や法事を通じて得るはずであった、死との向き合いや死別の実感を得るための時間の減少。これらの影響は遺族のグリーフワークやその後の生活に深く影響を与えると考えられる。

コンセプト

グリーフワークに明確に決まった行動というものはなく、すべての日常生活がグリーフワークに繋がる可能性を持つ。遺族は日常生活を送りつつ、新しい生活・感情・習慣を模索する。しかし、仕方がないからといって喪失によって変わってしまった世界を受け入れるのではなく、故人との新しい心のつながり。変わってしまった世界の中で故人のことを忘れずに新しい絆を持って生きていくことが重要である。日本の主要な死生観の一つに「亡くなった人はあの世という異なる世界から私たちを見守っている」というものがある。これらのことから本計画では**「故人を風景の中に感じることができる」**をコンセプトに葬祭場を設計する。

ポイント

ポイントは大きく２つある。**１.**故人の視点のイメージを想起できる場の創造。**２.** 街から故人の存在を感じることができるようにすること。まず 1 つ目だが、本来葬送空間とは囲繞空間となることが基本である。しかし、囲繞空間は封鎖的となり、街と葬祭場・故人が関係性を持つことは難しい。これらを解決すべく山頂部分に火葬場を設け、炉前ホールから街を見渡せるようにすることで街と故人のつながりの場を創り、故人が街を見守っていると想起する際の視点をイメージできる場とする。次に、街から故人の存在を感じること

Beyond the everyday landscape.

Student Number　K19218
Name　Haruto Ueda
Supervisor Teruo Yasuda

所在地：〒651-1102
兵庫県神戸市北区山田町下谷上中一里山６−３１７
主な用途：斎場
敷地面積：5,0000 ㎡
建築面積：2,816 ㎡
延床面積：3,464 ㎡
キーワード：葬祭場 生と死 風景

Location : 317,Satoyama6,Yamada,Kitaku,Koubesi,Hyougo
Main Use : Funeral Hall
Site Area : 50000 m^2
Building Floor Area : 2,816m^2
Total Floor Area : 3,464m^2
Keywords : Funeral Hall., Life and Death, Scenery.

ができるようにする。は街の風景として存在している山そのものを葬送空間とすることで、山そのものを故人への祈りの対象とし、実際の距離は遠くとも、風景の中で故人とのつながりを感じさせることができ、日常生活の中で遺族が故人との新しい繋がりやレジリエンスを持つ一助となるよう計画することである。

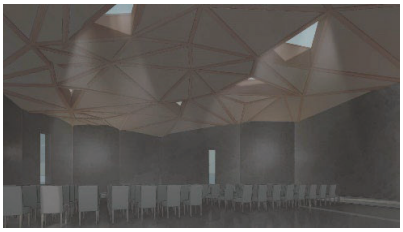
設計

分棟式の建物を敷地内に 5 個（エントランス事務棟・休憩棟・礼拝堂・火葬場・納骨堂）施設を設計。それぞれが適度に距離を持ちつつ関係性を持つように計画。また、建物が山の一部となっていて建物に入ることで山の内部に入りこむような感情を与えるよう、各建物を計画した。

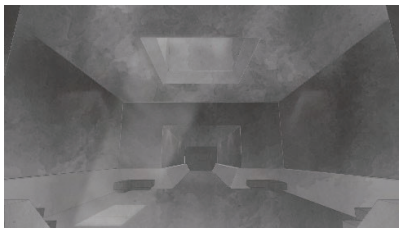
1. 礼拝堂前外構計画では、山の傾斜に合わせた階段を設け視界を礼拝堂及び上空へと向かうように計画し少し緊張感を持たせる作りとした。
2. 礼拝堂は岩のような外形で設計。屋根を木造とランダムなトップライトを設け森の木漏れ日のような光の入り方を意識。また、建物の周囲に水盤を設け、の壁下部に開口を設けることで床付近の開口から水盤に反射した光が礼拝堂の内部に差し込むように計画し岩のような建物内部に木漏れ日と水の揺らぎという自然を感じさせるよう計画。
3. 礼拝堂→火葬場のトンネル計画では、礼拝堂→トンネル→火葬場の移動に合わせ徐々に光が増え明るい空間となるように計画。徐々に故人との別れや区切りによる心情の変化を表現。
4. 礼拝堂→火葬場へのトンネル部分から火葬場へと昇ってすぐ右側に設けた街の方角に向いた大きい開口部から街を見ることができるように計画し、街の風景を強く印象付けることを意識した。
5. 火葬場の炉前ホールは街を見渡せるよう街側に開口を大きく設け、故人が自分たちを見守っていることを想像する際にここからの景色がフラッシュバックするように意識した。また、山側にもハイサイドライトを設けることで山の下側と上側の流れを建物が遮らないように計画。故人との最後の別れを行うお別れ室は山側の地下に計画し山で弔うということを強く意識させるよう計画した。
6. 納骨堂は木々に囲まれた森の一部に設計。木々に囲まれた豊かな環境は故人がいる世界は豊かで美しい場所であるという意識を訪れた人に与える。また、故人はもちろん森や山といった自然に祈りをささげる場となるよう計画した。



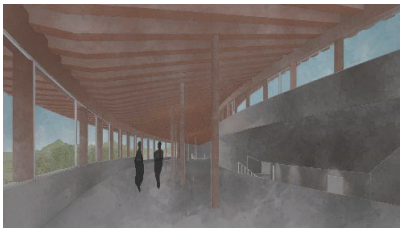
1.　礼拝堂前外構



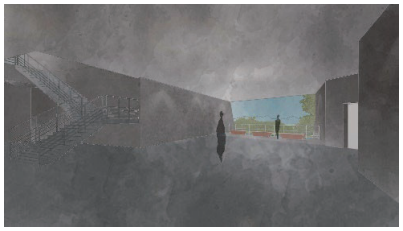
2.　礼拝堂内部



3.　礼拝堂⇔火葬場トンネル内部



4.　火葬場炉前ホール



5.　火葬場地下



6.　納骨堂外構

廃墟の転換から北山杉を後世につなぐ

Passing on Kitayama cedar to future generations from the conversion of ruins

学籍番号　k19219
名　　前　上村一世
指導教員　根來宏典

Student Number　k19219
Name　UEMURA　Issei
Supervisor　NEGORO　Hironori

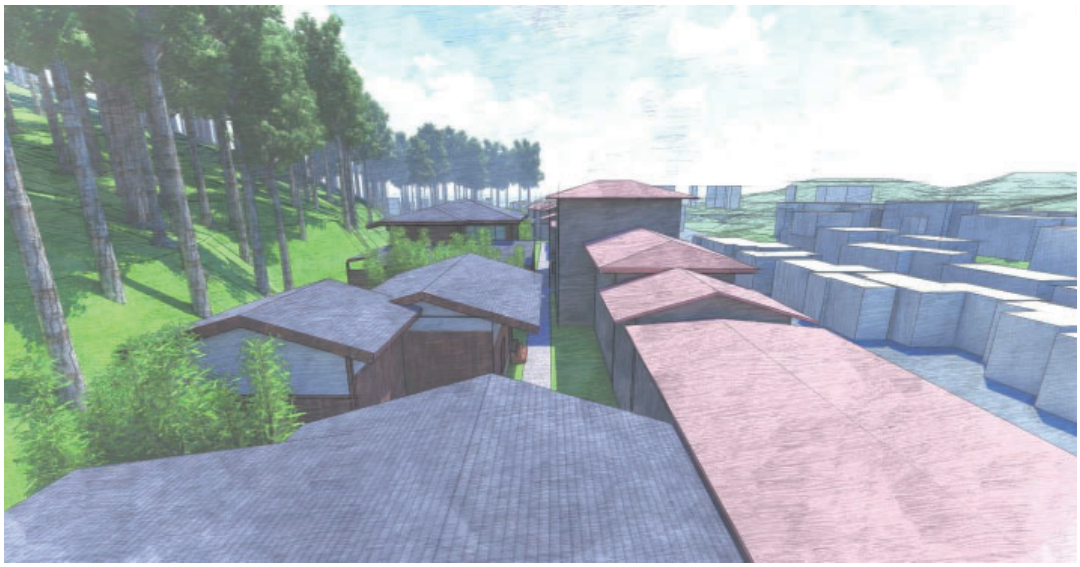


図１　全体パース

1、計画背景

近年、林業の衰退が社会問題の一つとして挙げられる。少子高齢化やコロナ禍の影響による価格高騰や後継者不足により林業衰退は促進してきている。林業衰退によって、日本建築の特徴である木造建築の素材である国産の木材が活用されなくなったり、林業を生業としてきた街が衰退したり、数多くの問題が発生している。そこで、国産木材の魅力を林業の街全体で伝える必要があると考える。

2、対象敷地

京都府京都市北区中川北山町は中心に清滝川が流れ、ベンガラ塗りの民家や丸太乾燥庫の古い建築が山の斜面に立ち並ぶ 100 世帯ほどの集落である。北山杉の枝打ち等を行う職人や丸太製造の地元業者が多く、周囲にも北山杉が立ち並ぶ林業を生業として発展した街である。しかし、現在は磨き丸太の加工・乾燥・保管を目的として建てられた木造倉庫群が、生産量の増大や加工の機械化による騒音によって集落外に移転・新設されたことで廃墟化が進んでいることや、周囲に立ち並ぶ北山杉の活用が減少傾向にあることから衰退してきている。そこで、廃墟化が進む木造倉庫群を転換し、北山杉の魅力を伝える施設を提案する。

3、計画概要

廃墟の転換にあたって様々な事例がある。廃墟となった炭鉱施設を観光スポットにした軍艦島や、廃止された銅の精錬所を美術館として再生している。廃墟を解体するのではなく活用することは、昔の人々が歩んだ歴史を体験でき、地域再生の一環にもなる。そこで廃墟化が進む木造倉庫群の大部分は残し、1 棟を受付・カフェ・ショップとしてリノベーションをする。また、廃墟の景観を利用するために小道を挟み、1 棟の温泉施設と 4　棟の客室を計画し、その窓から見える北山杉の景色を活用し、設計する。本計画は廃墟をプラスのイメージに変えるだけでなく、多くの人々に北山杉の魅力を認知してもらい、普及させ、北山杉を後世に残していくことを目的としている。またこのことを通じて、国産木材の林業再生をしていくことも目的としている。

所在地：京都府京都市北区中川北山町
主な用途：カフェ・ショップ・温泉旅館
敷地面積：1705.62 ㎡
建築面積：522.33 ㎡
延床面積：809.55 ㎡
キーワード：リノベーション、温泉旅館

Location : Nakagawa Kitayama Kita Ward Kyoto City Kyoto Prefecture
Main Use : Café、Shop、Hot spring inn
Site Area : 1705.62 m^2
Building Floor Area : 522.33 m^2
Total Floor Area : 809.33 m^2
Keywords : Renovation、Hot spring inn

４、設計

４－１

受付・カフェ・ショップ

木造倉庫群の１棟をリノベーションし、旅館の利用客やカフェに立ち寄る観光客に、中川集落の歴史や記憶を感じてもらうための受付・カフェ・ショップを計画する。リノベーションは正面の壁はガラス張りに張り替え、木造倉庫群の構造を見えやすくしていき、増築などはせずに昔のままの姿で残す。



図２　受付・カフェ・ショップ外観パース

４－２

温泉旅館

温泉施設１棟、客室４棟を設計する。橋を渡り、木造倉庫群の景観を抜けた先に温泉旅館を配置することで車の音や人の声から遠ざけることができる。そうすることで落ち着きながらゆっくりと一日を通して北山杉が生み出す独特な雰囲気を体感してもらうことができる。温泉施設と客室にも北山杉を建築材料として活用し、SNS などで木材の美しさを発信してもらうことを期待している。また、客室は雁行型としており、通風・採光を良くして各室から北山杉を眺められるようにしている。



図３　温泉施設外観パース



図４　露天風呂パース

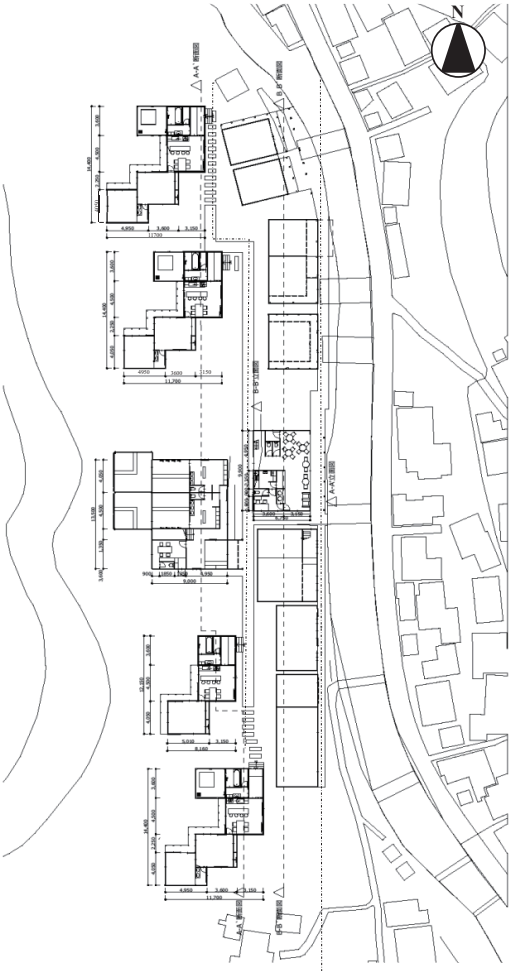


図５　１階平面図兼配置図　　S＝1/200

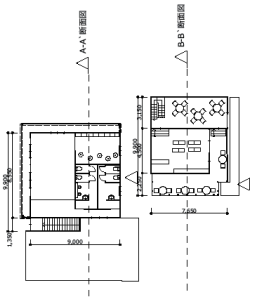


図６　２階平面図　　S＝1/200

支えが紡ぐ未来～光で包む～

学籍番号 K19221
名　　前植本　涼佑
指導教員人見　将敏

The future spun by support~wrap in light~

Student Number K19221
Name Ryosuke Uemoto
Supervisor Masahiro Hitomi

1. 背景・目的

私は幼いころから母子家庭で育ち、生活の貧しさや母親の負担や苦しみを感じながら育った。この経験から、母子家庭の苦しみや辛さを多くの人に知ってもらいみんなで手を取り合うことで弱い立場である母子家庭の人たちの居場所を作りたいと考える。

この製作では、母子家庭の方たちを中心に様々な方々に足を運んでもらい、母子家庭の話題を拡散することで、全国に母子家庭をサポートする窓口や広場を増加させることが目的である。この広場では、時間とお金に余裕がない母子家庭の方を中心に支援窓口やリラックス空間を設けることなどにより、日ごろの辛さや苦しみを和らげるサポートを行うことを考える。

2. 母子家庭の問題について

日本全国の世帯数は約 4885 万世帯数（2020 年）存在する。その中で、全国の母子家庭の総数は 64 万 809 世帯数（2020 年）であり、大阪府の母子家庭の世帯数は 4 万 8 千 627 世帯数（2020 年）であり全国で 2 番目に高い数値である。

下図①の「シングルマザーを生き抜く 15 のノウハウ」より母子家庭出身者の傾向やデータについて記載されていた。　　。

・若年犯罪者は母子家庭出身者が多い傾向にある。

・家出の可能性が多い傾向にある。・資格を得られない確率が一般の家庭の子供に比べて 2 倍

・失業の可能性が一般家庭の子供に比べて 2 倍・日本の離婚率は世界的に 26 位

上記より母子家庭にはマイナスと受け取れる面が多数存在する。



図①　著書：ふじえりこ　出版：合同出版　出版年：2012. 6

2-1. 私の体験談

・母親はプライベートの時間がかなり少ない・外出の機会はほとんどなくお金にも余裕がないためほとんどが自炊

・会社の飲み会などに出席できないため、コミュニティが少なく　頼れる仲間や居場所がなくなっていく　etc

2-2. 寝屋川市と高槻市の比較

・寝屋川市の北側に位置する高槻市、この市は大阪府の中でも子供支援に手厚い町である。今回は高槻市を例に寝屋川市と比較してみる。

・高槻市；子育て支援が手厚い市であり、高槻市ひとり親福祉会が存在し、実際に対面で助けてくれる。そして、一時預り所の規模が大きい。さらに、母子家庭限定で淡路島日帰りバスツアーを行っている。お金はかかるが 3000 円程度。高槻市子供未来館などの子育て支援に特化した施設がある。

3. 敷地について

敷地は「大阪府寝屋川市池田西町 24-5」ある、池の里市民交流センターの空き地である。当敷地は、寝屋川市における市民の文化・スポーツ活動の振興を図る為、市民への社会教育活動の場として、体育施設、文化材料施設、多目的室を提供する複合施設である。

当敷地は元々池の里小学校としての用途があったが、2005 年寝屋川市の方針により廃校となった。

3-2・計画敷地の選定理由

1 グラウンドの用途がない

昔は少年野球チームや少年サッカーチームの練習の場として使われていたが、最近では少子化の影響もありチーム自体が減ってしまことでグラウンドの用途が無くなってしまった。そこで広場を設計することによりグラウンドに用途を持たせ、昔の賑やかさを取り戻したいと考える。

所在地：大阪府寝屋川市池田西町 24-5
主な用途：複合施設
敷地面積：9740 ㎡
建築面積：1536 ㎡
延床面積：3972 ㎡
キーワード：母子家庭　子供　支援支給

Location : 24-5 Ikeda nisimati　Osaka
Main Use : Complex
Site Area : 9740 ㎡
Building Floor Area : 1536 ㎡
Total Floor Area : 3972 ㎡
Keywords : Fatherless family. Children. Support payment.

2 計画敷地周辺には学校・住宅が多い

池田小学校・桜小学校・西小学校・第 2 中学校が計画敷地から約 2km 圏内に所在する。よって計画敷地は周辺には子育てをしている家庭が多く足を運んでくれると考える。

4. 施設計画

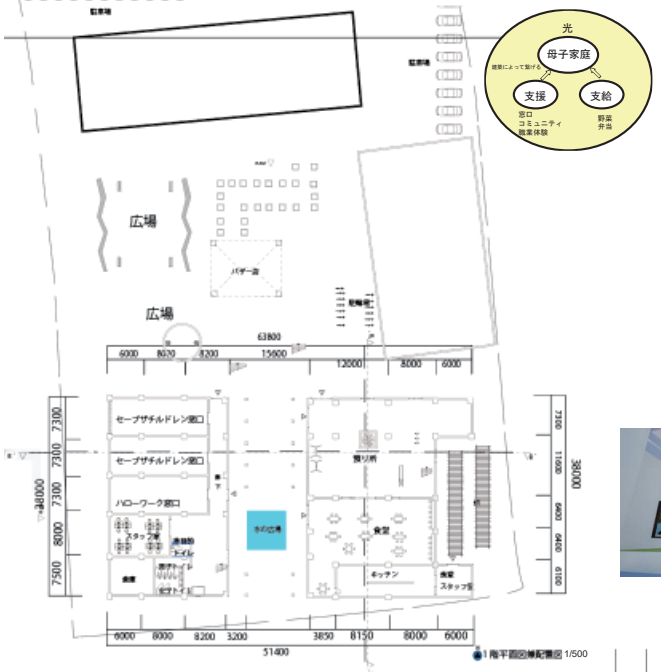
・母子家庭への支援を行うことが出来る窓口：セーブザチルドレンやＩＮＧの配置※セーブザチルドレン；子供の権利保護の前線にいる組織。子供の権利の保護を目標としている。※ＩＮＧプロジェクト；新型コロナウイルス感染症拡大の影響で生活が苦しくなったひとり親家庭にメッセージ付きの弁当を毎週月曜から土曜まで無償で配達しているボランティア組織。・畑を通して母子家庭への食糧供給畑から取れる野菜などを持ち帰ってもらう。遠回しに金銭面の支援が行えると考える。

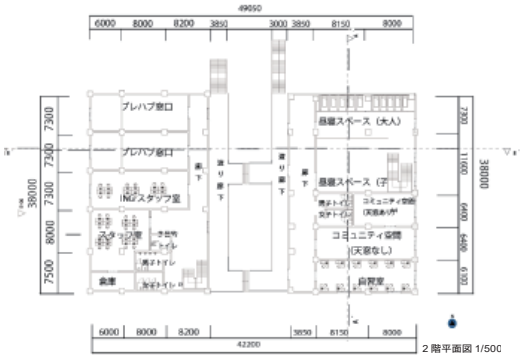
・母子家庭の子供を一時的に預けられる預り所の配置：プライベートの時間がない母子家庭の母親に向けて、預り所を設置することで母親のプライベートの時間を確保させることを目的とする。

・母親や子供のリラックス空間：居場所がない母子家庭の方、私生活で苦しい思いをしている方たちに心と身体を休ませる空間を提供する。

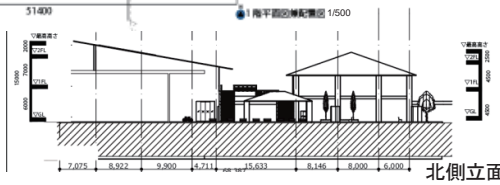
・資格取得や自立心を目覚めさせる自習空間：上記の「シングルマザーを生き抜く 15 のノウハウ」より母子家庭出身者の子供は資格取得率が低いデータに基づき、自習空間の設置により夢や目標に向かって進む空間を提供する。

・バザー店の配置周辺に小学校や中学校が多いことから、使わなくなった制服やその他必要な用品を支給する








北側立面図 1/500


A´　断面図 1/500

路地から始まる町おこし
～未来へと歴史を紡ぐ～

学籍番号　k19222
名　　前　上山凌斗
指導教員　根來宏典

Town revitalization starting from an alley　～History for the Future～

Student Number　k19222
Name　UEYAMA Ryoto
Supervisor　NEGORO Hironori

背景と目的

「海の京都」や日本三景「天橋立」として知られる宮津。その宮津市にある新浜が今回の敷地である。かつて、「南の祇園、北の宮津」と称されるほど繁栄し、新浜の花街は祇園に次ぐ格式とも言われ、多くの旅人を魅了してきた。詩が残されるほど賑わっており、お茶屋や置屋などが並び、活気に満ち溢れていた。しかし、時代とともに活気がなくなり、歴史ある町並みが衰退していった。現在、新浜には当時の面影を残している建物はあるが、街並みを形成しているとは言えない。さらに、宮津歴史資料館はあるが長期(無期限)閉鎖したり、宮津の町並みに対し政策をあまりしておらず、町全体で守られているのか疑問を持った。そのためには新浜を再興し、新浜の持っていた魅力や価値観を再認識し、町全体で歴史を守り、継承していきたい。そして、路地に残されている建物から時代の流れを肌で感じ、体感してほしい。



写真１　現代に残る新浜の路地

計画敷地

江戸時代、宮津城の城下町として特に栄えていた町であり、旅人の宿泊や貿易で主要な区画であった。現在では、駐車場となった場所が目立ち、当時の面影を残す建物や路地が少ない。そして、人通りも地域住民のみであり、当時の賑わっていた雰囲気が一切感じられない。新浜の歴史を知っている人は少なくなっており、歴史ある町が記憶から消滅しようとしている。歴史を守るため、町並みを守るため、特に栄えていた新浜を敷地とし、町全体で守っていけるような環境をつくっていきたい。

計画 - 花道

花道を形成するにあたって、既存の建物はなるべく残し、古くから残る建物と共に、新たな新浜の町並みを再興する。新浜の町並みの特徴である、千本格子や袖うだつ、簾を意識し設計をする。路地の道は石張りとし、当時の雰囲気を表現する。



現在の新浜



写真２　新浜わくわく通り（黄）



写真３　浮世小路（青）

- 西洋建築（浮世小路）

レトロな雰囲気の漂う浮世小路。明治時代に発展し、芸者が良く行き来していた路地であった。明治時代に行われた近代化政策の影響であり、宮津市には洋風建築が多く存在する。その中の一つであり、時代の移り変わりがよくわかる路地である。この路地も計画することで移り変わりを体感し、新浜の歴史に触れてもらうきっかけとする。花街と浮世小路の路地の交わりにおいて、中間領域となる空間を設けることで自然と時代の流れが移るような計画をする

- 海と新浜

宮津市に繁栄をもたらした北前船。貿易が盛んになり、多くの旅人や商人が訪れた。そして、漁業も盛んであり、海と親しい町としても有名であった。現在でも『海の京都』として呼ばれ続けている。

海と新浜との繋がりを感じれるようにするために大徳寺孤篷庵の舟入の構成をモチーフとし考える。座敷から見た風景を船内と見立てることで船とのつながりを表現する。そして、枯山水の岩等を用い航路を表現したり、窓を円状とすることでさらに船内をイメージできるように計画をする。

- 用途

食べ歩き繁華街を計画する。江戸時代には飲食店(茶屋)が多く、その名残で今でも飲食店が多い路地となっている。基本的にはお酒を取り扱う店が多いため、バーや休憩所、和菓子屋を計画する。その地域にある地酒や和菓子を提供することで必然的に宮津の特産品に触れてもらい、五感で宮津を体感してもらう場所とする。

所在地　　：京都府宮津市新浜
主な用途　：繁華街・観光地・飲食店
敷地面積　：7940 m^2
建築面積　：5639 m^2
延床面積　：8769 m^2
キーワード：文化・和洋折衷・景観・体感・継承

Location: Shinhama,Miyazu City, Kyoto
Main Use : downtown,sightseeing,restaurant
Site Area : 7940m^2
Building Floor Area : 5639 m^2
Total Floor Area : 8769 m^2
Keywords : culture,Japanese-Western style,scenery,experience,inheritance

設計

- 意匠

花道として計画する路地においては、江戸時代、特に賑わっていたとされる新浜の茶屋街を表現し、浮世路地においては明治時代に建てられた近代建築を基調とし設計をした。茶屋街においては、千本格子やうだつなどを取り入れる。軒の高さを少し変化させることでリズムが生まれるようにした。

- 和洋折衷

宮津市には明治から昭和初期に建てられた和洋折衷の建物が多く残っている。代表的な建物では「カトリック宮津教会 聖ヨハネ天主堂」があげられる。日本の文化を大切にするために、堂内は畳敷き、ステンドグラスは引き違い戸、丹後のケヤキを用いるといった工夫がされている。本計画でも和をより多く用いることで和と洋の融合(和洋折衷)を表現した。

- 路地

宮津市の路地の在り方について自分なりに考察した結果、全ての路地が海に向かって伸びており形成されていた。そのため、南北(海まで伸びる)方向のみ路地を形成し、新たな路地の在り方を提案した。

- 枯山水

食事処の座敷から見える中庭の枯山水において、路地と海との関係性を表現する。縁側下部に石を置くことで航跡を表現することでさらに海との関係性を繋げた。

- まとめ

町並みの再生、復興は重要なことである。現在では、当時の歴史を知る人が少なくなっており、今にも歴史が消えかかろうとしている。書籍や資料はあるが、それだけで本当に歴史が守られているといえるのだろうか。このような歴史を後世に残すためには、実際に肌で感じ取ることが重要だ。これをきっかけとして町全体が守られ、北前船といった新浜以外の歴史にも触れあい、共に継承される町づくりを提案する。


写真１　花街の様子


写真２

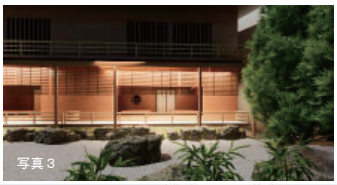


写真３


写真４


写真５

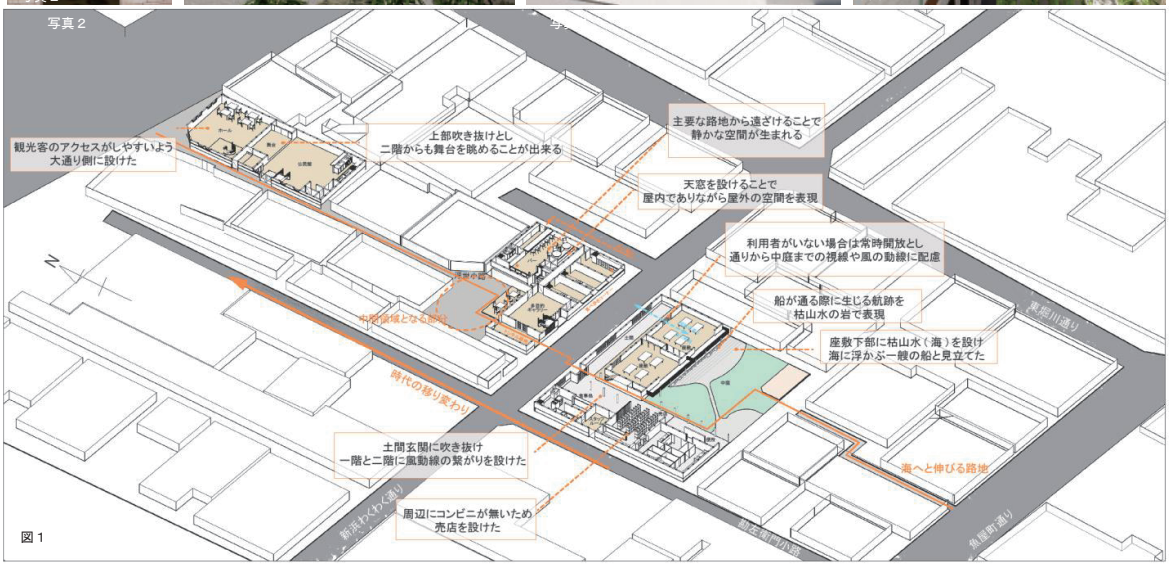


図１

妻木頼黄の広島臨時仮議事堂の設計に関する研究

学籍番号　K19223
名　　前　内川 喜八
指導教員　江本 弘

妻木頼黄　　広島臨時仮議事堂　　ドイツ

１　研究目的

広島臨時仮議事堂の設計者である妻木頼黄（1859-1916）は日本の明治期において長らく営繕に属した代表的な官僚である。妻木の設計した広島臨時仮議事堂は広島県で第７回帝国議会を開催するための仮設建物である。この仮議事堂は設計から職工の手配を含めてわずか 20 日間であった。

妻木の造家学会（現在の日本建築学会）での講演録、平面図、外観写真、各議場の内観写真以外に、この仮議事堂に関しての資料は残されていない。

本研究では、妻木がどのように設計したのか、平面図と外観写真から立面図、屋根伏図を作成し、各議場に挟まれた中央廊下にかかる屋根の復元案作成を目的とする。

２　妻木頼黄について

妻木は明治建築界の三大巨匠の一人にして、大蔵省営繕の総元締めとして絶大なる権力を持っていた営繕官僚である。日本にドイツ流の建築を広めた第一人者にして、当時まれにみる建築から切り離せない要素である法律、財政、経済にも精通していた希有な建築家であったとされる。

３　広島臨時仮議事堂について

３．１　建設経緯

広島臨時仮議事堂は日清戦争開始にともない、臨時首都となった広島県で、第７回帝国議会を開催する仮設の建物である。敷地は第５師団練兵場内に設けられた。議会終了後議事堂は撤去された。陸軍の仮施設として４年間使用された（図 1）。



図 1　広島臨時仮議事堂 外観写真

9 月 22 日、内務省に広島出張を命じられる。25 日、広島に到着、着工。26 日、設計図面を完成。工事見積書とともに政府に提出。30 日に工事を着工。10 月 14 日に竣工させた。

年	月	日	出来事
1894	9	22	広島出張を命じられる
		23	広島で議会が開催を知る
		25	広島着、仮議事堂の計画に着手
		26	図面・予算完成、建設場所決定
		27	建設地決定
		28	下小屋建設
		30	予算認可、本着手
	10	14	仮議事堂竣工

表 1　年表



図 2　内観写真 貴族院議場

３．２　平面図

玄関、議員休憩所、廊下、事務室兼通路、書記官長室、議長室、中庭、便殿、供奉室、大臣控所、貴族院議場、衆議院議場

平面図の右下に「計畫及監督者　妻木頼黄　工事掛 大迫直助　沼尻政太朗　湯川甲三」と記載されている（図 2）。

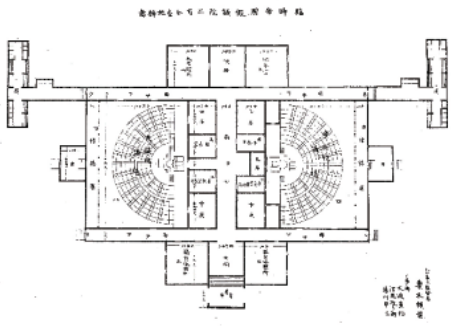


図 3　平面図

Design and Construction Process of Yorinaka Tsumaki's Temporary Diet Building

Yoshiya Uchikawa, Hiroshi Emoto

３．３　復元について

広島の仮議事堂の中央部の屋根は外観写真を見ても詳細不明である（図 1）。平面図と内観写真を照らし合わせると、中庭から光が入ってきていることがわかることから、中庭の屋根は吹き抜けとする。

妻木は演説内で広島の職人は技術がそれほど良くないと語っている。そのため短時間の工事で終わるもの。

外観写真には正面の車寄せ、議員休憩所にかかる屋根により全貌が隠れていることにより、屋根勾配は大きくないもの。

妻木が議事堂の設計の参考にしたと思われる、日本とドイツの国会議事堂はドーム状の屋根、切妻屋根、陸屋根が使用されているといった共通点があるため、いずれかが反映されている可能性がある。

以上の条件をもとに考察した結果、中央部分の屋根は陸屋根であるという結論を出した（図 5）。

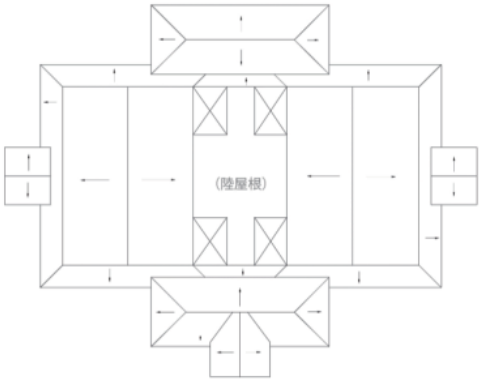


図 5　陸屋根案

妻木は「見込みでは三四年は此儘で保つだらう（省略）併ながら全体一週間長くて二週間の積りでありました」と、説明しているため、可能性はある。

４　まとめ

妻木頼黄の設計した広島臨時仮議事堂の 20 日間での竣工は驚異的である。

４年間使用されていたことから、しっかりとした構造であったことがわかる。そのため、中央部分が陸屋根であるならば雨水の排水が課題であるが、議会の開催と、建物の完成を優先させた可能性もあることから、さらなる考察が必要である。東京には既に木造の議事堂が建てられている。妻木が参考したであろうドイツの議事堂と合わせて、仮議事堂全体の構造も考察したい。

参考文献

2　『妻木頼黄の都市と建築』（2014）日本建築学会、日本建築学会

3　「広島臨時仮議事堂（竣工 1894 年）における議場小屋組の構法について」（2013）堀内正昭

5　『建築雑誌』（1890～1990）、日本建築学会

6　『日本の建築[明治大正昭和]4 議事堂への系譜』（1981）長谷川堯、三省堂

8　『議会制度百年史』（1990）衆議院・参議院編、大蔵省印刷局

9　『帝国議会議事堂建築報告書』（1938）営繕管財局編、営繕管財局

11　『広島臨戦地日誌』（1899）広島県庁、渓水社

12　『帝国議会議事堂建築の概要』（1936）営繕管財局、大蔵省営繕管財局

13　『建築学講義録 2 の巻』（1898-1909）滝大吉、建築書院

14　「妻木頼黄の初期の履歴について」（1990）堀勇良、清水慶一

16　「『日本建築の成立』コーネル大学における妻木頼黄の卒業論文についてその翻訳と解題」（1994）清水慶・松波秀子



図 6　立面図

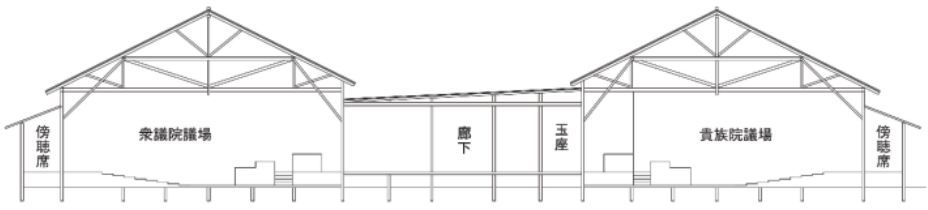


図 7　断面図

欅の陰に留まる

—通過点から居場所へ—

stay in the shade of the zelkova tree

- From waypoint to whereabouts-

K19224
大谷一晟
安田光男研究室

Issei　Otani
Architectural Design Course Yasuda

＜背景と目的＞

1 日に何万人もの人が利用する町の「駅」は、駅としての機能さえ備えておけばそれでいいのだろうかと疑問に思う。老若男女関係なく人々が密集する場所は数少ない。駅が単なる通過点となっていることで何か新しいことを得られるであろう折角の機会を毎日逃しているように感じた。駅という場所は、出発、到着、出会い、別れ、故郷、様々なシチュエーションが生まれる。それにあった空間づくりの提案や、機会や人とのすれ違いを減らし、交流を増やす場、あるいは駅のどこかに自分の居場所を見つけ出すことができるような提案をしたいと考える。

〈敷地〉

JR 和歌山駅

所在地：和歌山市美園町五丁目

乗降人数：約 37344 人/日 (R2)

駅構造：5 面 8 線 地上駅



〈選定理由〉

①自分が最も利用してきた駅であるからこそ、通過点となっている現状を見ていた。現在の駅舎内には腰を下ろせる休憩スペースすら少ない。一人で食事をとるスペースもない。通過点となっていたり、人と何かのすれ違いを感じたりするのは、駅としての機能以外の部分に問題があるのではないかと思った。⇒内外が分離されている現状を踏まえ、オープンな空間をつくる。人が流動的になるコンコースは天井が高い大空間に。上記下線のような場所は、風が抜ける静かな空間に。といったように状況に応じた提案をする。

②和歌山の顔となる駅の外観がこの見た目で良いのかと単純な疑問を抱いた。⇒前面道路のけやき並木を生かしたデザインや、この敷地ならではのデザインをする。

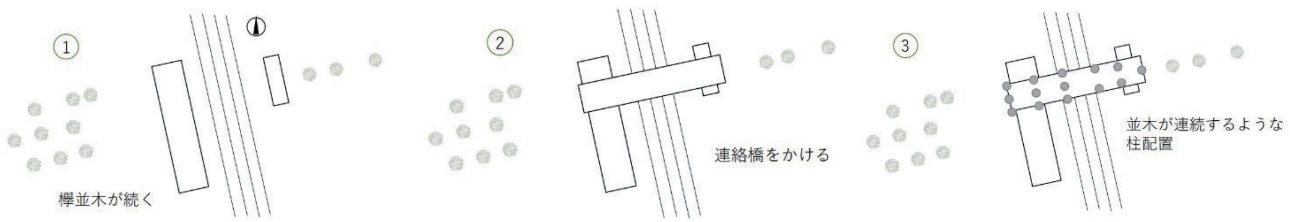
③自ら利用して分かった現在の問題点が把握できていること。知人へのアンケート結果による他者が思う問題点が把握できていること。⇒便所の整備、駐輪場の設置、交通の不便さなど。





＜計画＞

西側に続くけやき並木は 3 列あり、和歌山駅を挟んで東側になると 1 列になる。西から東へと連続していくように柱を配置していく。その柱の構造として鉄骨の斜柱で欅をイメージさせる。



所在地:和歌山県和歌山市美園町五丁目　　Location :wakayamacity

主な用途:駅　　Main Use : station

敷地面積:　　Site Area :

建築面積:約 12,000 ㎡　　Building Floor Area : 10,000 ㎡

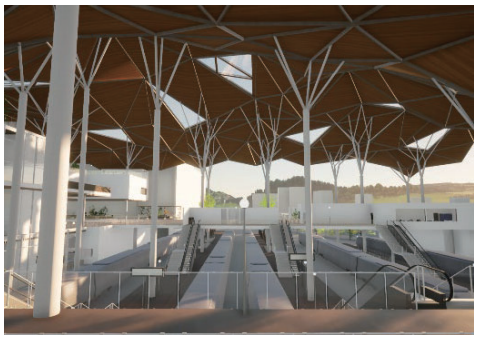
延床面積:約 5,000 ㎡　　Total Floor Area : 5,000 ㎡

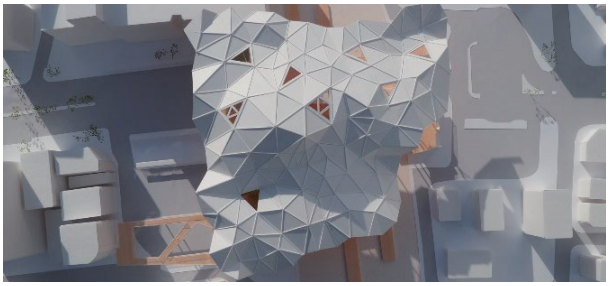
キーワード:　駅　広場　　Keywords : station,　square

＜選定理由に基づく設計案＞

① 外観のインパクトあるデザインと一つ一つの空間に変化をつけるために大屋根をかける。屋根の形状を変えることで光の差し方や風の通り道も変化する。また、高低差を出すことで空間の大小、開放感や圧迫感を使い分けることができ、そこを交流の場、あるいは個々の居場所になるようにする。

② 現状の問題である便所の整備に関して、東西で一か所ずつ設ける。駅周辺では違法駐輪が問題となっているため、既存のものに加えて西側にも設ける。ロータリーがバス、タクシー、一般車両に分かれているが、歩行者と交差する箇所があり、危険であるため、ペデストリアンデッキを設けて分離させる。



現在の重厚感のある直方体の和歌山駅の存在によって、東西が分断されている現状に加え、駅という存在が通過点となっている現状の改善のために和歌山駅リニューアルを計画する。
駅を挟んで東西に並んでいる欅並木を駅内部にも通すように設計した。内部に関しては、駅が通過点とはならないように個々の居場所となるような空間や、老若男女関係なく集まる駅に多世代交流を促すようなスペースなども設けた。
具体的に、【居場所】風の通る静かな空間であったり、空間的には連続しているが、床レベルを変えたりルーバーで囲ったりすることで、異空間を感じさせるような工夫をした。【交流の場】外枠のみガラス張りの壁で囲っている。レンタルオフィスや学生と社会人との交流、ショップ等に利用でき、用途を確定させないことでその場所に多世代の方々が集まることを図った。
大屋根をかけることによって。屋根内側の木材が温かみを発信する。また人が流動的になる大空間のコンコースに光が落ちるようにトップライトを設けている。東側駅舎については、東に高校や予備校があることを考慮して学生が集う空間をイメージして設計した。

この建築は、和歌山の魅力を外部に発信するのではなく、和歌山の方々から親しみを持ってもらえるような存在を目指した。シビックプライドという言葉があるように市民や駅を日常的に利用によって愛され、街のシンボルのような存在になることを願う。

<参考文献>

https://www8.cao.go.jp/youth/whitepaper/h29honpen/s0_0.htm
不安定な時代こそ「人とのつながり」の価値が高まる――大嶋寧子　/　新建築データ/旭川駅

空間認知能力の刺激

～視覚障害者に寄り添って～

学籍番号　k 19226
名　　前　　大西　稜
指導教員　　井上　晋一

Spatial cognition stimulation

Student Number　k 19226
Name　　Ryo Ohnishi
Supervisor　Shinichi Inoue



1　全体パース

計画背景

建築空間の認知は主に五感の視覚情報と頼りに取得している。そこで人は五感をどのような割合で使用しているか調べた。調べた結果 8 割、多ければ 9 割を人は視覚からの情報を得ており、その他 2 割 1 割は聴覚、触覚、味覚、嗅覚からの情報を頼りに生活していることが分かった。そこで人は 8 割から 9 割を生活で必要な情報を視覚から得ているのなら視覚障害者の方は晴眼者に比べると圧倒的に得られる情報量が少なく、建築や都市における視覚障害者への配慮は点字ブロックや手すりの設置等で最低限の対処でとどまっている。そこで普段、視覚障害者が駆使している視覚以外の五感や感覚の部分を刺激し空間認知の補助ができるのではと考えた。

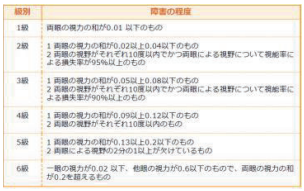
・視覚障害者の割合と等級分け

現在日本の人口は約 1 億 3000 万人に対して視覚障害者の人口はグラフから予測すると、2006 年から約 0.3%で横ばいのため概算おおよそ 31 万人の人が視覚障害者ということが予測される。

そして視覚障害には等級というものが存在します。1 級～6 級まで等級として分けられます。視覚障害は視力が何以下などの視力障害とプラスして視野が限定される視野障害の 2 つ挙げられます。先程、視覚障害者の人口は約 31 万人と予測されるといいましたが、この人数は視覚障害で障害者手帳を持っている人数です。私は障害者手帳をもらっていない、視覚障害者もいると思うので 31 万人よりも多くの方が視覚障害なのではと思います。



図 2　視覚障害者の人口調査



級別	障害の程度
1級	両眼の視力の和が0.01 以下のもの
2級	1 両眼の視力の和が0.02以上0.04以下のもの 2 両眼の視野がそれぞれ10度以内でかつ両眼による視野について視能率による損失率が95%以上のもの
3級	1 両眼の視力の和が0.05以上0.08以下のもの 2 両眼の視野がそれぞれ10度以内でかつ両眼による視野について視能率による損失率が90%以上のもの
4級	1 両眼の視力の和が0.09以上0.12以下のもの 2 両眼の視野がそれぞれ10度以内のもの
5級	1 両眼の視力の和が0.13以上0.2以下のもの 2 両眼による視野の2分の1以上が欠けているもの
6級	一眼の視力が0.02 以下、他眼の視力が0.6以下のもので、両眼の視力の和が0.2を超えるもの

図 3　視覚障害の等級分け

・対象地域

滋賀県彦根市金亀町の彦根城内にある野球グラウンド跡地で計画する。野球グラウンド跡地での主な利用者は目の前にあるグラウンドの利用とその奥にあるテニスコート、グラウンドは主に学生の部活、スポ少スクール、テニスコートは高齢者や大人な方が多い。彦根城内には多くの観光客がいており、城内、庭園の観光。敷地周辺には学校が多く、学生の通行、利用が多い。球技場やグラウンドもありスポーツ利用者も多い。近く公園も面している。



所在地：滋賀県彦根市金亀町２
主な用途：美術館
敷地面積：7755.5m^2
建築面積：3717m^2
延床面積：3717m^2
キーワード：空間認知能力　視覚障害

Location : Shiga.HIkone.konnkomati2
Main Use : Museum
Site Area : 7755.5 m^2
Building Floor Area :　3717m^2
Total Floor Area : 3717m^2
Keywords : Spatial cognitive ability　Visual impairment

図４　敷地地図

・目的

視覚障害者の方の空間認知の補助。視覚障害の方が視覚以外の感覚的部分、他の五感が刺激され空間認知の補助ができる空間。

晴眼者に対しては、その空間にいてメリットが生まれないのではなく空間認知の能力が少しでも上がるような空間。空間認識能力の向上を図る。

・建築的提案

１連続性　２選択性　３回遊性　４気賦の変化

連続した一つの空間に対して、様々な線を加えて空間を直交的に分けることにより交わりができ選択性を出す。空間を連続させ回遊構成にしつながりを持たす回遊性。最後に上下、左右などの気賦の変化で空間の変化をつける。気賦の変化

・空間認知を補助する建築操作　・空間を直交する直線で区切る

・空間の連続させる　・回廊構成　・空間の変化

これらを踏まえて計画していくと図５　ダイアグラムのような空間を計画する。構造はラーメン構造で進める。

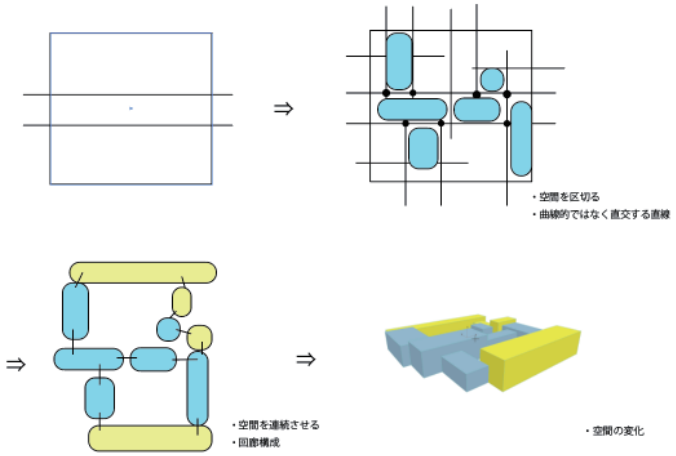


図５　ダイアグラム

この空間は、まず道のようなまっすぐ連続的な空間を直交する直線で区切っていきます。そうすることでまっすぐから左右へと選択肢が増えます。そのできた左右にできた空間を連続さし繋ぐことで回遊性が生まれます。そこから空間の奇賦を変化させ立体的にさせ上下の変化をつけます。これらの空間認知の補助をする建築操作を使って空間構成する。

・設計概要

空間を３つに区切り階段で階高をつけ気賦の部分を変化させ分けた３つの空間をぐるりと回れるよう繋げ回遊性を持たせた。



・設計概要２

空間１つを計画するのではなく、空間をつなげて回遊性を持たせ、左右の選択肢を持たせた。

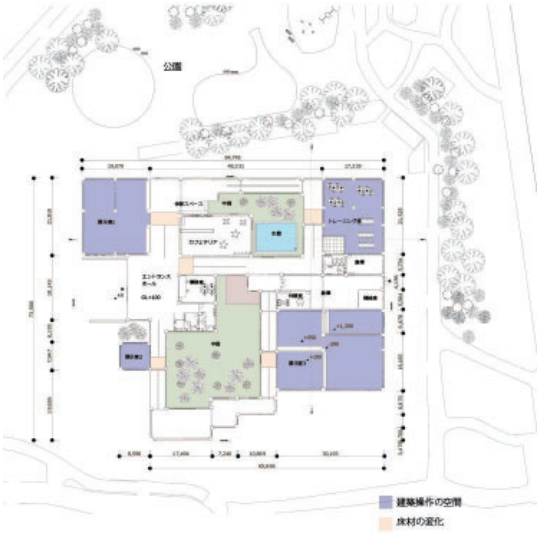


図６　配置図兼平面図　１：400

・参考
・　視覚障害者の人口割合調査
・　・視覚障害の等級分け
現代社会とハウジング　株式会社　彰　国　社
発行者　山本　泰四郎

MOYAU ビルヂング～「織り込む」交流空間～

学籍番号　k19227
名　　前　岡本　知世
指導教員　新海俊一教授

MOYAU building　~Community space of orikomu~

Student Number　k19227
Name　Okamoto Chise
Supervisor　Shinkai Shunichi

伝統産業　京都　コンバージョン　コミュニティ　体験施設　リバーサイド　サードプレイス



図１　イメージ画像

1.　はじめに

本提案は伝統産業に関わる人々、また興味のある人々をつなげ、人々の縁を織り込むようにして広げていくスペースの提案である。実際に伝統産業に関わっている人々は交流・新しい知見を深め、また勤務地とは別の、癒しを得られるようなサードプレイスを提供する。また、伝統産業に興味のある人々に、体験や職人との対話を通して、伝統産業に対する理解を深められるような交流空間を提供する。

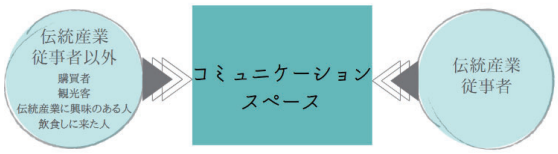


図２　利用者と計画する施設の関係

本設計の MOYAU とは、船と船をつなぎ合わせるという意味の「揺蕩う」から来ている。その昔高瀬川を渡っていた高瀬舟から着想を得ており、船と船をつなぎ合わせるように人と人がつながっていってほしいという願いを込めた。

2.　背景

2-1　現状

古来より京都はものづくりの街として発展してきた。現在もそれは継承され続け、伝統産業は現代においても生き続けている。しかし後継者不足や、職人の高齢化が今後の持続性の課題となっている。また経済的観点からは、価値観、生活様式の変化、安価な製品の輸入などで伝統工芸品の需要は低迷し、産業は厳しい状況におかれている。

2-2　問題点

伝統産業の持続性に関する主な問題点は二つあると考えられる。一つ目は、後継者を目指して入門する際に敷居が高いと感じることである。伝統産業に関わりたいと思っても、専門技術を身に着けた職人と接する機会が少なく職能の実態を知ることができない。二つ目は伝統産業の職人同士のコミュニケーションが不足していることである。すでに SNS の活用に乗り出している一部の職人達は互いの技術を組み合わせてステップアップを目指しているが、高齢な職人も多い為、最新のメディアを使いこなせず、他の職人との交流機会が少ないケースもみられる。

伝統産業の担い手を目指す人々、伝統産業を担いながらも他の職人との連携や情報共有が十分に行えない人々にとって、直接的なコミュニケーションを図ることができる施設が必要である。本卒業設計では、そのような機能を果たす施設を提案する。

3.　計画概要

3-1　計画対象敷地



図３　周辺立面図



図４　敷地写真

対象敷地は、四条通と五条通の間に位置する。喧噪な四条通りからやや南下し、穏やかな水の流れとともにたたずむ高瀬川沿いの敷地で、南には五条通り、西には河原町通り、北には四条通りと閑静でありながらアクセスがよい。この地に建つ既存のオフィスビルの低層階部分をコンバージョンし、静かな川の流れのほとりで、癒しを提供できるようなサードプレイスを計画する。

所在地：京都市下京区西橋詰町
主な用途：オフィスビル
敷地面積：61.51 ㎡
建築面積：49.21 ㎡
延床面積：196.84 ㎡
キーワード：伝統産業　京都　コミュニティ
　　体験施設　リバーサイド　サードプレイス

Location : Nishihasizume,Shimogyo,Kyoto
Main Use : Office
Site Area : 61.51 ㎡
Building Floor Area : 49.21 ㎡
Total Floor Area : 196.84 ㎡
Keywords : traditional Industry,Kyoto, Community,
　　experience Facilities, river side, third place



図５　敷地周辺図
（参考文献１より作成）



図６　敷地周辺イメージ図

3-2　コンセプト

空間に織り込む、ヒトに織り込む、生活に織り込む、という３つの「織り込む」をテーマとして設定した。

①空間に織り込む

交流の場や展示、体験の場を一緒に計画することで幅広い層が訪れることができ、より伝統産業に対して感じている敷居の高さを軽減する。いろいろなブースを同じ施設内に織り込み、日常的に訪れやすいスペースを計画する。

②ヒトに織り込む

様々なバックグラウンドを持つ人々を対象とすることによって、伝統産業に従事する人々や伝統産業に興味のある人々の交流が期待できる。このスペースを計画することによって人と人を織り込むようにして縁をつないでいく効果を期待した。

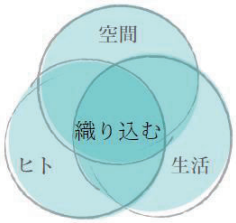


図７　コンセプトダイヤグラム

③生活に織り込む

様々なブースを計画することによって、時間帯を問わず訪れやすい空間を目指す。そして日常的にほっと一息しに、また展示を見に、自身の興味を深めに等いろいろな目的をもって気軽に立ち寄れる生活に織り込んでいく空間を計画していく。

4.　設計概要

１階は「飲んで」繋がるカフェバーのスペースと、展示スペースで構成されている。まずエントランスから入って右側にバーカウンターがあり、ここでは伝統工芸に興味のある人たちが互いにコネクションを広げることができる。またカフェバーであるため、通りがかりの人や観光客なども気軽に立ち寄れることができ、その場の人たちとの対話を通して伝統工芸への興味を広めてもらえれば、とのねらいもある。

２階は「作って」繋がる体験スペース兼会議室のスペースである。机を移動させることによって、様々な用途に対応した多目的室を設置する。例として、京組み紐や螺鈿のクラフトワークなどの体験教室を定期的に開催することによって、地域の子供たちに伝統工芸に触れてもらい、興味を持ってもらうことを狙いとしている。

また、伝統工芸の職人同士がコラボして何かを作りたいとなり、工房では十分なスペースが取れない時にここを利用しようと思ってもらえるスペースを提案する。

３階は「喋って」繋がるコワーキングスペース兼会議室である。本棚にキャスターを付けることによって、本棚を動かせるようにし、コワーキングスペースになったり、会議室になったりする。伝統工芸の工房では、デスク作業をできる環境が十分でない場合も多い。そのような人々が集中して作業をしたいときに利用できるような計画をした。

４階は「泊って」繋がる宿泊スペースである。簡易的な宿泊施設であり、小上がりでゆったりと、時間を気にせず談笑できるようなスペースを目指した。ミニキッチンもあるため、簡単なものを作ることもできる。ベッドは、二段ベッドが２つなので計４つあり４人まで泊ることができる。

また、会議室に関しては２階同様の理由で配置した。

参考文献

１）　国土地理院地図，国土地理院（https://maps.gsi.go.jp/）
(最終閲覧日　2022/10/26)
２）　Google earth,Google(https://www.google.co.jp/intl/ja/earth/)
(最終閲覧日　2022/10/26)
３）　co-ba nakanoshima オフィシャルサイト(https://co-ba.net/nakanoshima/)(最終閲覧日　2022/12/18)

クリエイターが住む住宅

学籍番号　k19228
名　　前　**岡本勇真**
指導教員　**河村大助**

Apartment where creator live

Student Number　K19228
Name　Okamoto　Yuma
Supervisor　Kawamura　Daisuke

計画敷地概要

住所は京都府京都市西京区川島有栖川町78で敷地面積は、約1600㎡。阪急京都河原町駅から特急で４駅、大阪梅田駅（阪急）から快速急行で６駅の場所にある阪急桂駅西口から徒歩五分に位置する敷地で、最寄りの桂駅までのアクセスはもちろん、京都、大阪の中心地へのアクセスが非常に良い。桂駅周辺には旧山陰街道（黄色の帯）が線路を超えて延びていて、山陰道に広がる古民家の脇には小川が流れ、古都京都を感じさせる情景が目に入り、心が癒され美しい。しかし、敷地周辺には住宅街が広がり、山陰街道に立ち並ぶ古民家とは裏腹に、京都らしさは薄れている状況。飲食店や精肉店、八百屋や居酒屋などがあり、生活がしやすい状況ではある。

敷地周辺は昼夜問わず車通りが多くなく、山々や河川が目に入り穏やかな空気感が漂っている。そして一人暮らしの学生や社会人が住むアパートやマンションが比較的多い。



選定理由

現在敷地はアクセスが非常に良いことから一人暮らしの学生や社会人が比較的多い状況。しかし、周辺には人が集まる場というものが何一つない。コロナの影響で不足した人との交流を取り戻すと同時に人が集まる場所を造ることのできる場所としては最適だと感じ、選定した。

ターゲット（住人）

・クリエイター・カフェ経営・デザイナー・動画編集者・心理カウンセラー



桂駅西口



旧山陰街道



計画敷地（北東から撮影）



計画建物（北東鳥観図）



桂駅（計画敷地）周辺

計画敷地：京都府京都市西京区川島有栖川町78
敷地面積：1,537 ㎡　建築面積：608 ㎡
形式：RC 造（鉄筋コンクリート造）
延床面積：1639 ㎡
用途地域：第二種低層住宅専用地域
容積率：106.6％
建蔽率：39.5％

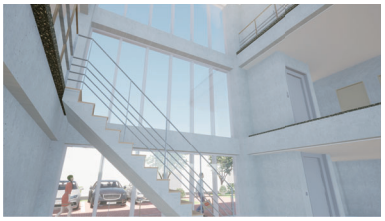
計画内容

1F：住人が営むカフェ・ジム・ジュエリーショップ・心理カウンセラーを配置。北側に住人専用出入口を設け、住人はそこから大浴場、洗濯室、2F、3Fへと向かうことができる。住人専用出入口以外は非住人は出入りが自由で誰でも利用できるように、オープンに構える。カフェにあるキッチンは住人も利用できるようにスペースを取って設計。


ガレージ（北東から撮影）

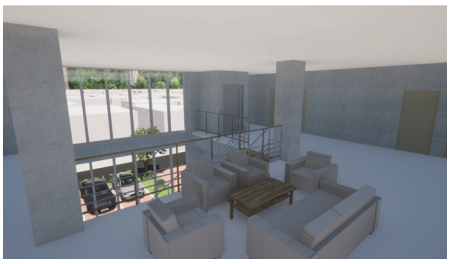

ジム


カフェ


1F（住人専用エリア）

2F：ここからは非住人が踏み込むことのできない住人エリア。主に住人の生活スペースとなる各部屋（個室）が15部屋設置されている。各部屋にバルコニーを設け、洗濯ものを干すスペースとして確保。そして共有スペースとなるラウンジ、簡易的なキッチンを設ける。


各部屋（個室）


ラウンジ

3F：住人の生活スペースとなる各部屋（個室）が8部屋設置。そしてラウンジと簡易的なキッチン。それに加え住人（クリエイター）にとって最も重要なスペースとなる仕事場。アトリエとPCルームを設け、個室ではできないコミュニケーションを取りながらの作業を自由にできる空間を目指した。


アトリエ

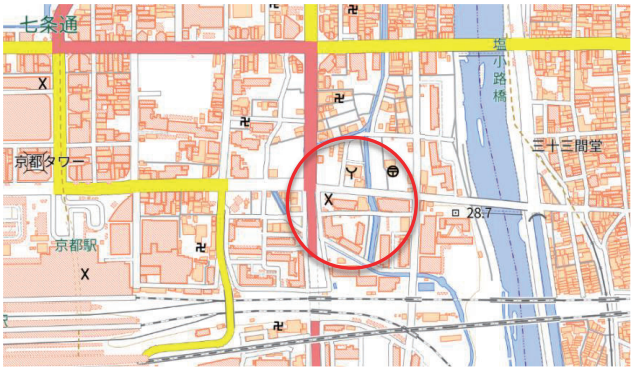

PC ルーム

衆知~学び得る学生の仕掛け~

Gather student knowledge ~Students learn and acquireknowledge and wisdom~

学生番号　K19230
名　　前　小椋 幹太
指導教員　河村 大助

Student Number　K19230
Name　Ogura Kanta
Supervisor　Kawamura Daisuke



計画内容

京阪本線沿いには様々な大学があり、どの大学も特徴のある分野を扱っている学部、学科が多い傾向に見えた。そのため大学生が利用し、目的をもって訪れ賑やかな場所を計画しようと考えた。大学生が利用する学生寮とこれから自分が専門とする分野の勉強や活動ができる施設を計画する。また、それぞれの分野が独立した場所にならないようにそれぞれの分野の良い所を併せ持った空間が出来るような計画と、他大学との交流という要素を含めて計画していった。

敷地

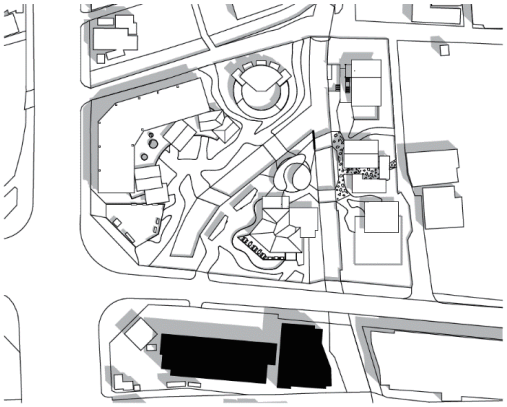
京都府京都市下京区上之町 13

敷地面積

7000 ㎡

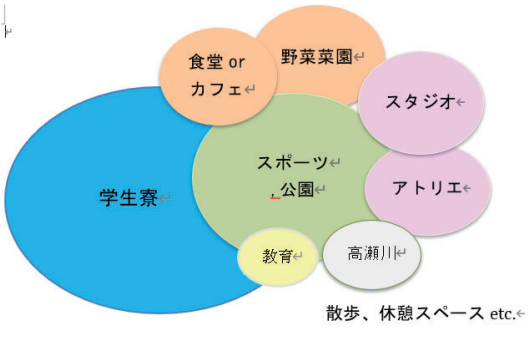
用途地域

商業地域、近隣商業地域



敷地概要

河原町通りと塩小路通りの交差する場所に位置し、JR京都駅から徒歩 10 分、京阪七条駅からも徒歩 5 分圏内とアクセスがしやすい。現在敷地は、消防出張所と公園があるが他は、雑草が生え使われていない部分もある。
前述したとおり、大きな駅、アクセスのしやすさと大きな道路がある事から車通り、人通りが多い。また、敷地の北から南に高瀬川が通っている。交差点を挟み向かい側には来年度完成予定の大きな大学兼高等学校が建てられる。



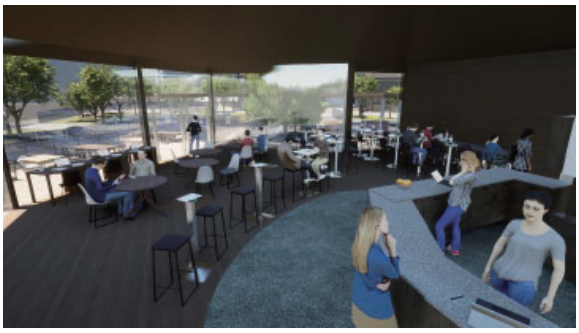
取り入れる大学の専門分野

京都美術工芸大学	工芸（陶芸 漆芸 彫刻）
京都市立芸術大学	音楽、美術
京都華頂大学、	食物栄養
短期大学	教育（幼児）
京都女子大学	教育
京都大学 龍谷大など	農学系

分野の組み合わせ

１．カフェ食事＋野菜菜園＋陶芸

カフェや食事をする場所を提供（植物栄養）することと、そして観光客や学生、地域の人がふらっと立ち寄り休憩する場所にする。それに加えて、農学と工芸の要素を足す。普段の料理に加え学生が育てた作物、京野菜（農学系）を使った料理を振る舞う。さらに食器も陶芸を専門とする学生が作った陶器なども使用し、他ではあまり見ない特徴のある店とする。



２．音楽＋スタジオ(アトリエ)＋高瀬川

学生や地域の方々が音楽活動（音楽系）をする場所、練習する音楽スタジオ、野外スタジオを設ける。彫刻や絵画などを制作（美術、工芸）するアトリエや展示会やショップなどと併せる。直接的な意味合いにはならないところ敢えて活動が表立ってできる、公開して何かを披露するという観点でこの組み合わせにした。更に制作、活動にあたりオンオフがしっかりできる環境として川（高瀬川）を採用し野外でリラックスできる場所を提供する。





３．学生寮　教育　公園

学生寮、教育、公園を組み合わさるというイメージではなく隣り合う３つの要素にする。既存敷地では早朝にはご年配の方がパターゴルフをしておられたりタ方には放課後小学生が遊んでいる様子も見られる。その為、遊ぶ場所を残しつつ教育という学びと繋げる観点から学童保育を提案した。フリーな空間とプライバシー空間が近接するため視覚的に遮断するように道や植栽を配置する。



他大学との交流もあり、自分とは違った視点から物を製作したり表現したりするなどこの大学生のうちに、色々な刺激を受け、将来職に手を付ける際、その経験が自分の武器になるような空間づくりを意識して行った。建物と建物の間にもなるべく道を設けたり、集中する場とリラックスできる場所を出来るだけ散りばめた。自分たちの個性を、またこれから自分の個性を作っていく場として活用してほしい。

承前啓後
～子どもと伝統をつなぐ場～

学籍番号　K19231
名　　前　小笹　空我
指導教員　根來　宏典

Showzenkeigo
A place to connect children and tradition
Student Number　K19231
Name　kuga ozasa
Supervisor hironori negoro

1．背景・目的

近年は西洋化が進み、身近から伝統や自然を感じるものが減りつつある。中でも伝統工芸の職人は年々減少傾向にあり、後継者不足が問題となっている。現在の伝統工芸は、様々なイベントやモダンな小物などを通して興味をもってもらう取り組みがされているが、全体的に大人がターゲットのものが多いように見受けられる。

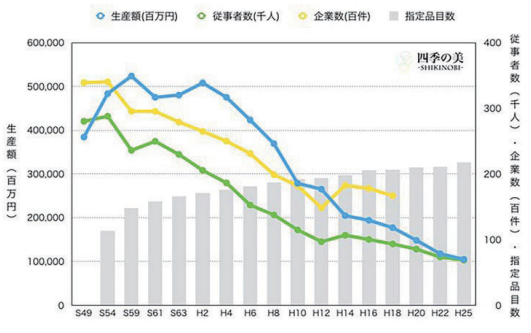
しかし、大人たちがこのような取り組みにより興味を持ったとしても、今の仕事を辞めて伝統工芸の職人を目指すという人はほぼ居らず、後継者を輩出することは難しいと思われる。職人技術を守るために後継者を増やすにはどうしたらいいか。

2．フィールドワーク

後継者不足解消のヒントを得るために、現在現役の職人・作家の方々に「なぜこの道を選んだのか」という質問をし、伝統工芸に興味を持ったきっかけを聞いて回った。一番多かった答えが、「幼いころから身の回りに工芸があり、実際に体験することが出来たから」というものであった。このことから、少なからず幼少期の体験が、将来の職業に影響するということが分かった。そこで、大人ではなく「子ども」をターゲットとし、建築というアプローチから伝統産業の復興を目指す。

質問を聞いて回った伝統工芸の主な種類

・竹工芸・漆芸・金箔工芸・京刃物・念珠・木工
・仏師・表具師・錺金具・蒔絵・和蝋燭・陶芸
・蠟色・扇面師、、等



伝統工芸の後継者の推移

出典：(財）伝統的工芸品産業振興協会

3．建物用途と敷地選定の背景

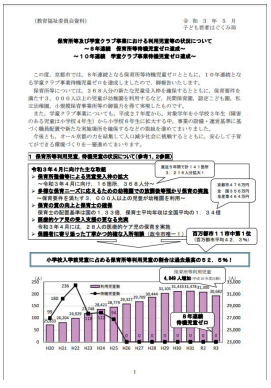
建物用途は、学童保育機能を有した児童館とし、次世代の工芸職人の輩出を期待する場とする。子どもたちの利用する施設をどこの敷地にするかと考えた時に以下の社会問題を絡めることとした。テレビや記事などで保育園の待機児童問題（ 保育所等待機児童）がよく取り上げられ、待機児童 ＝ 保育園に入れない児童。というイメージが強いが、それと同等かそれ以上に深刻とされているのが学童保育の待機児童(学童クラブ事業待機児童）である。 共働き世帯や一人親世帯、非正規労働者の保護者の拡大と共に学童保育の需要は高まり利用者は増え続けているが、急な法改正に対応できない施設が増え待機児童の急増を招いたといわれている。全国でも京都府は子育て環境日本一を目指し、京都市は京都市はぐくみプランに基づき子育て支援に力を入れている。 令和3年5 月のこども若者はぐくみ局の資料によると、「 保育所等及び学童クラブ事業における利用児童等の状況について、１０年連続 学童クラブ事業待機児童ゼロ達成」(図2) ということが報告されている。 しかし、京都市学童保育児童館連絡協議会の報告を見ると、 待機児童としてカウントされない潜在的待機児童(隠れ待機児童) が多く存在し、実態と違うことが分かった。これらの現状を踏まえ、敷地を京都市内で選定することとした。また、学童保育所のみでは、対象となる子どもたちが限られてしまい、対して児童館のみでは、対象は広いが必ずしも子どもたちがコンスタントに利用するとも限らない。そこで学童保育機能を有した児童館とすることで、両方のメリットを併せ持つものとした。

行政区別保育所等利用定員と利用状況（令和３年４月１日現在）

（単位：人）

行政区	利用定員	利用児童数			潜在的待機児童数	待機児童数
		定員内	定員外	合計		
北	2,464	2,218	80	2,298	18	0
上京	1,467	1,339	65	1,404	8	0
左京	3,290	3,074	116	3,190	41	0
中京	2,420	2,241	70	2,311	39	0
東山	722	640	1	641	2	0
山科	3,045	2,728	31	2,759	36	0
下京	1,714	1,610	71	1,681	25	0
南	2,916	2,660	190	2,850	27	0
右京	3,763	3,568	199	3,767	61	0
西京	2,615	2,448	66	2,514	47	0
洛西	970	883	0	883	9	0
伏見	3,844	3,647	174	3,821	80	0
深草	1,019	971	62	1,033	29	0
醍醐	1,620	1,493	37	1,530	6	0
合計	31,869	29,520	1,162	30,682	398	0

赤枠：令和３年度行政区別隠れ待機児童巣数



利用児童数と待機児童数のグラフ

所在地：京都府京都市鍛冶屋町
主な用途：学童保育機能を有した児童館
敷地面積：201.07 m2+946.67 m2+324.07 m2　合計 1472.45 m2
建築面積：829.22m^2
延床面積：1269.21m^2
キーワード：児童館・学童保育所・伝統工芸・自然素材・職人

Location : Kajiyamachi,Kyoto-si,Kyoto
Main Use : Children's center with after-school care function
Site Area : 201.07 m2+946.67 m2+324.07 m2 Total 1472.45 m2
Building Floor Area : 829.22m^2
Total Floor Area : 1269.21m^2
Keywords : Children's house, After-school nursery school, traditional crafts, Natural materials, craftsman



一階平面図兼配置図

3. 設計趣旨　建築計画(プログラム)

・土地に絡み、敷地を通り抜けるパス

児童福祉施設はどうしても騒音問題が指摘されるが、一番の原因は地域住民とのコミュニケーション取れていないためといわれている。そこで、誰もが通り抜けできる小路を敷地に三方向に通し、地域に開いた空間とすることで、子どもとの距離が近くなり、交流が生まれ、地域全体で子育てを行うようなプランとした。

・工芸を身近に感じる

誰もが通り抜けできる路地空間では、防犯面を考慮しなければならない。そこで、まだ自身の工房を持てない若手や、他府県からきた職人・作家の人達に貸し出す工房を点在させ、常に人の目がある状態を作る。ある職人の方に聞いた話では、昔は自分の親がサラリーマンというのよりも、町工場や何かの職人というのが多く、工芸自体が身近であったという。現在は身近から工芸は減り、興味がない限りは美術館などに中々行かない。そこで工芸を身近に感じる空間を作り、子どもだけでなく小路を通り抜ける人達にも興味を持ってもらえるきっかけを作る。

・自然素材を目と肌で触れる

昔は、今よりも工芸的な素材が身近に溢れていた。夏休みの間、色々な工芸の職人・作家の方々に「 なぜこの道を選んだのか 」 という質問をして回ったが、多かった答えが　「幼いころからその工芸が身近にあり、体験することができ興味を持ったから」であった。そこで興味が湧かなかった人は家業を継いでいない。このことから、少なからず幼少期の体験が、将来の職業に影響することが分かった。そこで、敷地内の工房に加え、建物に工芸的な自然素材を多用し、視覚的に豊かな空間を作る。将来的にこの自然素材の空間を思い出し、伝統工芸の道を将来の嫁の選択肢に加えてもらえることを目指している。また児童福祉施設の中でも、特に学童保育所はプレハブ構造の物が多く、夏や冬を過ごしにくいため、建物全般を木造で計画した。

・19 時以降の子どもの預かり

長くても１９時で学童保育所は閉まるが、仕事が長引くなど、迎えが遅くなる子どもたちを住宅群の路地空間で見守る。住宅群は西側の飛び地にあり、まだ工房を持てない若手の職人・作家の人達が、将来自身の工房、又は工房兼住宅などを構える余裕が出来るまでの、とりあえずの住まいとして活用する。敷地の一角には防犯面を考慮し、夜カフェを配置して人目の付かない薄暗い空間とならないよう計画した。

・飛び地のギャラリー

また、地域のリタイアした職人の人たちにボランティアで来てもらい、子供たちを見てもらうことも考えている。子供達とふれあい、工芸体験として職人技術を教え、老後の楽しみの場とする。その際に作られた子供たちの工芸を展示するギャラリースペースを、東側の飛び地に計画した。子どもたちの作品だけでなく、若手の職人・作家の個展としても活用する。またギャラリーの奥には茶室(待庵の写し)を設け、子ども達や地域住民が茶会をすることができる場を計画した。

・敷地内の随所を緑化

自然素材だけでなく、自然あふれる田舎と比べて街中には緑自体も少ない。様々な昆虫や花、木の実をついばむ小鳥など、日常を彩る要素を散りばめる。またグミの実や桑の実など、市販に流通していなく昔懐かしい木の実も植えている。児童館北側には渋柿を植え、柿渋作り体験などができるようにした。

地域の振興を担う商業施設の提案

学籍番号　K19232
名　前　尾関　駿
指導教員　永井　秀幸　講師

Proposals for a commercial facility promoting local community

Student Number　K19232
Name　Shun Ozeki
Supervisor　Mr.　Hideyuki Nagai

１．計画動機

まず研究を始めるにあたり、テーマを定める際、せっかく建築学部に入ったのだからこの研究では何か設計をし、社会へ提案しようと考えた。そこで「アフターコロナからの観光リバウンド」というニュースを見た際、地域の集まりとなるコミュニケーションの場の制作、これからの観光客増加による商業施設の提案、大型商業施設による地域活性についての興味が今回研究をしようと思った動機である。



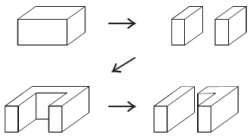
▲図１　外観パース　丹波橋通り

２．計画の目的

この計画を提案することで地域社会と大型商業施設のつながりがもたらす利点は広告効果、非商業系団体の事業化、空間の活用地域特産の取り扱いや推奨、商店街組合等の共催活動によって地域社会との協力など地域のつながりから多くの利点が生まれると考えた。

NPO 非営利組織	専門的ノウハウの活用を通じた理念実現のための事業力
既存商業者	競合意識も踏まえたうえでの宣伝効果
教育文化機関	発表・公開の場としての場所提供
農業系組織	競合意識がないうえでの商品の推奨と宣伝効果
福祉関連	労働経験の場、成果発表の機会

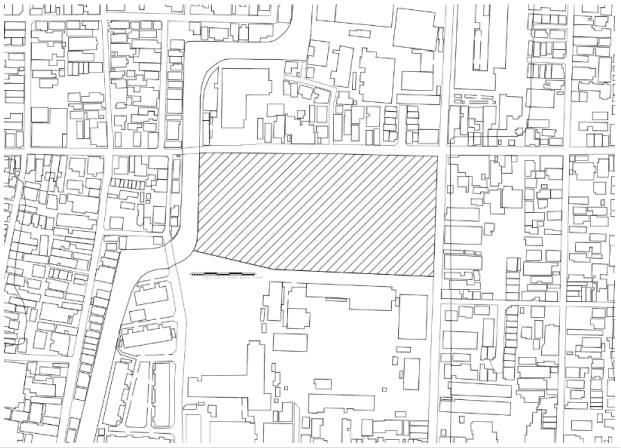
▲図２



▲図３　ダイアグラム

３．敷地の選定理由及び周辺状況

地選定理由は近くに小学校、中学校、高校、児童館がありそら㐂の関わり、近くには月桂冠の工場、記念館があり、計画に活用できるのではないかと考えた。敷地周辺は１日を通して人通りが多く、絶えることなく人が入れ替わっており丹波橋駅から歩いてくる人がほとんどであった。朝は丹波橋駅に通学、通勤として歩く人が多く、昼はスーパーマーケット利用者が多い。夕方から夜にかけてはスーパーマーケット利用者、丹波橋駅からの帰宅路として利用する人が多かった為地域の人々が集められる敷地と考えた。



▲図４　付近見取り図

▼図５内観パース　カフェスペース



▼図６内観パース　イベントスペース



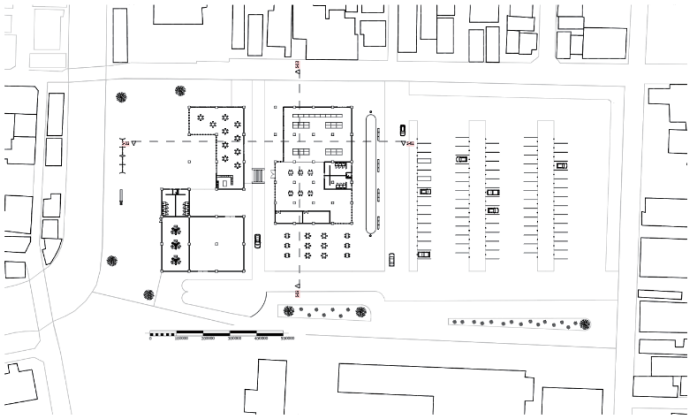
所在地：京都府京都市伏見区下板橋町６３０
主な用途：商業施設
敷地面積：13000m^2
建築面積：1500m^2
延床面積：1500m^2
キーワード：商業施設・道の駅・地域振興

Location : 630,Simoitabasityou,Kyoto,Kyoto
Main Use : Commercial facility
Site Area : 13000 m^2
Building Floor Area : 1500 m^2
Total Floor Area : 1500 m^2
Keywords : Commercial facility ,roadside station ,Regional promotion

４．計画趣旨

４－１　計画コンセプト

この計画を提案するため調査を進めていくと、大型の商業施設は人気のショップや飲食店がテナントとして入っていることが分かった。これら専門店の集客力は地域のつながりを用いた商業施設の提案とは違った要素となるため地域の顔となり「道の駅」というテーマで計画した。道の駅は地域活性化の拠点となり、「産業振興、地域福祉、交通結節点、防災、観光総合窓口、インバウンド観光促進、地方移住等促進、地域間の交流連携の促進等の取り組みが全国で行われ期待されている。」[１]



▲図７　１階平面図

４－２　計画概要

物販コーナーでの地域特産物の宣伝、販売地域非営利組織の拠点となるテナントスペースでは観光案内やワークショップなどの専門店の集客力を使わない非商業系団体のテナントを構え、地域との交流を持たせるために展示、発表の場として使えるコミュニティホールとをもたせることで地域内との交流を計画しました。

５．参考文献

[1]国土交通省道路局、重点「道の駅」の概要：https://www.mlit.go.jp/road/Michi-no-Eki/juten_eki/model02_h27.html　（参照 2023 年 1 月 29 日）

[2]京都府 HP、地域商業ガイドライン：https://www.pref.kyoto.jp/shogyo/guide_iken.html　（参照 2023 年 1 月 29 日）

[3]NPO 法人子育てネットくるみの会：http://npo-kurumi.net/　（参照 2023 年 1 月 29 日）

▼図８外観パース　公園広場部分

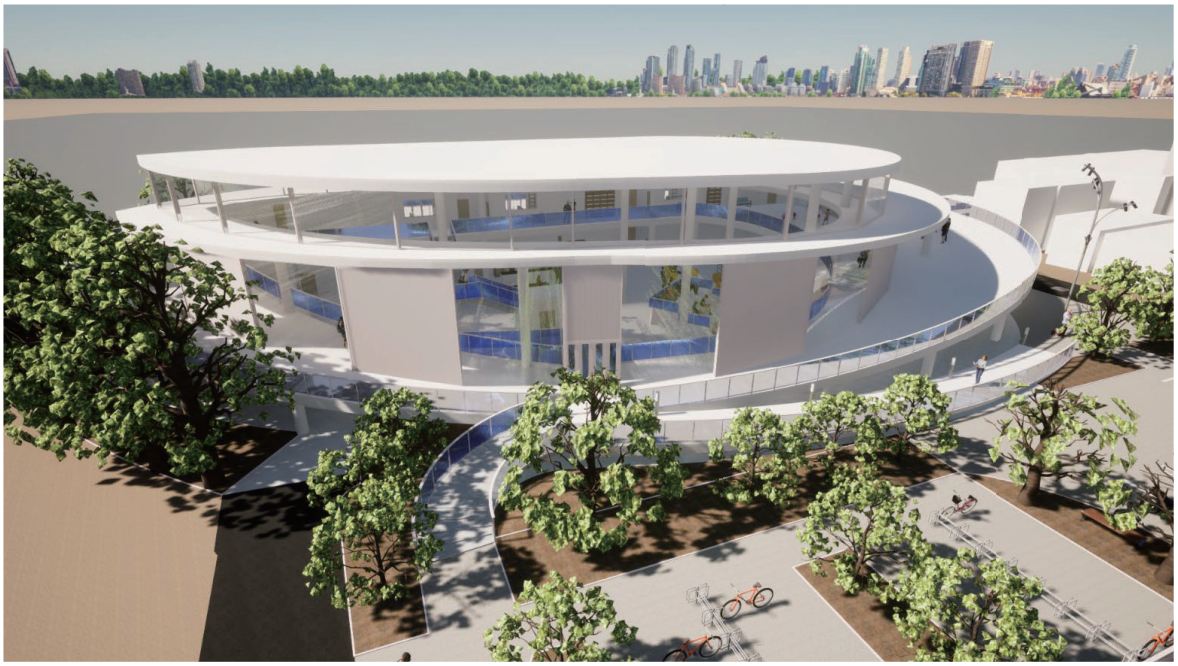


カラーパレット・タウン

学籍番号　k19233
名　　前　小名麦人
指導教員　井上晋一　先生

Color Palette Town

Student Number　k19233
Name　Mugito Ona
Supervisor　Shinichi Inoue



パース写真 1　外観

1.計画背景

近年社会問題となっている高齢化。65 歳以上人口は、総人口に占める割合の 28.4%を占めており、その中でも特にひとり暮らしの高齢者が増加している。ひとり暮らしになると、会話をする機会が減り認知症のリスクが高まるほか、孤独死の可能性も高くなる。誰かと一緒に暮らすことが必要である。

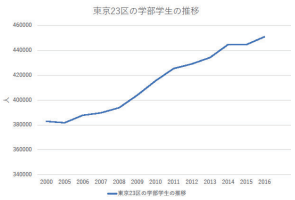


表 1　東京圏の学部学生の推移

東京 23 区の大学に通う生徒は年々増加しており、2016 年には 455,880 人となっている。国立、公立大学に通う学生の約半数は下宿やアパート暮らしをしている。私立大学に通う学生は約 3 割が一人暮らしをしている。しかしながら東京都 23 区は家賃が高く、経済的に厳しい学生も多い。学生が低家賃で安心して住むことができる環境が必要である。

2.対象地

東京都練馬区は区内面積 48 ㎢、人口約 74 万人の東京都の北側に位置する区である。区内は、西武池袋線、西武新宿線、東武東上線や都営大江戸線が通っているほか、相互直通運転を行っているため、池袋・新宿等の都心へのアクセスが良い。一方で、緑被率や農地面積は 23 区第 1 位をほこり、豊かな自然が息づく環境も両立した住宅都市となっている。

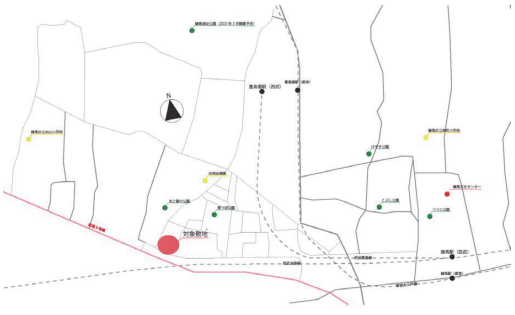


図 1　敷地案内図

3.敷地周辺の現状

敷地周辺は閑静な住宅街で、公園や幼稚園、小学校がある。最寄り駅は練馬駅でる。敷地の南側には目白通りが通っており自動車でのアクセスも良好である。また、太極拳や民謡、フォークダンスなどのサークル活動が盛んである。



表 2　練馬区の高齢者世帯の推移

令和 3 年 1 月 1 日現在の練馬区の 65 歳以上の高齢者の人口は 16 万 1 千人で、区の総人口に占める高齢者人口の割合（高齢化率）は 21.8%となっている。令和 22 年には、高齢者の人口は約 20 万 2 千人に

所在地：東京都練馬区練馬３丁目８
主な用途：シェアハウス・公民館・飲食店
敷地面積：9,800m²
建築面積：1,300 ㎡
延床面積：2,300 ㎡
キーワード：カラーパレット・個性・会話・解釈

Location : 3-8,Nerima,Nerima-ku,Tokyo
Main Use : Housing complex
Site Area : 9800 m²
Building Floor Area : 1,300 ㎡
Total Floor Area : 2,300 ㎡
Keywords :Color pallet, Conversation,

なると見込まれている。また一人暮らしの高齢者は５万４千人で高齢者の 33.3%を占めている。令和 22 年にはひとり暮らしのっ高齢者は約９万人となり、高齢者の約２人に１人がひとり暮らしとなる見込みである。

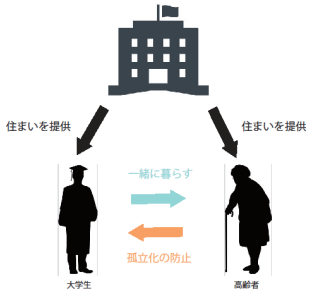


図２　ダイアグラム１

4.計画概要

ひとり暮らしの高齢者と一人暮らしの大学生のシェアハウスをもとに、地域住民が集まれる施設を併設する。運営は東京都が行い、高齢者との同居や手伝いなどを条件に大学生に低賃金で住まいを提供する。周辺住民が立ち寄れる場所や、自己学習などに使用できるゾーンを計画する。

5.計画

Color1　高齢者と大学生のシェアハウス

高齢者と大学生のひとりひとりが個性という名の色を持っている。同じ建物内で暮らし交流をしていくことで、個性と個性が混ざり合い新しい価値観や経験が生まれる。混ざる色によって生み出される色も違う。高齢者と大学生が共に生活をすることで、高齢者は孤独の解消や安心感の確保、他者がいることによる適度な刺激、生活リズムの維持などが期待できる。特に孤立化の解消は認知症の予防にも適している。大学生は孤独の解消や安心感、異世代との交流や繋がり、暮らしの知識や高齢者の暮らしぶりを学ぶ機会の確保、生活費の抑制、他者がいることによる適度な刺激や生活リズムの維持などが期待できる。

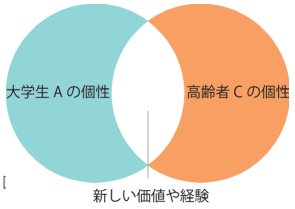


図３　ダイアグラム２

Color2　色の混ざり方

色の混ざり方は大きく分けて２つある。１つ目はパレットの上で平面上に混ざり合う方法。混ざり合う色や数を選べ、あえて混ざらない選択肢を選ぶことができる。２つ目は上から下に垂れて混ざり合う方法である。垂れることで半強制的に他の色と混ざり合う。この２つを組み合わせることで、「新しい色の混ざり方」とし、スロープと曲線で表現した。円形にスロープを設置することで上階から下階のたまり場に色が流れていく。



図４　ダイアグラム３

Color3　地域との交流

シェアハウスの寝室以外は住人の許可を得た地域住民との共有空間とする。サークル活動の発表会などができるスペースや、学生が自己学習や生涯学習にも使用できるスペース。シェアハウスの住民と地域住民が料理や会話を楽しめるキッチン・ダイニングなどを設けた。


パース写真２　上部


パース写真３　自己学習スペース


パース写真４　シアター兼発表コーナー

参考文献

練馬区.第二章　区の高齢者を取り巻く現状　https://www.city.nerima.tokyo.jp/kusei/keikaku/shisaku/kenko/koreisha/dai8kikeikaku.files/2syou-8ki.pdf
文部科学省.平成 29 年度学校基本統計　https://www.mext.go.jp/component/b_menu/other/__icsFiles/afieldfile/2018/02/05/1388639_1.pdf
菊地吉信（2016）.異世代ホームシェア事業を基軸とした地域パートナーシップ構築に向けた実践的研究. 全国勤労者福祉・共済振興協会
http://www.zenrosaikyokai.or.jp/znr_hp/wp-content/uploads/2017/04/koubo44.pdf
日本学生支援機構.平成 30 年度学生生活調査結果　https://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei_chosa/__icsFiles/afieldfile/2021/03/09/data18_1.pdf
※すべて 2023 年１月 28 日閲覧

これからの三世帯住宅
学生番号 K19234
名前 小野優声
指導教員 河村大助

Triplex house
A college register number: K19234
The name: Yuchika Ono
An instructor: Daisuke Kawamura

背景と目的

日本では高齢化により独居老人が増えたことで、自宅で一人亡くなってしまう孤独死が増えている。そして今や老人だけでなく、孤独感を抱える人の 4 割を超えるとされている 20 代といった若い世代の自殺者も少なくない。コロナ禍ということもあり、誰にも相談 出来なかったり、会えない状況化が続く。そんな孤独感を埋めるためにも必要なのが一番身近にいる家族であると考えた。三世帯住宅を視野に入れることで、少しでも救える人たちが増えるのではないかと考え計画した。

敷地

大阪府高槻市昭和台町 2 丁目



敷地面積

約 2,030.15 m²

設計概要

茨木市と高槻市の狭間にある場所。昭和台町という場所は、 住宅街が多く存在し、駅からも近く、暮らし続けやすい町となっている。

敷地の特徴

敷地選定した場所から阪急総持寺駅までは徒歩 5 分。近年できた JR 総持寺駅まで 13 分。敷地周辺にはスーパーや、病院、コンビニまで揃っているため、車を所持していない若者から高齢者まで暮らしていける場所となっている。

家族構成（例）

・祖父、祖母。　・父、母、娘。　・兄、兄嫁、子供二人。

三世帯住宅のメリット

まず介護や育児をサポートしやすい点が挙げられる。祖父母世帯＋親世帯＋子世帯 の組み合わせの場合、子世帯も介護をサポートすることで、老々介護を避けることができ、一人ひとりの負担が軽くなる。 また、夫の親世帯＋妻の親世帯＋子世帯の組み合わせの場合、夫の親と妻の親の関係が良好であれば、交流によって心のケアが図れるかも知れない。育児のサポートという意味では、二世帯住宅に比べて育児にかかわる人が増える分、手厚いサポートが期待できます。例えば、親世帯＋兄（姉）世帯＋弟（妹）世帯の場合、兄の子どもの面倒を弟夫婦がみることも、その逆も可能。また、兄弟・姉妹の子ども同士の年が近ければ、一緒に遊ばせることもできる。

将来性を見据える

三世帯住宅は、そこに暮らす家族の状況の変化によって生じる。どの組み合わせの三世帯住宅も、ずっとその三世帯が住み続けられるとは限らない。高齢の祖父 母世帯との組み合わせはもちろん、兄弟・姉妹との三世帯や、夫の親世帯＋妻の親世帯との三世帯の場合でも、何らかの理由で、一世帯分が空いてしまうリスクは、二世帯住宅以上に高いだろう。また、三世帯住宅は、売却しにくいというデメリットもある。そのため、空いた部屋をそのままにして住み続けるか、賃貸にするかのどちらかが現実的な選択肢が主となります。ですが、これらのことを踏まえてこれまで住んできた人たちが去っていった後でも土地を活用できるように計画する。



スポーツコミュニティーが織りなす建築

学籍番号　K19236
名　　前　片山　輝昭
指導教員　人見　将敏

Architecture woven by the sports community

Student Number K19236
Name Katayama Teruaki
Supervisor Hitomi Masatosi

1、はじめに（計画の背景）

・計画を行うに至った経緯

2022 年 3 月末に私の家の近くの向日市民温水プールが老朽化により閉館した。本プールは、私もずっと利用してきた施設であり、また、閉館までの中で多くの市民がプール継続を望み、署名活動を行っていたが、継続には至らなかった。そこで、同市内に、上記プールに代わるスポーツ施設、広場の提案を行う。

2、敷地について

2-1、向日市について

京都府向日市は京都市の南西に位置し、西日本で一番、全国で三番目に小さな市である。

向日市の人口は 2013 年 9 月から現在までで増加傾向にある。向日市の年齢構成は、0~14 歳が 13.8%、15~64 歳が 59%、65 歳以上が 26.9%であり、超高齢化社会と言える。向日市の主な施設として、向日市民体育館、向日市観光交流センター「まちてらす MUKO」、京都向日町競輪場などがある。

また、向日市の有力な企業として世界的な総合モーターメーカーの日本電産株式会社がある。



図 1　向日市の位置

2-2、Nidec　-日本電産株式会社-について

日本電産株式会社は、1973 年（昭和 48 年）7 月 23 日に設立された世界 No.1 の総合モーターメーカーであり、京都府京都市南区に本社を構える。精密小型から超大型までのモーターなどを幅広く扱い、世界各国に拠点を持つ。

代表取締役会長兼最高経営責任者の永守重信は出生地が京都府向日市であることから、向日市に恩返しをしたいと考えている。現在、京都府向日市森本町に新たな施設を建設し、周辺敷地一帯（道路を含む）を含め開発を行っている。今後も第二本社ビル、A 棟、B 棟、広場や住宅を広大な敷地内に建設予定である。

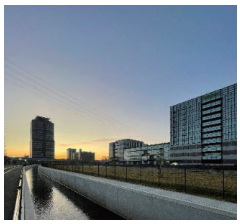


図 2　河川（現在）

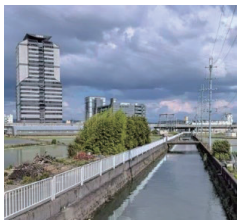


図 3　河川（過去）

2-3、計画敷地とその問題点について

今回の計画では、上記の日本電産が開発する敷地に隣接した場所を、対象敷地とする。敷地の周辺には JR 向日町駅、阪急東向日駅があり、現在でも駅に向かう学生や日本電産の会社員などにより人の流れが多い。また、敷地周辺には国道 171 号線や東海道新幹線が南北に通っている。

図 4 のように、日本電産の新棟は、田んぼや住宅の広がっていた土地に 2030 年までに高層の 4 棟が建設される。現在建設が終了している C 棟は 10 階建てで最高高さが 51mある。

しかし、その計画が完了したときには、これまでののどかな雰囲気が壊れ、建物の高さなどの比率がおかしくなると私は考えた。現にC棟だけで町の景観が一変した。



図 4　敷地周辺の将来イメージパース

3、計画の内容

上記の問題点から、私は、この凸凹な風景を和らげるため、また、地域住民や向日市民、京都市民などが交流できる場をビルと住宅の間の敷地に計画する。

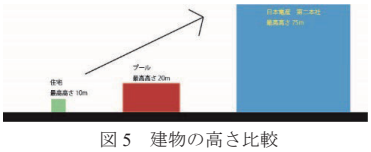


図 5　建物の高さ比較

3-1、コンセプト

① **コミュニケーションをとる。**施設の利用者同士によって、様々なコミュニティーを形成しやすいように計画する。

② **見る。**敷地内のスポーツ施設の様子をどこからでも観戦しやすいように計画する。

③ **市民に還元する。**敷地内に日本電産社員のみならず、向日市民が利用しやすい施設を計画する。

④ **建物の高低差を和らげる。**南の住宅側から北のビル側に向けて、敷地内の建物の高さをあげていく。

所在地：京都府向日市森本町春日井
主な用途：スポーツ施設
敷地面積：12,100 ㎡
建築面積：6,400 ㎡
延床面積：7,300 ㎡
キーワード：スポーツ、コミュニティー、景観

Location : 617-0003,Morimotocho,Muko,Kyoto
Main Use : Sports Facilities
Site Area : 12,100 m^2
Building Floor Area : 6,400m^2
Total Floor Area : 7,300m^2
Keywords : Sports, Community, Scenery

3-2、用途・規模

対象敷地に建設する建物の用途としては、屋内プール、フットサルコート、ビルドアップセンター、トイレⅠとする。ビルドアップセンター内には、カフェや図書館なども併設する。それらの施設を通して、一緒に練習し、また教えあうことで様々な世代との交流が図れるようになることを目指す。対象敷地に計画する施設は以下の表のようになる。

用途	形式	延床面積（㎡）	その他詳細
屋内プール	鉄骨造	4,151	平屋建て、最高高さ 20.5m。プール（2,400 ㎡）→メインプール：25m×7 レーン（水深 1.2m）・サブプール：25m×7 レーン（水深 1.0m） 幼児プール：25m×4 レーン（水深 1.0m）、平場（水深 0.6m）、平場（水深 0.3m）。 ギャラリー（431 ㎡）、エントランス（360 ㎡）、更衣室（432 ㎡）、事務所（96 ㎡）、倉庫（144 ㎡）、トイレ（48 ㎡）、機械室（240 ㎡）
フットサルコート		1,050	最高高さ 4.5m（柱：コンクリート）。コートサイズ：縦 20m×横 38m（人工芝）
ビルドアップセンター	鉄筋コンクリート造	2,088	二階建て、最高高さ 14m 一階　→　劇場（270 ㎡）・事務所（144 ㎡）・自由空間（144 ㎡）・カフェ（180 ㎡） 二階　→　図書館（144 ㎡）・ダイニングキッチン（72 ㎡）・ルーフバルコニー（360 ㎡）・ベランダ（72 ㎡）・トイレⅡ（108 ㎡）
トイレⅠ	鉄筋コンクリート造	100	平屋建て、最高高さ 4.35m。男子トイレ・女子トイレ・多機能トイレ

表１　計画建物の詳細

3-3、計画の特徴

積極的な人も積極的でない人も「コミュニケーション」を取るために、動的なスポーツ施設、静的な図書館・ダイニングキッチンを計画した。

敷地外から「見える」ように道に沿ってギャラリーを。スポーツ施設をビルドアップセンターから「見やすい」位置に計画した。

「向日市民」の多くが継続を望んだプールを計画した。また、一日を施設で過ごせるようにダイニングキッチン、ルーフバルコニーなどのくつろげる空間を多く計画した。

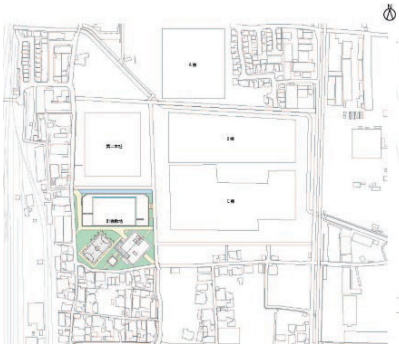


図６　敷地案内図

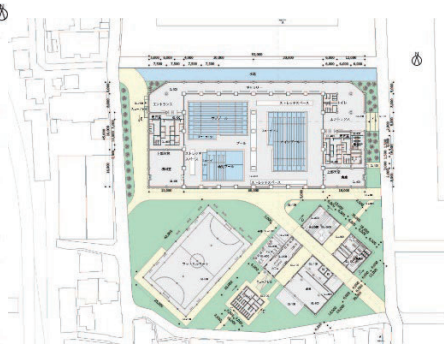


図７　一階平面図兼配置図

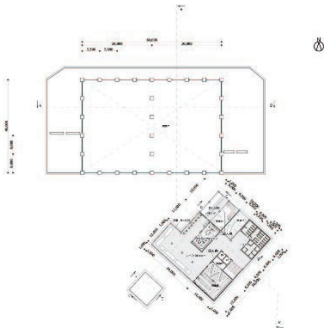


図８　二階平面図



図９　内観パース



図 10　外観パース

図 11　A-A‘断面図

参考文献：
https://www.nidec.com/jp/
https://www.city.muko.kyoto.jp/kurashi/index.html
https://activel.jp/volleyball/n6Tc6
https://www.sskamo.co.jp/futsal/rule/size.html

図版出典：
図１　Google Maps より
図２　筆者撮影
図３　マップ（携帯アプリ）のストリートビューより
図４　https://www.nidec.com/jp/より

～環境学習を主とした食育施設の提案～

学籍番号　K19237
名　　前　片山　綾花

~ Proposal of food educatio facility mainly for environmenta learning~

Student Number K19237

1.はじめに

本計画は、現在、国全体で問題視されている有害鳥獣による農作物の被害に対し、幅広い世代が正しい知識を身につけるための環境学習施設の提案である。また、現在抱えている問題の解決策として注目されているジビエの認知度を高めることが目的である。

主要な施設建物は「環境学習施設」であり、敷地は自然とアクティビティに富んだ琵琶湖と比良山の中間地点に位置する。

2.背景・目的

2-1　滋賀県の環境学習施設の現状

滋賀県は、びわ湖や多くの山々があり自然豊かな土地である。そのため他県に比べ数がとても多く、目的が異なる様々な施設が整備されている。しかし、他県と異なり「食」について学ぶことが可能な施設は少ない。そこで、本計画では農作物の被害という環境問題の解決策として注目を集める「ジビエ」という食の分野を絡めた、環境教育をテーマとする食育施設を提案する。

2-2 環境問題とジビエ

近年、有害鳥獣による農作物の被害は、重大な環境問題として捉えられている。農家の年間被害額は約 1 億 2000 万円にものぼる。また、ニホンオオカミの生息数の減少、猟師の高齢化による人手不足により、シカやイノシシの生息数が増加している。それらを解決する手段として「ジビエ」が注目されている。「ジビエ」とはフランス語で、野生動物の食肉を意味する。ジビエは、単に増えすぎた野生動物を殺処分するのではなく、食用肉として有効活用することが可能である。しかし、ジビエにはいくつかの問題を抱えている。

2-3 ジビエが抱える問題点

ジビエ料理が抱える代表的な問題は「認知度の低さ」、「有害鳥獣に対するマイナスイメージ」である。

まず、認知度についてだが、ジビエ料理の認知度調査では 20 代から 70 代までの認知度は全体で 62%である。20 代においてはジビエ料理の認知度は 50%を切っている。その原因として考えられるのは、ジビエ料理を提供している飲食店や販売所がことである。幼いうちからジビエに関わる機会はとても少なく、大人になってからも取り扱う店舗が少ないため、若者の半数以上がジビエ料理を認知していないと考えられる。

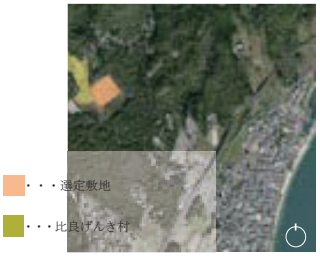
次に、有害鳥獣に対するマイナスイメージである。有害鳥獣に くの人々に危害を加えるため、「恐怖」、「危険」、「害悪」などの イメージが定着している。また、食肉としても強い臭みがあると イメージがあるため、食べず嫌いする人も多い。これらがジビエ に対するイメージが悪い原因と考えられる。

2-4　問題点の解決策

こうした問題の解決策として必要な取り組みは、年齢に関係 ジビエに触れられる機会を設け、多くの人に「ジビエ」を認知し らうことである。認知度が高まることで、実際にジビエを手に取 入する人が増えれば、周囲の人にもジビエへの関心が広がり、さ 認知度が高まると考えられる。また、認知度が高まることで今ま いていた有害鳥獣に対するマイナスイメージを払拭できるのでは いかと考える。

3.計画敷地について

計画敷地は、滋賀県大津市北小松にある比良げんき村の多目的 である。この土地の特性として、比良山の山間部に位置していな 麓の街や琵琶湖に近く、JR 湖西線北小松駅までは徒歩 15 分ほど 離である。また、自然豊かなことと、琵琶湖に水泳場や港もある 周辺地域ではアウトドアアクティビティが盛んである。この比良 き村では登山、キャンプ、アスレチック、木工体験、天体観測、 ーツクライミングといったアクティビティを体験できる。敷地選 由としては、周辺地域には野生動物がよく出没し、実際農作物の も出ていることがあげられる。また、滋賀県の大津市は滋賀県の もジビエ料理の有名店が集まっているため、両方の土地柄からこ 地を敷地に選定した。





所在地：滋賀県大津市北小松 1769-3
主な用途：公園広場/環境学習施設/カフェ/アウトドアショップ
敷地面積：7,800m²
建築面積：2,318.57m²
延床面積：2,318.57m²
キーワード：比良山　公園　野外活動

Location : 1769-2,Kitakomatu,Otsu City,Shiga Prefecture
Main Use : Park/Environmental learning facility/Café/Outdoor shop
Site Area : 7,800 m²
Building Floor Area : 2,318.57 m²
Total Floor Area : 2,318.57m²
Keywords : Mt.Hira Park Outdoor activities

表 1　敷地概要及び現在施設用途

敷地面積	7,800 ㎡
標高	170m
現状の使用用途	クライミングウォール、キャンプ場、公園広場、宿泊施設、天体観測施設、木工工房

4.設計趣旨

計画敷地である比良げんき村の多目的広場は標高 170m に位置し、北小松の町並みから琵琶湖、対岸の山々を望むことが出来る場所である。また、上部にある公園部分では、視線を遮るものも無いため、より高い位置から景色を眺めることが可能である。私はその景観を残したいと考え、公園部分から視線を遮らず見下ろすことが出来る高さに設計を行なった。そして、視線に入る際、建物存在感を無くすため、植栽をあしらった屋上庭園を設け、少しでも自然に溶け込むように設計しました。また、計画敷地からは今までの景色と屋上庭園の少し高い位置から景色を眺められるように設計を行なった。


図 3 計画敷地からの景色


図 4 公園部分からの景色

5.設計概要　　表 2　設計の概要

住所	滋賀県大津市北小松 1769-3 比良げんき村多目的広場	敷地面積	7,800 ㎡
建築面積	2,318.57 ㎡	延床面積	2,318.57 ㎡
容積率	29.73%	建蔽率	29.73%
構造	RC 造	階数	地上 1 階　屋上
最高高さ	8,800mm		

6. 設計内容

①ジビエとアクティビティが交わる施設

アクティビティの充実した場所であるため、ジビエをアクティビティに活かすことが可能である。例えば、ジビエ肉は栄養バランスが非常に良く、健康食、ダイエット食として注目を集めている。そのため、クライミングや登山目的の利用者の間食などとして利用できる商品や、ジビエから採れるレザーを用いたアウトドア用品などを取り扱う販売店を設置する。

②カフェ、アウトドアショップの計画

敷地周辺にはコンビニエンスストアや、スーパーマーケット、飲食店が非常に少ない。そのため、食事には弁当を持参するか、北小松駅近くのレストランを利用するしかない。そのため、この土地は利便性が悪いと考える。比良げんき村の利用者は子連れや、学生、登山客などが多いため、イートイン、テイクアウトどちらにも活用できるカフェを設置する。

計画敷地は大型のクライミングウォールと登山道、キャンプ場が設置されているが、アウトドア用品を取り扱う店舗が周辺にはない。また、クライミング用品を取り扱う店舗は滋賀県内に数軒しかない。したがって、アウトドアショップの設置はかなり有意義であると考えられる。初めて家族でキャンプに訪れる人々や、友人とバーベキュー場を訪れる人々たちなどの助けにもなる他、本格的に登山やクライミングを目的に訪れる人や、ここのクライミングで興味を持った人たちが、すぐにその場で用品を手に取り購入できる。


図 5　1 階平面図

参考文献

1、 しがジビエガイド(2021 年 03 月)
発行:滋賀県自然環境保全課鳥獣対策室
2、 https://www.maff.go.jp/j/nousin/gibier/attach/pdf/jirei-13.pdf
ジビエ利活用の取組事例集 (最終閲覧日 2022 年 12 月 20 日)
3、 https://www.maff.go.jp/j/nousin/gibier/
農林水産省:ジビエ拡大コーナー (最終閲覧日 2022 年 12 月 30 日)
4、https://hira-genki.com/facilities.html
比良げんき村 HP (最終閲覧日 2023 月 1 月 23 日)

音とつなぐ

学籍番号　k 19238
名　　前　金澤世名
指導教員　森重幸子

Connect with sound

Student Number　k 19238
Name　Kanazawa sena
Supervisor Morishuge sachiko



俯瞰図

１．設計の目的と背景

近年、世界各地で新型コロナウイルス感染症が拡大し、対抗措置として全国的な行動制限を実施したイタリアでは、各地の住民が次々に窓辺に立ち、歌を歌い、楽器をお互い弾き士気を上げていた。また日本では、自宅にいる時間が多くなり、楽器を演奏する人が増えた音楽は生活の一部でもあり、人々の支えにもなり、人同士の対話がなくても、交流が生まれる。ロックダウンを経験したことで、音楽の重要性が再認識されている。実際に私にとっても音楽は生活の一部であり、いい刺激を与えてくれる存在でもある。日々の暮らしに欠かせないものだ。そのため新たな提案として音楽が楽しめる住まい・街づくりの計画をすることで音楽を通じて多様な人と自然と交流が生まれることを目的としている。

２．敷地

敷地は大阪府豊中市服部西町のふれあい緑地５街区を選定した。最寄り駅は服部天神駅で徒歩１２分の距離である。周りには、ドッグランや公園、野球場などがあり音を出しても迷惑にならない場所である。川や木々か立ち並んでおり自然を感じられ景色も良好である。徒歩１３分の距離には、大阪音楽大学、ヤマハショップ、オペラハウス、音楽院などがある。



図１　敷地図

３、設計概要

集合住宅、シェアハウス、カフェ、屋外ステージの４つのエリアに分けて計画した。集合住宅は４個計画し、それぞれの建物に対して楽器を演奏できるスペースを計画した。シェエハウスは、二階建ての個室を３０室計画し音大生や音楽好きを対象としたシェアハウス計画した。一階には、防音室を２部屋計画しシェアハウスの住人がいつでも使用できるように計画した。屋外ステージは、メインステージ一つとミニステージを２つ計画し、イベントや普段の練習場所として使用できるようにした。カフェは、楽器を演奏できるコーナーを設け、体験できるように計画した。

所在地：大阪府豊中市服部西町
主な用途：住宅、カフェ、屋外ステージ
敷地面積：8826m^2
建築面積：1700m^2
延床面積：3324.09m^2
キーワード：街づくり・音楽・ランドスケープ

Location : Osaka Prefecture Toyonaka City Hattori Nishimachi
Main Use : housing、café、Outdoor stage
Site Area : 8826m^2
Building Floor Area : 1700m^2
Total Floor Area : 3224.09 m^2
Keywords : Urban Development、Music、landscape

4，配置計画

配置を計画するにあたって屋外ス、テージは、人通りの多い南側と西側の左端に設けたのと、音の広がりが中心に向くように配置した。カフェは、住宅街のある北側とドックランのある西側に面して配置し、地域の住民などが気軽に立ち寄れる配置を考慮した。集合住宅とシェハウスは北側と東側が住宅なので馴染む位置に配置した。

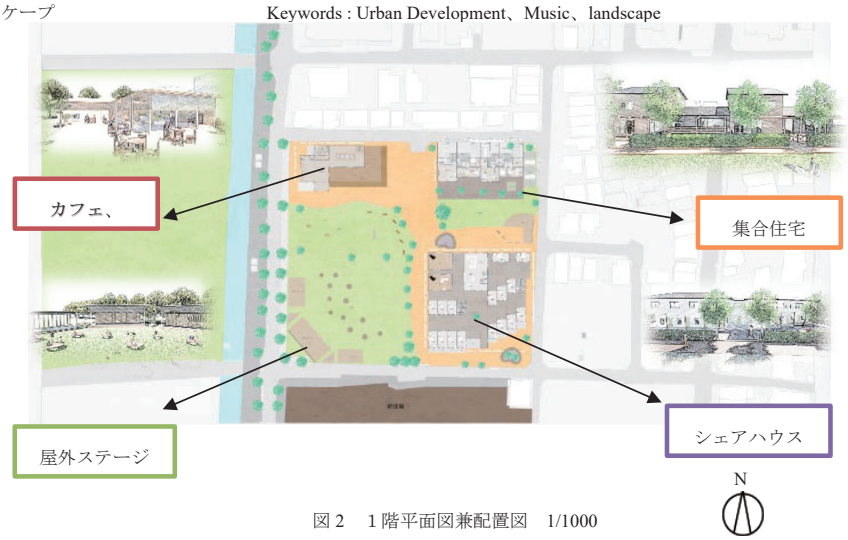


図２　１階平面図兼配置図　1/1000

5、集合住宅



図３　一階平面図　1/300



二階平面図　1/300



音楽ホール　ミニステージ　土間スペース　フリースペース　音楽ルーム

6，屋外ステージ

普段は誰でも利用できるステージで、月に１回音楽のイベントを行える場所である。音大生の練習にも利用できたり、発表会を開いて街の人や地域の人たちに聞いてもらいながら演奏することが出来る。ステージの周りには、くつろげる椅子を沢山設けて、そこで、演奏を聞いたり、周りの人々とコミュニケーションをとることを想定して計画している。



図４　　屋外ステージパース

いちほまれ　米文化による交流

学籍番号 K19239
名　　前　　上谷涼馬
指導教員　　井上晋一　先生

Ichihomare　Exchange through rice culture

Student Number　K19239
Name　Kamiya Ryoma
Supervisor Inoue Shinichi



図（1）全体パース

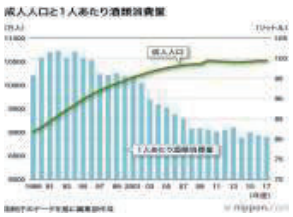
計画背景と目的

まず、いちほまれというのは、コシヒカリを福井県独自に品種改良し、作られたブランド米のことである。ブランド戦略としては、若者に米食を進めることや和食の素晴らしさを全国に広めようとしている。しかし、近年、日本のお米は様々な問題を抱えている。例えば、若者の米離れや日本酒離れが起き、昭和 37 年度の米の消費量が 118 kgに比べ、令和 2 年度は 50. 8 kgと半分以下まで減っている。しかし、ウクライナとロシアの戦争によって小麦の物価高騰により、米食の注目が高まっている。

今回の目的は、コシヒカリの発祥の地であり、ブランド米戦略を掲げる地元の福井県で周辺の自然を利用して、田植え体験から日本酒の試飲まで様々な米文化の体験ができる施設を計画する。大学生や休暇を自然の中で過ごすアグリツーリズムの人や外国人観光客たちが農家と食や景色を通して交流し、稲作の魅力と米の価値を再確認する体験施設を提案する。



表（1）米の消費量



表（2）成人の日本酒の消費量

対象敷地

福井県坂井市丸岡山口の竹田という農山村で計画する。竹田は一級河川竹田川の上流に位置し、水車メロディーパークやたけくらべ広場をはじめ、観光客が訪れる場所がいくつも点在している。しかし、里山であることから、少子高齢化や人口流出によって人口が減少している。そこで、竹田 T キャンプという県内外の大学生と地域住民の協働によって毎年様々なイベント事を行っているが、米文化を普及させる意味合いは薄い。福井の中でも自然豊かな土地を使い、米どころ福井をもう一度復活させることで過疎化や米離れが解決できると考える。



図（2）敷地地図

所在地：福井県坂井市丸岡山口
主な用途：農業体験交流施設
敷地面積：4,660 ㎡
建築面積：1,500 ㎡
延床面積：1,442 ㎡
キーワード：農業・大学生・農業体験・観光客と農山村との交流・酒蔵・稲作

Location : Yamaguchi　Maruoka Sakai Sakai city Fukui
Main Use : Agricultural Experience Exchange Facility
Site Area : 4,660 ㎡
Building Floor Area : 1,500 ㎡
Total Floor Area : 1,442 ㎡
Keywords : Agriculture, university-student, Agricultural experience, Alternating current, Sake, rice cultivation

米の量と広さ

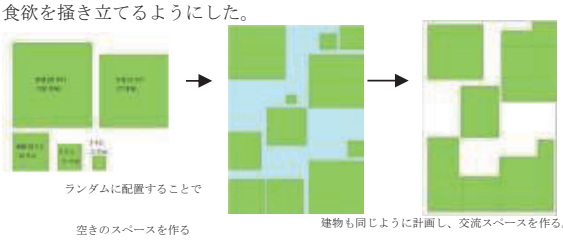
米の重さは 1 粒当たり 0.02 g ぐらいであり、一株当たりの稲穂数は 22 本、一穂当たりのもみ数は 71 粒として田んぼの広さを考えると、1 ㎡の株数を 20 株とすると、1000 ㎡あたり 500 kgである。

日本酒について

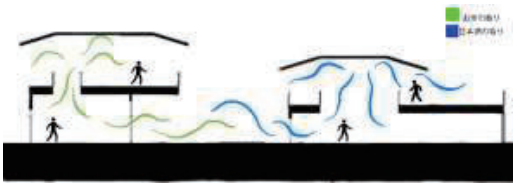
福井県は米どころであり、酒造の数が多いので、そこから運ばれた日本酒を貯蔵し、福井の清酒の美味しさを知ってもらうために酒蔵にした。日本酒を貯蔵する際に使われるタンクは 9 kℓのタンクを使用する。

設計概要

図（3）のダイアグラムは、それぞれ販売されているお米の量を元に田んぼの大きさを決め、ランダムに配置することでいくつかの空きのスペースを作る。そこで、休憩することによって交流が生まれる。体験する際も訪れた人たちが自由に広さを決めることができるので、より日本の米について知ることができる。建物でも同じようにすることで全体の統一感を持たせた。そして、図（4）ダイアグラムは、試食スペースの上に吹き抜けを作り、屋根を設けることで炊き立ての米の香りや日本酒の香りがテラス全体に広がり、日本人の本能を刺激し、食欲を掻き立てるようにした。



図（3）ダイアグラム



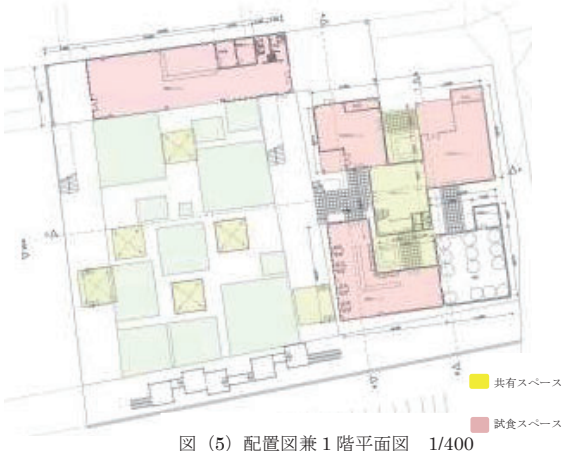
図（4）ダイアグラム



図（5）A-A`断面図　1/600

設計概要 2

すべての体験ができるようにそれぞれの場所から試食スペースに行けるようにした。階段を多く配置し、レベル差を設けることでアクティブ要素が生まれ、景色が変わらない田んぼ道でも上下が加わることで違う景色を見ることができる。



図（5）配置図兼 1 階平面図　1/400

設計概要 3

2 階のテラスのパースは、建物と田んぼの関係性を表しており、例えば、体験している人や田んぼの景色を見ながら、談笑したり、ゆったりできる空間にした。図（4）ダイアグラムのように吹き抜けからいい香りが広がるので、より談笑が意味のあるものになってくると考える。



図（6）テラスのパース

参考資料

日本人のお米離れが進んでいる？
https://smartagri-jp.com/food/4173
お米の量と田んぼの広さ
http://gogolesson.jugem.jp/?eid=128
酒造工場設計の注意点
福井県　ホームページ　いちほまれ
お米の香りと日本酒の香り
https://isego.net/blog/2020/06/713/

New CHARM

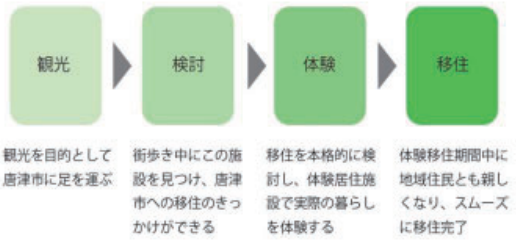
学籍番号　K19240
名　　前　蒲原紀子
指導教員　新海俊一

１　はじめに

自然豊かな佐賀県唐津市は、城下町としての長い歴史を持つ魅力的な街である。唐津市には大学がないため進学や就職を機に市外へ転出する若者が多く、近年県内の他市と比べ老年人口の割合が高まっている。これを受け市は都心からの移住に力を入れ移住者支援制度を拡充している。これに着目し、本計画では「唐津焼」をテーマとした移住促進センターの設計提案を行う。

２　背景と目的

今回唐津市への移住につながる施設を提案する上で調査を行ったところ、唐津市ではすでに体験居住施設を通して移住への具体的なイメージを深めることができる環境が整っていた。しかし、体験居住施設は移住する事をある程度決めている人々が最終的な判断をするための施設として捉えられているように感じた。唐津市は自然や食、歴史など観光資源も豊富で、隣県の福岡市からのアクセスも良く観光地として訪れる人々もいる。そんな人々に対して唐津市でへの移住を決意する一助となるような施設を設置するために、この移住促進センターを提案する。



【図１】　移住促進ダイアグラム

３　調査結果

３－１　唐津市の移住者支援制度

唐津市は東京圏からの移住・定住を促進するため、東京 23 区に在住または通勤していた人のうち、唐津市に移住し、就業または起業などを行った人に対して補助金を交付している。また空き家バンク制度を導入しており、空き家バンクに登録されている物件に入居者が決まるとその物件の改修費の補助を受ける事ができる。

３－２　唐津焼

唐津焼の起源は諸説あるが、室町時代末から桃山時代にかけて岸岳城城主波多氏の領地で焼かれたことが始まりとされている。その後、豊臣秀吉による朝鮮出兵の際に朝鮮陶工を連れて帰り、その陶工たちが各地で窯場をつくり焼き始めたことで、唐津焼の生産量は拡大した。現在では７０以上の窯元が市内に点在している。唐津焼の特徴はほかの産地に比べ種類が多いことである。土の性質や釉薬、技法などにより分類され、現代的な感覚を取り入れた若い作家も現れている。また、毎年４月２９日から５月５日には「唐津やきもん祭り」が開催されており、街の空き家を利用して展示会や即売会だけでなく、飲食店と協力したグルメイベントなども開催される。

３－３　体験居住施設

現在移住促進のための支援施設として利用されている体験居住施設「根の家 ROOTHAUS」は唐津市半田に位置し、NPO 法人唐津 FARM&FOOD によって運営されている。2016 年から 5 年間で 100 組 165 名が体験移住に参加している。体験移住中に地域住民や先輩移住者との交流ができ、農業やボランティアを通してリアルな唐津暮らしを体験することができる。

４　設計概要

４－１　設計趣旨

今回設計する「New CHARM」は、移住促進を目的とする体験居住の前段として利用する複合施設として提案する。Charm とは、「人を引き付ける魅力」「魔法をかける」という意味がある。この施設をきっかけに県外からの利用者や地域住民などが唐津市の新しい魅力を発見し、移住を考えるきっかけをつくるという願いを込めている。施設内の具体的なプログラムは、移住についての情報セ

New CHARM

Student Number　K19240
Name　Noriko Kamohara
Supervisor　Shunichi Shinkai

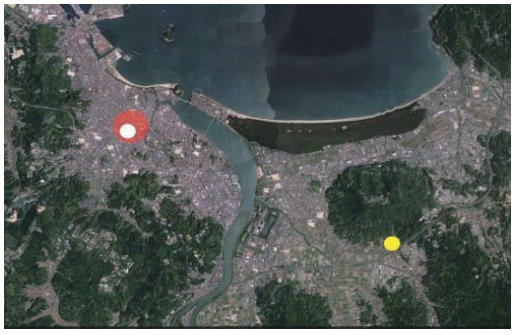
ンター、カフェ、陶芸教室、ギャラリー、屋上庭園である。唐津市の新たなコミュニティ施設として、外部からの観光客だけでなく市民も親しみを持って集い、既存住民と移住検討者の支援拠点として利用できる機能を計画する。

４－２　概要情報

所在地　　佐賀県唐津市新興町 27
主な用途　複合施設　　敷地面積　2,137.5 ㎡
建築面積　680.0 ㎡　　延床面積　1,264.0 ㎡
階　　数　地上３階　　構　　造　RC 造

４－３　敷地

今回提案する施設は、唐津市への移住を検討するきっかけづくりの場として計画している。そのため、移住促進面でのターゲットは主に観光客である。計画敷地の選定理由として、唐津市を訪れる人々の多くが JR 唐津駅、唐津バスセンターを利用する事を踏まえ、唐津市への移住のきっかけを提供するというコンセプトから、交通アクセスの良い場所でこの施設自体に興味を持って足を運んでもらう必要があるためである。現在利用されている体験居住施設「根の家 ROOTHAUS」は市街地から離れており、唐津市民でさえその存在を知っている人は少ない。唐津市の中心部にこの施設を設置することで、市民が市外からの移住促進に興味を持つきっかけにもつながり、唐津市全体で移住促進を盛り上げることにつながると考える。



【図２】　唐津市航空写真　出典『Google Earth』

４－４　プログラム

①　移住についての情報センター

この施設の目的は唐津市への移住のきっかけづくりであるため、観光で訪れただけでは感じることのできない唐津市の奥深い情報提供ができる街の人々に曜日を決めて駐在してもらう。普段は地域コミュニティ施設としても利用できるよう、子育て支援の情報収集の場としても機能する。

②　カフェ

唐津焼の大きな魅力として「用の美」を備えることがあげられる。料理を盛る、茶を入れるなど使ってこそ作品が完成するといわれている。カフェでは実際に唐津焼を使って提供し、観光客だけでなく市民にも日常的に唐津焼に触れることを意識してもらう。また、毎年行われている「唐津やきもん祭り」の際には、協力店舗としてグルメイベントに参加し、街おこしに貢献できる場所とする。

③　陶芸教室

唐津焼の窯元作家と協力し、定期的に陶芸教室をひらく。市内の 70 ある窯元で、調査できた 58 件の窯元のうち体験教室を行っているのは 15 件のみであった。この体験を通して観光客がこの施設に立ち寄るきっかけづくりにもなり、同時に唐津焼の普及にも繋がる。

④　ギャラリー

半屋外空間の壁際にオリジナルの飾り棚を制作し、有名窯元作家の作品はもちろん、陶芸をもっと気軽な存在として認知してもらえるように、地域住民の作品や陶芸教室で制作した作品なども希望があれば自由に展示することができる。施設の中でも外部から目を引くオープンな計画とし、施設に立ち寄るきっかけになるよう工夫した。

【参考文献】

⑴　中山徹（2010）『人口減少時代のまちづくり―21 世紀＝縮小型都市計画のすすめ』自治体研究社
⑵　鹿島光一（2012）『唐津：都市の再編－歩きたくなる魅力ある街へ』鹿島出版会
⑶　唐津市ホームページ（最終閲覧日 2022/12/21）
https://www.city.karatsu.lg.jp/iju-teiju/kurashi/teju/uji/ijushienkin.html
⑷　唐津焼窯元（最終閲覧日 2022/11/21）
http://karatsuyaki-kamamoto.jp/index.html

集まったり集まらなかったり

～教科センター方式を用いた中学校の統合計画～

学籍番号　K19242
名　前　衣川　尚輝
指導教員　江本　弘

Gather or Not Gathered -Integration of junior high school with departmentalized classroom system-

Student Number　K19242
Name　Kinugawa Shoki
Supervisor　Emoto Hiroshi

設計趣旨

本計画では河合町立の二つの中学校の統合計画を行う。両校はもともと一つの学校であったが、1975 年に分離独立し現在の分離独立し現在の学校運営状態となった。敷地周辺の住宅街は 1960 年後半に再開発が行われましたが、2000 年からは人口減少が始まり、現在では最盛期の約 20,000 人から約 3,000 人減少し約 17,000 人となっている。少子化の影響もあり、両校ともに文部科学省が定める標準規模の学校規模に届いておらず、一学年に一学級のみ存在する年が存在する。これは人間関係にトラブルが生じた際などにクラスを分けるといった対処法が取れないなど、うまくいった際には団結力のある学年となることが考えられるものの、大きなデメリットを持っている。

そのため、本計画では学校規模適正化とともに生徒を中心としてさまざまな交流の輪の発生を促す空間を提案する。



◀敷地周辺図

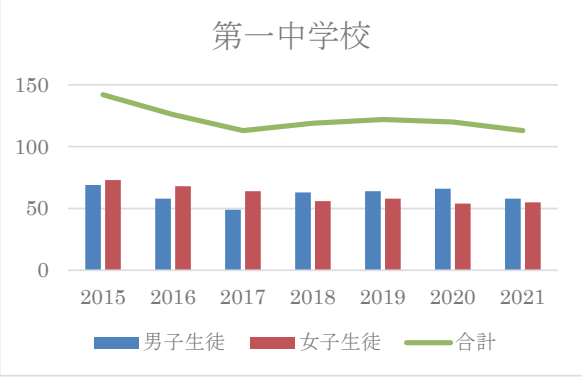
緑：近隣学校施設

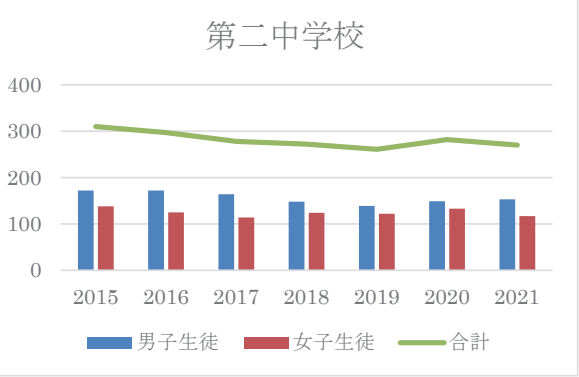
敷地周辺について

前述の通り敷地周辺は 1960 年後半に再開発が行われた住宅街である。近くを通る高速道路には遮音壁が利用され大変閑静な住宅街となっている。再開発から時間が経っており、今後空き家問題が発生すると予測されるため、空き家対策のモデル地域とされている。そのため今後児童数の回復の可能性がある。



◀敷地周辺写真





所在地：〒636-0081 奈良県北葛城郡河合町星和台
主な用途：学校
敷地面積：16,528.22 m²
建築面積：2,975.4 m²
延床面積：5,191.41m²
キーワード：学校建築、こども、交流

Location : Seiwadai, Kawai-cho, Kitakaturagi-gun, Nara
Main Use: School
Site Area : 16,528.22 m²
Building Floor Area : 2,975.4 m²
Total Floor Area : 5,191.41m²
Keywords : school, children, communication

図 3.敷地周辺写真 1　　図 4.敷地周辺写真 2　　図 5.敷地周辺写真 3

敷地情報

所在地　：奈良県北葛城郡河合町星和台
用途地域　：第一種低層住居専用地域
高さ制限　：10m
壁面後退距離　：1m
建蔽率　：50%
容積率　：80%

既存部部分床面積

体育館　：925.28 ㎡
部室等　：108 ㎡

建物概要

用途　：学校
構造形式　：鉄筋コンクリート造
最高高さ　：9.95m
建築面積　：2,975.40 ㎡
一階床面積　：1,942.12 ㎡
二階床面積　：1,199.01 ㎡
三階床面積　：1,017.01 ㎡
延べ床面積　：5,191.41 ㎡

設計方法

■教科センター方式

教科センター方式とは各教科ごとに専用の教室を設ける教科教室型の運営方式と学級専用の教室ではなく、生徒個人のロッカーやクラスの交流スペースとして活躍をするホームベース型の学級運営方式を利用した学校運営方式だ。教科教室を設けることで従来の総合教室型の運営方式の授業に比べてより専門的な内容の授業を行うことができるようになり、さらに生徒が時間割に合わせて各教科教室に移動することになるため、移動に時間が必要となるデメリットが存在するが他学年の授業を覗き見ることができるため、生徒に強制することなく予習復習の機会が生まれ記憶の定着に寄与する。また、移動を生徒が自分の責任において行う必要があり、これは社会活動を行う上で大切な時間管理を中学生の間から意識することとなり、目的地への移動にかかる時間の管理などは自己管理となることは主体性を高めることに寄与すると考えられる。

■採光

南側に高さ制限を超える体育館が存在し、体育館側に生徒利用ゾーンをまとめる計画を進めるうえで教室の採光に関して注意をした。教職員ゾーンの必要所室が少ないことを活用し、北側を平屋建ての南側への片流れ屋根を設けることとした。南側への片流れ屋根にすることで、屋根で反射した光は南棟に届くように計画をした。また、南棟の各階は上の階になるほど北側の床を減らすように計画を市、特に北側の壁にはガラス張りの壁を設けた。

■高さ制限

今回の敷地は第一種低層住居専用地域内にあり、高さ制限が 10m となっている。隣接小学校や既存体育館などのように条件を満たすことで高さ制限を緩和し、より大きな校舎を計画することで持続性の高い校舎とすることもできたが、今回の計画では学校が災害時の避難場所として利用されることも想定し、低重心の安定感のあるものを目指した。しかし、周囲の建築物はおおよそ住宅であり、南側を除く窓やテラスからは周囲を見回すことができ、放課後や授業の休憩時間に自然を感じることでリラックスすることができる。

※参考資料（抄）

・学校教育情報サイト Gaccom（株式会社ガッコム. 2022 年）
・小学校の教室配置パターンにおける異学年交流のあり方の分析と考察
（日本大学工学部 小峰明、曽根陽子. 日本大学生産工学部代 42 回学術講演会. 2009 年 12 月 5 日）
・学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議（平成 28 年度～）（第 12 回）配付資料（文部科学省. 2020 年 7 月）
・いじめの個人要因・環境要因にアプローチするいじめ予防プログラムの開発に向けた基礎的知見
（日野陽平、林尚示、佐野秀樹. 東京学芸大学紀要総合教育科学系. 2020 年 2 月 28 日）
・小中高等学校の統廃合の現状と課題（文部科学省. 2019 年 7 月 13 日）
・中学校施設整備指針（文部科学省大臣官房文教施設企画部. 2014 年 7 月）

STEP UP～夢を叶える場～

学籍番号　K19243
名　　前　日下部 海鈴
指導教員　宮内 智久

はじめに



ある日、誰も想像をしていなかったコロナウイルスによって生活スタイルが一変した。コロナ渦で自分が思うように行動できなかった人が多いだろう。いつ収束するのか見当もつかない現状である。私自身やりたいことができなく、もどかしさを感じた。今回の制作で、少しでも豊かな生活を送る手助けができる建築を提案することを目指す。

計画建物

・社会問題の解決に繋げる。

・衣食住を大切にする。

・交流の場。

→ストレスを軽減できる、リフレッシュできる場。

計画敷地

▸東京都渋谷区とは

新宿・池袋・渋谷と三大副都心の１つであり、東京を代表する繁華街である。渋谷は若者の街、裏原宿はサブカルチャー文化の発信地、原宿は竹下通りがあり観光地、表参道はハイブランドが並んでおり、ファッションの街、代官山は高級住宅街、恵比寿はオフィス街として知られている。

▸敷地



表参道の歩道橋から

渋谷と原宿を繋ぐ明治通りから表参道側に１本入った裏通りキャットストリート沿いにある。コロナ前は、歩くだけでも楽しめて、個性的なお店をたくさん見ることができる刺激的な道であった。しかし、現在では閉店してしまったところも多く、前ほどの賑わいがなくなってしまっている。１本通りを出れば、表参道なので賑わっている。

STEP UP~dream come true~

Student Number　K19243
Name　　Mirei Kusakabe
Supervisor　　Tomohisa Miyauchi

▸敷地周辺

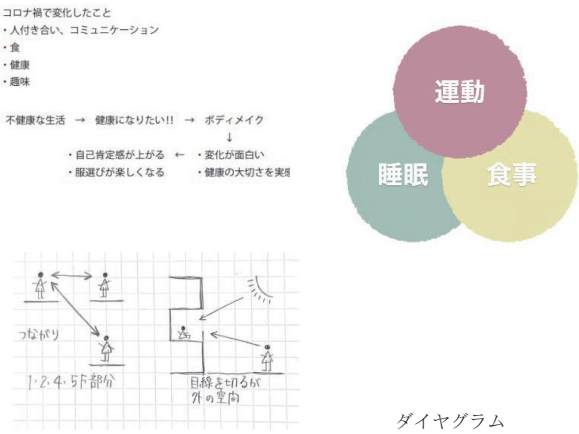
ギャラリー、アトリエ、アパレルショップなど流行の先端を発信する場や渋谷保育園や障がい者福祉センター、モデル事務所がある。



Google マップの航空写真より

計画・設計趣旨

一流モデルと聞くと遠い存在と感じる人が多い中、ここではまだモデルのタマゴである人たちの生活を身近に感じてもらう。健康的な生活が基盤になっている。それはモデルのタマゴに限らず、誰もが必要とすることである。店舗、飲食店、ホール、ジム、住居を設置し、衣食住を通し、交流し、モチベーションを上げられる場、時には癒しの場になる。住人は、モデル、アーティスト、調理師、トレーナーのタマゴなど夢を持った人たち。年齢、性別問わず、目標を達成するための場を設計する。



ダイヤグラム

問題

▸コロナ渦での健康二次被害

外出を控えた結果、運動不足になったり、人との関わりが減る。運動量や人との関わりが減ることで、免疫機能が活性化されず、免疫力の低下。他にも、肥満や生活習慣病、ストレスによる心の病になる。

所在地：東京都渋谷区神宮前 3 丁目 19-5　神宮前防災職員住宅
主な用途：公共施設
敷地面積：約 1000 ㎡
建築面積：448.5 ㎡
延床面積：3140 ㎡
キーワード：飲食店、店舗、ジム、住宅、ホール

Location : 3-19-5,Jinguumae,Shiba-ku,,Tokyo
Main Use : Public Facility
Site Area : -
Building Floor Area : -
Total Floor Area : -
Keywords : Restaurant、Shop、Gym,,House、Hall

▸食生活

朝食の欠食、野菜や果物の摂取不足、食塩の摂りすぎが言われ、肥満者がいる一方で女性の痩せすぎもあり、更に高齢者の低栄養が見られるなど多様な問題がある。また、大切な食料の点では、我が国の食料自給率は低く、先進国の中で最低の水準にある。食べ残しや食べ物の廃棄の問題もある。

解決

コロナというものから、ストレスを感じている人が多い。ストレス発散方法として、日光浴をする、映画鑑賞や読書で泣いたり笑ったりする、スポーツジムに行く、創作・作業に没頭する、心地よいと五感で感じることを楽しむ、たくさん寝る、人と会って話す、買い物をする、などがあげられる。これを今回設計する。

PLAN

▸内観

地下 1 階には、ホール。京美ホールのように多様な用途で使える。みんなで運動、フリーマーケット、音楽イベントができる。地下にすることで、天候時間問わずできる。

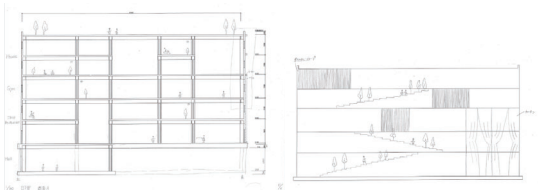
1.2 階は、店舗、飲食店。店員とお客さんやお客さん同士の交流。吹き抜けを設けることによって、上下の繋がりが生まれる。

3 階は、ジム。住居人だけでなく、外部の人も利用できる。そこで交流もできる。半屋外空間にランニングスペースを設け、天候や人の視線を気にせず、利用できる。

4.5 階は、住居。メゾネットタイプも作り、上下の繋がりを作る。

屋上は、モデルやアーティストのお披露目の場、庭園として利用できる。

エレベーターを設置し、4.5 階は住居部分なので、セキュリティー面を配慮し、ルームキーをかざさないと行けないように設定する。



最初のスケッチプラン

▸外観のデザイン

大通りから 1 本中に入っていることから、目立ちにくさはある。しかし、歩行者が少ないわけでもないので、通った時にちょっと寄りたくなるようなものにする。外部に階段やカーテンをつける。

カーテンは、春はデニム、夏はシアー、秋はツイード、冬はキルティングと衣替えをするようなイメージ。

階段には、植物を設置し、敷地に立ち寄らなくても、目で癒されるようにする。1.2 階と 4.5 階を繋ぐことによって、外からもアクセスできる。

南側は、キャットストリートから来た人々から注目を集めることができるので、芝生を張り、屋外でヨガなどを楽しめる。

まとめ

4 年間の集大成となる作品で、私がやりたかった建築×モデルの組み合わせで設計することができて良かった。コロナ禍になり、大学生活も想像していたものとはかなり違ったけれど、この現代だからこそできた作品になった。現代の問題を解決できるように計画したので、こういったコンセプトが実現できたら、東京は更に面白い、楽しい街になるんではないかと思う。

参考文献

キャットストリート：
https://sot-web.com/column/about_cat_street/
健康二次被害：
https://www.city.mitsuke.niigata.jp/21619.htm
食生活：
https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/food/e-03-009.html
ストレス発散方法：
https://next.rikunabi.com/journal/20191120_d11_s/
https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000161.000041309.html

「冨永愛という生き方」　大道絵里子
「My Room 天井から覗く世界のリアル」　John Thackwray
「現代集合住宅のリ・デザイン」　日本建築学会
「集合住宅をユニットから考える」　渡辺真理

多宝塔の設計技法における基本設計研究

学籍番号　k19244
名　前　工藤　雄介
指導教員　大上　直樹　特任教授

多宝塔　設計技法　平面寸法
高さ寸法　軒寸法　比率

1. 本研究の目的

目的は大きく分けて三つ存在する。一つは多宝塔の図面を研究することにより、平面・高さ・軒の三点がどのような順番で、どのように考えられ、設計、計画されたのかを解明することが目的である。

二つ目は自分の多宝塔の理解をより深め自分なりの解釈を持つことである

三つ目は本論文が他の多宝塔の研究の一助となる目的である。

2. 本研究の対象決定

本研究では多宝塔の中でも国指定の文化財に登録されており図面を入手することができた 13 基の多宝塔と県指定の文化財である慈尊院多宝塔を含めた 14 基を研究対象とする。[表一]

表一　全 14 基の多宝塔一覧

多宝塔名称	国宝・重文区分	時代	年号	西暦	構造、形式等	所在地	所有者名
観音寺多宝塔	重文	室町後期	天文5	1536	三間多宝塔、銅板葺	愛知県	観音寺
性海寺多宝塔	重文	室町中期	－	1466	三間多宝塔、銅板葺	愛知県	性海寺
東観音寺多宝塔	重文	室町後期	大永8	1528	三間多宝塔、こけら葺	愛知県	東観音寺
密蔵院多宝塔	重文	室町中期	－	1466	三間多宝塔、こけら葺	愛知県	密蔵院
石山寺多宝塔	国宝	鎌倉前期	建久5	1194	三間多宝塔、檜皮葺	滋賀県	石山寺
慈眼院多宝塔	国宝	鎌倉前期	文永8	1271	三間多宝塔、檜皮葺	大阪府	慈眼院
大威徳寺多宝塔	重文	室町後期	永正12	1515	三間多宝塔、本瓦葺	大阪府	大威徳寺
酒見寺多宝塔	重文	江戸中期	寛文2	1662	三間多宝塔、一重本瓦葺、二重檜皮葺	兵庫県	酒見寺
久米寺多宝塔	重文	江戸前期	－	1660	三間多宝塔、栩葺	奈良県	久米寺
護国院多宝塔	重文	室町中期	文安6	1449	三間多宝塔、本瓦葺	和歌山県	護国院
長保寺多宝塔	国宝	室町前期	正平12	1357	三間多宝塔、本瓦葺	和歌山県	長保寺
根来寺多宝塔	国宝	室町後期	－	1554	五間多宝塔、本瓦葺	和歌山県	根来寺
浄土寺多宝塔	国宝	鎌倉後期	元徳元	1319	三間多宝塔、本瓦葺	広島県	浄土寺
慈尊院多宝塔	－	室町後期	－	－	－	和歌山県	慈尊院

3. 研究方法

本研究は 3 つの大上理論によって分けて行うものとする。

(1)　平面の寸法決定法の研究
各多宝塔の初層、上層の平面図から柱間の距離を参照し、初層、上層の柱の寸法をもとに初層と上層の柱間の比率を割り出す。これにより平面寸法決定方法を分析する。

(2)　高さの寸法決定法の研究
各多宝塔の断面図から軒・柱の高さを参照し、柱の高さ寸法と柱間寸法から縦横の比率を求める。これを用いて高さの寸法決定方法を分析する。

(3)　軒の寸法決定法の研究
各多宝塔の断面図より、軒の幅の寸法を参照し、その寸法と初層及び上層の柱の比率を出すことによって、軒の寸法決定方法を研究する。また襷墨も求める。

4. 平面の寸法決定法の研究

平面の研究方法は収集した 14 基の多宝塔の図面から平面図を用いて初層と上層の柱の径と柱間の距離を参照する。そこから初層の柱間の距離と上層の柱間の距離を用いて比率を出すこととする。

ほとんどの多宝塔が初層の柱間の距離が上層の約二倍の値をとっていた。

なので片方の柱間の距離が分かっていれば自ずともう片方の距離も比率を元に求めることができるということだ。

5. 高さの寸法決定法の研究

高さの研究では 14 基の断面図から、初層と上層の外側に位置する柱の高さ、軒の高さ、軒の出の寸法を参照し、平面の寸法との比率を出す。

今回の研究により多宝塔の各層には一定の法則の比率があることが分かったあることが分かった

初層の階高と柱間の距離の比率はほとんどが 1:1 か、それに近い値をとっていることがわかった。なので 1：1 が基準となる値と考えた。

上層では明確に 1：2 をっとっているものはなったが、それに近い比率が出ている多宝塔がほとんどだったので 1：2 が基準の人考えた。

さらに上層の上、相輪までの高さと横幅を出した上部の比率では、1:3 かそれに近い比率が出ている。これもまた上部における比率は 1:3 が基準の比率と考えることができる。

以上の事から多宝塔は初層から順に 1:1、1:2、1:3 と比率が上がっていることが分かる。

ここでは柱間の距離か、各層の高さがわかれば、その反対の数値が導き出されるという結論に至った。

6. 軒の寸法決定法の研究

軒の研究では高さの研究で出た軒の高さだけでなく、軒の横幅の寸法も用いて各層の柱芯か外端との比率や、初層床天端と初層柱芯との交点、及び礎石と初層柱芯との交点、上層柱下端と初層梁下端を茅負平の外下角と結んだ際の襷墨を求めた。[表二]

軒の比率は初層が軒幅に対して二分したものが初層の柱間の距離となっていることがほとんどで、基本的に 1：2 かそれに準ずる比率をとっていることが分かった。

表二　軒の寸法及び比率一覧表

軒の分析	初層軒幅	上層軒幅	初層柱外法	初層柱芯	上層柱外法	上層柱芯	初層比率		上層比率		初層　床天端と柱芯の交点	初層　礎石と柱芯の交点	上層　柱下端と柱芯の交点
	尺						軒幅　：　柱外法	軒幅　：　柱芯	軒幅　：　柱外法	軒幅　：　柱芯	茅負平の外下角のたすき墨	茅負平の外下角のたすき墨	茅負平の外下角のたすき墨
観音寺多宝塔	22.39	17.61	12.54	11.88	6.67	6.15	9　：　16	―	1　：　√8	―	1.5	2.0	1.4
性海寺多宝塔	21.49	15.97	12.56	12.01	5.87	5.40	7　：　12	―	―	1　：　√10	1.7	2.3	2.0
東観音寺多宝塔	20.63	16.86	11.52	10.89	5.97	5.43	5　：　9	―	1　：　√8	―	1.5	1.9	1.4
密蔵院多宝塔	27.37	23.60	17.03	16.15	9.63	8.93	1　：　1.618	―	2　：　5	―	1.7	2.3	1.1
石山寺多宝塔	33.12	26.13	19.86	19.20	9.50	8.80	3　：　5	―	1　：　√8	―	1.3	1.6	1.3
慈眼院多宝塔	18.49	14.61	9.49	8.88	5.31	4.72	―	11　：　23	1　：　8	―	1.6	2.3	1.2
大威徳寺多宝塔	20.47	16.31	10.97	10.24	5.65	5.10	―	1　：　2	1　：　3	―	1.6	2.1	1.3
酒見寺多宝塔	28.22	21.21	17.02	16.00	8.75	8.06	3　：　5	―	1　：　6	―	1.4	1.9	1.5
久米寺多宝塔	24.21	18.76	13.58	12.62	7.18	6.53	9　：　16	―	3　：　8	―	1.6	2.0	1.6
護国院多宝塔	26.06	20.18	14.48	13.64	7.25	6.58	5　：　9	―	―	1　：　3	1.3	1.5	1.1
長保寺多宝塔	26.76	20.00	16.04	15.29	7.12	6.49	―	4　：　7	―	1　：　√10	1.5	1.9	1.3
根来寺多宝塔	66.48	55.79	50.59	49.23	26.17	24.57	9　：　13	―	9　：　20	―	1.3	1.6	1.6
浄土寺多宝塔	37.53	28.36	22.66	21.80	11.31	10.50	―	1　：　√3	1　：　√6	―	1.4	1.9	1.5
慈尊院多宝塔	29.72	24.07	16.44	15.29	8.81	8.02	3　：　11	―	1　：　3	―	1.3	1.6	1.6

＝ 黄金比　≒ √2　＝ √3

上層では上層の軒幅に対して三分したものが上層の柱間の距離となっていることがわかった。基本的に 1：3 かそれに近い比率の多宝塔がほとんどである。

襷墨では一番よく出てきた数字は、初層茅負平の外下角から初層床天端と初層柱芯までででは 1.3、礎石と初層柱芯までででは 1.9、初層茅負平の外下角から上層柱下端と初層梁上端までででは 1.6 であった。

また平均値を出したところ、初層茅負平の外下角から初層床天端と初層柱芯までででは 1.5、礎石と初層柱芯までででは 1.9、初層茅負平の外下角から上層柱下端と初層梁上端までででは 1.5 であった。

ここから考えるに上層の襷墨は初層の襷墨から基準を得ているのではないかと考えた。中でもいくつかの多宝塔は初層のどちらかの襷墨の数値と上層の襷墨の数値が同じであったことからも、この考えを裏付けるものとなった。

また、襷墨の値が決まるということは自ずと柱の高さも決まるということであるので、逆に柱の高さと襷墨が決まっていれば軒の幅も決めることができるという結論になった。

6. 結論

三つの研究を通して、ほとんどすべての研究結果に比率が関わっていることが研究の末確認された。なので多宝塔の設計、計画には比率が大きく関わっていると考察した。また設計の順番として考えた結果、多宝塔は最初に初層柱間を一番最初に設計、計画したのではないかと考えた。なぜならば初層柱間の距離を決めることにより、上層の柱間の距離が比率により二分された距離とわかり、階高は 1：1 であることが分かっているので初層柱間の距離＝階高となり、初層の軒幅は初層の柱間の距離の二倍なので、初層柱間の距離の数値を倍にしたものが初層の軒は亜であることが導き出される。

このように一つの値を定めるだけで一気に三つもの値を比率により出すことができさらにここから、他の部分の比率を持ち出してくることにより、多宝塔全体の数値が導きだされる。

色々と多宝塔の数値を比率により導き出すことのできるパターンを考えたが、上記の導き方が一番効率よく多宝塔が建造できる形となった。

7. 参考文献

文化財建造物保存技術協会:『重要文化財観音寺多宝塔保存修理報告書』2001. 9

重要文化財性海寺多宝塔修理委員会:『重要文化財性海寺多宝塔修理工事報告書』1974. 3

重要文化財東観音寺多宝塔修理委員会:『重要文化財東観音寺多宝塔修理工事報告書』1959. 7

文化財保護委員会:『国宝・重要文化財（建築物）実測図集 8（静岡県、愛知県、三重県）』1968　密蔵院多宝塔

文化財保護委員会:『国宝・重要文化財（建造物）実測図集 10（滋賀県 2）』1968　　石山寺多宝塔

文化財建造物保存技術協会:『国宝慈眼院多宝塔保存修理工事報告書』2010. 10

重要文化財大威徳寺多宝塔修理委員会:『重要文化財大威徳寺多宝塔修理工事報告書』1975. 12

酒見寺:『重要文化財酒見寺多宝塔修理工事報告書』1978. 8

奈良県教育委員会:『重要文化財久米寺多宝塔修理工事報告書』1986. 5

重要文化財護国院多宝塔修理委員会:『重要文化財護国院多宝塔修理工事報告書』1951

文科庁:『国宝・重要文化財（建築物）実測図集［24-2］（和歌山県その 2）』1972. 3　長保寺多宝塔

文科庁:『国宝・重要文化財（建築物）実測図集［24-3］（和歌山県その 3）』1972. 3　根来寺多宝塔

文化財建造物保存技術協会:『国宝並びに重要文化財浄土寺本堂、多宝塔、山門修理工事報告書』1973. 6

日本伝統建築技術保存会設計事務:『和歌山県指定文化財慈尊院多宝塔修理工事報告書』2012. 7

全 14 冊

定量的分析による高瀬川木屋町の町並み調査

学籍番号　k 19245
名　　前　國松夏希
指導教員　大上直樹

高瀬川　木屋町　定量的に
町並み　景観　間口の長さ

1 はじめに

京都の高瀬川は守るべき歴史的のある川であるが、現在ではその通りの木屋町の多くの建物が商業施設などにより景観の破壊の危機に面している。本稿はそうした歴史的町並みの保存活動に資するために、現在の町並みにおけるファサードを定量的に分析・評価する手法を提案するものである。

本稿は、ファサードを定量的に評価するために、高瀬川の町並みを間口の長さの測量をもとに下記の分布図を作成し、マクロな視点から客観的な数値に置き換えて評価する試みのための調査研究である。

・【用途別分布図】
・【年代別分布図】
・【階数別分布図】
・【構造別分布図】
・【京都的外観分布図】

2 高瀬川の歴史と基本情報

高瀬川は江戸時代初期（1611）に角倉了以（すみのくらりょうい）とその息子の素庵（そあん）によって、京都の中心部と伏見を結ぶために物流用に開削された運河であり 1614 年に完成し、1921 年の水運廃止となるまで使われた。高瀬川の水運は京都に大きな繁栄をもたらし都市構造や街の在り様を大きく変えていった。

水源は鴨川の横を通る「みそそぎ川」からひかれ、二条大橋付近にある高瀬川源流庭園を通り高瀬川に注ぎ込む。合流先は宇治川である。

角倉了以別邸　高瀬川源流庭苑



調査範囲は、木屋町通りという名前の区間を指す二条通りから七条通りとする。二条通りから七条通りまで九つの舟入があり、現存しているのは二条付近にある一の舟入のみである。今回は二条から三条、三条から四条、四条から五条、五条から七条の 4 つの区間に分けて調査する。



3 調査方法

① 調査範囲を区分する
② 現地調査によって建物の道路に面する部分の間口の長さの測量をする
③ 様々なパラメーターで建物を記録する
④ 記録したデータを表やグラフ化や分布図化する
⑤ 考察する

パラメーターの分類

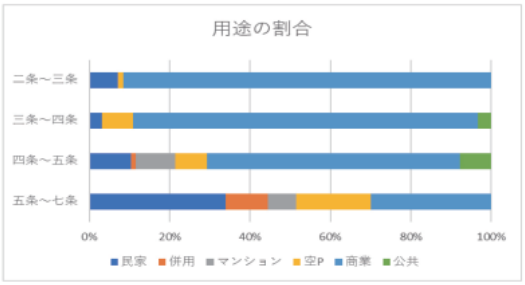
【用途別分布図】民家　店舗等併用民家　マンション　空地やパーキング　商業施設　その他公共等
【年代別分布図】昭和以前　平成　令和
【階数別分布図】平屋　二階　三階以上
【構造別分布図】木造=主要構造部が木造のもの　非木造＝それ以外
【京都的外観保存状況分布図】
なし→0～15%未満の範囲で京都的な外観が残る
小→15～50%未満の範囲で京都的な外観が残る
大→50%～100%の範囲で京都的な外観が残る

Title　Townscape Survey by Quantitative Analysis
Case of Takasegawa Kiyamachi (Nijo-dori to Shichijo-dori)

Author Natsuki kunimatsu
Supevisor Naoki ooue

4 間口の長さの測量による集計結果

・【用途別分布図】



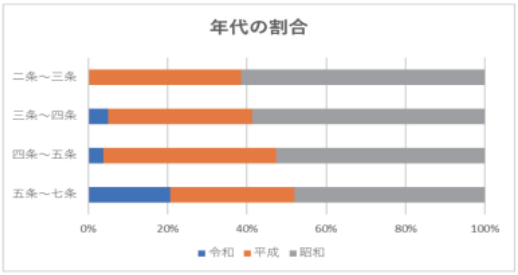
○民家が多い順にならべると…五条から七条＞四条から五条＞二条から三条＞三条から四条

○併用住宅やマンションは四条から五条と五条から七条に集中している

○空地やパーキングエリアは二条から七条に向かって増加している

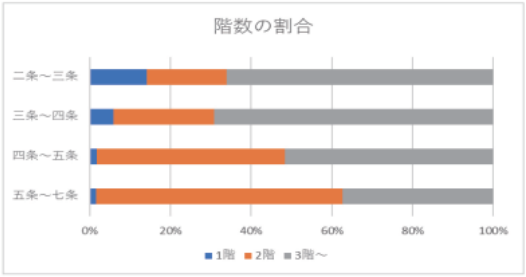
○商業が多い順番に並べると…二条～三条＞三条から四条＞四条から五条＞五条から七条

・【年代別分布図】



○古い建物は…二条の方が七条よりも多い

・【階数別分布図】



○一階が多い順に並べると…二条から三条＞三条から四条＞四条から五条＞五条から七条

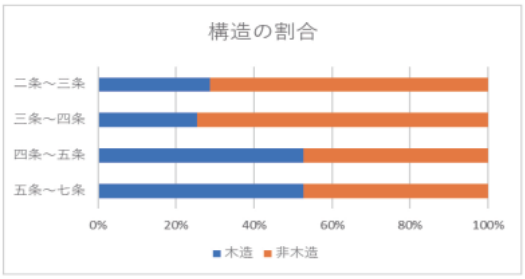
→二条から七条に向かって減少している。

○二階が多い順に並べると…五条から七条＞四条から五条＞三条から四条＞四条から三条

→二条から七条に向かって増加している

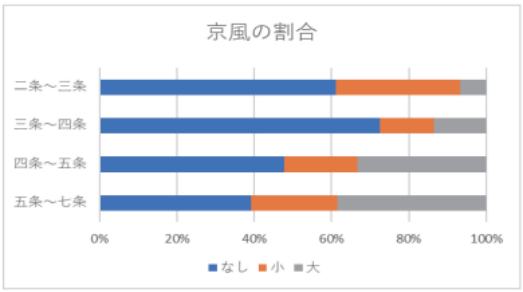
○三階が多い順に並べると…三条から四条＞二条から三条＞四条から五条＞五条から七条

・【構造別分布図】



○非木造の多い順に並べると…三条～四条＞二条から三条＞…

・【京都的外観分布図】



○京都的外観を保っているのは…五条から七条＞四条から五条＞…

○古い建物は…二条の方が七条よりも多い

○京都的外観を保っているのは…五条から七条＞四条から五条＞…

上記から言えるのは、南側(七条通り側)の方が北側(二条通り側)に比べて、新しい建物が多くても二階建てで木造で京都的な外観を持ち、民家が多く存在しているが空地なども最も多い、ということがわかる。

5 さいごに

間口の長さの測量による町並み分析は妥当性については検討の余地があるが、景観や区間の建物のおおまかな傾向を知るには十分な可能性があると思われる。

さらに同じ地域を 5 年後、10 年後と一定の距離を置いて再度調査を行えば景観の時間的経過をみることができて面白い調査になるのではないかと思われる。

彫刻の鼓動
ー彫刻から生まれる宇部のコミュニティーー

学籍番号　k 19246
名　　前　国本 陸斗
指導教員　安田 光男

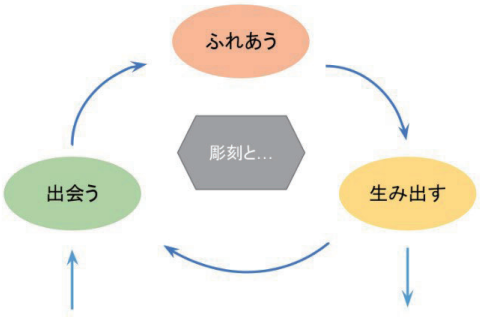
Beat of sculpture
-A community in Ube be from sculpture-

Student Number k19246
Name Rikuto Kunimoto
Supervisor Teruo Yasuda

計画背景

背景

私の出身地山口県宇部市は、彫刻の町として世界的に有名で、第二次世界大戦後より、美術界の一線級のメンバー構成と市民の彫刻運動によって、全国の先駆けとなるまちとして極めて注目すべき町だとされてきた。また、市自らが『緑と花と彫刻の町』だと掲げており、日本のみならず、世界の美術界・彫刻界に大きな影響を与えてきた。現在でも UBE ビエンナーレという野外彫刻展が 2 年に 1 度行われており、彫刻家の登竜門として、昨年は世界 49 ヶ国から 299 作品が応募された。市内にも 400 点以上の作品が展示されている。しかし、現在の宇部市民は、彫刻のある街並みが、生まれる前からある当たり前の風景となっており、彫刻への関心が薄くなっているように感じる。そこで、建築で彫刻の魅力を知ってもらい、再び彫刻の町として宇部市を復興させることができないだろうかと考え、今回の提案を試みることにした。



UBEビエンナーレ・町

計画目的

現在でも世界のトップクラスの彫刻が集まる UBE ビエンナーレが 2 年に 1 度市内の常磐公園で開催されているが、あまりのレベルの高さに市民の理解が追いつかない。これが、市民の彫刻への関心の薄れの 1 つの理由ではないかと考える。そのため、彫刻に関心のない市民を呼び込み、**彫刻と、出会い・触れ合い・生み出す**サイクルの中で彫刻への関心を持ってもらい、市や UBE ビエンナーレへ旅立ってもらう、0 を 1 にすると共に、市内へ彫刻の**『鼓動』**を広げていく施設を目標に計画をした。

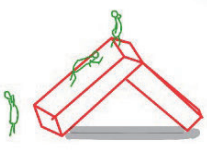
選定敷地

山口県また、宇部市の玄関口である宇部空港に直接つながった約 11,8 万平・外周 1.4 ㎞の埋立地が、現在草木が生い茂り門で閉鎖され悲惨な状況なため、敷地を復活すべくこの敷地に選定。空港を離着陸する飛行機の窓から見え、アクセスに関にしても、車・電車・市内の彫刻をめぐるバスのバス停が目の前にあるなど良好である。また、今年の春、大型遊具施設が敷地の横にできることが決まっており、周辺に風が吹いている。敷地は 3 辺を海に囲まれ、正面には滑走路が通っており、間近で飛行機を眺めることができる魅力的な敷地である。



プログラム

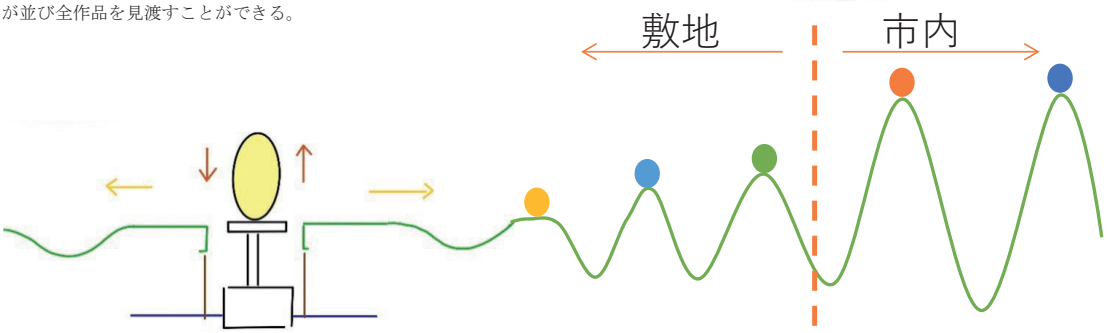
町のあらゆる情報の中にある彫刻は関心がないとなかなか目に留まらないため、敷地に入り先ずは彫刻の森を散策する。情報量を減らし、彫刻に自然と気が付ける場を計画。動線はあえて複雑にして視界も狭くすることで、考え自らが選んだ道で彫刻と出会い印象に残る空間とした。次に彫刻の遊具がある広場で彫刻と直接触れ合い、彫刻を肌で感じる。実際に触れてみることで新たな気付きや意外な発見を誘発する。公園でのコミュニティーの形成をはかる。最後に、地域の学生の彫刻作品の展示スペースで、彫刻を実際に自ら生み出し展示をする。展示作品は毎年入れ替え、市内の小中学生の授業の一環として彫刻家を客人講師として招き共に彫刻を制作することで、これからの市内の学校を出た全員が彫刻を学生のうちに製作することとなる。すなわち、市民全員が彫刻製作者となっていく。これにより敷地は、市民の手により常に変化し続ける。ここまでをこの敷地が担当し、宇部の彫刻がちりばめられた町に送り出していく。


敷地構成

敷地の用途としては公園とし、敷地内に彫刻の展示スペース、彫刻と触れ合える公園、彫刻と出会う森（散策コース）、休憩スペース、管理事務所、展覧ギャラリー、ステージ、制作スペース、レンタルスペースを計画。敷地中央に核となる彫刻を配置し、その核を起点に彫刻の波が広がっていくような波打つレベル差のある地形とした。中央の彫刻は海に面した敷地を利用し、彫刻直下に穴をあけ海面にウキを浮かべ、その上に核となる彫刻を配置する。これにより、潮の満ち引きにより彫刻が最大で約 2m 上下動し、地球の力で鼓動する。この鼓動により生まれた波の上に彫刻を配置。核が鼓動することで生まれた彫刻の波が、敷地内には物理的に地形をうねらせ広がり、敷地内から敷地外の宇部市内へとイメージ的に波を広げていく。彫刻作品の展示スペースは、6m地形を盛り上げ、中央から同心円状に掘り下げていき、波の上に彫刻を配置する。こうすることで、中央へ行く楽しみが生まれ、作品をアイレベルで見る際、谷にいる人が隠れ、水平線上に作品が並び全作品を見渡すことができる。









参考文献

・日本建築学会中国・九州支部研究報告　第 6 号
宇部市における都市計画と都市形成の歴史的研究
その 3　彫刻設置運動の展開とその現状について

・UBE ビエンナーレ HP
https://ubebiennale.com

・宇部彫刻マップ
https://ubebiennale.com/maps

・パブリックアートの展開と到達点　松尾 豊【著】/藤嶋 俊會/伊藤 裕夫【附論】

・南芦屋浜コミュニティ&アート計画の試み
https://www.aij.or.jp/paper/detail.html?productId=88128

・亀浦公園　2012
http://ubemaniacs.main.jp/park/kameura.htm

Location : 5-8-1,Kameura,Ube,Yamaguchi
Main Use : Park
Site Area : 116,000m^2
Keywords : Park, Sculpture, Community

所在地：山口県宇部市亀浦５丁目８−１
主な用途：公園
敷地面積：116,000m2
キーワード：公園・彫刻・コミュニティー

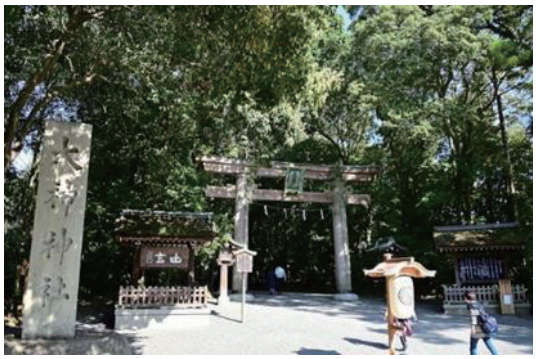
大神神社参道の改善計画

学籍番号　k19247
名　　前　倉田章広
指導教員　山内貴博

Approach improvement pian

Student Number　k19247
Name　Akihiro kurata
Supervisor　Takahiro yamauti

1 背景と目的



大神神社

大神神社参道周辺地区は、奈良盆地の中央東南部に位置する桜井市のほぼ中央部、三輪・巻向・初瀬の山々の裾野に位置する大和平野の東部に位置し、日本最古の神社で、大神神社の門前町、初瀬街道の市場町として発展した地区です。また桜井市の観光特性として令和元年までに年間約 700 万人の来客者数を占めておりその多くが大神神社です。

しかしながら今では新型コロナウイルス感染病の影響もあり来客者数は約 350 万人に落ち込みました。また市場などはなく駅周辺の商店街もシャッター通りなっており活気のある町ではありません。大神神社では四季でお祭りがあり、正月や月の初めにたくさんの観光客や地域の方が訪れます。そこで何度でも訪れたいと思われるような魅力的なまち、活気のあるまちを取り戻すため大神神社参道周辺地区の改善計画を提案したいと考えた。

図 1　桜井市来訪者数の推移

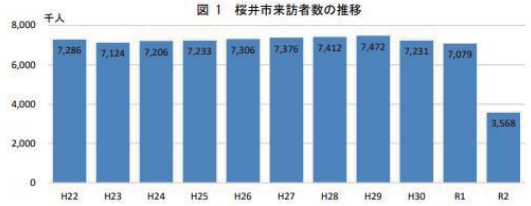
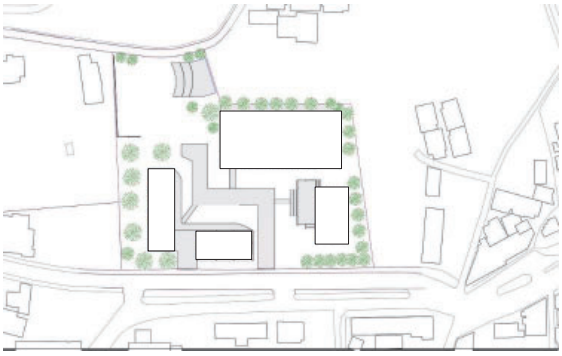


図 2　桜井市月別来訪者数（令和元年度）



2 計画敷地・計画図



大神神社参道の中心部にある第三駐車場と使われていない空き地を計画敷地とした。北側には田畑、南側には道路を挟んで住宅地があり比較的開けたところにある。大神神社の鳥居から大神神社の入口を結ぶと真ん中付近に敷地がり、正月や月の初めに使われますが、第一駐車場、第二駐車場の利用が多く、ほとんど使われることはありません。空き地に関しても以前は使われていましたが今は建物もたっておらず利用もされていません。







3 参道の問題点

敷地の調査や周辺の調査をしたところ、問題として挙げられることは、まずトイレ、休憩所がないところトイレに関しては最近できた神社の入り口前しかありません。休憩所に関しては、飲食店などはありますが、気軽に腰を掛けて休憩するところはありません。他には歩道の整備がされていないところです。今年に入って車道のほうは整備され道幅も広くなりバスや車が通りやすくなりました。しかし歩道のほうの整備はされておらず、車の通りや、参道には電車が通るので整備する必要があると考えました。そして参道を歩いてい

て感じるのは空き地や使っていない駐車場が目立ちただ歩くだけで立ち寄れるとこがなく参道としては寂しいように感じるところです。

4 境内前参道の改善

境内前の参道では神聖な雰囲気が感じられる　心を静かに落ち着かせ、 神社に近づいていくエリアで四季 の彩 ・ 人の営みが息づく空間の演出、 季節の行事 ・ 祭事が 催される空間を考え、 地域の暮らしや、 生業をいかし地域の人にも利用できるように考えた。

5 大鳥居前の改善

三輪山の眺望により、 地域の住民、 遠来の客をおもてなしするエリアで参道らしさや歴史を感じさせる街並みの形成、 三輪山と大鳥居による神聖な雰囲気が感じられる眺めを守る計画、 歴史 ・ 統一感が感じられるまちなみを考えた。

6 めざす参道の姿

まず生活者の視点から考えると地域の伝統文化が継承され、季節感が感じられる彩り豊かな生活や 祭事があることや安全・安心で歩きやすく、緑が豊かで散歩したくなること。雰囲気のある参道の商店等で働くことができることなどが地域の人が求める視点と考えます。次に来客者の視点を考えると歩いていると三輪山が見え隠れする、又は存在を感じることができ、大神神社への期待感が持てる、大神神社に向かうにつれて、神聖な雰囲気を感じることができる、こういったことが挙げられると思います。

7 改善、基本構造

3,、4、5 の問題などから改善案として、参道を大鳥居付近、中央地帯、神社入り口前の三つの範囲にわけ、まず大鳥居付近は駐車場などの交通機関をまとめること、鳥居から三輪山が見え参道に入っていき大神神社に向かっていく雰囲気を感じられるように整備すること。中央地帯は観光に来た人や地域の人が利用できるような商業施設、広場や休憩所、トイレなどの施設を整備する。神社入り口前は歩道の整備、新池付近の広場の整備をすること、再び大神神社の雰囲気が感じられるように落ち着いた雰囲気にする。この三つの範囲に分けた改善案を考えている。

8 計画概要

所在地：奈良県桜井市 1166-3
主な用途：商業施設
敷地面積：6410.24m^2
建築面積：1593.62m^2
延床面積：1593.62m^2
構造　　：RC 造
キーワード：参道・商業施設　駐車場

Location : 1166-3narasakurai
Main Use : approach
Site Area : 6410.24m^2
Building Floor Area : 1593.62m^2
Total Floor Area : 1593.62m^2
Keywords : approach parking commercial facility

参考資料

桜井市観光協会

https://sakurai-kankou.jimdo.com

https://www.city.sakurai.lg.jp > sosiki > kankouka

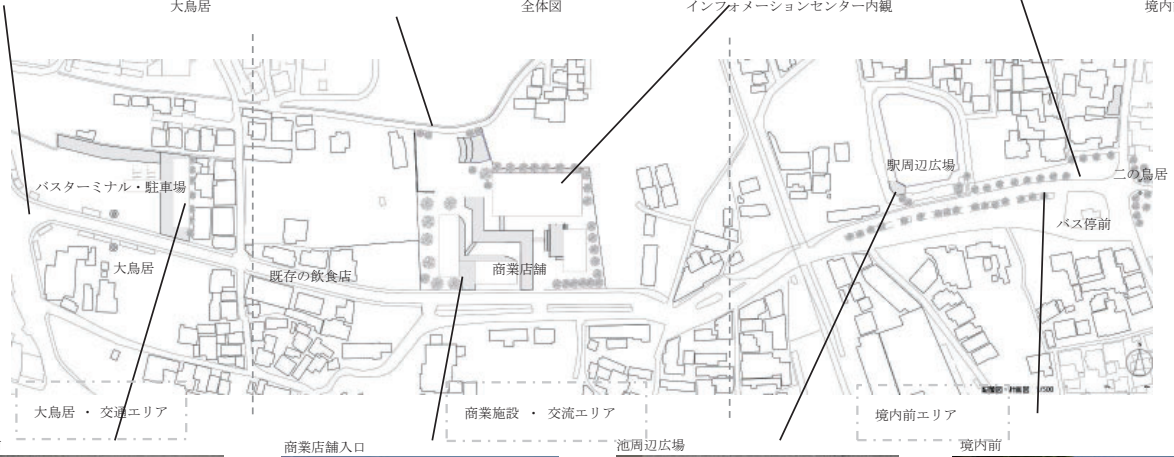
https://www.city.sakurai.lg.jp > sankokusiryou3


大鳥居


全体図


インフォメーションセンター内観


境内前バス停




バス停前


商業店舗入口


池周辺広場


境内前

人々の集う、自給自足的空間の構築

学籍番号　k19248
名　　前　幸松瞭
指導教員　河村大助

Construction of a self-sufficient space where people gather.

Student Number　k19248
Name　Koumatsu　Ryo
Supervisor　Kawamura　Daisuke

◆はじめに

琵琶湖は日本最大の湖。滋賀県の代表的な魅力の一つである。湖岸にはレジャーエリア等もあり、世間では琵琶湖が“自然豊かで魅力的な良いもの”として認識されている。しかし実際のところ琵琶湖の魅力が最大限感じられるのは、水質が綺麗で、滋賀の都会とは離れた北湖周辺地域くらいである。水質の汚い南湖周辺の地域ではほとんど琵琶湖の魅力を肌で感じることができず、そういった機会もない。

よって、“琵琶湖の水質を改善する”行為をすることで、まずは北湖同等の魅力を引き出す。そしてそれを自然物，自然エネルギーを活用し行うことで、長期にわたって改善し続けることができるようにする。また敷地には、琵琶湖の魅力を肌で感じることができるプログラムを置くことで、人と湖との繋がりを描く。今やただそこに存在しているだけの、風景の一部となった琵琶湖を、生活の一部として認識できるような、そんな効果をもたらす建築を提案する。

◆今回の制作で達成したいこと

①SDGs 達成課題のうち、4 項目を達成。

17 項目のうち、琵琶湖の問題とも重なる 4 項目を抜粋した。

No. 7　エネルギーをみんなに、そしてクリーンに

有害な燃料は人の命に関わるだけでなく、温暖化の原因として地球の持続にとって深刻な問題になっている。この項目の達成策として、今回は太陽光や風力といった自然エネルギーを動力源にして運営をする。風力発電では、縦軸回転のサボニウス式風車（図1）のアーケードとして採用。発電効率は悪いが、静音で風向に左右されずデザイン性に富むため、小型の風車を大量に設置し、モザイクアートのように使用する予定。

No. 11　住み続けられるまちづくりを

最も建築業界と親和性が高い。誰もが安全で快適に暮らしを続けられるよう、気候変動や社会問題の衝撃を吸収し、元の状態に回復できるレジリエントな都市を実現するという目標である。この項目の達成策として、今回は緑地の増加、ごみの分別ステーション＆コンポストゾーンを設置する。



図１　サボニウス式風車

No. 13　気候変動に具体的な対策を

気候変動とその影響に立ち向かう緊急の対策をとるために示された目標である。気候変動は食料不足、水不足、自然生態系の変化、経済的損失、健康被害等の人の生活に関わるあらゆる面に多大な影響がある可能性があり、将来のリスクを軽減するための具体的な対策が求められる。今回は自然エネルギーを用いた発電、緑地の増加をし、この項目を達成する。

No. 14　海（湖）の豊かさを守ろう

失われつつある海の豊かさを守り、海や海洋資源を持続的に利用するために掲げられた目標。そして今日琵琶湖では工場排水・生活排水による赤潮の発生、リンの増加による富栄養化、ごみ問題といった環境問題がある。この項目の達成策として、今回は噴水、浄化作用のある沈水植物が住むビオトープ、分別ステーション&コンポストゾーンを設置する。

②水質問題&ごみ問題を解決。（No. 11, 14 項目の達成に向けて）

琵琶湖の水質環境の様々なデータより、北湖より南湖の方が、水質が汚いことがわかっている。そこで、

・空気を琵琶湖の水に送り込み、バクテリアの活性化を図るエアレーションを行うために、噴水を設置。

・浄化作用のある沈水植物が住むビオトープを設置。

の２点を行い、長期的に水質の改善を図っていく。

また近年では、ごみの発生も環境を悪化させる問題になっている。そこで、発生したごみの処理をどうするかではなく、“そもそもごみを出さない”計画にする。そのために、ごみの分別ステーションとコンポストゾーンを設置することで、ごみ問題の解決を図っていく。

◆計画敷地

詳しい住所は不明。滋賀県草津市新浜町付近(図 2)。現在は封鎖されている場所で、過去に広場として使用されていた。敷地南側には大きなため池がある。敷地面積は北側 22500 ㎡、南側 46000 ㎡。周辺には、近江大橋、イオンモール草津、矢橋帰帆島、水再生センター屋上公園、膳所城跡公園、最寄駅の JR 瀬田駅がある。滋賀南部の湖西と湖東を繋ぐ近江大橋が南に通り、また滋賀県最大のイオンモールも建っており非常に交通量が多い。前面道路はビワイチ（“琵琶湖一周”の略称、自転車で琵琶湖を一周するサイクリングルートの名称。） にも使用されている。

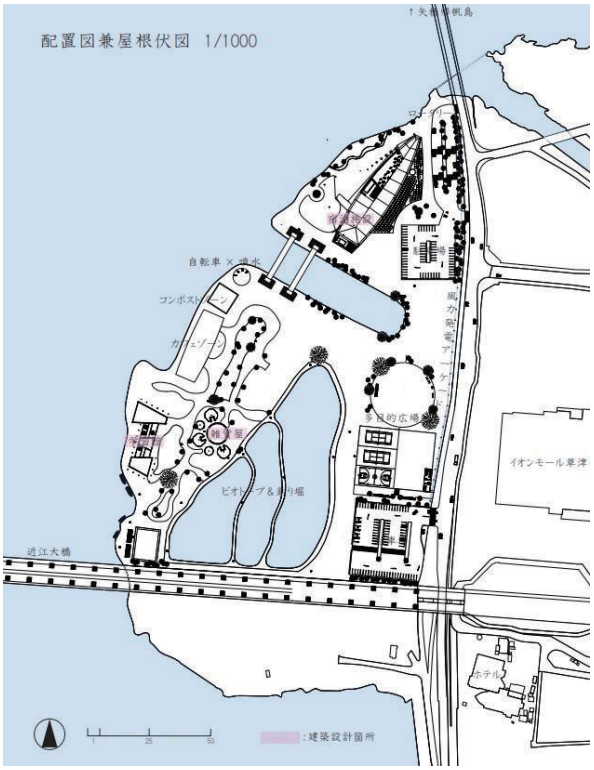
◆計画用途

琵琶湖の魅力を引き出すプログラムを考えた。

1. 宿泊施設
2. 琵琶湖の歴史が学べる学習館
3. 雑貨屋
4. 体を動かす空間（自転車×噴水アトラクション、多目的広場）
5. カフェ
6. 分別ステーション&コンポストゾーン
7. ビオトープ×釣り堀（ため池を流用）
8. その他（噴水、サボニウス式風車アーケード）



図２　周辺環境の分布図



配置計画図



外観パース

◆参考資料

「国土地理院　地図・空中写真閲覧サービス」　https://mapps.gsi.go.jp/maplibSearch.do#1
「淀川水系流域委員会 － 国土交通省近畿地方整備局　淀川水系の現状説明〔淀川水系河川整備計画の検討〕（琵琶湖部会資料）」
https://www.kkr.mlit.go.jp/river/yodoriver_old/kaigi/biwa/1st/pdf/siryou03/index_3.html
「サボニウス型風車風力発電機を作ろう」　https://m.happycampus.co.jp/doc/21895/

愛媛県鬼北町における近世神社建築の調査・研究

学籍番号　K19249
名　　前　小﨑史帆
指導教員　大上直樹特任教授

近世神社建築　フィールドワーク　悉皆調査
実測　愛媛県鬼北町　流造り

研究目的

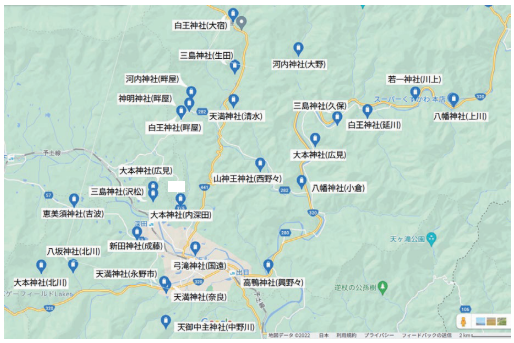
近世社寺建築は優品主義であり、優れたものに関しては文化財に指定され、調査や保存がおこなわれている。

昭和 53 年以降に全国でおこなわれた近世社寺緊急調査では、都道府県ごとに重要とされるおよそ 200 件ずつの近世社寺建築について調査がおこなわれた。

しかし、全国には数多くの社寺建築がある。地域ごとに悉皆的に調査することによって、その地域の建築細部意匠、構法材料など地域の特色を明らかにすることでき、今回は愛知県鬼北町を研究対象とした。

研究内容

愛媛県北宇和島群鬼北町の近世神社建築 30 件（旧広見町に 25 件、旧日吉町に 5 件）神社がある。そのうち、旧広見町にある神社 25 件の調査を行う。



調査実施神社の位置

愛媛県鬼北町について

愛媛県鬼北町は、愛媛県南西部に位置し、旧広見町・旧日吉村の 1 町 1 村が 2005 年 1 月に合併した町である。総面積は 241.87 平方キロメートルで、1,000 メートル級の山地に囲まれた典型的な中山間地域である。

今回は鬼北町の「大学生等フィールドワーク、インターンシップ推進事業補助金」を頂いて調査をした。（調査費 45 万円のうち、2/3 補助）



実測調査

調査方法

神社の本殿・拝殿の平面図の実測、調査シートの記入、部材の写真撮影をした。

本殿・拝殿の実測は、野帳を描き、コンベックスで計測（尺目）し、野帳に計測した寸法値を記入する。それを CAD で図面を作成した。

調査シートは、事前に作成したものを持参し記入した。

写真撮影は、参道、拝殿、本殿、境内社、棟札等を撮影した。特に、本殿は細部まで多く撮影をおこなった。





実測調査の日程・メンバー

実測調査は、大上教授、同ゼミの降簱優花、吉田仁美、工芸学科 4 年生（来年度院生予定）の森定彩音、1 年生の黒川瑞貴、鳥越柚樺の協力を得て、以下の日程でおこなった。

予備調査　7 月 8 日～7 月 10 日（2 泊 3 日）
　小﨑・大上教授
第 1 回　8 月 24 日～8 月 27 日（3 泊 4 日）
　小﨑・降旗・吉田・大上教授
第 2 回　9 月 13 日～9 月 16 日（3 泊 4 日）
　小﨑・黒川・鳥越・大上教授
第 3 回　11 月 18 日～11 月 20 日（2 泊 3 日）
　小﨑・森定・大上教授



第２回調査



第４回調査

調査結果と考察

25 件の調査結果は、本殿のうち一間社流造りが 23 棟であった。例外としては、三間社として大本神社本殿（内深田）、天満神社本殿（清水）の２棟があり、二間社としては白王神社本殿（大宿）の１棟である。屋根形式は概ね流造りであるが、高鴨神社本殿（興野々）と弓滝神社本殿（国遠）は入母屋造りである。

この地域の建築的特徴は以下の通りである。

①屋根については、板葺きで、小屋組みがなく、化粧の形がそのまま屋根の形になっていた。これは、奈良の神社など、古い屋根の形式である。



新田神社本殿（成藤）

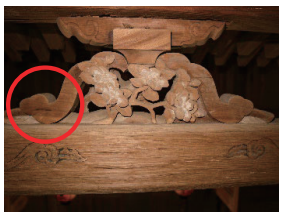


河内神社本殿（畔屋）

②蟇股は、先に行くにつれ、木鼻様の渦を巻いているものが多く見られた。



大本神社本殿（内深田）



河内神社本殿（大野）

③高欄廻りは、木階の登り高欄は擬宝珠、親柱を立ておさめる。架木などの端部が外に跳ね出していることから跳高欄また、縁板が分厚く架木が細い。関西などでは、榑縁にし、薄い板を張る。分厚い分、高価な印象を受けた。



大本神社本殿（内深田）



河内神社本殿（大野）

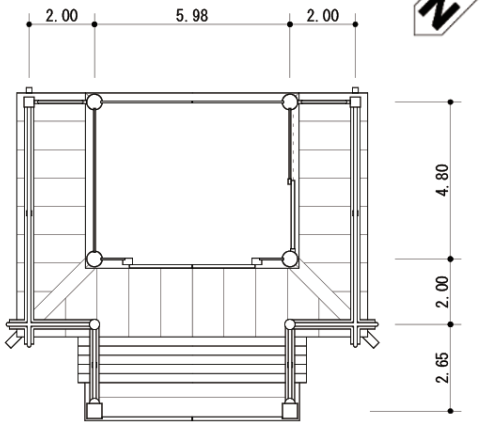
④材料は、一般的には杉や檜、松が使われるが、ここでは、良質な栗が多く使われていた。そして、組物までが栗で、桁から上が杉や檜といったように、部分使いされているものが多く見られた。

調査対象一覧

旧広見町にある 25 件の神社の一覧

	名称	地域	間口寸法	時代	調査日
1	天満神社	近永	2.10	大正	令和4年8月25日
2	天御中主神社		4.15	明治	令和4年8月25日
3	天満神社		4.51	江戸末期	令和4年8月25日
4	八坂神社		4.09	江戸後期	令和4年8月25日
5	大本神社		4.41	昭和	令和4年8月25日
6	新田神社	好藤	3.90	江戸中期	令和4年11月19日
7	弓滝神社		4.98	昭和	令和4年9月21日
8	三島神社		5.72	明治	令和4年9月21日
9	大本神社		13.54	江戸中期	令和4年8月26日
10	恵美須神社		9.40	明治～大正	令和4年8月26日
11	神明神社	愛治	—	明治	令和4年8月26日
12	白王神社		6.15	明治	令和4年9月22日
13	白王神社		6.70	江戸後期	令和4年8月26日
14	河内神社		2.38	昭和	令和4年8月26日
15	三島神社		—	明治	令和4年9月22日
16	天満神社		10.67	明治	令和4年9月22日
17	大本神社	三島	5.02	昭和に改築	令和4年9月21日
18	白王神社		5.03	江戸後期	令和4年11月19日
19	河内神社		5.00	江戸後期	令和4年9月21日
20	若一神社		5.01	江戸中期	令和4年11月19日
21	三島神社		5.05	江戸末期	令和4年9月21日
22	高鴨神社	泉	5.98	江戸中期～後期	令和4年8月25日
23	八幡神社		4.99	江戸末期	令和4年9月22日
24	山神王神社		5.27	江戸	令和4年9月22日
25	八幡神社		9.50	江戸前期	令和4年11月20日

事例紹介　図面



高鴨神社本殿（興野々）　平面図　(単位：尺)

参考文献

愛媛県教育委員会：『愛媛県近世神社建築報告書』, 1990 年

広見町誌編さん委員会：『広見町誌』, 1985 年 3 月

日吉誌村誌編集委員会：『日吉町誌』, 1968 年 10 月

近藤豊, 大河出版：『古建築の細部意匠』, 1967年12月

角南隆, 神社新報社：『社寺建築』, 1934年4月

生活に緑を

学籍番号　k19250
名　　前　小島舞也
指導教員　新海俊一

Green in life

Student Number k19250
Name Maiya Kojima
Supervisor Shunichi Shinkai

１　はじめに

本計画の対象敷地は近年、京阪神エリアのベッドタウンとして発展してきた滋賀県草津市の草津駅東側に位置する。草津市の中でも敷地にほど近い草津駅の東側、駅東エリアには大型マンションが立ち並び多くの人々が住んでいる。現在も大型マンションが建設され続けていることから今後も市の人口の増加が見込まれる、全国でも数少ない市である。本計画では多くの人々が日常生活を送る駅東エリアに緑のネットワークのハブとなる商業施設を提案する。

２　計画概要

敷地面積：6310.62 ㎡	建築面積：4,334.12 ㎡
延床面積：10,707.05 ㎡	建蔽率：68.67％
階数：地上３階	構造；S 造
機能	商業店舗　/　公園広場
商業店舗	5 店舗
アクセス手段	自転車　/　徒歩
ターゲット層	子育て世代

２－１　敷地について

敷地場所は、滋賀県草津市にあり草津駅から東に約 300ｍの距離に位置する。当該敷地を選定した理由は駅東エリアに人々が集まる場所を設けたいと考えたからである。かつて敷地周辺近くの商店街にはアーケードがあり、多くの人々が商店街で集まりにぎやかな場所であった。しかしアーケードは老朽化によって取り壊され、また京阪神エリアへのアクセスが良いことから再開発により商店街の店舗が取り壊され大型マンションが立ち並ぶようになった。その結果、商業エリアから住居エリアへと変わり人々が集まり交流する機会、きっかけが少なくなった。

そこで、駅東エリアの当該敷地で緑をテーマとした人々が集まる場所を設けたいと考えた。敷地に隣接している建物はマンションと保育園であり、道路を挟んだ向かいには飲食店や一軒家が立ち並んでいる。敷地周辺を訪れる人の移動手段は主に自転車や徒歩であるが、自動車も多い。敷地がある区画は 2 本の草津駅と国道を結ぶ主要道路に挟まれているため自動車の通りも多くなっている。現在計画敷地には「キラリエ草津市民総合交流センター」（2022 年竣工）が建っている。

２－２　建築計画

計画対象敷地に、以下の３つの機能を取り入れる。

①公園広場　②園芸ショップ、体験工房

③カフェ・飲食店・ショップ

①　公園広場

・緑豊かな場所での休息

・日常生活の中に緑との関わりを持つ

緑豊かな場所として、計画敷地では森を造る。来訪者には、日常生活の中に新しい体験として緑との関わりを持ってもらう。ふらっと訪れた人に豊かな緑の空間でくつろぎ、やすらいでもらいながら、その延長で市民同士の関わりを持ってもらいたい。そして市街地に緑を増やし琵琶湖側の自然と山側の自然を繋ぐ、市街地の中心場所となることを目指す。

②　園芸ショップ・体験工房

・緑のある日常生活の支援

・人々が植物を育て、市街地に緑を増やす

敷地に植栽された自然との触れ合いをきっかけに自宅でも自然と触れ合う機会を持ってもらうことを目的とする。購入した植物を人々が自宅で育てることで市街地に緑が増えていく。

③　カフェ・飲食店・ショップ

・通行者、地域住民の休息場所

・利用者同士の交流場所

敷地に人を呼び込むこと、人々の賑わいを生み出すことが目的である。自然を感じながら日常生活の休息場所として利用してもらう。また、利用者同士のコミュニティー形成のきっかけ、コミュニティーの活動場所となる。

２－３　植栽計画

屋上緑化に向いている植物は限られている。乾燥に強い、風に強い、日照に強いことが求められているため、樹種が限られている。常緑樹がそれらの要素に強く適している。反対に適していない樹種は、成長が早く大木になるケヤキやソメイヨシノでありまた、クリ等の硬くて

所在地：滋賀県草津市大路２丁目
主な用途：公園広場/商業店舗
敷地面積：6,310.62 ㎡
キーワード：　公園広場　緑　自然　商業

Location : 2-chome.Kusatsu City. Shiga
Main Use :Park square
Site Area : 6,310.62m^2
Keywords : Park square Green Nature　commercial

風で落下してくるものは下の階が危険なため適していない。

表１　植栽樹種リスト

	樹種	樹高
高木	エンジュ　オリーブ　シラカシ ゲッケイジュ　ソヨゴ イロハモミジ	2m～3m
中木	ソヨゴ　オリーブ シマトネリコ	1.5m～2m
低木	シャリンバイ　ナワシログミ ヒラドツツジ　ローズマリー オタフクナンテン	0.3m～1.2m
地被	ノシバ　オオバコ群落	0.1m～0.5m
屋内植栽	シェフレラ コンパクタ カレックス　ベンジャミン ファンバン　アイビー	

３　現状（敷地周辺の緑のネットワーク）

現在敷地周辺には多くの緑が点在している。緑がある場所は道路沿いの街路樹、空き地、マンション内の広場、住宅の庭、学校施設などの外構である。しかし、これらの緑が植生している場所は利用する人が限られ、市民の人々に公開された緑の場所は街路樹がメインとなっているため少ないことがわかる。



図１　敷地周辺の緑のネットワーク

４　計画目的

本計画では、計画敷地である場所が草津駅から東に約 300 ㎡の位置にあり、人々の往来が多い、敷地面積が 6,310.62 ㎡と広いことを活かし、駅東エリアの中心場所でありながら、琵琶湖側の緑（自然）と山側の緑（自然）を繋ぐ場所となることを目指す。

また、繋ぐ場所で緑を広げていくために計画施設には、緑のある生活を支援する店舗と公園広場を計画施設に取り入れる。緑のある生活を支援する店舗では、人々の生活に緑との関わりを持ってもらう、取り入れてもらうことが目的である。公園広場では、市民同士の関わりを生み出すこと、子どもたちの遊び場となることを目指す。

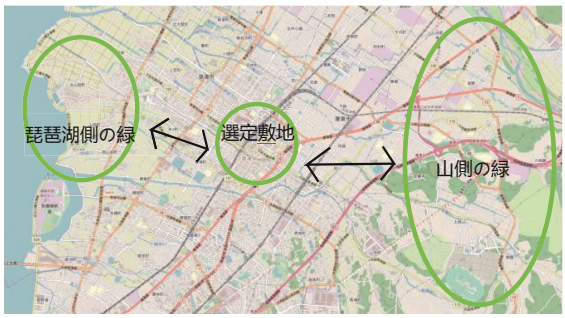


図２　建物の役割による緑のネットワークの繋がり

５　設計趣旨

計画敷地では、人々の生活に緑との関わりを持たせることが出来る商業施設を敷地に建てる。施設を利用する人々には買い物帰りの休憩や市民同士の談笑、子供たちの遊びなどの普段の日常生活の中に緑を取り入れてもらう。そして施設の中で自分の居場所を見つけてもらいたいと思う。また計画敷地に賑わいをもたらすための機能として公園広場、園芸ショップ、カフェ、飲食店、ショップ、体験工房を取り入れ、敷地に人々を呼び込みコミュニティ形成のきっかけ、活動が行える施設目指す。

参考文献

(1)　草津市ホームページ　（最終閲覧日　2022/10/19）
http://www.city.kusatsu.shiga.jp/shisei/kaigishingikai/hokoku/sangyotoshisuido/tokei20201124.files/07-04-02.pdf
(2)　草津市ホームページ　（最終閲覧日　2022/10/26）
https://www.city.kusatsu.shiga.jp/shisei/seisaku/shikeikaku/sangyotoshisuido/kotsu1201407011.files/5.pdf
(3)　草津市ホームページ　（最終閲覧日　2022/11/2）
https://www.city.kusatsu.shiga.jp/kurashi/toshikeikaku/chushinkasseika/chushinkihon/kihonkeikaku1.files/keikaku_gaiyou.pdf
(4)　緑のランドスケープデザイン（改訂２版）
令和４年８月発行
(5)　コンパクト建築設計資料集成［都市再生］
平成 26 年３月発行

祇園祭　鷹山の復興における巡行に関する研究

学籍番号　K19251
名　前　小西一平
指導教員　井上年和

祇園祭　鷹山　復興
辻回し　巡行経路　山鉾

1．研究目的

本研究は、196 年振りに祇園祭の巡行に参加する「鷹山」の復興過程と巡行経路を記録し、それらの歴史を後世に残すことを目的とする。

主旨は、これまで復興してきた歩みを記録するために祇園祭の宵山・後祭りで実際に調査し、その調査記録に基づいた実寸大の図面・３Ｄモデルの製作を行い、後世に構造を伝えていくことである。

2．歴史的背景

表１　鷹山の変遷年表

15世紀		「鷹つかい山」として既に祇園祭の山鉾巡行に記録。
天明8年	1788	京都にて起こった大火に被災。
18世紀末		大屋根を載せた姿で復興。
19世紀初頭		大風雨によって大破。
文政9年	1826	大雨によって懸想品が汚損したことを受けて、 翌年から加列しなくなる。
元治元年	1864	禁門の変で発生した火事によって山の殆どを消失。 以降は「鷹遣」「犬遣」「樽負」の三体の人形を飾って 山鉾巡行の前夜祭である宵山に参加してきた。
平成24年	2012	「鷹山の歴史と未来を語る会」が発足。
平成26年	2014	囃子方の活動を開始。
令和4年	2022	196年振りに復興、山鉾巡行に加列。

鷹山は、詳しい年は不明だが、祇園祭の山鉾巡行によると、既に 15 世紀には「鷹つかい山」として参加していたことが記録されている。天明 8 年には、京都にて起こった大火に巻き込まれて山鉾が被災したことから、18 世紀末に大屋根を載せた姿で復興し、巡行された。しかし、19 世紀初頭に起きた大風雨によって山鉾が大破し、更に文政 9 年には大雨が続いたことにより懸想品が汚損してしまい、この翌年からは祇園祭に加列しなくなる。そして幕末期の元治元年、禁門の変で発生した火事によって山のほとんどを消失したことを受けて、それ以降は「鷹遣」「犬遣」「樽負」の三体の人形を飾り、山鉾巡行の前夜祭である宵山には参加を継続してきた。それから 148 年も経過した 2012 年、「鷹山の歴史と未来を語る会」が発足され、その二年後には囃子方の活動が再開された。そして 2022 年には、本格的に鷹山を復興させるための山建てが行われ、祇園祭の後祭りにて、山鉾巡行が行われた。

3．鷹山　巡行経路

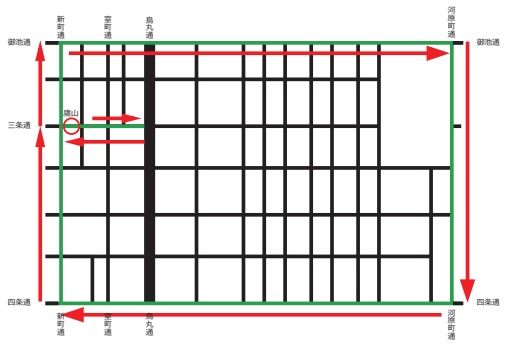


図１　鷹山の巡行経路

辻回しの回数は六回、場所は全部で五ヶ所である。

1．三条新町（右折し、新町通を通過する。）
2．新町通（御池通の交差点にて右折、巡行路へ合流。）
3．御池通（ここから京都市役所まで巡行。）
4．四条河原町（ここから四条新町へ。）
5．四条新町（三条新町にある保存会本部まで。）
6．三条新町（ここで最後の辻回しを行う。）

4．巡行中の様子



御池通・河原町通りを巡行する鷹山

屋根は白木となっており、後に装飾を施した山鉾として巡行する予定。

5．辻回し

辻回しは、祇園祭で巡行する山が方向転換する際に行う。ササラと呼ばれる竹の板を道路に敷いて水を撒き、山鉾の車輪「たま」にカケヤと呼ばれる車留めを噛ませ、ササラに乗ったことを確認したら、車方と音頭取りが掛け声に合わせて、「たま」が傷つかないように、削れないように、ササラに乗せたまま方向転換させる。この作業は双方の息が合うことによって初めて成功するため、ササラの並べ方、カケヤの噛ませ方、車方が綱を引く方向もこの辻回しには重要となる。特に、鷹山の巡行経路は特殊であり、辻回しを行う箇所が同一であるという特徴がある。



写真２　ササラ並べ



写真３　辻回し　三条新町　１回目



写真４　辻回し　三条新町　２回目

6．鷹山が参考にした山鉾

鷹山の軸部部分に使われる部材の中には他の山鉾から寸法を譲り受けた部材がある。軸部のほとんどの部材には、「北観音山」を建てる際に使われた寸法が参考にされ、天井・屋根は「南観音山」の寸法を基にした。
車輪「たま」は大船鉾が過去で実際に使用した物を拝借した。
このように、鷹山は巡行するために、自前の部材の寸法だけで復興を遂げたのではなく、他の山鉾の存在が鷹山を甦らせるために必要だったからこそ、祇園祭に参加するための準備が行われたのだと考察する。

7．山鉾の構造

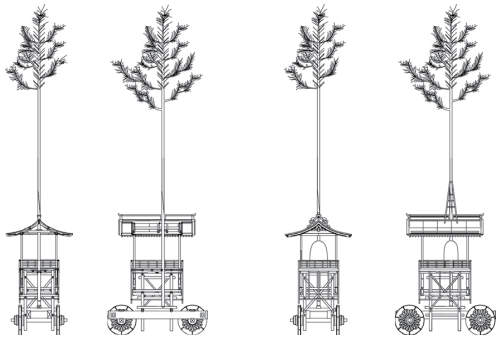


図２　鷹山　断面図・立面図　ArchiCAD 再現図面
「放鷹」を参考に

祇園祭にて巡行される山鉾には、特殊な櫓の組み方がされている。この櫓を組み合わせているのは、釘ではなく縄絡みと呼ばれる技術である。更に、このような櫓の構造は鷹山の他にも存在している。鷹山の櫓は北観音山の櫓の構造を参考にしているため、軸部を見てみるとよく似ている。

8．これからの鷹山

無事に復興を遂げた「鷹山」だが、課題も多く存在している。196 年ぶりの巡行ということもあって、辻回しの際には微調整を何回も重ねてようやく出来たという困難があった。しかし、「鷹山」がこの年に復興を遂げたという事象は、今を生きている日本人たちに希望を与えられるだろう。

参考文献

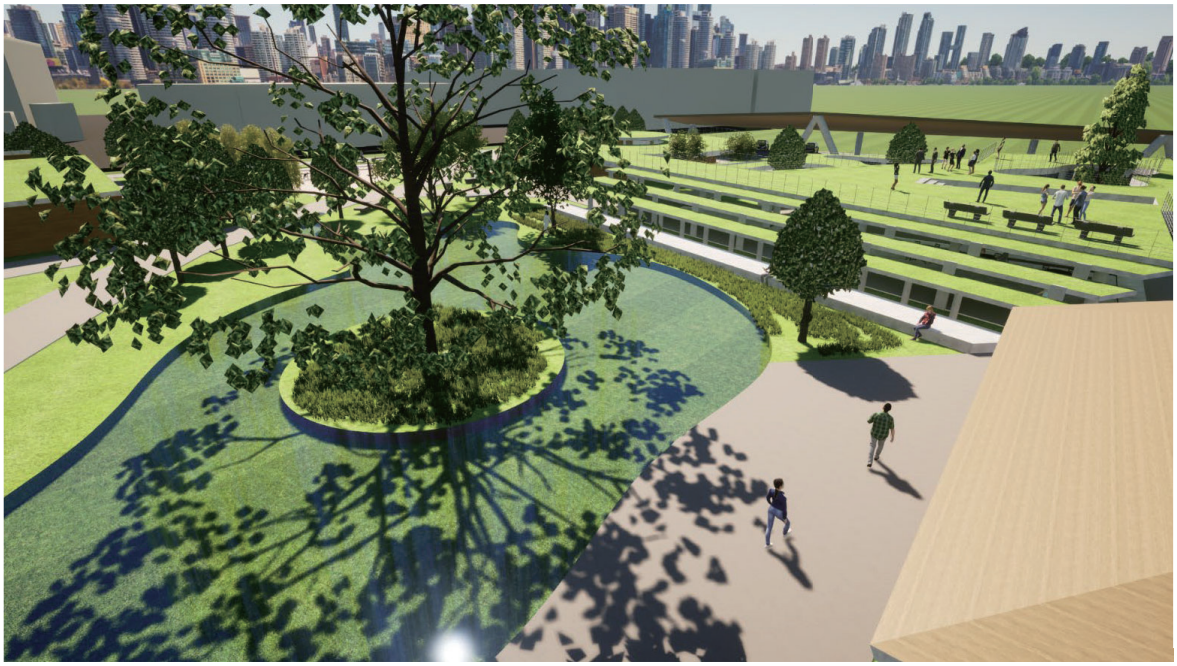
・鷹山の歩み
　廣田長三郎
・祇園祭鷹山復興のための基本設計「放鷹」
　公益財団法人　鷹山保存会
・近世祇園祭巡行志　昭和 43 年 7 月 11 日発行
　発行人　祇園祭山鉾連合会　田中常雄
写真でたどる祇園祭山鉾行事の近代　平成 23 年 3 月発行
京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課編

曽根駅前再開発計画の提案
～自然と共生する商業空間の計画～

Proposal for Redevelopment Project in front of Sone Station
~Plan for commercial space in harmony with nature~

学籍番号　K19252
名　前　小西賢太
指導教員　井上晋一先生

Student Number　K19252
Name　Kenta　Konishi
Supervisor　Shiniti　Inoue



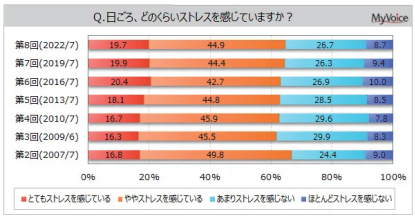
パース写真１敷地中央

計画背景

現在の日本では、社会に不満を持つ人が増加している。原因としては、日々の仕事のほかに現在流行しているコロナウイルスによる物価の高騰や仕事の減少である。

マイボイスコム株式会社によるストレス調査をインターネット調査で実施したところ約 1 万人の回答結果が集まり、日ごろストレスを感じている人は、「とても感じる」「やや感じる」を合わせて 6 割強となっており、女性で比率が高く、女性 10 代～50 代では各 8 割弱である。男性は 30 代～50 代で高く、70 代で低くなっている。

グラフ１（ストレス調査）



このように多くの人がストレスを感じながら生活している社会で、ストレスを解消し、心を癒す効果のあるものが存在する。それは、自然だ。自然に 20 分から 30 分触れることでストレスホルモンのコルチゾールが大幅に減少し、ストレスが軽減していることがミシガン大学の論文で明らかになった。

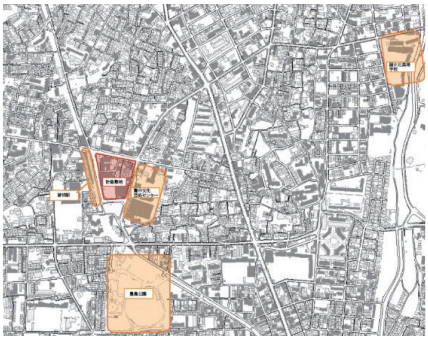
そこで、人々がストレスを解消することのできる自然に囲まれた心地よいオアシスのような空間作りを目的とする。

計画敷地

敷地面積は約 17,000 ㎡。

阪急曽根駅の前にある土地を計画している。現在では、病院や美容院、スーパーなどさまざまな施設が建ち並んでいる。

豊中市では建物の老朽化が問題になっている。また、大阪府では、緑化を促進しており、豊中市でも緑化を促進しているが、緑化率は停滞している。この敷地で計画することによって緑化につながり、また、建物の老朽化問題に対しても効果があり、



敷地周辺地図

所在地：大阪府豊中市曽根東町３丁目
主な用途：商業施設
敷地面積：17,000m²
建築面積：40422 ㎡
延床面積：5071 ㎡
キーワード：商業施設、共生、緑化

Location : 3,higashimati,sone,Toyonaka-shi,osaka
Main Use : Commercial facility
Site Area : 17,000 m²
Building Floor Area : 40422 ㎡
Total Floor Area : 5071 ㎡
Keywords : Commercial facility, symbiosis, greening

ストレス解消のほかに２つの問題解決になると思い、この敷地を選定した。

計画要点

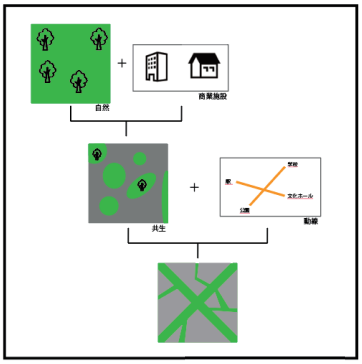
計画するにあたって、重要にしたい点は以下の通りでと決めている。

1　敷地に入ると自然に囲まれているような空間を構成する。

2　駅から周辺建物への動線を考慮した計画をする。

3　緑化率の貢献のため、敷地全体にみどりの配置を計画する。

4　周辺敷地を分析し、適切な施設を計画する。



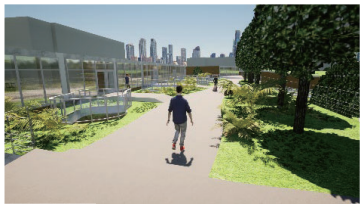
ダイアグラム

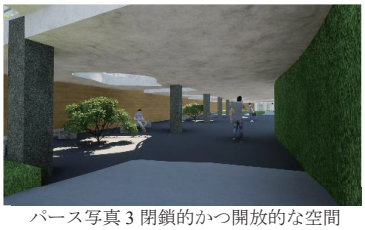
施設内容

施設内容は、病院、スーパー、飲食店、薬局、パン屋、役所、図書館。
ストレスを発散させるためには外に出てみどりに触れる必要があるが、日常的に使うスーパーや薬局、待ち時間の長い病院や役所を敷地内に計画することによって、自然とみどりのある場所に集まることができ、みどりに触れ、ストレスを解消し、また、需要の高い施設が集まるため、自然と人が集まり会話が生まれ、地域活性化にもなる。

計画

閉鎖的だがグランドレベルを下げ、天井に空洞を開け日光が入る圧迫感を感じない閉鎖的かつ開放的な空間や、対照的な開放的な空間、野原の上で寝転べる広場など様々な自然を感じられる空間や広場を計画した。


パース写真２開放的な空間


パース写真３閉鎖的かつ開放的な空間


パース写真４みどりの広場

敷地中央に池を計画し、隣接する豊中文化芸術センターには大きな池があるためその池とつなげることで敷地を挟んだ敷地周辺との一体化を図った。また、その池から小川を設け水辺の広場をつくることで買い物についてきた子供たちの遊び場になるように計画し、池の中心に大きな木を配置することで敷地や駅のシンボルとなるように計画した。
木や草といったみどりを敷地全体に計画し自然の中を歩いているかのように計画するためにアイレベルを変化させた歩道や広場などのたまり場を計画することで普段公園を歩くだけではあまり見ることのない木と同じ高さからの景色や、少し地面を掘り下げた草木を良く観察できるような計画をした。


パース写真５敷地中央の池


パース写真６高さを変えた歩道


パース写真７水遊びが出来る子どもの広場

参考文献

【ストレスに関する調査】ストレスを感じている人は 6 割強、女性で比率高い。コロナ禍前よりストレスに感じることが増えたものは、「仕事内容・労働環境」が 2 割弱、「将来への不安」「金銭面」が各 1 割強 | MyVoice のプレスリリース (prtimes.jp)
20 分間の自然とのふれ合いで「ストレス軽減」効果、米研究 | Forbes JAPAN（フォーブス ジャパン）

Earth box system 169
建築が地球と社会にあるべき理由。

学籍番号　K19253
名　　前　小西真由
指導教員　宮内智久准教授

Earth box system 169
The reason why architecture should be in the earth and society.

Student Number K19253
Name Mayu Konishi
Supervisor Associate Professor Tomohisa Miyauchi

コンセプト

様々な生き方が交差し、個人の選択が認められるようになった現代。
その一方で、今年、終末時計が今までで最も短く、残り 90 秒となってしまった。私たちがこの地球でこれからも生きていく為には何が必要だろうか。そして、建築には何が出来るのだろうか。考えたのは複雑に設定されたシステムではなく、建築を利用した直接的に生活を豊かにし、人々を助けることが出来る仕組みだ。
これはその土地に応じた再生可能な素材で、映画のセットのように組み立てられるモジュール建築を利用し、SDGs の 169 のターゲットをリアルに達成、問題を解決することが出来る建築である。



（イメージ図）

背景と目的

そもそも、SDGs についてきちんと知っている人はどれほどいるのだろうか。
果たして、自分のスーツにつけているピンバッチの意味を自身で理解している人はどれくらいいるのだろうか。

SDGs は、2030 年までに持続可能でより良い世界を目指し、17 のゴール、169 のターゲットから構成される国際目標のことである。（注１）

今、社会が解決しなければいけない問題を誰もが分かりやすく、そして人々が協力し解決へと進めていくためのバロメーターとなっているのだ。問題が可視化されたことにより多くの課題に気付かされたが、我が国では、言葉だけが独り歩きし、解決へのゴールはなかなか見えてこない現状にある。そこで、建築を利用することが問題解決への支援に繋がるのではないかと考えた。

言葉を知ってもらうのではなく、実際にアクションを起こす。この SDGs に関わりを持ち、協力しゴールを目指すのである。本来、2030 年までの目標であり、今、普及に努める取り組みをしているようでは間に合わない。これは、何でもかんでも SDGs に結び付けるメディアや企業が行うアピールではない。本当に必要なことを取捨選択し行動を起こす取り組みなのである。

システムについて

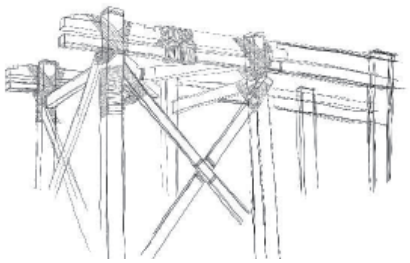
新しいモノを生み出す建築は今あるべき姿なのだろうか。昨年の秋、例年よりも少し暖かかったのは、地球温暖化のせいかもしれない。この地球が少しでも負担を減らせるように、新しく作りだす建物・システムではあるが、資源を出来る限り再利用し組み立てられるようにした。要らなくなれば、取り壊すことで終わらず、また新たな場所でもう一度使えることがこのシステムの魅力である。

変わってしまうかもしれないのは、環境だけではない。その一つが伝統だ。古く日本で使われてきた手法は、長く残っているにもかかわらず、現代では、職人の数も少ない。あらかじめ機械で作られたものを、人の手が少なくても簡単に組み立てられることが多くなっている。地震大国である日本で、歴史を刻んできた建物や、先人たちの技術を、私たちは受け継ぐことが出来ているのか疑問を感じた。
このことから、現場で簡単に組み立てることと同時に、日本の伝統を取り入れることで、表裏の関係にある二つの要素を組み合わせた。

Earth box はそうした考えに基づき、資源を再利用し、日本の伝統的な工法をアレンジした簡易的な建築物である。Earth box は組み立て工程を簡素化しているため、使用期間はその構造を考え、最高一か月。二週間から三週間を目安としている。あくまでも仮設としての建物だが、構造を強化すれば、状況に応じて常設としても利用することが可能な仕組みである。このため、平面や断面をみるとシンプルで飾りのないものとなっている。

所在地：世界中で
主な用途：公共施設
敷地面積：－
建築面積：(1 戸) 14m²
延床面積：場所に応じて異なる
キーワード：SDGs・サスティナブルデザイン・コンテナ

Location : all over the world
Main Use : Public facilities
Site Area : －
Building Floor Area :(1 box) 14m²
Total Floor Area : depends on the place
Keywords : SDGs, sustainable design, container, traditional culture



〈くさびと縄がらみを用いた構造〉

計画概要

構造は、祇園祭の鉾立を参考に、くさびと縄がらみを用い、木組みで組み立てる。また四隅にはフックを取り付け、テントの生地を使用した布を引っ掛けることで側面を覆うことが出来る。これが簡易的な壁であり、更に雨風をしのぐものを備えたい場合は、パネルを用意した。柱に入れた凹み部分にパネルをスライドさせてはめ込むと、テント地のものより、より家と同じように使用することが出来る。窓パネルをはめることで窓の部分をつくることも可能である。

屋根構造として、母屋にあらかじめ凹みをつけ、垂木を簡単に引っ掛けることが出来るようにした。屋根材はアルミ素材の瓦の形をしたものを用意し、日本の意匠の趣を残しつつ、仮設であるこの建物に向くように計画した。

床には、11 型木製パレットを配置し、その上には過ごしやすいように、その場に合わせたカーペットや床材を現地で調達し好みのものを敷くことが出来るようにする。パレットを敷き余ったスペースには、高さを合わせた専用のブロックをはめてフラットな床にすることが出来る。

また、この Earth box は一つを配置するのではなく、数個用いることで用途の可能性が広がるシステムである。隣同士で並べたり、その上に同じ box を重ねることで二階を設置することも出来る。その場合の階段は、Box を積み重ねた形の階段を計画した。中には荷物を収納できるようになっており、これは日本の階段箪笥をイメージしている。運ぶ際には数段ごとに引き出しを取り外し分けて運ぶことで軽く持ち運べる。外部用の梯子を用いれば、通常、日本の一般的な四寸勾配の屋根であるが、屋根部分を平らにし、柵を取り付け、芝生を敷けば、屋上としても利用できる。安全上、平屋の場合のみ。

そして、Earth box は分解した状態のモノをコンテナで運ぶため、世界中で使用可能である。寒さや暑さをしのぐ為、その土地に合わせ現地の人々が自分たち好みにアレンジを加えることが出来るのも魅力の一つである。

用途

具体的な使用方法として、発展途上国での教育の場やコミュニティ形成、紛争地域での医療現場やケア施設としての利用を挙げているが、日本においても簡単に組み立てられるという観点から、例えば、災害が起きた時に役立つと考える。

被災した地域では段階に沿って復興が進められる。その段階とは三つのフェーズに分かれており、被災者の心理的状況など様々なシチュエーションに合わせ支援を行う。（注２）

Earth box はその三つのフェーズの中でフェーズ２において使用することが出来る。

フェーズ２では災害が起きた直後から三日程がたち、人々が避難所等での生活をベースにし、外部からの支援がはじまる。この期間は、復旧・復興期に移り変わるまでの応急対応期と呼ばれている。（注３）

Earth box はこの期間の中で、避難所での被災者の生活を少しでも広げることが出来るのではないかと考える。例えば避難所として設定された小学校の体育館。その外、中庭に earth box を設置し、自治体の仮設事務所や手続きを行う場所として使用できる。

簡単なキッチンを中に設置することが出来るため、ライフラインが復旧する頃には用途を広げることも出来る。こうした突然の事態にも備え人々の生活に寄り添うプロダクトであり、建築が今後必要になると考え、製作した。私たちがより良いライフスタイルを送れることを願って。

参考文献

１.）日本ユニセフ協会　SDGs ってなんだろう？　〈https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/#〉（2023 年 1 月 30 日）

２.）fukko_design　ぼうさいペディア〈https://note.com/fukko_design〉（2023 年 1 月 30 日）

３.）復興の教科書　復興のフェーズ〈https://oss.sus.u-toyama.ac.jp/fukko/phase/〉（2023 年 1 月 30 日）

新たな企画が集う町工場

～町工場のマーケット・イノベーション～

学籍番号　K19254
名　　前　小西悠矢
指導教員　井上晋一　先生

Town Factories where NewProjects gather

～Market innovation at the Town Factories～

Student Number　K19254
Name　Yuya Konishi
Supervisor　Shinichi Inoue



図 1 南西側俯瞰視点

1. 背景と目的

1.1 日本の町工場の現状

町工場は日本国内の生産工場の内約９割を超えており、工場生産額においては約５割を中小工場が占めている。町工場のメインの業態は製造・販売するメーカーへの部品の納品が主な業務となっている。そのため、自社製造の製品が少なく、受託業務が多いことから受託製造業と呼ばれ分類されている。

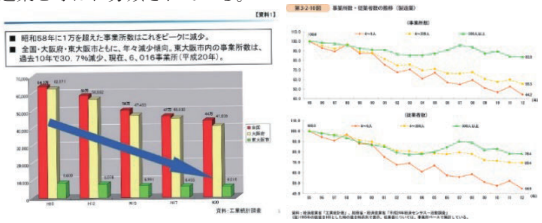


図 2 町工場の推移

1.2 町工場の問題点

現在、多くの町工場は減少の一途をたどっている。その原因として、収支の悪化や後継人不足による閉業・一社への依存など様々な問題を抱えている。自社製品が少なく、受託業となっているため材料費や人件費の高騰による原価上昇を製品に直接反映することが難しく、経営難に陥ったり、後継人や人手不足によって技術の継承がされず閉業となってしまう。一社への依存による経営の不安定さなどが具体的な問題点となっている。また、人材不足も町工場では大きな問題となっている。少子高齢化による働き手の減少、労働環境の劣悪さなどのネガティブなイメージがついていることが原因となっている。

1.3 目的と概要

八尾の町工場同士が手を組み、合同のプロジェクトの立ち上げ新たな自社製品やブランド力の作成によって新たな市場への展開を可能とする力をつける。また、合同プロジェクトによって展開する製品に新たな考えや技術・価値観などの要素を生み出し、今までの技術やスキルを用いてマーケット・イノベーションを起こす。これら合同プロジェクトを進めるにあたり必要な施設の設計を行うこととする。

2 選定敷地の特徴

2.1 敷地とその周辺敷地の分析

敷地は大阪府八尾市木の本三丁目にある空港北濠緑地となる。当該敷地は現在、遊水地兼公園として使用されており、豪雨の際に一時的に雨水をためることが出来る空間となっている。それ以外の日には公園として開放されている。

八尾空港周辺は工業地域（図より青色部分）で構成されており、工場の事業所や製造所が多く立地している。



図 3 選定敷地

所在地：大阪府八尾市木の本三丁目
主な用途：イノベーションセンター
敷地面積：2650m^2
建築面積：1405m^2
延床面積：2050m^2
キーワード：町工場・イノベーション・活性化

Location : Kinomoto 3-chome Yao City Osaka
Main Use : Innovation center
Site Area :　2650m^2
Building Floor Area :　1405m^2
Total Floor Area : 2050m^2
Keywords : Town Factories・Innovation・activision

また、当該敷地は南北の工業用地の中間に位置しており、西側には地下鉄の終着駅が存在しているため、交通の便は良好となっている。当該敷地の上部は住宅用地となっており、遊水地を境として分離されている。

2.2 八尾市とはどのような場所なのか

まず八尾市は大阪府の東側に位置しており、東大阪の南側・奈良県との県境にある。特徴としては大阪市への交通の便が良く近郊都市として発展している。また、農業と工業共に力を入れており、工業生産額は堺市・東大阪市に次いで大阪府下でも上位に位置している。
隣接する東大阪市と共にものつくりの町として発展した背景もあり、製造業の町として発展してきた。東大阪との比較としては農業・農業機械・電気機械の生産が盛んとなっている点があげられる。

3.1 設計概要

合同プロジェクトを立ち上げ、新たな製品を作成するにあたって必要となる施設の設計。第一として、新たな製品を作るための情報収集・情報交換のできる場の提供。プロジェクトと各企業を繋げるために情報発信する場。第二に情報収集・交換によって得たモノを実際に製品にするための製造所。また、製品作りのできる作業所の提供。第三に合同プロジェクトによって完成した製品を新たな市場に展開するための情報発信の場・来賓が閲覧可能な展示室の設置。一般客や地域住民が実際に手に取って体験できる場の提供。

3.2 設計概要 2

建物配置は駅からの一般客の来訪を意識し、駅に近い西側にカフェや展示エリア・遊水地公園を配置。連続するように緑化エリアと製造所へと続く形になっている。次に建物外観はカフェ・展示エリアとプレゼンルームは町工場をイメージしノコギリ屋根と川をイメージする流線形を主体に設計。製造所は製造風景など見学できることを意識してショーケースのような外観で構成した。

参考文献

八尾空港西側跡地活用に関するマーケット・サウンディング
https://www.city.yao.osaka.jp/0000060320.html
東大阪市町工場
https://www.city.higashiosaka.lg.jp/category/21-13-0-0-0-0-0-0-0-0.html
八尾市と東大阪との比較
https://www.seikatsu-guide.com/compare/27212/27227/2/
YAOYA Project
https://loftwork.com/jp/project/yaoya_project_phase1

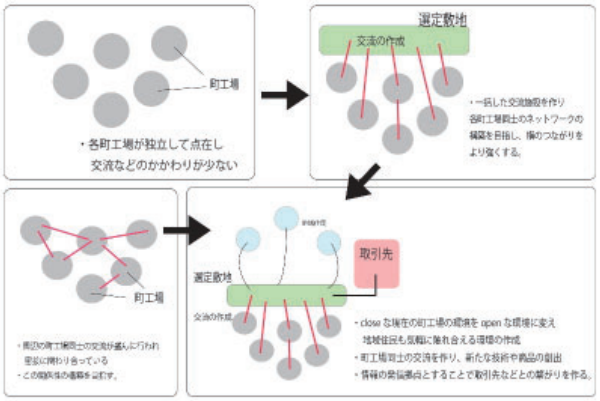


図 5 ダイヤグラム

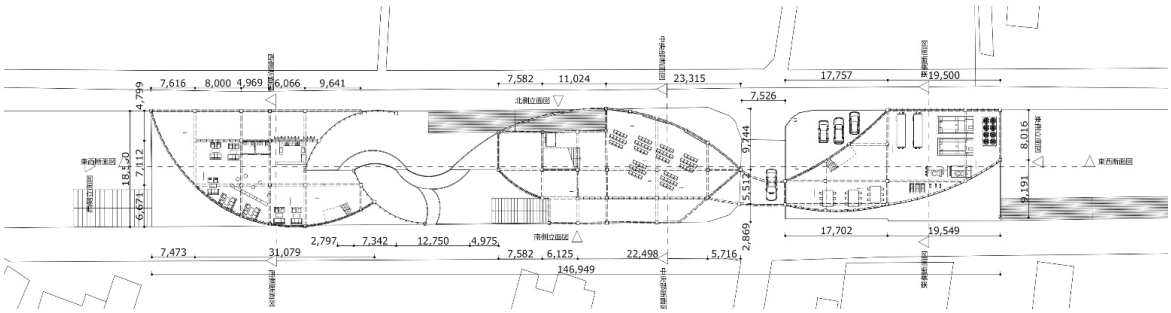


図 6 配置図兼一階平面図　1/300

Part　of　Newtown

＜異世代シェアハウス＞

学籍番号　　k19255
名　　前　　小松快人
指導教員　　永井秀幸

キーワード
まちづくり　　住宅　　異世代
シェアハウス　　商店街　　広場

1-1.　計画概要

少子高齢化問題が現在でも問題になっている。その中でも特に図１でもわかるように 45～54 歳の世代、いわゆる団塊ジュニア、就職氷河期と言われる世代の人口が多い。その世代の方が 10～20 年後に安心して住めるような新たなまちづくりを計画した。新たに大きなニュータウンを計画するのではなく、既存のニュータウンとなるよう計画した。メインターゲット層（現在の 45～54 歳）に絞り切らず若者（主に大学生）とのシェアハウスをメインに街を展開した。街に商店街や広場を計画し関係性を持たせ、高齢者同士だけでなく大学生等の若者や町に住まない商店街に来た方との交流を実現させる。商店街の所々に小さめの公園 を計画し、ベンチ等を設置し住民同士や商店街に来た方の交流や休憩を実現できる。車道をなくし街全体での移動を歩行者や自転車メインにし、車が中まで入ることない街を計画することで交通の安全性も考慮した街になる。

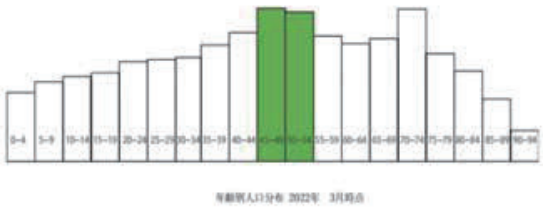


図１　参考文献

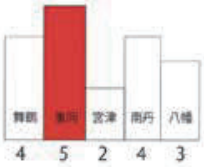
総務省統計局（https://www.stat.go.jp/data/jinsui/2.html）

1-2.　背景

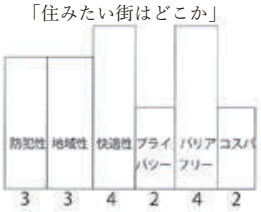
45～54 歳をターゲットにしたきっかけは実際に筆者の両親の世代であり、受験や就職活動などの話をじかに聞くことが多く、その世代にとって高齢化が大きな不安要素だと感じ、興味を持ち始めたのがきっかけである。そして人口の多いこの年齢層の人口が、今後どのような住宅や街を求めるかが今後社会にとってとても重要な問題であり、その解決策を提案していきたいと思い計画を考え始めた。

1-3.　口頭アンケートによる実際の声

まず初めに、45～54 歳の方がどのような老後を考えているかの声を実際に聞きそれをもとに街を計画していくことで、より需要のある街になると考えアンケートによる聞き込み調査を行い、集計を行った。図２がアンケート結果である。アンケートによる結果は各々が違った意見を持っていることが分かった。その中でも、「住みたい街」のアンケートで亀岡市が大きな割合を占めていたため、敷地を亀岡市に決定した。他にもシェアハウスの意見やどのような機能や住み方を重視したいかを学生も含め調査を行った。



「住みたい街はどこか」



「街に求める機能」

図２アンケート結果



写真１　敷地写真

1-4. 敷地情報

敷地は京都府亀岡市保津町下中町であり、亀岡駅まで徒歩で 5～10 分、亀岡駅から京都駅までは一本の電車で約 20 分程度で、サンガスタジアムのすぐそこに位置する。
現在は田畑になっている区画の 1/3 以下を計画敷地としている。

1-5.　なぜシェアハウスなのか

今後子供が独立していき、老後の生活を一人や二人で過ごすことになる事への心配を抱えている方が少なからず存在し、シェアハウスに居住することによってその心配から開放され、若者を大学生に絞ることで居住を共にする大学が卒業しても次の大学生がくることで、継続的に安心した生活を送れる。

Part　of　Newtown

＜Intergenerational Share House＞

Student Number　k19255
Name　　Kaito Komatsu
Supervisor　　Hideyuki Nagai

高齢者は緊急時に助けを求めたり、孤独感からの解放や活力もらえるなどのメリットがある。

高齢者住宅の現状としては高齢化が進んでいる中で、徐々に需要を高めている中で、まだバリアフリーや自立性や地域性など特に高齢者に必要な要素を兼ね備えた住宅が少ない。しかし本計画のシェアハウスでは安全性や防犯性などの課題が解決される。


図３　住宅間の広場


図４　住宅間の広場

2-1　ニュータウンの設計

計画するニュータウンにはシェアハウスに加え広場や商店街等を計画し住民同士のコミュニケーションが自然にとりやすい街となっている。ニュータウンの入口に駐車場を設置し車の出入りを防ぐことによって、街全体に車をなくしつつ、遠方からの来客にも対応できる。街の舗装を石だたみにし京都らしさを表現しながら要所に木材を使用したり、植栽を設け自然を感じることのできる計画である。

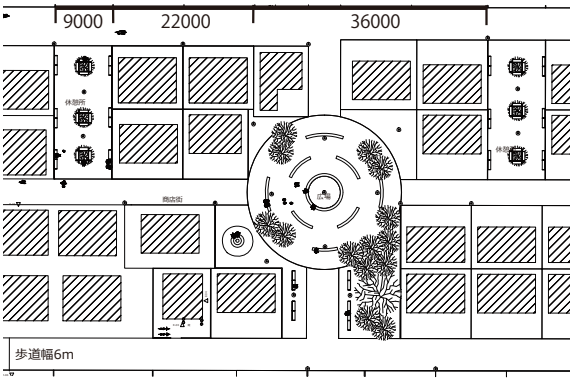


図５　配置図の一部 広場部分　(1/1000)

2-2　異世代シェアハウスの設計

高齢者と大学生が住むシェアハウスについては、一般的なシェアハウスとは異なり、高齢者が主に家賃等を負担しそこに学生が住み着く形態をとる。あくまで高齢者を第一に考えた住宅となっており、高齢者の寝室等や使用頻度の高い LDK は一階に配置しており、スムーズな動線を確保できる住宅となっている。間仕切りをなくすことや玄関付近にリビング等を計画することで高齢者と学生の自然なコミュニケーションを図る。

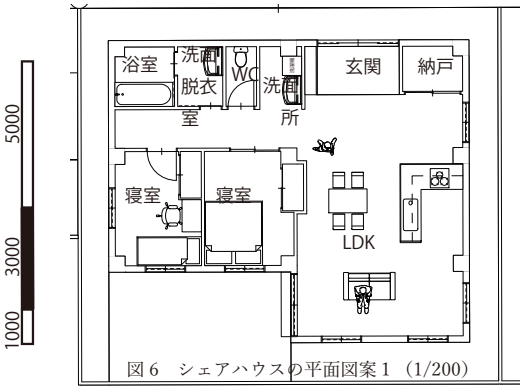


図６　シェアハウスの平面図案１（1/200）

2-3　商店街と広場の関係性

商店街をただ設計するのではなく広場と関係性をもたせ、奥行きや開放感を感じることのできる商店街へ計画をしている。商店街以外にも住宅間に通り抜けられる広場を配置し、広場共にベンチや植栽を設けることで、休憩や住民同士のコミュニケーションを落ち着いた雰囲気でとることができる。

街へと入る前に大きな公園や広場を計画すことで街への興味を持たせることができる計画も取り入れている。


図７　商店街を抜けた広場

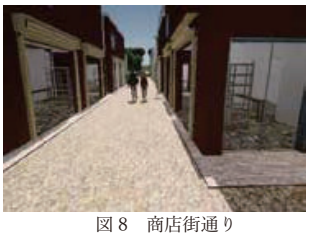


図８　商店街通り

所在地	亀岡市保津町下中町	Location	： Shimonakacho,Hozucho,Kmeoka City
主な用途	シェアハウス　商店街　公園	Main Use	：Share House　Shopping street　Park
敷地面積	21850 ㎡	Site Area	：21850 ㎡

高瀬川　舟入舟運

K19256
古屋敷有人
指導教員　小梶吉隆

Funairi shuun

K19256
Yuto koyashiki
Supervisor　Yoshitaka kokagi

背景・目的

私は京都に住み始めて 3 年 7 ヶ月が経つ。京都の魅力的なスポットと言えば鴨川、社寺仏閣、河原町のアーケード、木屋町の歓楽街、京都タワーと沢山ある。では、高瀬川の存在はどうだろう。四条から七条にかけての高瀬川は、四季折々の美しさがあり、紅葉や桜並木などの時期にはライトアップもされる。水面に映る木々の景色やキラキラとした水面など、その静けさや暗さによって引き立つ川と木々の織り成す情景に、多くの人が注目する。しかし、四条通りから二条通りにかけての高瀬川は雰囲気が一変する、静けさの中にあった美しさは、木屋町の活気に埋もれ、キラキラとしていた水面は街並みの明かりに霞んでしまう。現在の四条から二条にかけての街並みでは、高瀬川はひっそりと、“ただそこに流れている”存在になっている。

そこで、舟入を再構築した建築を提案する。もう一度役割を与えられた運河は、街と一体となり私たちと共に暮らす存在となる。運河と街との直接的な新たな関係を築き、新しいコミュニティの場を生むことで、高瀬川は集い賑わう空間へと生まれ変わる。

高瀬川・舟入とは

高瀬川は鴨川の氾濫を防ぐために角倉了以が考えたとされており、鴨川の水が引き入れられて全長 10km にも及ぶ運河となった。水深は船底の浅い高瀬船に合わせて浅く、川幅も船が通れば水位が上がるように狭く作られている。このように鴨川の氾濫を抑えるために作られた高瀬川は、のちに運送業を通して京都の発展に寄与することになった。

そんな高瀬川で舟の方向転換と物の積み下ろしをされた場所が、舟入であり、舟を引く人々やかけ声が飛び交う活気のある場所であった。運搬されていた物資の内容は、伏見から京都に向けては「木材、炭、お酒、醤油、海産物、調味料、加工品」が、京都から伏見に向けては「たんす・長持・鉄工業製品」などが運ばれた。このような物資の運搬によって、高瀬川の舟入には上記の物資に関連する問屋が置かれるようになった。商人や職人が町を形成したのである。その例として、材木町や石屋町、塩屋町など職種や商品の名前を反映させた町名が付けられている。しかし第二の疎水の完成やトラック運送の開始などによって、高瀬舟による運送は次第に減少していき、大正９年に廃止されることになった。

日本食について

サブテーマとして 9 つの舟入と日本食を組み合わせた建築を計画する。今回、大豆を原材料とした「枝豆」「大豆」「味噌」「醤油」「納得」「豆腐」「湯葉」「きな粉」「生揚げ」の 9 つの加工品や調味料を選出した。日本食を選んだ理由は、京都と日本食の関係性にある。

京都は野菜を中心とした日本食文化を育んできたが、都であったため全国各地から多くの食産物が運ばれてきた。当時伏見から京都に向けて高瀬船が運んでいた物資の中にも、「お酒」「お醤油」「海鮮」と、調味料や食材があった。しかし全国から運ばれてくる水産物は新鮮とは言い難く、それにより製造技術や調理法には創意工夫をもたらした。こうして京都は日本食文化を発展していった。また全国から多様な文化が流入し，生活文化が栄えたことに加え，工芸品等の生産が発達していたことから、季節感やおもてなしの心、本物へのこだわりといった精神文化が食文化にも浸透している。そして現在、日本人の日本食消費量は年々減少している。そうした背景には日本人の食の多様化がある。日本食消費量の減少は、必然的に日本食調味料の消費量の減少を意味している。日本の味は、少しずつ継承の機会を失っているのである。そこで、食文化と古くから深く関わりのある京都の地は、日本食の良さに改めて気づく環境として適していると考えた。

また、私の実家は大正時代から醤油蔵を営んでおり、父親に聞くと先代は京都に出店をしたかったと聞き、その夢を叶えるため日本食を提案する。

計画敷地・用途

京都府京都市二条通りにある一の舟入から、京都府京都市四条小橋にある九の舟入。当時存在していた舟入と同じ場所に計画する。一の舟入から順に「大豆」「枝豆」「味噌」「納豆」「湯葉」「醤油」「豆腐」「生揚げ」「きな粉」に分類させる。大豆、枝豆は原材料となっており、一の舟入から大通りである御池通りで完結させる。三の舟入、六の舟入、九の舟入は調味料を配置、その間を加工品とし持ち歩きに偏りがないようにし、舟入の間隔は 100m ほどあるので、次の舟入が視覚に入るように計画する。

建物は道路の上、高瀬川の上、既存の建物に計画し、建物の大きさによってショップや体験スペース、テイクアウトと用途を変えていく。

所在地：京都府京都市中京区・下京区・南区
主な用途：商業施設
敷地面積：3482m²
建築面積：2333 ㎡
延床面積：1414 ㎡
キーワード：高瀬川、地域活性、日本食、舟入

Location : minamiku,simogyouku,tyuukyouku,kyouto
Main Use : Commercial facilitye
Site Area : 3482 m²
Building Floor Area :　2333m²
Total Floor Area : 1414m²
Keywords : takasegawa,Regional revitalization,Japanese food,hnairi



５から６の舟入周辺(現在)



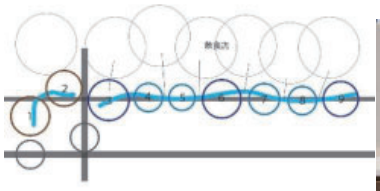
５から６の舟入周辺(計画後)

高瀬川沿いを歩く計画

今の木屋町は歩道と車道が一体化しており、歩道は狭くゆっくりと歩くことができない。桜並木の植栽は、より高瀬川の存在を薄くしている。そこで高瀬川に新たな動線を設けることにより、高瀬川の存在を薄くしていた植栽が、車道の存在を薄くする。舟入から舟入へ歩く動機として、9 つの舟入で日本食の元を購入、体験して作った物を、次の舟入へ持ち歩き使用することができる。調味料だと加工品は持ち寄り、食べ歩きや休憩しながら高瀬川や桜を見ながら食べることができる。舟入を復活させることにより、目的地という新しい場ができ、地域のコミュニティや観光客の集いとなる。それぞれの舟入で購入、体験した物は舟を使って運搬でき、目的地である舟入に滞留すると荷物を取りに人が集まるため自然にコミュニティが生まれる。また、運ぶことにより木屋町一帯にある飲食店に、調味料や加工品の受け渡しができ街との繋がりが増える。

高瀬川で舟と橋を共存させるために

現在の高瀬川に舟を通すにあたって、今のままでは橋が低く舟の動線を確保できない点が課題であった。船を通しつつ水位を下げる方法もいくつか検討したが、水圧の関係性などから高瀬川の深さを変えるのではなく、橋を太鼓橋に変更する方法が適していると判断した。太鼓橋は船を通すことを可能にするだけではなく、目線を約二メートル上げることによって、高瀬川を一望することができ、桜の木を間近で眺めることが出来る。太鼓橋にすることによって生まれる目線の変化は、橋をただの道ではなく集いの場へと変化させ、人と自然と街並みをより一体感のあるものに感じさせる。御池橋と四条小橋の下で高瀬川の深水が約 30㎝ に調整できるように、簡易ダムのようなせき止めるブロックを配置して水位調節機能を持たせる。高瀬舟は本来、長さ約 13m、幅約 2m と構成されているが、新高瀬舟は長さ約 7.5m、幅 1.4m の底が平らな浅川専門の舟とする。舟を動かす動力については水棹（みさお:水底を突いて舟を進ませるための棒）とロープを使用し、早歩きぐらいの速度で動かす。また、各舟入に舟の方向転換の役割を持たせると他の舟の邪魔になってしまうため、3 の舟入と 9 の舟入を長さ 20m、幅 12m として、方向転換ができる舟入とした。4 の船入から 8 の舟入は舟同士がすれ違うことが可能な幅を確保した。



計画配置



橋断面図



高瀬川の水深

参考資料：

http://subsites.icu.ac.jp/people/yoshino/riv&man2008_09/Takasegawa09.pdf

https://www2.city.kyoto.lg.jp/somu/rekishi/fm/nenpyou/htmlsheet/toshi22.html#1

animal and :Do～淀の動物保護施設～

学籍番号　K19257
名　　前　近藤倫加
指導教員　小梶吉隆

Animal shelter in Yodo

Student Number　K19257
Name　Michika Kondo
Supervisor Yoshitaka Kokaji

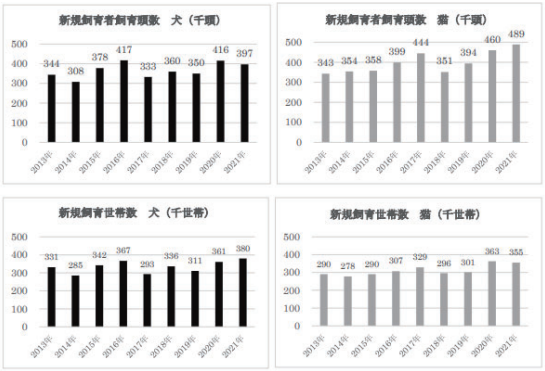
１．背景と目的

日本では近年コロナウイルスの影響により在宅勤務となりペットを飼い始める人が人が増えている。だが、自治体による保護犬・保護猫の譲渡会や、ペット飼育の啓発活動が、コロナ禍で開催しにくくなっていることが新聞の調査でわかった。このことから、今後適切な譲渡の機会や飼い方への理解が滞ると、ペットが自治体に持ち込まれたり殺処分されたりするケースが増えかねないと考えられる。

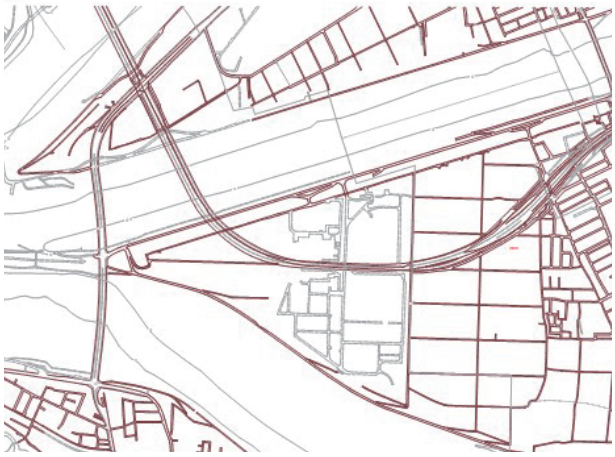
新型コロナウイルス後に飼育し始めた人の中には「ペットを癒し」と感じる人もいる。だが、飼った後に、「想像と違う」「病気や老衰で世話をするのが大変だから」「子犬(子猫)が増えすぎた」など、人の身勝手な理由で捨てられ殺処分される犬猫もいる。 2018年あたりまで少しずつ減っていた殺処分。今後の動きによって左右されると考えるため解決のできる動物保護施設を提案する。

２．ドイツの事例分析

殺処分ゼロを国単位で達成している国としても有名なドイツ。ではドイツでは殺処分ゼロを実現するためにどういった施策を取っているのかというと、最も効果が大きいのが『ティアハイム』と呼ばれる民間の動物保護施設での取り組みです。ドイツでは犬猫の販売に関して非常に厳しい規定があるため、ペットを飼う場合はまずティアハイムに行き、飼い主を探している犬や猫がいないかを確認するのが基本となっている。



資料1　参照　統計データ｜2021年(令和3年)　全国犬猫飼育実態調査　結果｜(https://petfood.or.jp)



資料３　敷地周辺図

３．選定敷地

京都府八幡市八幡在応寺

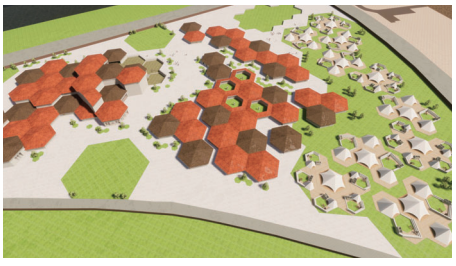
本計画において、この近くには動物保護施設がなく、動物と関係の深い京都競馬場のある淀を選定した。敷地周辺の特徴は京都競馬場をはじめ、淀城跡や石清水八幡宮などの建造物、住宅街や学校などの住宅地が多くある。そして、立地が川の近くということから澄んだ空気が広がり、自然環境に恵まれている。最寄り駅の石清水八幡宮が橋を渡った先にあり、淀駅からは少し離れてるが、住宅街なども駅方面にあるため自然と共に生きていた・生きている動物たちにとって良いロケーションなのではないかと思われます。

所在地：京都府八幡市八幡在応寺
主な用途：保護施設
敷地面積：108,099㎡
建築面積：22,800㎡
延床面積：25,840㎡
　キーワード：ペット　受け継ぐ　コミュニティ

Location ： yawatazaiouzi,yawata-shi,Kyoto
Main Use ： shelter
Site Area ： 108,099㎡
Building Floor Area ： 22,800㎡
Total Floor Area ： 25,840㎡
Keywords ：pet.inherit.community

４．計画内容

動物を保護する場が目的ではあるが、それだけでなくペットを飼っている人もこれから飼い始める人も生活するうえでママ友のように子供を通じて友達ができるようにペットを通じてお互いに相談したり助け合える友人ができるコミュニケーションの場にもなればいいと考えている。ペットと飼い主、これから飼う人、全ての動物への施設となればいいと考える。そのためにはそれぞれの目的に応じてそれぞれ空間を変えることが必要だ。計画では施設・ペットと飼い主のエリア・保護動物エリアで交流を図れるように入り交じった配置とした。



５．設計内容



構造は『ハニカム構造』で考えていて、構造的に綿が多いため音や衝撃を吸収できて断熱効果があり、強度を損なわず、できるだけ材料を少なくできる。1室が六角形ということもあり、つなげれば大きな空間になりつつ個の空間も作りやすい。

そして、敷地的に上は車の通る高速道路で、右は電車通るので配置は左寄りに保護動物エリアの施設にするその上で保護動物目的の人とペットを連れてる人のコミュニティをどうつなげるのかを考え、建物周りを散歩コースとしたり、保護動物カフェとペット同伴可能のカフェを二つ配置しドッグランの近くにはペットと泊まれるグランピング施設も設けました。

６．用途

6-1. 事務施設

エントランスには主に窓口的な役割として受付を設けて会議室や事務室などどんな用途にも使用できるように大きな部屋をパーテーションなどで区切り部屋を用意する。そして、スタッフルームや事務室、来客された方用に待合席も配置する。トリマー室は保護動物だけでなくペットを連れて来た方も利用できるように計画する。動物病院では院内に重患者のために預かれる施設も配備し、しつけ教室などできる場も考慮する。

6-2. ペットと飼い主のエリア



室外ドッグランは一応屋根のある場も考え、まっ平らな芝生だけの競技でも使えるドックランと緩やかな丘や木などを生やした足腰の鍛えられるドックラン２つ考える。室内ドッグランはペットホテルの方に検討しホテルを利用する人もしない人も利用できるようにする。ペットホテルでは実際ある建物を参考に飼い主の方がホテルにペットを預けていくことも可能。そして、保護犬猫を引き取る方たちがペットホテルを利用し、実際犬猫を飼い始めるとどんな感じか試すことができそうすることで飼ってみて違ったということがないようにしたい。

6-3. 保護動物エリア



犬舎・専用庭は同類と接触を持つことが重要なため個室から互いに顔を合せられるようにする。猫舎・屋内外部屋は上下に動ける造りにする。そして、必ず隠れる場所があった方がストレスがない。人から保護したものと野良猫の部屋を分ける。保護動物カフェは普通のカフェと明確に分ける。譲渡舎は飼い主に譲ることが決まった動物の部屋である。保護棟は各動物の大きさに合ったスペース(本来持つ性質)に合わせて自然体でいられるように考慮する。



6-4. 他の施設

大きな道のある散歩コースがあり、運動面ではペットと通えるジムの他に商店街のように動物病院とペットのための雑貨屋、ペットのためのケーキ屋さんが立ち並ぶ場所を配置した。



繋ぐ

学籍番号　K19258
名　　前　呉　楓太
指導教員　新海俊一

つなぐ　　観光　　複合施設
駅　　過疎化

1.はじめに

近年都会への進出する若者の増加や高齢者の増加から都心部には活気があふれ、一方で都心から離れ郊外に住む人々が著しく減少している。奈良県も例外ではない。都心部への一極集中は、人口分布の偏りの原因となり、人口が極度に減少したこうがいでは地域社会の担い手不足が深刻化している。こうした問題を解決するためのケーススタディとして奈天理市の天理駅前の敷地に観光面から地域について知ってもらい郊外地域の活性化に誘導する複合施設の計画を提案する。

2.課題・提案・目的

2-1　具体的な課題と現状

現在日本の年齢別の人口の割合は下の表１のとおりとなっており全国の平均から見ても人口が集中する都市部では若者の割合が高くなっている。

表１　年代別人口の割合　※１

順位	都道府県	～9歳	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上
	全国	7.8%	8.9%	10.0%	11.3%	14.7%	12.9%	12.9%	12.6%	8.9%
1位	東京都	7.6%	7.5%	13.1%	14.0%	16.2%	13.5%	10.3%	10.4%	7.3%
2位	神奈川県	7.8%	8.7%	11.2%	11.9%	15.9%	13.9%	11.3%	11.8%	7.5%
3位	大阪府	7.7%	8.8%	10.9%	11.4%	15.2%	13.1%	11.5%	13.1%	8.2%
4位	愛知県	8.6%	9.4%	11.2%	12.2%	15.4%	12.8%	11.2%	11.8%	7.3%
5位	埼玉県	7.8%	8.8%	10.9%	11.6%	15.6%	13.1%	12.2%	12.8%	7.3%
6位	千葉県	7.6%	8.8%	10.2%	11.4%	15.4%	13.1%	12.5%	13.2%	7.9%
25位	沖縄県	11.3%	11.1%	10.3%	12.3%	14.1%	12.3%	13.1%	8.3%	7.1%
29位	奈良県	7.5%	9.3%	9.1%	9.8%	13.9%	12.9%	13.5%	14.5%	9.5%
38位	秋田県	6.1%	7.8%	6.4%	9.2%	12.5%	13.0%	17.1%	14.6%	13.5%

少子高齢化により増加していく高齢者を支えていくためにも今後を担っていく若者の減少を止めることはそれぞれの街にとっての大きな課題である。

2-2　提案と目的

先に述べた現状を踏まえ、まずは天理というまちを知ってもらうことに重点を置き複合施設を提案する。地域の特徴や周辺住民の傾向、交通の利便性などが住みやすい街に求められるものであり、それらを一度に体感できるものが観光である。また街が快適になるように開発が進められていることも重視されておりそれらを目標としている。

3.敷地

所 在 地：奈良県天理市川原城町 661
土地概要：商業地域　建蔽率 80%　容積率 400%

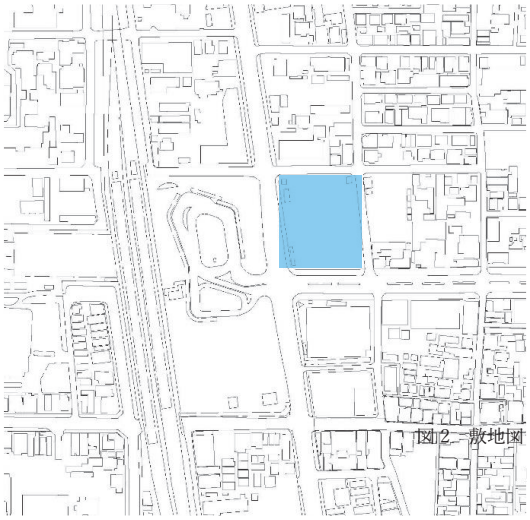


図２　敷地図

今回選定した敷地は、昭和 40 年頃まで旧国鉄天理市駅ヤード（鉄道の停車場）として利用されており周辺地域を支える重要な施設が配置されていたが、駅が新しくなってからは未利用となっている。敷地周辺には天理駅や商店街、少し離れたところには天理大学などもあり、比較的学生が多く見受けられる。また天理駅は奈良県では珍しい近鉄と JR の 2 路線が交わる交通結節点であり、交通の利便性も高い。

4.設計

4-1　設計趣旨

本提案では観光を促すために古墳型の観光案内施設、観光後に利用できる宿泊施設を取り入れている。また地域の活性化という面からも周辺住民が利用したくなるような飲食店やアパレルショップ、雑貨屋も取り入れる。それにより観光客が周辺住民の交わる機会が生まれこの地域の魅力を知るきっかけとなる。

4-2　設計概要

敷地面積　約 5,500 ㎡　　建築面積　1,845 ㎡
延床面積　　最高高さ　16.6m
階数　地下１階　　地上４階
構造　S 造

4-3　設計内容

①　古墳型の観光案内所

奈良県は昔に都があったことから日本の中でも８番目に古墳の多い都道府県になっており、日本最古の道「山の辺の道」を巡ることで大小様々な古墳を緑の中探すことができる観光スポットになっている。出発点には天理駅からは電車１本で行くことができ、また終点が天理駅に近いことから古墳を巡る際には必ず通る場所でもあるので観光目的でやってきた人を案内するには最適の場所となっている。



このようにまず天理を知ってもらうことが大切だと考えられることから特徴的な古墳の形状を採用した。また、古墳らしさを味わってもらうために周囲には水路と池を設け少しスラブを低くし潜っていく感じを演出した。

②　ガラス張りの複合施設

天理市の取組みとして駅周辺に天理の顔となる商業施設を整備する計画があり、観光案内所とは異なり複合施設は派手な外観で構成する。アパレルショップや雑貨屋、飲食店は外からの視線が集まるようにカーテンウォールを多用する。

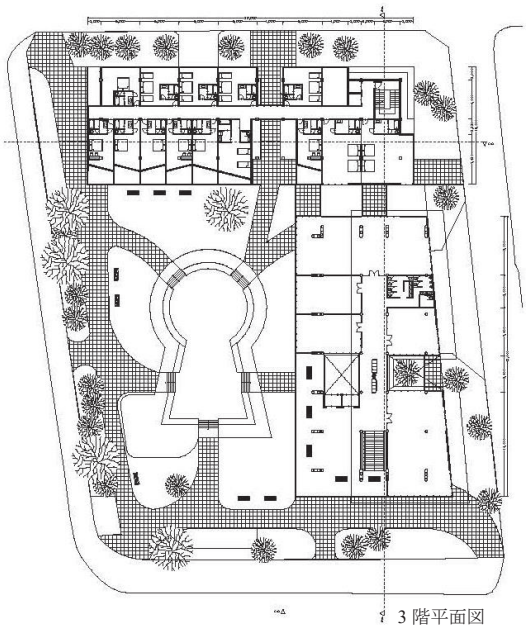
③　サテライトオフィス

コロナ渦によりテレワークなどの普及が進み会社に行くことなく仕事ができる時代になった。都市部に行かずとも会議や商談などが行えることから多くの会社が集中する都市部にオフィスを設ける重要性も低くなり郊外のオフィスにも需要が出てくると考え設けた。

【参考文献】

（1）都道府県別人口ランキング世代別の年齢比率も
（最終閲覧日 2023/1/20）
https://www.startpoint.net/todouhuken_ranking/jinkou/
（2）天理市都市計画マスタープラン
（最終閲覧日 2022/11/23）
https://www.city.tenri.nara.jp/material/files/group/64/63590129.pdf

【平面図一部】



3 階平面図

農業をつなぐ

学籍番号　k19259
名　　前　後藤愛邑
指導教員　根來宏典

Connecting Agriculture

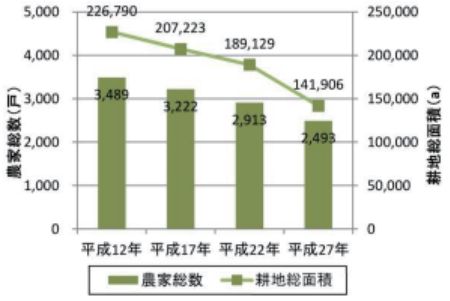
K19259
GOTO Mao
NEGORO Hironori

1. 背景と目的

私の地元亀岡市では昔から京野菜が有名であり、京のブランド産品３１品目中９品目が亀岡市が原産です。しかし近年では、人口の減少や農業従事者の高齢化、後続者不足など様々な影響により、農業をする人が減少傾向にあります。このままでは、亀岡の京野菜は次世代に継承されず途絶えてしまいます。

このことから亀岡の京野菜、農業を「みらい」へ繋ぐために若者やそこに訪れた人に興味を持ってもらいかつ、新規就農者が意欲的に農業に取り組みたくなるような環境つくりが必要だと感じた。

■亀岡市の農家数グラフ



出典：農林業サンセンス

■. 亀岡市での生産数

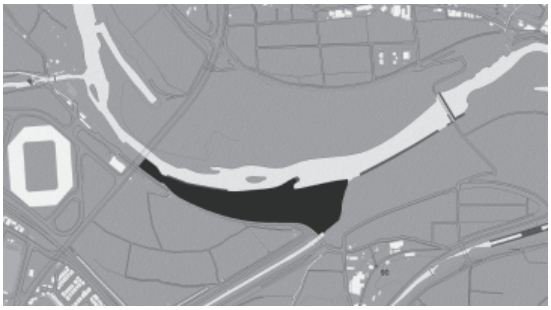
聖護院かぶ（100%）　　加茂ナス（65.4%）
聖護院だいこん（24.6%）　　丹波くり（11.5%）
京夏ずきん（6.6%）　　えびいも（6.5%）

2. 敷地

計画敷地は京都府亀岡市にある保津川沿いの空き地とする。この敷地周辺には保津川下りの船乗場や、サンガスタジアム、大きな広場もあり、特に休日は地元の人と観光客が訪れ人で賑わっている。

最寄りの亀岡駅からは徒歩 10 分圏内かつ、敷地周辺には駐車場がいくつかあり田舎ではあるが足を運びやすい場所である。

今回の計画は農業の楽しさと京野菜をたくさんの人に感じてほしい、知ってほしいと考え、地元や亀岡外からたくさん人が来るこの敷地を選定しました。



広場には休日になるとフリーマーケットやイベントが行われている。サンガスタジアムで試合が行われている日は、スタジアム周辺に出店などが出る。保津川下りの乗り場には、外国からの観光客も多数訪れている。

3.計画内容

計画対象敷地には主に６つの施設・空間を計画
○農地　　○カフェ　○レストラン
○フリースペース　○宿泊施設　○直売所

○レストラン
計画敷地内で収穫した野菜を使用する。敷地近辺には、亀岡牛の生産場があり、生産場とも連携する。

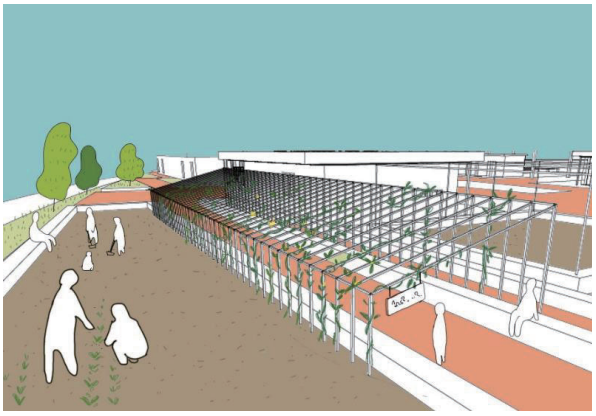


在地：京都府亀岡市保津町
主な用途：観光地・農地・商業施設
敷地面積：33500 ㎡
建築面積：5556 ㎡
延床面積：2887 ㎡
キーワード：農業・観光・ホテル・外構

:hodu,kameoka-shi,Kyoto
Main Use:complex
Site Arer:33500 ㎡
Building Floor AREA:5556 ㎡
Total Floor Area:2887 ㎡
Key words: Agriculture・sightseeing・Hotel・exterior

○農地
この場所には主に亀岡原産の京野菜と、その他の野菜の栽培を行う。この農地は、農業体験の場としても利用してもらい、ここの農地でとれた野菜をレストランで提供する。
農業を快適に楽しく参加してもらうために、様々な工夫を入れ込んだ計画とした。この下記のパースに計画されているキューブの枠組みは、季節に合わせた使い方が可能。夏は暑さをしのぐために屋根を設置する。冬の４亀岡市は濃い霧が頻繁にでるにで、霜が野菜に下りないようふせぐことができる。


キューブの枠組み


パーゴラ

⑤フリースペース
亀岡市では休日にはイベントやフリーマーケットなどが開催されていることが多いので、そのイベントを行うスペースを貸しだせるようにする。宿泊施設の 1 階のピロティ部分をフリースペースとして貸出す。

⑥宿泊施設
地方から来た人や移住を考えている人などに、亀岡での生活感と農業を体験してもらい、少しでも興味や関心を持ってもらう。宿泊施設は農地と入り組むように配置し、農業との距離を近づける。

③カフェ
開放的な空間にするために、テラス席を計画。

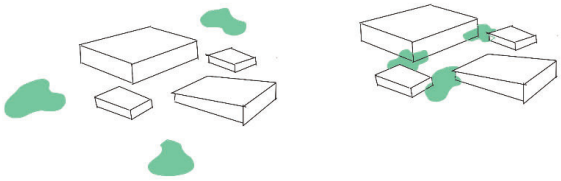
④レストラン
計画敷地内で収穫した野菜を使用する。敷地近辺には、亀岡牛の生産場があり、生産場とも連携する。

⑤フリースペース
亀岡市では休日にはイベントやフリーマーケットなどが開催されていることが多いので、そのイベントを行うスペースを貸しだせるようにする。宿泊施設の 1 階のピロティ部分をフリースペースとして貸出す。

⑥宿泊施設
地方から来た人や移住を考えている人などに、亀岡での生活感と農業を体験してもらい、少しでも興味や関心を持ってもらう。宿泊施設は農地と入り組むように配置し、農業との距離を近づける。

⑦野菜直売所
敷地内でとれた野菜を販売する。大きな屋根をかけてその下に直売場を配置し、市場のような内装にする。木枠などで商品台をつくり様々な形に変化できるようにした。

ダイアグラム
現在の私たちは普段の生活で農業とかかわることが少ない。本計画では農業と人の距離を近づけていく。農業が身近にあることで農業の楽しさを知ってもらうことが今回の重要な目的となる。



4.外観計画

農業がテーマの施設であるので、ビニールハウスをイメージした外観デザイン。野菜たちの成長の妨げにならないよう、一部分の屋根の素材にはポリカーボネートを使用して光を遮らないようにしている。



宇治の歴史的景観特性

学籍番号　K19260
名　　前　齋藤拓海
指導教員　井上年和　准教授

宇治市　景観　江戸中期
近代化　名所　変遷

1. はじめに

京都府宇治市は京都市に次ぐ有名な観光都市である。宇治市が抱える世界遺産、平等院鳳凰堂は 10 円硬貨に刻印され、屋根にそびえ立つ鳳凰は一万円札に描かれている。市内には一級河川である宇治川が流れ、そこに宇治橋が架けられ、橋の東詰には人気の観光スポットである通圓茶屋が置かれている。しかし、世間では“宇治茶”、“宇治橋”、“平等院”等の有名どころは認知されているものの、これら以外で宇治に関する情報はあまり知られていない。名所も数多く存在する宇治市だが、観光地としてもどこか京都市と比べ、劣っていると本稿では結論付ける。この事をきっかけとし、宇治市について調査することにした。

2. 研究方法

本研究では史料として『宇治川両岸一覧』（以降、史料）を使用する。史料に記載されている各名所の文章の解読を行い、リスト化する。現地調査を行い、情報を収集し資料を作成。この際、できる限り史料絵図当時と同じ画角で写真を撮影する。史料に記載されている当時の情報と自身で調査を行った史料箇所を比較しまとめる。スケッチした名所と、史料絵図との比較分析を行う。その結果、過去と現在にどのような違いや変化があるかを明確化し問題点を示すものとする。



図１　絵図名所をピックアップした現宇治市の地図

3. 研究内容

表１は史料に記載されている当時の情報と自身で調査を行った史料箇所の比較まとめリストの一部である。名所をスケッチしたものと、史料絵図との比較分析資料の中からリストNo.48 通圓茶屋とリストNo.55 亀石を紹介する。

表１　比較調査結果リスト

	種類	名称	史料当時	存	現在
1	場所	伏見	山城国久伊郡にあり。京都の南行程二里山本記より南見と書けり。和歌より景色のふしみの里とよめり。	○	地区名として現在も存在する。
2	橋	京橋	伏見の南方にあり北詰を京橋町といい、南詰を妓町という。	○	中書島付近の宇治川の支流に架かる。
3	橋	蓬莱橋	京橋の上南濵町より中書島に架かる橋。	○	京橋の北隣に架かる橋。
4	橋	今雲橋	京橋の南の濵より中書嶋に架かる橋。	×	今雲橋が架かっていた川が埋め立てられた。
5	場所	中書島	蓬莱橋の南にあり。	○	町名として現在も存在する。
6	神仏	菅相天社	中書島にあり。真言宗として醍醐三宝院に属し長建寺と号すると。	○	現在も存在し、毎年七月に弁天祭がある。
7	場所	伏見院	宝来ばしの東元材木町松が枝の後にあり。	○	池元の人たちの散歩コースとして今も親しまれている。
8	橋	平戸橋	元ざい木町の東にあり。北詰を御正町といい、南詰を平戸町という。	○	現在も存在し、普通に使われている。
9	神仏	京橋稲荷社	平戸橋の南詰にあり。	○	現在も存在する。
10	橋	豊後橋	平戸橋のことにあり。宮地第一の大橋なり。	○	現在は観月橋と改名されている。
11	場所	巨椋堤	豊後橋の南詰向島を右へとつづく大和街道に建く堤なり。	×	干拓され、今では農地や道路になっている。
12	神仏	巨椋神社	御濱の東にあり。	○	現在も住宅街の中に存在している。
13	場所	巨椋入江	おぐら堤より西一円は□□□□水百なり。	×	巨椋池と同じ。
14	場所	槇堤	豊後橋南詰を東へとつづく宇治にある堤をいう。	△	現在も存在するが、史料当時のものかは不明。
15	場所	常盤井	豊後橋の北詰より二町ばかり北常盤井町にあり。清泉の名ともいう。	×	町名として常盤町は存在するが常盤井は存在しない。
16	場所	観月	豊後橋北詰より東江戸町までの惣名なり。	○	京都市伏見区槇島町泰長者あたりのかつての地名。
17	神仏	観月山月橋院	右同所にあり。神宗曹洞派越前府中金剛院の末	○	史料当時の面影が残った外観である。
18	場所	月見岡	観月の後山にあり一名宇宙見山という。	×	現在は住宅地となっている。
19	神仏	宇治見山観音寺	右同所にあり。	○	現在は宇宙山観音寺と改名されている。
20	神仏	槇山天満宮	観音寺の西にあり。祭神菅原天神の影像を彫の事る。	○	現在も御旅宮神社の境内のなかに存在する。
21	場所	槇山	並辺は一円に城郭の古蹟なり。	○	地区名として現在も存在する。
22	場所	松瀬山	槇山の北にあり世号御風山という。	×	存在しない。
23	場所	梅谷	二ヶ所あり。	○	町名として存在する。
24	神仏	大善寺	観月より八丁ばかり東にあり。	○	現在も存在し、毎年８月の地蔵盆には参詣する人が多い。
25	橋	槇川橋	六地蔵町の中にあり。	×	槇川は宇治川と改名され存在するが、槇川橋は存在しない。

・リストNo.48 通圓茶屋

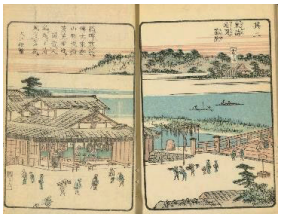


図２　史料当時の通圓茶屋

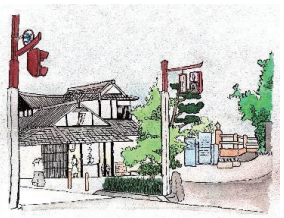


図３　現在の通圓茶屋

図２史料絵図から読み取れる点

- 橋の袂に茶屋が置かれている。
- 店前には多くの旅人や商人らしき人々が歩いている。
- 店前に小さな藤棚が見られる。
- 店前には長椅子が数脚置かれ、そこで休憩する人々が見受けられる。
- 対岸には小さく平等院の姿が見られる。

図３スケッチから読み取れる点
・現在でも橋の袂に位置している。
・店は一部増築されている。
・図の中心付近に案内板のようなものが立てられている。
・絵図当時の面影が残る。
・店周辺の道路が整備されている。
・道路の整備に伴い、店前には横断歩道や歩行者用信号機が設置されている。

・リストNo.55 亀石

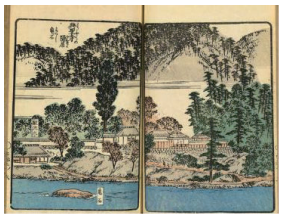


図４　史料当時の亀石

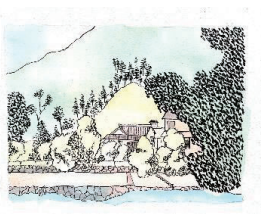


図５　現在の亀石

図４史料絵図から読み取れる点
・亀石と呼ばれるものが川の中央に見られる。
・向かって左側に観流亭と呼ばれる建物が建っている。
・緩やかな傾斜の先には住宅地らしきものが広がっている。
・住宅地らしきものの周囲には数多くの木々が立ち並び、その後方には大きな山々が立ち並ぶ。

図５スケッチから読み取れる点
・岸辺には数多くの大石が並び、どれが亀石なのかは分からない。
・絵図当時と比べ現在は更に木々が生い茂り、ほとんどの建物が隠れてしまっている。
・観流亭の姿は見受けられない。
・絵図当時と同様に後方には大きな山々が立ち並ぶ。

4. 研究分析

調査箇所の比較分析結果をここに提示する。

・リストNo.48 通圓茶屋


図６　茶屋増築部分


図７　初代通圓の木像

通圓茶屋は現在でも人気の観光スポットとして存在している。その人気に伴い、店内スペースを広げるため、一部増築されている（図６、向かって右部分）。店内には初代通圓の木像が置かれている（図７）。吉川英治の小説『宮本武蔵』にも登場する通圓茶屋の創業は平安時代後期の永暦元年（1160 年）であり、現在の店主は通圓 24 代目、通圓祐介氏である。日本の長寿企業第 10 位（2010 年 9 月 8 日時点）とされている通圓茶屋は現在も人々に親しまれている。

・リストNo.55 亀石


図８　亀石案内板


図９　亀石

亀石とは読んで字のごとく“亀の形をした石”である。史料当時と比べ、亀石の位置は大分岸寄りになっている。更に川の水流により侵食が進んでいる。歴史的価値があるものだが、図９を見ると分かるように水流から守る囲いのようなものは一切ない。

5. まとめ

宇治市の歴史的景観を調査した結果、一つの問題点が明らかとなった。それは近代化の影響により歴史的価値のあるものが消失したり、目立たなくなってしまっていたりしていることである。通園茶屋は客数が増え店内スペースを増築している。史料に比べ景観を損なっている訳でもない通園茶屋は良い事例だ。それに比べ、亀石で言うと“宇治川第一の名石である”と紹介しておきながら、実際には侵食を許してしまっている。本研究で参考資料として使用した『宇治川両岸一覧』は観光案内本であるとともに、宇治川を含めた景観の名所を書き示したものでもあるのだ。本稿ではそこに意義があると捉えている。景観を楽しむためのはずが近代化の進行により、建物が立ち並び、整備を怠るなどで名所の存在感が損なわれている。これでは宇治市の景観を存分に楽しむことができない。名所とは景観とともにあるべきだと考える。近代化による影響は仕方がない部分もあるが、この先、宇治市はこの問題に向き合う必要がある。

14. 史料・資料

・宇治川両岸一覧
暁／晴翁 著述 ||松川／半山 画図。文久３年（1863）江戸時代中期刊行山城屋（江戸）俵屋（京都）河内屋（大坂）にてそれぞれ刊行。
・京都宇治川探訪～絵図でよみとく文化と景観～
鈴木康久・西野由紀 編　/　発行所・人文書院
・帝国データバンク「創業 100 年以上の『長寿企業』実態調査」https://www.tdb.co.jp/index.html
・[TSUEN TEA] 宇治茶の老舗・通圓
http://www.tsuentea.com/

ライフステージの変化に合わせた可変的な集合住宅

学籍番号　K19261
名　　前　斉藤　佑哉
指導教員　永井　秀幸　講師

Variable housing complex that responds to changes in life stages

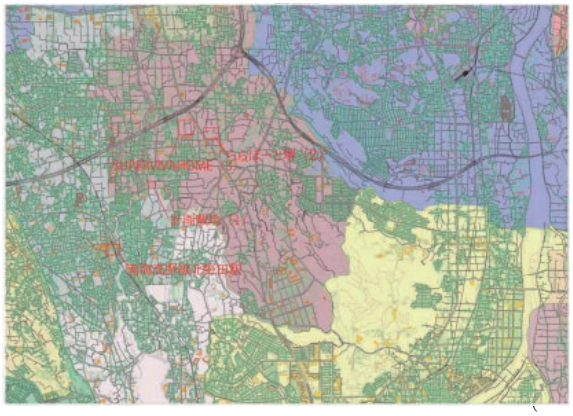
Student Number K19261
Name　　Yuya Saito
Supervisor　　Mr. Hideyuki Nagai

計画動機

ライフステージは誰もが変わるものであり、ステージごとに快適な住戸を提案できると考えた。集合住宅にした理由は 2 つあり、一つの世帯に注目するのではなく、様々な世帯に注目しより多くのライフスタイル、ライフステージに対して快適な住戸を計画するため。もう一つは住宅過剰社会問題に対して、コストに見合う快適な集合住宅の住戸が増えれば少しでも空き家が減り、無駄な資源の削減につながると考えたため

選定敷地

大阪府堺市美原区阿弥を選定した。（図１）理由として現在美原区では都市開発が進んでおり、敷地周辺にはららぽーと堺を始めとした利便性の高い商業施設があることと、急行が停車する北野田駅や阪和自動車道、交通量が多い国道などアクセスの面でも好条件であること。付近には公園や野球場があり子供がアウトドアで遊ぶことができる。



（図１）

設計内容

ライフステージ、ライフスタイルの変化に着目し、家族構成を想定し１０年スパンでの設計を行った。0 年目では主に子連れの家族を想定し、子供の成長に合わせ住居の間取り変更を想定し計画した。105 号室について、二階建てでリビング部に吹き抜けを設け採光に考慮して計画した。また、読書スペースを設け開放的な空間での作業を可能とした。（図 2）（図 3）10 年目では家族構成がどのように変わったかを想定して計画した。105 号室について子供が成長し部屋が狭くなることを考慮し読書スペースを小寝室に変更した。（図４）



（図２）



（下図４）　　（図３）



20 年目、30 年目もライフステージの変化に着目して計画を行った。22 歳を過ぎたときに子供が家を出て一人暮らしをする際に不必要になった住居スペースを他の世帯が利用できるようにリノベーションすることで、より快適なプランを計画した。203 号室ではルーフテラスを新たに設けサウナを堪能したあとに外気浴をすることができる。（図 5）

所在地：大阪府堺市美原区阿弥
主な用途：集合住宅
敷地面積：822 ㎡
建築面積：456m^2
延床面積：1356m^2
キーワード：SI　ライフステージ　可変性

Location : Ami, Mihara, Sakai city, Osaka
Main Use : Variable housing
Site Area : 822 m^2
Building Floor Area : 456 m^2
Total Floor Area : 1356m^2
Keywords : SI, Life stage, Variability



（図５）

パープルタウンの建替え　Reconstruction of Purpletown

学籍番号　Ｋ１９２６２
名前　　酒井　俊紀
指導教員　河村大助

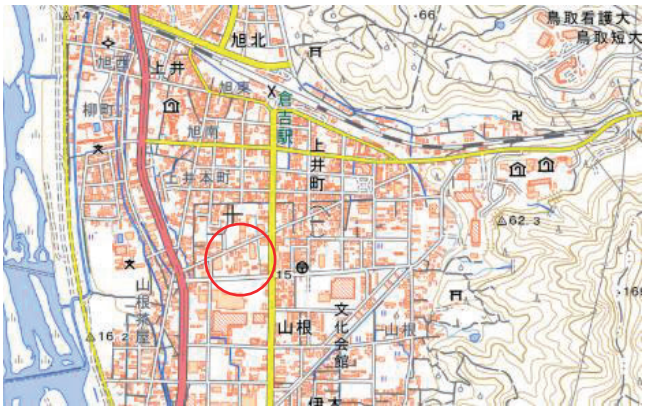
Student Number　K19262
Name　Sakai　Toshiki
Supervisor　Kawamura Daisuke

はじめに

将来、私も地元に戻ろうと思っている。そこで私の親族が経営をやっていたり、工事もしていたりするこの商業施設を、思考することで、いつか来る建て替えだったり、リノベーション時にきちんと自分の考えを述べるようにできるようにするため。

設計概要

既存のショッピングセンターを建て替えという形で、『高齢者が一日を過ごすことが出来る』や『学生の遊べる環境を作る』といった内容で、高齢者にも若者にも必要とされる現在のニーズに合わせた商業施設を計画した。高齢者と若者が単に空間を共有するのではなく、あえてそれぞれが使用する空間を隔て、視覚的に交流できる空間を作り出した。









設計敷地・周辺環境

鳥取県倉吉市山根５５７－１を設計敷地とする。敷地面積は、27,689 ㎡。周囲には中学校や短期大学などの様々な学校がある。また、近くには駅や体育文化会館などの公共施設もある。この商業施設には、日用品や食品を買いに来る常連客や映画お身に来る子ずれのお客さんが多い。

所在地　：鳥取県倉吉市山根 557-1　　Location : 557-1,Yamane,Kurayosi in Tottori.
主な用途：複合商業施設　　Main Use : Complex commercial facility
敷地面積：27,689 ㎡　　Site Area: 27,689 ㎡
建築面積：8,330 ㎡　　Building Area : 8,330 ㎡
延床面積：19,950 ㎡　　Total Floor Area : 19,950 ㎡

全体の計画








今回主にデザインしたのは、映画館、店舗、飲食店、デイサービス、クリニック、運動施設である。

クリニック、デイサービスを利用する人に外のスケートボードパーク、バスッケットボールコートなどの施設を見せられるような計画にした。

【中庭】中庭を設けた意図として、開かれた空間を目指しており、商業施設は基本的に閉鎖された空間である場合が多いためこのように、外の景色が見えるようにすることで、開放的な印象を与えられるようにした。中庭を中心に交われるようにした。

【映画館】映画館は、中に入ると空気感ががらりと変わるように内観を暗く、そして天井を高く計画した。

【店舗】一階の店舗は、外からでも内からでも出入りできるようにし、その店舗だけを目的に、
この施設に訪れる人もいることを予想して計画した。

【運動施設】バスッケットボールコートには、電子掲示板を設け、本格的な試合や使用感をよくさせる工夫をした。

慶長度二条城天守の復元研究

学籍番号　K19264
名　　前　佐々木健杜
指導教員　井上年和

慶長　天守　二条城
移築　破風　層塔型

１．研究目的

二条城天守は慶長度と寛永度の二天守を持ち、慶長度天守は、大和郡山城から淀城にかけて三度もの移築を経た稀有な例である。

本研究を進めることは、天守の変遷について、いくつかの時代にまたがり、移築を経た実例として意義を持つと考える。

２．先行研究

慶長度二条城天守の先行研究には以下のものがある。

① 宮上茂隆『歴史群像●名城シリーズ⑪ 二条城』「慶長度二条城天守復元図」

長辺立面図のみの記載[図１]。五重五階の望楼型天守となっ

ている。破風などの意匠に関しても、大まかな構造は、後述する山田岳晴先生の復元案（以降山田案）と差異がないものとなっている。正面の千鳥破風が大きな違いとなっている。

② 山田岳晴『日本建築学会大会学術講演梗概集』「長度二条城天守の復元」日本建築学会出版 平成２７年（２０１５）

長辺立面図、短辺立面図、及び短辺断面図の記載[図２]。五重五階の望楼型天守、先述の通り、宮上茂隆先生の復元案（以降宮上案）と構造に関する大きな違いはないが、二重目正面の破風に関して違いが見られる。

３．調査内容

３－１．先行研究に関する分析

宮上案と山田案はどちらも五重五階の望楼型天守を提案している。一、二階平面は長辺八間、短辺七間。断面に関しては山田案のみ断面図を公開しているため、そちらの断面構造を参考にすることとした。外観意匠に関しては、それぞれの案で大きく異なっている。

それぞれの破風の形式を表にまとめている[表１]。表の結果により、先行研究間で違いのある、二、三層目の破風を新しく提案する。

３－２．史料調査

『日本庶民史料集成第８巻見聞記』「淀古今眞佐子」[注３]に二条城天守が淀城天守に移築された旨が記されているため、淀城天守の図面、及び絵図等を慶長度二条城天守の関連史料として参考とする。

参考史料として淀城天守の図面が記載された、『山洲淀御城天守木口指図』が挙げられる[図３]。図面を読み取ると、先行研究同様、長辺八間、短辺七間だと分かる。記載されている情報によって、一間を七尺とし、柱割を決定した。

同様に『田辺家文書・甲』「御天守柱立御住居之秘圖」でも平面図を確認することができる[図４]。こちらは先程の史料とは違い、立面図が詳細なものであったため、破風、及び構造の考察の参考史料とする。

これらの史料からわかったこととして、望楼型だと断定する記載が見つからなかったことが挙げられる。立面図の様子、平面図に描かれた屋根の形が入母屋となっていないなどの情報から、層塔型天守の提案が可能であると考えられる。

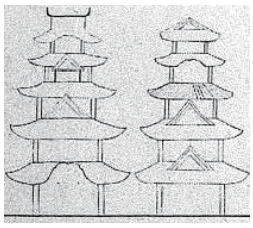


図３　中井家『大工頭中井家建築指図目録』「山洲淀御城天守木口指図」[注４]



図４　田辺家「田辺家文書・甲」『御天守柱立御住居之秘圖』[注５]

外観の様子を記した絵画料に洛中洛外図がある。図内に二条城天守を確認することができるのだが、それぞれ描写にばらつきがある。

池田本[図５]の洛中洛外図である。二重目の梁間方向に破風の記載が見られない。大入母屋破風が書き込まれていない絵画史料の例として、層塔型天守の提案を後押しする事実



図５　池田本
『洛中洛外図屏風』[注６]

であると考える。

以上の史料調査から、本研究では層塔型天守での復元案を提案する。

３－３．類例調査

日本に現存する天守は、全国で１２天守確認されている。そのうち国宝指定されているものは、望楼型で４つ、層塔型で１つである。

層塔型天守での復元案を提案するにあたって、層塔型天守の事例を参考に、構造の詳細を決定をすることとした。層塔型天守の中で唯一国宝指定されている松本城は五重六階であり、慶長度二条城天守と非常に近い構造をしている。本研究では松本城を類例として、復元案に構造の詳細部分を反映していく。

類例調査として、松本城の現地調査を実施し、破風内部[図６]や屋根[図７]などの内部詳細を確認している。松本城の図面上では確認できない細部に関して、現地で記録したものを、本研究の復元案に反映させている。



図６



図７

３－４．作成図面

以上の調査内容から作成した、作成図面である[図８]。



図１　宮上茂隆案[注１]



図２　山田岳晴案[注２]

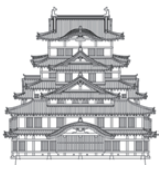


図８　本研究案

表１　破風形式の比較表

	宮上案		山田案		本研究提案図面	
層	桁行	梁間	桁行	梁間	桁行	梁間
5	軒唐	入母屋	軒唐	入母屋	軒唐	入母屋
4	入母屋	軒唐	入母屋	軒唐	入母屋	軒唐
3	なし	なし	入母屋	なし	入母屋	入母屋
2	千鳥	大入母屋	なし	大入母屋	なし	なし
1	向唐	入母屋	向唐	入母屋	向唐	入母屋

先行研究の図面と比較し、破風の形式についても比較の表を用意した。[表１)]本研究案での変更点である二、三重目の破風についても、考察の結果から決定している。

記載図面は桁行立面図のみだが、同様に平面図、断面図の作成が進んでいる。本研究案と先行研究案での変更点は外観意匠のみであるため、平面図と断面図の記載は割愛することとする。

以上の図面から 3D モデルの作成を進めた。以下が 3D モデルのパースである。[図9-10]



図９



図 10

モデルの外観から層塔型の意匠を立体的に再現している。望楼型と層塔型では入母屋部分の構造が大きく異なっているため、図面以上に視覚的な変化を確認することができた。

４．まとめ

本研究で提案した復元案と先行研究との大きな変更点として、構造形式と破風が挙げられる。図面情報や絵画史料から、従来提案されていた望楼型ではなく、層塔型が妥当であると判断した。これまでの復元案との非常に大きな相違点となっている。破風に関しては、破風の位置や意匠について、絵画史料からの考察がベースとなっており、まだまだ考察の余地が残っている。

本研究案のように慶長度二条城天守が層塔型であったとすると、層塔型の天守としては最初期頃の建造物であると考えられる。本研究が天守に関する変遷を明らかにする一助になれば幸いである。

５．参考文献

注１　山田岳晴『日本建築学会大会学術講演梗概集』「慶長度二条城天守の復元」日本建築学会出版　平成 27 年（2015）

注２　宮上茂隆『歴史群像●名城シリーズ⑪　二条城』「慶長度二条城天守復元図」学習研究社出版　太丸伸章編集　平成 8 年（1996）

注３　原田伴彦、竹内利美、平山敏治郎編『日本庶民生活史料集成第 8 巻　見聞記』「淀古今眞佐子」三一書房出版　昭和 47 年（1972）

注４　中井家『大工頭中井家建築指図目録』「山洲淀御城天守木口指図」思文閣出版　平成 15 年（2003）

注５　田辺家「田辺家文書・甲」『御天守柱立御住居之秘圖』歴彩館所蔵

注６　池田本『洛中洛外図屏風』林原美術館蔵　17 世紀頃

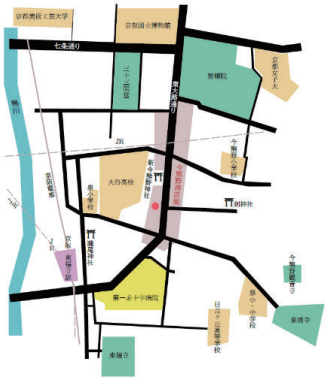
今熊野笑店

学籍番号　K19265
名　　前　　定村　菜笑
指導教員　　山内先生

Imagumano Smile Shopping

Student Number　k19265
Name　Sadamura　Nae
Supervisor　Yamauti Takahiro teacher





1 敷地設定

今熊野商店街（京都府京都市東山区今熊野椥ノ森町）

2 地域の課題

今熊野商店街は京都の東山区に位置し、東大路通りの七条から九条通りに渡る商店街である。東山区は京都の中でも特に高齢化が進んでいる 地域であり、また一橋、月輪、今熊野の三小学校と月輪中学校を統合し 2014 年に小中一貫校となっている。少子高齢化が進む今熊野商店街は 今ではシャッター街となり外観の寂れた様子を見ると十分に機能していない。さらに、商店街のアーケード内は自転車の通行が禁止されている が路上駐車をする車が多いため、自転車の通行が困難である。

3 地域の歴史

今熊野商店街には、1961 年から 1970 年にかけて路面電車が通っており、当時の今熊野商店街は魚屋、八百屋、コロッケ屋などのたくさんの 専門店があり、8 のつく日に出店が出され昼も夜も人出の盛んな活気ある町であった。また、今熊野の日吉地区は陶業が盛んで現在でも地場産 業として多くの窯元が点在する。毎年地域の行事として「日吉窯元まつり」や PTA 主催の「今熊野バザー」（陶器バザー）が催されるほど今熊 野学区と陶業は切り離せない関係にあったが現在は行われていない。

4 現状の分析

・閉まっている店や空き地が多い

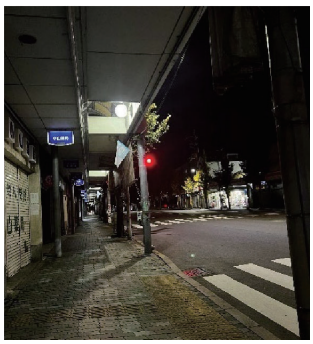
・アーケードが寂れており、建物を暗くしているため廃墟感が漂っており、人が寄り付かない雰囲気

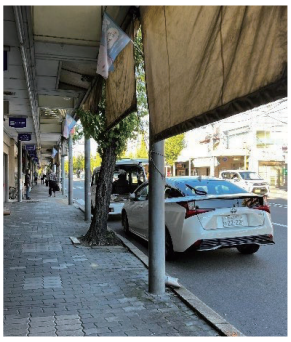
・夜に営業している店が少なく、夜の人目がない

・機能しているのかわからない店が多く、閉鎖的で入りにくい

・商店街の一体感がない　・自転車の通行が困難

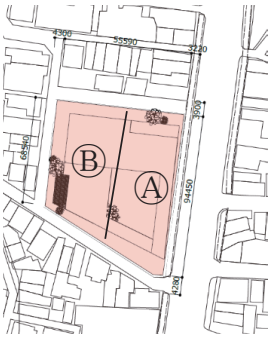






所在地：京都府京都市東山区今熊野椥ノ森町
主な用途：商業施設
敷地面積：4539.4m²
建築面積：2000m²
延床面積：2506.25m²
キーワード：アーケード商店街・活性化・RC 構造

Location : 5-26-20,Shiba,Minato-ku,Tokyo
Main Use : Commercial facility
Site Area :　4539.4m²
Building Floor Area :　2000m²
Total Floor Area : 2506.25m²
Keywords : Arcade shopping street, Activate、RC structure

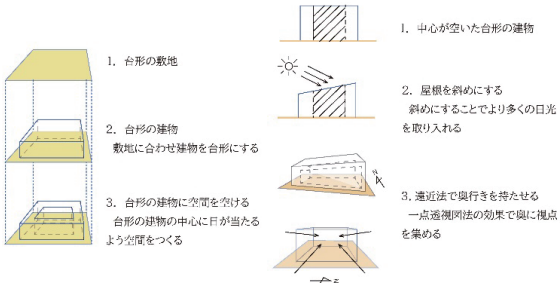


5 計画敷地の概要

	Ⓐ近隣商業地域		Ⓑ第一種住居地域	
敷地面積	2617.4 ㎡	+	1922 ㎡	＝4539.4 ㎡
建蔽率	80%		60%	
容積率	300%		200%	
建築面積	750 ㎡	+	1250 ㎡	＝2000 ㎡
高度	12.05m			
構造	RC 構造			



全体計画



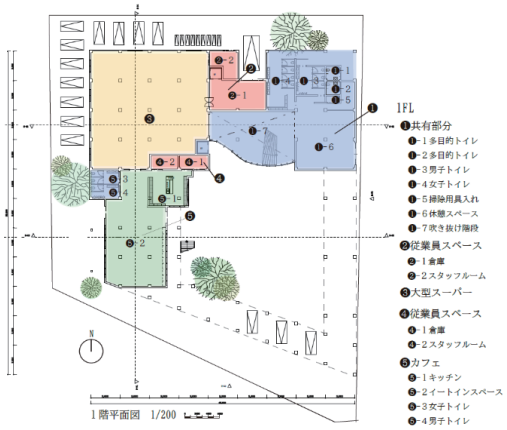
台形の敷地を活かし、台形の建物を建て、中心に陽の光が差し込むよう計画した。また、屋根を片流れにすることでより多くの陽の光が中心の中庭に取り込むようにした。さらに、東大路通りから見たとき自然と奥に視線がいくように奥にいくにつれ建物の幅を狭めた。

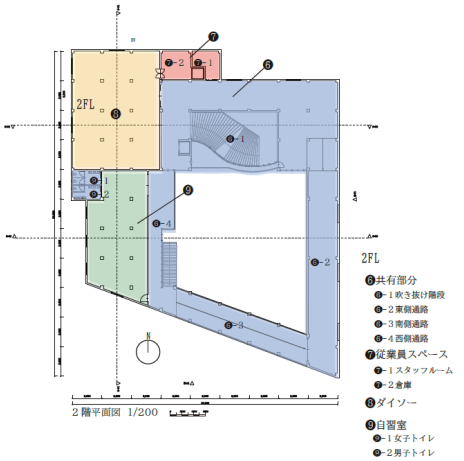


計画

南側２階渡り廊下したに移動販売車用の駐車場を設ける。今熊野商店街には時頼 KYOTO COOP や魚屋、包丁研ぎ屋が路上駐車して売っている。路上駐車を防止するためにも移動販売車用の駐車場を敷地に設けた。また、移動販売車だけでなく昔から行われていた屋台や陶器バザーを行われる場所にもなるよう十分なスペース空け計画した。







TIME’S Art Gallery

学籍番号 K19266
名　　前 佐野奨真
指導教員 生川慶一郎

TIME’S Art Gallery

Student Number K19266
Name Shoma Sano
Supervisor Keiichiro Narukawa

1.背景と目的

普段、街中を歩くと誰しも一度は空き家になり誰にも利用されなくなってしまった「建築物」を目にしたことはあるだろう。そういった建築の中には、改修され再び息を吹き替えすものもあれば、そのまま放置されただ取り壊されるのを待つように佇む建築も存在する。今回の設計では後者に着目をし、まだ十分に利用価値がある施設を再生させることを目的とした設計を提案する。



(図 1)TIME’S 付近見取図

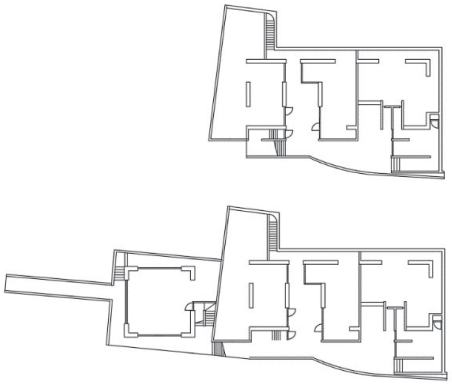
2.建築概要・現状

選定地は京都市中京区にある商業施設の TIME’S(図 1)。この建築は日本を代表する建築家である安藤忠雄氏(以下、安藤氏)が 80 年代から 90 年代前半に設計を手掛けた商業施設であり、横を流れる高瀬川に沿うように設計された TIME’S は川を利用して自然と建物の関わりを密接に表現している。TIME’S もかつては多くのブランドや飲食店が入居し、商業施設としてだけではなく著名な建造物としての役割を果たしていた。しかし、昨今のコロナ禍の影響もあり、年々テナント数の減少が後を絶たなくなったことから現在の TIME’S は空き家同然の状態になってしまっている。 また現在はビルの関係者以外は立ち入りが禁じられており、長い期間閉鎖されているだけでなくビル全体に足場が組まれ仮囲されていた時期も過去にはあったことから、このままの空き家状態が今後も続くようであればいつ取り壊されてもおかしくない状況に TIMES’が置かれていることが分かる。

3.現在に至るまでの経緯

TIME’S は竣工後に大きな増築を経験しており、現在の形になるまでに 7 年を要している。 初期にあたる I 期は、コンクリートブロック造であり、日常から遠ざかりつつある「川」を人々の生活に関わるきっかけとすることをコンセプトをもとに設計され、文字通り横を流れる高瀬川に沿うように TIME’S の設計が行われた。

その 7 年後に、既存の TIME’S に増築という形で安藤氏が自ら新たに設計を行っている。もともと安藤氏のもとに依頼があったのは I 期分だけの計画であったが、彼がその隣にある土地の地主を説得して、II 期分にあたる左側の土地の拡大を行いながら既存建物を造り変えたのが現在の TIME'S である(図 2)。



(図 2)増築前後の TIME’S 平面図 I , II

4.増築について

コンバージョンの良さは価値のある歴史的建造物を残せる所にあると考えるため、今回のコンバージョン設計では既存の建築を出来るだけ残していきたいという想いがある。建て替えを行い、安藤氏が造り上げた空間を壊してつくり変えてしまうことは簡単ではある。しかしその行為は TIME’S の持つ建築的な良さを消してしまう行為であり、既存建物を全くの別物にしてしまう恐れがある。そのため基本的に今回の計画では、既存建物の構造や空間の特徴をそのまま活かしていく計画にした。

また、現行の TIME'S は商業施設として設計されたものなので、アートギャラリーに置き換えてプランを考えていくとエントランスなど今ある TIME'S の面積では全て表現しきれないと判断した。そのためギャラリーに必要不可欠な部分を補い、誰もが利用しやすいギャラリーを実現する為に増築を行う。

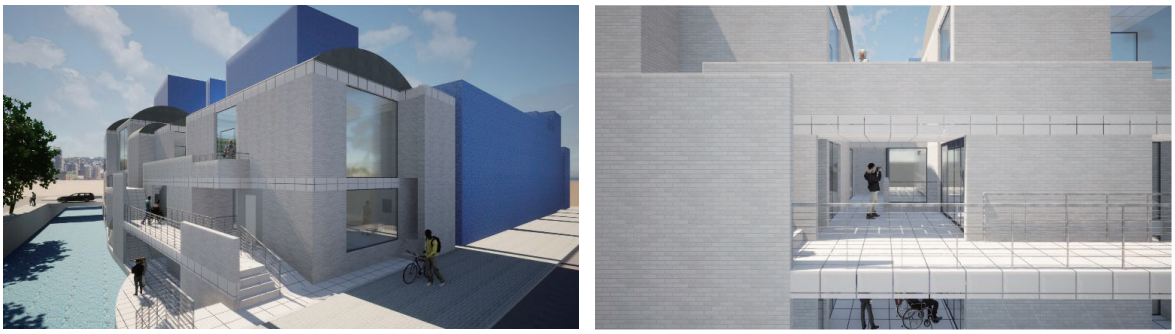
所在地：京都市中京区三条通河原町東入中島町 92
主な用途：ギャラリー
敷地面積：533m^2
建築面積：512m^2
延床面積：1,297m^2
キーワード：コンバージョン・増築・バリアフリー

Location : 92,Sanjo-tori,Kawaramachi,Higashiyama,Nakajima-cho,Chukyo-ku,KyotoCity
Main Use : Gallery
Site Area : 533 m^2
Building Floor Area : 512 m^2
Total Floor Area : 1,297m^2
Keywords : Conversion, Extension, Barrier

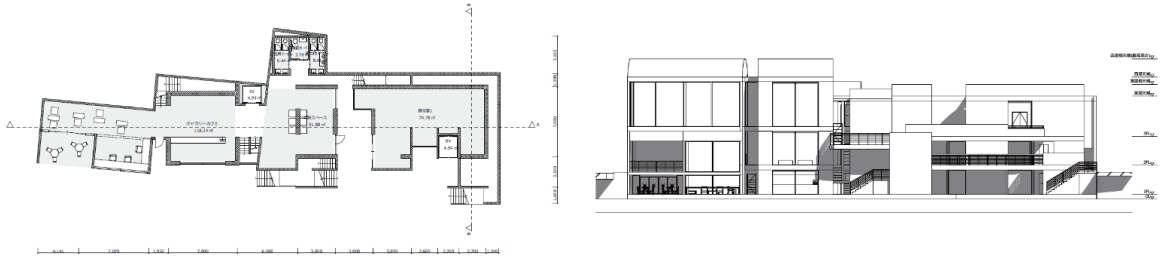
5.計画内容

商業施設として長年利用された TIME'S をアートギャラリーへ用途変更し、コンバージョンを行う。TIME'S をアートギャラリーにする一番の理由として、TIME'S の建築そのものに芸術的な良さを感じ取れる瞬間が多いことが関係している。実際に TIME'S を管理している管理会社の協力のもと、敷地内を見学してみると多くの発見があった。至る所に風の抜け道があり、構造が半屋外になっていることがよく分かる。半屋外であると時間帯によって日の当たり方が大きく変わることから、空間内の明るさが日々異なり建築の見え方も大きく変化する。上記のように、TIME'S には建築自体をアート作品として楽しめる要素があること、そしてそのような特徴をもつ建築の中でアート作品を展示したら面白いのではないかと考えたため、商業施設からアートギャラリーに用途変更を行うことにした。

そして本計画では、「訪れた利用者の誰もが気軽にアートに触れることの出来る空間作り」目指し、車椅子利用者や年配層の方でも館内を巡りやすいようバリアフリーを意識した構造にした。現状は三条通、龍馬通の両方からアクセスできるようになってはいるが、メインエントランスが存在しない。龍馬通側に高瀬川対岸からも臨むことが出来るピロティ空間とエントランスの前室的に計画することで北に開いたアートギャラリーとしている。以前までは全てのフロアにアクセスするためには階段での移動しか選択肢が無かった空間にエレベーターや緩やかなスロープを設けて移動が簡易なものになるよう工夫した(図 3)。また TIME'S では商業施設ということもあり店舗用のテナントとして貸し出されていた空間が複数存在するためその空間をメインの展示室として利用していく。そのほかバックヤードとゲストが利用する動線を分け、その動線を基準にフロア割りを決定していき、エレベーターや階段など移動に必要な機能を足すことで利用者がギャラリー内をストレス無く移動出来る空間を目指した。



(図 3)スロープやエレベーターを設けたギャラリーのパース



１階平面図と西側立面図

参考文献

・ARCHITECTURAL MAP－Mitsuo.K 「TIME'S Ⅰ Ⅱ」（http://www.archi-map.jp/mitsuo/map_of_kyoto_08.htm）
・新建築社－「新建築 」1985 年 2 月号、1992 年 7 月号

とうりゅうもん

学籍番号 K19268
名　　前　澤田真由
指導教員　生川教授

Toryumon

Student Number　K19268
Name　Mayu Sawada
Supervisor　Professor Narukawa

1　研究の背景・目的

ニュータウンは都市の過密化への対策として郊外に新たに建設された新しい市街地と定義されている。しかし近年では、建築物の老朽化、商店街のシャッター街化、少子高齢化などの様々な問題が出てきており、京都市伏見区に立地する向島ニュータウンについても同様の状況になっている。しかし一方で向島ニュータウンの場合、小中一貫校の秀連小中学校が統廃合により誕生し、病気や災害などで親を亡くした子供たちを支援するあしなが育英会の施設が誘致される予定であるなど、外国籍の住民や学生センターの留学生を含めて国際色が豊かなまちづくりが始まろうとしている。この大きな動きを活かし、統廃合で閉校となった向島中学校跡地に多文化多世代の交流を促すような施設を計画していきたいと考える。

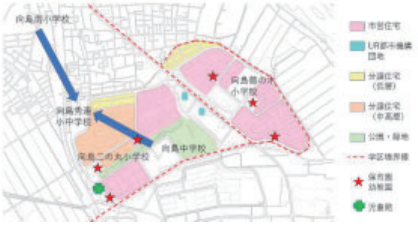
2　向島ニュータウンの特徴（図 1）

① 1 つのニュータウン内に公営住宅・分譲住宅・賃貸住宅の 3 種類が混在している。国道 24 号線を挟む形で西側に 1 街区から 6 街区と商店街、東側に 7 街区から 11 街区となっている。ニュータウンの北側の外周道路に面した 4 街区と 7 街区は低層となっている。その他の街区は高層住宅となっている。24 号線の西側の 6 街区が UR 都市機構団地となっている。

② 向島二の丸小学校・向島南小学校・二の丸北小学校と向島中学校が秀連小中学校に統合

③ 近くに近鉄京都線の向島駅がある

④ 中国帰国者などの外国籍の住民や学生センターの留学生などの国際色豊かになっている。



（図 1）向島ニュータウンの全体図

3　向島ニュータウンが抱える問題

向島ニュータウン内外の人口を調べた結果、ニュータウン外の若年人口は増加しているにも関わらず、ニュータウン内は減少していることが分かり、ニュータウン内に若年人口を増加させることが課題となる。（図 2）また、住民の高齢化、住宅の老朽化、障がい者や貧困、中国人帰国者との文化摩擦、商店街の衰退、買い物難民化、単身高齢者の増加・孤立死なども挙げられている



（図 2）向島ニュータウン外の人口

4　敷地選定

4-1　敷地の周辺

向島ニュータウン内から、向島中学校跡地を計画範囲として選定した。周辺施設は向島中央公園やテニスコート、介護施設などの施設がある。また、あしなが育英会のアフリカ出身学生の教育支援を行う施設が隣地の向島二ノ丸小学校跡地に予定されているなど様々な世代や異なる文化を持った人たちが利用する施設が混在しており、本制作のテーマである多文化多世代の交流を促す施設の計画敷地として適切と考えた。

4-2　向島中学校跡地

向島ニュータウンの国道 24 号線を挟んだ西側に位置し、隣地には向島二ノ丸小学校がある。校舎は北校舎と南校舎に分かれており、2 つの渡り廊下でつながっている。また校舎の西側には体育館があり、渡り廊下で西側の渡り廊下と体育館がつながっている。現在は、2019 年 7 月に「元向島中学校跡地地元利用運営委員会」が地域主体となってはじまった「むかちゅうセンター」として地域の街区や学区をこえて集い、サッカーやバスケ、ラグビーなどのスポーツであったり、和太鼓などの音楽、それ以外にも交流するスペースとして南校舎を使用している。



（図 3）グラウンドの南側から見た（野外ライブ中）

5 計画内容

同世代同士が助け合い、時には切磋琢磨をしながら、それには国境、国籍関係なく互いが一つの目標に向かって成長できる若者の居場所を作る。そこには年齢に関係なく、目で見て、耳で聞いて体験体感でき、まちのみんなが応援できるような居住・研修・発表を一体化させた複合施設を計画する。そしてこれまでに挙げてきた向島ニュータウンの様々な特徴を活かしつつ、多文化多世代の人との交流を促すような施設を計画していきたいと考える。

所在地：京都府京都市伏見区向島二の丸町 151-28
主な用途：劇場
敷地面積：16,024m^2
建築面積：3,184m^2
延床面積：7,184m^2
キーワード：ニュータウン・まちづくり・多文化共生

Location : 151-28,Mukaijimaninomarucho,Hushimi-ku,Kyoto
Main Use : theater
Site Area : 16,024m^2
Building Floor Area : 3,184 m^2
Total Floor Area : 7.184 m^2
Keywords : New Town, Town Planning, Intercultural cohesion

6　計画コンセプト

3 つのレベルに分ける。北校舎は改修をせずそのまま活用する。体育館は内装を改修し外観は改修せず活用する。南校舎は躯体のみを残し、ステージ部分を新築していく。

6-1　南校舎の活用方法

南校舎は運動場に面しているため、増築が可能であるということから、躯体のみを残して建物の主体的な構造とし、発表の場となる開閉式の半円形型のドームを新しく増築する。また、ドームの形状について当初は円形ですべて新築で想定していたが、運動場の規模や野外ステージとしての利用を考慮して半円形の半面に変更した。仙田満設計の兵庫県立但馬ドームを参考にしながら南校舎にステージを新築した。

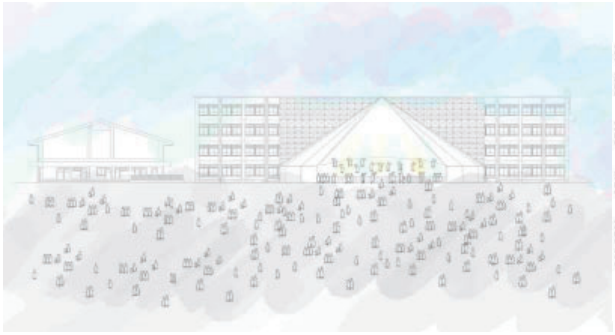
6-2　北校舎の活用方法

向島中学校は 1980 年に設立され約 40 年間統廃合されるまで、地元の人たちやこれまでに通ってきた子どもたちにとって思い入れのある場所である。そのことを考慮し、北側の通りに面する北校舎は既存校舎をそのまま利用し、教室を若者の居住スペースとして活用する。

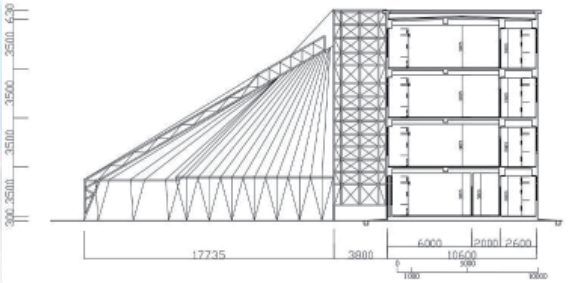
6-3　体育館の活用方法

体育館は近鉄向島駅からのアクセスが最も近い位置にあるということから、この複合施設のエントランスホールとして活用する。

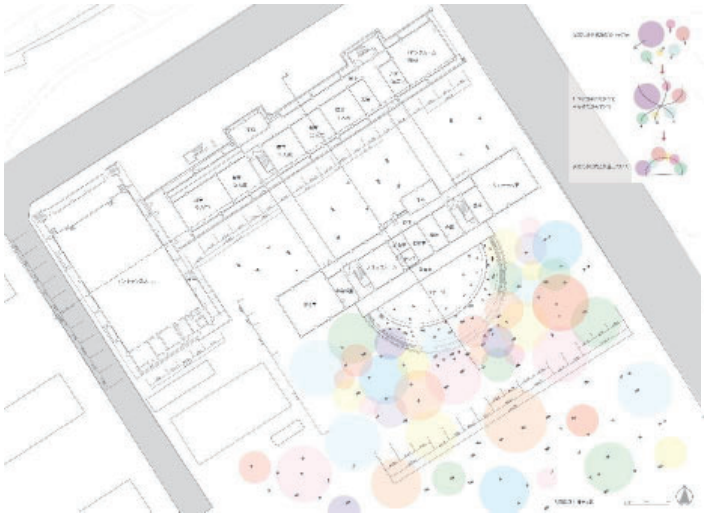
7　計画イメージ・図面



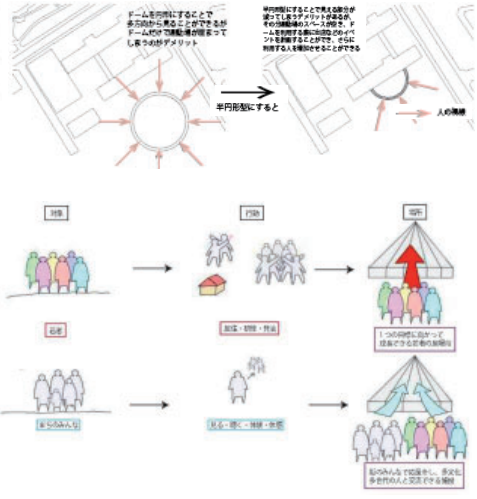
（図 4）計画イメージ図



（図 5）A-A’断面図



（図 6）配置図兼 1 階平面図



（図 7）ダイヤグラム

8　参考文献

・1）向島ニュータウンまちづくりビジョン
・2）京都発！ニュータウンの「夢」建てなおします　―向島からの挑戦（2015 年）杉本星子・小林大祐・西川祐子
・向島二の丸小学校跡地における一般財団法人あしなが育英会　あしなが京都志塾/心塾構想について
・京都市統計ポータル　住民基本台帳人口
・リファイン建築へ　建たない時代の建築再利用術　青木茂の全仕事（2001 年）青木茂
・環境デザインの展開　（2002 年）仙田満

木の学び舎～学生寮でセルフリノベーション～

学籍番号　K19269
名　　前　椎木陸斗
指導教員　森重幸子

Wooden workshop space

Student Number K19269
Name SHIIKI Rikuto
Supervisor MORISHIGE Sachiko



図 1　メインパース

１．設計背景

木造建築を学ぶ学生が集まり、切磋琢磨し合いながら暮らす学生寮を計画する。この施設は大学が運営するものとし、授業の演習などにも使える小さなキャンパスとしての役割も担うものとする。また、ここを利用する学生たちは自らが主体となってこの施設をセルフリノベーションできるものとする。

大学の授業では建築に関する多様な知識を学ぶことができる。しかし、それはあくまで知識としてただ知っているだけであり、実際に見聞きして手に入れたものではない。そこで、建築を学ぶ学生に、実地での体験ができる場所を提供することがこの計画の目的である。授業で学んだ知識を実際に使うことができ、座学だけでは学べない技術を学習することができる。そういった体験を伴った学びを得られることをこの計画の意義としている。

２．敷地

今回は学生寮を計画するため、京都美術工芸大学からさほど離れておらず、周りに自然があるところを候補に絞り選定した。最終的に今熊野の山際にあるアパートと駐車場が併設された少し高台に位置する敷地に決定した。選定敷地周辺は閑静な住宅街であり、幼稚園や大学などがある。高台にあるため見晴らしもよく、今熊野山の自然に囲まれている。学生たちが豊かに創造力を働かせることのできる場所として適していると判断し、今回この敷地を選定するに至った。

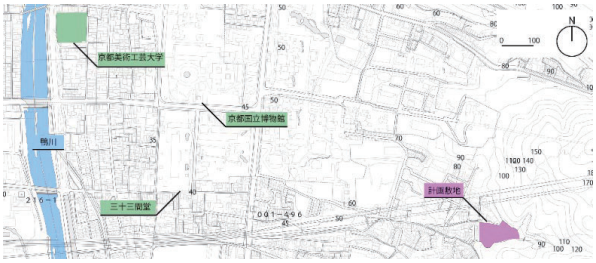


図 2　敷地周辺図

３．プログラムの概要

学生たちが実際に暮らすシェアハウスは分棟とし、そこにそれぞれ３～４人の学生がグループとなって暮らす。それぞれの棟はそのグループ内でコンセプトを設定し、教員や職人などの専門家の指導のもと協力しながら設計と改修をしていく。各々のグループによって違う空間が出来上がっていくため、その差異を学生たち自身が研究できること、またグループに分けることでグループ同士のある種の競争や高め合いが発生することを想定し、より効果的な学びを得ることができるよう計画している。

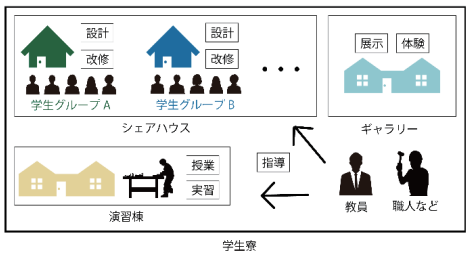


図 3　学生寮の計画

所在地：京都府京都市東山区今熊野日吉町
主な用途：学生寮
敷地面積：6000m^2
建築面積：シェアハウス各 118.00m^2 ギャラリー361.56m^2 演習棟 291.38m^2
延床面積：シェアハウス各 182.31m^2 ギャラリー361.56m^2 演習棟 483.50m^2
キーワード：学生寮・リノベーション・教育

Location : Hiyosi-cho, Imakumano, Higasiyama-ku, Kyoto City, Kyoto
Main Use : Dormitory
Site Area : 6000 m^2
Building Floor Area : Shared house : 118.00m^2 Each, Gallery : 361.56m^2, Experiment building 291.38m^2
Total Floor Area : Shared house : 182.31m^2 Each, Gallery : 361.56m^2, Experiment building 483.50m^2
Keywords : Dormitory, Renovation, Education

ギャラリーは学生の作品などを展示するほか、この学生寮で行われているセルフリノベーションなどの活動内容をまとめたものを掲載し、また実際に施工を体験できるコーナーを設置することで、本プログラムの意義を理解してもらい、その楽しさを知ってもらうことを目的とする。

演習棟では、さらに本格的な施工などの実習や大学の授業でも使える室を設けた建物とし、この学生寮に住む学生以外の生徒も積極的に利用してもらう計画となっている。

４．配置計画

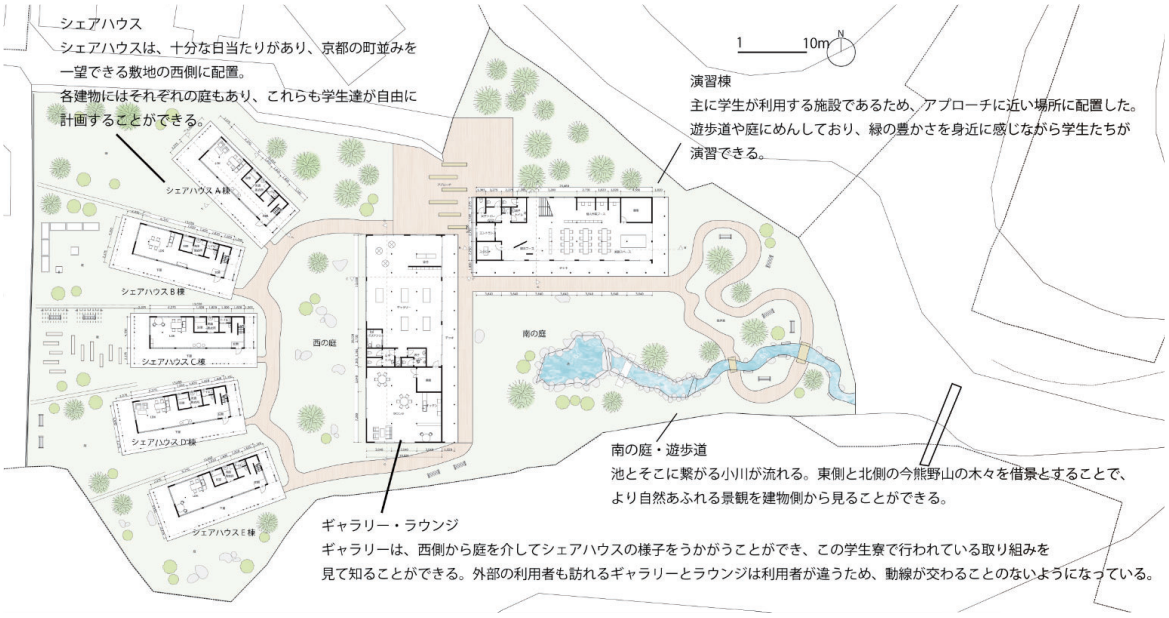


図 4　配置図兼一階平面図

５．設計計画

学生たちがリノベーションを行いながら暮らすシェアハウスは５棟である。各室の柱や梁にはスリットや金具を設け、それらに学生たちが自ら作った建具や壁、棚を接続することで間取りを変更できる。このシェアハウスでは通常の住宅よりも高頻度での改修が成されるため、比較的簡易に空間の変更ができるようになるメリットを重視し、この方式を提案した。演習棟一階においてもシェアハウスと同じように学生たちが柱や壁を設置し、空間を設計できる。そこでは学生達自身がどんな用途でその場所を使いたいかを考えてスペースを設計することができる。また二階では実際に近い施工の実習や大学の授業ができる教室を設けている。

シェアハウスでは、グループごとに様々な計画が成される。本設計ではシェアハウスに暮らすそれぞれのグループがどのような学生で構成されており、どのようなコンセプトにしているのかを設定して、それぞれが作りうるプラン例を計画している。



シェアハウス A、B、C 棟　東側の外観　　B 棟　ドミトリールーム　　敷地南側から写したギャラリー・ラウンジと演習棟

図 5　パース

マリンテラピー

学籍番号　K19270
名　　前　島﨑雄大
指導教員　安田光男

Marine Terapy

Student Number k19270
Name Yudai Shimasaki
Supervisor Teruo Yasuda



背景

高齢化社会が進む中で介護人材の価値は非常に高く、総人口は減少しているにもかかわらず要介護者は増えていくため介護サービスの担い手は求められ続け、介護職は今の日本で需要が伸びている職業である。一方で、介護離職やそもそもの人手不足が企業にとって大きな損失となるため深刻な問題となっている。また、認知症者も高齢化に伴って伸び続けていて 2022 年現在 630 万人と 6 人に 1 人が認知症有症者となり 30 年後の 2050 年頃には約 3 人に 1 人が認知症有症者になるとされている。

目的

入居者のみならず、介護や施設を運営する職員のすべての人にとっても居心地のいい空間となるような介護医療院を計画する。そのために、海の恵みを利用した自然療法の一つとされる海洋療法を用いて五感それぞれを感じ取り、身体的にも精神的にも治療、回復また認知症予防を促せるようにできる今までにない介護医療院を計画する。結果、入居者の健康維持と職員の離職問題の解決につながるようにしていく。

海水を用いることの利点

・五感を全て感じることができる点。・リラックスして運動でき、リラクゼーション効果を期待できる点。

・真水より粘性（抵抗）を生かしたより効率的な運動ができる点。・浮力が高く、体を浮かせるための浮遊具が不要であるという点。

必要な空間

1．施設を感じさせない空間
2．人から断絶した個の空間（カームダウンの場）・・・・カームダウンとは、気分が落ち着く、沈静化するといった意味。
3．バリアフリーとデザインの融合した空間
4．リラックス効果とリハビリ効果を同時に提供できる空間
5．職員にとっても気持ちのよい空間
6．海中にいる、または入っていく演出を出せる空間
7．海の生き物とくつろげる空間
8．認知症予防に繋がる空間
9．津波等の負のイメージをプラスの印象に変える空間



所在地：高知県高知市浦戸
主な用途：介護医療院
敷地面積：10,000m²
建築面積：6,000m²
延床面積：21,300m²
キーワード：海洋療法・リハビリテーション

Location : Urado,Kochi City,Kochi Prefecture
Main Use : Nursing Home
Site Area : 10,000m²
Building Floor Area : 6,000m²
Total Floor Area : 21,300 m²
Keywords : marineterapy/rehabilitation/

敷地と選定理由

１．敷地　　高知県高知市浦戸



２．選定理由　　高齢者の割合が全国で２番目に多く、水質の綺麗さでは全国４位とされる高知県、高齢者の多さに伴って高まる介護の需要と海洋療法を行うにあたっての水質がきれいであること、という条件を満たしており、近くに医療機関が充実していないということ、さらに景観に関しては太平洋を一望できる。以上からこの敷地を選定した。

計画する用途

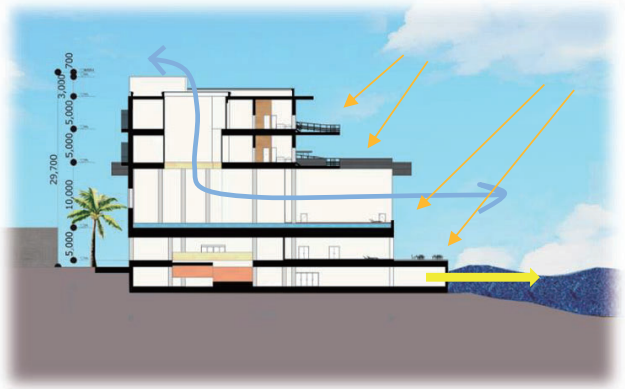
～メイン～・介護医療院（長期的な医療と介護のニーズを併せもつ要介護者の高齢者を対象にした施設。）

～施設内～・入居者居室・治療室・機能回復訓練室・歩行回遊型リハビリ用プール・食堂・海水温泉・大ホール等。

プラン

介護医療院…地下１階、地上５階建て。構造 RC 造。

建築素材（外壁→樹脂サイディング＋フッ素塗装、屋根→ガルバリウム鋼板＋フッ素塗装）←塩害に強い！





施設の２階にあるリハビリ用プールから屋上まで３．４階の居室フロアを通す吹き抜けを設け開放感と風の通り道を確保。



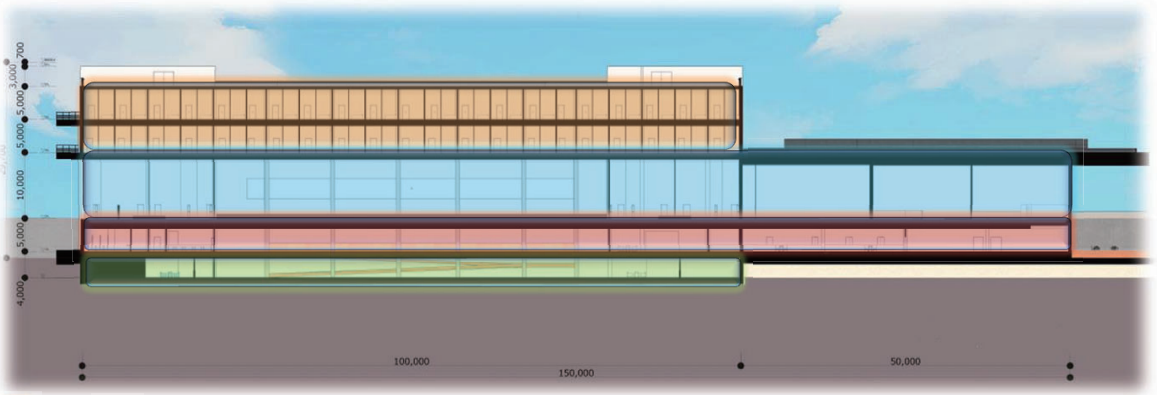
太平洋を眺めながらリラックス効果を得られるとともに海水を用いることで通常の真水のプールよりも高いリハビリ効果を得られる。



各居室の外にはデッキがあり室内は壁があり個の空間になっているがデッキにはその隔たりをなくし入居者同士の交流の場にもなる。オーシャンビュー15m, 20m からのオーシャンビューは絶景。



塩湯と呼ばれる海水を用いた温泉。塩はべたつくイメージがあるが問題なし。リハビリでの疲れが取れること間違いなし。



居室　リハビリ用プール・海水温泉等　エントランス・回廊・砂風呂・食堂・ホール等　診察室・カームダウン室等

参考文献

心を癒す空間デザイン　デンマーク・オランダの高齢者居住環境に学ぶ。　著者：田中直人・老田智美　2022 年 4 月 10 日発行

なぜ海は体にいいのか？～海洋療法と観光の融合を図る。https://health-tourism.skr.u-ryukyu.ac.jp/tarasso

介護業界の今後はどうなる？https://www.cocofump.co.jp/articles/kaigo/

孤育てから拠育てへ

学籍番号　k19271
名　　前　清水　美洸
指導教員　根來　宏典

Change from childcare alone to together

Student Number　k19271
Name　SHIMIZU Mihiro
Supervisor　NEGORO Hironori

1.　計画背景

近年『孤育て』が問題となっている。これは夫や親族の協力を得られず、近所付き合いもない孤独な状態で子育てをしていることを指す言葉である。2017 年にはワンオペ育児がユーキャン新語・流行語大賞にノミネートされたことからも孤立した育児が問題となっていることがわかる。またミキハウスが 2014 年に「育児をしていて孤独感を感じることがあるか」というアンケート(図１左)を実施したところ、半数以上の 53.2%が感じることがあると回答している。

さらに 2019 年から流行しているコロナによってこの問題は深刻化している。先ほどと同じミキハウス子育て総研のアンケート(図１右)では、2022 年度では 63.8%と 10%ほど増えている。

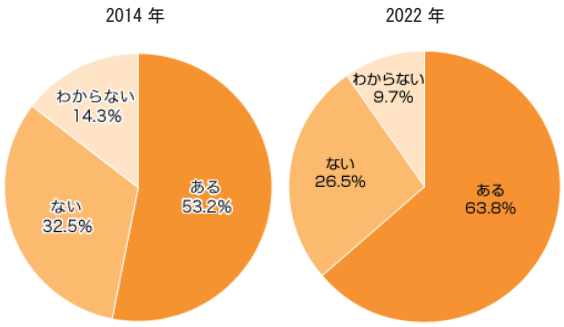


図１　ミキハウス子育て総研
「育児をしていて孤独感を感じることがあるか」

また子育ての難しさは社会全体に広がっている。少子化も相まって子どもの声を耳にする機会が減り、聞きなれないからか子どもの声をうるさいと感じる人が増えている。SNS 上で多くの声が目に付くようになり、交通機関や飲食店の利用を遠慮し始めている親も見受けられ、気軽に外出できない雰囲気がある。家庭と社会どちらもいづらくなっている環境を改善しなければならない。

2.　計画の目的

本計画では敷地内に住む子育てをする家庭が互いに助け合えるような関係が構築されるような空間が当たり前の環境となることを目標とする。また地域の子育てをしている人々と繋がれる空間も設けることで、手助けの輪が広がり、子育ての居場所・拠り所となる「拠」を目指す。

3.　敷地

京都府京都市西京区にある私の地元(図２)を選定した。20～30 分で京都の中心地に行くことが出来る場所にありながらすぐ側に山や竹藪、田んぼなどの自然に囲まれている場所である。付近には幼稚園や保育園から、小学校中学校高校大学まで教育機関が揃っている。右図の青が選定敷地、緑が教育機関である。スーパーや飲食店、24 時間営業のドラッグストアなど商業施設も豊富であり、子どもの年齢に問わず子育てしやすい環境にあると思われる。特に小学校や高校が近くにあり、多くの学生が行き交う場所となる。子育てをする家庭が集まる場所である。どこにでもあるような場所に計画することで、計画の目的の一つでもあるどこでも当たり前に子育てしやすい環境が実現できることを示したいめ、今回の計画に最適な敷地だと思い選定した。



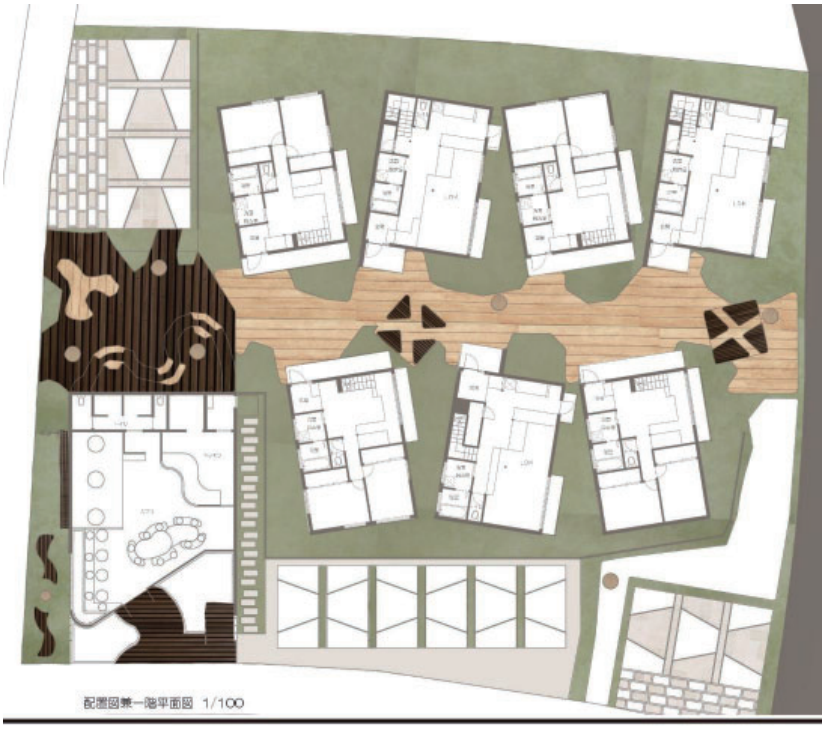
図２　敷地周辺図

所在地：京都府京都市西京区大枝中山町
主な用途：住宅
敷地面積：1383.28m^2
建築面積：未定
延床面積：未定
キーワード：住宅・カフェ・子育て

Location : Oe Nakayamacho Nishikyo-ku Kyoto-shi Kyoto-hu
Main Use : House
Site Area : 1383.28 m^2
Building Floor Area :　未定
Total Floor Area :　未定
Keywords : House, Cafe, Childcare

4.　建築計画

敷地内に複数の住宅とカフェをつくる。カフェを中心として住民の繋がりを作る計画である。住宅は戸建てでありながら屋根をつなげることで一体感を生ませる。住宅の間の道に共用部分となる空間を作り、孤独感を感じたり困ったりしているときに居心地の良い場所を提供する。その場に自然と集まることが話すきっかけとなり、助け合いながら育児のできる関係を気築いていくよう考えている。またつながりはありながらもプライバシー性も考慮する。住宅を斜めに配置することでプライバシー性な庭がそれぞれ生まれる。(図３)



家には吹抜を設けて家族の気配が分かるようにした、またリビングに勉強できる空間をつくり、自然とコミュニケーションが生まれるようにした。リビングは段差を用いて遊びのあるデザインとしている。
またカフェは店の前にただ屋外空間を作るだけではなく、斜めにしたり丸みを帯びた形にすることでデザイン性のあるものとし、人が入ってきやすいような形とした(図４)。

図３プライバシー性のある庭

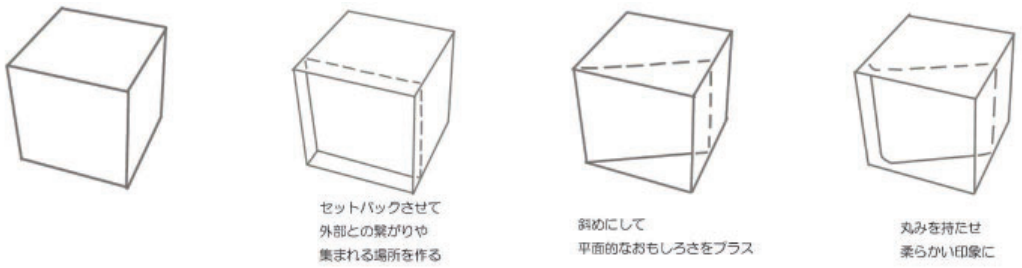


図４　カフェの形

カフェの中には靴を脱いで利用できる席を設け(図５)、幼い子供を連れている親でも利用しやすく設計した。また席の間や向いをあけている席を設け、ベビーカーでも利用しやすいものとした。

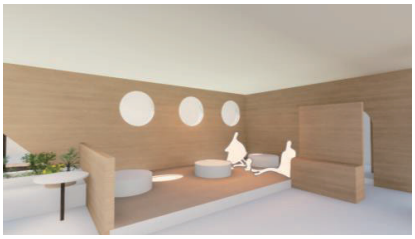


図５　カフェ内観



図６　託児所内観

託児所では段差のある本棚を作り、回遊性がありながらも目の届く遊び場(図６)を作った。上下の遊びもでき、絵本の収納もこなす。壁面には家型にくりぬいた収納を設け、遊び心のあるデザインとした。本棚の上には木のオブジェクトをつくり、室内でも自然を感じさせるような空間となっている。その上にある天窓からの光が入り過ぎない穏やかな光になる役割も果たしている。

自然に触れた家

学籍番号　K19272.
名前　　庄司　賢人
指導教員　河村　大助

Nature rich house

Student number　K19272
Name.　　Kento Shoji
Supervisor　　Daisuke Kawamura

1,現状と意図

現代の日本はデジタル化が進みハイテクな世の中になりました。そんな中で良い点と悪い点が生まれていると考えた。まず良い点としては、時代が変化するにつれて便利な世の中になってきたことである。小学校などからタブレット端末を用いた授業が成されたり、黒板ではなくホワイトボードになりプロジェクターを使ったり、そのようなことだけでなくいろいろなことが進化し、便利な世の中になった。その一方で、ゲーム機やタブレット端末が進化したことで外で遊ぶということが減ったりしていることが、子供が育つということにおいてあまりよく無い方向にいっているとも考えた。そんな世の中になってきたからこそ将来自分の家庭を持った際には、自分が育ってきたような子供らしく外で走り回って育ったり、自然を活かした遊びをしていってほしいという考えから今回「自然に触れた家」をコンセプトに卒業制作をしてい



2,計画敷地

三重県多気郡大台町菅合 383

3,敷地面積

約 1200 ㎡

4,敷地概要

斜面にあり、現在は土を盛るなどをし、
フラットにしてその上にう家を建てている。最寄りの駅までも徒歩約 40 分弱。敷地周辺にはコンビニやスーパーなどはなく、車を 4､5 分走らせたところに生活に必要な施設はある。それ以外は周りが自然！って感じなので車を所有していないお年寄りの方達には住みにくい環境にはなっていると思う。





5,計画内容

自分が生まれ育った自然豊かな土地で将来暮らしたいという思いから、自分の考える「自然」を意識して自然に触れた家を計画していった。元々は木造にする予定であったが、自然の中にある家を想像した時に木造よりもコンクリートの造りの方が映えると考え RC 造の住宅を計画した。BBQ ができるように設置されたウッドデッキは気分転換もできるように見晴らしが良く開放的な北側に設けた。ここで言う私が言う「自然」とは自然の形ではなく緑を意味する。敷地周辺は住宅はほとんどなく茶畑やさら地ばかりで殺風景な感じである。
そこで、庭に大きめの木を植えるなどをした。目の前に大きな木があることで緑を感じ自然と自然も感じられると考えた。





6,選定理由

私が生まれた年に出来た家であり一緒に歳を取ってきて思い入れがある土地だからです。

自然が豊かで都会にはない良いところがあります。小さい頃からみ虫取りをしたり、山に登ったり水質日本一、二を争う川での遊びをするなどをしてきました。

そのような環境で将来住むことができたら良いなということも考えながら理想の家というものをデザインしていきました。

7,自然の中に建てるメリット、デメリット

メリット・・・自然のもので遊んだり生活していくことで知恵が増え、自分で考える能力、想像力色々なものが養われる。等

デメリット・・・自然のものといっても限界があること、生活において商業施設が充実していないというのは不便であること。

公民館＋子供食堂

―子供たちの居場所―

学籍番号：K19273
名　　前：白川玲緒
指導教員：河村大助

Public hall + child restaurant-

Place to stay - of children

A college register number: K19273
The name: Reo Shirakawa
An instructor: Daisuke Kawamura

はじめに

地域社会における子どもを育てる環境や家庭における親の子育て環境の変化が指摘されている。また、何らかの子どもを育てる環境が問題を起こす原因になっているのではないだろうか。

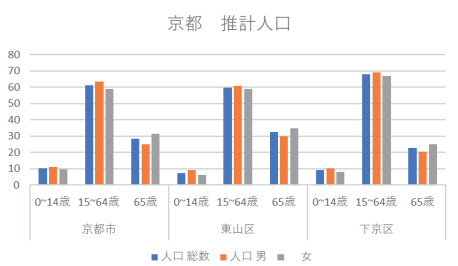
そこで子どもたちが孤独にならないように多世代の人と交流できる居場所になる施設を計画する。学校の帰りに家に帰りたくない、学校に行きたくない、誰かと話したい、そんなときに寄り道できる居場所を計画する。

このグラフから東山区の 65 歳以上が多く下京区の 15 歳から 64 歳の人が多くみられる。下京区は家族世帯が多く近隣の東山区は京都市の中で最も高齢化が進んでおり、学校が多い地域である。住民が集える場所を作ることで高齢者の引きこもりや孤独死、などを防ぐことにもなると考える。

平均世帯年収　京都　下京区　481 万

東山区　395 万

全国　503 万



（図１）京都推計人口　令和４年

公民館の中にこども食堂を入れて地域の人、お年寄りを引き込むことで、子どもが学校内で学ぶことができないような教育を作り出しそこに関わる地域の人や住居者にも情報の共有が行われ、学校という教育の場が子どもに限らず、まち全体で利用していくものへと変わっていく。放課後や休日にこの場所に子どもは学びを求めて居場所を計画し、**様々な集い集まる公民館と安価に食事ができる食堂を提案する。**

敷地の選定理由について、 近くの駅の京都駅、七条駅から徒歩約５分で行くことができ、 敷地の周辺には保育園、 公園、 病院など多くの施設が揃っている。 最寄り駅の京都駅は都市部にも行きやすく交通便でもかなり便利になっている。地域周辺には、小学校や保育所があるので別の地域から来る子どもも通いやすい。 このような理由をもとに今回この敷地を選定した。

用途詳細は 1 階が子供食堂を計画、 カフェの中でも作業が出来るように個人スペースを設けたり、 外でも芝生の上で食事ができたり、休憩できるスペースを設計した。 2 階は公民館として交流の場としての機能を計画した。

計画趣旨

子どもたちの居場所を併設した公民館を計画する。敷地内に町を取り込むイメージで考え、敷地の構造から、敷地内に広場を配置し広い空間を持たせることをイメージした。また、「公民館」・「子供カフェ」の 機能が合わせることで実現される新たな場所を 町民の皆様の様々な活動を支援するための計画をした。ここに行くとお年寄りや、小さな子ども、地域の人々がいて、話したり、遊んだり、勉強を教えてもらったりなど、新たな交流が生まれる。これらを計画することで、少しでも子どもたちの居場所が町に増え、地域全体で子どもを見守ることができるのではないかと考える。

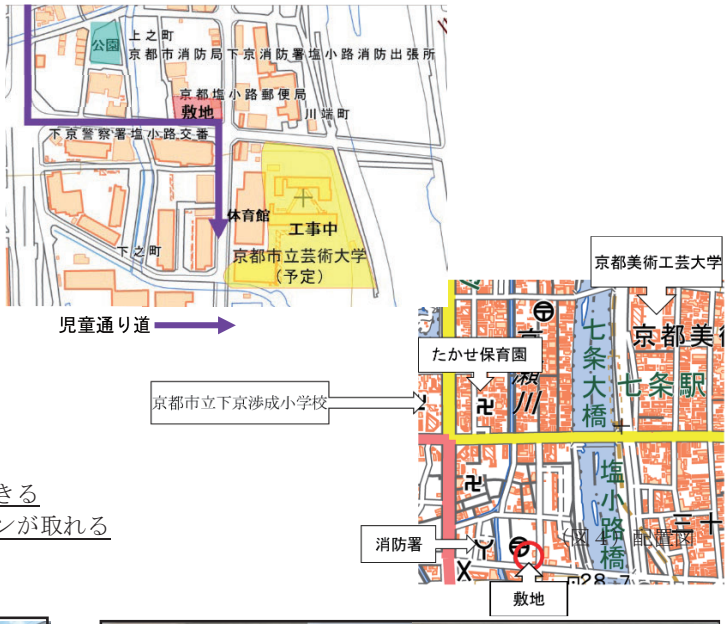


（図２）西側からの建物

敷地概要

敷地 ： 京都市下京区上之町８−６
敷地面積：583 ㎡
建築面積：241.344 ㎡
一階面積：168 ㎡
二階面積：192 ㎡
延床面積：360 ㎡
用途：公民館、子供食堂
構造形式：鉄筋コンクリート造
建蔽率：41.40%
容積率：61.75%

Site: 8-6 Uenomachi, Shimogyo-ku, Kyoto City
Land area: 583 m2
Building area: 241.344 m2
Ground floor area: 168 m2
Second floor area: 192 m2
Total floor area: 360 ㎡
Use: Community center, children's cafeteria
Structural form: Reinforced concrete construction
Building coverage ratio: 41.40%
Volume ratio: 61.75%



（図 1）配置図

建築用途

公民館

サービスを総合的に提供する拠点

子供食堂

安価で栄養のある食事がとれる場所
夜まで開いており託児所としても併設

・メリット

暖かいごはんが食える
アットホームな雰囲気で誰かと食事ができる
子ども同士、親同士のコミュニケーションが取れる


（図５）京都駅から見た敷地　（図６）建物周辺
（図８）鴨川　（図７）周辺の公園


(図８)子ども食堂　（図９）公民館
（図 10）芝生広場　（図 11）南側からの建物

参考資料

・京都市統計ポータル https://www2.city.kyoto.lg.jp/sogo/toukei/Population/Suikei/

・e-stat　https://www.estat.go.jp/statsearch?page=1&toukei=00200564
・住まいインデックス　https://lifullhomes-index.jp/info/money-data/household/kyoto-pref/kyoto_higashiyama-city/

・内閣府　https://www8.cao.go.jp/youth/whitepaper/h29gaiyou/s0.html

・日経クロステック https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/00358/051400045/

写真は、筆者の撮影。地図は、国土地理院の地図を元に筆者が加筆着色。

長居商店街の再生

学籍番号　K19275
名　　前　新村柚月
指導教員　河村大助

1、計画敷地

大阪府大阪市住吉区長居３丁目の長居商店街を計画敷地とする（図 1）。敷地面積は、1 万 2 千㎡あり、周辺には、サッカーチームセレッソ大阪のヨドコウ桜スタジアムのある長居公園、JR 長居駅がある。長居商店街は、セレッソ大阪を応援している。スーパーマーケットでの買い物客が多く、各店舗の飲食店には常連客がいるが、アーケードが汚れて暗い雰囲気でお店の中の幅が狭く見通しが悪い。さらに、自転車をアーケードの中央に駐輪している影響でアーケードが狭くなっている。

2、選定理由

利用客が多いが、シャッターの降りた店舗が多く、老朽化しているところを改善する。アーケードに駐輪している自転車の量が多く通りにくい問題点を解決する（図 2）。周辺にある長居公園のイベントに来る人の流れを商店街に取り込みたい。

3，計画範囲

デザインする範囲は、スポーツバー＆カフェ、銭湯、雑貨店の設計を行う。その他、アーケード屋根、駐輪場、床のデザイン、サイン計画、既存店舗のファサード、シャッターの降りている店舗の計画を行った。

4、長居商店街の現状

（図 3）に示す赤色が営業している店舗、黒色が閉店している店舗、青色が住宅である。北側の店舗（スギ薬局）からスーパーマーケット付近までが非常に駐輪が多い場所である（図 4、5）。南側は、閉店している店舗が集中しているため、駐輪は少ない。

5、計画内容

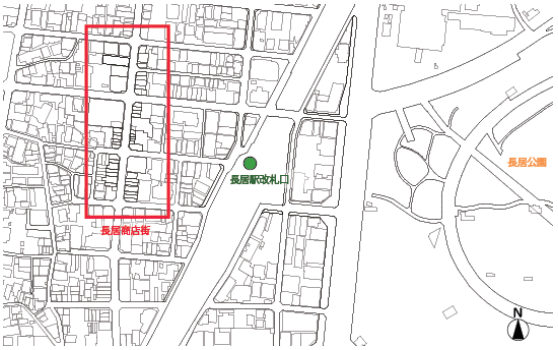
5-1、スポーツカフェ＆バー

サッカーチームセレッソ大阪を応援している商店街であり、長居公園内にあるスタジアムで試合をしている。スタジアムに行き観戦するのが好きな人もいるが、スタジアムに行けなかった人やご飯を食べながら観戦したい人など人それぞれである。そこでこのような人たちが集まれるようなスポーツカフェ＆バーを計画した。屋内・屋外の両方に大画面モニターを設置することでお店に入らなくても見ることができる。また、ワールドカップなどになると屋内と屋外の仕切りを無くし、一体化した。

店舗名は、「Cherry tree（桜のように観戦する人が満員（満開）になるように）」（図 6）。

Revitalization of Nagai Shopping Street

Student Number　K19275
Name　SHINMURA Yuzuki
Supervisor　KAWAMURA Daisuke



（図 1）案内図



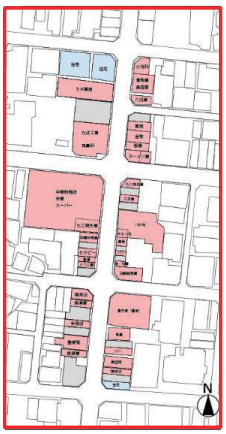
（図 2）自転車の駐輪の状況



（図 4）スギ薬局付近の現在



（図 5）スーパー付近の現在



（図 3）現在の長居商店街の地図



（図 6）スポーツカフェ＆バーの外観

所在地：大阪府大阪市住吉区長居３
主な用途：商店街
敷地面積：1, 200㎡
キーワード：商店街、再生

Location : 3,Nagai,Sumiyoshi-ku,Osaka
Main Use : Shopping district
Site Area : 1,200m^2
Keywords : Shopping district,reproduction

5-2, 駐輪場

現状は、商店街に駐輪場がないため、アーケードの真ん中に自転車を駐輪している。それによりアーケードが狭く人が通りにくい。駐輪場は、現在閉店している店舗の敷地を駐輪場として利用。駐輪場を分散して配置する理由は、店舗から駐輪場が遠くにあると駐輪場が利用されず、現在と同じ状態が予想されるため。駐輪場を利用してもらうために機械ありと機械なしを計画した。機械ありは、駐輪代を支払うと商店街で使用できる同額のクーポン券が出る。機械なしは、数分だけ駐輪場を使用したい人が使えるようにした（図 7)。

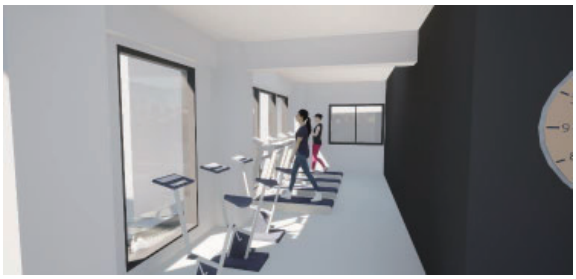

（図 7）機械ありの駐輪場

5-3, 銭湯+ランニングステーション

商店街の西側は、住宅地である。家のお風呂でゆっくり入るのも良いが、銭湯でご近所の方と友人と親子と入るのも楽しい時間の過ごし方なのではないかと考え銭湯を計画した（図 8)。商店街付近には、長居公園でランニングなどのスポーツをしている人がいる。その人たちが休日だけでなく仕事終わりに着替えていけるランニングステーションも計画した。さらに、雨天の場合を考えトレーニングスペースやストレッチスペースも計画した（図 9)。ランニングステーションを利用した人も銭湯を利用できるように同じ建物の上下階にしている。

店舗名は、「おひさま銭湯（あたたかい場所にしたい)、ランニングステーション（誰が見ても分かるように)」


（図 8）銭湯の外観


（図 9）ランニングステーションのトレーニングスペース

5-3, 雑貨店

商店街付近には、百均はあるが雑貨店がないため、雑貨店を計画した。自分の買い物だけでなく、友人へのプレゼントにも利用でき、駄菓子も販売できる場所を計画した。敷地が狭いため、圧迫感を無くすため天井を高くしている。さらに、建物をガラス張りにすることで外からでも中の雰囲気が分かるようにしている。

店舗名は、「Present for（present for の後ろに何を入れるかで自分へ、友人へ、親へとなるようにしている)」（図 10)。



（図 10）雑貨店の外観

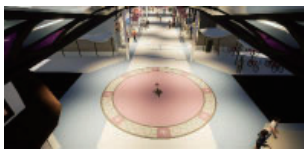
6, サイン計画・アーケード・床のデザイン

サイン計画は、セレッソ大阪のエンブレムにある桜を使用した。ピンクはすべての店舗（図 11)。ネイビーは駐輪場。アーケードの模様は、だんだら模様にし、換気のため波のように動きを付けた（図 12)。床の模様は、ランダムにラインを入れ、あみだくじのようにした（図 13)。



（図 11）サイン計画（店舗）


（図 12）アーケードデザイン


（図 13）床デザイン

写真は、筆者の撮影。

地図は、国土地理院の地図を元に筆者が加筆着色。

“新しい”と“古い”の間に住む

学籍番号　K19276
名　前　角田　梨穂
指導教員　山内先生

Live between “new” and “old”

Student Number　K19276
Name　Sumida　Riho
Supervisor　Yamauchi Teacher



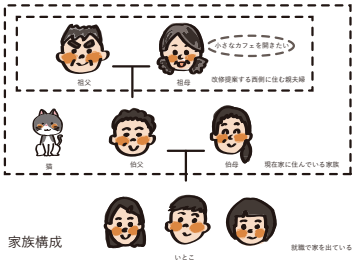


設定場所



彦根市のカフェ分布





敷地設定

滋賀県彦根市日夏町６１８。　カフェ併設型二世帯住宅に改修する計画です。

周辺調査

彦根市は滋賀県の東部に位置します。彦根市の西側は琵琶湖、東側は鈴鹿山脈などの山々が連なっていることで、青と緑の自然に囲まれています。戦国時代は戦いの場所となることが多かった彦根ですが、江戸時代になると彦根藩の城下町として栄えるようになりました。重要文化財も多く残っており、彦根城を中心に江戸時代の街並みが多く残され、面影を感じることができます。

私が計画する敷地は彦根市の南に位置する日夏町という場所です。彦根城からは少し離れ、近くに荒神山があり、田んぼが多く緑が広がっています。緑豊かな静かな街です。

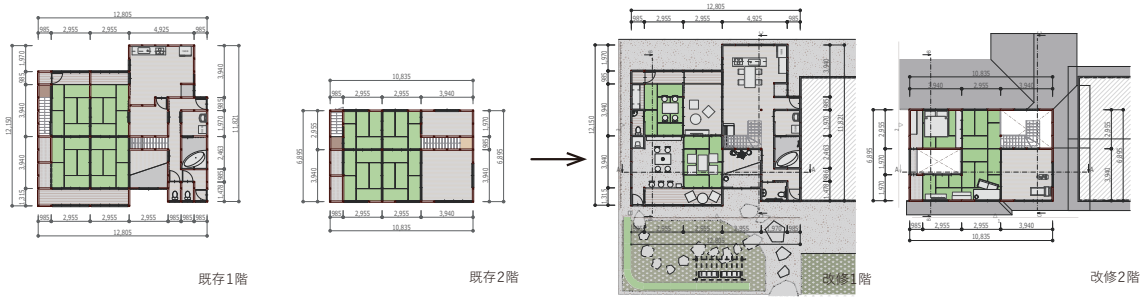
計画背景

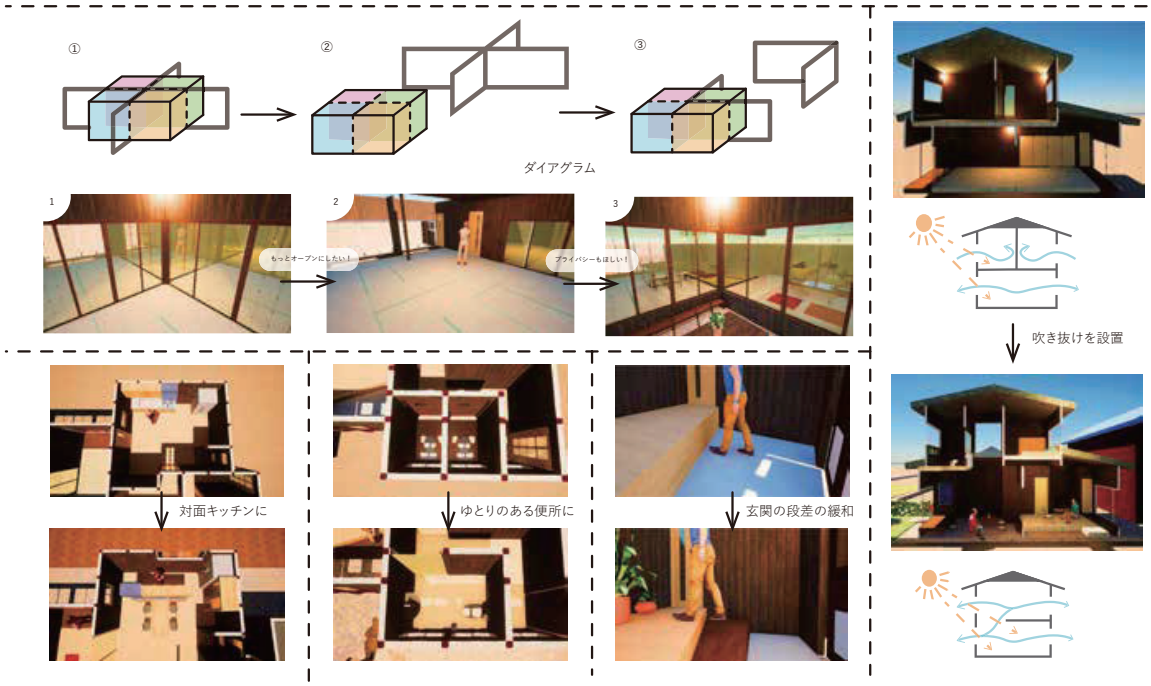
自然豊かな滋賀県ですが、他府県から見ると彦根市と草津市が栄えているように思われます。実際にお店が多く集まっていますが、彦根市の中では彦根城付近のみです。私が設計する場所は緑豊かであり、同じ彦根市でも違った景色が広がっています。のどかな場所であり、一つの家に対する敷地も多いことが見られます。設計地も家の倍以上の敷地があり、野菜や植物を育てられています。家自体も広いゆえに、使われていない部屋が多くあることから、活用できないかと考えました。そして、のどかな場所であることから、飲食店がほとんどありません。なので、カフェに行きたいとなれば、少し車を走らせないといけません。近所の人が集まれるような、ちょっとしたカフェスペースを設計したいと考えました。

現在の二世帯住宅は、親夫婦と子夫婦で分断されたつくりになっています。私から見た、いとこである３人は就職し、自立したことで、今はもうほとんどこの家を利用していません。なので使われていない部屋が多く、元々遊ぶ場所であった部屋が物置部屋になっています。そして、話すことが大好きな祖母が一度小さなカフェを開いてみたいと言っていたことを思い出し、実現させたいと思いました。

所在地：滋賀県彦根市日夏町６１８
主な用途：カフェ併設型二世帯住宅
敷地面積：949.78m^2
建築面積：136.31m^2
延床面積：188.56m^2
キーワード：リフォーム、カフェ、古民家

Location : 618,Hinatsuchou,Hikone-shi,Shiga
Main Use : Two-family house with cafe
Site Area : 949.78 m^2
Building Floor Area : 136.31 m^2
Total Floor Area : 188.56 m^2
Keywords : Renovation, Cafe, Old folk house





改修の提案

私が始めに着目したのは十字に配置された障子でした。閉め切ることが多いと聞くその障子は部屋を暗くさせていました。オープンに見せつつ、プライバシーも持たせるために、ダイアグラムのような仕切りにさせました。窓を設ける際に、椅子に座るとカフェスペースからリビングが見えない高さに設定しました。カフェスペースに光を入れるために吹き抜けを設けました。さらに今まで無かった位置に窓を設けることで、より採光の確保ができるようにしました。吹き抜けがあることによって、縦方向の空気の入れ替えも可能にさせました。

部屋ごとの段差を無くし、一段５０㎝あった玄関の段差をもう一段増やすことで上がりやすくさせました。元々１４段あった階段を１７段に変更することで、ゆるやかにさせました。二つあった便所を一つにし、引き戸にすることによって、家に住む祖父と祖母が利用しやすいようにしました。

キッチンやリビングダイニングの仕切りを無くし、開放感を持たせました。そして、家族同士の視線が合うように、対面キッチンにしました。リビング側の階段の仕切りを取ることで、２階からの光が差し込むようにしました。

全て“新しい”に変えるのではなく、“古い”に組み合わせることで、趣を残し、家に灯りが増えるようにさせた。

引用

https://hikotsu.com/hikonemiryoku/

路地をみる-路地ぐらしのこれまでとこれから-

K19277
住吉美咲
指導教員　森重幸子

1. はじめに

現在、京都には幅員 4m未満の細街路が 1 万 3000 本あり、その中の約 35%（4330 本）が袋路になっている。袋路は災害時に避難経路が十分に確保できない事や救助の妨げに成可能性がある等、防災上の問題も多くある。また京都市の調査によると平成 21 年から平成 28 年までの 7 年間に町家は 5602 件、一日に 2 軒以上の京町家が地図から姿を消し、そのうちの 14.5%が空家になっている。路地も同様に建物の取り壊しと共に更地になってしまうケースもある。しかし、路地空間には多くの魅力がある。奥に吸い込まれる様な路地の風景、自然と生まれる住民同士のコミュニティ、京町家ならではの歴史的な景観。これらの町家風景や人々の営みが京都の景観を唯一無二の物にしてきた。路地空間はさまざまな変化に対応でき、そこに住まう人が変わることでそれぞれ違った多様な空間が出来上がる。さまざまな調査から用途や居住者を変えながら住み継がれてきたことが分かった。

そこで私は生活スタイルの変化や新しい路地の用途の変化によるこれからの住み継ぎについて考える。

2. 調査内容

卒業制作の対象敷地として東山区本町のトンネル路地と毘沙門町の路地の 2 つの路地の調査を行った。調査内容としては現地調査、登記簿・航空写真・地図による土地の調査、居住者へのヒアリング、実測調査だ。

2-1 本町の路地

本町通りに面したこの路地には５軒の住宅が建っている。そのうち 2 軒の２階部分が路地に突き出ており、トンネル状になっている箇所が 2 つある珍しい事例である。5 軒のうち 4 軒の町家を実測調査した。

住居 A は 1987 年 YM さんが購入。かつてはカーテンの卸売りをしていた。現在、専用住宅。住居 B は 1898 年竣工。専用住宅として現在まで IW 家の開で住み継がれている。手芸教室は 1946 年に TN さんが購入。1969 年に相続され、2019 年不動産業者に売却。同年に手芸教室か開かれる。ゲストハウスＡは 1954 年からＹＧ家が相続。2015 年に売却され、2022 年現在ルームマーケット（不動産業者）が所有するゲストハウスに。ゲストハウスＢは 1910 年からＴＮ家が相続。1954、1978、2015 年に売却が繰り返され、2022 現在、ゲストハウスＡと同様ルームマーケットが所有するゲストハウスに。（図 3）記録とヒアリング調査から IW 邸は金物屋を営む店舗併用住宅として利用され、奥４軒は専用住宅として住み継がれてきた。現在は空家の時期を経て、

Alley Life

K19277
SUMIYOSHI Misaki
Supervisor MORISIGE Sachiko

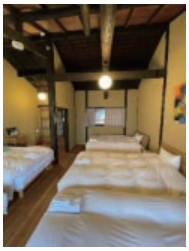



図 1　ゲストハウス内観

現在は２軒が専用住宅、奥３軒がゲストハウスとテナント（手芸教室）となっており、時の経過と共に用途が変わり、用途が反転した面白い路地である。

路地空間はこの場所に住む人々の共用の場所として利用されてきた。小さなこどもでも奥に続くような空間であるために、安全に遊ばせることができるという話もあった。家同士の距離が近いため、お互いに生活している息づかいが感じられる。

路地に向かって 5 つの玄関があることで中で区切ったり、つなげたり、様々な空間の使い代のある非常にフレキシブルな路地である。



図 2　本町の路地　平面図

2-2. 毘沙門町の路地

東大通りに面する路地。今回実測させていただいたNY邸は東山の町家と性質が異なっている。その背景として約120年前に別荘として建てられたことがある。東山の路地の町家とは違い路地や道に向かって開くような作りではなく敷地内にある広い庭に面する座敷があるなど、庭に向かって開くような形になっている。洋室、和室がともにあり天井や窓など各所に装飾が見られたり、庭には様々な植木や鞍馬石の景石、灯篭等がある。1962年に旅館を始めるために購入され、旅館を閉めた後、広く余った部屋を利用して2021年から認可外保育所を開設。2022年春に閉園し、現在は専用住宅として使われている。ヒアリング調査からは町家での保育を再開してほしいという声が元通園者から出ていることが分かった。路地に面するほかの4件は2軒が空家、１軒はNYさん夫婦の専用住宅、もう１件は１階に美容室がある鉄筋コンクリート造５階建ての居宅・店舗・共同住宅になっている。

所在地：京都府京都市東山区本町新 5 丁目,東山区毘沙門町 26
主な用途：保育園、店舗、住宅、ギャラリー
敷地面積：282 ㎡、336.4 ㎡
建築面積：198.5 ㎡、88.7 ㎡
延床面積：474.3 ㎡、165.65 ㎡
キーワード：路地・住み継ぎ・コミュニティ

Location : Shin5,Honmachi,Higashiyama-ku,Kyoto-shi,Kyoto
26,Bishamon-cho,Higashiyama-ku,Kyoto-shi,Kyoto
Main Use : kindergarten, shop, house, gallery
Site Area : 282 ㎡,336.4 ㎡
Building Floor Area : 198.5 ㎡ ,88.7 ㎡
Total Floor Area : 474.3 ㎡,165.65 ㎡
Keywords : Alley, life style, community

本町の路地とは違い一番奥のNY邸にアプローチするために1本の路地が伸びる形になっている。石畳の様な形で舗装されており、共用空間として利用されてきた本町の路地とは異なってアプローチとしての道という雰囲気である。東大路通りに面し、近くには八坂神社があるなどたくさんの人で賑わう場所だが、路地の中に一歩踏み入れ足を進めると閑静な住宅空間となる。その土地の性質が保育園を開設するにふさわしい条件だったと考えられる。

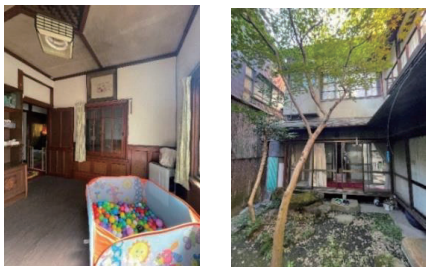


図 3　毘沙門町の路地　町家内観

3. 計画概要

それぞれ性質の違った 2 つの路地に対してそれぞれの計画を考える。

3-1. 本町の路地　さまざまな顔

本町の路地では路地全体を使った計画を複数考える。ゲストハウスの前の少し広い空間は「道」としての利用だけでなく、「広場」という意識で路地を利用したいと考える。住宅としてのみならず、アトリエやオフィスなど路地に入る要素が変わることで路地の雰囲気が変わることを利用し、様々な用途として利用することを想定する。

今回は「寮母さんに守られる学生寮路地」「リビング路地」「路地の駅」の 3 案を考える。「寮母さんに守られる学生寮路地」は道路に面した町家を寮母さんとその夫が暮らす住居とし、その 1 階をキッチンと食堂として利用する。2 階には 2 人の趣味の場や各個室を設け、各々が自分の時間を過ごすことができる計画とした。西の 4 軒は学生寮とし、女子男子それぞれ 2 棟ずつ使用する。男子寮、女子寮ともに 1 階を共有リビングとし、持ち帰った学校の課題などを協力しながらできるように広い空間を設けた。路地の少し入りずらい要素を利用して完全にプライベートな空間として路地を使う。「リビング路地」はこの路地一帯に住む人々が共有の空間として、また個人の空間としてリビングのように利用する。それぞれの町屋に違った形の家族が住まうことを想定する。路地空間は小さな子どもにとっては遊び場となり、その遊ぶ子どもたちをそこに住まう大人たちが見守る。各家族がその家の中で完結するのではなく、路地空間で交わる家族同士が影響し合い新しいコミュニティを生むような路地の利用を考える。「路地の駅」は商店、観光案内所など地域の人も観光客も様々な人が利用する場所として計画する。路地と各町家は迷路のようにつながっており自由に歩き回ることができる。開いたままというわけではなく必要な時には扉で区切ることもできる。大きな幅を取るのではなく、路地のスケール感覚で、「奥が気になる」「入ってみたい」と自然と足を踏み入れたくなるような路地の感覚を利用した。

すべての計画でゲストハウス B（図 2）の 1 階西の窓は避難経路として確保する。



図 4　「リビング路地」平面図

3-2. 毘沙門町の路地

北側の土地を利用し、新築の建物と現在ある町家を利用して保育園を計画する。既存の邸宅は以前と同じように保育園兼住宅として利用する。新築する RC 造の建物には保育園とコワーキングスペース、テナントを計画する。コワーキングスペースは保育園にこどもを預けた親がそのまま、その場所で仕事をし、おむかえの時間になると保育園まですぐ迎えに行くことができるようにする。

1 階のキッチンは保育園とカフェで共用する。こどもをおむかえに行ってから、そのままカフェで夕食をとって帰り、家庭での作業を減らすことのできるサービスを考える。2 階は保育園として、3 階はコワーキングスペース、4 階はテナントとして利用する。時間が経ち、利用方法が変わったときに用途を変えて次に住み継いでいけるようシンプルなデザインとした。

町家の増築された部分を一部取り壊し、北側の敷地と行き来ができるような計画とし、通路としてだけでなく災害時に避難経路としても利用できるような計画とする。



図 5　毘沙門町の路地　イメージパース

子供のためのｎ個目の居場所

学籍番号　K19278
名　　前　田尾 祐大
指導教員　宮内 智久

1. はじめに

いじめは無くならない。

周りがどれだけ頑張っても、学校という閉鎖空間である以上、どこかで綻びが出来て、危惧していたことが起きてしまう。

そして、被害者は耐え忍びながら登校を続けるか、次の居場所として自宅での引きこもりを選ぶ。

ここで私は、新たな居場所を提案する。

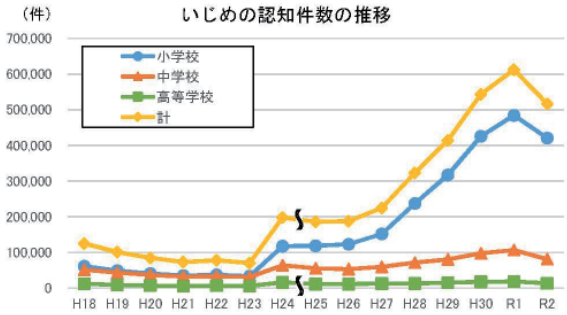
他に自宅が居場所な子には２個目として。

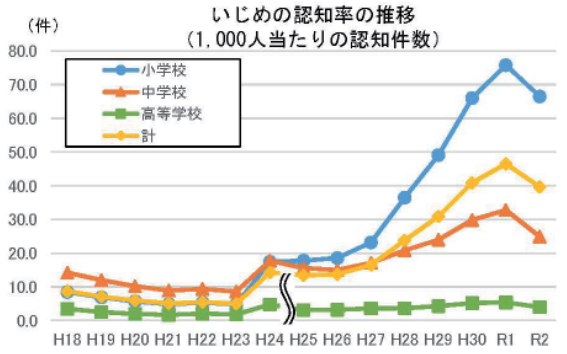
祖父母の家もあるよ、と言う子には３個目として。

そんな、ｎ個目の居場所を。

2. 問題提起

2-1. いじめの認知件数の増加



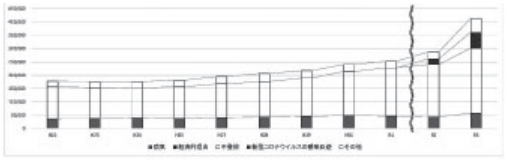


文部科学省 令和 2 年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要 より引用

nth place for children

Student Number K19278
Name Yudai Tao
Supervisor Tomohisa Miyauchi

2-2. 不登校者の増加



小・中学校における理由別長期欠席者数の推移（小・中合計 国公私立）

文部科学省 令和 3 年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について より引用

2-3. 以上を踏まえて

この様に、いじめに関してはピークから落ちて入るもののおよそ 50 万件、不登校に関しては高等学校のデータは入っていないものの、不登校者がおよそ 25 万人弱という人数である。この数字をどう受け取るかは人それぞれだが、数十万もの子どもがいじめを受け苦しみ、また 25 万人全てがいじめによる不登校では無いだろうが、一部生徒は登校をも拒否しているのである。

とは言え、「もう学校行かない」と決め、何らかの方法で勉強などを進めているのならば、彼らはおそらく大丈夫であろう。問題は不登校と化したまま何も出来ていない子、そして学校から撤退すら出来ていない子である。

では、彼らのためにどんなフリースクールを計画すればいいのだろうか。

5. プロジェクト概要

5-1. プログラム・用途

居場所という曖昧な言葉で表現していたが、提案するのはもっと具体的な施設、「フリースクール」である。

この施設は不登校や引きこもりになってしまった少年少女が学校の代わりに通う場所、という役割を持っている。

施設によっては地域の学校と上手く連携し、学校への出席の代わりとしてフリースクールでの出席が認められているケースもある。

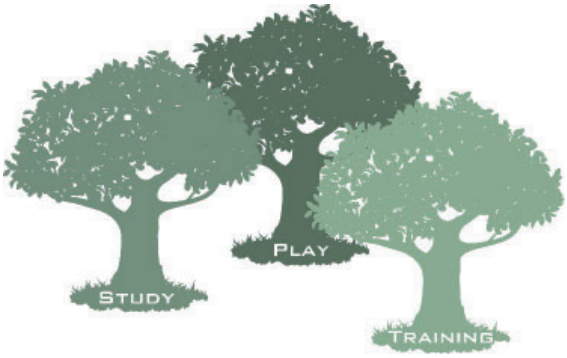
そんな事も後押しし、まだまだ少ないものの全国各地に実在する施設である。

私はこのフリースクールを、学校が嫌な子どもたちのために極力学校感を減らしながら、提案する。

所在地：京都府京都市上京区梶井町 448-1
主な用途：学校
敷地面積：3689m^2
建築面積：1564m^2
延床面積：3478m^2
キーワード：フリースクール・スキップフロア

Location : 448-1,Kaji-tyou,Kamigyo-ku,Kyoto-shi,Kyoto
Main Use : School
Site Area : 3689m^2
Building Floor Area : 1564m^2
Total Floor Area : 3478m^2
Keywords : Free School,Skip Floor

そんな施設だが、今回は、3 つの要素「学習」「遊び」「トレーニング」を主軸として計画していく。



普通の学校とは違う点としては、「遊び」と「トレーニング」の要素が比較的大きめであり、「勉強」と同程度の重要度にしている点だろう。遊びに対しては、家にこもったままでは得られ難かった“同年代”とのコミュニケーションを。そしてトレーニングに対しては、一般的な数学などの勉強では学びきれないスキルの習得を目指すという意味で、3 本の樹が同サイズで揃うように考えられている。

そんな樹を中心に、子どもたちが楽しめることを最重要課題として念頭に置いた、スキップフロア式のスクールとする。

5-2. 計画敷地

計画敷地は鴨川のほとりにある、京都府立医科大学体育館のテニスコートとその周辺の敷地である。

この敷地を選定した理由としては、3 点ほど挙げられる。

まず、前述した京都府立医科大学を始め、京都大学や同志社大学、京都精華学園中学・高校などの、学校が数多く集まっているエリアであること。そして、鴨川とその河川敷という自然環境が、敷地の目の前に広がっていること。最後に、京阪出町柳駅から徒歩圏内という利便性。これらの好条件が揃った敷地であったため、今回はこの場所に計画する。

6. 参考文献

［1］特定非営利活動法人 学びスペースあうるの森（2021），不登校宣言　フリースクール「あうるの森」の子どもたち，新潟日報事業社

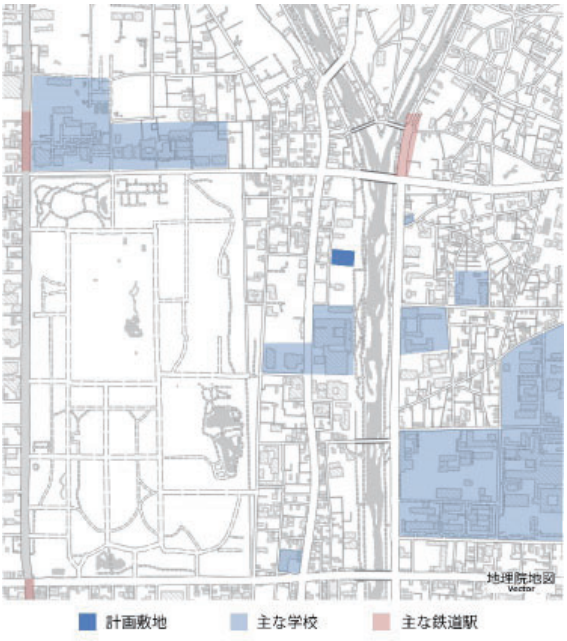
［2］阿部泰尚（2020），いじめを本気でなくすには，KADOKAWA

［3］文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課（2021），令和２年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要，文部科学省

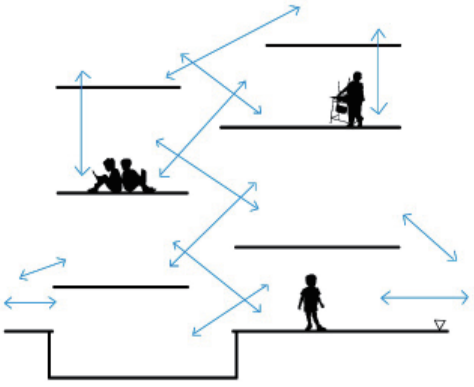
［4］文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課（2022），令和３年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について，文部科学省

［5］ロリ・アーンスパーガー，奥田健次，冬崎友理（2021），いじめ防止の３Ｒ すべての子どもへのいじめの予防と対処，学苑社

［6］雨宮処凛（2021），学校、行かなきゃいけないの？　これからの不登校ガイド，河出書房新社



敷地周辺の状況



ダイアグラム　-スキップフロア-

日の目を昇る

学籍番号　k19279
名　　前　髙井　佑真
指導教員　人見　将敏

Ascend to daylight

K19279
Yuma Takai
Masatoshi Hitomi

1 はじめに（計画の背景）

私が卒業制作のテーマを劇場に設定した理由は、若い世代の演劇離れを受け、生で観劇することに価値を感じる劇場を設計したいと考えたためである。現状、私たちのような若い世代にとって、舞台やミュージカルは、エンターテインメントの中でライブや映画鑑賞に比べて敷居が高いコンテンツと位置付けられているように感じる。

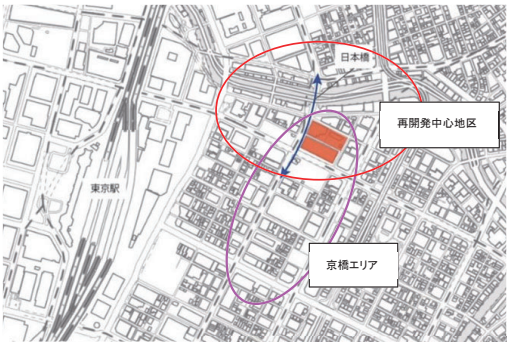
コロナ禍においてオンライン配信が発展、一般化し、誰もが手軽に舞台やミュージカルを観劇できるようになった。このことは大きな転機であるが、その反面で、劇場に足を運ぶ価値が希薄になり、クラシックな演劇から遠のいてしまうという、マイナスな変化ももたらした。

そこで私は本制作のテーマを劇場に設定し、舞台のとっつきにくさを解消する劇場の仕組みと、足を運ぶこと自体に価値を感じることができるような劇場建築を計画することとした。

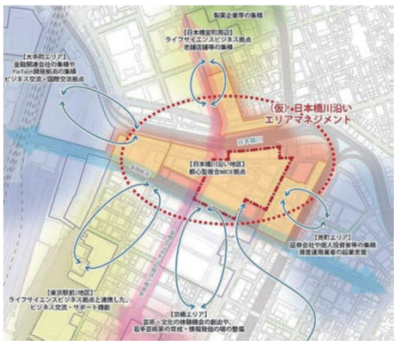
2 敷地について（日本橋再開発に伴う芸術・文化発信地域の整備）



日本橋麒麟像



赤で塗ってある箇所が計画敷地
京橋エリアと再開発中心地区の境目に位置する



「日本橋川沿いエリアのまちづくりビジョン 2017」によって振り分けられた各エリアの特色と分布

日本橋エリア（東京都中央区）は、2040 年にかけて行われる首都高地下化事業とともに、日本橋川周辺の 5 地区での再開発、オフィスビルや複合施設の建設に向けた動きが進んでいる。中央区により策定された「日本橋川沿いエリアのまちづくりビジョン 2017」に基づき、周辺 5 地区が連携し、国際金融・業務拠点や日本橋の水辺景観と歩行者ネットワークの整備などの日本橋川沿いのまちづくりに取り組むとされており、歴史・文化と最先端都市機能が共存するエリアに生まれ変わる。

中でも、京橋エリアは芸術、文化の体験機会の創出や、若手芸術家の育成、情報発信の場の整備を地域の特徴として、再開発計画が行われている。そこで本計画では、日本橋再開発に伴い京橋エリアを敷地として設定し、新しい劇場を設計する。





3 計画内容

日本のスタート地点日本橋。いつか日の目を見ることを夢見る若者が、表現やクリエイティブに取り組むことができるように。
気軽に利用できるレンタルアトリエやパソコン作業に便利なロビー、制作した動画を試写することのできるミニシアター等、クリエイティブな空間が広がる。この場所で夢見た若者が、輝くその日まで、憧れの劇場で在り続けよう。
本計画では、若者の劇場離れを解決しながら、表現に関わる全ての人の夢を叶える場所としての役割を果たすことができたらと、自由な表現の場所を随所に配置した。

所在地：東京都中央区日本橋１丁目４-１
主な用途：劇場
敷地面積：11,264 ㎡
建築面積：10,000 m²
延床面積：10,000 m²
キーワード：劇場・都市開発・アプローチ

Location : 1-4-1,tokyo,nihonbashi
Main Use : Theater
Site Area :11,264 m²
Building Floor Area : 10,000 m²
Total Floor Area : 10,000 m²
Keywords : theater,urbandevelopment,approach

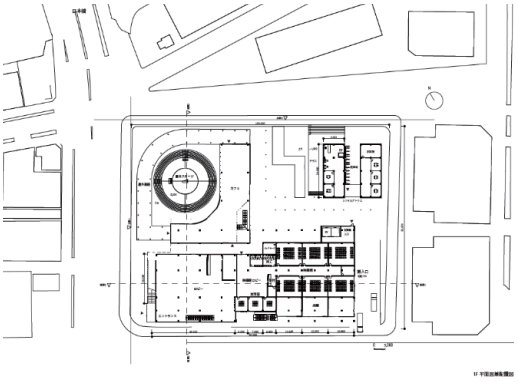


図１1 階平面図兼配置図



図２日本橋から歩いた先に見えるパース



図３屋外の円形ステージ

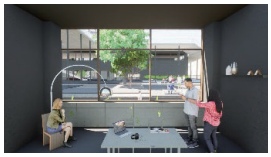


図４アトリエスペース



図５北側屋外スペース

「表現の原体験を」という考えを基に、公共に開けた１階部分は屋外ステージやアトリエ、映像を放映できる試写室を備えた。

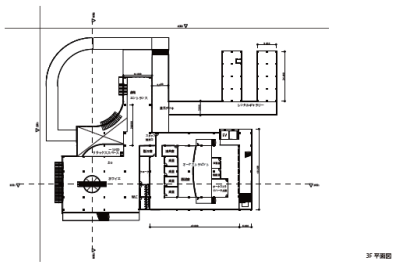


図６　３階平面図



図７ ルーフトップバー



図８３階ホワイエ吹き抜け部分

ホワイエのボリュームを大きく取り、開演前、閉演後もゆっくりと過ごすことができるソファ席やルーフトップバーを備えた。

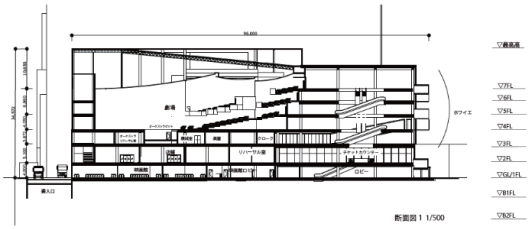


図９ 断面図

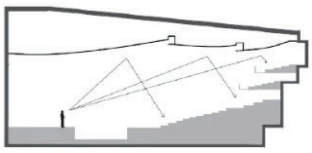


図１０ 音の反響について

天井を波型に重ねることで、音の反響を有効に。



劇場内椅子のデザイン



本計画では、劇場の椅子デザインも検討した。人体寸法に基づき観劇時の座り心地の良い椅子をデザインした。また、従来の手荷物を前の座席に立てかけるというストレスも軽減するべく、座席下収納を設け、機能的なものとした。

参考文献

新建築データ：https://data.shinkenchiku.online/articles/SK_1991_01_259-0　日本橋エリアの再開発計画：https://best-tokyo.com/office/article/redevelopment_nihonbashi

吉井澄雄「劇場の変遷」：https://www.jstage.jst.go.jp/article/ieiej/27/1/27_3/_pdf/-char/ja

シン・ゲシュク

学籍番号　K19280
名　　前　高木玲奈
指導教員　小梶吉隆

Sin・Gesyuku

Student Number　K19280
Name　Rena Takagi
Supervisor Yoshitaka Kokaji

背景と目的

大学生はコロナ禍でオンライン授業が普及し、自分の時間が増えたなど様々なメリットが生まれたと感じる半面、外に出ることが減り対面で人と会話をすることが減った、新しい友人ができにくくなったなどのデメリットも生じていると感じている。その中で学生の交流の場となる一つが、学生寮や下宿などの共同住宅施設だと考える。だが近年学生寮や下宿といった形態の共同住宅施設は減り、学生マンションが多く計画されている。

学生寮についてあげられるデメリットを補いつつも、学生寮ならではの施設の個性を活かしつつ、オンライン化が進む現代での新しいコミュニティ形成の場として、また、より快適な学生生活を送るための新しい形態の【ゲシュク】を計画し、学生の街と呼ばれる京都に新しい風を吹かせることを目的とする。

計画敷地

京都市京都府伏見区深草殷稲荷鳥鳥居前

一人暮らしをする学生が特に多い京都の中でも周辺に駅やバス停が多いため交通の便が良く、また伏見稲荷大社が近くにあるなど、京都らしさを身近に感じることのできる敷地を選定した。



周辺には警察学校、小学校、大学、幼稚園が徒歩圏内にあるが、その他は主に住宅街となっており、西側に二車線道路と東側に小さな路地とに囲まれている。大学が多い京都だが、学生寮や学生マンションなどが選定敷地周辺にはないため、新しい取り組みとし計画を行う。

計画内容

１，基本計画

今回計画する【ゲシュク】の目指すべき姿として、寮母さんや管理人さんのような世話や管理をする人が常駐している、「学生寮と下宿の中間のような施設」であること、「個人部分と共用部とを計画」またエリア分けを明確に行い、用途別にいくつか計画すること、最後に「暮らしの幅が広がるような仕組みを計画する」一つの建物内で様々な活動が行え、暮らし方の選択ができる仕組みを計画する。などを挙げ計画を行っている。現時点での【ゲシュク】の計画方針では、６人１グループとし、中庭を挟んだ各グループでの共有のリビングを中心とした。グループでの共同生活をメインとし、近くに誰かがいるという安心感、困ったときに気軽に相談し助け合える距離感で生活が送れるような空間を計画した。また、共同生活を行う環境でありながらもそれぞれのプライバシーが守られる空間も計画を行った。



建物外観は、昔ながらの細長い長屋が立ち並ぶ伏

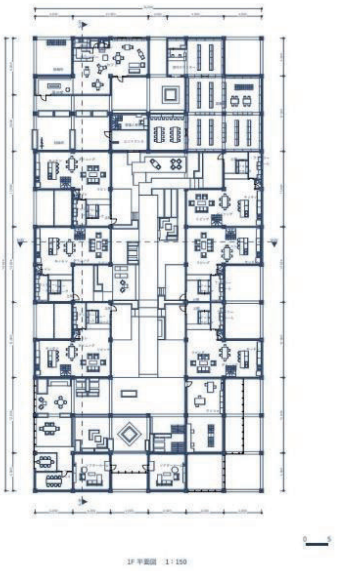
所在地：京都市伏見区深草稲荷鳥居前町 22-13
主な用途：寮
敷地面積：3,600m²
建築面積：2,700 ㎡
延床面積：2,794.24 ㎡
キーワード：共同住宅、学生寮、下宿

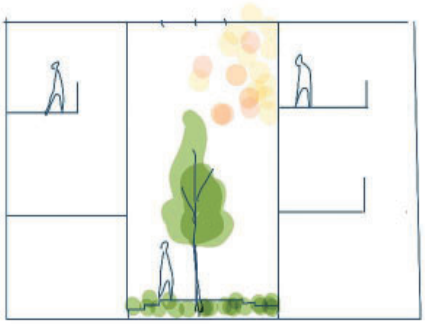
Location : 22-13,Fukakusa,Fushimi-ku,Kyoto
Main Use : dormitory
Site Area : 3,600 m²
Building Floor Area : 2,700 ㎡
Total Floor Area :2,794.24 ㎡
Keywords : Communal housing, student dormitories, boarding houses

見の街をイメージしながら、住宅街の多い伏見の街並みになじむように一部分をへこませるなどの。でこぼことした圧迫感を与えない外観を計画。

２．配置について

中央の中庭を囲むように四方に建物を配置し、中央中庭上部と共用部の一部吹き抜け空間の上部の屋根を可動式のガラス屋根とした。共用エリアには極力壁を設けずカーテンウォールや天窓を採用することで半屋外のような空間とするとともに、住居部分に関しても吹き抜けなどを利用し上下のつながりを持たせ、他の誰かのけはいを身近に感じられるよう画とした。このため、天候に左右されずにいつでも住居スペースから出れば外にいるかのような開放感を感じられ、また、可動式のため換気なども積極的に行うことができる。





３．ゲシュクで出来る１５こと

ゲシュクの建物内のそれぞれの空間で出来る１５のことを挙げ、それらにそって空間計画を行った、音楽、映像鑑賞、話し合い、植物とのふれあいなど様々な活動を好きな時に比較的自由な場所で行える計画となっている。また個人での活動のみでなく、共用部に配置されたカフェや学童塾では、学生が中心となって活動・運営を行う計画とした。





１．　映像を見る
２．　集中する
３．　何かを作る
４．　本と出会う
５．　休憩する
６．　外みたいにのびのびと
７．　身体を動かす
８．　みんなでにぎやか
９．　話し合い
１０．　音楽をする
１１．　植物に触れる
１２．　様々な人とのふれあい
１３．　食べる
１４．　働く
１５．　作品を見る

自分で居場所を選択し、活動を行いくらしてゆける学生寮とした。

真宗本堂の研究と計画

学籍番号　K19281
名前　高野晃寛
指導教員　大上直樹　特任教授

近世社寺　浄土真宗　攝護寺

本堂　細部意匠

1. 研究目的

本研究は、宮崎県都城市に現存する浄土真宗本願寺派攝護寺の設計を試みるものである。

研究主旨は、真宗本堂をこの研究を通して明らかにし地元の有力な浄土真宗寺院の「攝護寺」の設計を試みることである。

2. 研究内容

宮崎県都城市の社寺建築の特異性、歴史的背景を「近世社寺建築報告書」を基に研究し把握する。「近世社寺建築報告書」を基に九州各県（佐賀県、鹿児島県除く）と宮崎県社寺建築の細部意匠などを比較し宮崎県社寺建築の特異性を明らかにする。「近世社寺建築報告書」だけでは不明である部分について現地に赴き調査を実施する。「攝護寺」にヒアリングを行い現代に生きる真宗本堂の在り方を知る。以上の研究を基に「攝護寺」を新たに計画及び設計を行う。

3. 宮崎県都城市について

私の地元である都城市は宮崎県の西南に位置しており、宮崎市に次ぐ、県内第 2 の人口を有する主要都市である。都城市は鹿児島県に隣接しておりかつて薩摩藩領であったため鹿児島県弁に極めて近い諸県弁を話すなど薩摩の文化を色濃く残している。宮崎県都城市は江戸時代旧薩摩藩領であったことから明治初頭まで念仏禁制の地であった。



図一宮崎県市町村



図二各藩分布略図

4 攝護寺

宮崎県都城市牟田町 2-16 に位置し明治 16 年（1883 年）に天竜山攝護寺の寺号を称認した。

旧薩摩藩領内では一村一寺、浄土真宗寺が建てられ旧都城地区に建てられたお寺が「攝護寺」である。

本堂は昭和 20 年（1945 年）都城大空襲により全焼した。昭和 31 年（1956 年）本堂が再建された。しかし耐震性の問題があり都城大空襲により焼失した昔の本堂の姿を元に総木造にて再建する大改築事業が行われた。



攝護寺本堂

5　近世社寺

5-1　宮崎県

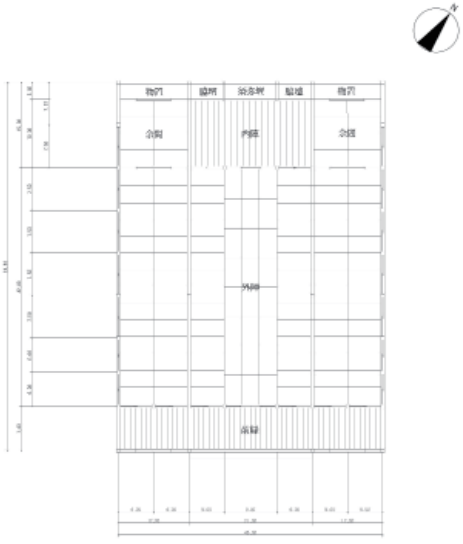
他地方で少ないと思われる特徴は神社建築の細部にみられる。特に向拝の雲竜柱や脇障子の神像彫刻は鹿児島を除く他県ではほとんどみられない。国富町では寺院本堂内陣にも用いられる。

向拝柱に龍を作り出すものがある。その手法に２種類あって、旧延岡藩領内では、角柱を見せながら細井龍のみを絡ませるが旧島津藩と幕府領内では、足元の約 1 尺程を八角柱にし、龍を造り出し、胴の間を埋めるように瑞雲、黒口神社本殿（高千穂町）中畑神社本殿(高千穂町)をまた水引虹梁にも瑞雲を造りだす、兼喜神社本殿（都城市）東霧島神社本殿（高崎町）豪華さを示している。

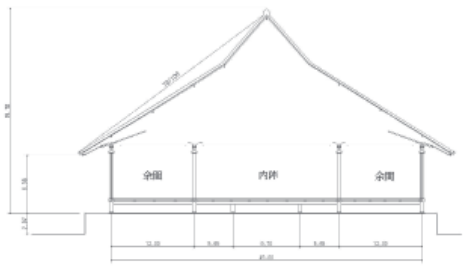
6.真宗本堂計画

九州各県の「近世社寺建築報告書」を基に約9割浄土真宗の伝統的な様式を踏襲した平面であったため、平面計画は本尊となる阿弥陀如来像を「内陣」の須弥壇に安置し、脇仏壇に親鸞、高僧を祀り、「余間」の仏壇に聖徳太子、七高僧などを祀るようになり「外陣」「余間」で成立させる。屋根形式は宮崎県で最も多かった入母屋造にし屋根部材は茅葺を採用した。

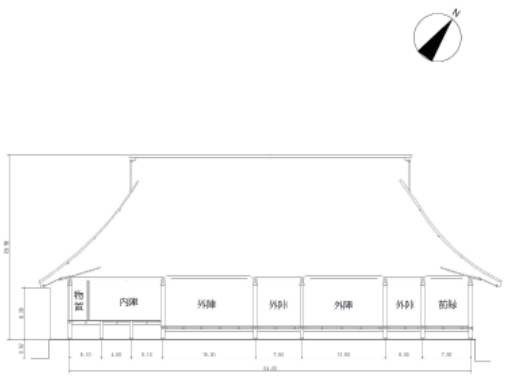
敷地　　宮崎県都城市牟田町2-16
敷地面積　13,10.04㎡　　軒高　　2.56m
建築面積　996.7㎡　　最高高　　9m
延べ面積　883.6㎡　　柱　　角柱　5.5寸
容積率　　67.4%
建蔽率　　76.04%



平面図　1/50

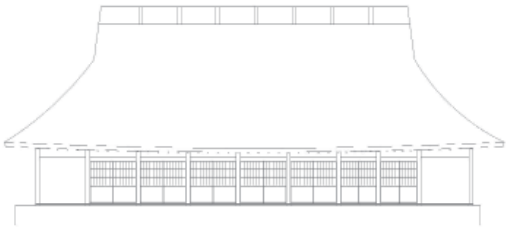


梁行断面図　1/50



桁行断面図　1/50


梁行立面図　1/50


桁行立面図　1/50

○参考文献
宮崎県教育委員会
:『宮崎県教育委員会近世社寺建築緊急調査報告書』宮崎県教育委員会,1981年

創りながら商店街
―大津市長等商店街再生計画―

学籍番号 K19283
名　　前 竹島　遥奈
指導教員 森重幸子 教授

Shopping street with creation

Student Number　K19283
Name　TAKESHIMA Haruna
Supervisor　Professor MORISHIGE Sachiko

1.　計画背景

商店街の衰退化は今や全国のほとんどの商店街が抱える問題であるといえる。郊外型ショッピングセンターの登場やインターネットの普及による消費者の変化もあり、全国的に見た商店街の空き店舗率は増加し続けている。そんな中、いくつかの商店街はその魅力をそれぞれの形で発信し、元の活気のある商店街へと奮闘し実際に成功している例もあるのは事実である。しかし、たとえ一度成功してもまた十数年後には後継者問題なども増え、再びシャッター商店街と化してしまうのではないかと危機感を覚えた。

2.　敷地

2-1.対象敷地と特徴

滋賀県大津市長等 2 丁目の長等商店街



図 1　敷地案内図

連続する 3 つの商店街の内のひとつであり、3 つの中では JR 大津駅からは最も遠い西側に位置している。敷地は、大津城の堀の跡地で、周辺には琵琶湖と琵琶湖疎水が流れる豊かな水辺環境にある。また、かつては大津百町と呼ばれ、活気あふれる街であった。

2-3.現状

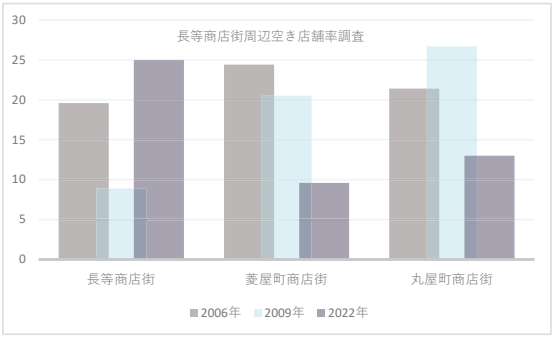


図 2　周辺の商店街と比較した長等商店街の空き店舗数調査

平成 28 年度に大津市が出した、長等商店街周辺の 10 の商店街を対象にした空き店舗率のデータによると、全体の空き店舗率は平成 18 年度で 13.2%、平成 21 年度で 13.9%なのに対し、長等商店街では平成 18 年度で 19.2%、平成 21 年度で 8.9%に下がるも、現在 25%にまで増加していた。隣接する 2 つの商店街と比較すると、長等商店街の空き店舗が著しく増加していることが分かる。



図 3　配置図兼 1 階平面図

所在地：滋賀県大津市長等２丁目
主な用途：店舗・広場
敷地面積：―
建築面積：12 棟：50 ㎡~125 ㎡　合計 670 ㎡
延床面積：12 棟：50 ㎡~125 ㎡　合計 670 ㎡
キーワード：商店街・地域・コミュニティ・まちづくり

Location : 2,Nagara,Otsu-shi,Shiga
Main Use : Shop・Park
Site Area : ―
Building Floor Area : 12 buildings: 50 ㎡~125 ㎡　Total 670 ㎡
Total Floor Area : 12 buildings: 50 ㎡~125 ㎡　Total 670 ㎡
Keywords : Shopping street/Community/Town development

3.計画概要

3-1.全体計画

急激な衰退が進む長等商店街はいま、店舗を入れ替えたリニューアルやイベントの開催を実施しても、一時的な集客しか見込めないと考えた。さらに敷地調査から、商店街の利用者の多くは常連であり、かつて商店街の主軸であった、地域の経済を支える場所から地域のコミュニティの場へと変化している。ショッピングセンターなどの大型店やインターネットと共存が求められる中、商店街特有の強みを生かし、地域のコミュニティの場をメインの目的に、“つくる”をコンセプトに、多様なコミュニケーションが生まれる商店街を目指し計画した。

3-2.空き店舗の活用

11 カ所のシャッター店舗敷地に、新たに 9 棟の店舗を計画した。コミュニティの場に特化した場所として子供の遊び場、ものづくり教室などを設置した。また現在商店街は、始めて訪れる人が利用しにくいということから、アンテナショップや案内所を設け、その土地のことを知れる場を設置した。大小さまざまな広場を商店街全体に散りばめて配置し、商店街全体を公園のように誰でも気軽に利用される場を目指した。

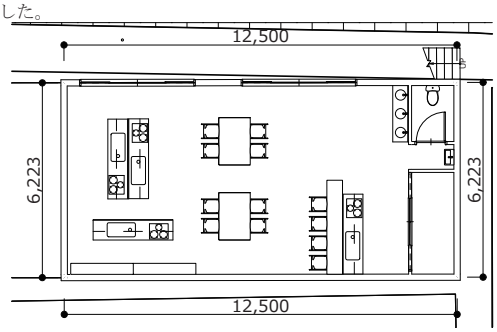


図 4　キッチンスタジオ平面図

今回新しく計画する店舗は全て新築平屋建てとし、商店街内に新たな空間をつくる。平屋建てとなった店舗の屋上は一部、屋上広場として活用する。また、それらに隣接する建物の壁は新たに補修し、自由に利用できるキャンバスになる。描きこむたびに新しい商店街の姿が浮かび上がる。



図 5　隣接する壁の活用を表現したパース

3-3.アーケード

敷地の水辺の環境であることから、水面に波紋が広がるイメージで計画した。スラブを支える複数の柱は、雨をイメージしている。スラブは円状とし、光や風が直接アーケード下に入るようにした。

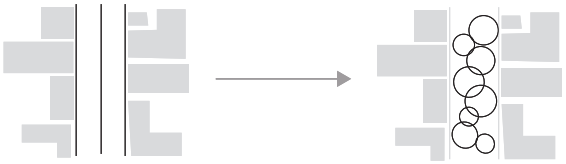


図 6　アーケードのダイアグラム

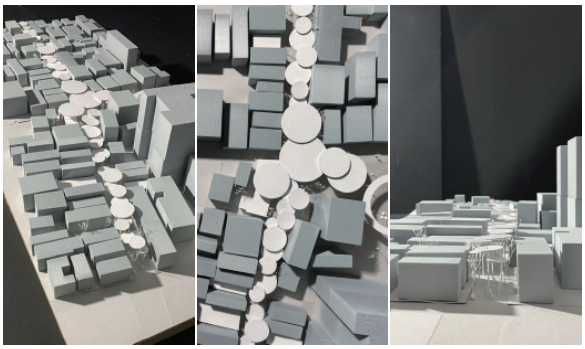


図 7　アーケード模型写真

3-4.広場

今までの商店街は、多くの人にとって単なる通り道であり、とどまるための場所である認識は少ないと考える。そこで、商店街に面してポケットパークをいくつか設け、とどまる場所をつくり、理由がなくても足を運びたくなる場所を目指す。広場は、それぞれ形や大きさを変えて配置し、利用者の用途に合わせて、商店街の中でさまざまな空間を味わえるように計画した。



図 8　広場パース

参考文献

大津市中心市街地活性化基本計画

住宅における自動ドアの導入に関する研究

学籍番号　k 19284
名　　前　武田優人
指導教員　江本弘

自動ドア　バリアフリー　住宅
玄関ドア　統計　安全性

1.本研究の目的

日本は高齢化社会に基づいて、ユニバーサルデザインが重視されてきている。これは変化してきた要素である。手すりや多機能トイレ、センサー式蛇口などの多くのユニバーサルデザインが建築に採用されてきている中で、住宅の玄関ドアに自動ドアがなぜ採用されないのか。その疑問を明かしていく必要がこれからの日本にはいると思った。自動ドアはユニバーサルデザインとしての能力が最も高い建築設備の一つだと感じているが、それが住宅ではほとんど見ないのには理由が存在していると思われる。自動ドアがなぜ住宅に採用されないのか、住宅に採用されるためにはどうすればいいのか、自動ドアが引き起こす事故はどのように防ぐべきかを明らかにすることを目的とする。

1-1　研究方法

今回の研究の方法について、自動ドアの統計、住宅における統計、バリアフリーにおける統計の3つの統計データをまとめる。また、公共施設等と住宅を危険性、費用、利便性の三つの要素を比較、検討したうえで現在の日本人が玄関ドアに対してどのようなものを求めているのかを明らかにする。

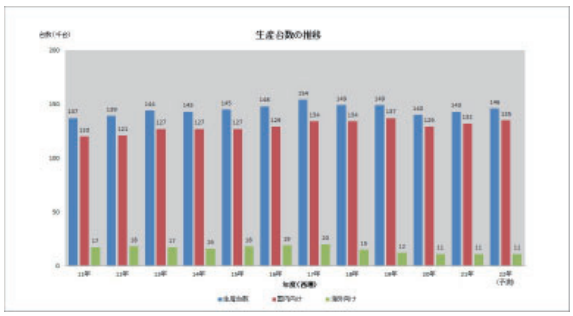
2.自動ドアの主な用途

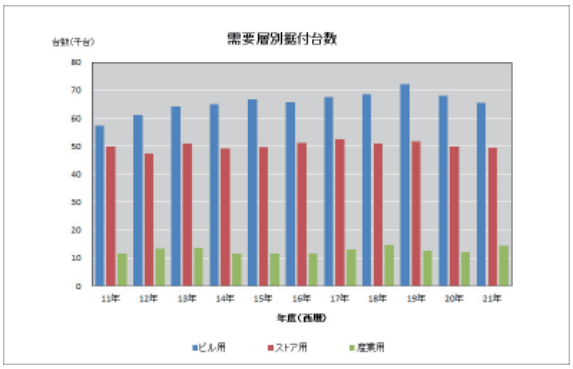
自動ドアの据付台数は2011年度から2021年度にかけて約128,600台である。据付台数の推移の推移は増加傾向にあると言える。2011年から2019年の期間において減少する年も見られるが、比較的増加傾向にあると言える。

伸び率は、増加、減少とともに±10%を超えることは無く、大きく振れ幅が生じることはない。

据付台数の需要層別据付台数は主にビル用がメインとして約65,000台数と全体の約半分を占めている。一定数のキープが見られる。

（図1　生産台数の推移(JADA全国自動ドア協会より)





（図2　需要層別据付台数(JADA全国自動ドア協会より)

自動ドアにおいて、2011年から2021年の十年間を見たときに、生産台数は均衡傾向である。しかし、海外での需要は減少傾向にある。

（図3　生産台数の推移(JADA全国自動ドア協会より)

3.住宅用自動ドアの施工事例



（図3　株式会社アイ・エス・ティ「かいへい君5」https://kaiheikun.com/ ）

こちらは開き戸の自動ドアである。後付け工事が可能である為、既存のドアを再利用することが可能である。また、金額面でもドア本体の費用がかからないため、安く抑えることができる。

ドア形式　　開き戸
費用　　約256,000円
電気代　月間約0.38円
鍵システム　リモコンキー、カードキー、タッチパ

1

ネル式
施工費用　　約30,000円
メンテナンス　基本的無し
機能性　　家庭用コンセント使用可
　　既存ドア再利用可
　　後付け可能

4.自動ドアにおける事故被害

自動ドアを住宅に採用するにあたって気を付けないといけないのは自動ドアによる被害だと考えられる。消費者庁の調査報告によると、自動ドアにおける事故の被害の多くは軽傷にとどまることも多いが、重症に至るケースも何件か発生している。自動ドアの事故については、利用者の注意によって回避することは可能だが、色々な自動ドアによって異なることがある。また、自動ドアの事故において、高齢者や幼児などユニバーサルデザインやバリアフリーが最も適応されなければならない人たちによる被害が多く、そこに対する配慮も必要になってくると考えられる。。

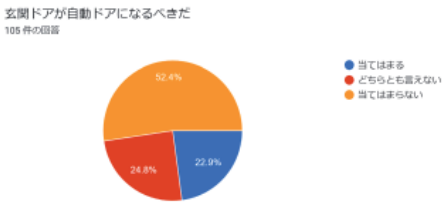
人的要因別事故を見ていくと、「駆け込み」が25%、「斜め進入」が19%、「立ち止まり」が12%となっている。これらは利用者の意識不足、また、アクションなくドアが開閉される事が、事故が起きている主な要因であると考えられる。

次に機械的要因を見ていく。機械的要因とは「センサー検出範囲不備」や「センサー故障・劣化」などの利用者関係なく機械における不備や設計の際の不備により起きる要因のことを指す。

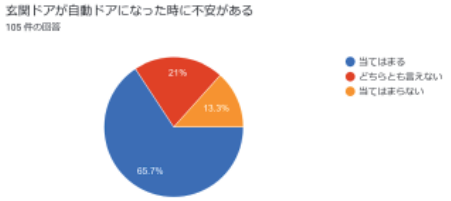
「検知範囲」が32%と自動ドア本体における技術的要因が主な事故として起きている。また、「センサー起因」が27%、「駆動系起因」が7%、「異物起因」が2%と約40%の割合でメンテナンス不足による事故が起きている。また、「自動ドア設計」が10%、「設置」が7%、「建物設計」が6%と約20%の割合で設計や施工の不備による事故が起きている。

5. ヒアリング調査の結果

今回のヒアリング調査において15歳～91歳の105名を対象に住宅のことに対して質問をとることにした。方法として、Googleフォームでの調査と紙媒体のアンケート用紙を用いた街頭調査をメインに行った。



(図4　「玄関ドアが自動ドアになるべきだ」の結果)



(図5　「玄関ドアが自動ドアになった時に不安がある」の集計結果)

つまり、住宅には不満を感じる人は多くいるが、その要素として玄関ドアに不満を感じる人は少ない。また、自宅の玄関ドアが自動ドアになった際のメリットは、自動ドアにおけるリスクを上回っていないと言うことが考えられる。そのことから、住宅において自動ドアの需要は現在の時点では高くないということが考えられる。

6.比較検討結果

危険性、費用、利便性を比較した結果、住宅用自動ドアの需要の懸念点は限定的な利便性と費用であることが分かった。危険性は公共施設等と比較しても安全であると言える。なぜなら、解錠による開閉が基本だからだ。

費用面に関しては少し金額が手動ドアと比較しても高く感じられる。そこが懸念点だと感じられる。

利便性に関しては、住宅では限定的な場面でしか活きることがなく、利便性があると言えないだろう。

7. まとめ

自動ドアを住宅に普及させる為の大きなポイントは将来性、利便性、プライバシー性だろう。これらは公共施設などには見られない住宅特有の要素であると考えられる。その三つの要素を高めていかないと自動ドアの住宅における需要は上がらず、普及しないと考えられる。

8.参考文献

1. 全国自動ドア教会．”統計資料”．JADA全国自動ドア教会．2022-12-15．http://jada-info.jp/tokei_siryo/index.html，（参照2023-1-10）
2. 消費者安全調査委員会．”消費者安全法第23条第１項の規定に基づく 事故等原因調査報告書”.消費者庁．2021-6，（参照2022-12-23）
3. 酒井将之．”自動ドアの設置費用・修理費用は？自宅に自動ドアを設置する場合は？”. システムクリエーション．2021-3．https://autodoor.jp/column/autodoor-hiyou/，（参照2023-1-15）
4. 小泉剛．”玄関ドア用電動アシストオープナーDOAC（ドアック）”．SONY．2020-7-7．https://sony-startup-acceleration-program.com/highlights/2020/02.html，（参照2022-12-25）
5. 中村貴．”玄関ドアリフォーム交換費用の相場【事例あり】”．玄関ドアリフォームの玄関ドアマイスター．https://nakamura-genkan.com/cost，（参照2023-1-7）
6. LIXIL．”玄関引戸|エルムーブ2・エルムーブ2防火戸”．LIXIL https://www.lixil.co.jp/lineup/entrance/lmove/，（参照2023-1-3）
7. LIXIL．”DOAC（ドアック）｜電動オープナーシステム”．DOAC．https://www.lixil.co.jp/lineup/entrance/doac/，（参照2023-12-25）
8. 株式会社アイ・エス・ティ.”後付け自動ドア「かいへい君」”.株式会社アイ・エス・ティ．2017-9-22．https://kaiheikun.com/，（参照2022-12-24）
9. 八木幹夫．”株式会社ファースト・レイズ会社概要”．株式会社ファーストレイズ．https://first-rays.com/，（参照2023-1-17）
10. 株式会社ハシダ技研工業株式会社．”住宅用玄関自動ドア RainbowAutoDoor - ハシダ技研工業”．株式会社ハシダ技研工業株式会社 http://hashida-giken.co.jp/autodoor/，（参照2022-12-29）

助け合い、育てていく

学籍番号　k19285
名　　前　竹村芳
指導教員　森重幸子

Help each other and nutrture

Student Number　k19285
Name　TAKEMURA Kaori
Supervisor　MORISIGE Sachiko

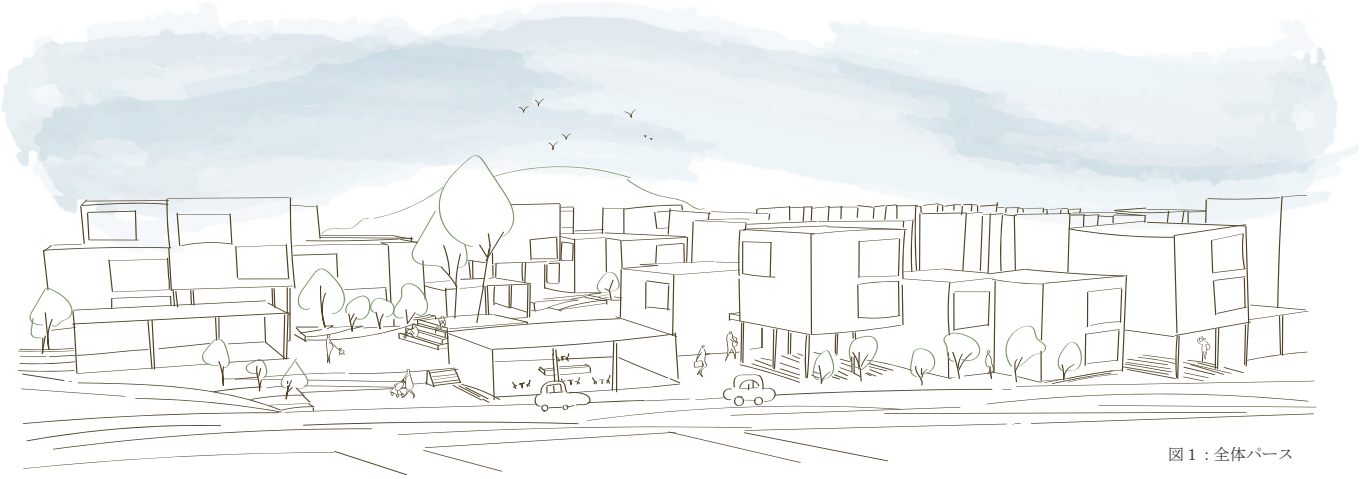


図１：全体パース

1. 背景と目的

少子高齢化が加速する現代では、出生率を増加させ回復させることが重要である。私は、子どもを育てやすいまちをつくり子育てに夢を持ってもらうことで少子高齢化が少しでも軽減されるのではないかと考える。本計画では、安心して産み育てられ、子どもたちが健やかに成長できる集合住宅を提案し、子育てをしている人、これから子どもを授かる人、子育てに自信がない人々の助けになればと考えている。また、子育てに無関心な人々にも興味を持ってもらい社会全体で子育てを応援するきっかけの場になればと考えている。

2. 敷地の選定

奈良県奈良市の松陽台にある敷地を選定した。敷地内には市営住宅が建っており、今回は敷地の西側の３棟を建て替える。（図１：敷地図）

敷地調査を行ったところ、南側にある公園は草が延びており子どもたちが遊んでいる様子は無かった。敷地に面している道路は、人はほとんど歩いていないが車の交通量は多い。敷地周辺は住宅が多いためとても静かな場所である。以上から人々が集まれる空間を取り入れ、人の気配が感じられ子どもたちが安心して過ごせる計画を考える。



図２：敷地図

3. プログラム

誰の助けも借りずに家族だけで子育てをすることは非常に難しい。子育てするにあたって必要となる生活を住民同士や住民と地域の人々で共有して助け合っていくことで、より子育てを充実させられ我が子とも向き合える時間をつくることができるだろう。そこで、子育てに配慮した住宅・住環境ガイドラインを参考に必要となる生活行為を考えた。（図２：子育てをするにあたって必要となる生活行為）



図３：子育てをするにあたって必要となる生活行為

これらの生活行為を「住民同士だけで共用することができる生活行為」と「住民同士に加えて地域の人々も共用することができる生活行為」の２つパターンに分けて共用していく空間を計画する。

4. 設計計画

「住民×住民」の共用空間は建物が重なった部分に配置する。１～４世帯を平面的、立体的に重ねた部分に配置させる。（図４：ダイアグラム１）

所在地：奈良県奈良市松陽台１丁目
主な用途：集合住宅
敷地面積：12000m^2
建築面積：3511.88m^2
延床面積：8325m^2
キーワード：子育て・共用空間

Location : 1,Syoyodai,Nara-City,Nara
Main Use : Housing Complex
Site Area : 12000m^2
Building Floor Area : 3511.88m^2
Total Floor Area : 8325m^2
Keywords : Child,Shared Space

建物同士を重ねた目的は、「住民×住民」の共用空間の親密性の高さを表現している。住民間の距離を建物間の距離に反映させて考えた。

「住民×住民＋地域の人々」の共用空間はダイアグラム１の組み合わせを敷地内にまばらに配置させ、できた隙間の空間に計画していく。（図５：ダイアグラム２）

「住民×住民」と同様、「住民×住民＋地域の人々」の共用空間も親密性と関連させて計画している。住民間に比べると地域の人々との繋がりは薄いため、建物同士を離して配置させることで緩やかに住民との距離を遠ざけている。完全に関係を断ち切らないように住民の動線部分には交わるようにして配置する。

4-1. 配置計画

住居部分をプライベートな空間とし、敷地の３つの角にプライベート空間を配置していく。その間を縫うように公共施設などのパブリック空間を配置していく。（図６：ダイアグラム３）

また、1m ずつ土地の高さを変えながら敷地を南北に３分割し、１段目と３段目にプライベート空間、２段目にパブリック空間を配置させる。（図７：配置図兼１階平面図）

プライベート空間は中庭を設け、中庭を囲うようにして集合住宅２棟を配置させる。パブリック空間は大広場を設け、周辺に公共施設を配置させる。

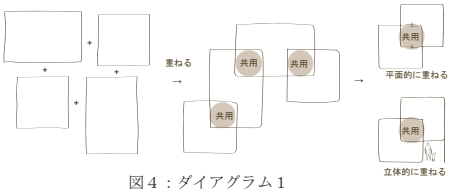


図４：ダイアグラム１

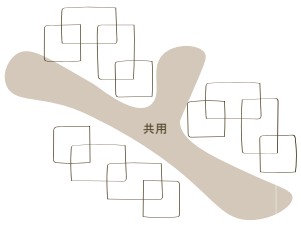


図５：ダイアグラム２

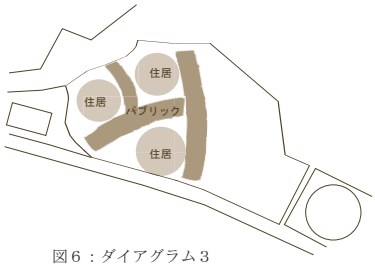


図６：ダイアグラム３

4-2. 平面計画

今回提案する集合住宅は、妊婦さんや思春期前の子どもを子育てしている家族を対象に考えていく。

住居の平面計画は、間仕切りをできるだけ無くしてワンフロア型にする。そうすることで普段の生活でも子どもにすぐ目が届くようになり子育てしやすくなる。また、間仕切りがないことで子どもの成長に合わせた可変性を確保することができる。

他に、「住民×住民」の共用空間に繋がる土間を設ける。共有空間と住居の間に引き戸を設け、共有空間を使用するときに引き戸を開けることで住居にある土間が全て繋がるようにする。

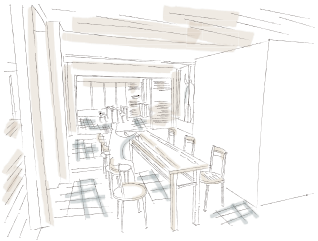


図８：共用休憩所のパース

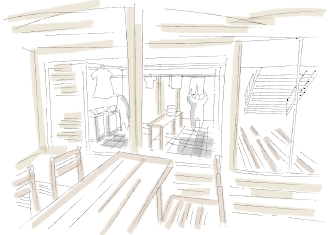


図９：共用洗濯場のパース

公共施設の平面計画は、住居同様間仕切りを設けず床高を一部変えて空間を区切る。目的としては、将来性を考えどのような用途でも対応していくことができる施設とするためである。


図７：配置図兼１階平面図

橋本遊郭の空き家改修

学籍番号 k19286
名　　前　　多々良風太
指導教員　　江本弘

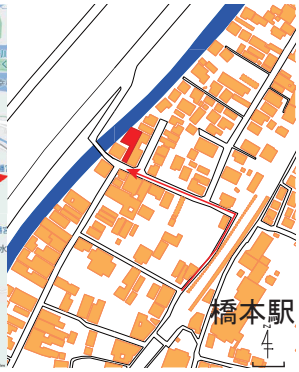
Renovation of a Hotel in Red Light District Hasimoto Kyoto

Student Number K19286
Name Futa Tatara
Supervisor Hirosi Emoto

1 初めに

現在日本では使われていない建物が増加していてその結果建築ストックが余ってしまっていることが課題となっています。日本では今後人口が減少していくためこれからもこの状態は続いていくと考えられます。私はこの建築ストック問題について、多くの建物が使われていない状態を改善したいと考えています。そこで空き家バンクに登録されている建物を改修し有効活用することで建築ストック問題の解決の一助になるようにしたいなと考えている。本計画では「橋本遊郭の大横綱」と呼ばれる建物の調査及び、改修計画の提案をしていく。

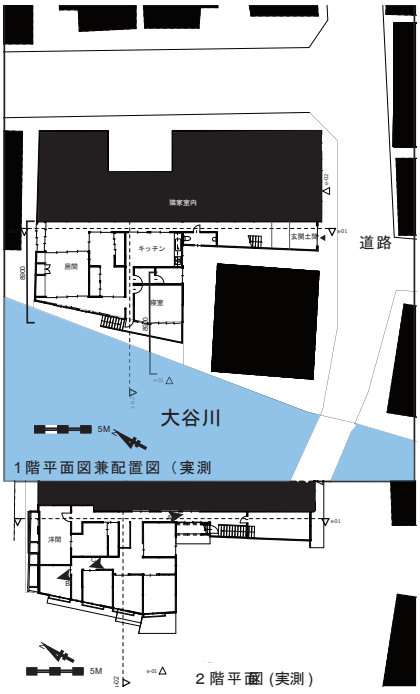




2 橋本遊郭の大横綱の調査

2-1 橋本遊郭の大横綱の現状

「橋本遊郭の大横綱」は京阪橋本駅から徒歩 3 分の場所に位置し、橋本は京都と大阪の境に位置し大阪と京都双方から車を使わずにアクセスできる場所となっている。また大谷川と 3 つの川に沿った場所に立地し川側に開けた場所となっていることに加え木津川沿いはサイクリングロードとなっている。また西側には男山に囲まれていてその向こう側には石清水八幡宮があり自然を楽しみやすい場所となっている。駅前には空き地が目立つが再開発の計画が立っている。加えて神名高速道路の開通によって今後は遠方からのアクセスも見込める



2-2 橋本遊郭の大横綱の実測

今回の建物はもともと遊郭として建てられその後住宅として利用され現在は空き家となっています。川沿いに面している為眺望が開けていたり、斜め壁の多い複雑な平面構成となっている。遊郭として建てられたため、二階部分は部屋割りが細かく、変わった意匠が多くみられます。隣家とはもともと一つの建物になっていたため室内に軒が出ていることに加え、隣家の窓がこの建物の窓と近接している。また現在の建物の状態として雨漏りが多くあり、床が抜けそうな場所が点在している。



所在地：京都府八幡市橋本１０
主な用途：宿泊施設
敷地面積：210m^2
建築面積：130m^2
延床面積：254m^2
キーワード：貸店舗スペース、建築ストック、改修

Location : １０,Hasimoto,Yawatasi,Kyoto
Main Use : Hotel
Site Area : 210 m^2
Building Floor Area : 130 m^2
Total Floor Area : 254 m^2
Keywords :store for rent Refurbishment, Building stock

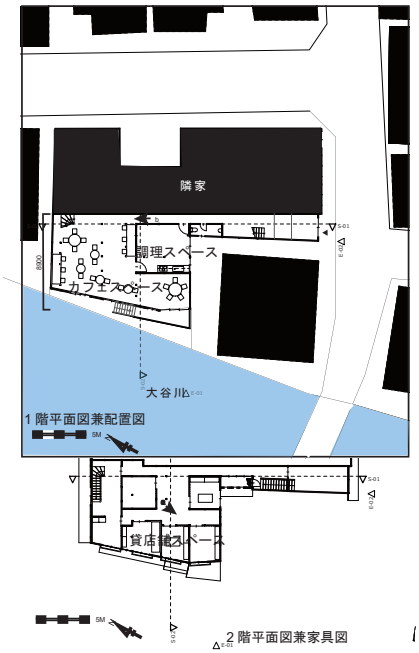
3 計画概要



今回の計画ではこの施設を個人向けの貸店舗スペースへの改修を考えています。川沿いゆえの眺望の良さや遊郭建築の独特な意匠を活かし、川沿いのサイクリング客などの観光客などに向けて小規模のショップを個人で開けるような場となるようにします。この建物のある八幡市は観光客数自体は少なくないものの消費が少ない傾向にあります、そのため新たな観光客を呼び込む施設よりも今いる観光客に対して消費を促せるように盛り上げられる人を呼び込むような施設にしたいと考え貸店舗を計画しようと考えました。またパンデミックなどの影響によってインターネット上で個人がショップを開設することが増えてきているためそういったひとなどをターゲットにして小規模で実店舗を開けるような施設を計画していく。

4 プランニング

1 階の川沿いの部分をカフェスペースとし、川側への開けた空間を外部にも開放できるように計画し地域の人も利用できる場となるようにする。1 階の川沿いの室をつなげてカフェスペースとすることで川沿いに開けた空間になる様にする。また廊下の先に階段を追加し上下のつながりを持たせ回遊性が出るように計画した。2 階部分には貸店舗スペースを計画します。2 階部分の部屋は特徴的な意匠の部屋が多いことに加えて細かい部屋割りとなっているためなるべくそれを活かして貸店舗スペースとする。北側の室を二室つなげることで二階部分でまわれるようにした、またそこに追加した階段があるため 1 階と 2 階全体を回れるようにした。



参考文献

伊藤哲史．清水陽子．地域資源としての空き家活用の取り組みに関する研究　大和軍山市城下町地域における取組から。

八幡市環境経済部商工観光課．八幡市観光基本計画





西山家住宅離れ・茶室の構造特性に関する研究

学籍番号　k 19287
名　　前　丸野浩治
指導教員　井上年和

現状診断　耐震性能　固有周期
常時微動測定　構造解析　振動実験

1.　はじめに

現在、折衷構法に対する文化庁の指針に沿った耐震補強事例は多く存在せず、折衷構法に対する診断の目安は存在しない。そのため、現状では設計者の判断に依存する。本研究の対象建築物である西山家住宅離れは、伝統構法と在来軸構法が折衷した建物形式であり、場合によっては活用方法や文化財的価値を損なう可能性を残している。

したがって、本研究では、伝統と在来の中間である西山家住宅の離れを先行事例とし、同類事例のためにも診断方法の確立や解析法の確実性を高めるため、より高度な耐震診断を行い建物の挙動を明らかにする。

2.　西山家の概要



名称：西山氏庭園(青龍庭園)
所在地：大阪府豊中市岡町南ニ丁目十三(番地)
面積：1011.12 ㎡
名勝指定年月日：令和元年(2019 年)十月十六日
告示番号：文部科学省告示第七十八号

西山家住宅は、庭園が名勝指定され、建物は登録有形文化財である。本稿の対象建築物は、昭和４年に建てられた西山家住宅の離れである。離れには茶室が付随するようなＬ字型プランとなっており、構造特性の研究を進めていく上でも挙動を確認しやすい。今後もこういった建造物の補強計画を進めていく上で、複雑ではない離れと茶室のプランは、有意義な参考事例として使用されることに期待できる。

2.1　重盛美玲と岡田孝男

1940 年の庭園の改造に当たっては、庭園研究者で作庭家の重森美玲が設計を担い、作庭にあたっては、京都の庭師であった川崎純一郎によって作庭されたものである。離れや洋館の改修、渡廊下の建築については、三越大阪支店住宅建築部技師の岡田孝男が設計を担った。名勝指定されたのも重森三玲と岡田孝男による影響が大きく関係している。

3.　構造特性の研究

一般的な構造解析においては、限界耐力計算法を用いた構造計算において、NG が出ればより高度な構造解析に移るという流れである。しかし、複数の方法を使用して建物の挙動の違いを比較することはない。そのため違う構造解析によっては真逆の挙動を示す可能性がある。そこで、本稿では３つの診断方法を実施する。

3.1.　常時微動測定

建物が接する地面は常に動いており、その際の揺れ方を測定することで、その建物や地盤の揺れ方の特徴が確認できる。本稿では立命館大学吉富研究室の協力のもと、西山家住宅離れの常時微動測定を行った。

測定したデータに FFT 処理を行い固有周期と卓越周期について解析を行った。

建物の固有周期は、NS 方向（14ｃｈ）の１次固有周期は 0.21 秒であり、ES 方向（8ｃｈ）の１次固有周期は 0.21 秒という結果となった。

地盤の卓越周期は、NS 方向（3ｃｈ）の１次卓越周期は 0.19 秒であり、EW 方向（2ｃｈ）の１次卓越周期は 0.20 秒である。対象建築物は、比較的短周期の建物であることが分かる。地盤での卓越周期はおよそ 0.2 秒当たりを示しており、合同実験で計測した建物の固有周期では 0.21 秒と示している。したがって、対象建築物は比較的短周期の建物である。また、卓越周期と固有周期がかなり近いため、地震が発生した際には、共振が起こり、一層部分に大きな揺れが発生すると考えられる

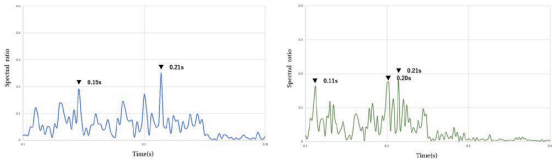


図１ 固有周期（左図：NS 方向 右図:EW 方向）

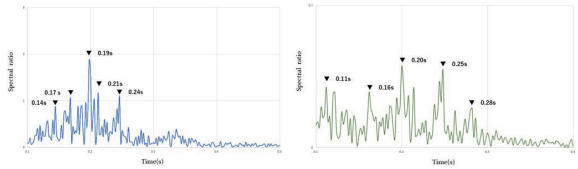


図２ 卓越周期（左図：NS 方向 右図:EW 方向）

3.2.　構造解析

本稿では、時刻歴応答解析に京都大学 生存圏研究所で公開している wallstat ver. 517 [図3)] による制作を行った。製作した３次元解析モデルを用いて、代表的な地震波を使用し、時刻歴応答解析や弾塑性解析(増分解析)を行う。それによって、現状の地震被害による建物の挙動を確認する。

極稀地震の解析においては、基本的に１方向のみに入力し解析を行うため、X 方向と Y 方向ともに倒壊の仕方について確認する。極稀地震１倍では倒壊に至らなかったため、建物が倒壊する倍率 1.5 倍までに上げて倒壊の違いについて確認する。結果については、図３に示したとおりである。

つぎに合同実験において使用したスイープ加振を Wallstat の地震波に変換した。現物と ３ 次元解析モデルの挙動の違いについて確認する。結果は図４に示したとおりである。

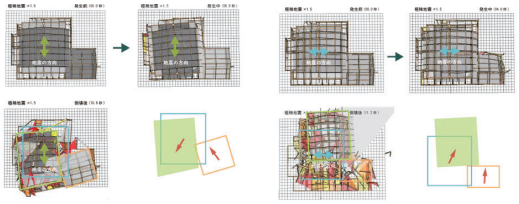


図３ 極稀地震（左図：NS 方向 右図:EW 方向）

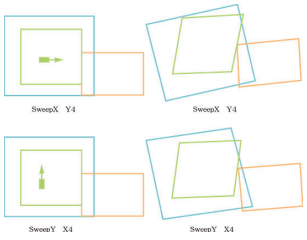


図４ スイープ加振（上図：SweepX 下図:SweepY）

3.3.　振動実験

本稿においての振動実験は、1/15 の実験模型を振動台で揺らし、モーションキャプチャーにて測定する。実験模型を囲むようにカメラを配置する。[図5)] 振動実験において使用した波は、常時微動測定の合同実験で使用したスイープ加振の波である。波の揺れ方としては、大きなスイープ加振の後、徐々に周波数の高い波へと移り変わる。X 方向に振動台を揺らした際の実験模型の変位と Y 方向に振動台を揺らした際の実験模型の変位について確認する。結果については表１に示したとおりである。

表１ 最大変位

方向	方向	１層	２層
１回目 X 方向	X(Y)	0.85ｍｍ	0.69ｍｍ
	Z(X)	12.90ｍｍ	12.75ｍｍ
２回目 Y 方向	X(Y)	12.42ｍｍ	12.47ｍｍ
	Z(X)	2.36ｍｍ	1.11ｍｍ



図５ 実験模型の全体の様子

4.　おわりに

常時微動と構造解析によって短周期の建物が実証され、構造解析と振動実験によっては、模型制作上の問題点はあるものの、建物の挙動の確実性を証明した。

つまり、本研究においての診断方法はある程度正確な診断方法である。また、時刻歴応答解析は正確な解析法であると確実性を高めた。

5.　参考文献

文化財保護部建造物課長裁定 重要文化財(建造物)耐震基礎診断実施要領(2012)文化庁文化財部参事官 重要文化財(建造物)耐震診断・耐震補強の手引(2013)日本建築学会『限界耐力計算による伝統的木造建築物構造計算指針・同解説』丸善出版(2013)p47-56 p113-117 土塗壁告示に係る技術解説書作成編集委員会『土塗壁・面格子壁・落とし込み板壁の壁倍率に係る技術解説書』(財)日本住宅・木材技術センター(2004)p136 山辺豊彦『ヤマベの木構造』エクスナレッジ(2020)伝統的構法木造建築物設計マニュアル編集委員会「伝統的構法を生かす木造耐震設計法」石場建てを含む木造建築物の耐震設計・耐震補強マニュアル」学芸出版社,(2019)中川貴文「大地震動時における木造軸組構法住宅の倒壊解析手法の開発」建築研究資料, 第 128 号(2010 年 11 月)一般社団法人 建築性能基準推進協会 観測地震波(1994 年研究助成版)「高層建築物の動的解析用地震動に関する研究」((財)日本建築センター平成 6 年度研究助成報告書 No.9404、研究代表者:松島豊)服部薫「文化財建造物の保存活用計画策定に関する研究」京都美術工芸大学(2021)豊中市教育委員会『名勝西山氏庭園(青龍庭)保存活用計画』(2022)豊中市教育委員会事務局社会教育課『豊中市文化財調査報告第 82 集 名勝西山氏庭園総合学術調査報告書』(2020)

子ども食堂を通してみんなの居場所を作る。

学籍番号 K19288
名　　前 田中千穂
指導教員 井上晋一

Make everyone's place through the children's dining room.

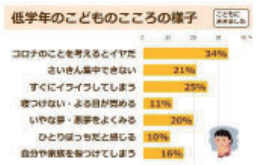
Student Number K19288
Name Chiho Tanaka
Supervisor Shinichi Inoue

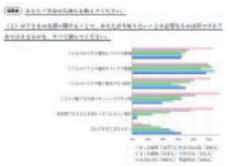


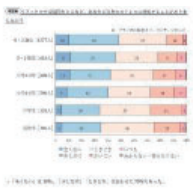
1.計画背景

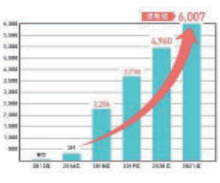
コロナ禍の影響及び、長期化により、子どものメンタル的孤独が注目されている。また、保護者目線でもコロナ禍以降、子どもの横の繋がりを感じられる場所や、安心して預けられる施設の少なさへの不満があることが、最新のアンケートにより分かった。そして、保護者自身のメンタルケアも十分でない現実も問題視されている。そこを建築的に解決していきたい。

それに伴い、今子ども食堂の数が 3 年で約 3 倍増加しており、この形の一つがこども食堂なのではと考えた。



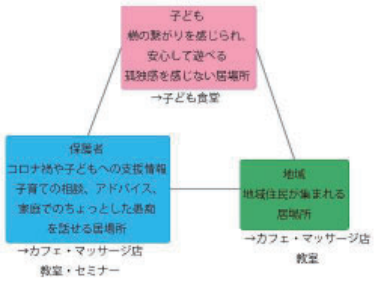






2.目的

子ども食堂を通して、子どもだけでなく保護者や地域住民の居場所を作る。
そのうえで、地域活性化、子育てのイメージアップ、少子高齢化などの社会的問題を建築的に解決していく。



3.敷地情報



写真２　樋口小路西路地　入り口



写真１　門前路地　入り口

敷地から徒歩 1 分の距離に京都市立開睛小中学校と東山開晴館六原学舎があり、学校帰りの子どもが利用しやすい場所となっている。また、六波羅蜜寺周辺であるため、観光客も多く見られる。

所在地：〒605-0813 京都府京都市東山区轆轤町１０１−３７
主な用途：子ども食堂・カフェ
敷地面積：380m²
建築面積：173.5 ㎡
延床面積：256 ㎡
キーワード：少子高齢化・地域貢献・子ども支援

Location : 101-37,Rokuro-tyo,Higashiyama-ku,Kyoto-shi,Kyoto-hu
Main Use : Children's dining room,cafe
Site Area : 380m²
Building Floor Area :173.5 ㎡
Total Floor Area : 256 ㎡
Keywords : Declining birthrate and aging population, Local contribution, Support for children

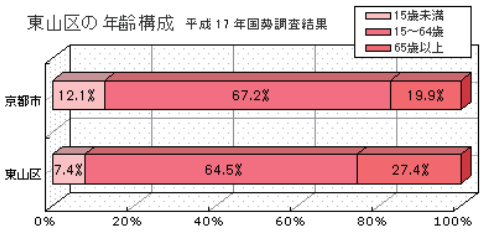


表２　東山区の年齢構

東山区の年齢構成を見ると、65 歳以上の方が京都市と比べて、約 10%も多いことから高齢者の住民が多い。

このことから、子ども食堂を運営する大人の力に期待できる。また、利用者の年齢層が幅広いことを考え建築する必要がある。

4.設計意図

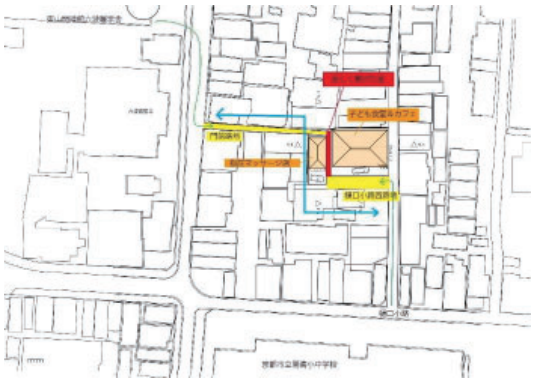


図１　建築計画図

4-1 路地を繋げる

今回、門前路地と樋口小路西路地をつなぐ新しい道路を作った。理由としては、災害時の逃げ道をつくり、町の安全を守ることができる。また、小中学生の帰り道として利用してもらい、交通量が少なく安全に登下校ができ、六波羅蜜寺の利用者（観光客）が行きやすくなるためである。また、樋口小路西路地は、4mに幅を広げ、車の出入りを可能にした。そのため、今まで工事のできなかった建物が建て替えられるようにもなった。

4-2 その時々で姿を変える子ども食堂



外観パース１



テラス

１階部分には、メインとなる子ども食堂とカフェを設けた。昼（平日）は、乳児期の親子が保護者同士の情報共有や息抜きとしての利用を考えた。また、昼（週末）は、地域住民や観光客。夕方以降は、子ども食堂として利用することを考慮して設計をした。キッチンからは子ども見渡せ、小上がりのフロアでリビングのような空間になっている。

２階部分は、多目的ホールとなっている。子ども食堂を利用した子どもが遊ぶ場所や保護者に対してのセミナー、習い事などを開ける空間となっている。柱や梁がむき出したジャングルのような空間にこだわった。

4-3 既存のマッサージ店をリニューアル

以前からある指圧マッサージ店『ゆるふわり』を新しく立て直した。お客様の年齢層が 20 代後半から 40 代の女性が多く、普段は母として頑張っておられる方も多くいるんじゃないかと思い、子ども食堂の利用者の普及につながると考えている。

〈参考資料〉

こども食堂とは？目的やメリット、これからの課題、支援方法などについて解説 (gooddo.jp)

子ども食堂とは？日本の貧困の現状や開催事例、私たちにできることも紹介 - SDGs メディア『Spaceship Earth（スペースシップ・アース）』

子ども支援 WEB 講座（子どもにひろがる見えない貧困） - 神奈川県ホームページ (pref.kanagawa.jp)

21 年の出生数、過去最少 84 万人　コロナ禍で少子化加速：日本経済新聞 (nikkei.com)

第 7 回 調査報告 ダイジェスト版 (ncchd.go.jp)

コロナ禍における思春期のこどもとその保護者のこころの実態報告書 (ncchd.go.jp)

聖護院のフィットネスジム

学籍番号　K19290
名　　前　谷口花道
指導教員　河村大助

敷地

京都市左京区聖護院蓮華蔵町 46

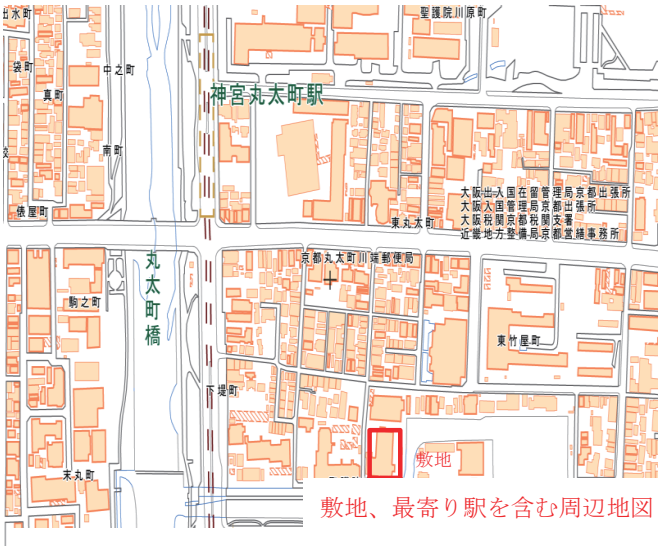
敷地情報

敷地面積　1600 ㎡
建ぺい率　60%
容積率　200%
用途地域　第一種住居地域

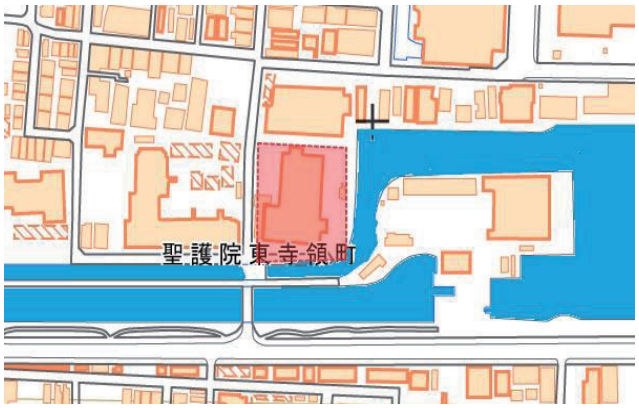
敷地概要

敷地の周辺には京都大学吉田キャンパス、京都御所、京都踏水会スイミングクラブなどの施設がある。最寄り駅の神宮丸太町駅からは徒歩約５分で、大学生の利用が考えられるアパートや寮、一軒家などが周辺に見受けられた。

敷地には現在、アパートが建てられているがそれに代わる複合施設を考えている。敷地周りの現地調査で、道路が狭くて車は一台ほどしか通らないことや想定よりも若い人が多く通っていることが分かった。



敷地、最寄り駅を含む周辺地図



計画内容

今回はフィットネスジムに銭湯を併設した施設を計画している。

地域の人の運動不足解消を目的としてより良い生活を送るために必要だと考えている。地域周辺には年配の方だけではなく家族連れや大学生なども住んでいるため銭湯の機能も設けることでフィットネスジムへの集客も期待できる。







Shogoin's Fitness gym

Student Number　K19290
Name Taniguchi Hanamichi
Supervisor Kawamura Daisuke

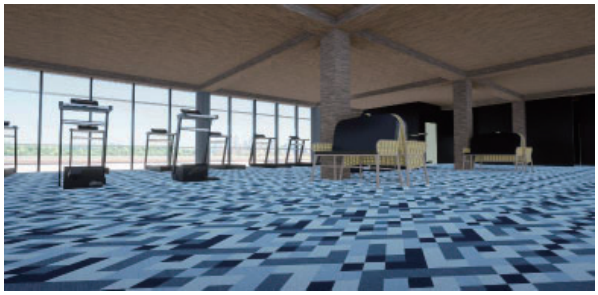
食堂

共有空間として休憩することが出来る。家族連れはもちろん、一人でも利用できる個室や宴会用の個室も計画した。食事を楽しめるテーブルや屋外テラスがあり快適に利用できる



ジムスペース

二階にジムスペースを設けることで外を眺めながら運動することが出来る。広々としたスペースで集中して身体を動かすことが出来る。椅子に座って休んだり、受付が近くにあるのでスタッフに聞きやすいと考えられる。



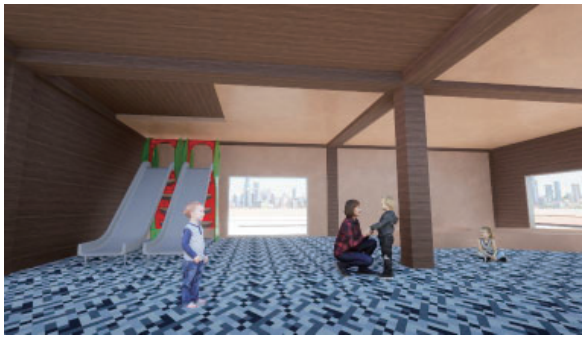
銭湯

三階の銭湯スペース。銭湯のみの利用客も見込めるよう、露天風呂やサウナなどの設備を充実させた。
天井高は高めに設定している。三階は他に銭湯利用客専用の休憩スペースを設けている。



キッズスペース

家族連れが安心して施設を利用できるように子どもを預けることが出来る。



参考資料

https://j-net21.smrj.go.jp/startup/research/service/cons-fitness.html

コワーキングスペースシェアーズ（SHARES）@姫路｜勉強、読書、ビジネスに使える姫路のコワーキングスペース。レンタルスペース。お仕事の利用もよし、勉強利用、カフェや読書の利用もよし。住所利用も可能。 (shares-lab.jp)

天然温泉 岩盤浴 スパジアムジャポン｜スパジャポ (spajapo.com)

大きな住まい

町家、大改修せずに暮らしやすく

学籍番号　K19291
名　　前　谷﨑海友
指導教員　生川教授

The Big House

Kyomachiya, easy to live in without major renovations

Student Number　K19291
Name　Miyu tanizaki
Supervisor　Professor Narukawa

1.はじめに

何らかの形で故郷から離れ、久しぶりに自身の故郷に帰る。「故郷に帰った」と感じる理由は人それぞれであるが、私は毎日当たり前に見ていた風景をもう一度見られた時にそのように感じる。故郷の風景とは何か、昔から風景に自然に入り込んでいた建築物そのものの存在ではないだろうか。個々にとっての故郷となる建物物を受け継いでいくことで自身の地域の個性、地域の今これからの歴史につながっていくと信じている。

2.背景・目的

昔からある地域に存在する住宅がその建物として全うすることなく取り壊されてしまう事を残念に思う。私の祖父母の住宅も住み手が 6 人から 2 人に減少、住んでいた祖父母もそれぞれ施設に移った。誰も祖父母の住宅だった建物には住んでいない。現在祖父母の住宅が両親の住宅から離れていることもあり維持管理ができず寂れていく。

京都における京町家も同様に年々減少の一進を辿っており、なかなかその傾向はとどまることを知らない。現在数を減らしていることは多く知られている。特に大型京町家はその大きさから維持管理に費用がかかり、相続税もかかってくることから住み継ぐこと自体が難しくなっている。しかし今回私はあえて大型京町家をそのまま一つの大きな建物として受け継ぐ可能性についてリアリティを持って考えたい。大型京町家に住まれている方へのヒアリングを通して、建築物が失われることなく受け継ぐことができる形を提案する。

3.敷地分析

下鴨エリアに属し付近には京都府立大学、京都工芸繊維大学など立地する文教地区である。北大路通が近く交通量も多いが、敷地周辺は閑静な住宅地となっており一帯がかつての富裕層の邸宅地とされている。北大路通に面している所は 5 階建ても見られるが周辺は 2.3 階建てが多く、大型京町家が比較的多く残っている。

4.建物の現状

4-1.実測及びヒアリング調査

表 1 に示す限り実測調査、これまでの改修履歴に関するヒアリング調査を行った。まず現在の建物の状況を把握することから始め、それぞれの空間や場所がどの様な歴史を歩み使われてきたのかを伏せて調査する事により建築物の残していくべき空間、場所を明確に



写真 1　敷地外から見た住宅



図 1　敷地

日程	実測時間	実施内容
4月15日	13:00-17:00	住宅の歴史についてのヒアリング 続き間座敷の実測、南縁側の実測
5月20日	13:00-16:00	続き間座敷、茶の間、庭の実測
6月10日	13:00-16:00	玄関、南側柱位置実測
8月11日	14:00-16:00	住宅の今後、不便な点のお話を聞く 自身の卒業設計の方針の説明
8月25日	14:00-16:00	仏間、廊下の実測
8月29日	13:00-15:00	廊下、水回り、リビング、東縁側の実測
9月27日	13:00-16:00	リビング奥の和室、水回り、外壁の実測
10月14日	13:00-16:00	断面図のための高さ、部材の実測
11月4日	13:00-16:00	屋根、基礎部分、部材、高さの実測

表 1　実測日時



写真 2　書院造

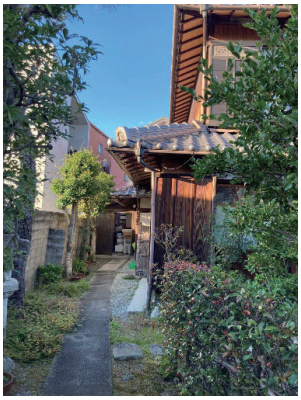


写真 3　門から玄関までの道のり

所在地：京都府京都市左京区下鴨
主な用途：住宅
敷地面積：315m^2
建築面積：140m^2
延床面積：182 m^2
キーワード：京町家・改修・住宅

Location : simogamo sakyouku kyoutoshi kyoutohu
Main Use : house
Site Area :　315m^2
Building Floor Area : 140 m^2
Total Floor Area : 182 m^2
Keywords : Kyomachiya・Repair・House

していき、今後の使い方を考える提案の論拠としている。

4-2.図面の作成

野帳を元に、実測した箇所を JW で CAD 化した。

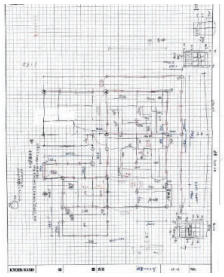


図２　一階平面図（野帳）

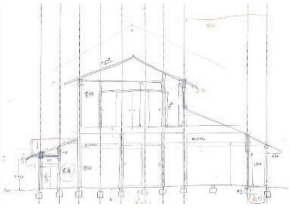


図３　BB 断面図（野帳）

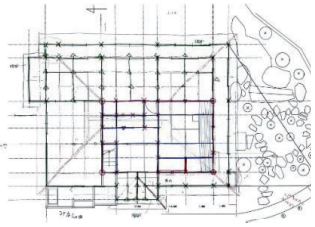


図４　一階屋根の形状及び構造（野帳）

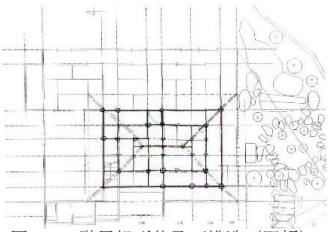


図５　二階屋根形状及び構造（野帳）

5.計画コンセプト

現在姉夫婦、妹、姉娘家族の三世帯で暮らしている。C 家族は敷地内の別住宅に住み、水回りは大型京町家を利用している。現在は三世帯で暮らしているが、今後もこの地域に残していくには住み手が変わることも考慮すべきである。現在の住まい手の家族構成に縛らず、世帯単位の減少などが社会背景にあるため血縁者のみと暮らすのではなく同じ価値観を持った人同士で暮らすことができるよう計画を進めた。

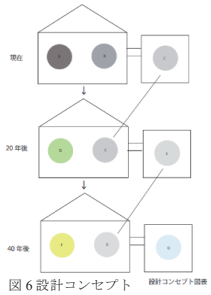
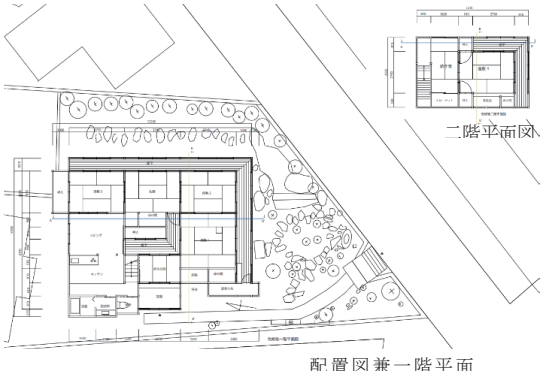
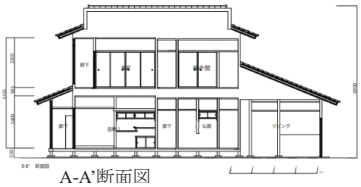


図 6 設計コンセプト



配置図兼一階平面

二階平面図



A-A’断面図



B-B’断面図

6.改修設計

6-1.本来の町家に戻す

実測、ヒアリングを通し建てられた当初の場所、改修を行った場所が確認できた。一度建てられた当初の京町家に戻しその状態から改修案を検討していく形を取った。

6-2.保全、改修場所の選定

（1）はれの場の継承

座敷 1、座敷 2 は住まい手の母がお茶事に活用していたことから、お茶事のエリアとして活用するように、特定の人物の部屋としては扱わないようにした。

（2）キッチンの土間化

キッチン、リビング部分を土間にした。現在駐車場、姉娘家族の住宅が北側にあることからリビングの開口部から入っている。土間にすることで効率的に移動することができる。



写真 4 庭南東部分から建物を見る

参考文献

・京都市の知名 日本歴史地名大系（1979 年）平凡社　著者 平凡社 平凡社地方資料センター

・角川 日本地名大辞典 26（2)京都府下巻地誌編・資料編 角川 日本地名大辞典(1982 年)　角川書店 「角川日本地名大辞典」編纂委員会：編

・京都　素顔の住宅地　（1995 年）淡交社　著者　リム　ボン

みちひろば

-住み続けるまちづくり-

学籍番号　K19292
名　　前　谷中麻里江
指導教員　生川教授

Mitihiroba

-Creating a town continue to live in-

Student Number　K19292
Name　Taninaka　Marie
Supervisor Pofessor Narukawa

1. 背景と目的

都心周縁街区は、高度成長期時代に都市へ集中する人々の暮らしを支えてきた。そこには、建物としての歴史的文化ではなく、培われてきた生活としての文化、コミュニティが存在している。だが、都心回帰の影響により都市周縁街区は姿を変えて失われつつある。

戦前の街並みが残る中崎町周辺地域が開発されていく現状を目の当たりしたのをきっかけにこのテーマに着眼した。都心周縁街区が新しい建物に更新されてしまえば、培われてきた生活文化、コミュニティが失われてしまい、少子高齢化が進む世の中、災害時の対応や地域の人の安心安全な暮らしが脅かされる危険性がある。本計画では、中崎町の昔ながらの街並みや規模感を保ちつつ、次世代まで利用できるまちづくり計画を提案する。

2. 対象地域

JR 大阪駅から徒歩約 10 分の場所に位置する。

本計画の対象とする中崎町(大阪メトロ谷町線中崎町駅を中心としたエリア)とは、済美地域の中でも中崎 3 丁目、中崎西 1 丁目、中崎西 4 丁目の 3 町内を示す。済美地域における戦時中の空襲被害は、全域が焼け野原になったのは万歳町で、その他のエリアの被害が少ない。そのため、現在も長屋等が多くみられ、古くからの街並みが多く残っている。また、子育て支援さくらんぼの会・高齢者食事サービス・防災避難訓練・防犯など、多岐にわたる地域活動が展開されており、昔ながらの地域コミュニティが息づいている。

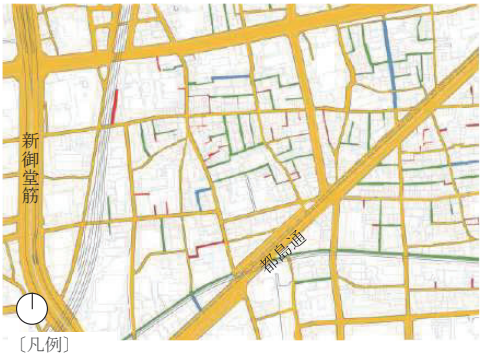


図 1　中崎町周辺幅員調査

3.　敷地及び敷地周辺の特徴について

3-1　道路幅員（図 1：中崎町周辺幅員調査）

3-2　建築物の高さ

図 2 は現地目視調査から建築物の高さを立体的に可視化したものである。この地域は 2〜3 階建の建物が多いが幅員 4 メートル以上の道路周辺はマンションやオフィスが多く、幹線道路沿いの建物で 15 階（45m）になるものもあり、建物の高低差が激しい地域となっている。このエリアで 1 番高い建物は 15 階建の 45 メートルにもなる。



図 2　ARCICAD で作成

3-3　建物用途の変化

調査対象エリア内の店舗用途を目視により調査した。飲食が 113 件と最も多くの店舗だった。他に、様々な業種の店舗が営業していることがこの調査から読み取れた。建物用途の変化として、住宅長屋がカフェやサロンと姿を変え存在する。他に特徴的なものをあげていくと、アパートが除却されて公園に、小学校が 15 階建てマンションに建て替えられていた。1961 年当時から建っている銭湯は、用途変化することなく存在していた。建物用途の変化として、失われてしまった大きな用途は、済美小学校である。小学校は、こども達だけでなく済美地域の人々が集う交流の場であった。



図 3　区画変化の様子

3-4　土地の区画の変化

図 3 は区画の変化を青色でグラデーションに表現したものだ。赤色枠が今回の調査範囲である。1961 年の資料から 2022 年現在までの資料をもとに、10 年ごとに調査した。住宅街のように細かな区画がなくなり、マンションやオフィス、商業施設の大きな区画に変化している。中崎町を囲むように区画が統合、拡大していく様子が変化していくことが読み取れる。

4. 卒業設計テーマと計画範囲

4-1　敷地選定

敷地選定として､アパートの跡地が公園に変化した区画を計画範囲として選定した。調査区画の中央部に位置し、済美小学校が存在していた隣の区画である。

敷居内の公園は、こども達の利用の他に公園内を通り抜けて通行する人々を確認している。



図 4　計画範囲(赤枠内)

所在地：大阪府大阪市北区中崎西１丁目７
主な用途：店舗・住居
敷地面積：3795.58 m²
建築面積：797.41m²
延床面積：1376m²
キーワード：まちづくり・長屋・広場

Location : 1-7,Nakazaki-cho Nishi,Kita-ku,Osaka-shi,Osaka
Main Use : Store・Residence
Site Area : 3795.58m²
Building Floor Area : 797.41 m²
Total Floor Area : 1376m²
Keywords : Town planning・row house・Plaza

4-2　計画モジュール

中崎町界隈の長屋基本構成は、４畳半と６畳の和室で玄関の右手にキッチンスペースがあり、建物奥に庭とトイレが設けられるケースが一般的とされる。この計画モジュールを元に周囲の建物スケールに合わせつつ計画する。

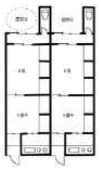


図6　計画モジュール
2011論文集_コンバージョンによる長屋と路地の空間更新を元に自身で作成

4-3　計画内容とコンセプト

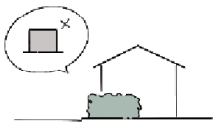
昔ながらの町並みが残る中崎町の路地の特徴、敷地内の既存建築を活用しながら、こども達も集まれて、済美地域の人々が集える広場のような建築群を計画する。その中で 100 年後も町のこの場が残っていけるように、新たにまちづくりルールを設け、適切な時期に段階的に改修または、更新等が行われていくようなシステムを考案する。環境や町の状況に合わせて変化していく事も可能とし、町の人々が必要とする機能や場を少しずつ増やしていく事で町の魅力を引き継ぎながら、町全体の環境を良くしていくことにつながっていく。

4-4　まちづくりルール





建物にルールを設ける
・ファサード１階部分は自由に設計が可能。２階部分以上は都市景観に配慮し、統一感を保つため建物仕上げ材料は自然素材系の木質系や石貼り、タイル等落ち着き・温もりが感じられる素材を取り入れるようにする。
・建物の１階部分が商業系施設の場合、ファサードは店内部の様子が外部に滲み出た通りに楽しい雰囲気が伝わるように開口部を大きく取るように努めること。
・３軒以上並ぶ長屋はトンネル路地のように回遊性を生み通行できるようにする。
・屋根の形制限はないが、周辺地域に街に馴染むように努めること。
・建物の階数は原則３階までとする。ただし、１階部分を済美地域に開放した施設や用途の建物であれば、第１項第１号道路沿に限り５階を最大限度とすることができる。その際壁面後退により、来街者の溜まりやスムーズな通行のための空間スペースの確保に努めること。



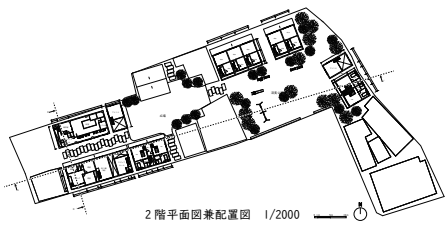


緑化空間をつくる
・接道部は外部と遮断するようなフェンスや塀は設置せず樹木栽植にする。
・地域住民が集え、子供達が怪我や転倒せずのびのびと遊ぶことができるように、芝や地被植物を多用するようにする。
・五感を使って緑や季節を感じることができるよう花が咲く樹木を多用する。
・公園や広場周辺は高木・低木・地被等を組み合わせ立体的な緑化により潤いや安らぎが感じられるコミュニティ活動の核となるようにする。

4-5　図面



１階平面図兼配置図　1/1000



２階平面図兼配置図　1/2000

参考文献

マップナビおおさか
https://www.mapnavi.city.osaka.lg.jp/osakacity/Portal
国土地理院　GSI HOME PAGE - 国土地理院
大阪　新・長屋暮らしのすすめ　橋爪紳也 編
大阪市全商工住宅案内図帳北区　昭和 36 年９月
大阪市精密住宅地図北区　昭和 55 年 11 月
大阪市精密住宅地図北区　平成 13 年 11 月
済美の人街なみ暮らし　OLB&NSW 済美連合振興町会　2016/3/30 発行
路地保全・再生デザインガイドブック　京都市
大切にしたい京都の路地遺　京都市
都心・まちなか・郊外の共存
-京阪神大都市圏の将来- 広原盛明 高田光雄 角野幸博 成田孝三　編著
都心移住都市再生への魅力づくり　インターシティ研究会編著
大阪市精密住宅地図北区　昭和 46 年９月
大阪市精密住宅地図北区(南部)　平成３年 11 月
ゼンリン住宅地図　大阪府大阪市北区　平成 22 年８月
済美-50 周年記念誌-
路地のある町並みを再生するための道路指定制度　京都市
いきている長屋　大阪市大モデル構築　谷直樹・竹原義二　編著

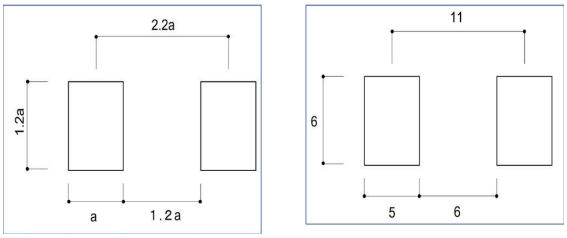
垂木の断面寸法決定方法について

学籍番号　K19293
名　　前　玉山　弦樹
指導教員　大上　直樹　特任教授

寺院　　垂木　　設計技術
木割書　　比例関係

1.　研究目的

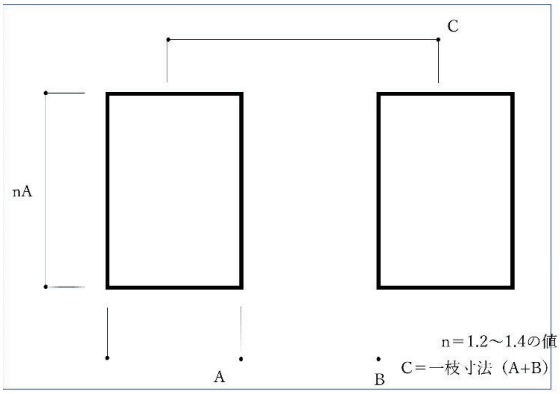
本研究の目的は中世の社寺建築においての垂木の断面寸法の決定方法について解明することである。垂木を含む軒回りにおいては韓国、台湾、中国、日本の社寺建築の特徴においては大きな反りがあり大きな影響をもたらしている。それらの国においての建築美を大きく表現している。また、近世の垂木の断面寸法の決定方法については木割書などに記述されているものもある。その木割書は江戸時代に書かれたとされる「匠明」や「匠家極秘伝集」などである。しかし、これらの木割書に記述されている設計方法で設計のできないものも数多く存在する。そのような説明のつかないような垂木の断面寸法決定方法について解明することである。また、現在の日本社寺建築においての設計技法において支割制という手法が普遍的とされている。支割制という手法は最初に一枝寸法を決定しその寸法を基に柱間などを決定するというものである。しかし、先ほど記述した近世の木割書の「匠家極秘伝集」には「垂木くばる法垂木あゆみを定めるにはまず枝数にて割り一分垂木割定法 22 にて割れば下端知る也成は下端の二割増し」という記述がある。つまり一枝寸法をあと決めしその寸法から垂木の断面寸法を決定するという記述がある。この記述から支割制とは逆の設計方法であると思われる。また、自身が研究している上で一枝寸法が尺で表した時にきれいな数字になることがほとんどない。一枝寸法を最初に決定しているとして本当にこのような設計のしにくい寸法で設計するのかという疑問が存在する。また、「匠家極秘伝集」の記述を比率に変換しモデルかした。それらことから支割制や近世の木割書以外の設計技法を解明することが本研究目的である。



「匠家極秘伝集」モデル（図 1）

2.研究方法

研究方法においては大上理論である「垂木の下端は一枝寸法を 1 から 20 の整数で割ることで得ることができる」という理論を使用している。今後この大上理論を一枝比率法と呼ぶことにする。また、一枝比率法で一枝寸法：垂木の巾の比率において一枝寸法を垂木の巾で割った値を一枝比率とすることにする。この一枝比率「匠家極秘伝集」の記述を手がかりにしている。なぜ中世の垂木の断面寸法決定方法を解明するのに近世の木割書を手掛かりしているかというと現在読むことのできる寸法計画の書物において最も中世に近いものだからである。これらの木割書が作成されるにあたり技術などは継承されていると考えられるからである。次に垂木の断面寸法においてである。垂木の巾と成においても「匠家極秘伝集」の「成は巾の二割増し」という記述から巾と成においても比率関係が成立するのかを分析した。この分析方法を比率寸法法と呼ぶ。この理論をモデル化（図 1）した。そして、比率寸法法ででたそれぞれの値の垂木の巾で垂木の成を割ることで得られる値を比率寸法とする。この二つの方法が成り立つか検討分析する。この二つの方法使用することで垂木の断面寸法において時代や地域別で特色や分析する。



一枝比率法モデル（図 1）

次に「匠明」の記述より「社記集」弐間社より「柱の 1/4 を垂木の下端とする」いう記述や「堂記集」三間四面堂より「柱の 1/5 を垂木の下端にし成は下端の 2 割増し」、「門記集」四脚門より「主柱の 1/6 を垂木の下端とする」などの記述から柱の径と垂木の下端の関係性においても

分析する。これらのことから、垂木の断面寸法と一枝寸法、柱の径の 3 つの情報を修理工事報告書から読み取り CAD により図面化しそれぞれの比率関係を研究、分析する。

2. 事例

本研究は 203 件の事例を検討、分析した。200 件検討した内 199 件は一枝比率法によって垂木の下端と一枝寸法の比率関係を導き出すことに成功した。このことから一枝比率法はほぼすべての事例において使用することができると判明した。本研究においては時代別と地域別に事例を分類した。時代別において平安時代から江戸時代で各時代別に分類した。平安時代においては全 199 件の内 9 件であった。次に鎌倉時代だが 24 件で室町時代は 95 件であった。桃山時代の事例においては 24 件であった。最後に江戸時代の事例件数だが 43 件であった。ここ事例を中世以前と中世以降に分類したとき中世以前は 152 件で中世以降 43 件であった。残りの 4 件においては正確な時代がわからないものである。

地域別においての分類だが東北・関東・中部地方と近畿地方、中国・四国・九州地方の 3 つのグループ分類した。東北・関東・中部地方は 36 件であり、近畿地方は 133 件、中国・四国・九州地方が 30 件であった。近畿地方が全体の 67%である。

3. 考察

事例を時代別や地域別に分類、分析した。分類検討した。時代別においての一枝比率においての各時代の特色についてである。まず、平安時代において一枝比率において同数示すものはなかった。次に鎌倉時代についてだ。全事例 24 件の内同じ値を示したのが 13 : 6 であり 4 件であった。次に室町時代においては 18 件が 9 : 4 であった。次に桃山時代においては全 24 件である。桃山時代において全 24 件であり内 3 件が 9 : 4 であった。最後に江戸時代だが 11 : 5 と 5 : 2 の値が 4 件と最も多い値になった。

次に比率寸法についてである。一枝比率と同じように時代別で検討していった。まず、平安時代において全 8 件の内 1 : 1 と 3 : 4 が 3 件ずつだった。時代別においてここまでの比率寸法の値において 1.00 の割合が高いのは平安時代だけであった。次に鎌倉時代についてである。鎌倉時代は全 24 件 7 : 9 が最も多い値で 6 件であり次に 5 : 6 が 4 件であった。次に室町時代についてだが 4 : 5 が 16 件であり次に 5 : 6 が 13 件であった。4 : 5 は比率で表すと 4 : 5 である。桃山時代において全 24 件の内 9 : 11 と 4 : 5 が同数でありが 5 件で最も多い値であった。次に最後になるが江戸時代においては 5 : 6 が 7 件で最多く次に 7 : 9 が 6 件でほとんどの差は存在しなかった。これらのことから時代が進むにつれて一枝比率が大きくなり、比率寸法は 1.20 の値によっていると思われる。地域別においては大きな変化見られないと考えられる。

本研究において参考にした近世の木割書である「匠明」や「匠家極秘伝集」に置いての記述が垂木の断面寸法にどのような影響を及ぼしたのか分析し考察する。木割書に記述されている内容によって時代別に変化があるのではないかと考えられる。「匠家極秘伝集」が書かれた年代が享保 12 年（1727 年）である。つまり「匠家極秘伝集」の記述の値の割合がそれぞれ多い時代においてはどちらの割合においても江戸時代が最も割合が多いことがわかる。江戸時代の一枝比率が 11 : 5 の割合は 7 %であり、比率寸法の 5 : 6 においては 29%であった。他の時代よりも割合は多くなっている。次に「匠明」に置いての記述である柱と巾の比率関係によるものである。「匠明」の「門記集」、「社記集」、「堂記集」の記述を参考にしてきた。先ず「門記集」四脚門より主柱の 1/6 を垂木の下端とするというものがある。次に「社記集」弐間社より柱の 1/4 を垂木の下端とするという記述がある。最後に「堂記集」三間四面堂より柱の 1/5 を垂木の下端に成は下端の 2 割増しという記述がある。これらの情報よりこの 3 つの柱の径と垂木の下端の関係性を「匠明」の書かれた江戸時代以降と以前の 2 つに分けて分析した。江戸時代以降においては 1/6 を示したものが 1 件であり次に 1/5 が 2 件で 1/4 は 1 件であった。これらから 1/6 は全体の次に江戸時代以前においてである。江戸時代以前においては 1/6 が 1 件であり 1/5 が 13 件で 1/4 は 7 件であった。割合から見るに大きな数値の違いがないと考えられる

5. 結論

検討した件数が 203 件であり内 199 件において一枝比率法を証明できたことから一枝比率法は有効な理論であると分かった。また、比率寸法法においては値に大きな特徴を見ることができなかったが時代別においては少し特色がみられたが地域別においては大きな特色を確認することができなかった。また柱の径と垂木の下端の関係性においては「匠明」に記述されているような事例がいくつか存在したがその比率関係がどのように垂木の断面寸法と関係するのかは解明できなかった。しかし、垂木の下端との関係はあると考えられた。

参考文献

近藤豊，古建築の細部意匠，1972
監修　太田博太郎　校訂伊藤要太郎，匠明，1971
官匠　広丹晨父，匠家極秘伝集，享保 12 年（1727）

道，空き家による新たなコミュニティーの形成

学籍番号　K19294
名　　前　千代　恵奨
指導教員　人見　将敏

Formation of a new community with roads and vacant houses

Student Number K19294
Name Keisuke Chishiro
Supervisor Hitomi Masatosi

はじめに

高齢化社会が進む日本は、空き家の増加が問題視されている。特に駅から遠く、利便性の悪い場所も空き家が多い傾向がある。空き家が増えていくことで地域自体の活力が低下し、道路や水道などのインフラの維持することも難しくなっていく。今回私は、高齢化率の増加と共に人口も増加している大津市に着目する。駅の近くにある空き家を活用して新しいコミュニティー形成していく。地域住民との交流を生み、滋賀を何度も訪れる人が増えることで、交流人口、関係人口の増加に繋がる、地域づくりを行う。

大津市の特徴について

大津市の特徴は琵琶湖、アクセス、自然の 3 つが挙げられる。まず琵琶湖は、豊かさ・壮大さがあり、生活と共存し、落ち着いた気持ちになれる景観を多くの人に提供している。次にアクセスである。大阪や京都は、国内外からの人気がある観光地であり、近くアクセスが良いということは、観光地としての強みである。最後は自然である。大津市には琵琶湖だけでなく、比叡山や瀬田川など多くの自然が残っている。京都や大阪などに住んでいる人にとってゆっくりと過ごすことが出来る場所といえる。

空き家問題について

空き家の増加傾向への対応として、国土交通省では「空き家の除去」「空き家の活用」の二つの取り組みに対して費用の一部を負担する政策を実施している。この政策を積極的に街づくりに役立てようとする試みが全国的に広がっている。本計画でも空き家を活用し、地域住民や観光客との交流人口の増加を目指す。

対象敷地について

【商店街の状況】

・今も町屋が多く残る「大津百町」とよばれる地域を南北走っている

・商店街内にあるカフェに近所の方が集まり、地域住民のよりどころになってはいるものの、商店街の利用者数は非常に少ない。

・商店街のアーケードの老朽化が進んでいることによって自然災害による破壊の恐れがある。補修 or 撤去するべきだが、費用が掛かるため放置されたままでいる。

【商店街周辺の状況】

・交通機関が充実していることで、他県や他の地域に気軽に移動できるため、大津駅の利用者数が多い。また、京都などから訪れやすい場所に位置している。



・大津市民図書館があり、過去数年間の人口 100 人当たりの貸出数が全国 1 位であったことから大人や子供に愛読家が多いと推測できる。

計画の内容

【背景】

大津駅前中央通りの開通によって、以前まで主要な道として利用していた道路の利用者数が減少し、それにより周りの店舗などが閉店に至った。また、人口は 340,583 人（H25）から 343,079 人（R4）と増加しているものの、高齢化率も 22.3%（H25）から 27.5%（R4）と増加傾向にある。商店街や周辺の店舗が無くなり、高齢者は、コミュニケーションの場を失っている。

所在地：滋賀県大津市中央２丁目通り
主な用途：カフェ&教室、リハビリ施設（公園）、結婚式場
敷地面積：158.67 ㎡、794.72 ㎡、2,810.02 ㎡
建築面積：102.67 ㎡、96.95 ㎡、1,200 ㎡
延床面積：63.05 ㎡、84.29 ㎡、1,82742 ㎡
キーワード：まちづくり、コミュニティー、空き家再生、路地

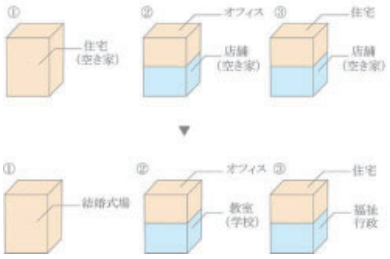
Location : Chuo 2-chome Street, Otsu City, Shiga Prefecture
Main Use : cafe & classroom、rehabilitation facility（park）、Wedding hall
Site Area : 158.67 ㎡、794.72 ㎡、2,810.02 ㎡
Building Floor Area : 102.67 ㎡、96.95 ㎡、1,200 ㎡
Total Floor Area : 63.05 ㎡、84.29 ㎡、1,82742 ㎡
Keywords : town planning、community、Empty house regeneration、alley

【コンセプト】

対称敷地の周辺には、滋賀県庁や大津赤十字病院等の公共施設が多く存在している。また、大津駅やびわ湖浜大津駅等の交通手段も充実している。しかし、商店街の店舗が閉店していくことで地域住民のコミュニケーションが希薄になっている。そこで、本計画では空き家と道路に着目し、新たなコミュニティーを作り、今までの生活にプラスとなる計画をする。

大津市の掲げているモットーである『すべての人に居場所と出番があり、最期まで充実した人生を送れる社会の実現』に対応する提案を行う。

【空き家の活用方法】

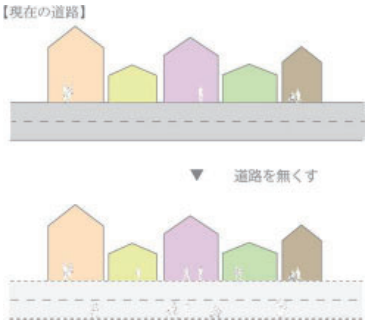


3 つのステーションと位置づけし、様々な人や物が自然と集まり、大津市から活発的に動く。

①　住宅→結婚式場（ウエディング・ステーション）

空き家を結婚式場にリノベーションし、路地や道路をウエディングロードにする。そして商店街全体を盛り上げる。商店街全体でブライダルプランを運営していくことも可能。話題性のある計画を行うことによって、大津市で結婚や生活をしようと思う人が増え、高齢化率が緩やかになる。

②　空き家→教室（スクール・ステーション）



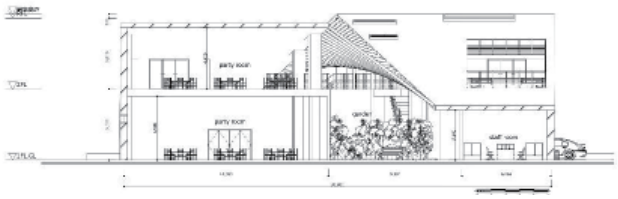
校外授業のような形で近隣住民の方から大津の歴史、絵画の授業など地域の方を巻き込んだ新たなコミュニティーの場に空き家を活用する。その結果、地域住民と学生等の繋がりが形成されることで、皆に居場所，役割があると再認識し、毎日が充実する。

③　空き家→福祉（リハビリ・ステーション）

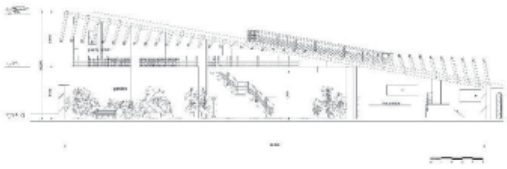
空き家を福祉施設にすることで、近くにある大津赤十字病院でのリハビリテーションの代わりとなる。リハビリとなると、大きな部屋で黙々とトレーニングをするイメージがある。少しでも明るい気持ちでリハビリをすることは良い影響があるので、空き家や道路を撤去して歩くスペースなどにすることを提案する。空き家を行政の部門を置くことで、固いイメージを持っているが市民の方が意見を言いやすくなり、大津市自体の成長に繋がるのではないか。

【道路の活用方法】

敷地調査を行った際に該当する道路の交通量が大津駅前中央通りよりも非常に少ないと感じたため、この状況なら道路を撤去するとともに新たな遊歩道のようなものに様々な用途を組み込み、人が集まりやすい環境にするのが良いと感じた。周辺の店舗等も潤い地域が活性化される要因となるに違ない。例としては、路地を地域の方の作品を鑑賞することが出来るギャラリーや道路をウエディングロードにする等が考えられる。路地に作品などを置き、鑑賞することによって路地自体に意味を見出すことが出来る。



結婚式場 A-A’断面図



結婚式場 B-B’断面図



結婚式場パース

なないろ商店街～西新道錦会商店街再生計画～

学籍番号　K19295
名　　前　佃桃花
指導教員　森重幸子教授

1 計画背景と目的

現在の商店街社会は少子高齢化や後継者問題が深刻化しており、廃業や閉店している企業や店舗が増え、活気が無くなっているのが現状である。また、コロナウイルスの影響で地元の人々だけでなく、観光客などの来街者も減少し続けていることから街や商店街の活気が無くなっている。この卒業制作を通して、地元の商店街の再生計画を提案し、現在の商店街社会で挙げられる問題を改善することで街や商店街の活性化に繋がると考えている。

2 敷地について

2-1 西新道錦会商店街について

今回敷地にする「西新道錦会商店街」は壬生を中心とする中京区と下京区にまたがる、半径 1 ㎞ほどの商店街であり、四条大宮から西へ約 10 分行ったあたりに所在している。「西新道錦会商店街」は様々な事業の他にアーケードが特徴であり、とても魅力がある。このアーケードは約 30 年前に設置され、当時の消防法の関係で可動式で開閉することが出来る。（写真 1、写真 2）



図 1　商店街の位置



写真 1　アーケード



写真 2　アーケードのスイッチ

2-2 商店街の過去の取り組み

1992 年頃からプリペイドカード事業「エプロン」やファックスネット事業、昼食サービス「ふれあいサロン『エプロン』」など様々な事業や取り組みが行われてきた。

Rainbow Shopping Street

Student Number　K19295
Name　TSUKUDA Momoka
Supervisor　Professor MORISHIGE Sachiko

2-3 西新道錦会商店街の現状

商店街の営業している商店の数が、2002 年は約 150 件だったのが 2022 年の現在は約 47 件になっており、約 31%まで激減しているとともに商店街を利用する人々の数も減少している。図 2 は、現地調査により、営業中の店舗と空き地の位置をプロットしたものである。商店街の来客数が減少している反面、ペイペイなどの電子マネーを商店の会計時に利用することができ、キャッシュレス化にも対応している。他にも商店街の商店の中でウーバーイーツなどの宅配専門店やゲストハウスがあり、若い人も利用しやすいようになっている。また、西新道錦会商店街では月に一度に桂三風さんを含んだ約 3 名の落語家により落語会が開催されている。この落語会は 1 回 1,000 円で参加することができ、地域の高齢者の娯楽の時間となっている。

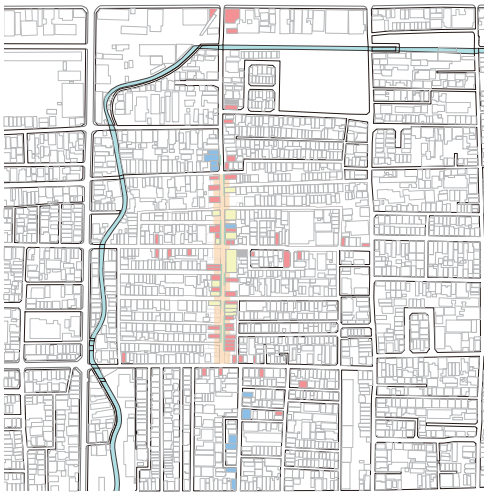


図 2　商店街を含める周囲の地図
（赤：商店、グレー：空き地、緑：アーケード）

3 計画主旨

商店街の名前の中に「錦」という文字が入っているので、それに因んでアーケード以外にも何種類かのファブリックを使い、空間に動きをつけ、建築に繋げている。また、観光客が訪れた際はこの街の日常を体験することができる商店街を提案する。

4 ダイヤグラム

図 3 のダイヤグラムでは、現在のテント張りのような黄色 1 色のアーケードの布の色の数を増やし、更に布天井のように布を垂らすことで風で揺れ、空間に動きが出ることを表している。図 4 のダイヤグラムは商店街の上部だけでなく暖簾のように仮設式の布を設置することでさらに空間に動きを出し、利用する人が「この暖簾を超えると何

所在地：京都府京都市中京区壬生下溝町５１−４１
主な用途：店舗・屋外スペース
敷地面積：—
建築面積：11 棟：29.45 ㎡〜300 ㎡、合計：857.05 ㎡
延床面積：11 棟：29.45 ㎡〜300 ㎡、合計：1,375.65 ㎡
キーワード：商店街・まちづくり・活性化

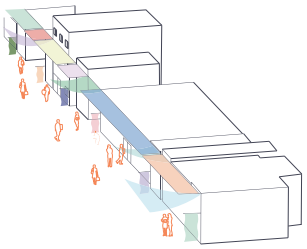


図 3　アーケード・布天井のダイヤグラム

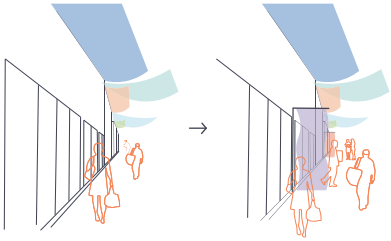


図 4　ダイヤグラム

があるのだろう」という気持ちになりお店に足を運ぶ様子を表している。

5 再生計画を行う範囲

今回、再生計画を行う範囲は、図 2 のオレンジで色を付けている部分で考えており、商店街の中で現在でも一番商店が残っており、集まっている部分である。黄色の部分は、空き地やシャッター化している建物であり、新しい店舗の対象地である。また、緑の線の部分が現在アーケードがかかっている部分であり、疎らになってしまっているので、全面的にアーケードを設置し、より商店街らしさが出るように計画した。

6 新しい店舗の提案

新しく 11 軒の店舗を提案する。その中には、利用者のターゲットが広がり、商店街の強みでもある利用者と周辺地域との関わりがより生まれるようにゲストハウスや体験教室、保育園、コワーキングスペース、銭湯、飲食店、展示室、屋外スペースなどを計画した。屋外スペースでは、商店街内で買ったご飯を食べたり、利用者の休憩スペースや地域の人々の交流スペースになったり、様々な目的で利用することができるので商店街の賑わいにも繋がると考えている。（図 5）

Location :51-41 Mibu Shimomizocho, Nakagyo Ward, Kyoto City, Kyoto Prefecture
Main Use : Shop・outdoor space
Site Area : —
Building Floor Area : 11 buildings: 29.45 ㎡ to 300 ㎡, total:857.05 ㎡
Total Floor Area : 11 buildings:29.45 ㎡ - 300 ㎡, total:1,375.65 ㎡
Keywords : Shopping street, town development, revitalization

7 ファブリックの用途

アーケードの布の色を様々な色にすることで、利用者は一目で何の店舗か分かることができる。また、アーケードの他に布天井や暖簾のようなファブリックを設置することで、断面的に動きが出来るだけでなく、空間が鮮やかになり、利用者も視覚的に楽しむことができる。（写真 3、図 6）

参考文献

・平田陽子『高齢化社会と商店街 一西新道錦会商店街の取り組み一』佛教大学総合研究紀要（09）（2002 年）
・満薗 勇『商店街は今必要なのか』、講談社（2015）
・公益財団法人　アーバンハウジング『商店街等におけるストック活用とコミュニティ再生に関する調査研究』（2022）



写真 3　利用者目線のパース

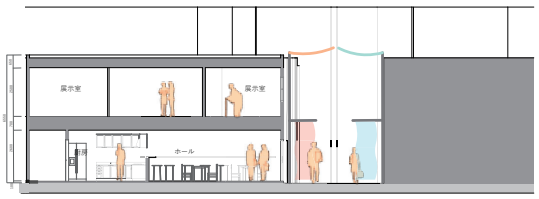


図 6　飲食店・ギャラリー　断面図

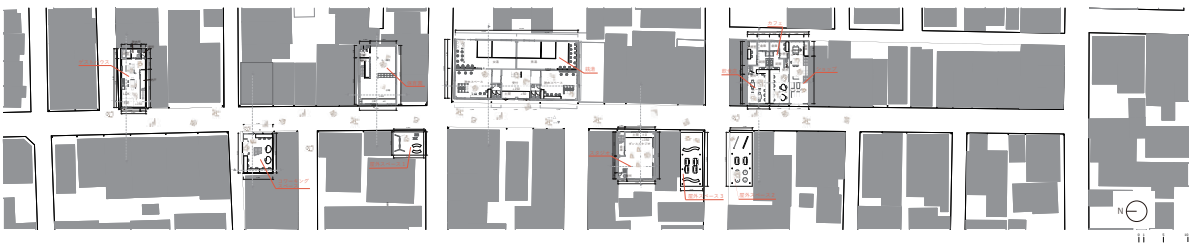


図 5　配置図兼 1 階平面図

何して遊ぶ？

学籍番号　k19296
名　　前　土森ふわり
指導教員　山内貴博

What do you play?

Student Number　k19296
Name　Fuwari Tsuchimori
Supervisor　Takahiro Yamauchi

背景・目的

吹田市にはまだまだ昭和末期から平成初期に設計された公園が残る。紫金山公園北側もそのひとつだ。紫金山公園は都市圏にありながらも敷地内に遺跡や自然の豊かな空間を持ち、歴史・自然をテーマとしたとても魅力的な公園である。

その一方で、公園自体には周辺地域から取り残されている空気が流れている。この原因として考えられるのが、現在のニーズとの不一致ということだ。吹田市は現在も再開発や再構築される地域が多く、このままではニーズとの不一致がより進み、地域から完全に取り残された公園になりかねない。

ニーズの不一致の中でも紫金山公園北側の遊具スペースが上げられる。遊具は器具同士が合わさってできた様なよくある大型遊具が一つだけ置かれており、敷地面積に対して寂しいものとなっている。「遊具が少ない」と言った公園へのコメントもあり、駆け回るスペースが既に別にあるにもかかわらず、広々とした遊具スペースには大型遊具が１つと小さな滑り台がひとつ。利用者層に子育て世代が多いこの公園で遊びにくいということも頷ける。本計画では紫金山公園北側の再構築を念頭に遊具設計を行う。現在のニーズに沿ったより魅力的な空間にすることを意図とし計画を行っていく。

計画概要

敷地を手前(車道側)と奥に二分し、奥を体いっぱい動かす動のスペース、手前を座ったり遊具で遊ぶ静のスペースとする。遊具を設計し、配置計画を行う。防犯のため、あまり高い遊具は計画しない。

遊具設計

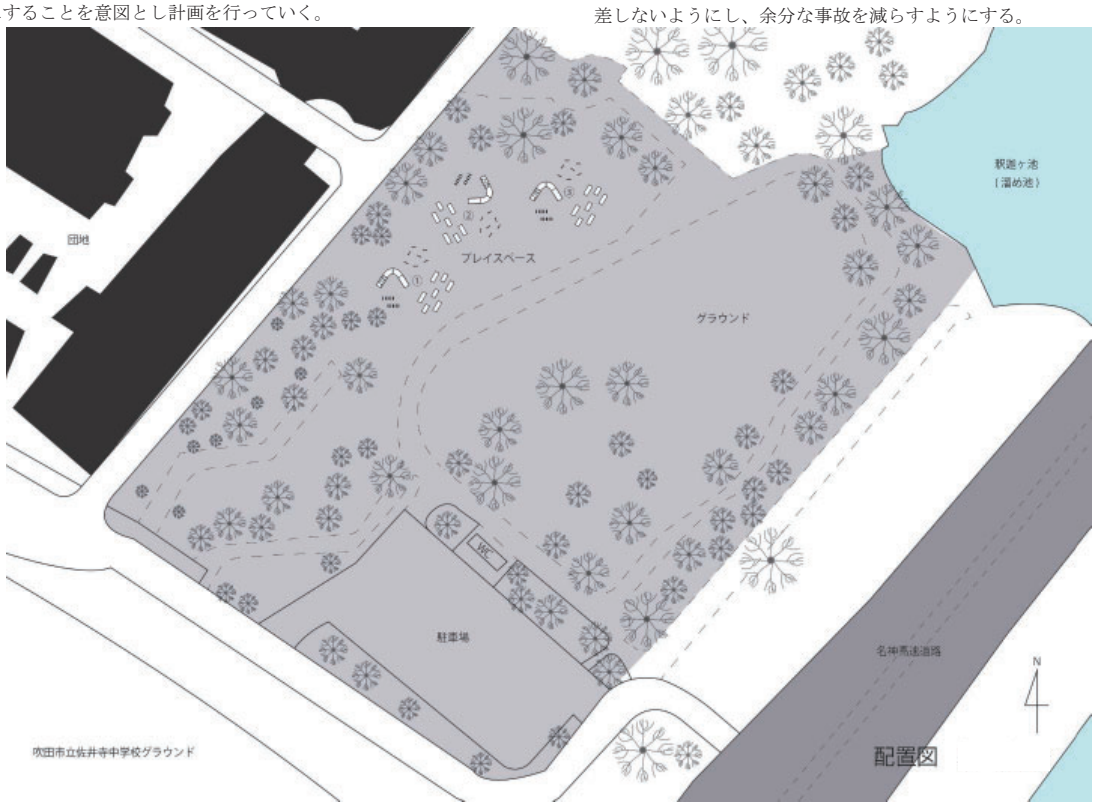
敷地周辺には小学校や幼稚園などがあり、地元の子供たち・親子連れが利用する公園となっている。そして高学年の小学生はグラウンド利用率が高い(サッカー・鬼ごっこ等)。ここから考えられるのは比率として必然的に未就学児～低学年が遊具の主な利用者層になるということである。

そのため、遊具は主に難易度の低いものを設計する。またそれ以上の学年層に向け中難易度のものも一つ設計する。それぞれ遊ぶ時の動作が変わるよう遊具を設計した。

以上のことに加え集まって座って遊ぶ場合や子連れ層に向けて親が座って子供を眺めておくことも出来るようにした。

遊具の配置計画

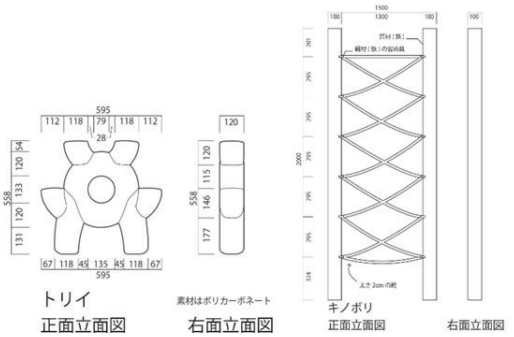
静のスペース全体(樹木が生えている場所を除き)に遊具を配置していき、他者がいるため利用しにくい、と言った状況をできる限り無くすよう計画。また、スペース同士の動線ができる限り交差しないようにし、余分な事故を減らすようにする。

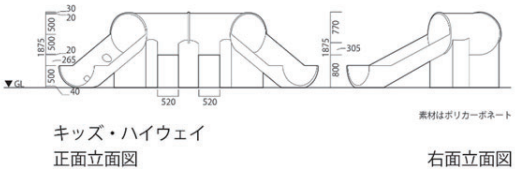


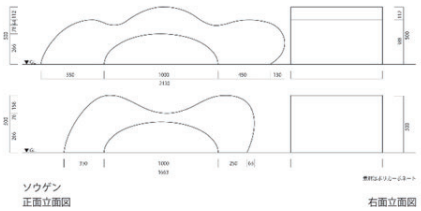
所在地：大阪府吹田市五月が丘東
主な用途：公園
敷地面積：11,500 ㎡
建築面積：0m²
延床面積：0m²
キーワード：公園・遊具設計

Location : Satsukigaoka,Suita-si,Osaka
Main Use : Park
Site Area : 11,500 m²
Building Floor Area : 0 m²
Total Floor Area : 0 m²
Keywords : Park, Playground equipment

遊具設計







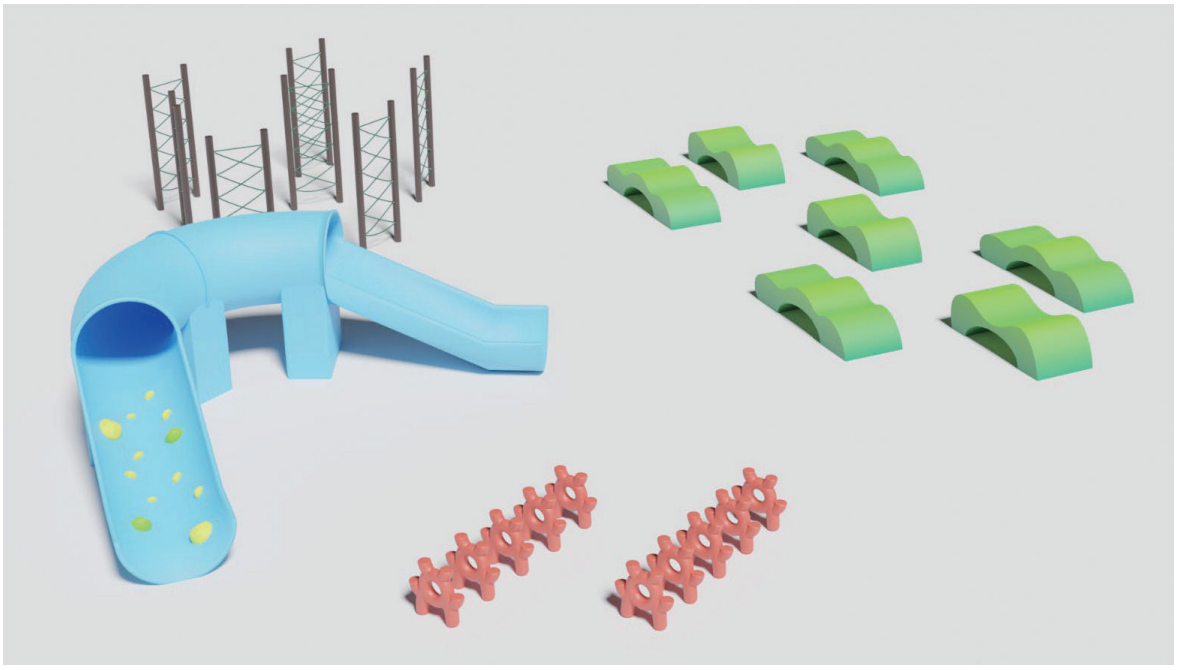
実際の設計は左に示している通りである。

この遊具四つをワンセットとし、配置を行った。ワンセット分の配置に関してはプレゼンボード内に示している。ワンセット×3 を配置し、遊具を置くスペースに対し満遍なく遊具を配置した。設計に関しては前述した「紫金山公園の要素」を元に、ソウゲン、トリイ、キノボリ、ハイウェイとして設計した。

紫金山公園の要素を元にしたことには、利用者である地域住民とこの遊具の親和性をあげるためであり、親しみを持って遊具を利用してもらうことを意識したためである。児童が利用した時に「これはあの形に似ている」と想像しながら遊ぶこともでき、ただ遊ぶだけでなく、遊ばずに見ているだけでも考えられる意味のある形を遊具に落とし込んだ。

参照・引用元

基盤地図情報ダウンロードサービス - 国土地理院
https://fgd.gsi.go.jp/download/menu.php
GOOGLE MAP
紫金山公園｜吹田市公式ウェブサイト
https://www.city.suita.osaka.jp/sangyo/1018152/1018167/1018168/1009796.html



KitayamaR

学籍番号　K19299
名　　前　戸田大海
指導教員　小梶吉隆

KitayamaR

Student Number　K19299
Name　Hiromi Toda
Supervisor　Yositaka Kokaji

計画背景

Regeneration(再生)・Relief(安堵)・Resort(新たな観光地としてのリゾート) この三つを軸に設計を行った。現在の北山地域の問題点として山を所有しても維持費が多くかかり採算が合わないことが多いことや床の間の減少による需要低下、高齢化と同時に後継者不足、人口低下、関心の低下が挙げられる。また、多くの杉林が放置され国道沿いに横たわり、倒木が転がり落ちそうな状態の場所が無数にある。これらの事態を解決するにはまず北山杉、北山地域の魅力を高め再発信してもらうことが一番の方法である。そして自然体験を通して、北山杉はもちろん自然そのものの素晴らしさを体感して欲しいと考えた。設計施設は複合レジャー施設で敷地を一体として楽しんでもらえるような導線配置計画とした。京都市内からも比較的近く、自然の豊かな地域であったため、このような計画を行おうと考えた。お手軽なレジャーと自然体験を楽しんでもらうことが本望だ。

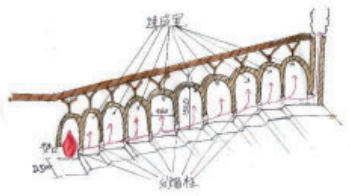
設計意図

建物を全４ 棟設計した。今回の選定敷地は山の勾配がきつく急斜面でかつ谷になっているような場所なので、高い建物を敷地一杯に建てると正面の道路からの視線を考えたときに圧迫感を与えてしまう。建物の東側を後退させ敷地と視線に余裕を持たせた。また、東側から西側にかけて建物の高さを上げていくことで壮大さと奥行を楽しむことが出来る。外観は落ち着いた空間を演出したかったため、ベージュや木のナチュラルをメインに構成した。形に締まりを持たせたかったので外観に見える柱には焼杉板のような黒い杉の柱として設計した。逆に内装ではゆったりとした空間を演出するため、柱の色はナチュラルで統一している。建物全棟のボリューム感を均一にせず、高さ方向で遊びを入れることで細長い敷地に大きな建物を違和感なく建てることに成功した。和を演出するため障子をイメージした窓も取り入れた。

計画施設

これらの現状を踏まえ、多くの人々に知ってもらうため体験型レジャースポットとして新たに提案します。①温泉施設、②登り窯、③アトリエ、④林業体験(ログハウス)林道、⑤北山杉記念館、⑥宿泊施設、⑦レストラン、⑧駐車場、を計画している。いずれも分棟タイプでプランを練った。木の温もり、北山杉の良さを生かした五感で楽しめる施設を目指す。⑥宿泊施設、⑦レストランのターゲット層は大学生から上の層を考えており少し贅沢な時間と空間を提供できるように計画する。

登り窯について

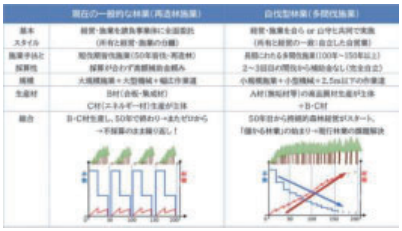


今回、登り窯を取り入れた理由としては、北山地域の放置された大きくなりすぎた杉の木などを燃料として使用したいと考えた。また、新たな北山地域特有の文化になればとも考えている。

本来、焼き物に使われる燃料は火力がよく出る、松脂を含んだ赤松などが主流ではあるが、実際に内原野陶芸館では過去に杉を使用したという実例もあり使用可能であると推測した。地産地消で地域に大きく貢献できるシステムである。

信楽の宗陶苑を参考事例として小規模にしたものを設計に組み込むつもりだ。

北山杉を循環させるために



上記の通り、登り窯の燃料としての使用、そしてそこから出た灰は豊かな森林環境を作り保つための肥料としての使用。また内装化粧を材メインとした建築材料としての使用、加工のしやすさを武器に手工芸品や装飾材として利用価値が高いと考えた。

こうすることで北山地域での循環サイクルが生まれ、より北山杉というものの必要性がブランドのイメージアップになると考えた。

少人数でも行える自伐型林業

自伐型林業（じばつがたりんぎょう）とは、採算性と環境保全を高い次元で両立する持続的森林経営。参入障壁が非常に低く、幅広い就労を実現。現在の国土の７割を占める山林を活用する「地方創生の鍵」として期待され、全国各地で広がっている。

配置、ボリューム計画

設計施設は大きく分けて４つあり、南側から順に①アトリエ棟、②販売棟、③温泉棟、④宿泊棟、そして南西側には⑤登り窯を配置した。これらの空間を繋ぎ通り抜けられるようにすることで一体感を与え、敷地の建物を満遍なく歩いてもらうことが出来ると考えた。建物内の主導線とは別に建物の東側壁面に沿って遊歩道を設置することで、外からも内からも楽しめる設計となっている。遊歩道の周りには日本庭園を髣髴とさ

所在地：〒601-0131 京都府京都市北区小野下ノ町 101
主な用途：複合施設
敷地面積：11000m^2
建築面積：4362m^2
延床面積：5632m^2
キーワード：北山杉、循環、自然環境

Location : 101 Onoshitanomachi, Kita Ward, Kyoto City, Kyoto Prefecture
Main Use : Complex facility
Site Area : 11000 m^2
Building Floor Area : 4362m^2
Total Floor Area : -5632 m^2
Keywords : Kitayama cedar, circulation, natural environment

せるような庭を配置しゆったりとした時間と空間を提供したいと考えた。南側から北側にかけて静かに過ごせる空間になっていくように配置した。②の販売棟の西側には大きなテラスを設けることで誰もがくつろいで使える。自由度の高い広場を設けることで訪れた人々を更に建物内へと誘導する起爆剤となりうる。ここではキャンプファイヤーやフリーイベントなど様々なイベントが行えるテラスとなっている。そのため、勾配は非常に緩く設定され、段差も 10 センチ程度でくつろぎやすい設計となっている。登り窯をエントランス正面に持ってくることで登り窯や陶芸を知らない人でも目に入り興味を持つことを願って配置した。

林道は少人数でも行える自伐型林業を用いて行う。林業体験も兼ねてプログラムに取り入れた。右図の緑線の導線のように計画した。ここで、伐採された木は登り窯の燃料や手工芸の材料また、燃えた炭は肥料にもなる為、北山での循環サイクルが生まれる。持続可能な環境に配慮した建物を目指した。

温泉棟

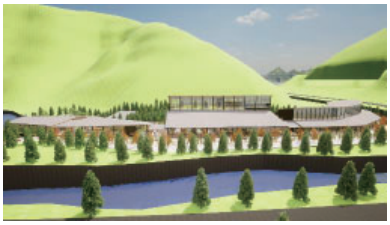
温泉施設ではいかにくつろぎリラックスしてもらえるかを意識して、解放感のある露天風呂を設計した。また自然との距離をより近くするため可能な限り植栽を近くに植えた。また、近年流行りのサウなどを設け、ニーズに応えられるよう努力した。また、休憩スペースを広く取り、温泉利用者以外でも使用できるようにした。ラグジュアリーだがどこか親しみのある空間を意識し内装デザインを行った。温泉には欠かせない卓球台なども、同じ棟の三階に配置し、学生や子供なども手軽に楽しめるようにした。丸い柱で細いルーバーを多くつけることで、他人からの視線を外すよう、休憩スペースに多く設けた。またこのルーバーは北山杉のありようを表現しデザインしたものでもある。休憩所の一階東側は全面ガラス張りで、目の前には日本庭園が広がる非常に優雅な空間を意識して設計した。天井板を設けず屋根の傾斜を魅せることでより解放感のある空間を演出した。

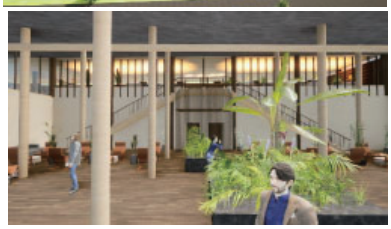
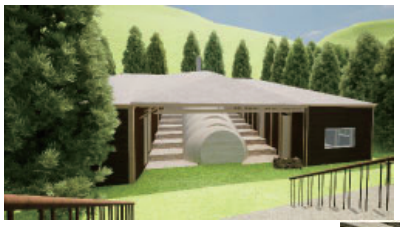
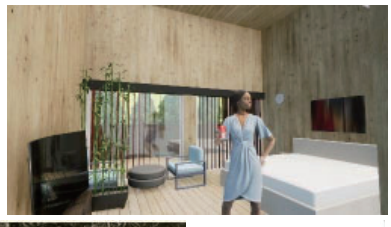
ホテル棟：客室

客室は上品でありながら落ち着く空間を演出したかったため、素材はナチュラルをメインにデザインした。ここでも木のルーバーを取り入れることで、アクセントとして、空間を遮りすぎない目隠しとして使用した。北山杉の均等に植えられた植林を彷彿とさせるデザインである。1 部屋 40 ㎡程度で非常にゆったりとした、空間で日々の喧騒を忘れリラックス出来る。また、キッチンカウンターなども完備した為、長期滞在などでも非常に使いやすいよう設計した。

販売棟：カフェスペース

ここでは登り窯で製作した陶器を使ったカフェスペースを設置した。手作りの良さをより一層感じられる。舞台状にすることで雨の日のイベントや小さな劇などにも使用できるよう設計した。





参考事例

HTTP://SYNCHRONIX.BLOG.JP/ARCHIVES/81620592.HTML

HTTPS://ZIBATSU.JP/ABOUT

Paper-Airport

学籍番号：ｋ19301
名前：土井友裕
指導教員：井上晋一先生

Paper-Airport

Student Number:k19301
Name:Tomohiro Doi
Supervisor:Shinichi Inoue Teacher



図１：イメージ画像

宮ノ上紙飛行機展望パーク

背景：近年、日本の社会問題の一つに高齢化により生じる弊害という問題が生まれている。高齢者の介護や単身高齢者の孤独化などの問題がある。また、近年新型コロナウイルス感染拡大の自粛により既存の交流減少など問題になっている。これらの問題を建築で解決するために、引きこもりがちな高齢者が自ら外に出かけようと考えるきっかけとなるような魅力的な建築をつくることが重要である。これが、高齢者の運動不足や孤独死の問題を改善させる手助けとなると私は考える。また、高齢者だけでなく高齢者から子どもまで様々な年代の人たちが集まることでさらに、高齢者の孤独死の問題を改善させる手助けとなる。



図２：敷地周辺航空写真

所在地：兵庫県伊丹市北本町２丁目
主な用途：展望台
敷地面積：15813m^2
建築面積：472m^2
延床面積：835.5m^2
キーワード：展望台

Location : 2,Kitahonmati,Itami,Hyougo
Main Use : Observatory
Site Area : 15813 m^2
Building Floor Area : 472 m^2
Total Floor Area : 835.5 m^2
Keywords : Observatory

敷地：猪名川や武庫川、天神川から流れ込む砂礫によって海が自然に埋め立てられ、伊丹台地一帯が隆起したことにより最大 20mの高低差により伊丹市の町を東西に物理的に分断している。この伊丹台地は南北に約 1.5ｋｍに及ぶ緑道があるが、現在の利用者は少なく、そのほとんどが高齢者となっている。緑道周辺には昔からの住民が多く若い夫婦や子供が少なく多くの高齢者が孤立している。また、近くにある伊丹空港は 1939 年（昭和 14 年）1 月 17 日に開墾した歴史のある空港です。

目的：制作のテーマは「高低差を生かしたランドマーク」です。そこで私は、近くに伊丹空港がある利点を生かして、飛行機を見ながら自作の紙飛行機を飛ばすことが出来る展望台を計画した。これは、コロナによって交流が希薄化したが、再び交流を活発化させる為に、地域の様々な世代が集まる場所となるように様々な人が利用したいと感じる計画にした。この施設は、ひとり暮らしや家の中で過ごしがちな高齢者、障がいのある人、子どもたち、地域住民が、自宅から歩いていける場所に気軽に集い、ふれあいを通して生きがい・仲間づくりの輪を広げることが目的です。また、内容は、紙飛行機、お茶を飲みながらのおしゃべりや会食会、健康体操、手芸、などです様々な年代の人たちの出かけるきっかけになる建築をつくることにより高齢者同士だけでなく高齢者と子どもなど様々な世代間での交流を活発化させることが目的です。具体的には、敷地の西側の孤立しがちな高齢者と東側の子育て世代の交流を軸に世代間での交流を増やし、地域住民が安心・安全を感じられるコミュニティをつくり、高齢者だけでなく、様々な世代の人たちが孤独を感じない空間にすることです。そのためにこの敷地では、集客力、安心・安全、景観の３つのポイントが重要だと考えている。これらのポイントを建築で表現するためには、高低差を生かした空間、ランドマーク的空間、明るい空間が重要だと考える。

高齢者の生活の実態：県内の高齢者（65 歳以上）人口は約 155 万人、高齢化率は約 30％と増加傾向にあり、特に高齢単身世帯が増加している。また、2025 年には、戦後のベビーブーム世代（団塊世代）のすべてが 75 歳以上の後期高齢者となり、2040 年には段階ジュニア世代が 65 歳以上となることから、高齢者人口がピークを迎えるとともに、介護ニーズの高い 85 歳以上の人口が急速に増加することが見込まれている。＊1

子どもの生活の実態：親の世代（1981 年）と今の子供世代（2016 年）を比較すると、運動やスポーツなど外遊びを行う子どもの割合は顕著に減少しつづけている。その差は、35 年間で 30％以上減少となっており減少が顕著だ。*2 また、体格が良くなればそれに合わせて体力や運動能力も向上するのではないかと思われがちですが、最近の子どもは、体格が良くなっているにもかかわらず、運動能力が低下する傾向だ。また、男女ともに肥満傾向児が増加傾向にあり、親世代（1981 年）は約 7％だったのが約 10％に増加している。＊3

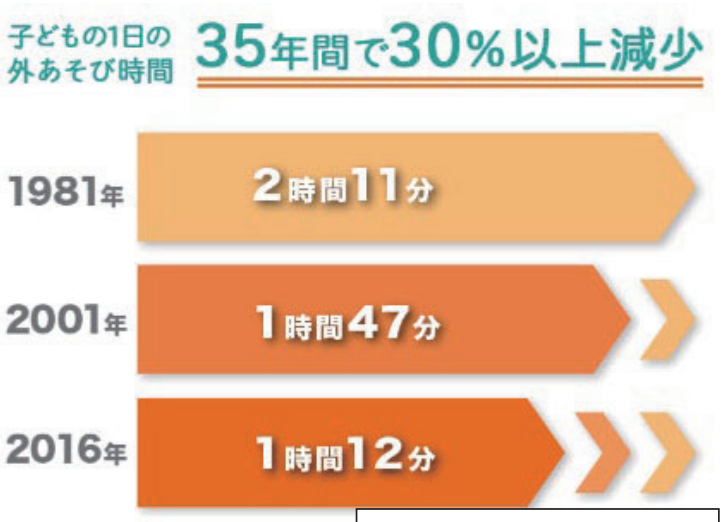


表1：子どもの1 日の外遊び時間の推移
シチズン時計調べ

参考：＊1：兵庫県　高齢者居住安定確保計画
*2：シチズン時計　子どもの 1 日の外遊び時間の推移
＊3：文部科学省　子どもの生活の現状

百年住宅

学籍番号　K19304
名　　前　中村拓真
指導教員　宮内智久

Centenary House

Student Number K19304
Name　Takuma Nakamura
Supervisor　Tomohisa Miyauchi

設計趣旨

住宅の中だけでなく、外でも人とのコミュニケーションが取れる空間づくり、町づくりを計画していくほか、多くの世帯から利用され愛され続けるような住宅を計画している。そのためには現在の住宅問題をいくつか解決することができるような計画を考える必要がある。例えば木造住宅の平均寿命を１年でも延ばす計画や、子世帯からの評価だけでなく親世帯からの評価もバランスよく獲得していくことでより多くの世帯から愛され続ける住宅が完成し、百年住宅という大きな目標が達成されるのではないかと私は考えている。

計画の背景

私が卒業制作で二世帯住宅を計画した理由は、私の祖母が現在入退院を繰り返していて、私の実家から祖母の家まで車で約 40 分ほどかかる距離にあるからである距離があるとなにかあったときに対応が遅れ、すぐにはかけつけれない。今は携帯があるので電話で会話はできるが電話にでないときなどはなにかあったのではないかと心配になる。こういった問題は誰しもが抱える問題だと思っている。このような問題を少しでもなくしたいと思い二世帯住宅を計画した。

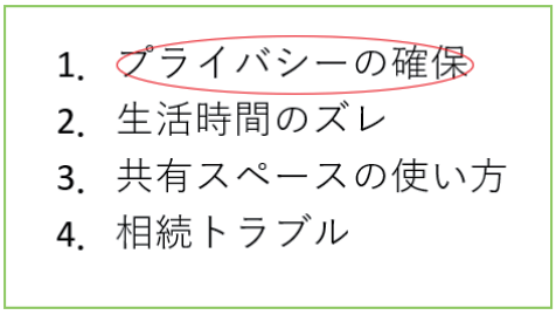
問題提起

1.　コミュニケーション

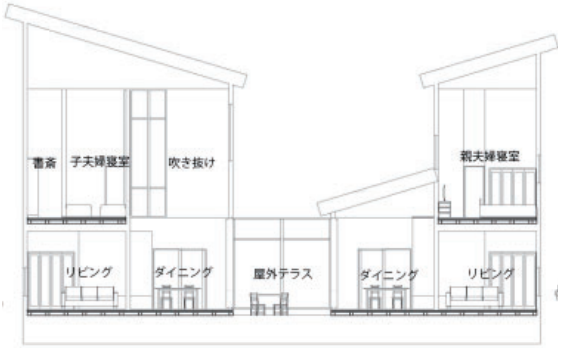


敷地の中には元々使われていない田んぼがあるので、そこで果物や野菜を４世帯で一緒に育てていくことで家庭内でのコミュニケーションだけでなく、たくさんの人とコミュニケーションが取れるようになると考えている。月に１回程度４世帯で何を育てるかなどを話し合う場を設けるとさらにコミュニケーションが生まれると考えている。

2.　プライバシーの確保



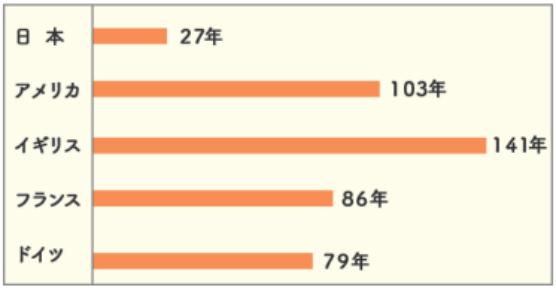
二世帯住宅のデメリット



断面図

二世帯住宅を建てる際にいくつかのデメリットがあげられる。その中でプライバシーの確保問題がある。これを解決するために分離型の二世帯住宅を計画した。リビングや屋外テラスなど、交流が生まれる空間を１階に、子ども室や夫婦寝室などプライバシー空間を２階に、このように１階と２階ではっきりわけることで二世帯住宅のデメリットでもあるプライバシー問題を解決させた。

3.　住宅の寿命が短い



日本と海外の住宅の平均寿命

このグラフのように、海外の住宅の平均寿命は日本の約 40 倍近くもある。海外の住宅は、耐久性とデザイン性に優れた長持ちする住宅

所在地：大阪府大東市扇町
主な用途：住宅
敷地面積：4210 ㎡
建築面積：116.59 ㎡
延床面積：206.02 ㎡
キーワード：二世帯　住宅の寿命

Location : Ogimachi,Daitoushi,Osaka
Main Use : Housing
Site Area : 4210 ㎡
Building Floor Area : 116.59 ㎡
Total Floor Area : 206.02 ㎡
Keywords : Two households,Housing life

であることが当たり前になっている。日本の木造住宅の平均寿命は約30年と言われているが、これは30年で住めなくなるというわけではなく、住む人のライフスタイルの変化で建て替えを選ぶ人が多いという事実がある。日本の木造住宅本来の寿命は約80年と言われている。イギリスでは141年も住宅がもつと言われている。その理由は、3世代にわたって孫の代まで家を住み継ぐのが普通だからである。日本でも孫の代まで家を住み継ぐということが一般的になれば、少しでも住宅の寿命が長くなり、海外のように100年近くも住宅がもつようになるのではないかと考えた。

住宅を長持ちさせるには

木材は湿気・腐敗を防げば良い状態を長く保つことができる。木材が腐敗する原因の水回りには十分気をつける。長持ちする木材を使うなどがあげられるが、住宅の中の用途にも工夫が必要になってくる。



2階の廊下から親夫婦寝室に行くまでの道をウォークスルーにすることで扉をなくし車いすでも行き来がしやすいようにしている。



和室の高さを椅子の高さぐらいまで上げ、座れるようにもしている。将来車いすを利用する生活になることも考え、1階の和室を1つの部屋にすることで階段を利用しない生活ができるように計画している。

敷地



大阪府大東市扇町

この敷地の選定理由は、幼稚園・小学校・中学校・病院・公園・駅この6つの用途が近くにあるため。私の卒業制作では二世帯住宅を考えているので、子どもから高齢者までを対象にしている。そのため、この6つの用途が近くにある場所がいいのではないかと考えた。



末広公園

駅の横には末広公園という大きな公園がある。ここでは普段子どもたちが楽しく遊んでいる。末広公園を使って、たくさんの人と交流が生まれていくのではないかと考えたのも一つの選定理由である。



建物全体のパース

海上移動型保護猫カフェ

学籍番号　k19305
名　　前　永田怜和
指導教員　永井秀幸先生

-Maritime mobile protected cat-

Student Number　k19305
Name　Nowa　Nagata
Supervisor　Hideyuki　Nagai



(図 1)断面パース

1.　計画概要

近年減りつつある殺処分頭数[1]。犬の殺処分頭数に比べ、猫は約五倍多い[2]。それを少しでも減らすために TNR 活動[3]の一拠点として、　海上移動型の保護猫カフェを行う計画である。最終的には飼い主がいない猫をなくすことを目標とする。主に殺処分頭数が多い都道府県を周　る。拠点は殺処分頭数が多く[4](図 2、図 3)人の多い福岡県の博多港[5]とする。そして九州・四国を中心に各地を周りながら、TNR 活動を行う。災害時のペットと共に非難できる場所としても提供可能とする。

2.　計画背景

紙粘土などを使って形から作業を始めた。巣のようなものをつくりたい、その為にバイオミミクリーという技術が使えるのではないかと考えた。しかし自分自身の好きなものでないとこれ以上深掘りができないことに気が付いた。そこでペットで飼っている尚且つ猫カフェで働いているということもあり、一番身近な猫という存在に着目した。問題をみつけ対策を考えることで現在の計画案へとたどり着くことができた。

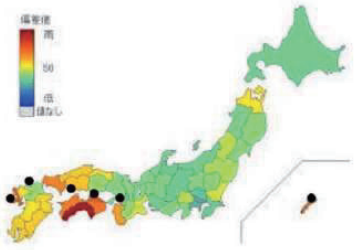
2022 年に話題になったウクライナとロシアの戦争の際、ペットと共に非難出来ないことがニュースで取り上げられていた。ペットを飼っている私も他人事とは思えない内容であった。これをきっかけに日本国内でも災害時のペットと共に非難ができないことを知り、緊急時に移動でき、ペット同伴可能な施設があれば便利なのではないかと考えた。動物と人に寄り添った建物を作りたい。人と猫が寄り添って共生できるようにしたい。

3.　計画案概要

殺処分頭数が多い都道府県を赤、低い都道府県を青でグラデーションにして色分けした日本地図だ。黒色の点は主に周る港とする。（図 2）この表を見る限り、四国、九州が多い傾向にある。（図 3）飼い主がいない猫は捕獲し、避妊不妊手術を施して TNR 活動地域もしくは猫島[6]へリリースする。保護対象は基本的に子猫・病気を持った猫になる。子猫は外の環境に順応しにくい。そして里親が見つかりやすいから。病気を持った猫は治療＋感染拡大防止のためである。猫は一度環境に対応出来れば船の中でも生活することができるため、猫保護する際には一時間ほど試運転をして保護できるか検討。できない場合は地域猫としてリリースする。

猫の飼育頭数は最大で 80 匹保護できるスペースを設けてはあるが、60 頭以内で常時活動。災害時により多くの人と動物を保護できるにするためと、余裕を持った活動を心掛けるためだ。災害時津波が収まり次第避難場所として提供する。

基本は走行しながら想定できる災害は避けて、どうしようもない回避不可能な場合のみ対策を行う。地震により津波が避けられない場合、沖だしを行う。台風は停留場の中央で風に逆らいながらその場に留まるなど。



(図 2)

順位	都道府県	殺処分数 総数	殺処分数 人口1万人あたり	偏差値
並替	北 南	↓ ↑	↓ ↑	↓ ↑
1	高知	4,902匹	64.67匹	83.69
2	香川	4,617匹	46.54匹	69.65
3	長崎	6,365匹	44.92匹	68.39
4	沖縄	6,265匹	44.72匹	68.24
5	徳島	3,215匹	41.22匹	65.53
6	愛媛	5,725匹	40.23匹	64.76
7	山口	5,630匹	39.04匹	63.84
8	和歌山	3,512匹	35.30匹	60.94
9	広島	8,571匹	30.02匹	56.85
10	島根	2,033匹	28.55匹	55.71

(図 3)

[1]犬・猫の引取り及び負傷動物等の収容並びに処分の状況ー環境省　https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/2_data/statistics/dog-cat.html
[2]犬の５倍「殺処分される猫の６割は子猫」という悲劇 ｜ ペット
https://toyokeizai.net/articles/-/611599
[3]さくらねこ TNR とは（TNR 先行型地域猫 - どうぶつ基金
https://www.doubutukikin.or.jp/activity/campaign/story/
[4]犬猫の殺処分が多い県はどこ？都道府県別に比較してみた …https://inu-neko-sagashi.com/article/2017/10/09/abandon-animal7/
[5] 博多港 - Wikipedia
https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8D%9A%E5%A4%9A%E6%B8%AF
[6]猫島とは？行くときの注意点や島が抱える問題…秋田で会えるのは象潟漁港の港猫
https://pet-info-room.com/topic/useful13

所在地：各都道府県の港
主な用途：展示兼飲食店
敷地面積：―
建築面積：約 365 ㎡
延床面積：約 994.5 ㎡
キーワード：木造・鉄板・鉄骨

Location：Ports of each prefecture
Main Use：Exhibition facility & Restaurant
Site Area：―
Building Floor Area：Approx.365 ㎡
Total Floor Area：Approx.994.5 ㎡
Keyword：Wooden・Iron plate

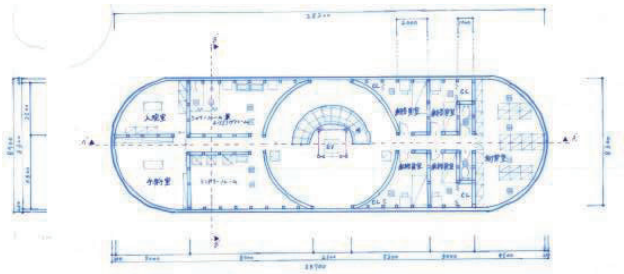
地下一階部分は従業員のフロアとする。手術室と入院室をいれることで効率よく去勢手術を行う。(図 4)

一階部分は猫部屋を四つも設けている。健康体と非健康体（猫エイズ）、猫の性格によっても部屋を区分するため。猫部屋３、猫部屋４へは従業員以外立ち入り禁止とするが、部屋をガラス張りにすることで様々な猫達を見ていただく。(図 5)

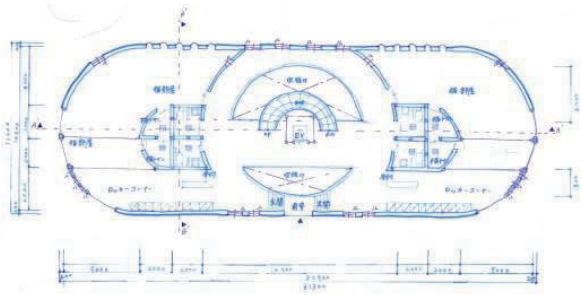
二階部分では物販コーナーと飲食コーナーを設ける。(猫がいる部屋では食事を禁止するため。)一階と二階の猫部屋を吹抜けにしたことにより運動量を確保。お客様と猫どちらもにも楽しいを提供する工夫の一つだ。(図 6)

最上階には室内テラスと屋外テラスを設置することで猫の健康を保つ。飼い主が見つからない猫は生涯をこの猫カフェで過ごすことになるので、風に当たれる部分を設けた。屋外テラスは猫達に危険が及ばないように、壁にパンチングを行い、風通しと太陽光を取り入れる。そしてソーラーパネルと雨水浄水タンクを設置し、自家発電を行う。(図 7)

全体的に太陽に当たることを意識したため、天井の中央一部分をガラス張りにした。エレベーターもガラス張りにすることで中央の空間を開放感を持たす。全フロアが吹抜けでつながっているため、人の動きがわかるやすく従業員が多くなくてもよい。全体のフォルムを曲線にすることで優しいイメージを持たした。地下一階の下の空間にはエンジンを三台配置。エンジン一つにつきプロペラが一つ。地下一階の床部分からその空間に入る。鉄板と木造で建築。(図 1)



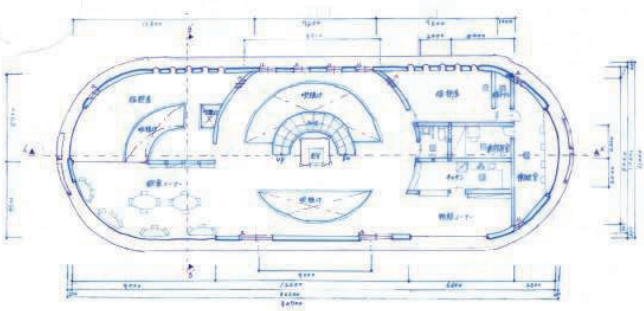
(図 5　地下一階平面図)



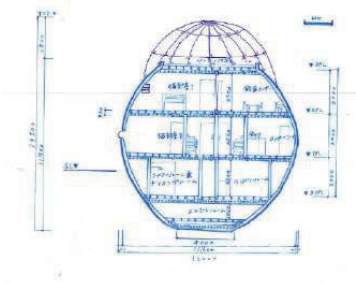
(図 6　一階平面図)

4.　活動内容

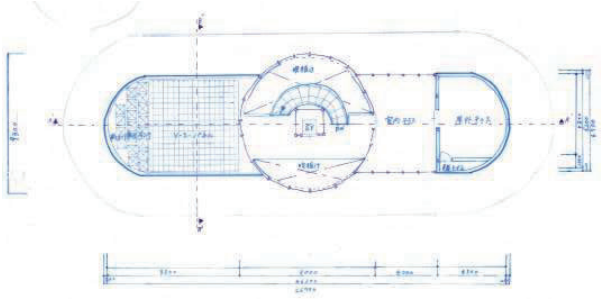
TNR 活動を行うにあたって猫島・TNR 活動グループ手を組む。野良猫兼健康体であれば猫島に移して生涯を終えてもらう。子猫や非健康体は生きる力がないため、保護対象となる。維持方法は寄付金と猫カフェで得る資金等。夏は北側で日本海側、冬は南側太平洋側へと移動する。船の規模から 80 匹は保護が可能。乗務員は少なくても 8 人で回せると想定。活動は主に猫の世話、カフェの経営となるため、乗務員はボランティアの方と常に乗員する方が行う。操縦士は移動するときのみ乗船。災害時において避難しに来た動物たちは飼育室に収容する。人を受け入れるとなると 20 人が限度と想定。



(図 7　二階平面図)



(図 9B’断面図)



(図 8　最上階平面図)

浜寺のみせるリゾート高齢者住宅

K19306　永原史綺

・計画背景

少子高齢化が進む現代日本において、高齢者住宅の需要と供給が伴っていないと考えたためである。少子高齢化は社会問題として問題視されているうちの一つ。高齢者の人口増加は 1950 年では総人口うちのたった 5%にも満たなかったが、2018 年には 28%に達している。

他にも、65 歳以上の高齢者の 4 人に 1 人が責任能力、連帯責任者が居ないことで賃貸の入居を断られている、一人暮らししている方が増加化傾向にある、などの現状がある。高齢者介護には先述べた一人暮らしのほかに。介護難民、老老介護、認認介護、虐待、孤独死などの問題がある。こういった問題を少しでも起こさせないため、高齢者住宅の設計を選択した。

・計画目的

この提案の目的としては今までにない新しい理想の高齢者住宅を設計すること。そのためには将来自分が住みたい高齢者住宅であり、家族が入居しても安心できる高齢者住宅である必要がある。

現在の高齢者住宅は閉鎖的であり、中に入ると急に隔離された感覚を感じる。外に開放してしまうと、高齢者の街の徘徊など危険な面もあるため、内側に開放しつつ、内外の空間の連続性を実現することができるならば、施設内でのいじめ、虐待が行われる可能性を低くすることが可能だと考えた。

また、長く暮らすことになるため、趣味に没頭できる、入居者同士が交流しやすい空間、そして何よりも家族との交流を意識したデザインにすることが必要だと考えた。これらの高齢者のための要素を散りばめた、看護者が管理、作業しやすい高齢者住宅だけに終わらせず、高齢者が安心し、生活を楽しむことができる高齢者のための高齢者住宅を設計した。

優先度を介護職員のことを高齢者と同列に扱ってしまうと、今まで高齢者施設と同じになってしまう何も変わらないと考えたため、介護職員を二の次とさせていただいた。

・リゾートの理由

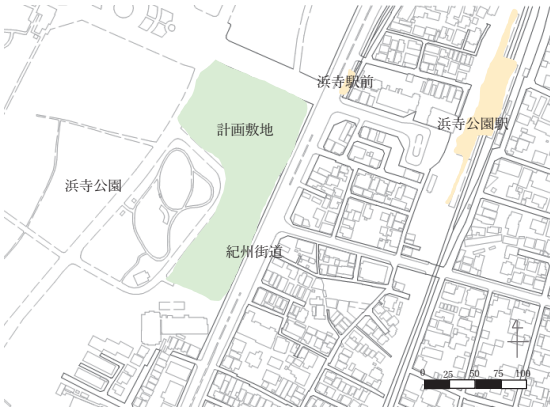
なぜリゾートなのか、それは老後に行いたいことに旅行と答える人が多く見受けられたためである。若いときから社会生活をし続けていれば、いつからか疎遠になり始めた自然の中でゆったりとした時間を過ごしたいと考えることは当たり前だ。

自然にはリラックス効果があり、身近に感じることで精神的な落ち着きを与えることができる。そういった面で高齢者住宅と相性がいいと思い、リゾートを選択した。リゾートといっても、豪華で派手なものではなく、軽井沢の避暑地のような空間をデザインしたいと考えた。

・計画敷地

敷地場所は大阪府堺市西区浜寺公園町 2 丁にある。近くに馬場記念病院や小さくても地域に馴染んだ病院が並んでいる。また、目の前に旧国道が通っており、徒歩 3 分あたりに 2 つの駅、さらにはバス停などが存在しているため、交通の便も優れていることから高齢者が過ごしやすい地域だと思いこの場所選定した。

この場所を選定した一番の理由は、浜寺公園があることだ。浜寺公園は明治から戦後にかけて海水リゾートとして賑わった場所で、「東洋一の海水浴場」ともいわていた歴史がある点。都会の喧騒から離れ、放課後に小学生が集っているほか、高齢者の散歩場所になっているなど老若男女から親しまれている点である。



所在地：大阪府堺市西区浜寺公園町２丁
主な用途：高齢者住宅
敷地面積：10,254.69 m²
建築面積：5033.5 m²
延床面積：9.631.5 m²
キーワード：高齢者住宅、リゾート、公園

Location : 2-chome,Hamaderakoen-cho,Nishi-ku,Sakai-shi,Osaka
Main Use : Housing for the elderly
Site Area : 10,254.69 m²
Building Floor Area : 5033.5 m²
Total Floor Area : 9.631.5 m²
Keywords :　Housing for the elderly, resort, park

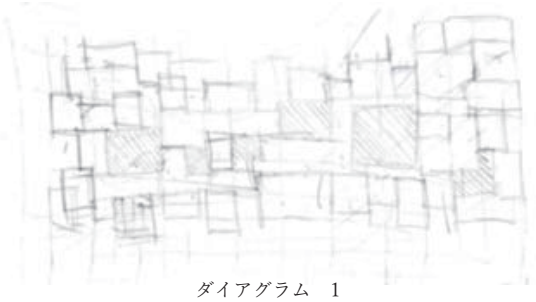
・計画趣旨

計画するにあたって、重要な点は以下の通りである。

1. どんなことよりもまず、入居者のためのデザインを行い、その次に施設の管理のしやすさなどを考えていく。その次とはいえど、介護者の苦労は多いため、介護者に気遣った設計は必要である。
2. ランダムに部屋を配置し、その部屋ごとで違いを生み出すことで認知症予防にも利用できるようにする。また、あえて廊下という概念を希薄にすることで、すべての通路兼部屋を入居者同士の交流の場とすることができる。
3. 公園と街に挟まれた場所に計画するため、公園と街の関係性を途切れさせないよう、連続性のある空間をデザインする。
4. 施設内に農業や園芸が出来るほどの中庭を設計することで、趣味のきっかけや、農業を行うことによる体力維持などを計る。アカマツなど、公園と同じ植物を植えたりすることでも、公園との関係性を持たせる。

下の図について

グリッドから大小形状がさまざまな四角形を書き出し、それぞれに部屋としての役割を与えることで、連続した室として設計する。隣り合った室をただ壁とドアで分けるのではなく、日本人特有の境界を利用した、袖壁や色の違いで区別したいと考えている。そうすることで、全ての部屋を一瞥することが出来、入居者の安全面にも有用である。



ダイアグラム　1



外観パース１

高齢者施設の形態

介護施設は大きく分けて国営と民間の２種類があり、介護付き有料老人ホームはそのうちの民間企業が運営する「民間施設」である。受け入れることが可能な幅が広いことが特徴の１つ。

個室の配置型はユニット型を採用している。従来型よりプライバシーを確保しやすく、家族と過ごす日常生活と同じ感覚で生活ができる。少人数のケアに特化している。

・施設概要

用途：高齢者種瀬節(介護付き有料老人ホーム)
階数：地上２階　構造：壁式鉄筋コンクリート造
居室；33 室(33.75 ㎡)　二人用居室：5 室(38.25 ㎡)
その他、読書室、娯楽室、共同キッチン、園芸場、食堂、事務室、相談室、倉庫

・参考資料

(1)内閣府
https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w2019/html/zenbun/index.html
(2)厚生労働省
https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/16/backdata/index.html
(3)介護 ways　https://www.kaigoways.com/caresystem/level.html
(4)総務省統計局　https://www.stat.go.jp/data/topics/topi244.html
(5)高齢者向け日常生活関連機器・設備 設計ガイドライン
person_base-guide-life-1.pdf (hql.jp)
(6)「高齢者のための繊維」特集　高齢者と人体寸法データ　ja (jst.go.jp)

京都競馬場周辺計画

学籍番号：K19307
名　　前：灘井洋一郎
指導教員：山内貴博

Kyoto Racecourse Area Plan

Student Number：K19307
Name：Nadai Yoichiro
Supervisor：Yamauchi Takahiro

制作背景

○京都競馬場は京都市伏見区にある競馬場であり、1925年に現在の場所に移転し、開設された。それまでは、1907年下京区に新設された島原競馬場（旧京都競馬場）が1913年に焼失し、同じ年に京都府船井郡須知町（現京丹波町）に移転された須知競馬場が京都の競馬場として活躍した。島原競馬場跡地には、京都リサーチパークが建っており、須知競馬場跡地は、京都府立須知高等学校の農場等になっている。京都競馬場は最寄りの駅から淀競馬場あるいは単に淀と通称される。施工者並びに管理者・所有者は日本中央競馬会である。収容能力は12万人で周回は右回り、馬場は芝とダートがある。現在は大規模な改修工事のため、2020年11月から2023年3月（予定）まで競馬開催は行われないことになっている。

○京都競馬場は関西の主要レース（ＧＩレース）が開催される競馬場であり、中でも有名なレースは菊花賞と天皇賞・春である。例えば、2017年の菊花賞の入場者数は3万1097人と抜群の集客力がある。しかし、競馬場に来られる方は、競馬を見て楽しむことが目的であるので淀や周辺地域のことを何も知らずに帰ってしまうことになる。

淀や伏見の特徴

○酒造業

近くに桂川、宇治川など主要な河川が流れ、昔から伏見港などを中心に水運の拠点として栄えてきた。良質で豊富な地下水を活かして酒造業が発達し、全国有数の生産量を誇る伏見の代表的産業となっている。

○農業

農業も耕地面積市内第1位を誇り、米、野菜、観賞用の植物全般を指す花き等が生産されている。

○町並み

伏見区には神社仏閣、酒蔵や名所史跡の資源、かつての城下町、門前町、港町としての風情を残した町並みが残っている。

○淀駅

京阪本線淀駅は京都市の南部に位置しており、京都・大阪方面への通勤・通学が便利な駅である。

○河津桜

京都市伏見区の淀水路沿いに咲く早咲きの河津桜であり、淀水路の河津桜として近年人気がある。昔からの桜の名所ではなく淀の町おこしの一環として2002年に河津桜の苗木を植えたことが始まりである。



所在地：京都府京都市伏見区葭島渡場島町
主な用途：京都競馬場
敷地面積：約 22600 ㎡
用途地域：第二種住居地域
建蔽率：60%　容積率：200%
キーワード：京都競馬場・街の活性化・交流

Location : Yoshijima Watashibajimacho, Fushimi-ku, Kyoto-shi, Kyoto
Main Use : Kyoto Racecourse
Site Area : Approx. 22600 ㎡
Area Zoned For Use : Second Class Residential District
Building Coverage Ratio : 60%　Floor Area Ratio : 200%
Keywords : Kyoto Racecourse, Revitalization Of The City, Exchange

設計趣旨・コンセプト

実際の競馬場の改修計画に合わせて緑の広場を持った施設計画を提案したいと考えた。

制作背景でも書いたように競馬場に来られる方は競馬が目的であるので淀や伏見などの周辺地域のことは何も知らずに帰ってしまうことになる。これでは、この地域の魅力が伝わらないまま変わらないのではないかと感じた。競馬終了後直ぐに帰るのではなく、楽しんでもらえるような施設をつくり、人々を滞留させられるようなことが出来ないかと考えた。

設計内容・用途

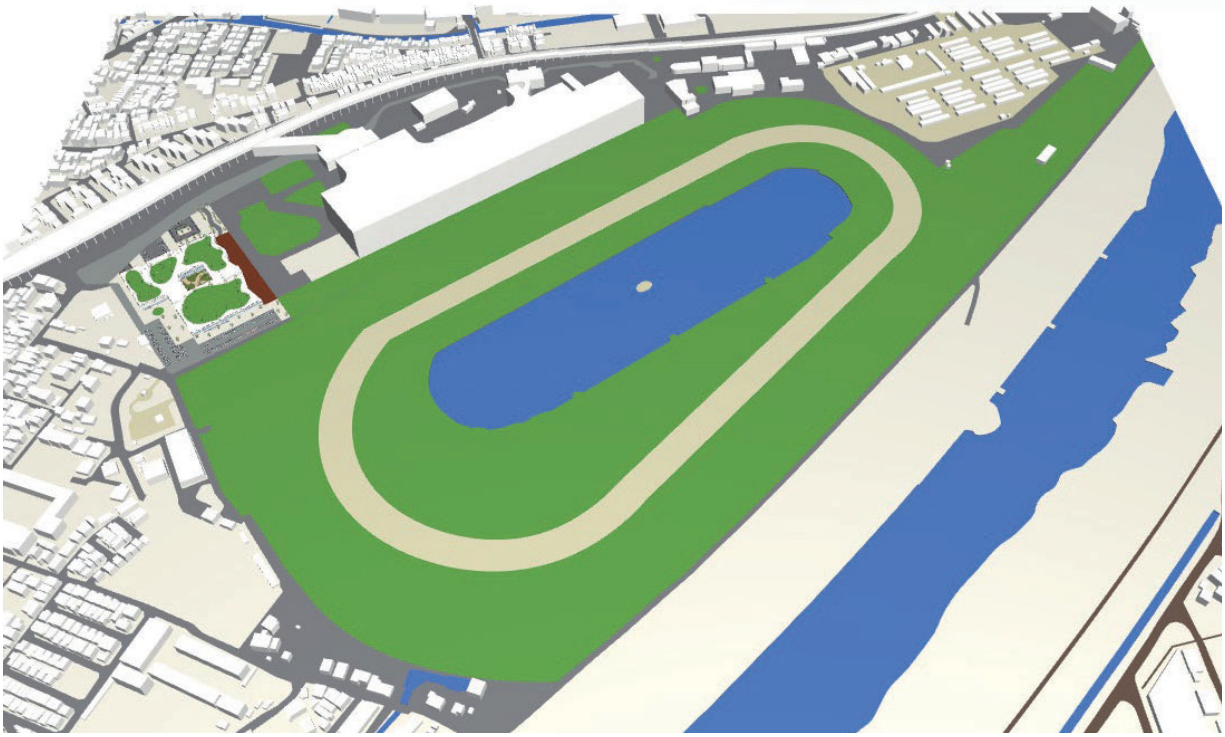
緑の広場を持った施設計画は楽しいエリアを中心に考えていく。楽しいエリアには伏見の特徴である酒造業を活かしたバーや屋台、農業を活かしたレストランを設けたいと考えている。

フランスパリのパリロンシャン競馬場はフランスのパリ西のセーヌ川沿い、パリ 16 区ブローニュの森の中にある世界で一番美しいと言われる競馬場であり、平地競争専用で、凱旋門賞をはじめとするフランス競馬の主要な競争が行われることで知られている。パリロンシャン競馬場の場所にはもともとロンシャン王立修道院が建てられており、創設に貴族が関わっていることから競馬場が社交場として使われることが一般的になったと言われている。パリロンシャン競馬場の社交場という事例を受けて日本にも日本のスタイルに合った交流できるスペースを計画していく。

緑の広場はもともと子どものための広場であるので屋上は子どもたちが遊びまわれるような広場をつくりたいと考えている。子ども同士や家族で楽しめる屋上広場には、アスレチック遊具なども設けたい。

商業施設に広場が足されたような一つの街をつくるイメージで計画していく。

競馬の抜群の集客効果を利用し、人々を滞留させる仕掛けで活気のある楽しいエリアをつくることによって街全体を活性化できるような計画とする。



ホリスティック治療を広めるストレスケアセンター

学籍番号　k19308
名　　前　夏目　優大
指導教員　根來　宏典

Stress care center that spreads holistic treatment

K19308
NATSUME Yudai
NEGORO Hironori

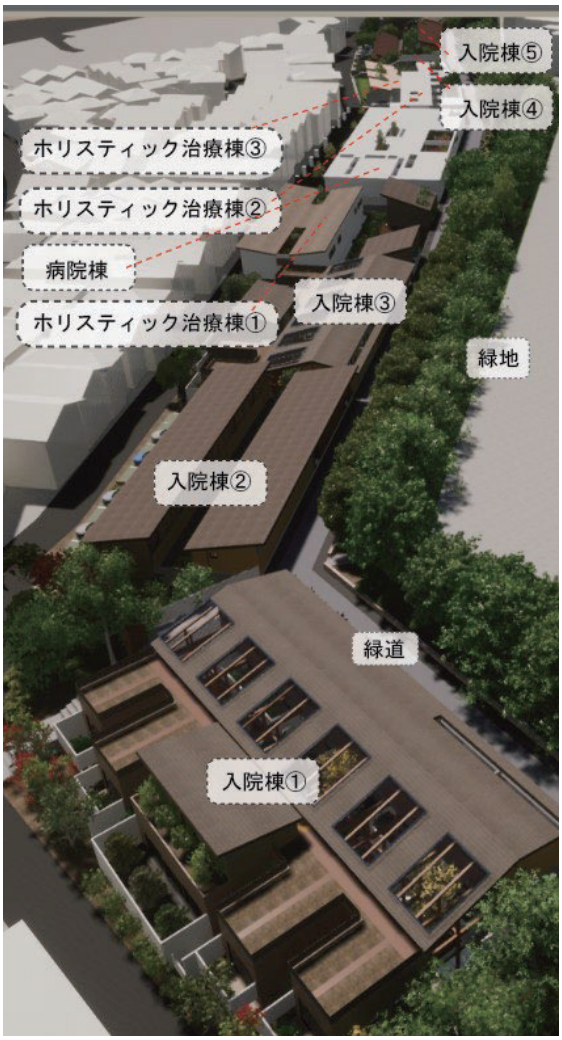


図１　鳥瞰パース

1. 背景と目的

現在、うつ病は社会的な問題である。発症率は約 6%の人がうつ病にかかっているとされており、現在も増加し続けている。うつ病は、心の病気なため患者でさえ診断が難しいのが現状である。現在使用されているのは薬治療である。約 3 カ月間、服用することで脳に改善はみられるが、根本のストレス解消ができないため、回復期に再発率が高く、一生涯の病気となりやすい。

そこで、今回の計画として薬治療とは別に、ホリスティック治療を中心とした計画とした。その中でも、ストレスに最も有効的である緑を建築に取り入れた設計、敷地にすることで、施設内のどこからでも緑を眺めることができる。この施設で、一生涯の病気から治る病気、社会復帰を目的とした建築を提案していく。

2. ホリスティック治療とは

人間を「体・心・気・霊性」に加え、環境や健康を全体的に捉えることであり、治療は西洋医学の利点を生かした各種代替療法を総合的、体系的に選択・統合し、患者に合った適切な治療を行う。その結果、自然治癒力を高め、増強することが治療の基本である。うつ病も自然治癒力の低下にストレス負荷が起こることで、病気になる。そのため、専門医でさえ診断の断定が厳しいうつ病に対して、有効な治療法である。診断で得た症状に対して一つ一つ違う療法を行うため、自然治癒能力だけでなく、根本のストレスの原因にも対処できるため、薬治療で問題となっている、回復期の再発率を防ぎやすいのが特徴である。

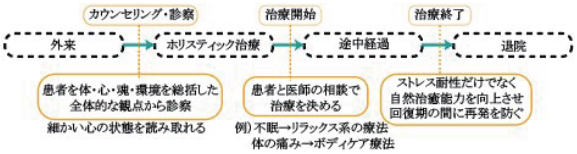


図２ ホリスティック治療経過

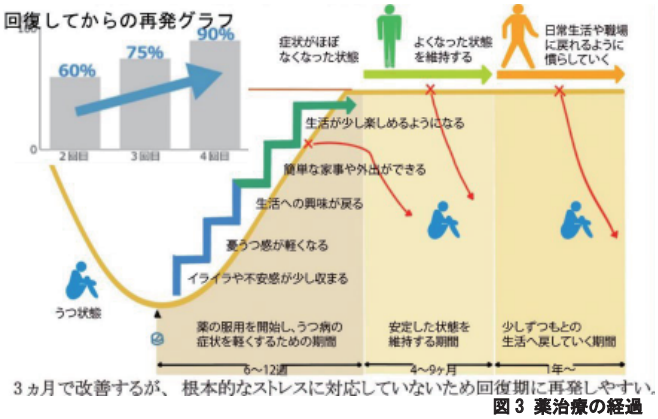


図３ 薬治療の経過

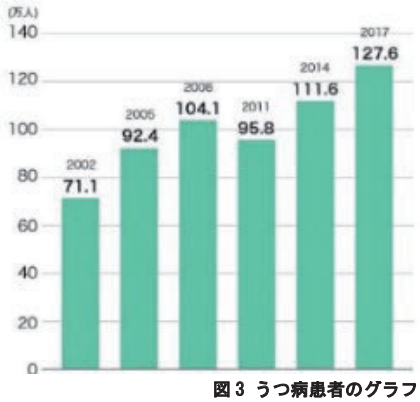


図３ うつ病患者のグラフ

所在地：兵庫県伊丹市北園１丁目
主な用途：病院、公共施設
敷地面積：15553 ㎡
建築面積：4971.94m2
延床面積：8071.81m2
キーワード：病院・ホリスティック治療・緑道・地域・外構・うつ病

Location : 1-chome Kitaen, Itami City, Hyogo Prefecture
Main Use : hospital. public facility
Site Area : 15553 m^2
Building Floor Area :4971.94m^2
Total Floor Area : 8071.81m^2
Keywords : hospital. holistic treatment.green rode.area.exteria.depression

3，敷地概要

今回のうつ病の形態は、長期入院を基本としている。そのため、社会復帰後、人との関りが少ないと人間関係にストレスを感じてしまう。そこで、地域の特徴を生かし、人との関りを持つことを考えた。選定地域は兵庫県伊丹市である。生物多様性に優れた自治体ランキングで全国一位に選ばれる程、自然豊かな地域である。そのため、緑地や公園が複数存在し、緑道も整備されているため、患者が地域の緑道を通して散歩できる点や自然を守るボランティア活動ができる点から選定した。敷地は住宅地の一角を敷地とし、河川や緑地、緑道がある敷地である。他の緑道を歩く前に敷地内の緑道を散歩することに慣れることを考慮し、この敷地を選定した。



図４　兵庫県伊丹市の敷地案内図

建築計画

4-1）土砂崩れを防ぐ建築形態

今回の敷地は土砂災害警戒区域の緑道が近くにある。そのため、土砂災害から守る建築を提案する必要がある。そこで、崖地と接する建築は一階を擁壁の代わりとなる壁式 RC 構造、2 階を木造とする。また土砂だけでなく緑が倒れる可能性があるため、傾斜のままでは危険と判断した。傾斜地の土の部分を 4mの高さまで平地にして、平地の部分に元々あった緑道と緑を植え替えることで元の敷地の特徴を残しながら建物の構造で土砂災害の被害を防ぐ計画を提案する。

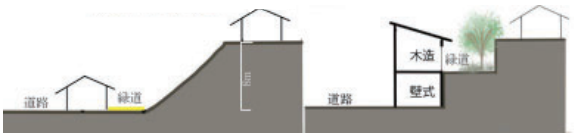


図５　土砂のダイアグラム

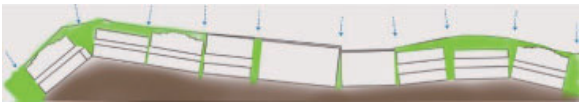


図６　配置ダイアグラム

4-2）配置計画

連続した建物が続くと景色が単調になり、歩くと圧迫感が生まれる。そのため、建物を分棟にすることで空間が生まれ、その空間に緑を植えることで景色に彩が生まれ、緑地部分との緑に奥行きが生まれるので、歩いていて、景色を楽しむことができる。また、緑道と道路を繋ぐ階段を計画することで、視線が抜け緑道の緑地を眺めることができるようにしている。

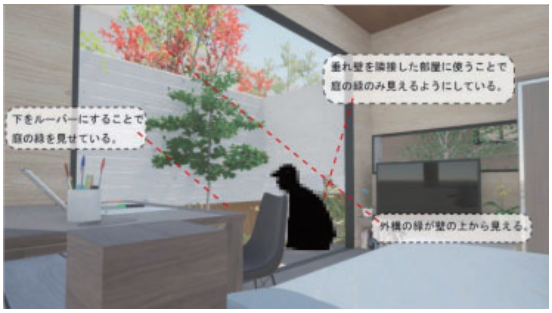


図７　入院棟①の病室から見た庭の計画

4-3）緑道を生かした計画

今回の治療方法はあまり知られていない治療法である。そこで、断面計画から生まれた緑道を普段からこの地域の公園や緑道を散歩している人をターゲットとし、緑道から入れる公共施設を計画する。公共施設は、休憩所だけでなくホリスティック治療を知ってもらう

ライブラリーや体験できる足湯のスペース等を設けることで利用しやすいようにしている。また、緑地の空間に、足つぼスペースや散歩コースを計画することで、公共施設を利用しない人でも緑道を楽しめるようにしている。

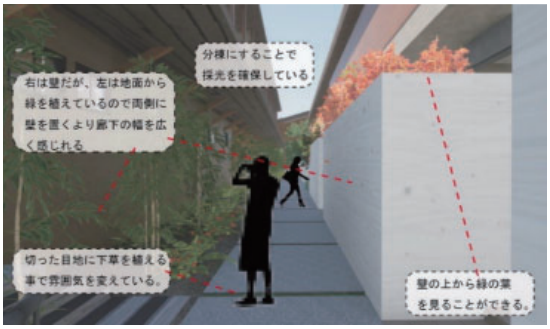


図７　入院棟②の廊下兼散歩コース

建築士試験の出題傾向に関する歴史的研究
～国外近代建築について～

学籍番号　K19309
名前　西田緋彩
指導教員　江本　弘

建築士試験　近現代建築　西洋建築史
三大巨匠

1. 研究の目的

世界には多くの建築家・建築作品が存在し、建築業界に影響を与えてきた。本研究はその中でも日本の建築業界に影響を与えたと考えられる建築家・建築作品を、建築士試験問題のなかに読み解くものである。西洋建築の出題を悉皆収集したうえで、特に、国外近現代建築の出題を扱う。

日本の国家資格である建築士は、日本で設計・工事監理をするために必須である。その試験に出題される問題には、一級、二級それぞれの職能として求められる実作の知識が含まれる。本研究では建築士試験に出題される問題の出題内容と傾向を通時的に分析し日本の建築業界における常識の形成と変遷の過程を明らかにする。

2. 建築士法の時代背景と建築計画における西洋建築史

参考文献⑬.⑭をもとに、建築士法成立までの日本の建築家から建築士への流れを概括すると以下のようになる。西洋にならった、設計・監理を専門とする建築家（Architect）職能の発端は明治初頭にさかのぼる。1862年に工部卿・伊藤博文による美術教育が開始され、黎明期には、ジョサイア・コンドルが建築家教育者として日本に招かれ、西洋建築の学と術の教育が開始された。

明治末まで、同様の職能には様々な呼称があった。設計専業の組織にいる設計者を指すものとして、「建築士」が選ばれ、全国建築士会が設立されたのは 1914 年である（翌年、日本建築士会に改称）。日本建築士会の根底には西洋建築の美術教育あったことから、欧米モデルの建築士法案を検討し始めた。しかし、日本は地震国であり、イギリスやフランスとは求められる職能が異なった。日本では、美術的素養より技術的素養が優先された。

その後、1940 年の第 75 回帝国議会通常会に至るまで１２回に及ぶ建築士法制度の運動が繰り広げられ、「建築士法」は、1950 年 5 月 24 日に公布された。これは、設計・監督技術の水準・分布・業務等の現状を是認した上で、同業者の反発の少ない形で成立したものだった。

3. 方法

一級建築士、二級建築士試験過去問（1951～2022）をすべて収集し（参考文献①～⑫）、出題された国外近現代建築・建築家をデータ化。出題された建築作品を近代以前、近代、現代の３つに分け、近代と現代について扱う。年代は 1850 年までを近代以前、1851 年～1945 年を近代、1946 年以降を現代とする。

データを、試験出題年順に５年ごとに区切り出題された建築・建築家の出題頻度をグラフ化する。作成されたグラフを用いて出題頻度、出題回数などを一級、二級、一級と二級の総合から比較し考察する。

4. 結果

4－1. 建築家

出題された建築家の一級二級の総合は 58 人、一級二級共に出題された建築家は 16 人、一級のみ出題された建築家は 34 人、二級のみ出題され建築家は 8 人である。

出題回数が多いのは近代建築の四大巨匠であり、特にル・コルビュジエとフランク・ロイド・ライトが多数出題される。

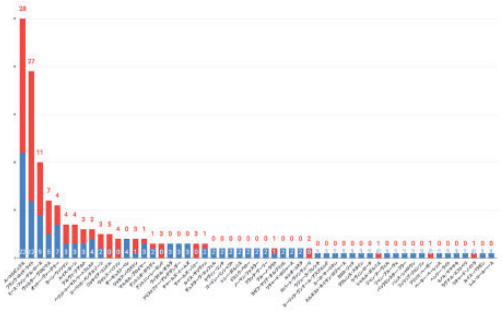


図１　建築家　一級に二級の出題回数の色分け

4－2. 建築作品

出題された建築作品の一級二級の総合は 110 作品、一級二級共に出題された建築作品は 36 作品、一級のみ出題された建築作品は 58 作品、二級のみ出題された建築作品は 16

作品である。近代以前の建築作品は 38 作品、近代の建築は 34 作品、現代の建築作品は 38 作品である。

出題回数は建築家と同じように四大巨匠の作品が順に多数出題され、建築家と比例するように建築作品が出題されている傾向にある。

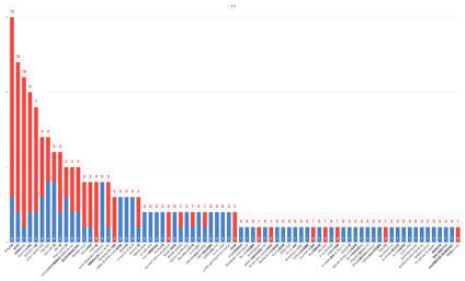


図 1.2　建築作品　一級に二級の出題回数の色分け

5. 五大建築の比較まとめ

三大巨匠であるル・コルビュジエ、フランク・ロイド・ライト、ミース・ファン・デル・ローエの出題頻度を比較すると、二つに分かれて入れ替わるように出題される傾向がある。これらは、1970 年初頭から 1990 年初頭にかけて出題が住宅の出題に変化する。

五大巨匠以外にも出題された住宅と集合住宅は、すべてが 1970 年初頭から 1990 年初頭にかけて出題され始めた問題ではない。しかし、それ以前に出題されなかったことから三大巨匠が最も早く出題され、それ以降から住宅の建築が出題され始めたことが明らかである。



図 1　イリノイ工科大学建築校舎（クラウンホール）とファンズワース邸



図 2　旧帝国ホテルと落水荘



図 2　ロンシャン礼拝堂とサヴォア邸

6. おわりに

世界には多くの建築家・建築作品が存在し、日本の建築業界にも影響を与えてきた。日本の建築士試験は国家資格であるため、日本に影響を与えた建築家・建築作品が出題されると考え、読み解こうと考えた。このような、国家資格試に着目して歴史的研究を進めた先行研究は存在しない。建築試験に出題される国外近現代建築の問題から、問題の出題内容と傾向を通時的に分析し日本の建築業界における常識の形成と変遷の過程を明らかにすることを目的とした。

その結果、三大巨匠の出題傾向が 1970 年初頭から 1990 年初頭にかけて出題される問題が主に住宅へと変化することが明らかとなった。さらに、三大巨匠以外の住宅作品の出題傾向をまとめると、三大巨匠が変化した以降に住宅出題され始めたのだ。

このように国家資格試験に着目した結果上述のとおり、明らかになった。したがって今後は日本史の歴史的研究を進める上でも事例が少なかった国家資格試験に基づいて研究されることに期待したい。

参考文献

①日本建築士会連合会『1 級建築士試験問題全集』彰国社（第 4. 5. 9 版）
②日本建築士会連合会『1 級建築士試験問題全集』彰国社（（S56. H13 版）
③建築行政協会『1 級建築士試験問題と解説』霞ヶ関出版社（S48. S55. S61. H18 版）
④日本建築士会連合会，・日本建築技術者指導センター『1 級建築士試験基本問題集』
霞ケ関出版社（H3. H7. 年版）
⑤日本建築士会連合会，・日本建築技術者指導センター
『1 級建築士試験基本問題集：学科 4 科目』霞ケ関出版社（H7 版）
⑥建築行政協会『最近 4 年間の一級建築士試験 問題と解説』霞ケ関出版社
⑦総合資格学院『1 級建築士試験 過去問スーパー７』 総合資格 （H21. H24 年版）
⑧建築技術教育普及センター 一級建築士過去問 （H25. H26. H27. H28. H29. H30. R1. R2. R3）
⑨日本建築士会連合会『2 級建築士試験問題全集』彰国社
⑩日本建築士会連合会『2 級建築士試験問題全集』彰国社
（S45. S46. S47. S49. S51. S52. S53. S54. S55. S56. S57. S58. S59. S60. H4. H14 版）
⑪建築行政協会『最近 3 年間の二級建築士試験 問題と解き方：全科目集録』
霞ヶ関出版社 （1963. 1968）
⑫総合資格学院『2 級建築士試験 過去問スーパー７』総合資格（H21. H26. R3 版）
⑬速水清孝『建築家と建築士：法と住宅をめぐる百年』東京大学出版会 2011
⑭松村 淳『建築家として生きる：職業として建築家の社会学』晃洋書房 2021

JR 福山駅北口再開発計画

学籍番号　k19310
名　　前　西永昂平
指導教員　山内貴博

Fukuyama Station Reproduction Plan

Student Number　k19310
Name　Kohei Nishinaga
Supervisor　Takahiro Yamauchi



1. 計画背景と目的

現在、日本の主要都市の駅では、新幹線や電車の利用だけでなく買い物や食事で訪れる人が多くいる。しかし、地方の中核都市の駅では主に通勤通学のためのものであり、それ以外の目的で訪れることが多くなく、あまり魅力を感じない。また、新型コロナウイルスが徐々に収束し、都市だけでなく、地方の中核都市にも訪れる人が増加すると感じている。そこで、卒業制作を通して、地元・福山市の福山駅の再開発を計画し、周囲の魅力や市の問題点と絡めていくことで新たな魅力を発信できるのではないかと考えた。

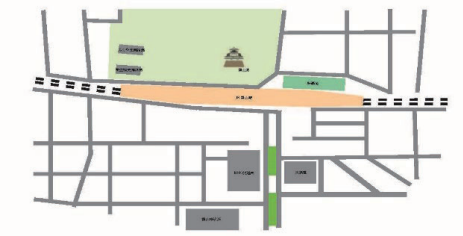
2. 福山市とその問題点

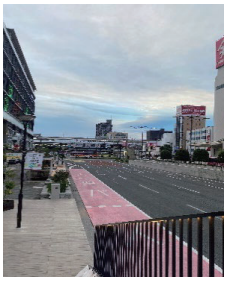
福山市は、広島県東部に位置し、岡山県との県境に隣接している。JR 福山駅は、東海道・山陽新幹線のぞみの停車駅であり、広島県だけでなく、中四国地方でも主要都市である。しかし、近年、広島市や岡山県の通過点となり、また、隣接する尾道市などを訪れるための駅として観光客が減少している。

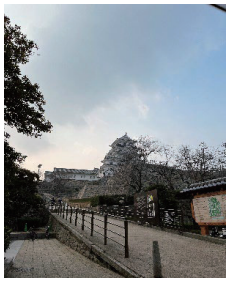
さらに、福山市民の約半数が福山市に魅力のあるものがないと感じており、福山市に訪れる人が減少する中、市民ですら魅力を感じていないのである。そこで市は、福山市の中心である JR 福山駅周辺の再開発、ライフスタイルの変化で車移動が増加し、徒歩で楽める空間、魅力のあるコンテンツの提案をしている。

JR 福山駅を境に南北でギャップが生まれている。

南側は、福山市役所や商店街、百貨店などが立ち並ぶ。一方、北側は、福山城をはじめ、博物館・美術館があり、文化的なエリアとなっている。







3. 計画主旨

まず、福山市が提案する JR 福山駅北口を選定した。福山市のシン

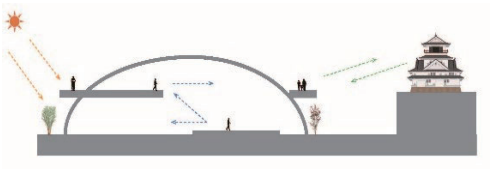
所在地：広島県福山市三之丸町北口広場駐車場
主な用途：ホテル・カフェ・店舗
敷地面積：2527.2m^2
建築面積：1113.2m^2
延床面積：2052.52m^2
キーワード：駅・自然・気軽・地元

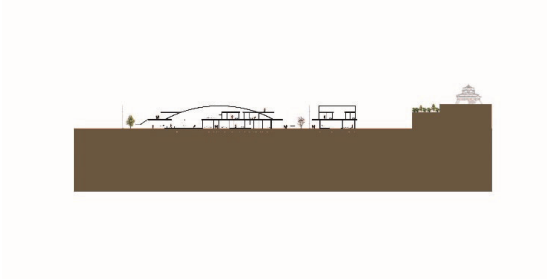
Location : North parking,Fukuyamacity,Hiroshima
Main Use : Hotel,Café,Store
Site Area : 2527.2m^2
Building Floor Area : 1113.2 m^2
Total Floor Area : 2052.52 m^2
Keywords :Station, Naturally,Feelfree,Local

ボルでもある福山城とこの計画を絡め､北口だけでなく福山駅周辺に魅力が広がると考えた。また、観光客だけでなく市民にも新たな福山の魅力を発信したいと提案する。

4. ダイヤグラム

イメージ図のように視線を変化させることによって人々は感じ方がさまざまで日常と非日常を味わう。天候や季節によって植栽や物体の見え方が変わり、日々の変化を感じる。





5. 計画の提案

この計画にホテル・カフェ・店舗を提案する。近年、福山駅で降車される方で自転車を持ち、サイクリングを楽しむ姿が見られる。

温暖な気候の瀬戸内海とサイクリングイベントが多数あることから増加した。そこで、サイクリングで訪れた方も利用できるものとした。客室に自転車の持ち込みを可とし、計画物周囲も走れるように計画した。ホテル内は、フリースペースを多く設け、同じ趣味や気楽に人々が交流し、人々の輪が広がることも期待する。

カフェでは、イートインやテイクアウトすることで楽しみ方や一息のつき方が広がる。天候の良い時は、屋外で福山城を眺め、天候の悪い時は、屋内から眺める。日々変化する街や自然の成長を間近で見ることで非日常を感じることを提案した。画像より、吹き抜けからの日差しで屋内に居ながら開放的な空間となる。

店舗では、広島県だけでなく、福山市の特産物や郷土料理が楽しめるように計画する。

地元の農家や市民が展示や販売することで観光客だけでなく、地元市民が集客し、楽しめるように取り込む。

通勤通学の駅の利用だけでなく、この計画物に目的があり、訪れることで集客され、また、福山城内も歩き回ることができ、天守閣からもこの計画物が目に入る。そのことでふらっと立ち寄る方、気軽に散歩する方を期待する。

そのことで福山市の問題点にも上げられる、徒歩での楽しめる空間と魅力のあるコンテンツ、JR 福山駅と福山城を絡めることで JR 福山駅北口の発展を提案する。このことから南北で格差がある JR 福山駅周辺の開発することで北側の文化的エリアの集客が期待できると考えた。



画像より、計画物からの福山城の視線。階段を上ること、ベンチに座ることから異なる視線を楽しむことができる。



参考資料

http://search.ipos-land.jp/p/detailp.aspx?id=P3400198Z
https://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/site/miryoku/
https://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/uploaded/attachment/99280.pdf
https://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/site/sights-spots/31144.html
https://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/uploaded/attachment/115935.pdf

主要建築と付属建築間における規模の関係について(寺院編)

学籍番号　K19311
名　　前　西畑　樹
指導教員　大上　直樹　特任教授

寺院　　表の間　　主要建築

付属建築　　比例関係

第一章　研究概要

第一節　研究目的

本論文は、これまであまり論じられることのなかった寺院の同一境内における本堂等の主要建築と門や五重塔といった付属建築との間にどのような建物相互の規模の関係性があり、それらが計画、設計が行われてきたなかでどのように用いられて来たかを明らかにするための研究である。

寺院というのは一つの建築物で形成されているのではなく、本堂や金堂といった建物を中心に、その他の門や五重塔等の複数の建築物があることによってひとつの大きな空間が作り上げられているが、設計書的役割である木割書には建物種別ごとにのみ記載されており、相互関係についてはあまり記述されておらず建物ごとにそれぞれ計画されてきたのではないかと考えられるが、同一境内における建築物というものは必ずしも同時期に建立されたとは限らず、事例によって建立された時代が数百年も離れたものも見られる、これらのことから寺院の建築計画を行う過程の中で主要建築と付属建築の間には規模においてそれぞれ任意に決定されたのではなく、何らか関係性を持って計画がなされたとではないかと考え、修理報告書などの資料から得た寸法等の情報を手掛かりにし、本堂等の主要建築とその他の門や鐘楼、塔婆等の付属建築との間における規模の関係性について検討をおこなった。

第二節　既往研究

同一境内における建物相互の規模の関係性についてはこれまであまり論じられておらず、本論文と類似した規模の関係性について言及した研究の存在は確認することはできなかった。しかし、1972 年頃の古い研究ではあるが日本建築学会論文集に掲載されている、岩楯保さんの『和様建築における寸法比例の研究』は修理報告書や実測寸法を用い建物種別ごとや時代ごとにおける相関関係の検討を行っており研究方法、また本論文との検討の仕方や事例へのアプローチの方法が異なるが、比例関係についても触れていることから、岩楯さんの研究を本論文の既往研究とした。

・岩楯保　『和様建築における寸法比例の研究』
古代建築（奈良、平安）においては採用した実測寸法値において当初部材か補修材かを断定できない測定値が混在しており、また相関関係が見られたものがあるが、確実に比例関係と結論付ける結果を見いだすことができないと結論付けられており、また鎌倉、室町時代においても比例関係を見いだすことができる例が数件はあるが数が少なく必ずしも関係すると断言することが出来ないと結論付けている。

第三節　研究方法

本論文は日本建築学会技術報告集　第 25 巻　第 59 号に掲載されている大上先生の「神社における本殿と付属建築の規模の関係について」の寺院にのみ焦点を当てて検討を行っていった継続研究であり、ここで示された大上理論である「表の間（正面の総間）に注目し、柱真々（中墨）、外法（ヲゼ）、内法（ダキ）の三基準を念頭において主要建築と付属建築の関係を検討することによって、一致や整数比という明快な関係が得られる」を用いて寺院建築においても同様に主要建築と付属建築の間に何らかの相互の関係を持って決定されたと考え、修理報告書等から得た情報を基に検討を行った。

第二章　事例分析

第一節　資料収集

分析対象は時代を指定せずに主に現在国宝、重要文化財等の文化財に指定されている寺院建築の内、修理報告書などから正確に正面の総間と柱経の数値が主要建築と付属建築の双方から得られたもののみに限定

して収集を行った。これらの数値を用いて CAD 上で表の間と柱経のみの簡易な図面の作成し検討を行った。

第二節　分析方法

分析は CAD 上で行い、主要建築の中央間を基準とし、付属建築の総間、中央三間、中央間の柱の三基準を比較の基準とし比較を行った。中央間において関連が見られない場合においては、主要建築の基準を中央三間とし同様の検討を行った。

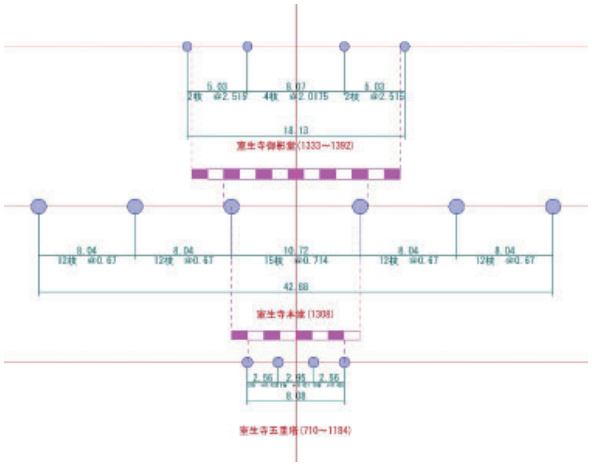


図 1. 室生寺における検討結果

第三章　考察

第一節　検討のよって得られた結果

全事例検討の結果から神社建築と同様に同一敷地内における主要建築と付属建築の間に柱の三基準を用いた整数比や一致する等のような明快な関係性の結果を得ることができ、これらは主要建築と付属建築が同時期に建立されたものだけではなく、室生寺の本堂と五重塔間のように平安時代と鎌倉後期のような数百年離れて建立された事例においても同様の結果が得られた。また、岡山県の本蓮寺の検討結果からは建物間同士だけではなく、主要建築である本堂の中央間と同敷地内の史跡である中祠間、また史跡の中祠、東祠、西祠の間においても建物間同様に整数比、一致という関係性を導き出すことができ、滋賀県円証寺の本堂と五輪塔の間においても同様の関係性を得ることができた。

建物間だけではなく建物と史跡間、または史跡間同士にも同様の結果が得られたことから建物間だけではなくその他の史跡や寺院に関する計画を行う過程においても同様に三基準（柱真、外法、内法）を基準とした上で整数比を用いるという考えは広く取り入れられていたのではないかと思われる。

第二節　主要建築と門の関係性

主要建築と門の検討結果から門の規模は主要建築の中央間または中央三間の規模に対して一致～3.33 倍の範囲で計画されたことが分かった。その内主要建築に対して門の比率が「一致」であるのが 7 事例、比率が「1.25～2 倍」の事例が 8 事例、「2.2 倍～」の事例が 5 事例となっている。しかし、同敷地内において複数門がある事例を見ても同規模であるとは限らず、また比率ごとに見られる規模、主要建築と門の時代差等の目立った特徴はあまり見られずこの比率の決定に関しては規則性を見いだせなかった。

第四章　結論

寺院建築における同敷地内の主要建築と付属建築の規模の関係性は、神社建築と同様に三基準（中墨、ダキ、ヲゼ）を念頭に置き表の間（正面の総間）の寸法に注目し検討を行うことで整数比や一致等の明快な関係性を見いだすことができた。詳しく検討検討を見るとこの関係性は同時期に建立された建物間に限らず、建立時期が数百年離れた場合においても同様に確認することができ、また検討を行う中で建物間だけではなく主要建築と同敷地内における史跡や五輪塔等との間、または史跡間同士おいても一致や整数比という関係性が適用することが確認できた。

事例の多い主要建築と門の事例結果からは主要建築と付属建築の間の比率にはある程度の範囲があることが確認できたが同敷地内に同種の建物必ずしも比率は統一されておらず、また比率ごとに時代差や主要建築の規模による特徴を確認するが規則性を見いだすことはできなかった。

・参考文献

岩楯　保
『仏堂建築の柱経について（実測数値による統計学的研究）』
日本建築学会論文集号外・1965 年９月
『和様建築における寸法比例の研究（実測数値による統計学的研究 No.1～14）』
日本建築学会論文集　第 191～215 号・1972 年 1 月～1974 年 1 月
大上直樹
『神社における本殿と付属建築の規模の関係について』
日本建築学会技術報告集　第 25 巻　第 59 号・2019 年き
関野　克
『文化財と建築史』
鹿島出版会・昭和 44 年 11 月 29 日

非六枝掛組物の設計技法の研究

学籍番号　K19312
名　　前　西邑　陽良
指導教員　大上　直樹特任教授

六枝掛　非六枝掛　設計技法
組物　三ツ斗組　巻斗

研究目的

本研究では六枝掛ではない組物を整理、分析を行い設計技法を明らかにすることを目的としたものである。
組物の設計には鎌倉時代に成立したとされる六枝掛が一般的に用いられている。六枝掛とは1枝寸法を基準とし、肘木長さを2枝とし、巻斗の幅を一枝に垂木幅を加えた寸法とすることで垂木と組物に関係性を持たせる設計技法である。しかし社寺建築の中には垂木と組物に関係性が見られないもの、六枝掛成立以前に建立された建築物や、六枝掛以降であっても用いられていない建築物、扇垂木が用いられる禅宗様建築が存在する。これら六枝掛ではないものを「非六枝掛」と本研究では呼ぶ。

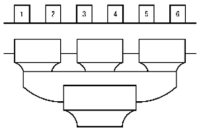


図-1 六枝掛(宝鐘寺本堂)

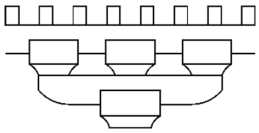


図-2 非六枝掛(西明寺本堂)

既往研究

現在の社寺建築は枝割制による垂木と組物の関係が整理され、1 枝寸法が決定することで柱間寸法、組物の寸法が決定されるという考え方が一般化している。そのため枝割制に関する研究が多く行われる一方で非六枝掛について言及している研究は非常に少ない。

関口欣也(参考文献 1)

禅宗様斗栱の寸法計画は巻斗の長さを柱間から決め、それを基準として設計されていると結論付けている。また禅宗様斗栱は中国宋代斗栱を祖形としているが、斗栱の各部材の比例感覚に著しく日本的感覚の反映と洗練を認めている。すなわち和洋的感覚が禅宗様の成立にあたり大きな影響を及ぼしていたと言及している。

大森健二(参考文献 2)

1 枝寸法を基準に斗栱や柱間寸法が決定されているとし、斗栱を組むにあたって、寸法計画を合理的に処理する解決策が枝割による斗栱の統一であると指摘している。
和様組物では肘木の成を基準寸法、禅宗様組物ではある寸法のグリッド線と重ね合わせることで各部材の比率が確認できることから基準寸法を決定しそれを設計されていると結論付けていた。

濱田晋一(参考文献 3,4,5)

非六枝掛において、組物上に配置されている垂木数、そして垂木と三ツ斗組の位置関係に着目し分類、分析を行うと、六枝掛と同様に垂木と三ツ斗組の納まりを意識していることがわかった。そのため非六枝掛であっても計画的に寸法が決定されているものがあると結論付けている。しかし非六枝掛組物の普遍的な寸法決定法は言及されてはいない。

研究内容

本研究は令和 3 年度卒業生葛西佑香の継続研究である。葛西佑香の研究は「禅宗様建築・鎌倉時代以前の非六枝掛建築物の組物の設計技法の研究 非六枝掛組物は表の間を整数で割ることで三ツ斗外法寸法が得られる」というものである。そこから本研究は三ツ斗組の各部の寸法がどのように決定されたのかを検討するのが本研究である。

本研究では「三ツ斗組の各部の寸法は整数比率によって決まっている」ということを仮説として進めている。

研究対象

研究対象としたものは時代に関係なく非六枝掛組物である国指定文化財、修理工事報告書の本文や図面から寸法が読み取れるもの、三ツ斗組であるもの計 3 つの条件にあてはまるものを研究対象としました。

研究対象とした事例は修理工事報告書約 300 件に目を通し 123 件であり、時代は飛鳥時代から江戸時代後期まで、様式では和様組物、禅宗様組物、奈良式六枝掛組物となっている。

研究方法

前述した通り「三ツ斗組の各部の寸法は整数比率によって決まっている」ということを仮説としている。そのため三ツ斗組の各部がどのような比率になっているか分析を行う。分析を行う箇所は巻斗・方斗の幅と明き、巻斗の幅と成、巻斗の成と肘木の成及び大斗の敷面高さ、

巻斗の幅と斗尻長さ、巻斗の斗繰高さの計 5 ヶ所の分析を行う。そして分析を行った事例の整数比率を基に考察を行う。

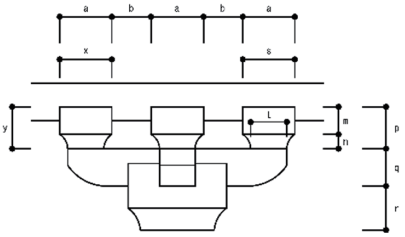


図-3 検討箇所

分析結果

前述の検討を行った 5 ヶ所の結果から見える傾向を述べていく。

巻斗・方斗の幅の明きの整数比率は 3:1 のものが最も多く見られた。しかし奈良時代から鎌倉時代前期にはほとんど見られずその間では 2 番目に多く見られた比率の 2:1 が最も多く確認された。3:1 のものが多く確認され始めるのは鎌倉時代後期であった。

巻斗の幅と成の比率は 3:2 のものが最も多く見られた。これらは鎌倉時代後期から室町時代中期には見られなかった。しかし非常に近い比率である 13:9、14:9 を含めると時代での偏りは認められなかった。2 番目に多く見られた比率は 5:3 であった。これは鎌倉時代前期まではほとんど確認されず鎌倉時代後期から見られるようになった。

巻斗の成と肘木の成及び大斗の敷面高さの比率は 1:1:1 のものが最も多く見られた。これには時代での偏りは認められず、また 1:1:1 の比率ではないものでは巻斗の成と肘木の成の比率は同じで大斗の敷面高さの比率のみが異なるものが多く確認できた。しかしながら全体で見てみると 1:1:1 に近しい比率のものが非常に多いことが確認された

巻斗の幅と斗尻長さの比率は 3:2 のものが最も多く見られた。これは桃山時代以前までは多く見られたがそれ以降では見られなくなった。また二番目に多く見られた 5:3 という比率は桃山時代以降でも確認された。

巻斗の斗繰高さの比率は 2:1 のものが最も多く見られた。これには時代での偏りは認められなかった。しかし二番目に多く見られた 3:2 という比率は室町時代中期、後期に集中していた。

このように各部の比率に時代によって整数比率の偏りや変化があるものが多く確認できた。これは技法や様式の変化や新たな様式が伝来したことによって生じていると考えられる。またそれによって多く用いられる比率にも変化が現れると考えられる。

考察

多くの事例の分析により年代によって各部の整数比率に変化が生じていることが分かった。これは大陸からの新たな建築技術の伝来や建築技術の発展や変化によってもたらされていると考えられる。例として巻斗の幅と斗尻長さの整数比率と巻斗の幅と成の整数比率が時代が進むにつれ同じになる、または非常に近しいものになる。つまり巻斗の成と斗尻長さを同じ寸法で計画することが次第に広がっていたと考えられる。

反対にあまり変化の見られない箇所も見られた。それは巻斗の成、肘木の成、大斗の敷面高さの整数比率であり、1:1:1、または非常に近いものがほとんどであった。このことから日本では巻斗の成、肘木の成、大斗の敷面高さを同等のものにすることが一般的であったと考えられる。

このように三ツ斗組各部の寸法には年代による整数比率の変化や特徴が見られた。

結論

本研究では数多くの非六枝掛組物の各部の整数比率がどのようなものであるかを分析した。検討を行った事例数は 123 件であった。これらの事例は例外なく三ツ斗組の各部を整数比率で表すことが出来た。そのためこの分析を通して非六枝掛組物は各部が整数比率によって寸法が決定されていると考えてよいと思われる。

また事例一覧には掲載しなかったが資料収集の中で六枝掛組物での検討も行った。その場合でも各部の整数比率を求めることが出来た。そのため三ツ斗組の各部を整数比率によってきめるということは普遍的なものであったと考えられる。

参考文献

1,関口欣也：「中世禅宗様仏堂の斗栱―斗栱寸法計画と部材比例―」,『日本建築学会計画系論文集』,129 巻 pp43-54,56, 1966 年
2,大森健二：『社寺建築の技術-中世を主とした歴史・技法・意匠-』,理工学社,1998 年 8 月 20 日
3,櫻井敏雄,濱田晋一：「特異な枝割の成立過程について-折衷様化と四枝掛組物-」,『近畿大学理工学部研究報告』,42 号,pp 101-110,2006 年 9 月
4,濱田晋一,櫻井敏雄,麓和善,「非六枝掛建築における垂木割と三斗組の寸法関係について」,『日本建築学会計画系論文集』,74 巻 638 号,pp927-935,2009 年 4 月
5,濱田晋一,櫻井敏雄,麓和善,「非六枝掛建築の隅柱上における垂木割と丸桁および組物の寸法関係について」,『日本建築学会計画系論文集』,75 巻 47 号,pp201-210, ,2010 年

未来住計画

学籍番号　K19313
名　　前　西村洸城
指導教員　宮内智久

Future Life Plan

Student Number　K19313
Name　NISHIMURA Kouki
Supervisor　MIYAUCHI Tomohisa

１．コンセプト・目的

現在コロナウイルス感染拡大の影響で人との距離をとるようになっている。住宅街に限らず近隣での会話は少なくなり、顔を合わせることすら以前より減っている。そのため個人での空間が多くなり、暮らしやコミュニケーションのについて不満や変化を感じている人がいる。私はコロナウイルスが収束した後も入居者に合った新しい住み方や過ごし方を提案し、同時に離れた人との距離も集合住宅を通して繋ぐ計画を考えた。つまり、コロナウイルスの影響で変わりつつあるライフスタイルやコミュニケーションに合った集合住宅を計画し、不満や問題を解消していくことを目的とする。

２．集合住宅が抱えている問題

2-1. ライフスタイルの制限

新型コロナウイルス感染拡大で人が集まることが一時的にできなくなり、外出を必要最低限におさえるようになった。人々の自由な暮らしが制限され、在宅ワークをはじめとする自宅を活用する取り組みに大きく変わってきている。

長い期間にわたって暮らしに制限をかけていたため、家での過ごし方や趣味が今の環境にあったものに変化している人が増加した。このため住み方に関する新しい価値観が多く生み出され、一定したプランでは多様化したライフスタイルを追従できなくなっている。

2-2. コミュニケーションの減少

ソーシャルディスタンスや３密回避などでコミュニケーションの場が減少している。地域独自の活動は中止になることが増え、以前よりも外出の回数が減ったため近隣住民の交流はなくなりつつある。

現在は直接顔を合わせない工夫が広がっているので、集合住宅内で気軽に顔を合わせることのできる場やコミュニケーションの広がる空気作りが足りてない。

2-3. プランの固定化

一般的な集合住宅では一定のプランで構成されていることが多く、生活の変化で部屋数などの不満が生まれる。引っ越しをして新しい土地に移るか不満を入居者で改善するしかない。

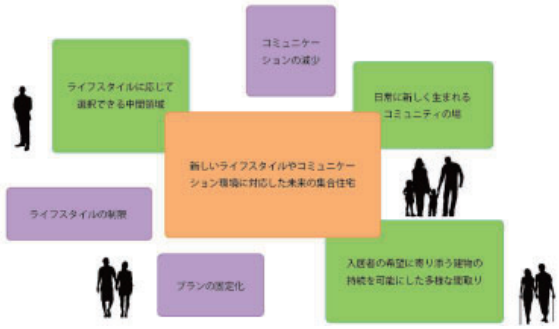


図１　イメージダイアグラム



図２　既存の建物



図３　選定敷地航空写真



図４　北西側外観パース

所在地：滋賀県栗東市川辺 527
主な用途：集合住宅
敷地面積：8,400m^2
建築面積：1,981.35m^2
延床面積：9,906.75m^2
キーワード：集合住宅・中間領域

Location : 527,Kawazura,Rittoushi,Shigakenn
Main Use : Social Housing
Site Area : 8,400 m^2
Building Floor Area : 1,981.35 m^2
Total Floor Area : 9,906.75 m^2
Keywords : Social Housing, Middle Area

小規模なプランだけの集合住宅では入居者の高齢化が進み修繕費を賄うことができなくなるケースもある。

3. プロジェクト概要

3-1. 中間領域の計画

○既存の建物のバルコニーに位置する部分を内部としても外部としても活用することのできる中間領域として計画する。

○中間領域を計画することにより、居住者によって変わる多様なライフスタイルに追従することができる。

○以前のように洗濯物を干すための空間で活用でき、趣味の空間または在宅ワークをする空間にすることが可能となる。

3-2. 共有部分の増加

○プライベート空間として使わない中間領域をパブリック空間として計画する。

○低層階に商業施設を数ヶ所計画することで自宅付近での買い物や交流が可能になる。

○景色を眺めることや遠くに行かず休日をゆったりと過ごすためにのどかな屋上を計画した。

○階段を中間領域側に計画することでアクセスの幅も広げた。

3-3. つながる住戸

○一世代で終わることなく持続されていくためには、多様な住み方ができる方が良いと考えた。

○多様な間取りの組み合わせを計画し、それぞれの価値観や家族構成に合った間取りを選択できるようにした。

○世帯が入れ替わり、それぞれをつなぎ入居し続けることで建物を持続させることができる。

4. 参考文献

○建築設計テキスト　集合住宅
○集住のなわばり学／小林秀樹／彰国社／1992.08
○サスティナブル集合住宅／ケンドール・ステファン／2006.05
○集合住宅のリノベーション
○「地区の家」と「屋根のある広場」／小篠隆生・小松尚／2018.12
○集合住宅 30 講／植田実／2015.11
○激震！　コロナと不動産／榊淳司／2021.01

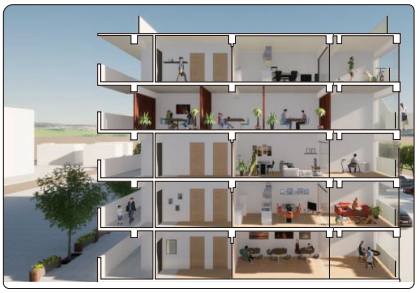


図５　断面パース

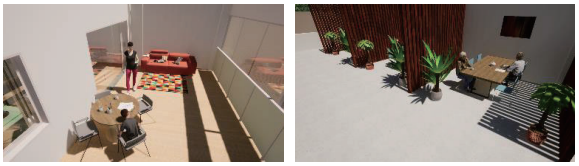


図６　内観パース

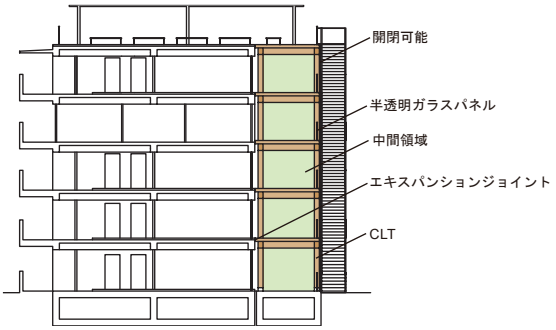


図７　中間領域の計画



図８　つながる住戸イメージ

Re:START～あいりん地区自立支援施設の統合～

学籍番号　k19314
名　　前　西村　卓也
指導教員　根來　宏典



図１　第２期計画北側前面道路からの視点

1-1. 計画の背景と目的

日本が抱える問題の１つとして、ホームレス状態の人に関するものが挙げられる。現在ホームレス人口は、年々減少傾向により格段に減っている。しかし、安定した住居がなくネットカフェで過ごしている、いわゆる見えないホームレスの人の数を合わせるとまだまだ、多くの人が不安定な場所で過ごしていると考えられる。ホームレス問題を解決するために様々な支援施設が設けられている。しかし、ホームレスの人たちにとって、もちろん住まいと仕事は必要であるが人とのつながりや希望を失って孤立しないことが一番重要なのではないかと感じた。

本研究では、ホームレス人口の多い大阪市西成区のあいりん地区を対象とし、自立支援施設の統合を図っていく。その場所で、ホームレスの人たちは社会的つながりを築き、ホームレスの人たちに自立意志を持ってもらい社会復帰を促す施設を計画する。

1-2. 敷地情報



図２　敷地の現状

大阪市西成区萩之茶屋１丁目金ケ崎支援機構とその周辺とする。この区域周辺はあいりん地区と呼ばれており、ホームレスの人や日雇い労働者の人が多くいる。ホームレス人口は多いことから、この地域では支援体制も整っている。また、敷地周辺は観光地も多いことから、近年では観光客や若者もこの地域に多く見られるようになってきている。ホームレスの人だけでなく、そういった人たちも利用できるようにすることで、コミュニケーションの形成や人とのつながりを図る事ができると考えこの敷地を選定した。

Re:START ～ Integration of Airin district self-reliance support facilities

Student Number　k19314
Name　Nishimura　Takuya
Supervisor　Negoro　Hironori

1-3. 計画概要

はじめに本計画において、釜ヶ崎支援機構が支援を行う事とする。主な用途は、自立支援施設であるためホームレスを対象とするが、観光客のなどにも無料宿泊施設として利用してもらえるように計画。また無料で場所を提供する代わりに、ホームレス支援にボランティアとして協力してもらえるようにすることで、ホームレスの人たちが様々な人とつながりを持つことができる。

既存の自立支援施設では居場所となるシェルターがあるが、冷たい雰囲気で、安定した環境とは言い難い。シェルタースペースは最低限のプライバシーを確保し、落ち着いた環境を提供することで利用者を暖かく迎え入れることができるようにした。また、自立していくための就労体験スペースや、コミュニケーションを形成する場所となるボランティアスペース、外部環境を計画した。

1-4. 配置計画

本計画を進めていくにあたり、期分け計画とし、第１期、第２期、第３期、第４期に分け計画することで、シェルターを必要とする人たちの居場所をなくすことなく常時居場所を提供できるようにした。それぞれの建物に居場所となるシェルタースペースを設け、第１期、第２期計画には就労支援を行うことを目的としたスペースを設けた就労支援棟とし、第３期、第４期計画にはボランティアを目的としたスペースを設けたボランティア棟とした。用途別に分けて計画した事によって、それぞれの１つの棟だけでなく４つの棟を利用してもらえるように計画した。

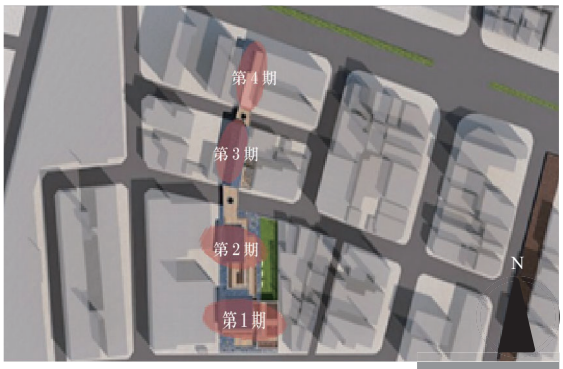


図３　配置計画図

所在地：**大阪府大阪市西成区萩之茶屋１丁目**
主な用途：自立支援施設
敷地面積：2316.42m^2
建築面積：1367.678m^2
延床面積：2246.7626m^2
キーワード：自立支援施設・シェルター・ボランティア・ホームレス・無料宿泊所

Location : 1-chome Haginochaya, Nishinari Ward, Osaka City, Osaka Prefecture
Main Use : Independence support facility
Site Area : 2316.42m^2
Building Floor Area :1367.678m^2
Total Floor Area :2246.7626m^2
Keywords : Independence support facility・shelter・volunteer。・homeless・free accommodation

1–5. 設計意図

設計の意図としては、敷地が道路をまたぐ為、第１期計画から第期計画を１棟ごとにまず計画し、下図のように２階部分をセットバックさせることで２階部分で４棟を繋げることができ、行き来しやすくするだけでなく、人が交わる場所をつくることができる。

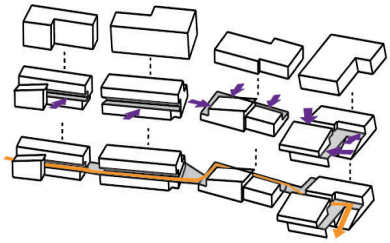


図４　コンセプトダイヤグラム

計画のポイント

1. シェルタースペース



写真１　現在のシェルタースペース

現在のシェルタースペースは、路上生活者を収容できる点においてはホームレス問題を解決に取り組んでいるが、ホームレスの人の気持ちに寄り添えているとは言い難い。確かにこういった居場所の支援はホームレスの人たちにとっては、とても助かることである。しかし、これではホームレスの根本的な問題解決にはならないと感じた。

あくまでこの居場所支援は、ホームレスの人たちが自立するまでの一時的な居場所であるが、容易に自立することは難しいため、長い期間利用することが想定される。自立までの困難からストレスを抱え、自立意志が低下してしまうかもしれない。そういった場合、いくら居場所を提供しても効果は薄いと思われる。

本計画では最低限のプライバシーを確保することと、デザインに暖かい色や柔らかい色を取り込むことで、少しでもストレスを抑制したいと考えた。また、プライバシーを確保していることで観光客の人達も利用しやすい。

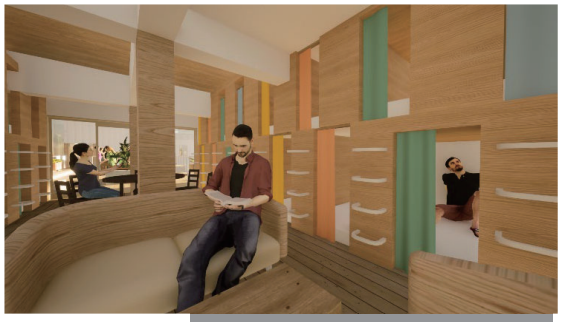


図５　今回計画したシェルタースペース

2. 橋

本計画の第１期計画から第４期計画を一つにつなぐ役割を果たす橋。道路の頭上に広めに設けたこの橋では、ホームレスの人や観光客の人たちの間でコミュニケーションを形成する。

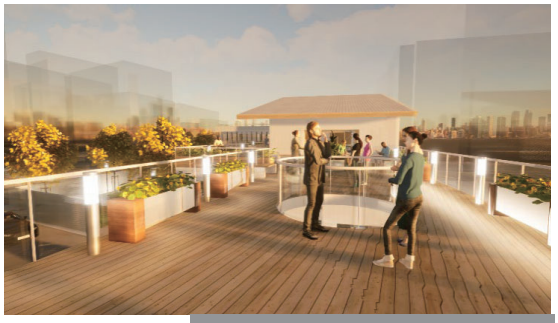


図６　今回計画した第２期計画と第３期計画をつなぐ橋

6. まとめ

本計画では、あいりん地区のホームレスの人を対象に、現在のあいりん地区にある自立支援施設の統合を行った。支援施設があっても利用しないホームレスの人も多くいる中で、なぜ利用しないのか、そういった人たちが自立意志を持ってもらうためには、どのような環境が必要なのかを考えた。ただ支援するだけでなく、ホームレスの人達が孤立しないように、常につながりを生み出せるような環境を提案した。

北野における勧進能と舞台建築に関する研究
～勧進能場の復元～

学籍番号　K19315
名　　前　西元　愛理
指導教員　井上　年和

勧進能　能舞台　洛中洛外図
舞台建築　北野　復原

１．研究の目的

京都は、古来より芸能文化が盛んであり、歌舞練場、南座など歌舞伎や能が披露されている屋内型舞台建築物が多く残っている土地である。近世以前は寺社の神楽などの芸能を奉納することから始まった芸能である能は貴族に対して披露されていたが、勧進能という大規模な興行が行われ、庶民に対して歌舞伎や能が披露されていた。一週間程度の興行期間が設けられ、舞台は臨時で屋外に設営され、興行が終わると同時に解体されていった。現代の歌舞伎や能が披露されていた劇場空間とは異なる建築であった。北野社周辺は芸能文化が発展した土地であり、多くの記録が残っている。

本研究は、京都北野社領隣接の土地（京都府京都市上京区）で元禄15年に行われた勧進能で作られた屋外型能演場の復元を試みるものである。

研究主旨として、京都での能場建築に対する研究例が無いため、本研究を通して規模や舞台構造を明確にし、芸能文化が庶民へと広がっていった背景と舞台建築の特質との関わりを明らかにする事は意義があると考えた。

２．研究の対象

研究の対象は京都北野社領隣接の土地（京都府京都市上京区）で元禄15年に行われた勧進能で作られた屋外型能演場を対象にする。規模 140×160m、桟敷と言われる二階建ての客席が84間の大規模な能場である。対象の史料は平面図として記録されている絵図（図１）と（図２）を使用する。

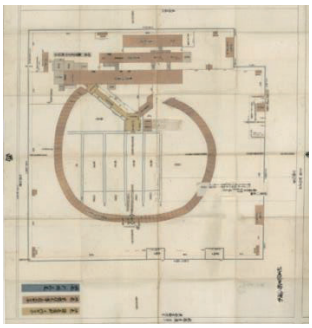


図１「聚楽内野ニ而観世織部勧進能場絵図」
『富田屋文書 京都学歴彩館』



図２　元禄15年観世太夫織部勧進能内外絵図（檜書店蔵）

３．研究の方法

① 北野での勧進能の記録絵図や覚書の収集

② 洛中洛外図などの絵図や屏風より能舞台が描かれている部分の絵図の収集

③ ②で収集した絵図に描かれている能場の形状のリスト化（舞台構造、客席の構造など）

④ 絵図や覚書、現存している能舞台を参考とし、図面の作成、模型の制作を行い、勧進能場の復元を行う。

４.史料調査内容

４−１．元禄１５年 勧進能場絵図より

（図２）の絵図の周囲に描かれている覚書の記録の読み下しを行い、以下の内容が判明した。

「橋掛りの幕白布紋紺條入舞臺の下壺六ツ橋掛り之溜留ニ壺壱ツ」

「材木中間ヨリ出申来

一　椴板三千七十一枚　長一間厚五分
　　此間数合六百五十間

一　松貫六百廿五丁　一　松大丸太百九十四本　長三間

一　松五角　三百五本　長二間

一　杉丸太二千百廿三本　同百四十四本　三間壱尺
　　四百五十本　二間半　四百七十六本　二間壱尺
　　百卅九本　二間　三百九十一本　二間二尺
　　百本　壱丈壱尺　百本　壱間半
　　九本　一間五寸　四本　壱丈七寸
　　六本　壱丈七寸五分　卅本　三間半」

記録の内容より、橋掛かりには布が掛り、舞台の下には舞台上の音を反響させるための壺が配置されていた。また、建設に使われた材木の種類、本数、長さが書かれていた。桟敷席、畳座席の値段も書かれており、当時の能舞台に関する金銭価値がわかった。

４−２．洛中洛外図・歌舞伎図屏風より

阿国歌舞伎図屏風(図 5)は、慶長 8 年に北野で興行された阿国歌舞伎を主題とする屏風であり、舞台裏の様子などが描かれている。　洛中洛外図とは、京都の洛中（市

街）と洛外（郊外）の景観などを描いた屏風絵である。庶民の生活風景が詳しく描かれており、文化史的に価値が高いものである。史料調査では 22 の洛中洛外図に屋外で芸能を披露している場面が描かれており、

復元の参考資料とした。披露されている場所として、北野、四条河原が主に描かれており、他には下鴨（糺の河原）、五条河原での様子も描かれていた。



図5　阿国歌舞伎図屏風より　北野での興行の様子
『北野天満宮信仰と名宝』

５．史料より建築物ごとのリスト化

収集した絵図、洛中洛外図を項目ごとに分類し、舞台の屋根形状など復元の参考とした。リストの内容は以下とする。

・景観年代・制作年代・場所・舞台構造(蹴込、後座、脇座、高欄、屋根、鏡板、橋掛り)
・座敷構造(形式、桟敷構造、桟敷屋根)
・柵(柵材料、筵囲、鼠木口、入口)、茶屋、太鼓櫓

６．類例調査

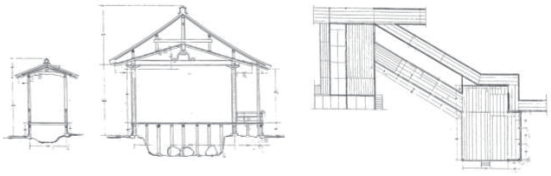


図7･8　西本願寺　能舞台実測図　断面･平面図
文化財学研究室『国宝･重要文化財(建造物)実測図集(京都府その2)』

設計を進めるにあたり、絵図の覚書の内容や洛中洛外図の様子を参考とする。また、現存している西本願寺能舞台の実測図面も追加の資料として復元設計を進める。

７．復元３D モデル、模型イメージの作成

能場絵図、洛中洛外図リストの統計より、舞台屋根構造は図５のように切妻屋根が大半を占めている為、復元の舞台の屋根を切妻と確定した。（図９）御桟敷構造（将軍の観覧席）は図 10 のように下を人が通り道として利用できる記述があり、周囲の桟敷よりも高さがある構造とした。太鼓櫓の紋は図２の絵図より藤巴（図 11）と矢筈（図 12）が描かれていた事から紋の再現を行った。

また、実際に建てられた状態に近い模型イメージ（図 13）の作成し、設計方法を推測した。スケールは 1/50 とし部分模型の作成。模型より、桟敷席の構造は折り置き組で作られたのではないかと推測できた。



図8　舞台3D　南からのパース



図9　御桟敷3D パース



図10　太鼓櫓3D パース



図11　軸付き藤巴紋



図12　八本矢車

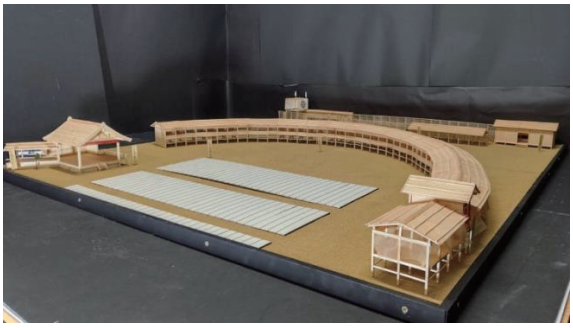


図 13　模型イメージ　全体図

８．終わりに

江戸時代の芸能として勧進能は幕府の威厳や庶民の娯楽として盛大に行われた重要な文化であったことが判明した。建築的には１ヶ月という短期間での設営においての工夫点を発見することができた。しかし、絵図からの推測より不明瞭な部分もあるため、一部の建築群においては考察の余地があると言える。本研究が芸能文化の価値、当時の建築技術の価値をさらに見出せる一端になることを望む。

５．参考文献

・京都文化博物館　『北野天満宮信仰と名宝　天神さんの源流』思文閣出版（2019 年２月）
・納屋嘉治　京都国立博物館編　『洛中洛外図　都の形象−洛中洛外の世界』淡交社（1997 年９月）
・独立行政法人日本芸術文化振興会　国立能楽堂事業推進課調査資料課『令和２年度国立能楽堂特別展　勧進能』　株式会社祥文社
・文化財学研究室　『国宝・重要文化財（建造物）実測図集（京都府その２）』

長屋の保存と再生

学籍番号 k19316
名　前 西山沙歩　　指導教員 山内貴博

Nagaya conservation and reproduction

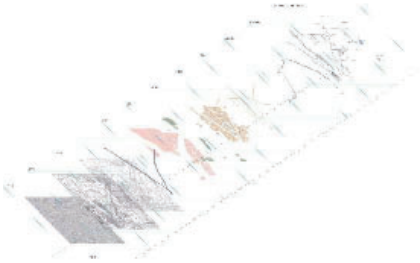
Student Number k19316
Name Nishiyama Saho
Supervisor Yamauchi Takahiro

はじめに

京都に住み始めて七年、まわりに歴史的な建物が多く神社仏閣だけでなく町屋や長屋がたくさんあり、独特な街の雰囲気を感じることが当たり前のようになっている。それと同時に時の流れにより、新しい大きいホテルがたくさんでき、歴史的な建物が減っていく。その中で京都の街並みの町屋長屋を保存しながら、今の人も住みやすいような再生させたい。

本計画では、下鴨神社の北側の郊外住宅地の長屋を対象に、昔の状態や周りの歴史、文化を意識して再生させることを目指す。

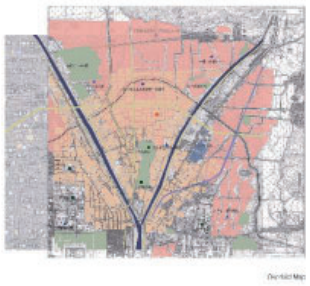
敷地



対象とする敷地は、京都市左京区下鴨神社の北側の住宅地にある長屋である。

この場所は古道と山の視線が一致する。鞍馬口通りは比叡山、東大路通りは東山、下鴨神社参道は西山。下鴨は比叡山・妙法（東山・西山）を背山にする京都を代表する景色が優れている土地、景勝地である。

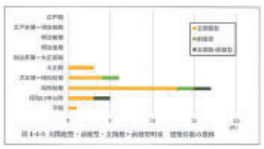
また、扇状地であり水はけがよく農耕に適し、宅地としてもすぐれている。よって江戸時代以来近くの上京、下京、鴨川東の市街地向けの農作物を生産する近郊農村であった。その後琵琶湖疎水分線が開通し、明治末から大正に人口が大幅に増え、農家が減ったことからここは都市近郊の居住地になった。

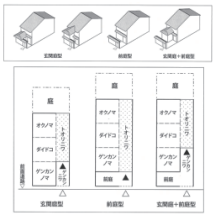


そして、急な人口増加により無秩序な宅地が増えたため都市計画事業がされた。地図を見ると、縦横にきれいに並んでいる住宅と、あまり整っているとは言えない住宅がわかり、ちょうどこの長屋は区画整理事業されたところとされていないところの間辺りにあることがわかる。

明治末の職住分離と新中間層の郊外住宅思想が生成された時代、都会の喧騒から反れた自然に近い立地で扇状地、伝統的な景勝地ということで絶好の住宅地だったと考えられる。

町屋・長屋





区画整理事業地に建てられた専用住宅についてみてみると、玄関庭型、前庭型の住宅が区画整理事業ピークに比例して流行していることがわかる。

そもそも京町屋の一番格式の高い造り「表屋造」は、手前から奥に行くにつれて順に公用、共用、私用となっている店がついているものである。その共用の部分に玄関の間があった。店の後ろに玄関棟、玄関庭、そして奥に住棟というようになっていた。

先ほどの敷地の話により、この長屋ができた時代は職住分離の生活が増えていたため、伝統の町屋の職住併用の住まいのあり方を手放すことを意味した。



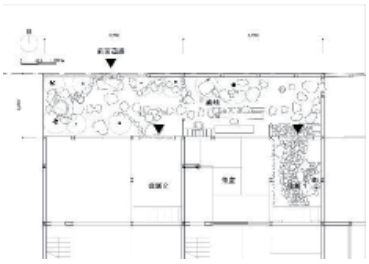


しかし、先ほどの「表屋造」の店棟を取り払うと郊外住宅の玄関庭、前庭型の住宅によく似ている。専用住宅でありながら、職住併用の住み方であり、京町屋の文化も受け継いでいるようにみえる。それによって、この住宅は近代に移行してく社会の中で京都人が生みだした郊外住宅だと思われる。

また、この建物の茶室と露地に注目して考える。この建物は東側の二つと、西側の一つの棟に住宅がわかれている。そして入口は北側の前面道路から一か所で、アプローチが露地になっており、露地を通って各住戸にアプローチする。

所在地：京都府京都市左京区下鴨　　Location :Shimogamo ,Kyoto Sakyo-ku ,Kyoto
主な用途：住宅　　Main Use : house
敷地面積：87.61 m^2　　Site Area : 87.61m^2
建築面積：62.61 m^2　　Building Floor Area : 62.61m^2
延床面積：93.41 m^2　　Total Floor Area : 93.41m^2
キーワード：長屋・保存・リノベーション・再生　　Keywords :Nagaya, conservation , renovation, reproduction

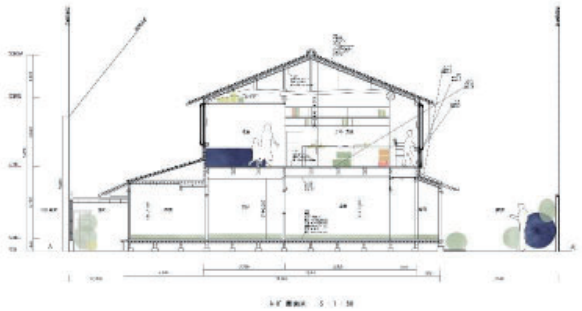
東側の２軒のうち日常生活は東側の棟で営まれていたようで、中央の棟は、座敷と茶室になっている。つまり、自宅の半分は普段は使わない非日常の空間になっている。現代の住宅の設計において、半分もの空間を普段は使わない空間と設えることはかなり考え難い。さらにアプローチの露地も、道路と玄関をただ結ぶのではなく、わざわざ回り込んで至るように設えてあった。





このようなデザインを生む要因として「対面」が挙げられるのではないかと思われる。

計画概要




三棟で一つの長屋で、東側の二棟がつながっており西側を設計する。茶室の文化が残っている長屋ということで、一階はほとんどこのまま残し、使われていない二階を居住スペースとなるように設計した。

一階は、路地と茶室があり、社会発展によってできた京都の郊外住宅として価値があるためほとんどそのまま残しておいた。

二階には、今はない水場、お風呂、トイレやキッチン、リビング、ダイニングをつくり、生活をしやすくした。全体的に面積も広いわけではないので、できるだけ小さく収めてまとめ、狭く感じさせないように考えた。少しでも快適の生活できるよう、くつろぎやすく、座りやすいリビングができるよう、少し高さのある畳のスペースをつくった。椅子だけでなく本当の畳のようにも使えることで多様に使うことができる。



また、西側は別の人の建物なので音がきにならないように水場の部分は東側においた。

天井は一部分だけ残し、ロフトとし物置や一部屋として使えるようにした。吹き抜けができることで部屋が広く感じられるように考えた。長屋の間の棟なので、採光がとりにくいので、できるだけ開けることができる南と北の壁は窓にした。







参考　砂川先生の話（近代・近郊住宅地の土地の文脈を読む～下鴨～）
山内先生の論文（露地と路地に関する調査）

蟇股の形状の変容過程に関する研究

学籍番号　K19317
名　　前　根本 悠花
指導教員　大上直樹特任教授

蟇股　社寺　細部意匠
彫刻　中備　伝統建築

研究概要

1.　研究目的

本論文は、主として室町時代に社寺建築において大きく発展した意匠的部材“蟇股”について、客観的数値を用いて分析したデータをもとに、その変遷過程・傾向を明らかにするものである。

2.　既往研究

・伊藤延男(文献 1)

蟇股の発祥は「人字型割束」という中備の一種であると論じられている。本蟇股と板蟇股は完全な時代変遷があったわけでないため、本蟇股の発祥は厳密には板蟇股からではなく、間斗束の両側に絵の装飾を施す「笈形」ではないかとする説も唱えた。

ほか 2 名による既往研究があるが、ここでは省略する。

3.　研究方法

◇研究項目

蟇股の客観的評価としては、以下の項目に分けて分析することとする。

① 蟇股の幅・高さ、その比率関係
② 蟇股上部の斗と組物巻斗の幅の大小比率関係
③ 蟇股幅と垂木枝数との関係

また、同時代・同地域におけるメッシュを用いた形状の比較をする。

研究を進めるにあたって各項目に下記のとおり計測基準を設けた。

① 幅：蟇股設置点の両足の先から先、高さ：蟇股設置点から上部巻斗の斗繰下端。小数第三位以下を四捨五入(尺)。比率は、高さを 1 としたときの幅の倍率。
② 高さは考慮せず、各斗の正面から見た際の幅でのみ比較。小数第三位以下を四捨五入し、尺単位で計測。
③ 報告書をもとに、実際の垂木枝数と検討。本論文ではその際、規準(ダキ、中墨、ヲゼ)にかかわらず数のみ考慮し、単純に n 枝掛けと表現。

◇事例収集

研究対象は地域・時代・指定にかかわらず、各修理工事報告書より図面化されているものの中で、寸法の記載があるもの、または縮尺より計測が可能なものに限定した。資料より分析を行った事例は 82 棟 129 例におよぶ。便宜上、①で分析した幅/高さの比率を小数点以下四捨五入で近似値として算出して整理した。

事例分析・考察

収集した事例をもとに各項目について分析したものは本論文では第 4 章にまとめ、同時にその考察をする。ここではそのうちの研究項目 3 つを簡単に述べる。なお、本研究において、事例調査上の計測数値・その比率は、特記のない場合はすべて小数第三位以下を四捨五入、単位を尺としている。

1.　縦横比の規則性について

前提として、社寺建築において部材の大きさや間隔の決定には整数比や黄金比が用いられていることが多いことから、「蟇股においてもその規格には何らかの比率関係がある」と仮定している。見える傾向としては、1:4、1:5 は蟇股において多用された比率であるということである。この研究方法では決定的な傾向を掴むには難点が残った。定めた幅・高さの基準を再検討する必要があると判断した。

2.　上部の斗と組物巻斗の大小関係について

上部斗も組物巻斗も幅は全く同じ規格であるか、上部斗のほうが大きい傾向にあること、その比率はグラフ 2 中で事例が集中している赤で示した範囲であり、1～1.25 倍であることが分かった。

3.　幅と垂木枝数との関係

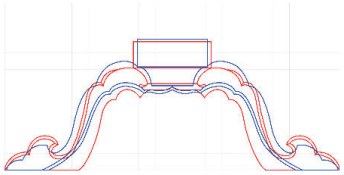
グラフ 3 は、事例調査にて計測した幅を実際の垂木との位置関係をもとに n 枝掛けとして数えたものを数えてヒストグラム化したものである。ただし、調査事例の中には垂木枝数を計測不能な事例が半数のため、信憑性は薄れてしまっている。蟇股寸法や枝数の決定の順番については研究の余地がある。

4.　メッシュ比較

メッシュを用いて幅を統一し、一目で形状の比較ができるようトレース図面を重ね合わせて検討した。ここでは、形状の複雑な本蟇股に限定した。

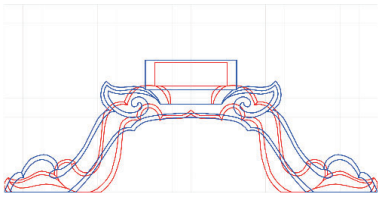
◇時代性に関して

時代性の確認のため、同地域かつ縦横比がきわめて近いもの同士を無作為に抽出して重ね合わせた。今回は、滋賀県・縦横比 1:4 の「延暦寺 常行堂・法華堂」(桃山時代)と「桑実寺 本堂 厨子」(室町前期)を比較対象とし、以下の図 4 にまとめた。一見して目立つ相違点は、脚の設置点の幅広さである。赤の桃山時代のほうは部材そのものの幅が単調なのに対し、青の室町前期のほうは緩急のある造りとなっている。



◇地域性に関して

地域性の確認のため、同時代かつ縦横比がきわめて近いもの同士を無作為に抽出して重ね合わせた。今回は、室町後期・縦横比 1:4 の「名草神社 三重塔 初重 正面」(兵庫県)と「三輪神社 本殿 側面」(秋田県)を比較対象とし、以下の図 5 にまとめた。一見して目立つ相違点は、肩の造形と足元の造形である。赤の兵庫県のほうは蟇股そのものの設置点付近に彫刻を施しているのに対し、青の秋田県のほうは肩に他では見られない彫刻を施している。



結論

各分析結果から、それぞれ簡潔に結論をまとめる。

①　蟇股の縦横比率関係

分析結果としては、概算 1:4 と 1:5 の比率で作られたものが多い結果となった。しかしこのデータのばらつきは、初めに設定した高さの基準が「蟇股設置点から上部斗の斗繰下端まで」であるとしたことに起因すると考えられる。図面やその縮尺を用いて「設置点から肩の最高高さまで」を高さとすることで、今回より明確できれいなデータをとることができたかもしれない。本研究ではかなわなかったが、もし後続研究がされるときはぜひ研究項目として役立ててほしい。

②　上部の斗と組物巻斗との大小関係

本蟇股においては主に意匠的な意味で用いられたことを考えると、より目立たせるために組物巻斗よりも上部の斗のほうを大きくするだろうと仮説立てたとおりの分析結果となった。中には組物巻斗よりも小さい例もあるが、これに関してもまた彫刻範囲を大きくするためなど、彫刻が関係していると考えている。

③　幅と垂木枝数との関係

垂木枝数というものは、その建築物そのものにも関係してくる説もあるため、少なからず蟇股にもあるだろうと考えていた。8 枝掛けを中心に計算されているようで、蟇股の寸法決定法についてもここで分析が進んだと感じる。今回は垂木枝数に焦点を当てたが、垂木寸法との関係についても分析が可能であればこれもまた後続研究にぜひ取り入れてほしい。

④　メッシュ比較

時代性と地域性の確認のため考案したが、それぞれ似てはいるもののやはり多種多様なものであるため、図面を重ねて判明する情報は少なく思えた。蟇股をつくっているのは当時の宮大工や彫刻家だそうなので、どうにか文献をみつけで、作者ごとの彫刻の癖や、地域におけるその癖の傾向などが分析できたら、今回よりももっとつかみやすい結果が得られると思う。修理工事報告書だけでなく設計書など、文献の範囲を広げて分析元を増やすことも手段ではないかと考える。

参考文献

・伊藤延男：「蟇股試論」『佛教藝術 = Ars buddhica』68 号, 毎日新聞出版,1968.8(文献 1)

・滋賀県教育委員会：『重要文化財 延暦寺常行堂及び法華堂修理工事報告書』滋賀県教育委員会事務局文化財保護課,1968

・滋賀県教育委員会 編：『重要文化財 桑実寺本堂修理工事報告書』滋賀県教育委員会,1986.2

・文化財建造物保存技術協会：『重要文化財 名草神社三重塔保存修理工事報告書』[八鹿町(兵庫県)]：重要文化財名草神社三重塔保存修理委員会,1988.2

・重要文化財三輪神社本殿及び境内社須賀神社本殿修理委員会：『重要文化財 三輪神社本殿及び境内社須賀神社本殿修理工事報告書』重要文化財三輪神社本殿及び境内社須賀神社本殿修理委員会,1964

公園住宅

学籍番号　k19318
名　　前　野口聖人
指導教員　森重幸子

Park housing

Student Number k19318
Name NOGUCHI seito
Supervisor MORISHIGE Sachiko

1 計画背景

近年、日本だけではなく世界中で社会問題となっている運動不足。そして運動不足から繋がる生活習慣病。日本では平均寿命の延びとともに、生活習慣病の割合が増加し、現在死因の 6 割に達している。生活習慣病予防に対して有効となってくるのが運動や食事である。世界保健機関（WHO）からの報告では日本の 3 人に 1 人以上の割合で運動不足という現状であり、調査の結果ここ 10 年は 30%と横ばいになっている。外国の国々などと比較すると日本は改善傾向であったが新型コロナウイルスの影響で自粛生活を余儀なくされた結果運動習慣が減少している。よってまだまだ運動不足という課題は明確である。

2 敷地

高野川から西・北山通から少し北にある（京都府京都市左京区松ヶ崎樋ノ上町）広大な畑を対象敷地と選定した。また交通の便もよく地下鉄松ヶ崎駅から徒歩 10 分、叡山電鉄修学院駅から徒歩 5 分である。周辺には京都工芸繊維大学やノートルダム女子大学や小学校などもあるため、子供～老人や家族連れなどの老若男女の幅広い世代の人が住んでおり、周辺には宝ヶ池や植物園や高野川などの本敷地は都市の近くではあるが、程よい自然との狭間に位置しゆったりとした場所である。

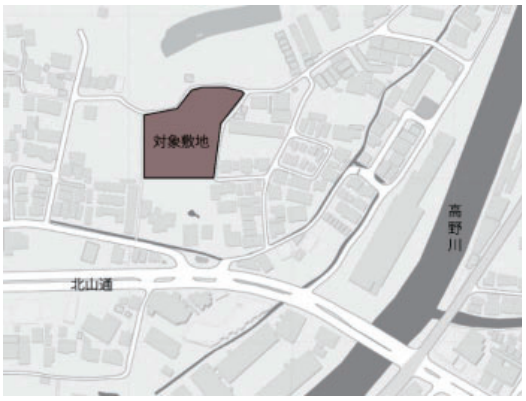


図1　敷地図

3 計画概要

この計画は運動をするだけの施設ではなく、生活をしている一部の中に様々な運動施設があり、尚且つ本敷地は住宅街であるため周辺住人が通り抜けや気軽に出入りしやすいように計画する。よって住人だけでなく運動施設を外部の色々な世代の人が活用し、運動をしている様子を日常的に視野の一部に入っていることによりお互いに触発し合い「運動をしなければ」という意識を促すことのできることを目標としている。

プールエリア・室内運動エリア・屋外運動広場エリア・住宅エリアの 4 つのエリアに分けて計画する。全体的に開放的な空間作りを意識し、閉所的な空間は住宅の中の一部のみとする。住宅エリアは隣人や外部空間との交流が生まれるような計画を考える。

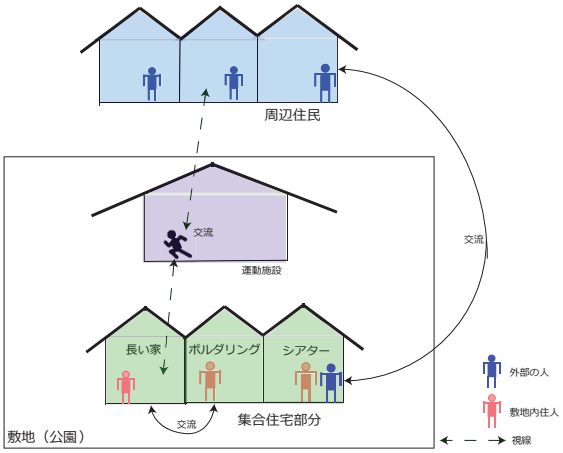


図2　イメージダイアグラム



図3　北俯瞰パース



図4　南俯瞰パース

所在地：京都府京都市左京区松ヶ崎樋ノ上町
主な用途：集合住宅・運動施設
敷地面積：3655.35m^2
建築面積： 1700.27m^2
延床面積：2673 .44m^2
キーワード：運動・世帯間交流・集合住宅

Location : hinouetyou,matugasaki,sakyouku,kyouto
Main Use : housing complex・exercise facility
Site Area : 3655.35m^2
Building Floor Area : 1700.27m^2
Total Floor Area : 2673.44m^2
Keywords : motion. Exchange between households

4 配置計画

配置としては敷地の北西側の道路側に運動施設を配置し住人だけではなく、周辺住人も使用しやすいように計画している。
敷地内の道は通り抜けをするだけではなく、外周を囲い住居エリアの屋上などにも道を配置することにより 2 次元ではなく 3 次元的に空間を使用し敷地内でウォーキングや散歩などをできるよう計画した。

また全ての住宅は南側に設置し日当たりのよいように配置している。運動施設を囲うように設計することにより運動している様子を視認できるようにする。運動施設からは広場を視認できるように北西側に開けたテラスを設計し広場と交流できるようにする。住宅と室内運動スペースの間は開けた緑化空間を配置し運動施設を繋ぐ柔らかな空間作りを計画した。

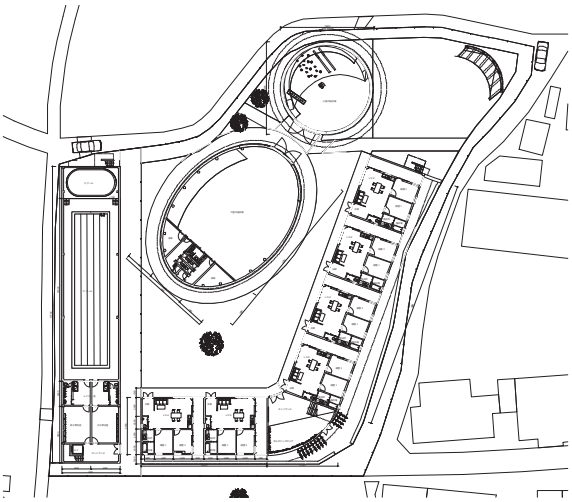


図5　配置図兼1階平面図　1:1000

5 設計計画

5-1 運動施設

運動施設はプール・室内遊技場大・室内遊技場小・屋外運動広場があり施設は全体的に開放的な設計をしておる、しかしプールエリアは盗撮やプライバシーの観点から１Ｆ部分は壁にしているが２Ｆ部分はガラスにすることにより採光や集会スペース・屋上部分からの運動を確認する視線は確保している。
大室内遊技場はプールと同様２Ｆと 1Ｆの一部の壁をガラスにしている。そして２Ｆ部分からは屋内ではあるが屋外の運動している様子や敷地内を全て視認できるように計画した。そして大室内遊技場と小室内遊技場と屋外運動広場を繋ぐように庇を伸ばし、通路などは屋外ではあるが運動空間を途切れさせないような空間作りをしている。



図6　室内遊技場大パース



図7　プールパース

5-2 集合住宅

集合住宅の部屋にも運動している様子を視認するだけではなく、すべての住居に半屋内空間が設計されており、京町屋の路地のような使い方をし、筋トレやヨガ・子供が遊ぶなど少し体を動かすなどの運動スペースも確保している。そして半屋内空間の入り口に壁を設計しないことにより運動している様子を外からも中からもうかがうことができるようになっている。
また運動を通して近隣や隣人の住人を招きやすいように玄関以外にも外に繋がる開口部を 2 か所設計している。エントランス部分には住人が使えるようボルダリングの壁なども設置し、天井に天窓を設置し採光をとるだけでなく屋上歩道から視認できるようになっている。



図8　路地空間パース

セカンドハウス
—利用者も職員も笑顔溢れる住宅介護施設—

学籍番号　K19319
名　　前　野田太樹
指導教員　宮内　智久

Second　House
—Residential care facility where users and staff are full of smiles—

Student Number　K19319
Name　Noda Taiki
Supervisor　Tomohisa Miyauchi

・はじめに



私が介護施設を計画しようと思ったきっかけについて。湖南市にはリハビリ院はが、介護施設がない。

もともと小さいころから母方の祖母の世話などが好きで、何か自分にできることはないかとずっと試行錯誤し考えた。そこで、高齢者の方々が不自由なく生活できるにはどうしたらいいのかを考えた結果、住宅介護施設を計画した。

1.　介護施設について

介護施設には、国や公共団体、社会福祉法人が運営する公的施設と民間企業などが運営する施設がある。介護保険施設は公的施設に該当する。

介護保険法に基づいて、入所する要介護者に対して入浴・排泄・食事等の介護や日常生活上の世話、機能訓練、健康管理、療養上の世話を行う施設。介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）・介護老人保健施設（従来型老健）・介護療養型医療施設（療養病床）・介護療養型老人保健施設（介護療養型老健）・介護医療院。他に、介護付有料老人ホーム・軽費老人ホーム（ケアハウス）・グループホームなどがある。

老人ホーム・介護施設の種類（民間型）

基本は以下の通り。施設によっては併設の施設でサービス内容を拡大している場合もある。

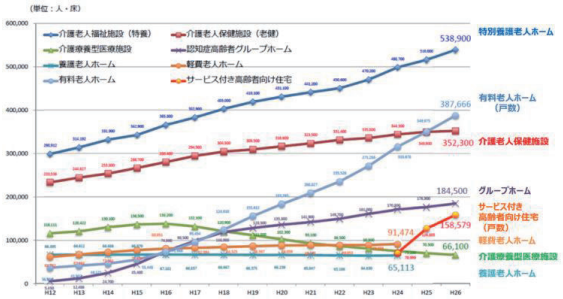
	施設の種類	受け入れられる介護度	認知症 ※1 の受け入れ	看取り ※2	入居待ちの期間	公募
主に要介護状態の人を対象とした施設	介護付き有料老人ホーム	自立～要介護５	○	△	短い	有
	住宅型有料老人ホーム	自立～要介護５	△	△	短い	無
	グループホーム	要支援２～要介護５	○	×	長い場合も	有
主に自立状態の人を対象とした施設	サービス付き高齢者住宅	自立～要介護３程度	△	×	短い	無

※1.［認知症の受け入れ］軽度までなら可能な場合を△とする　※2.［看取り］施設により可能な場合を△とする

自宅で生活できる状態に回復することを目的に、心身の機能回復（リハビリ）訓練、食事・排泄・入浴・就寝・健康管理などの日常生活の介護、心身の機能維持、通院への付き添い、急性の病気・負傷時の病院への搬送・付き添い、介護保険が適用されるサービスに関する相談などを行ない、できる限り、自宅での生活に復帰できることを目標にする施設である。

1-2.　施設・事業所数

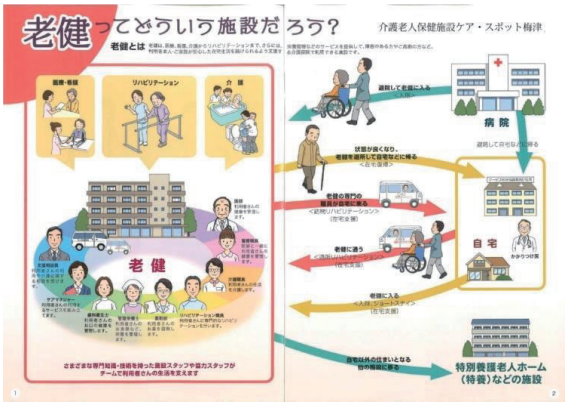
介護サービスの事業所数をみると、居宅サービス事業所では訪問介護が 35,075 事業所、訪問看 護ステーションが 12,393 事業所、通所介護が 24,087 事業所となっている。地域密着型サービス事 業所では定期巡回・随時対応型訪問介護看護が 1,099 事業所、複合型サービス（看護小規模多機能 型居宅介護）が 711 事業所となっており、伸び率が大きくなっている。 介護保険施設をみると、介護老人福祉施設が 8,306 施設、介護老人保健施設が 4,304 施設、介護 医療院が 536 施設、介護療養型医療施設が 556 施設となっている。



1-3. 介護施設の役割

役割には、包括的ケアサービス・リハビリテーション・在宅復帰・在宅性格支援・地域に根ざす。

このように、介護老人保健施設は特別養護老人ホームや有料老人ホームとは違い、終の棲家ではない。要介護者の在宅復帰を支え、いつまでも住み慣れた地域で暮らし続けることができるようにするための施設。また、要介護者だけでなく、その家族や地域福祉全体を支えるシステムの中枢に位置する介護保険制度全体においても重要な役割を持っている。



所在地：滋賀県湖南市大池町
主な用途：公園
敷地面積：11049.28 ㎡
建築面積：
延床面積：
キーワード：公園、広場

Location : Oike Town,Konan City,Shiga
Main Use :Park
Site Area : 11049.28 m^2
Building Floor Area :
Total Floor Area :
Keywords : Park、Square

2. 目的と計画

今回の計画で目的としては、「人と人とのつながり、手を添えあって生きていく」ことである。

介護者には不自由ない生活を、地域住民には手を添え合うことを考えている。

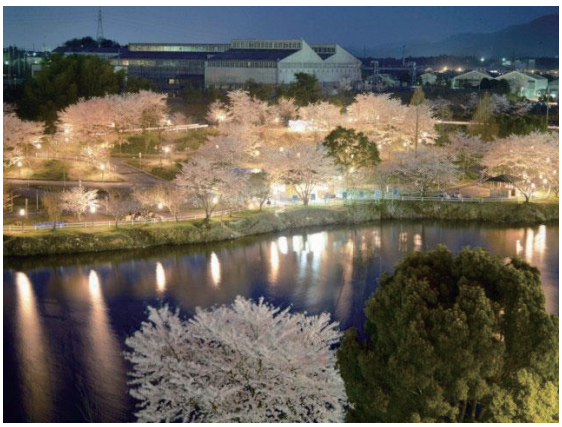
2.　敷地



敷地：にごり池自然公園

湖南工業団地横にある古くからのため池「にごり池」周辺を整備した公園。信号機や踏切などの設備を備えたかつての「交通公園」の名残を感じる施設もちらほらと見える。桜の名所として知られていましたが、年々木が老いており、ボリュームが少なくなってきている。公園近くの茶釜川や思川沿いの桜をあわせると約 1000 本の桜があり、千本桜とも呼ばれている。さくらシーズン中には桜まつりが開催され多くの人々が訪れ、ぼんぼりが灯火され、夜でも楽しむことができる。

2-1. にごり池視線公園の桜



湖南工業団地の横にある、古くからのため池であった「にごり池」周辺を設備した講演で、各手の交通公園の名残がある。池の周りを彩る桜がとても有名で、花見のスポットとしてたくさんの人々が訪れにぎわっている。

2-2.　にごり池自然公園の周辺

にごり池自然公園の周辺には工業団地やショッピングセンター、薬局、飲み屋などがある。また、周辺は歩道があり、周辺と公園の中は地域の方々のハイキングコースになっている。

この辺りには、古くからたくさんの貯水池があった。その一つである湖南工業団地横にある「にごり池」の周辺を整備して公園となった。以前は、信号機や踏切などがある程度の「交通公園」だったのですが、今は芝生の広場など、自然に親しめる公園になっている。

また、池にはたくさんの魚（ブラックバスやブルーギルなど）がおり、釣りをする人がいます。



2-3.　にごり池自然公園の歴史

昭和 62 年から桜の植樹が開始され、それに合わせて湖南市さくらまつりが開催されるようになりました。 地元の小さなイベントとして始まったさくらまつりは、湖南市商工会青年部の努力により徐々に大きくなり、湖南市商工会、湖南市観光物産協会など多くの人たちの協力と、多くの来場者たちに支えられ、 今では湖南市三大祭りの一つとなりました。

桜祭りでは恒例となったフリーマーケット（フリマ）や模擬店などのほか、各種ステージやチアリーディングの発表があります。 小さなお子様には移動動物園の堀井動物園も大人気です。

開放的な空間とプライバシーの両立

学籍番号　K19320
名　　前　野中諒子
指導教員　新海俊一　教授

Coexistence of open space and privacy

Student Number　K19320
Name　Ryoko Nonaka
Supervisor　Shunichi shinkai

はじめに

住宅に求められているものは刻一刻と変化している。気密性を最重要視し、閉じた空間が好まれた一昔前とは逆の、開放的で広々とした空間で構成される住宅が好まれるようになった。庭だけでなく、家の中でも屋外空間を楽しめるような、光あふれる住宅が多く考えられている。しかし、プライバシーへの配慮との兼ね合いは難しい。せっかく外に開いていても外からの視線を気にしてしまうようではのびのびと過ごせる空間にならない。視線や光を気にしてカーテンなどをつけ、外と遮断してしまう。それではその建築の魅力が発揮できない。内外の空間が連続するような開放的な空間を理想としながらもプライバシーへの配慮が気になる現代。開放的な空間とプライバシーへの配慮が両立された住宅をテーマに設計する。

建物概要

用途　：集合住宅
住居数　：4戸
階数　：2階
構造　：木造
建築面積　：244.818㎡（建蔽率　：54.4%）
延床面積　：489.636㎡（容積率　：108.8%）

子どものいる世帯をターゲットとし、住民の好みや意識によって外とのつながりを変化させることができる外観とすることを意識して設計している。

計画敷地



図１　配置図

１）現状敷地

敷地は、兵庫県明石市の中心部から2駅ほど西部に位置する。明石市は子どもを核としたまちづくり政策を行っている。それにより人口が増加しており、特に子どものいる世帯、若い世代が増加している。敷地周辺にも小学校や中学校が近くにあり、子どものいる世帯が多く住んでいる。こうした住民たちをターゲットとして設計を行い、プライバシーに配慮しながらも開放的な建物を設計する。明石市は10年連続して人口が増加しているが、将来の人口減少を見据えて市の大部分を誘導地域と定めることで、多様な人にとって住みやすい居住環境の維持・向上を今後の方針としている。敷地近くでも古くからある団地や住宅の間の空き地や駐車場が新たな住宅へと姿を変え、建物が密集度を高めている。南側の賃貸駐車場以外にも空き地が複数見られる。新たな住宅が増えると新旧の住宅が混ざり、住民の年齢層も幅広くなる。そうなると人通りも年齢によって歩行時間帯がばらばらになり、今より夜遅くの人通りを気にするようになる事が考えられる。この敷地の近くには大きな工場や神社があるが、敷地の周りは住宅が立ち並ぶ。南北に細長い敷地になっており、現在は6戸のテラスハウスが建っている。その敷地に新たな集合住宅を建てることとする。敷地西側は窓も開けられないほど建物が近接している。近接しているため、採光も見込めず薄暗い部屋となってしまう。敷地北側には葬儀会館があり近隣住民でない人たちも通行するため、葬儀会館の利用者の視線が気にならないような計画が必要となる。敷地南側には大きな賃貸駐車場があり、南北どちらの道路も人、車の通りが多い敷地である。

２）将来の想定

この選定敷地において大きく作用するのは敷地南側にある賃貸駐車場である。駐車場であれば音や排気ガスなどの問題はあるが、大きな窓や中庭をとると光をよく取り込むことができ、外と連続した開放的な空間をつくりやすい。しかしそれは将来にわたって駐車場のままであることが前提の話である。地面に線を引いただけの駐車場は新しく開発することが容易である。実際に、この賃貸駐車場の東側には大きな賃貸駐車場がもう一つあった。それがつい2,3年前に住宅地へと姿を変えた。今はすっかり駐車場の面影もなく小さな子どもがいる世帯が多く入居する戸建住宅が建ち並んでいる。賃貸駐車場のさらに南側にある線路の高架下にも駐車スペースがあり、賃貸駐車場がなくなった場合に代わりに駐車できる場所がある。これにより、この賃貸駐車場も無くなって戸建住宅か集合住宅、もしくはその両方となる可能性は高いと考えられる。そうなった時、敷地の周辺環境は一変する。駐車場の時には配慮の必要がなかった視線や採光など、快適な空間をつくりだす条件が増える。特に集合住宅になった場合、ただ中庭として外から見えないようにと考えても中が見えてしまうため、しっかりとした検討が必要となる。

所在地：兵庫県明石市立石 2-5-20
主な用途：低層集合住宅
敷地面積：450 ㎡
建築面積：244.818m²
延床面積：489.636m²
キーワード：プライバシー・開放性・視線

Location : 2-5-20, Tateishi, Akashi, Hyogo
Main Use : Low-rise housing complex
Site Area : 450 m²
Building Floor Area : about　244.818m²
Total Floor Area : about　489.636m²
Keywords : privacy、openness、gaze

設計内容

１）プライバシーと採光

設計をするにあたって第一に考えたことは、外からの視線が気にならないようにしながらも採光はしっかり得る方法である。周りに高層の建物が建つ可能性がある敷地であることから天窓や大きなハイサイドライトはむしろ上空から丸見えになり、プライバシーが気になる可能性が高い。簡単な対策はカーテンやルーバーをつけることだろう。しかしその場合外部空間との連続性が得られず開放性は低くなってしまう。テラスと室内に連続性を持たせて開放的な空間とするために窓だけでなくその先の塀にも工夫することを考えた。

特にテラスはリビングと連続的にして開放的な空間をつくるならば窓をふさぐことはしたくない。ただ普通にテラスにしてしまうと窓を大きく配置した場合上空から丸見えになってしまう。そこで最初にテラスの柵を高くすることで高層建物からの視線を奥まで届きづらくした。しかしそうすると採光まで遮ってしまう問題が出てくる。そのため柵を無双窓的構造とした無双塀にすることで状況よって住民が開閉を行えるようにした。無双塀を閉めていてもテラスとリビングの視線はつながっているため広々とした空間にできる。自由に植栽などを置いたり、解放したままグリーンカーテンを絡ませたりすることでさらに住民の好みや意識で変えることができるようにした。

また、近接する建物の西側は暗くなってしまう。そこで光庭をつくることで西側からも採光を得ることができるようにした。光庭側に大きくガラス張りで開くことで広々とした空間になるようにした。光庭の先には高い塀をつくることで大きな窓を配置しても隣接住宅と視線が重ならないようになっている。光庭にライトをつけるなどすることで夜間にぼんやりと浮き上がる雰囲気のある庭を楽しむこともできる。塀が高いため視線だけでなく室内の明かりもある程度遮るので、夜間にカーテンを開けていてもあまり外を気にしないで過ごすことができるよう考えている。

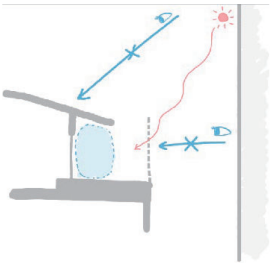


図２　テラス　ダイアグラム

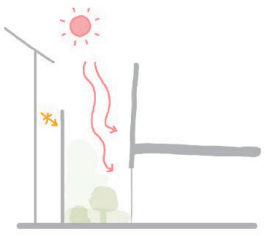


図３　光庭　ダイアグラム

２）空間の連続性

次に中と外、家の中の室同士でも連続性のある広々とした空間を実現したいと考えた。その場合、リビングとテラスを連続的な空間としたいときに、ただ隣接配置するだけでは連続性が不十分である。そこでテラスとリビングの高さを工夫し、「外に出る」という感覚を和らげれば連続性が高くなると考えた。テラスの床高をリビングよりも高くする。そしてリビングの窓下を収納棚にもなるベンチを設置しテラスに背を向けて座ることもできれば、机のように肘を置いてテラスを見ることもできるようにした。そうすることで視線がテラスとつながり、開放的な空間となる。また、ソファーや椅子ではなく床に座ることを想定しており、テラスを見ると自然的に視線が上に上がることになるため高い柵があっても空を見えやすい広々とした空間となっている。

1 階を玄関と個室、2 階を LDK にすると LDK が立ち寄る場所になりづらくなる可能性がある。そうなると各個室に籠ってしまい、家族が集まりにくい。そこで玄関を吹抜とすることで連続性を獲得し、開放的な空間となるようにした。LDK と繋げることで帰宅時や外出時などに気配を感じやすく、家族が集まりやすい LDK となるようにした。1 階にマットスペースをつくることで 2 階の LDK だけでなく、家族が 1 階にも集まりやすくした。子どものいる家庭をターゲットとしているため、家族がコミュニケーションを取りやすくしながらも、各々が年齢や好みによってスペースの利用方法を変えることができるように意識して設計している。

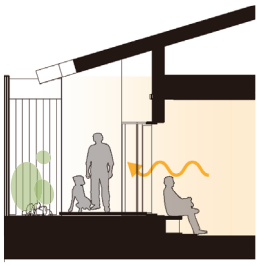


図４　テラス　連続性のダイアグラム

参考資料

1）明石市 HP『笑顔のタネあかし』（参照　2022-11/20）
https://www.city.akashi.lg.jp/shise/koho/citysales/kosodate/index.html
2）明石市都市マスタープラン　（参照　2022-11/20）
https://www.city.akashi.lg.jp/tosei/tokei_ka/oshirase/r04/toshimasuiken.html
3）中山繁信・長神充・杉本龍彦・片岡菜苗子『 窓がわかる本 設計のアイデア 32』 学芸出版社 2016

毎日がっこう

みのりからまなび、まなびがみのる

学籍番号　K19321
名　　前　野々村美映
指導教員　生川教授

Everyday is school

Learn from the fruit, and the learning bears fruit

Student Number K19321
Name　Nonomura Mie
Supervisor　Professor Narukawa

１．背景

この「字（あざ）」には、「三世代仲良く暮らす」という石碑がある。その文字の通り、他の字より三世代で暮らす家庭が多くみられる。実際、私の同級生の７人中７人がこの「字」内で三世代が暮らしていた。しかし、大学や就職でこの字から離れてしまう同級生が多く、残っているのは私を含め２人になってしまった。私たち世代がこの字にどのように関わっていくのか、その選択でこの字の将来が大きく変わってくるであろう。

平成 22 年・平成 27 年・令和 4 年の年齢別人口を見てみると、孫世代（第三世代）と子世代（第二世代）は徐々に減り、親世代（第一世代）は徐々に増えている(図 1)。このまま支える若年層の減少傾向が続けば、この字を守ってきた地域のシステム自体が存続できなくなってしまうだろう(図 2・3)。

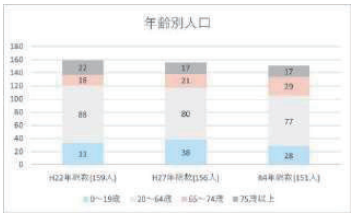


図１：字の年齢別人口

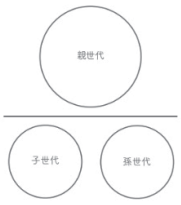


図２：世代による支え、支えられ方



図３：地域のシステム

２．目的

本計画では、孫世代には、昔のように外で自然の「みのり」に触れながら学ぶことが出来る環境を、子世代には、仕事と育児がより良く両立出来る環境を、親世代には、孫世代を見守り、子・孫世代に見守られ、安心して住める環境を提案することで、この字で各世代がそれぞれ果たすべき役割を持ち、持続的に三世代が暮らすまちづくりを提案する。

３．現状分析

3-1. 敷地概要

滋賀県内のある町の中の 1 つの字を対象とする（図 4 白枠）。町内人口 21,344 名の内の人口 151 名（2022 年時点）の字である。町には保育園、幼稚園、小中学校、高等学校、診療所、図書館、スーパー、駅がある。字には神社（小学生の登校する際の集合場所、遊び場でもある）、公民館（字行事を屋内で行う際に利用）、寺院（経を覚える日曜学校が月 3 回程開かれる、年末子ども建ちが集まり鐘撞が行われる）、地蔵（夏季には地蔵の前にテントを張り、地蔵盆が行なわれる）事業所（瓦屋、設備、訪問看護、ウェブコンサルティング）、農事組合法人がある。


図４：字の範囲と道路と敷地

3-2. 農事組合法人

農業生産の協業を図る法人である。組合員は原則として農業を営む者であり、組合員の共同の利益を増進することを目的とする。内容は、①農業に係る共同利用施設の設置、②農業の経営、③1 及び 2 に附帯する事業である。この字では、定年退職した字の住民が順番にリーダーを担い、字内で収穫された米・麦・飼料米を初めに字内で定価の半額で販売し、残った分を農協に定価で売却しているため、毎年字内のみのりを住民は享受することができている。

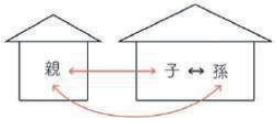


図５：助け合いのかたち

3-3. 字の様子

日中、田畑で農作業する親世代がいるため、孫世代は外で遊んでいても安心感がある。三世代が同じ字内に近居しているため、同居していなくてもなにかあればすぐにお互いが助け合うことが出来ることから、昔から共働きの家庭が多かった(図 5)。そして、子ども会があるため、小さい時から友達との交流がある。

同じ名字の人、親戚関係に当たる人も多く、地縁、血縁が色濃く現在も引き継がれている。



図 6:みのりとまなび

3-4. 字の偉人

野々村捨次郎…元治元年 10 月誕生

住民は、田地用水の確保が難作業で苦労していた。そこで、字の農業振興のため大正池揚水ポンプ(動力ポンプ)を建設し、活躍した。

４．敷地選定

神社・公民館の向かいの田と道路を挟んだ向かいの畑を敷地とする（図 4 赤枠）。二つの敷地の間の道路は、大通りにつながる道になるため、交通量が他の字内にある道路より多い。小中学生の通学路になっている（図 4 白線）。

５．計画内容・コンセプト

字の中心を通っている道路の左側の敷地をキッチンと憩いのある「まなびの場」とし、右側の敷地を字内で採れる食料を保存するための「みのりの場」とする。

私の家族は、祖父母とは一緒に住んでおらず、徒歩圏の範囲に住んでいる。普段から、祖父母から野菜を分けてもらったり、おかずをもらったりしてきたが、一緒に作ることはほとんどなかった。

そこで、まなびの場では、田畑で採れた野菜や米を持ち寄り、教えてもらいながら一緒に料理をしたり、食べたり出来るようにし、料理で三世代をつなげる場にする。そして、車がないと飲食店に行けない立地のため、ここで友人とも楽しめるようにしたい。夏は外に向き開放的に風

所在地：滋賀県愛知郡愛荘町南野々目
主な用途：調理場・貯蔵庫
敷地面積：444 ㎡・1,485 ㎡
建築面積：84.5 ㎡・39.4 ㎡
延床面積：84.5 ㎡・39・4 ㎡
キーワード：みのりとまなび・まちづくり・三世代

Location :　Minaminonome , Aisyo-cho , Shiga
Main Use :　kitchen・bunker
Site Area :　444 ㎡・1,485 ㎡
Building Floor Area :　84.5 ㎡・39.4 ㎡
Total Floor Area :　84.5 ㎡・39.4 ㎡
Keywords :　Fruits and Learning , Town planning , Three generations

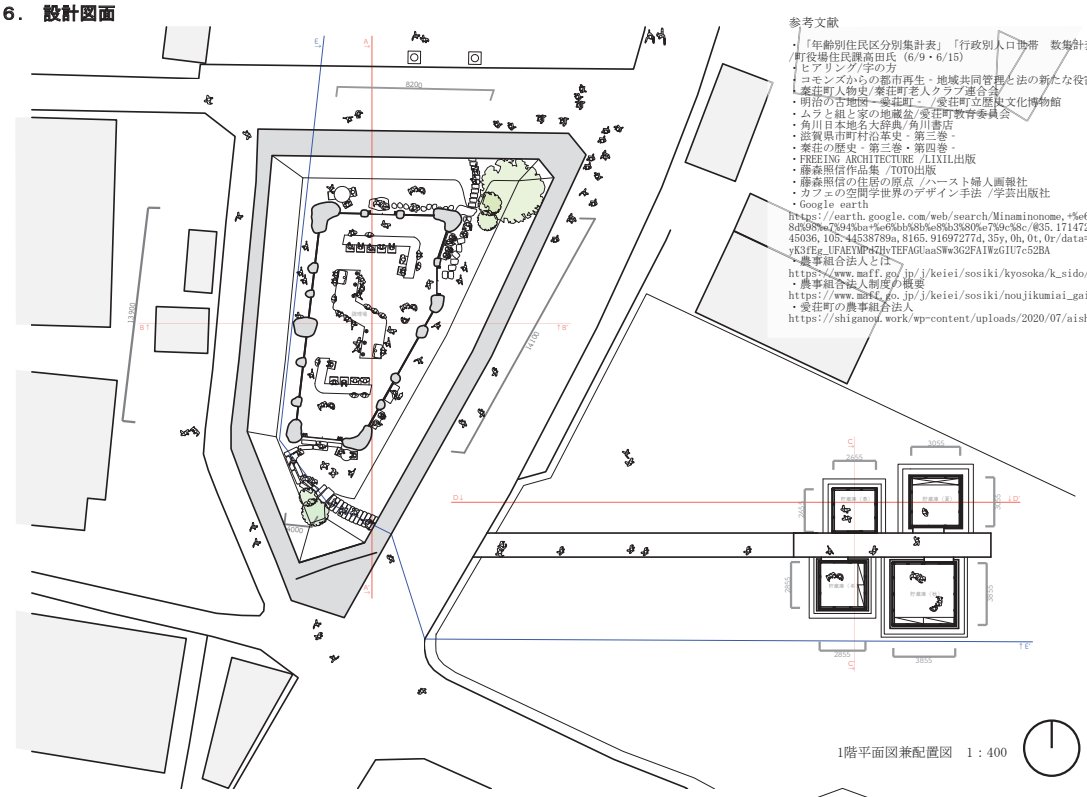
世代をつなげる場にする。そして、車がないと飲食店に行けない立地のため、ここで友人とも楽しめるようにしたい。夏は外に向き開放的に風通しが良いように感じさせ、冬は内側に向き暖をとるイメージにしていくことで、季節による変化を持たせる。

みのりの場では、この字にとって重要な役割を果たす農事組合法人があるため、農業生産の協業を図れるような場にする。春夏秋冬それぞれの倉を作り、その倉で米や野菜を貯蔵し、その食材をまなびの場でも使用出来るようにする。

現在、野菜などが実りすぎると、畑の隅に捨てられているのをよく見かける。そこで、各家庭で食べきれない野菜をそこに持っていくことで、必要としている人のもとへ届き、食べ物を無駄にしないような仕組みにする。

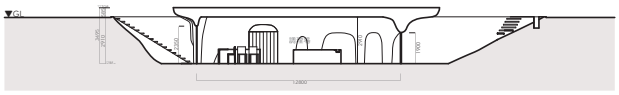
「みのりからまなび、まなびがみのる」この循環こそが、三世代仲良く暮らすための持続的な字のまちづくりの基本にあると考える。そしてこの二つの敷地を毎日自由に通える学校のような学びの場にする(図 6)。

６．設計図面



参考文献
・「年齢別住民区分別集計表」「行政別人口世帯　数集計表」/町役場住民課高田氏（6/9・6/15）
・ヒアリング/字の方
・コモンズからの都市再生 - 地域共同管理と法の新たな役割/高村学人
・秦荘町人物史/秦荘町老人クラブ連合会
・明治の古地図 - 愛荘町 - /愛荘町立歴史文化博物館
・ムラと組と家の地蔵盆/愛荘町教育委員会
・角川日本地名大辞典/角川書店
・滋賀県市町村沿革史 - 第三巻 -
・秦荘の歴史 - 第三巻・第四巻 -
・FREEING ARCHITECTURE /LIXIL出版
・藤森照信作品集 /TOTO出版
・藤森照信の住居の原点 /ハースト婦人画報社
・カフェの空間学世界のデザイン手法 /学芸出版社
・Google earth
https://earth.google.com/web/search/Minaminonome,+%e6%84%9b%e8%8d%98%e7%94%ba+%e6%bb%8b%e8%b3%80%e7%9c%8c/@35.17147283,136.20245036,105.44538789a,8165.91697277d,35y,0h,0t,0r/data=CigiJgokCXyK3fEg_UFAEYMPd7HvTEFAGUaaSWw3G2FAIWzGIU7c52BA
・農事組合法人とは
https://www.maff.go.jp/j/keiei/sosiki/kyosoka/k_sido/kumiai/
・農事組合法人制度の概要
https://www.maff.go.jp/j/keiei/sosiki/noujikumiai_gaiyou.html
・愛荘町の農事組合法人
https://shiganou.work/wp-content/uploads/2020/07/aisho0731.pdf

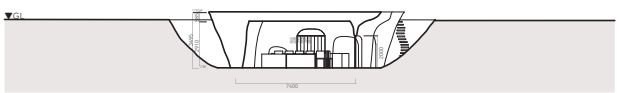
1階平面図兼配置図　1：400



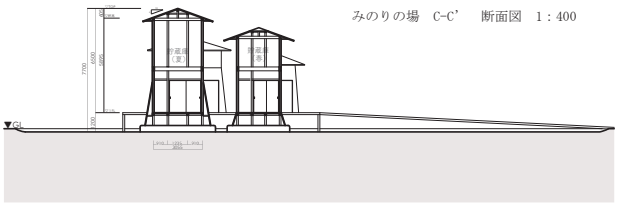
まなびの場　A-A’　断面図　1：400



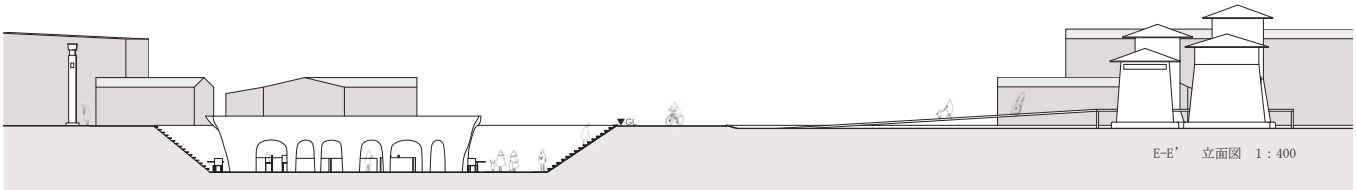
みのりの場　C-C’　断面図　1：400



まなびの場　B-B’　断面図　1：400



みのりの場　D-D’　断面図　1：400



E-E’　立面図　1：400

自然を感じる住宅

学籍番号　K19322
名　　前　萩永楓佳
指導教員　新海俊一教授

1. はじめに

本計画では、自然を感じ、自然エネルギーを活用する環境共生型住宅の設計をする。祖母の家が数年前までエアコンなしで過ごすことができたことから自然と住宅の関係に関心をもったことが環境共生型住宅の設計に取り組むこととなる。

ができエネルギー負荷も環境負荷も軽減できる。また、エアコンの風は冷たすぎると感じることもあるが自然風だと心地よく快適である。このようにエネルギーを活用することでエネルギー負荷、環境負荷が軽減できるばかりでなく体感的にも快適な住宅となる。

2. 計画敷地

所在地：滋賀県長浜市朝日町 26

用途地域：第一種住宅地域

敷地面積：約 972 ㎡

計画敷地の近くには公共施設があり、徒歩 10 分の距離に駅もあるため生活しやすい地域である。周辺地域と比べると新興住宅は少なく古くから建つ住宅が多い。隣接する道路は狭く車どおりは少ない。敷地の南側にアパートがあり日陰になる部分がある。西側には小さな墓地がある。



図１：敷地周辺図

計画敷地である長浜市は滋賀県北部に位置し自然豊かな地域である。気候は、日本海型気候に属しており春や秋にかけて過ごしやすい日が多い。一方、冬は日本海側からの季節風が吹き込み降雪量が多く、一部では豪雪地帯や特別豪雪地帯に指定される。今回の計画敷地は長浜市の市街地であり他の地域より自然が少ない。公共施設や交通網が集中しており利便性が高い地域である。長浜駅の近くには黒壁などの観光地もあり賑わいを見せている。集約型多核都市構造を目指して暮らしやすさとまちの持続発展性を確保しようとしている。また、開発

Feel nature house

Student Number K19322
Name　Fuka haginaga
Supervisor shunichi shinkai[

における一区画当たりの宅地面積の最低基準の引き下げ等の規制緩和を検討するなど、「市街化区域への移住誘導を図り、快適な居住環境の形成を務める」と長浜市の都市づくり理念に書かれていることから、積極的に人を集めようとしていることがわかる。計画敷地もその地域内にあり、今後人口増加が見込まれる地域と考えられる。

3. 計画内容

本計画は、家族向けの設計提案である。972.㎡の敷地に図２のように広いので図２のように４棟が建つ住宅地を計画。１軒分の敷地ではなく広い敷地を選定し分割する方法を選んだ理由は１軒だけでは環境共生型の住環境を実現することは難しいためである１軒の住宅だけが自然風を導入しても周囲の住宅が冷房で排熱しているのでは快適な通風は望めない。また、自然を感じる空間に住みたいという思いを持つ人が集まり住むことで自然が多い空間は作れると考えた。そこで、敷地を分割して環境共生住宅に住みたいと考える住み手向けの住宅地を計画した。ここでは４つに分割された敷地の中の西南に位置する敷地を計画する。選定理由は、南側の４階建ての建物の影響で一番影が多くなる敷地であり、建てることが難しいと考えたためである。



図２：敷地図

住み手の家族構成は父、母、子の３人家族で、今後子供が増えることを想定した。設計するにあたって自然エネルギーを利用すること、周りの環境と共生することの２点が重要な、配慮ポイントである。

自然エネルギーを利用することとは、自然の光や風を取り入れることである。この敷地には、南側に４階建ての建物があり光を入れづらいという問題がある。これを解決するために屋根を上下にずらし、ハイサイドライト、吹き抜け、障子を導入した。ハイサイドライトから光をお引き込み白い内壁で反射させ、部屋全体が明るくなるようにし

所在地：滋賀県長浜市朝日町 26
主な用途：住宅
敷地面積：240m²
建築面積：91.09 ㎡
延床面積：152.40 ㎡
キーワード：自然エネルギー・環境共生住宅

Location : 26,Asahi-chou,Nagamana-shi,Shiga
Main Use : house
Site Area : 240 m²
Building Floor Area : 91.09m²
Total Floor Area : 152.40m²
Keywords : Natural energy, Environmentally symbiotic housing

た。反射を用いた間接光は、眩しい光でなく、柔らかい光となる。吹き抜けにすることで１階にも光が届き、南側から光が入らないという問題を解決できる。２階の各部屋に障子窓を設けることで１階と同様に自然光を導入することができる。

この地域は夏に東南東からの風が吹く。この風を効率的に取り入れるために東側に大きい窓を設け、吹き抜けを通りハイサイドライトや２階の窓から風が通りぬけるようにした。２階の部屋は内側に障子窓を設けることで２か所以上の窓を設けることができ、風の通り道を確保できる。

今回、４棟全てが庭を設けることを想定している。図２のように敷地の内側に庭を設けることで１軒だけでは実現できない広い緑の空間が確保できる。このような緑の多い空間で生活がしたいという思いを持つ人や住宅が集まれば緑の多いまちが形成されるだろう。また、樹木が隣人からの視線を遮る効果も期待できる。お互いに同じ場所に庭をつくり木を植えることで植栽や樹木に視線を誘導したり、視線を遮ることができ緑を楽しむだけでなく実用的なメリットも得られる。単に樹木をを植えるだけではなく風が通るように配置している。樹木で風を遮ってしまうと風を取り入れ、風を感じることができなくなってしまうため配置は大切である。図５のように木の幹隣接距離を開け、低木やほかの植栽で窓を塞いでしまわないように配置する。この配置方法を４棟全てが行うことで風を取り入れ風を感じる風の道をもつ住宅地が実現する。

南西敷地の植栽計画にあたっては４階建ての建物の影になることが多い点を考慮しなければならない。そのため、適度の日照を好む中庸樹を選ぶのが望ましい。例えば、高木ならエゴノキやナツツハギ、中木ならオトコヨウゾメやムラサキシキブ、低木ならウツギやヤマブキなどがある。

他の３棟については、４階建ての建物から受ける影響が少ないので陽樹が適している。例えば、高木ならコブジやマメザクラ、中木ならスモークツリーやブッドレア、低木ならオオムラサキツツジやヤマハギなどがある。また、落葉樹を植えることで夏は日光を遮り、冬は日光を入れることができるので快適に過ごすことができる。

4. おわりに

以上のような光と風の導入法を活用することで余分な電気代の節約にも繋がる。節約や省エネが推進され、自然環境と共生するライフスタイルを求める人にとっての住宅は必要とされると考える。

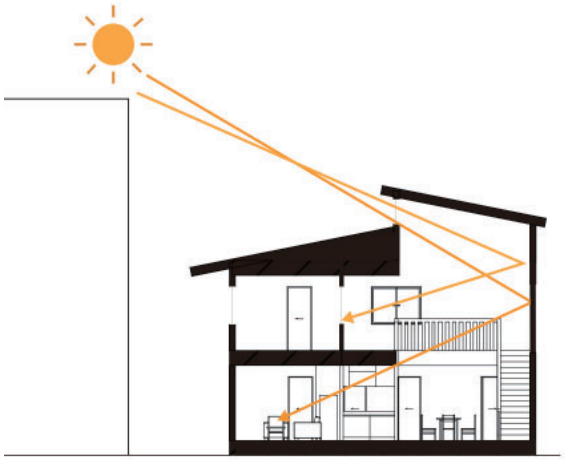


図３：光の導入方法

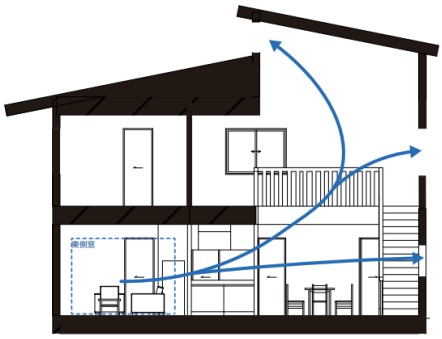


図４：風の導入方法

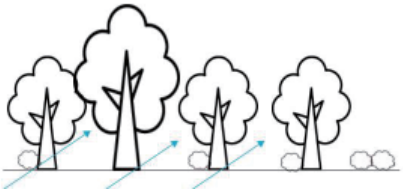


図５：樹木の配置

参考

・長浜市都市計画マスタープラン
（https://www.city.nagahama.lg.jp/0000001239.html）
・気象庁　過去の気象データ
（https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php）
・世界で一番くわしい住宅用植栽最新版
（著者：山崎誠子／発行所：株式会社エクスナレッジ／2022.7.25）
・エアコンのいらない家　自然の力で快適な住まいをつくる仕組み
（著者：山田浩幸／発行所：株式会社エクスナレッジ／2011.7.2.）

Archive 尾道 - 尾道映画歴史観

学籍番号　K19323
名　　前　濱岡太陽
指導教員　人見将敏

制作目的と背景

若者の地域移動による過疎化と高齢化率が上昇していく尾道市では、空き家化や商店街のシャッター街化が加速しており、以前のような賑やかな雰囲気とは少し違った寂しげな風景が広がっている。このままでは観光客が満足に観光できなくなり、観光客数が激減する恐れがあると考え、新規の観光客を増やせるような施設を計画する。

尾道市について

尾道市は、人口約 14 万人の広島県東部に位置する温暖な港町である。「しまなみ海道」の入り口でもあるためサイクリストが多く通る街である。名物の尾道ラーメンや、自然風景が観光客に人気であり、「坂の街」「映画の街」としても全国的に知られています。

また、尾道市は大林宣彦監督の出身地です。尾道を愛した大林監督は尾道を舞台にした「尾道三部作」を作りました。この尾道三部作には全国にファンが多数存在し、1984 年にはロケ地巡り目的で、20 万人以上の若い観光客が訪れたといわれています。



尾道三部作について

大林宣彦監督の独特な世界観と、作中のノスタルジックな風景が人気の尾道三部作は「転校生」「時をかける少女」「さびしんぼう」からなっている。それぞれ 1983 年と 1985 年に放映されており、ファン層は現在の 40-80 代が最も多いと考えられる。



左から「時をかける少女」「さびしんぼう」「転校生」

Archive ONOMITI

Student Number k19323
Name　　Taiyou Hamaoka
Supervisor　　Masatoshi Hitomi

現状分析

・高齢化の現状－高齢化率 約 37%（全国平均 29%）
・高齢化率は 2050 年頃まで上昇し続ける見込み
・高齢化による商店街のシャッター街化
・コロナウイルスの影響もあり、観光客は減少傾向にある
・尾道三部作のブームは一昔前に去り、忘れかけている人も多い
・尾道三部作を体験できる施設はない。



尾道市の高齢化の予想グラフ

問題

・高齢化が進み店舗の閉店ラッシュが続く中、新規観光客を呼ぶ施設とはどのような施設なのか？
・新規観光客が求める体験、わざわざ尾道まで行きたいと思わせられる体験とはどのようなものなのか？
・尾道三部作のファン層である 40-80 代の足腰の弱い人がロケ地巡りをするにはどうすれば良いか？

計画趣旨

新規観光客がわざわざ足を運びたくなる尾道映画歴史館を創る。尾道は尾道ラーメンや、自然風景、映画など様々な分野で有名である。ラーメンや、自然風景はそれぞれ体験できる店や施設があるが映画に関しては体験できる施設がない。インターネットで調べて、ロケ地巡りをすることは可能だが、尾道三部作のファン層である 40-80 代の人が「坂の街尾道」でロケ地巡りをするのは容易ではない。そこで、足腰の弱い高齢者や、ロケ地巡りをするほどでもないが尾道三部作に興味のある方に向け、施設内でロケ地体験が簡単にできる尾道映画歴史館を創る。

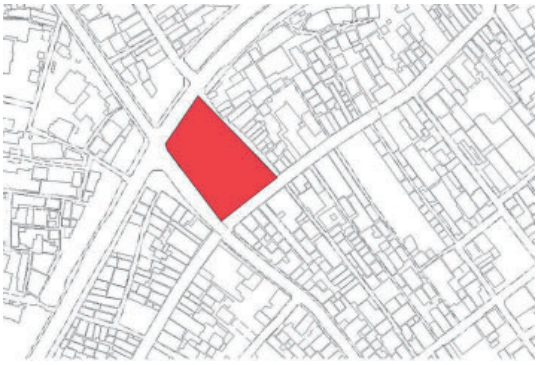


「坂の街尾道」

所在地：**広島県尾道市十四日元町**
主な用途：映画館、歴史館、カフェ
敷地面積：2700m^2
建築面積：300 ㎡
延床面積：900 ㎡
キーワード：尾道　高齢化　映画　尾道三部作

Location : Toyohimotomachi, Onomichi, Hiroshima
Main Use : cinema, history museum,Cafe
Site Area : 2700m^2
Building Floor Area :
Total Floor Area :
Keywords : Onomichi Aging Movie Onomichi Trilogy

敷地概要



所在地：広島県尾道市十四日元町

敷地面積:2700 ㎡

JR 尾道駅から徒歩 15 分の所に位置し、近くには尾道ラーメンの名店や尾道本通り商店街、観光客に人気な尾道を一望できるロープウェイなどがあるため観光客が気軽に立ち寄れる位置にある。さらに、国道 2 号線沿いに位置しているためサイクリストも立ち寄りやすい。

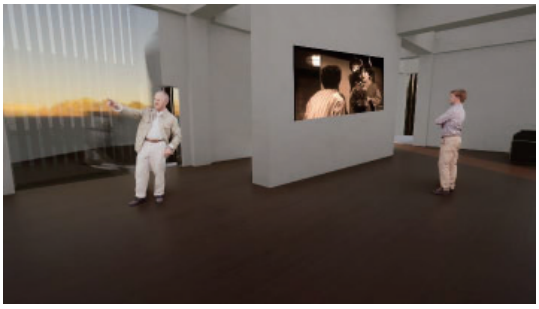


航空写真 Google Map から

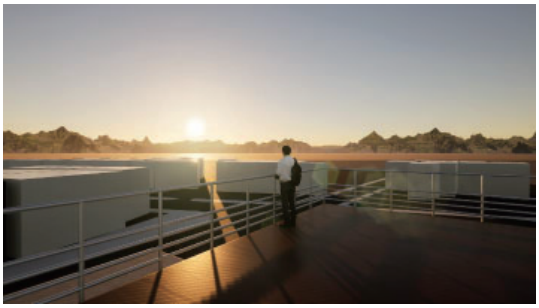
施設について

足腰の弱い人や、気軽に立ち寄った人でもロケ地体験ができるように一階にロケ地体験コーナーを設けた。また、一階でロケ地体験をして尾道三部作に興味を持った観光客や、もう一度尾道三部作を見たい人に向けて二階にはシアタールームを設けた。選定敷地の位置からして観光の途中や食事後に立ち寄りやすい場所にあると考えた。そういった点から三階にはカフェを設けた。三階にカフェを設けることで一階のロケ地体験コーナーを必然的に通る動線になるので、カフェ目的で来た人も尾道三部作に興味を持つきっかけになると考えた。

また、尾道三部作のノスタルジックな雰囲気を残すためにあえて直射日光の当たる面にガラス面を設けなかった。そうすることで、地面や壁の反射光のみの淡くノスタルジックな空間を演出した。



テラスからは尾道水道や山々のロケ地を眺めることができる。こうすることで、体の不自由な高齢者でもより身近に尾道三部作のロケ地を体感していただけると考えた。



まとめ

尾道映画歴史館を通して、より尾道を好きになっていただく。ただ観光に来た尾道三部作を知らない方でも尾道三部作を知っていただける。尾道映画歴史館はこういった懸け橋になるような施設になるだろうと考えます。

参考文献

https://travel.rakuten.co.jp/mytrip/howto/onomichi-girls-guide

https://tabetainjya.com/archives/hiroshimajin/post_6392/

https://tripplanner.jp/plan/59475998c315eb54e7cfa7671b658f21

https://jp.gdfreak.com/public/detail/jp010050000001034205/2

泉ヶ丘 STATION・HILL

学籍番号　k 19324
名　　前　濵野佑基
指導教員　小梶吉隆先生

IZUMIGAOKA　STATION・HILL

Student Number　k 19324
Name Hamano Yuuki
Supervisor Kokaji Yoshitaka

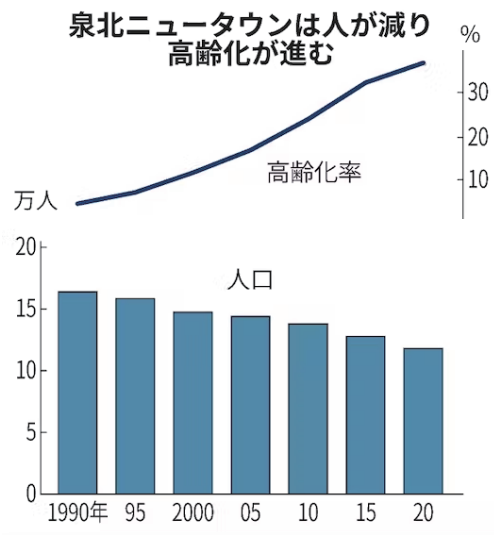
・背景・目的

計画敷地となる泉ヶ丘駅前地域は、昭和 42 年のまちびらきから、昭和 46 年の泉ヶ丘駅の開設を経て、広域型商業施設、公共施設、都市公園等の都市機能が集積する泉北ニュータウンの中核的タウンセンターとして成熟してきた。しかし、まちびらきから 40 年以上が経過し、泉北ニュータウン全体の少子高齢化の進展、人口の減少、住宅や施設の老朽化等の問題の顕在化に併せて、泉ヶ丘駅前地域においてもパブリックスペースを構成する施設や商業施設等の老朽化、及び市場のニーズや商業環境の変化による商業・賑わい機能の活力低下等の課題が現れ始めている。今回、パブリックスペースを使った計画を進めることで、パブリックスペースが持つポテンシャルが泉北ニュータウンが抱える問題を解決に向かわせ、泉北ニュータウン及びその周辺エリアに圏域の及ぶ拠点である泉ヶ丘を中心とした多様な都市機能の集積、豊かな緑といった市街地の特徴 を生かすことで、多様な世代が「住み 」「集い」「働き」安心して暮らし続けることができる持続可能な 新しい時代の「ニュータウン」を

・パブリックスペースについて

パブリックスペースとは個人に属さない公の空間。日本語で「公の」という言葉からは「官製」が連想されるが、パブリックという英語には、公衆の、一般に開放された、公開の、という意味がある。このため必ずしも公的に整備された空間でなくとも、一般に開放されている公共性の高い空間も含まれる。公共の広場、公開空地、学校、駅、病院、図書館、劇場、街路等にある人が集えるスペースなどがあてはまる。近年、パブリックスペースの整備あるいは運営に民間資本が入り、「人を集めること」がパブリックスペースの新しい役割に加わりつつある。とくに商業的なポテンシャルの高い大都市の公園ではそれが顕著である。加えて、人口減少や高齢化に起因する地方自治体の財政悪化を背景に、都市経済の活性化の手段として、土地や施設などの社会の資産全体に対して高い割合を占める公有資産のポテンシャルが注目され、公園だけでなく道路、河川区域、駅前広場は「お金を稼ぐ場所」とみなされるようになりつつある。また巨大な再開発が進みつつある渋谷区では宮下公園がホテルを組み込んだ立体的な公園として再整備されつつあり、豊島区では池袋駅周辺の公園整備は再開発のきっかけであると位置付けられているように、パブリックスペースは都市間競争の武器ともなりつつ

泉ヶ丘市人口推移



引用：https://www.nikkei.com/article/DGXZQOJB037TA0T00C21A2000000/

・泉北ニュータウンについて

泉北ニュータウンは、大阪府堺市南区および和泉市東部の丘陵地帯に大阪府が計画・建設したニュータウンである。範囲は泉ヶ丘、栂・美木多、光明池の 3 地区からなっており、面積は 1,511ha で、人口は約 12 万人、世帯は令和元年８月で約 5 万 6 千人世帯になります。このようなニュータウンは高度経済成長期の中、戦後職を失った人々が仕事を求めて都市部に流入し、都市部に人口が集中してしまうのを防ぐために作られた。地形の形も起伏の激しい地形となっている。泉北ニュータウンは緑が多く、公園などの施設が充実しており。そのうちの一つである「堺・緑のミュージアム ハーベストの丘」は、体験型の農業公園であり、広い園内をゴーカートに乗って巡ったり、動物とふれあえることはできる。さらに、泉北高速鉄道が通っており、泉ヶ丘駅、栂・美木多駅、光明池駅をつないでいる。そして、その各駅には路線バスやふれあいバスが運行しており、電車とバスを利用すれば、主要な施設への移動には困りません。またこの泉北高速鉄道を利用すれば、難波駅まで約 30 分、大阪駅までは約 50 分と、都市部への移動もしやすい。このように緑が多く、自然とふれあえる施設が多い泉北ニュータウンは、子育てに適したエリアであり。また、交通アクセスがよいので通勤通学で大阪市内へ移動される方にも適している。さらにニュータウンであるがゆえに、駅周辺に主要な公共施設・商業施設が揃っており、不自由なく暮らすことができる。

所在地：大阪府堺市南区竹城台 1-1-1
主な用途：駅・駅前広場
敷地面積：42253.32m^2
建築面積：25319.08m^2
延床面積：30016.69m^2
キーワード：駅・駅前広場・パブリックスペース

Location : Osaka, Sakai-shi, Minami-ku, Takejodai 1-1-1
Main Use :station, station square
Site Area : 42253.32m^2
Building Floor Area : 25319.08 m^2
Total Floor Area : 30016.69m^2
Keywords : station, station square, public spaces

・計画内容

設計する建築は駅前施設と駅前広場である駅前施設にはカフェや休憩所・スーパーマーケットなどがあり、生活するうえで必要最低限の設備を備えている。ゆっくりできる空間を多く設計しており、インテリアに関しても気持ちが落ち着くようなデザインを心掛け、気分転換する場として適している。デスクワークやちょっとした休憩などにピッタリな空間設計となっている。駅前広場では様々な大きさの広場が設けられており、一人でまったりしたり大人数で会話を楽しんだり、それぞれが個性のあるコミュニケーションを取ることができる。一つの広場ではアウトドアシアターを楽しめ、大きい広場では週末に蚤の市やフリーマーケットなどマルシェが開催できるスペースがあり、広場それぞれで合ったイベントを開催することで地域の活性化につながる。なぜパブリックスペースを用いて進めるのか。その理由は三つある。まず一つ目に「長期的な持続の実現」である。今回の泉北ニュータウンを例に挙げられるように複合施設を作り、地域の活力を上げても一時的なもので、時代の流れにより活力が衰退していき、また建物の老朽化が進み、同じことを繰り返してしまう。今回広場としてのパブリックスペースを用いることで時代の流れによる地域の活力低下を防ぎ。若い世代の流出や健康の維持促進の問題解決につながる。次に「地域の魅力を生かせた空間づくり」である。もともと自然が豊富な地域であり、自然を多く取り入れたパブリックスペースが周りとの環境になじみやすく快適さが生まれ、またアクセスのしやすさから、訪問や通過が容易で、遠くからでも近くでも視認しやすく、よいパブリックスペースの条件に当てはまる。次に「今の時代だからこそ必要な「居場所」」です。　SNS の普及、コロナでの在宅時間の増加により、ネットだけでのコミュニケーションが増えた中、今の時代だからこそ人と人とが顔を合わせコミュニケーションが取れる、みなそれぞれがストレスなく過ごせる「居場所」を作る。ただ複合施設を置くのではなく公園や広場などの公共空間から生まれるコミュニティーを作る。この場所以外でも再開発を進めるうえで新しい選択肢となる案を提案する。


駅前広場


通路


駅前広場


カフェ

参考資料：

https://parkful.net/2018/10/pickup-gooddesign2018/
https://www.nikken.co.jp/ja/expertise/urban_design_and_planning/seeking_an_Ideal_public_space.html
https://sotonoba.place/whatisplacemaking1
http://jabs.aij.or.jp/backnumber/1711.php

愛護
~自然な形で出会うふれあいの場~

学籍番号　K19325
名　　前　馬場恭輔
指導教員　宮内智久

Protection
~A place to meet and interact in a natural way~

Student Number　K19325
Name　Kyosuke Baba
Supervisor Tomohisa Miyauchi

・はじめに

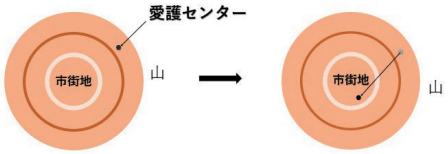
日本では、今も犬や猫の殺処分が行われている。その数は犬猫ともに減少傾向であるがゼロになっておらず、殺処分に関する課題も多くある。また国内ではコロナ禍でテレワークにより在宅時間が増えたことで、ペットに癒しを求めようと子犬や子猫などを飼い始める人が増えた。飼ってみたものの、コロナ禍以前の日常生活への変化や世話に負担を感じるなどして飼育を放棄する例も起きており、動物の殺処分に対する批判や関心は急速に高まり人々の動物愛護に対する意識も変わり始めている。

・愛護の現状と動物社会問題

2021年末に環境省が発表した2020年度のデータでは犬猫合わせて72,433頭もの数が全国の保健所や動物愛護センターに集められた。そのうち23,764頭もの犬猫が殺処分されている。10年前には20万頭以上が殺処分されていたが、年々殺処分数は10分の1程度まで減少してきているものの1日およそ65頭がされている計算になり、けっして少ないとは言えない。一方では施設に集められた半数以上の49,584頭が新しい飼い主や里親に引き取られている。

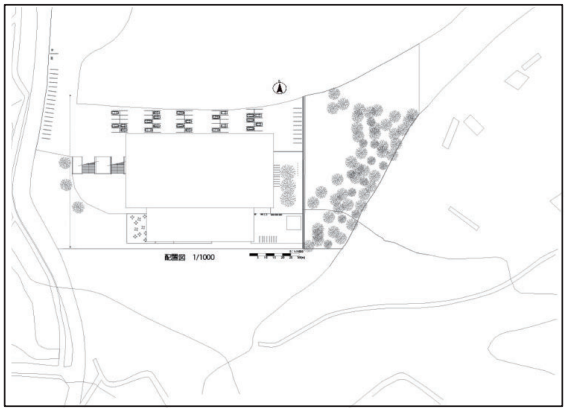
私が住んでいる奈良県の奈良市では「犬猫の殺処分ゼロ」を目標に掲げ、保護犬・保護猫の引き取り数減少や新たな飼い主の譲渡機会の拡大に向けた取り組みを推進してきた。その結果、自然死・安楽死を除いて、令和元年度から3年連続で「殺処分ゼロ」を達成した。

動物社会問題では愛護センターは市街地から離れた所に多く存在し動物愛護に興味がある人だけが足を運ぶことになり気軽にいける場所ではなく遠い存在へとなっている。市街地に移転することで、様々な人と接して動物社会問題を認知してもらいふれあいの場を設けることで譲渡へと繋がると考える。



・敷地・周辺状況

今回選定した敷地は観光地と住宅街の間に位置する広場にした。敷地の特徴は北から南への傾斜である。東には若草山が見えるなど景観も良い。周辺状況では、敷地の付近には建築家の隈研吾さんが設計した「ふふ奈良」という宿や春日奥山原始林に佇む「春日奥山 月日帝」という旅館など宿泊施設があるが、一方でペット同伴可という宿泊施設は数多くない。観光は一緒にしたいけど一緒に泊まれないという人にも利用してもらえる、一緒に現地まで来て犬や猫を連れてきても預けることができるなど観光客の利用も想定した。春日大社を訪れる人にとっての一番近い駐車場があるので人通りは少ないわけではなく、敷地に沿う道路は奈良公園にある人力車のコースでもあり犬を連れて散歩する地域の人だけではなく浮見堂を見に来る観光客も多くいており閉ざされた場所ではないので自然と目につく場所ではないだろうかと考える。



配置図

・コンセプト

愛護センターの多くは殺処分の影響から良い印象がもたれない。ゆえに、動物愛護センターを多くの人に認知してもらうことで社会問題になっている動物の殺処分の減少に繋がると考える。しかし、施設が市街地に存在しないため地域から閉ざされた場所にあることが多い。そのような閉ざされた施設を奈良公園付近の少し社会に開けた場所に計画するという新しい形をした犬と猫のシェルターのような保護から譲渡までおこなう愛護センターを計画する。保護から譲渡をおこなう施設でありながら、ドックランはもちろんのことペットサービスを施設に隣接させ、気軽に入れる空間を計画し保護犬・保護猫との交流を広げることで1匹でも多くの譲渡をおこない暗いイメージのある愛護センターを変えていけたらと考える。





所在地：奈良県奈良市春日野町 8
主な用途：施設
敷地面積：190,077m^2
建築面積：2,098.04m^2
延床面積：5,358.44m^2
キーワード：愛護・殺処分・譲渡・保護活動

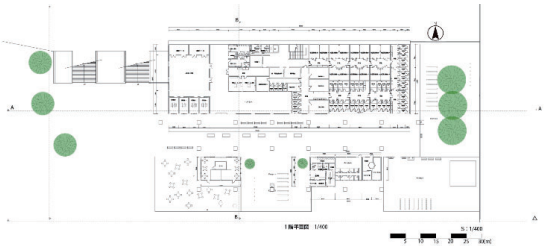
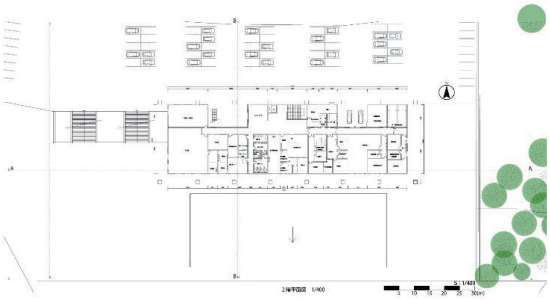
Location : 8,Kasuganotyo,Nara-shi,Nara
Main Use : Facility
Site Area : 190,077 m^2
Building Floor Area : 2,098.0m^2
Total Floor Area : 3,903.8m^2
Keywords : Protection,killing,transfer,protection activities

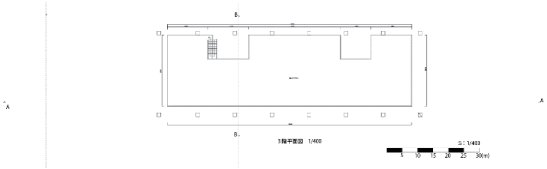
・プログラム・用途

「愛護を活かす」「愛護が見える」という視点から、「場」を通じて動物と人が共生する良い社会を創造するとともに、地域との関係・保護犬保護猫との関係が現在よりも身近になり飼い主同士のふれあいの場や保護された犬や猫にとっての新しい家族との出会いの場になるような計画をおこなう。愛護センターの他に 4 つの施設を考えており、保護犬・保護猫を活かしたカフェとペットを飼っていくうえで必要なペットサロン・ペットホテル・ペットクリニックを計画する。ペットサービスが愛護センターの敷地内にあることで自然と愛護との距離が近くなり、また実際にふれあうことで新たな出会いの場や飼い主同士の集いの場へと変化していくことで、殺処分の減少と譲渡数の増加に繋がると考える。

・建物について

今回の施設では、建物は RC 造で施設とペットサービス棟を木造の大きな屋根で包み込むようにした。1 階は「動物たちと新しい飼い主さんとの出会いの場」とし、個別収容室 49 室・犬収容室大部屋 4 室・収容猫用個室 14 室を完備し、犬は約 70 匹・猫は約 80 匹保護できる規模にした。2 階は保護されてきた犬や猫を検査する部屋や隔離室・手術室・職員の事務室などを計画している。犬や猫が生活を送る場所と一般客が入れるエリアの床は足腰に優しい素材の「クッションフロア」を採用する。



・愛護が見える

「見える」という視点では、まず犬猫を飼う雰囲気を施設で具体的にわかるように、家庭のリビングを再現した体験ルームを計画した。犬猫を飼うにあたって職員から直接指導を受けることが出来る。一部をガラス張りにしエントランスに面するように配置した犬収容室がある。体験ルームもガラス張りになっているのでガラス越しから様子を見ることが出来る。





・愛護を活かす

「活かす」という視点では、保護された犬や猫を気軽に入れるカフェに開放しふれあう機会を増やし譲渡に繋げていく。すべての保護犬が譲渡できるとは限りません。そこで様々な訓練を受け保護犬を警察犬や救助犬に育てていくことも愛護を活かす 1 つです。そうすることで施設がパンクすることもなく社会貢献にも繋がっていくと考える。



・生かすための施設

昔に建てられた愛護センターでは光の入らない通風もあまりよくないような部屋に鉄格子だけが並び 1 つの部屋に複数匹入れられ殺処分期間を待つのが今までのあり方だ。「生かすための施設」にしていくには収容室から変化させていくべきだと考え、1 室 1 匹にとし冷暖房を完備させ新しい飼い主が見つかるまで快適に過ごすことが出来る。もう 1 つは殺処分をおこなうガス室(通称：ドリームボックス)の設置をしないことだ。そのような部屋があるとないとでは施設への捉え方から変わっていくと考える。



本のない図書館

学籍番号：K19326
名　　前：馬場 貴裕
指導教員：河村 大助

Library without books

Student Number：K19326
Name：BABA Takahiro
Supervisor：KAWAMURA Daisuke

1-1.はじめに

国民の教育と文化の発展に寄与することを目的する図書館法において図書館とは、「図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする施設」である。このことから図書館は、生涯学習を支える施設であり、知る権利を守り、情報格差を埋める役割がある。

1--2.本のない図書館

本のない図書館は、無線 LAN(Local Area Network)を活用し、電子メディアによる情報を提供し、活用できる施設である。従来の本のある図書館と比較して、マルチメディアの情報を取り扱いやすくなる。また、電子図書館やインターネットと比べて、利用する場所を制限するため、著作権や知的財産を守りやすい。そのため、電子図書館と比較して著作者の許可が得やすくなり、資料数が多くなる。

1-3.敷地

宮ノ内公園は、京阪本線の地上路線の一部が 1987 年（昭和 62 年）に七条駅の地下化により、2000 年（平成 12 年）に開園した。現在も京阪本線が地下を通っている。

東山区は、東山と鴨川に挟まれている区で西部は繁華街と隣接している。都市部ではあるが、平均世帯年収が低く高齢化率が高いため情報格差が生じやすい地域であるといえる。

1-4.計画内容

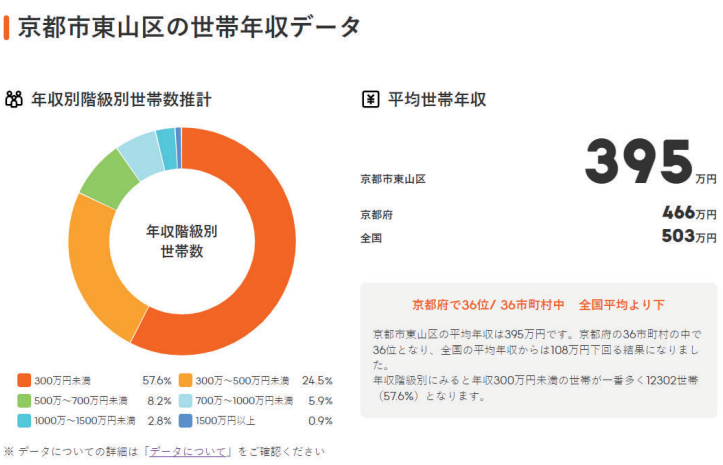
この場所でしか閲覧することができない電子メディアによる資料を無線 LAN で提供することにより、ここでしか味わえない空間を設計する。

2-1.設計内容

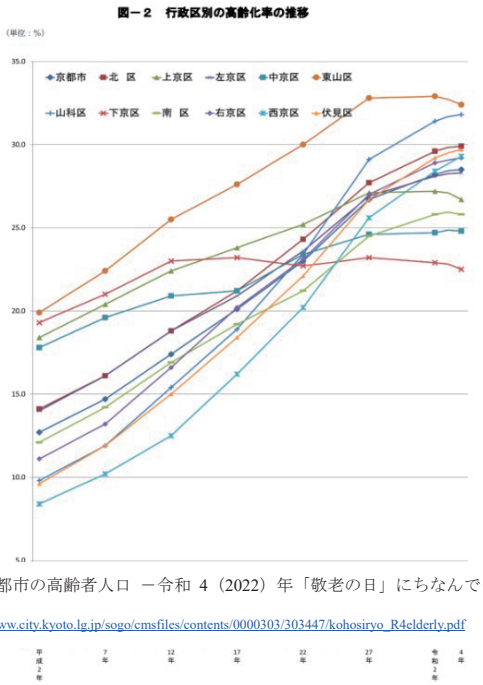
個室やブースなどにより、多様な空間をデザインしたいと考え、サードプレイス的な様々な人が入りやすい空間にする。人間の 60%近くが水分といわれており、体調や健康に大きくかかわるため、ドリンクバーを設置する。管理部分との繋がりは、案内所によって、カウンター形式で考えている。

2-2.公園

公園部分はイベント広場と休憩広場を設計した。イベントスペースは、キッチンカーを誘致し、食事を敷地内で済ませられるように考え、敷地の中央部に配置し、公園部分のイベント広場と建物部分のテラスで中間領域を形成し、両方の部分が分離しすぎないように設計した。休憩広場は食事をしなくても使えるように、休憩広場とイベント広場を少し離した。



1『京都市東山区の家計データ』https://lifullhomes-index.jp/info/money-data/household/kyoto-pref/kyoto_higashiyama-city/



2『京都市の高齢者人口 －令和 4（2022）年「敬老の日」にちなんで－』https://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/cmsfiles/contents/0000303/303447/kohosiryo_R4elderly.pdf

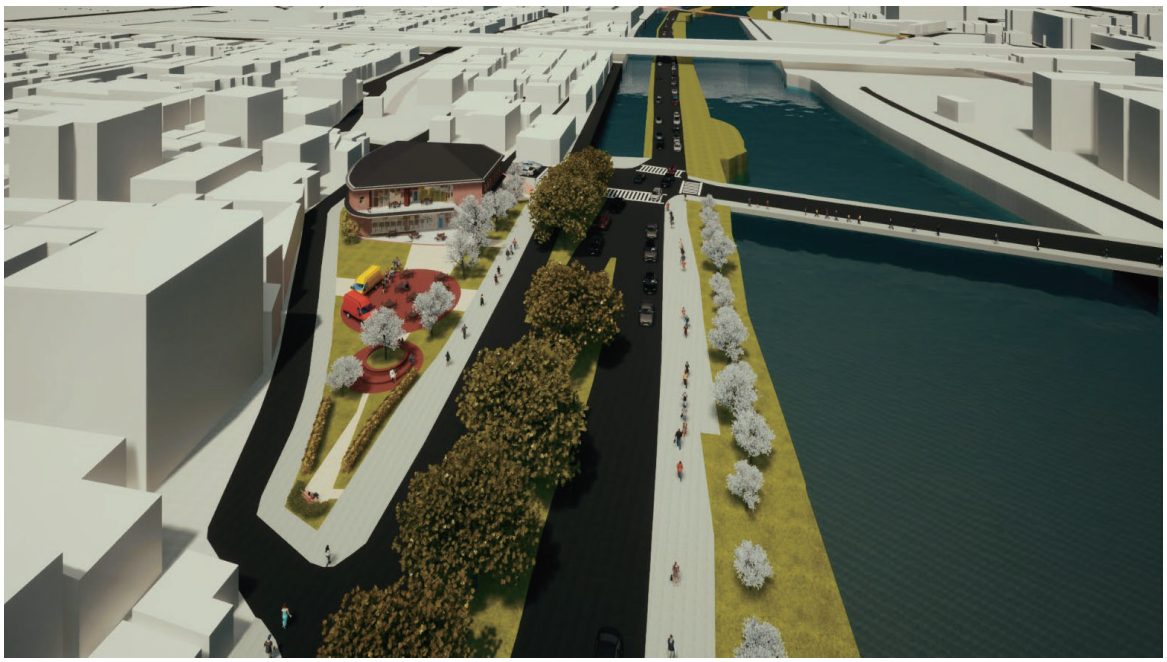
所在地：〒605-0994 京都府京都市東山区一橋宮ノ内町２２
主な用途：図書館
敷地面積：1866.53.m^2
建築面積：677.30m^2
延床面積：1163.96m^2
キーワード：図書館・サードプレイス・生涯学習

Location:22,Ichinohashimiyanochi-cho, Higashiyama-ku, Kyotoshi, Kyotofu
Main Use : Library
Site Area : 1866.53 m^2
Building Floor Area : 677.30 m^2
Total Floor Area : 1163.96 m^2
Keywords : Library, Third Place, Lifelong Learning

2-4.建物部分

エクステリアは、レンガや石材を用いて公園部分や敷地周辺とのつながりを考えて設計した。

インテリアは、エクステリアとのつながりを考え、結果的に周辺敷地とのつながりをつくるように一階とテラスの床と階段の踏面と二階の床の素材を同じになるようにした。また、階段やエレベーターはシースルーにし、上下階を分離しないように工夫した。



北西道路から鳥瞰図

3.まとめ

今回の設計では、アメリカ合衆国テキサス州ベア郡サンアントニオ市の BiblioTech を計画面で、スターバックスの店舗をデザイン面で参考にした。

図書館の本質から将来的にも活用されるような図書館について考えた結果、本のない図書館であった。これまでの図書館にフレキシブルな電子資料によって、生涯学習を支える施設を目指した。

5.参考資料

『「これからの図書館の在り方検討協力者会議」これまでの議論の概要』
https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/tosho/giron/05080301.htm　2023 年 1 月 27 日閲覧
『電子図書館とは？定義やメリット・デメリット、課題を解説』https://smartgate.jp/bpo/information/24/
『電子図書館（電子書籍貸出サービス）がコロナ禍以降も普及拡大を続けるための課題は？』https://hon.jp/news/1.0/0/31582

植村八潮、野口武悟、長谷川智信,電子出版制作・流通協議会,『電子図書館・電子書籍貸出サービス調査報告 2021』, 電子出版制作・流通協議会, 2021
『蔵書を一冊も持たない「紙の本を置いていない図書館」が開館』https://gigazine.net/news/20140106-bibliotech-bookless-library/
2023 年 1 月 27 日閲覧
『京都市の高齢者人口 －令和 4（2022）年「敬老の日」にちなんで－』
https://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/cmsfiles/contents/0000303/303447/kohosiryo_R4elderly.pdf
『京都市東山区の家計データ』https://lifullhomes-index.jp/info/money-data/household/kyoto-pref/kyoto_higashiyama-city/
『スターバックスの内装インテリアは何故魅力的なのか？』https://archicloud.jp/naisodesign/8639/　2023 年 1 月 27 日閲覧

商店建築社『商店建築 12 月号増刊 STARBUCKS Store Design』商店建築社,2022

いなかぐらし~移住者・援農者の居住空間の計画~

学籍番号　K19327
名　前　東谷龍星
指導教員　森重幸子

Country life

Student Number　K19327
Name　Higashitani　Ryusei
Supervisor　MORISHIGE Sachiko

01 背景・目的

現在、都会の便利さを求め上京する人か多く地方の人口減少によって地域衰退の問題を抱えている自治体が多くある。一方、近年はコロナウイルスの影響で「地方への移住」が注目されるようになり人々の地方への関心が高まっている。中には暮らしの充実のために農業をライフスタイルに取り入れる人も増加している。農業の１つとして「援農」というものがある。援農とは高齢化による人手不足、後継者不足などの問題を抱えている農家の方がいる中、そのような現状の農家をサポートしたいと考える消費者の活動である。そこで移住者と援農者に焦点を当て、地域住民との交流が促進される場を計画することで人口維持につながることを目的としている。

02　対象敷地

本提案では、奈良県奈良市の北東端に位置する月ヶ瀬を敷地に選定した。東西に名張川が流れ、自然あふれた地域で京都府、三重県に隣接している。（図 1）月ヶ瀬は 6 つの地区に分かれており、それぞれに地域コミュニティが存在する。本提案では中心的地区である「尾山」地区に新たな住宅空間とコミュニティスペースを設計する。

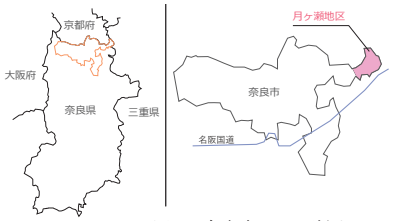


図 1　奈良市と月ヶ瀬地区

03　月ヶ瀬地区の産業

月ヶ瀬では産業として主に『梅』と『お茶』の栽培をしている。（図 2）梅の名所として知られているこの地区は中央に五月川（名張川）が流れる渓谷であり川を挟み、その両端には約 1 万本の梅樹が立ち並ぶ。梅の実は 6 月から 7 月に収穫期を迎えて梅干しや梅酒といった製品になる。中には特殊なもので烏梅（うばい）という加工品があり、漢方薬や染物の媒染料となる。さらに『大和茶』の産地であり地区内には多くの茶園が広がっている。これらの産業は農繁期になると収穫アシスタント（援農）の協力が必要となる。

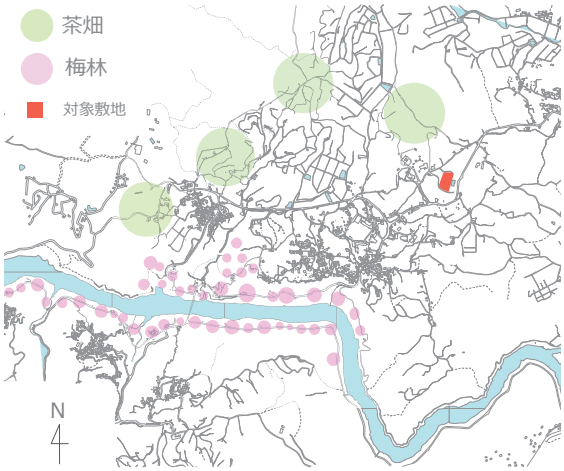


図 2　月ヶ瀬地区の産業の分布

04　利用対象

本提案で検討しているターゲットは援農者、移住者である。しかし対象別で利用期間が異なることを想定し、1 年を通して常に利用者がいる状態を考える。援農者の利用期間外である 12 月から 4 月は移住を考えている体験者と 2 月から 4 月に増加する梅林の観光客にフォーカスを当てることで利用者のバランスを保つことを考えている。（図 3）

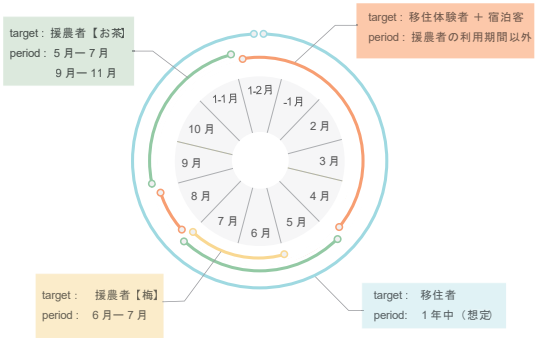


図 3　利用対象と利用期間

05　計画概要

敷地内に移住者用の住居、援農者（移住体験＋宿泊客）のシェアハウス、地域のコミュニティカフェを計画。本地域の自然あふれる雰囲気に合わせてすべて木造で計画する。



図 4　東側立面図

所在地：奈良県奈良市月ヶ瀬尾山
主な用途：集合住宅
敷地面積：8723.99 m²
建築面積：14 棟：57.97 ㎡～263.34 ㎡　合計：1439.26 ㎡
延床面積：14 棟：57.97 ㎡～357.74 ㎡　合計：2177.08 ㎡
キーワード：集合住宅・移住・援農・コミュニティ

Location :Oyama,Tsukigase.Nara-si-Nara
Main Use : Collecive house
Site Area : 8723.99 m²
Building Floor Area : 14buildinrs:57.97 ㎡ to263.34 ㎡,total:1439.26 ㎡
Total Floor Area : 14building:57.97 ㎡ to357.74 ㎡,total:2177.08 ㎡
Keywords : Collective house, Immigration, Agricultural support, Community



図 5　配置図兼 1 階平面図

・移住者向け長期滞在型住宅

1 棟 4~5 人入居可能の住宅。移住者が長期的に使用するので、回遊性のある間取りとした。2 棟近接して配置することで移住者同士のコミュニケーションがとれる。住宅の裏には移住者が使用する畑があり、生活に農業を取り入れることができる。

・コミュニティカフェ

誰でも集えるカフェ。ワークショップでは「大和茶」の淹れ方や染物といった地域の特産品を使用した。体験ができる。イベントスペースは主に地域住民の集会などに使用する。

・援農者向けシェアハウス

1 棟 16 人入居可能のシェアハウス。1 階は共有のリビング・キッチン・ダイニング、2 階は 4 人で一つの個室となっていて農繁期の期間中はこのシェアハウスに多くの人が入居する。アプローチは地域住民も利用できる大きなデッキテラスから。援農者の利用期間外は宿泊客と移住体験者が使用する。

・グループ利用向け援農者住宅

1 棟 3~5 人入居可能の住居。複数人での援農者向けの居住空間。援農者の利用期間外は移住体験者と宿泊客が使用する。



図 6　パース　移住者向け長期滞在型住宅



図 7　パース　援農者向けシェアハウス



図 8　パース　グループ利用向け援農者住宅

宝塚駅の活性化

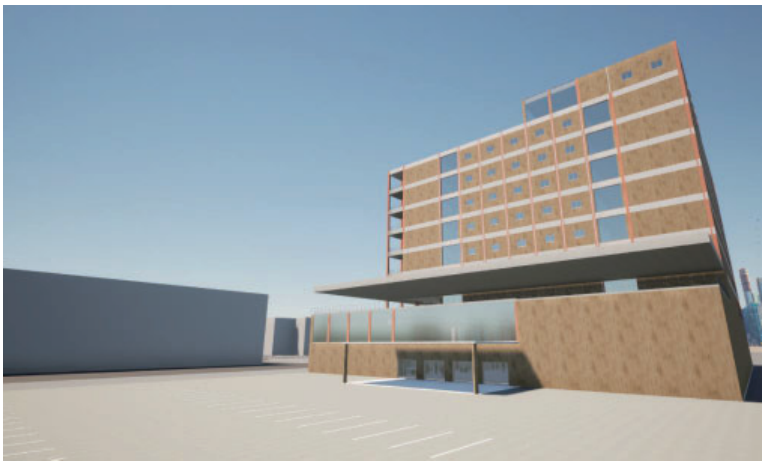
学籍番号　K19328
名　　前　東埜　寧於
指導教員　人見　将敏

Revitalization of Takarazuka Station

Student Number　K19328
Name　Neo Higashino
Supervisor　Masatoshi Hitomi

計画背景

・はじめに



兵庫県宝塚市は、県南東部に位置している。面積は 101.8 ㎢で総人口は 224,126 人である。六甲山・長尾山や武庫川に囲まれる美しい景観を有し、住宅地が広がる南部市街地と、豊かな自然に囲まれた北部農村地域の縦長に形成されている。歌劇に始まり温泉や古い歴史を持つ神社仏閣、ゴルフ場、競馬場などのレジャースポットが数多くある。僕の出身地であり、魅力の多い町なので良さをより多くの人に伝えたく選定した。JR 宝塚駅から阪急田園バスで約 30 分乗り「西谷の森公園口」で降りて 10 分程歩けば「西谷の森公園」と呼ばれる自然豊かな公園がありハイキングコースなど、都会では味わえない場所もある。アクセスの良い場所にあるので、大阪からでも日帰りで遊びに行くことが出来る。

・歴史

宝塚阪急阪神東宝グループの創始者・小林一三が手がけた宝塚歌劇団の本拠地である宝塚大劇場があり、『歌劇の街』として全国的に有名である。漫画家・手塚治虫が青少年期を過ごした町としても知られる。かつては、阪急電鉄経営の宝塚ファミリーランドや東宝映画の源流の 1 つである宝塚映画製作所などを有して、阪急東宝の文化拠点としてのイメージが強かった。

・現在

阪急電鉄経営の宝塚ファミリーランドが 2003 年 4 月 7 日に閉鎖され、宝塚ガーデンフィールズ閉鎖を経て、今ではタワーマンション・小学校等に生まれ変わっている。人口が急増したため、道が狭い所やよく渋滞するところがややある。 現在は仁川、小林、逆瀬川、雲雀丘などの閑静な住宅街を有する阪神間の住宅都市になっている。

・問題点

宝塚歌劇をはじめ多くの観光場所があるにも関わらず、それらを活かせず、PR できていないと感じた。神戸、大阪などの主要都市からのアクセスは電車、自動車ともに良いが一息つける場所が極端に少なくい。また、人口が急増したためマンションばかり増えそれにともない児童が増えているにも関わらず公園や児童館などの数は増えておらず、遊べる場所が少なく狭くなっている。自習できる場所も少なく図書館や公民館に足を運んでも満員なことがある。

・計画内容

宝塚市で一最も大きい「宝塚駅」には塾が多くありますが、自習できる公民館などはなくそれに伴い貸し出せる多目的ホールなどもありませんなおかつ、宿泊出来るところも少なく敷居の高い旅館があるくらいです。そこで、自習室や多目的ホールなどを併設したホテルを設計することにしました。旅館ほど敷居の高いものではなく誰でも宿泊しやすい敷居の高くないホテルになるようにした。

・用途

ホテルとして使用し、自習室や大ホール、多目的ホール、宴会場など地域の方が利用しやすい閑居を提供する。

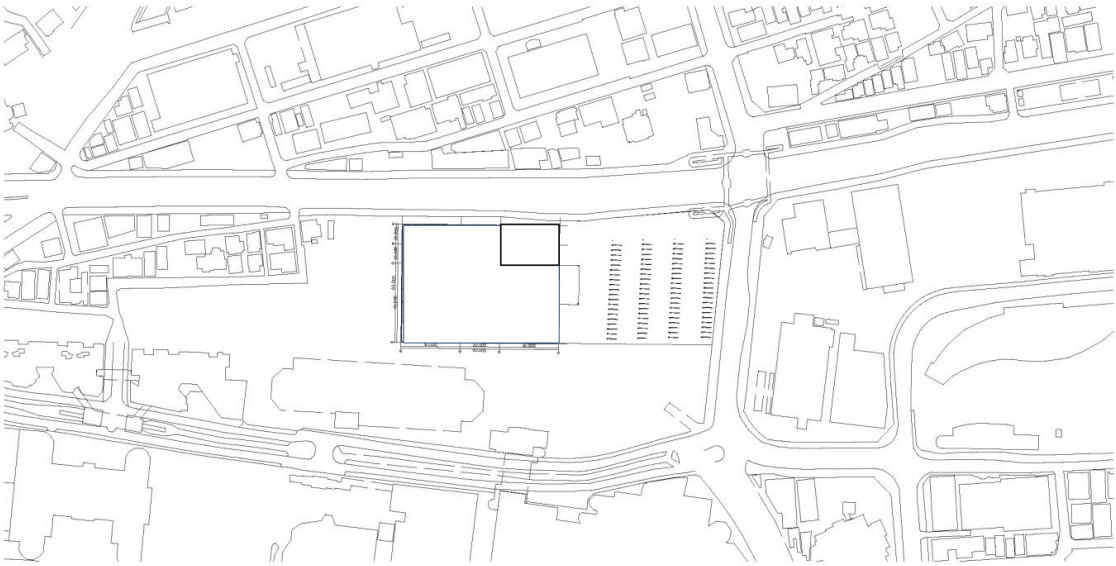
所在地：兵庫県宝塚市栄町一丁目
主な用途：ホテル
敷地面積：13650m^2
建築面積：4800m^2
延床面積：34950m^2
キーワード：ホテル、ホール、レストラン

Location : 1,Takarazuka,sakae-tyo,Hyougo
Main Use : Hotel
Site Area : 13650 m^2
Building Floor Area : 4800 m^2
Total Floor Area : 34950 m^2
Keywords : hotel,holl,resutarant

・設計意図

僕が生まれ育った地域をより良いものに変え、誰もが今よりも良い生活が出来るように設計しました。選定した敷地も駅から近く、

高速道路からも一本道なので有効活用すれば駅周辺がもっと活性化すると考えたため、この場所を選びました。



配置図　1/2000



内観パース



客室パース

折戸コネクションサイクル
地域で子育てを目指すコミュニティ公園

K19329
一ツ矢　雄士
江本　弘研究室

Orito Connection Cycle
Community Park for Raising Children

K19329
Yushi Hitotsuya
Hiroshi Emoto Lab

1. 計画背景

子育てには、一人で抱え込まず近隣と、お互いに助け合い地域で支え合う密接な関係が必要である。しかし、コロナウイルスや情報メディアの発達で外出への消極化や親とこどもの接触時間の低下が進行している。また現在、近隣に子育ての悩み相談をする場は少ない。そのため、親が直接こどもの向き合わないと知ることのできない悩みや、こどもの現状を認知できなかった場合に、近隣との交流のないまま、一人で子育てを抱え込まざるを得ない。

そこで本計画では京都市伏見区の折戸公園を対象に、こどもが外遊びを通じて成長できる広場、また親が外で遊ぶこどもを見守り、近隣交流し、地域ぐるみの子育てを目指す公園を計画する。

2. 選定場所



折戸公園　見取り図





折戸公園イベント

京都市伏見区醍醐折戸町にあるサイクル状が特徴の公園。中央の広場では毎年醍醐ふれあいプラザ実行委員会主催の醍醐ふれあいプラザが行われており小学生による世界遺産醍醐寺の伝統行事、豊太閤花見行列や花見踊りのほか、なわとび大会や出店など、こどもからお年寄りまで幅広い世代が楽しんでいた。3 年前に第 29 回目を迎えていた催しもコロナウイルスの為に令和元年から中止された。

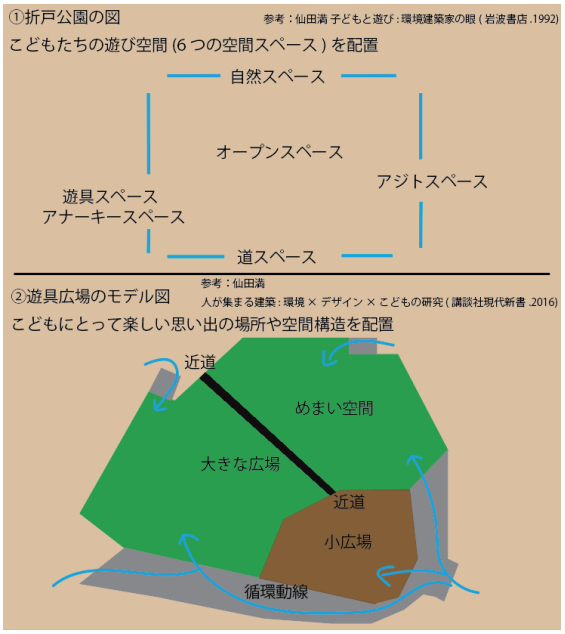
また 8000 平米規模の公園だが遊具一つとベンチ、公衆トイレのみで機能していない広場もある。本計画では既存の設備と自然の保全に努めながら折戸公園の一体的、有機的な利用のできる計画を行う。

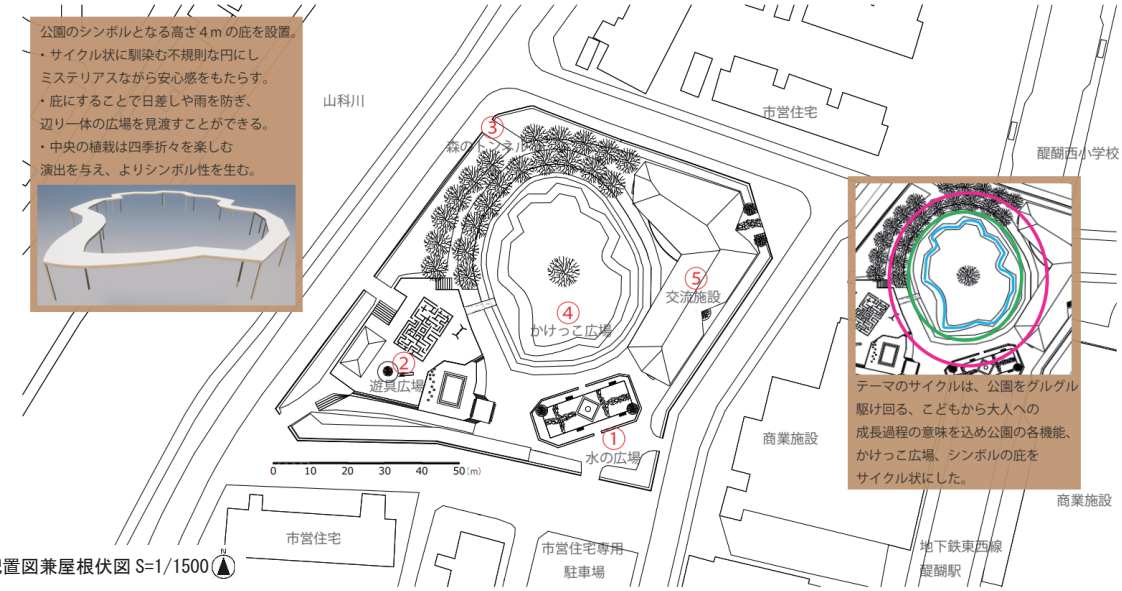
3. 設計意図

外遊びは子供の身体、脳、心の成長に関わっており、こどもには欠かせないものである。外出への意欲向上、近隣の交流の場を目指しかけっこ広場を中心のサイクルとした自由に遊び、こどもが自然に学び体験することで成長していく広場、親が近隣と交流できる施設を計画する。

こどもに面白い、もう一度やりたいと思わせる仕掛けの広場を計画する。

4. ダイアグラム





配置図兼屋根伏図 S=1/1500

所在地：京都市伏見区醍醐折戸町
主な用途：コミュニティ施設
敷地面積：8364.9㎡
建築面積：842.35㎡
延床面積：842.35㎡
キーワード：こども・サイクル・交流

Location : Orito-machi, Daigo, Fushimi-ku, Kyoto
Main Use : Community Facility
Site Area : 8364.9m^2
Building Floor Area : 842.35m^2
Total Floor Area : 842.35m^2
Keywords : Child, Cycle, Interaction

5. 広場の各機能のパース

①水の広場



噴水とベンチを設けやすらぎの場に。こどもにとって水遊びは面白さや怖さを体験できる不思議な存在。

②遊具広場





砂場



丸太

砂場や迷路、丸太など様々な遊具を設け友達同士で社会性、創造性、挑戦性を育む。



近道トンネル



迷路

③森のトンネル



自然に触れることで、自由に考え感性を育む。

④かけっこ広場



シンボルとなる中心の広場。外で走り回り、基礎体力、運動力などの身体性を高める。

⑤交流施設　内観パース

コミュニティカフェ



様々な人と交流できるカフェスペース。

小広場



こどもにとって秘密基地のような広場。

テラス



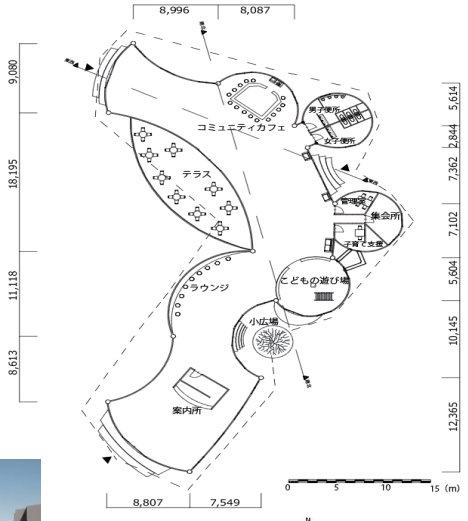
親がこどもの遊ぶ姿を眺めながら近隣と交流できるテラス。

こどもの遊び場



育児支援こどもを預けたり、子育ての相談ができる場。

⑤交流施設
用途：コミュニティ施設
形式：鉄筋コンクリート造
規模：建築面積 842.35 ㎡



一階平面図 S=1/600

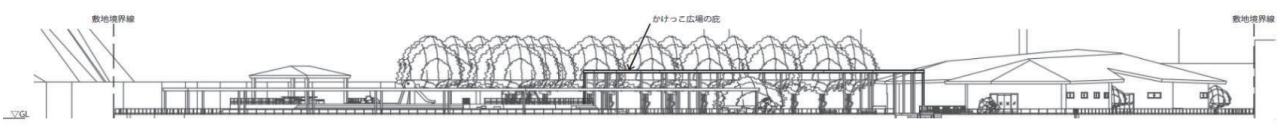
敷地周辺との関係



遊具広場



レベル差を設け西の山科川を眺める。



南立面図 S=1/600

記憶のかたち

～棚田風景を後世に残す～

学籍番号　K19330
名　　前　人見　凜
指導教員　井上　晋一

Form of Memory

～Preserving the landscape of terraced rice fields for future generations～

Student Number　K19330
Name HITOMI Rin
Supervisor INOUE Shinichi

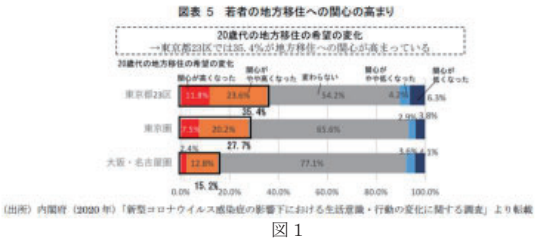
1.　背景と目的

景観の美しさから日本の原風景とも呼ばれている棚田。その棚田の荒廃が各地で進んでいる。耕作破棄された棚田は 1975 年の 13 万 1000 ㎢から 2015 年には 42 万 3000 ㎢となっている。棚田地域の過疎化や、農家の高齢化が耕作破棄の原因となっている。私の祖父母の住む家の周りの棚田もその一つである。小さいころから祖父母の家に遊びに行くと、いつも棚田の周りを走ったり、寝転がったりしていた。その棚田が年々、耕作破棄されているものが目立つようになっている。そこで私は棚田と棚田景色を守りたいと考えた。

新型コロナウイルスの影響でリモートワークとなり、地方へ移住を考える若者が増えたことが図１のデータによりわかった。そこで稲作の忙しい田植えの５～６月と稲刈りの８～９月の短期間の宿泊と、３月の種まきから１０月の収穫までの長期間の宿泊に分けて建物を計画した。



画像１　敷地頂上からの景色



（出所）内閣府（2020 年）「新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」より転載

図１

2.　敷地

私の祖父母の家のある京都府亀岡市宮前町神前にある棚田を選定した。

京都駅からＪＲ嵯峨野山陰線に乗って約３０分の千代川駅で降りそこから車で約１５分の場所にある。山と山に挟まれた間にある棚田の頂上。



画像２

3.　計画

棚田の地形を生かして、フロアレベルをそのまま使い段差をさらに階段でつなぐことでその段差に座って休憩したり、景色を楽しんだりすることができるように計画した。

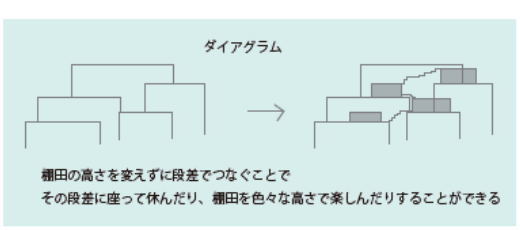


図２

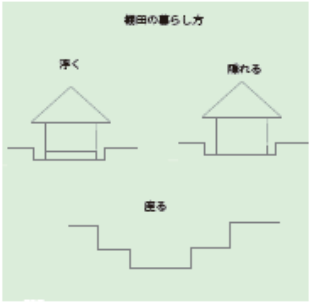


図３

所在地：京都府亀岡市宮前町神前水口
主な用途：宿泊施設
敷地面積：4832.8 ㎡
建築面積：560 ㎡
延床面積：530 ㎡
キーワード：棚田、耕作放棄、農家の高齢化、若者の地方移住

Location : Minakuchi,Kouzaki,Miyazakicho,Kameoka,Kyoto
Main Use : Hotel
Site Area : 4832.8 ㎡
Building Floor Area : 560 ㎡
Total Floor Area : 530 ㎡
Keywords : rice terraces、Aging、Youth rural migration

棚田に浮いているような外観や、棚田の中に隠れるようにフロアレベルの下がり、フロアをつなぐ階段に座って休憩することができるように計画した。棚田はただ見るだけでなくその中に溶けるように暮らすことができる。

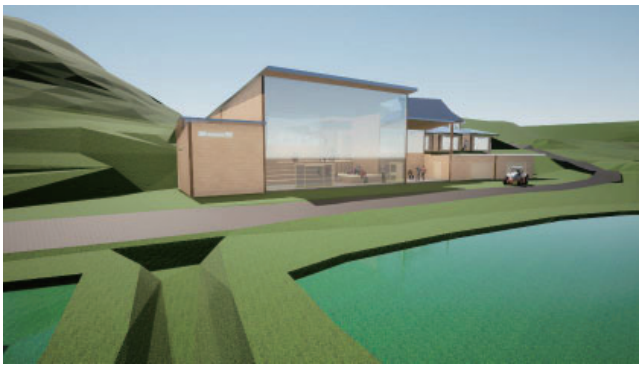


図4

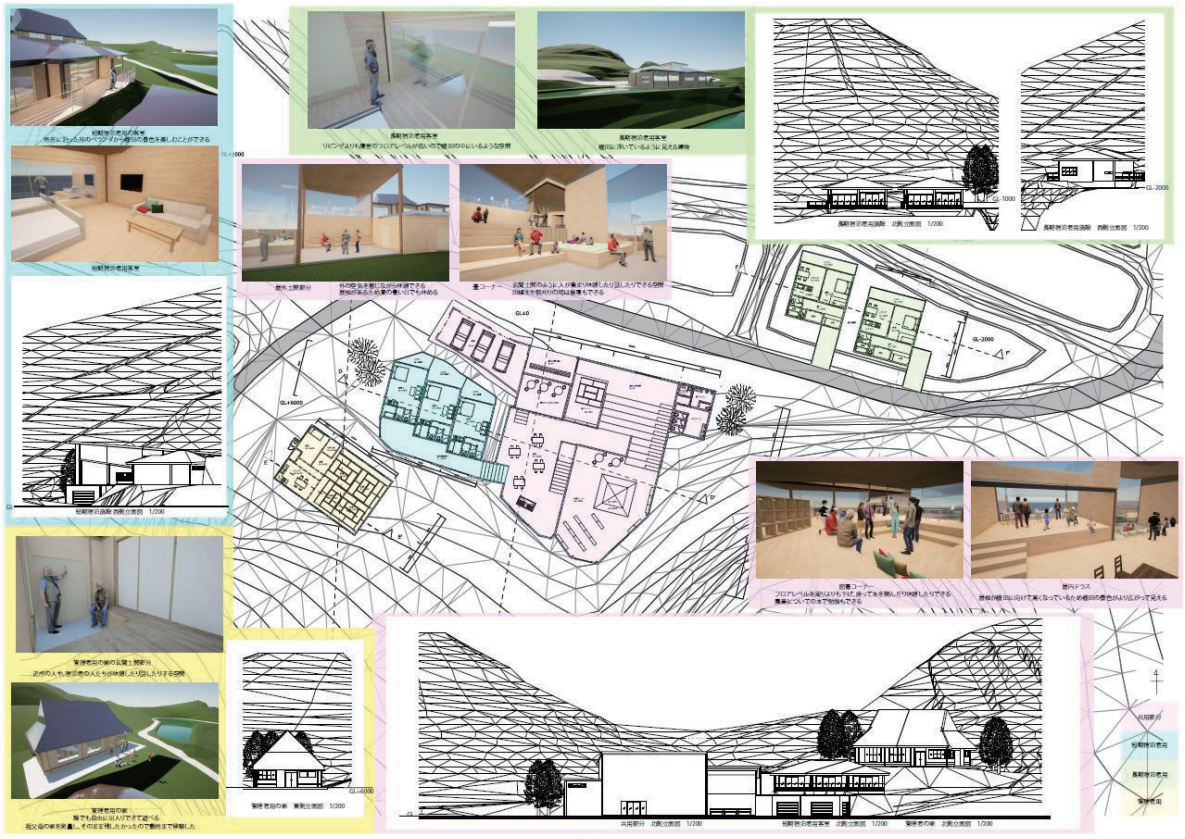


図５

参考文献

移住の決め手はコロナ前後で変化したか？自然環境は移住の決め手になりうるか？

Microsoft Word - 02_立地適正化計画本編.doc

亀岡市空家等対策計画（本書）

あいだで過ごす

～道路状公園の計画～

学籍番号　K19332
名　　前　福永　皓太
指導教員　安田　光男

Live　Void

～Road park plan～

Student Number　K19332
Name　Kota　Fukunaga
Supervisor　Teruo Yasuda

0. はじめに

清水焼発祥の地で陶芸作家や窯元、卸店、小売店が軒を並べており栄えていた五条坂、（主に五条通りの大和大路通から東大和大路通までの部分を五条坂という）現在では建物疎開や五条通の道路幅の拡幅を経て、人と人、音羽川を境に間隙が生まれてしまった。本計画ではその間隙を埋めるべく、元々音羽川が流れていた場所に道路状公園を計画する。

1. 歴史的背景

1945 年があけて間もなく、五条坂が建物疎開の対象区域（旧五条通北端から音羽川南端まで）となってしまいかつて栄えていた両側町や清水寺の窯元である清水六兵衛家、金光院などの住民が疎開を余儀なくされた。1947 年の 6 月には五条通拡幅事業が着工していた清水六兵衛窯や金光院は拡幅対象地域外だったため建物疎開で失った土地の一部を払下げされました。

建物疎開でコミュニティが分断された結果、「昔の勢いが極端に言えば半分になった」、「前の五条坂は好きだった」、「昔は趣があった」などの昔を懐かしむ声が多く聞き取れた。

2. 選定敷地

京都府京都市東山区

2-1.敷地周辺の特徴

京都市東山区は伝統的な建造物が立ち並び、世界でも有数の観光地でありながら、産業面では、京焼き・清水焼・京扇子・京漆器などの伝統産業が盛んです。東山区民に聞き込み調査を行ったところ、アクセスが良い、税務署・郵便局が近くにあって便利という点から高齢者にとっては住みやすいが、公園・学校が少なく子供の遊び場が少ないという点から子育て世代は住みづらいという意見を多く耳にした。

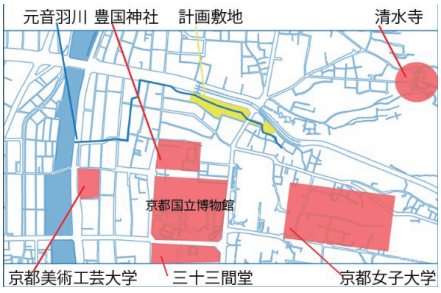


図１　敷地周辺

2-2.高齢者

東山区は京都市内の中で一番人口が少なく、高齢者率が最も高い区です。ただ、高齢者にとっては満足度が高く、午前中にはゲートボールをしている方達や道端で会話をしている人たちがいた。

（単位：人、%）　令和4(2022)年9月15日現在

行政区	65歳以上人口 総数	65～74歳	75～84歳	85歳以上	高齢化率
京都市	412,386	181,680	152,180	78,526	28.5
北　区	34,713	15,153	12,556	7,004	29.9
上京区	22,273	9,567	8,133	4,573	26.7
左京区	46,637	20,187	16,860	9,590	28.3
中京区	27,156	12,104	9,586	5,466	24.8
東山区	11,566	4,742	4,382	2,442	32.4
山科区	42,368	17,825	16,557	7,986	31.8
下京区	18,604	8,059	6,748	3,797	22.5
南　区	26,267	12,515	9,445	4,307	25.8
右京区	58,462	25,400	21,817	11,245	29.2
西京区	42,932	19,546	16,238	7,148	29.3
伏見区	81,408	36,582	29,858	14,968	29.7

図２　行政区別の 65 歳以上の人口

2-3.子供

子供の割合は京都市の中で一番低く、小中学校の数も 11 校から 2 校まで減ってしまった。そのため通学距離が長くなってしまった。加えて、京都の都市計画上、幅員が狭い道路が多く車通りも多い。通学する子供達にとっては決して良い環境とはいえない。

3.計画概要

現在は暗渠化し空虚な空間となっている音羽川に道路状公園を計画する。五条坂地区には建物疎開を経験されている方が多く、二度とそのような思いはしてほしくないという考えから、既存の建物は残し、コインパーキングや空き地などにアクティビティを施す。

※暗渠…蓋などで川が覆いかぶされていて、川としての機能を一部失ったもの。

（元音羽川は完全に土で覆いかぶされ、地下に管を通している状態）

所在地：京都府京都市東山区芳野町・慈法院庵町・東音羽町
主な用途：公園
敷地面積：5600 ㎡
建築面積：集会場　304 ㎡　トイレ 1　57 ㎡　トイレ 2　60 ㎡
延床面積：集会場　234 ㎡　トイレ 1　54 ㎡　トイレ 2　53 ㎡
キーワード：まちづくり　道路状公園　間隙　高齢者　子供

Location：Yoshino-chou Jihouinn-chou Higashiotowa-chou,Higashiyama-ku Kyoto-city,Kyoto
Main Use : Park
Site Area : 5600 ㎡
Building Floor Area :Meeting Place 304 ㎡　Toilet1 57 ㎡　Toilet2 60 ㎡
Total Floor Area : Meeting Place234 ㎡　Toilet1 54 ㎡　Toilet2 53 ㎡
Keywords :Town Planning　Road Park　Void　Senior Citizen Children

3-1.目的

本計画の目的は以下の四つである。

（1）　昔の趣のある五条坂を取り戻す

（2）　外出の口実となるような場所にする

（3）　高齢者、子供にとって安心、安全な道にする（通学路）

（4）　出かけるときや、帰宅する時に立ち寄れる場所にする

3-2.“あいだ”の計画

建物疎開で物理的にも心理的にも開いてしまった “あいだ”を繋ぐべく手法を次のような方法で表現する。

- 出発地と目的地のあいだの計画　ex)道路状公園
- 建物と建物のあいだの計画　ex)空地・駐車場の利用
- 人と人のあいだの計画　ex)道路状公園沿いで商売する者同士

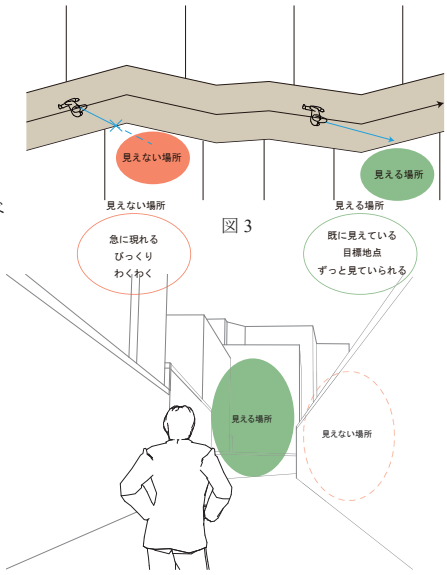


図 3

図 4

3-3.全体のイメージ　　のコラボレーション

元々、蛇行している音羽川の地形を生かし、屈折した先の歩いていて見えない場所には衝撃を受けるようなアクティビティを、見える場所にはずっと見ていたいようなものを計画することで、歩いている人たちが飽きないようにする。

参考文献

（1）　建物のあいだのアクティビティ　著者　ヤン・ゲール　訳者　北原理雄　2011 年発行

（2）　プレイスメイキング　アクティビティ・ファーストの都市デザイン　著者　園田　聡　2019 年発行

（3）　RePUBLIC　公共空間のリノベーション　著者　馬場正尊　Open A　2013 年発行

（4）　建物疎開と都市防空「非戦災都市」京都の船中・戦後　第 5 章建物疎開を生き抜いた住民たち　著者　川口朋子　2014 年発行

引用　　図 2　https://www2.city.kyoto.lg.jp/sogo/toukei/Publish/Analysis/News/124Elderly2021.pdf　京都市の高齢者人口　京都市総合企画局情報化推進室統計解析担当　令和 3(2021)年 9 月 17 日発行

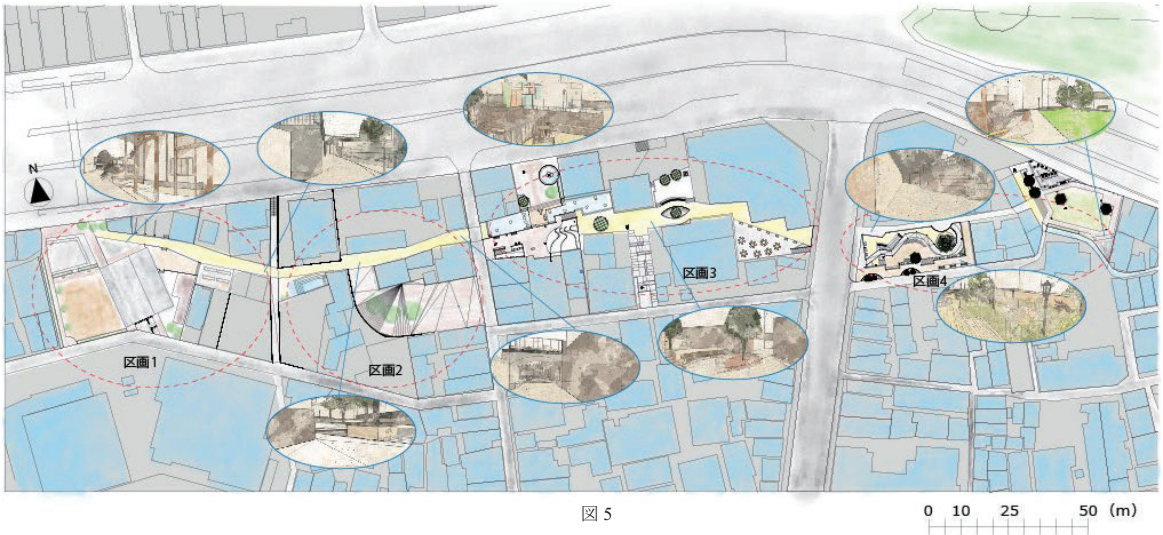


図 5

Dog dock

学籍番号 k19333
名　　前 藤岡陸
指導教員井上晋一

Dog dock

Student Number　k19333
Name Fujioka Riku
Supervisor Inoue Shiniti

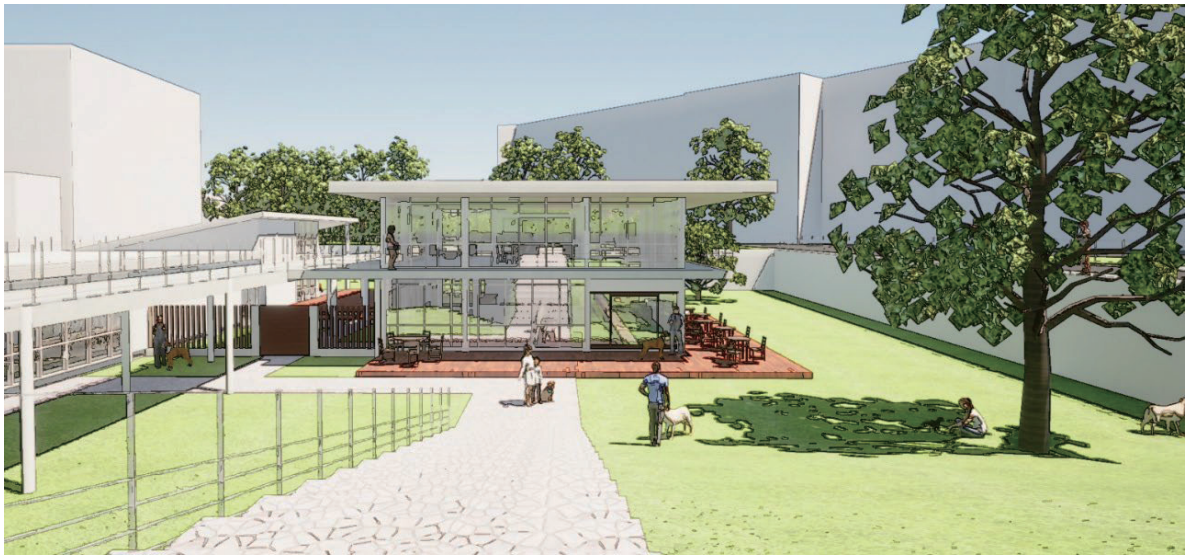


図１　全体パース

1-1　Dog dock

dock とは直訳では船着き場や桟橋を意味する。ここではコンピュータ周辺機器の dock の意味で使う。コンピュータ周辺機器の dock とは複数のデバイスに接続するためのハブのような機能を持つものである。自分の設計した施設が保護犬と利用者の接続場所になって欲しいと思い dog dock とした。ドッグランやドッグカフェの利用者と保護犬が同じ空間で遊べて保護犬の候補者と保護施設の従業員が犬と触れ合いながら交流できるような空間を設計。その為には施設建物内部空間とドッグランのような外部空間との中間領域を広くとって一般利用者部分と保護施設利用者部分を緩やかにつなげていく事が必要だと考えている。

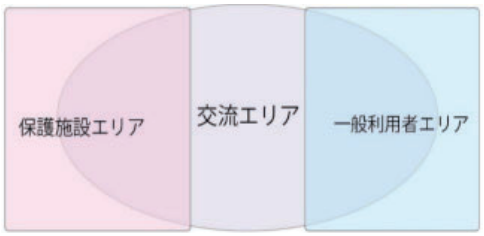


図２　エリアの繋がり



図３　南側道路からのパース



図４　南側ドッグランのパース

1-2 目的と内容

施設の目的と内容は、目的は保護犬を飼うことのハードルを下げること。それが結果的に殺処分される犬が減ることにつながると考える。施設内容は保護犬と利用者が触れ合うことのできるドッグランやドッグカフェをメインに動物病院やペット用品店、ペットサロンを計画予定。それらの利用者は既に犬を飼っている人が多いため、始めて犬を飼う人よりも保護犬に興味を持ち、保護犬を飼うハードルも低い人が多い。そういった利用者が増えることで問題解決に進むと考える。

所在地：兵庫県西宮市高松町 11
主な用途：複合施設
敷地面積：5000 m^2
建築面積：未定
延床面積：未定
キーワード：保護犬、公園、触れ合い

Location : 11 Takamatsucho, Nishinomiya City, Hyogo Prefecture
Main Use :complex
Site Area : 5000m^2
Building Floor Area : to be decided
Total Floor Area : to be decided
Keywords : protection dog、Park、 contact

2-1 計画敷地について

計画敷地は兵庫県西宮市にある大型ショッピングモールの阪急　　西宮ガーデンズの道を挟んだ隣の敷地を予定。理由としてはこの施設の集客力を借りて買い物帰りなどにふらっと寄ってもらえればと考えている。また大きな道路に面していて JR 線、阪急線の電車も通っているため、交通の便も良くなっている。敷地の特徴は計画敷地の西側の道路は阪急西宮北口から阪急西宮ガーデンズに流れる車で沢山の人の流れ、視線がある。



図 5　敷地



図 6　ドッグラン計画

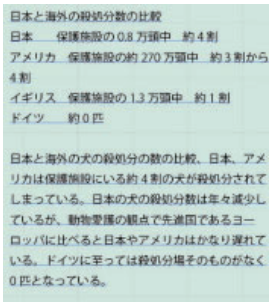


図 7　犬の殺処分数

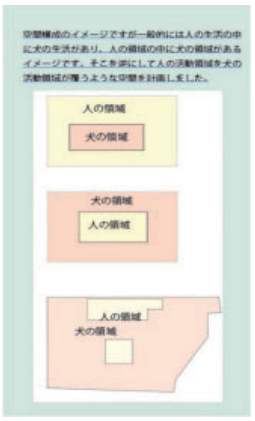


図 8　空間構成イメージ

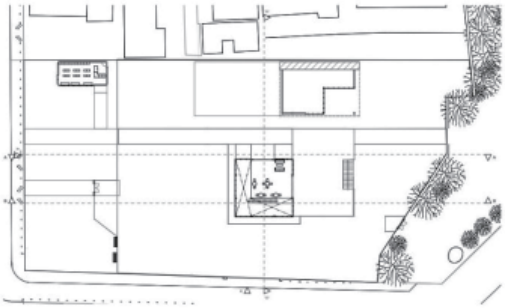


図 9　一階平面図兼配置図



図 10　地下一階平面図

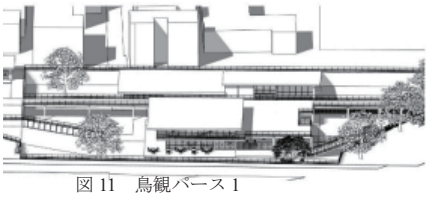


図 11　鳥観パース 1

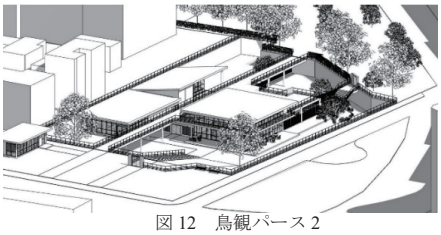


図 12　鳥観パース 2



図 13　東側道路からのパース



図 14　ドッグカフェ二階部分からのパース

再生し続ける島

学籍番号　K19334
名　　前　藤川美咲
指導教員　安田光男

An island that continues to regenerate

Student Number　K19334
Name　FUJIKAWA Misaki
Supervisor　YASUDA Teruo

はじめに

インターンで大島の空き家のリノベーションを行ったこと、地元である愛媛から、小豆島、直島、豊島に友人と遊びに行ったことから島について興味を持つ。瀬戸内海の魅力が感じられる敷地で瀬戸内芸術祭など、アートの島として知られていることから展示場を設ける。島という田舎のイメージから一転して、建築やアートの多い観光地として広まり、島全体が心の安らげるよりどころとなる場所とする。

豊島は瀬戸内海の香川県と岡山県の中間あたりに位置し、面積 14.5 k ㎡、周辺薬 20 ㎞、香川県では小豆島に次ぐ大きな島である。

人口は約 760 人、867 人（2015 年）、1018 人（2010 年）、1141 人（2005 年）、1327 人（2000 年）、1471 人（1995 年）と緩やかに過疎化傾向となっている。小豆島や直島など周囲の島と比べて派手さはないものの、素朴な魅力があふれており、唐櫃港から 10 分弱、家浦港から 20 分程のところにある。

島の背景

1.ごみについて



島を訪れた人々が皆一様に口にされるのは、「美しい島だ」ということ。しかし、過去に「ごみの島」「毒の島」と呼ばれ、激しい風評被害や経済的損失を被り、国内最大級の産業廃棄物不法投棄事件の舞台となっていた。業者によって大量の産業廃棄物が搬入、野焼きされ調停申請人の住民も 3 分の 2 近くは亡くなった。島の住民たちは美しい故郷を守るために立ち上がり誤った対応をした県を相手に現場復帰を求める公害調停を行った。過酷な草の根運動の後、発端から 25 年の 2000 年に調停の最終合意を得て、2023 年までに処理が完了予定で、今日も最後の汚染水の撤去が続いている。

2.ウサギニンゲン劇場



産業廃棄物不法投棄事件について調べていると自作の映像機と楽器を使った夫婦パフォーマンスユニット、usaginingen(ウサギニンゲン)を知る。アナログとデジタルを独特の手法で組み合わせたパフォーマンスは各国で高い評価を得ており、これまでにヨーロッパ、ロシア、北米、中国等 23 ヵ国で公演。芸術祭、音楽祭、映画祭や教育機関などで幅広く活動している。現在上映中のトンビ ～魂の鼓動～かつて豊島で起こった、有害産業廃棄物不法投棄事件をテーマにした作品を手作りの劇場で観ることができた。島で唯一、世界中に豊島の事件を知ってもらおうと実際に活動している人の思いや話を聞くことができた。

敷地選定

1.計画敷地

香川県小豆郡土庄町豊島唐櫃にある豊島美術館の横にある棚田に計画する。



この棚田は以前から変わらずあるものではなく、豊島美術館が建つときに一緒に復元されたものである。棚田と豊島美術館を結ぶ海へと続く二車線の道路は近年人気を博している「海へ飛び込む道」は豊島唯一の絶景スポットとなっている。敷地周辺に住宅や建物などがない為、景観が良いにもかかわらず夜間は人通りがない。

所在地：兵庫県西宮市高松町 11
主な用途：複合施設
敷地面積：5000 m^2
建築面積：未定
延床面積：未定
キーワード：保護犬、公園、触れ合い

Location : 11 Takamatsucho, Nishinomiya City, Hyogo Prefecture
Main Use :complex
Site Area : 5000m^2
Building Floor Area : to be decided
Total Floor Area : to be decided
Keywords : protection dog、Park、 contact

2-1 計画敷地について

計画敷地は兵庫県西宮市にある大型ショッピングモールの阪急　　西宮ガーデンズの道を挟んだ隣の敷地を予定。理由としてはこの施設の集客力を借りて買い物帰りなどにふらっと寄ってもらえればと考えている。また大きな道路に面していて JR 線、阪急線の電車も通っているため、交通の便も良くなっている。敷地の特徴は計画敷地の西側の道路は阪急西宮北口から阪急西宮ガーデンズに流れる車で沢山の人の流れ、視線がある。



図 5　敷地



図 6　ドッグラン計画

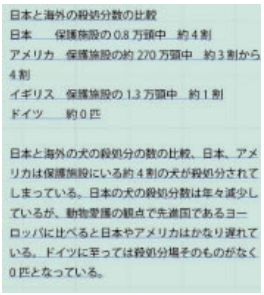


図 7　犬の殺処分数

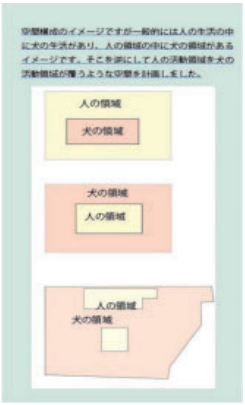


図 8　空間構成イメージ

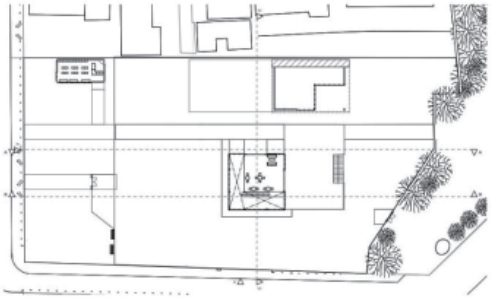


図 9　一階平面図兼配置図



図 10　地下一階平面図

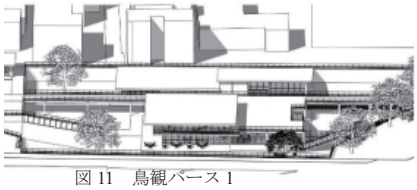


図 11　鳥観パース 1

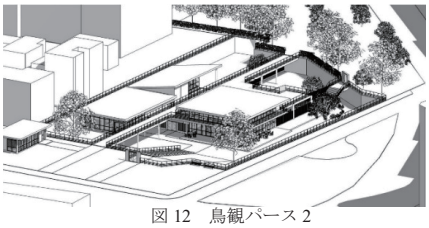


図 12　鳥観パース 2



図 13　東側道路からのパース



図 14　ドッグカフェ二階部分からのパース

夏みかんの寄

学籍番号　K19335
名　　前　藤木繭穂
指導教員　生川教授

Summer tangerine community

Student Number　K19335
Name　Mayuho　Fujiki
Supervisor　Professor　Narukawa

1.制作・研究の背景

過疎地域等における集落は、小規模化が進み、住民の高齢化が深刻化する中で地域コミュニティや生活基盤の崩壊・消滅が危惧されている。滋賀県近江八幡市に位置する八幡山のふもとに位置する旧集落地域、南津田町も例外ではない。昔ながらの旧集落地域に水郷風景がなくなり、地域に適合しない住宅が増えている。また、町内に存在する奉神会や婦人会などの村組織への参加者も減少傾向にあり、歴史的に受け継がれてきたお祭りだけでなく地域のイベントの開催自体も難しくなってきている。集落内の旧住民と新住民の交流が減ることでお互いの顔も知らない人が増えつつある。このままでは一棟一棟孤立して町としての機能をはたさなくなり、街ごと衰退の一途を辿ってしまう危険性がある。

2.制作・研究の目的

本計画では、旧住民の高齢者だけでなく、若年層の新住民との地域コミュニティの形成が促進される仕組みを検討し、時代によって移り変わる住まいのあり方や住み継ぎに考慮した集住体を提案する。



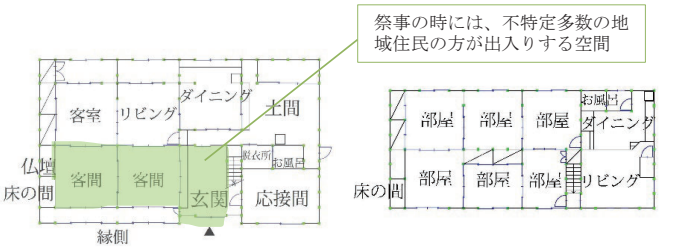
図 1.敷地から見た八幡山の様子



〈客間〉



〈外観〉



〈一階平面図〉　〈二階平面図〉

図 2.南津田町の伝統的な住宅の間取りの一例

3.南津田町のコミュニティ

南津田町の中の一大イベントとして、 南津田の左義長というお祭りがある(図 4)。町内にある八王子神社と天満宮の 2 つの神社を中心に、1 日目に神社に建てた大きな松明（3-4 本）を燃やして、2 日目に太鼓を鳴らしながら町内を練り歩くお祭りである。松明を作る材料は、共有地にある葦を使う。（ここの葦を刈って売り、奉神会などの費用にもしている）このお祭りは、奉神会や中老などの町の組織によって行っている。お祭りの中で夕方になると各家からお父さんが作った引きずり松明を神社に持って行き、子供が松明を引きずりながら階段を上ったり下りたりを繰り返す。その後松明を全て燃やし、花火を見る。しかし、近年花火はなくなり、コロナ禍もあり、松明の本数も少なくなっている。2 日目には太鼓担いで練り歩く際に休憩スポットとして 当番に当たった家の前でお酒やおつまみなどがふるまわれていて、玄関や庭・家の前の道に人が集まる。また、10 月ごろには報恩講と言い、各家庭でお寺のお坊さんに来ていただくだけでなく地域の方もたくさんお招きしてごちそうをふるまうと言う行事がある。この時に(図 2)にもあるように客間が使用されるが、普段はほとんど使わない部屋となっている。以上のように、南津田には、南津田の祭りやイベントが存在し、町内で組合をつくり協力しながら活動している。これら、町の活動は神社や公民館などだけで実施されるのではなく、家の中にも入り込んでくることでより親密なコミュニティが形成されている。



図 3.敷地周辺の建物状況

〈お祭りで使われる松明〉



図 4.左義長

表 1.南津田町における年中行事

1 月	お正月	9 月	稲刈り
4 月	南津田の左義長	10 月	お磨き
5 月	田植え		報恩講
8 月	地蔵盆	12 月	お餅つき
	お盆	命日	年会

表 2.居住者像の設定

親と子（3 人）	3 世帯
夫婦（2 人）	3 世帯
高齢者夫婦（2 人）	2 世帯
独り身高齢者 (1 人)	5 世帯
合計	13 世帯

4.敷地の選定・分析

計画地は、伝統的建造物群保存地区も存在する近江八幡市に存在し、JR 近江八幡駅から北側に車で 15 分、1 番近いスーパーに車で 10 分の車がないと不便な場所にある。近くには琵琶湖があり、山と田んぼに囲まれた自然豊かな町である。敷地周辺には歴史的な建物が多い中、現代の新しい家が増えてきている。

所在地：滋賀県近江八幡市南津田町 55
主な用途：住宅
敷地面積：2300m^2
建築面積：600m^2
延床面積：850m^2
キーワード：ハレとケ　旧集落地域　つながり

Location : 55minamitudatyou oumihatimannsi sigaken
Main Use : house
Site Area : 2300 m^2
Building Floor Area : 600 m^2
Total Floor Area :850m^2
Keywords : Hare to Ke. Old Settlement Area. Connection.

5.計画内容

南津田町の一角に、伝統的住宅（母屋部分）を中心とした住まいの集合体を提案する。町民に受け継がれる伝統を自然に取り入れることを考え、敷地内を独り身の高齢者や高齢者夫婦が住む高齢者ゾーンと若い夫婦や小さな子どものいる家族が住む若者ゾーンの 2 つのエリアに分け、それらが母屋の一階部分で緩やかに繋がるような計画を目指す。高齢者ゾーンは、一部屋を約 40 ㎡の平屋に、若者ゾーンは、一部屋を約 50 ㎡に設定し、母屋部分には共有のキッチンとリビングを計画することで、日常のコミュニティの形成に寄与するだけでなく、祭事の時に「ハレの場」として活用する。

6.計画コンセプト

(1)歴史的景観の保全・継承…歴史的景観(図 5)を色濃く残す母屋部分は取り壊さず、新しい住まいの共用部分として活用する。

(2)ユニット計画…あえてプライベートスペースを狭く計画し、既存の母屋にリビング的要素を取り入れそこに居合わせた同じ敷地内に住む人や近所の人々と自然に交流が生まれるようなゾーニングを考える。特に若者ゾーンに住む人には子どもが生まれることや子どもが大きくなり子供部屋が必要と知り、住まいの大きさがライフステージによって変化することを知り、その変化を住まいの集住体で受けとめるしくみを提案する。この南津田町は自然も行事もいっぱいあって楽しい、近所の人と交流しながら住みたいと感じてくれた人・この地域にある住み方に共感してくれた人が南津田町に受け継がれてきた地域コミュニティの良さを理解、知ることができてからこの地域に移り住む（定住）ことになる。その結果、南津田町の文化が継承され、町全体が持続性を持って住み代わることができると考える。

7.最後に

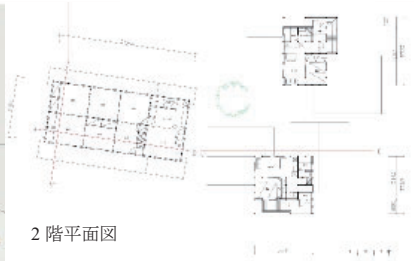
本計画では水郷風景計画に適合した母屋を中心に、南津田町の住民や伝統文化が新しく住む人の暮らしに自然に溶け込む建築を提案することを考えた。伝統民家を「活用・保存」することで、地域再生やまち並み再生へ繋がり、長い年月をかけて創意工夫を重ねた建築様式や暮らしの技術が受け継がれていくことを期待する。



図 5.高齢者ゾーンの外観写真



図 6.縁側からみた内観写真



2 階平面図

南側立面図

配置図兼 1 階平面図

働き方、住み方に変化を

学籍番号　K19336
名　　前　藤澤悠介
指導教員　河村大助

Changes in the way we work and live

Student Number　K19336
Name　Fujisawa Yusuke
Supervisor　Kawamura Daisuke

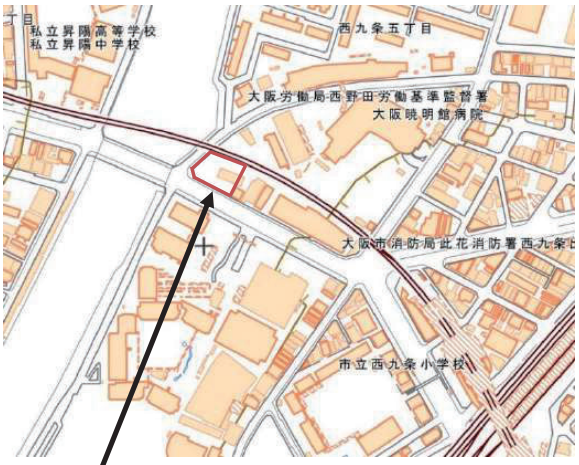
計画敷地（1）

大阪市此花区西九条５丁目 4-30 を今回の計画敷地とする。

敷地面積は約 955 ㎡、敷地の周辺には病院：(2)、西九条駅：(3) スーパー：(4) 小学校：(5) もある。近くには大きな公園；(6) もあるので子どもの遊び場に困ることは無い。敷地の裏側には保育園：(7) もある。橋を渡ると中高一貫校があるので子どもの教育に最適な敷地だと考える。しかし、敷地の裏側は電車が走っているため騒音問題に注意を払った配置計画を考える。敷地の目の前には安治川という川が流れているので景観にも注意を払う。

選定理由

敷地は西九条駅から約徒歩 3 分で行くことができ、周りには小学校、中学校、高校と学校がすべて敷地周辺にあり、病院やスーパーも近くにあるので生活面では好条件が揃っている敷地だと思い選定した。また西九条駅は主に乗り換えで利用する人が多いので西九条駅で降り立ち寄りたくなるような建物を計画したいと思いこの敷地を選定した。



















計画内容
建築用途：３階建て　RC 造
敷地面積：約 955 ㎡
用途地域：第二種住居地域　建蔽率 80%　容積率 300%
商業地域　建蔽率 80%　容積率 400%

用途詳細：１F はカフェ絵尾設計しようと考えている。カフェ内には複数人が使用できる空間、個人で過ごすための空間、外部空間で過ごすことのできるデッキテラスを設計する。

２F は貸し出しオフィスを二つ設計する。コロナが流行し人との交流する機会が減少した事態を少しでも改善出来るように二つのオフィスを計画することで他者との情報交換人との交流する機会、場所を増やす計画を考える。

3F は貸し出しオフィスの経営者の住宅を設計する。住宅に住む家族の構成は夫・妻・子ども２人（長女：中学１年生・ダンス部　次男：小学５年生・野球部）夫婦の趣味は映画鑑賞、休日には家族でキャンプや BBQ 公園に行きスポーツすることが趣味ということを想定。趣味である映画鑑賞をするためにシアタールーム、BBQ が出来る広さのルーフバルコニーを計画する。

・敷地計画

手前側に建物を配置し、奥側に駐車場・駐輪場を計画することで電車の騒音を少しでも減らす計画を考えている。

所在地：大阪府大阪市此花区西九条５丁目 4-30
主な用途：事務所・カフェ・住宅
敷地面積：約 955 ㎡
建築面積：387.34 ㎡
延床面積：973.9 ㎡
キーワード：働き方・住み方

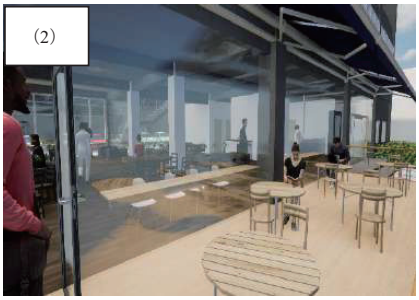
Location : 5-4-30,Nisikujyo,Konohana-ku,Osaka
Main Use : Office/Café/House
Site Area : 955 ㎡
Building Floor Area : 387.34 ㎡
Total Floor Area : 973.9 ㎡
Keywords : Workstyle/Lifestyle

1F のカフェとオフィスを併用させた空間はダイニングテーブル、ソファテーブルなど様々な種類の椅子、机を置き堅苦しい空間とならないようにする。メインはカフェ。最近ではカフェで仕事をする人が多くなってきている。完全なオフィスにするのではなく、リラックスしながら仕事をし、友人との会話、休憩できる空間を設計する。２F は貸し出しオフィスを計画するがただ仕事だけをこなす空間にならないように計画していく必要がある。しかし、コロナが流行してからはオンラインでの仕事が増え人と直接交流する機会が減少した。オンラインでの仕事は家から出ずに仕事ができ、交通時間が必要ないというメリットがある分、周りの人とのコミュニケーションをとることが難しくなるというデメリットもある。そのデメリットを減らすために交流の場を設ける、機会を増やすために新しい計画をしていきたいと考えている。

その一つとして、二階のオフィスを貸し出しオフィスとし一つの会社が使用するオフィスではなく、多くの種類の会社が仕事出来るオフィスとし普段学ぶことのできないことや、お互いが持っていない情報などを交換することが出来るというメリットがある。このコロナ渦でこのような貸し出しオフィスというのは中々利用しにくいという人もいると思うが、自分はまた新たな働き方が必要になると考えている、既に貸し出しオフィスを計画し事業を行っている企業も多くあるが、流行しているというほどまだ世の中には浸透していない。貸し出しオフィスでもオンラインでの仕事をすることは可能であり自宅でずることも良いと思うが、果たして長期の期間を在宅ワークすることが出来るかと問われると自分は出来ない。自分のような自宅では中々課題や仕事がはかどらないという人も多くいるだろう。環境を変えて仕事をしたいという人たちのためにもこのような貸し出しオフィスであったり、一階のカフェとオフィスを併用させたような施設は必要になってくると考える。これが自分なりの働き方、住み方に変化をもたらす計画だ。最近ではカフェで仕事をしている人を良く見かけることがある。しかしカフェで仕事をしにくい、中々勇気が出ないという人もないかにはいるためこのような貸し出しオフィスを計画していく。これからの時代、会社に出勤して仕事をするという働き方は減少していくだろう。その中で貸し出しオフィス、カフェとオフィスを併用させた施設は重要な施設になっていく、多くの人に需要をもたらすと考えている。敷地的にも最寄り駅が西九条駅という会社員の方や仕事で乗り換えをする人が多い駅なのでこのような建築物、施設があると通いやすいのではないかと考えている。ただ単に堅苦しいオフィスを設計するのではなく働く人にとって居心地の良い、リラックスでき仕事に集中できるような空間を設計していきたい。

三階の住宅に関しては二階の貸し出しオフィスの経営者の家族が生活することを想定して計画していく。経営者の家族の休日の過ごし方はキャンプや BBQ をするといった趣味を想定し、ベランダでは BBQ が出来るような空間を計画する。住宅の一部分には映画鑑賞という趣味の時間を過ごすことのできるシアタールームを計画する。











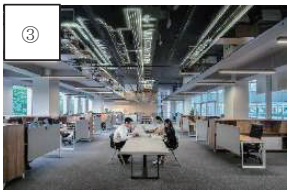


（1）のパースは歩行者目線から見た計画建物全体。階層ごとにフロアの形が違う。（2）（4）のパースは一階カフェの外にあるデッキテラスのパース。デッキテラスにはカフェの中から出入りできるように計画。歩道から直接入れないようにする。（3）のパースは一階カフェ内の様子。（5）のパースは住宅部分のリビングの様子。リビングの隣に趣味である映画鑑賞が出来るシアタールームを計画した。（6）のパースは二階の貸し出しオフィス（1）の様子。窓際に個人で仕事が出来るコワーキングスペース、会議室、複数人で仕事が出来るスペースなどを計画。（６）のフロアに二つの貸し出しオフィスを計画していく。二つの貸し出しオフィスを計画するので他社の人と対面することがある。そこで貸し出しオフィスに入る入口を二つ計画することで他社の人と会わないようにする計画を考える。またロッカーなども設けることによって、オフィスでの着替えを容易にする計画も考える。二階の貸し出しオフィスで仕事をし、一階にカフェで休憩できるという 1.2 階の関係性を持たせ、フロアごとの用途は異なるが建物としての一体感を生む計画を考える。

１階カフェ、2 階貸し出しオフィス、3 階貸し出しオフィス経営者住宅のこの 3 つの用途を合わせた建物がこの敷地、地域住民、働く人にとってどのようなメリットがあるのか、またその建物がどのような影響を与えるのかを考えながら計画する。







①の写真のスマートニュース株式会社のカフェ＆オフィス、②のアース製薬株式会社のカフェ＆オフィスを一階のカフェの配置、空間計画の参考に、③の事例を二階の貸し出しオフィスの机、スペース、空間計画の参考にした。

・参考文献
一枚目：https://designers-office.jp/work/page/index.php?id=613
二枚目：https://ninkitenpo-d.jp/work.php?id=1732
三枚目： https://chintai-office.net/magazine/rental-office/rental-office-recommend/
貸し出しオフィス、シェアオフィスについての概要：https://www.tensho-office.com/column/c015/
地図：https://maps.gsi.go.jp/#18/34.683443/135.464011/&base=std&ls=std&disp=1&vs=c1g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1

介護住宅と賃貸　雑貨広場

学籍番号 k19338
名　　前 藤村優晴
指導教員 人見将敏

Miscellaneous goods square Nursing home and rent

Student Number　k19338
Name　Yusei　Fujimura
Supervisor　Masatosi Hitomi

はじめに

計画背景・体験談

まずなぜ私がここの土地でこの建物を計画しようと思った理由を 2 点述べます。まず 1 点目は、ここの土地は私の祖母の家にあたります。そこで曾祖母と祖母と叔父の三人で暮らしています。そこの家がとても前に建てた家なので、段差や階段の幅がすごく大きく曾祖母はとても過ごしにくそうにしていたのでリホームしたいと思い。設計しました。2 点目は、隣の建物ですが、賃貸になっています。ここの周りはすごく車で仕事に通っている方がたくさんおられます。なのでここに賃貸を建てることによってとても有効に活用できるのではないかと思いました。何より祖母はまだ、働いている中で、曾祖母の介護もできるのではないかと考えました。住宅のほうは基本的には東側の LDK を使います。身内の家族が、曾祖母にこれからコロナも収まってきたので集まることが多くなってくると考え LDK は二つ設計しました。

玄関から上がってもしんどくないように段差を狭くし、以前は 40cm ぐらいある玄関だったので以前よりスムーズに出入りできるようになったと思います。

【計画概要】~ 設計趣旨 ~

【計画背景・体験談・設計意図】

まずなぜ私がここの土地でこの建物を設計しようと思った理由を 3 点あげます。まず 1 点目は、ここの土地は私の祖母の家になります。そこでは曾祖母と祖母と叔父の三人で暮らしています。そこの家がとても前に建てた家なので、段差や階段の落差がすごく大きく曾祖母は 101 歳なのでとても過ごしにくそうに感じたのでリホームしたいと思い設計しました。2 点目は、隣の建物ですが、賃貸になっています。ここの周りはすごく車で仕事に通っている方がたくさんおられます。なのでここに賃貸を建てることによってとても有効に活用できるのではないかと思いました。なにより祖母がまだ、働いている中で、曾祖母の介護もしなければならないという状態で、仕事をやめてここに賃貸を設計することによって仕事の面は緩和され、近くで曾祖母の介護もできるのではないかと考えました。住宅のほうは基本的には東側の LDK を使います。身内の家族が、曾祖母にこれからコロナも収まってきたので集まることが多くなってくると考え LDK は二つ設計しました。玄関から上がってもしんどくないように段差を小さくし、以前は 50cm ぐらいある玄関だったので以前よりスムーズに出入りができるようになったと思います。そして 3 点目は、もう 1 つの建物です。この建物では、近所の高齢者の方がいつでも気軽に集まれるように小さなカフェスペースを設けました。ここでは伊賀市の有名な伊賀組みひもを販売したりさまざまな雑貨屋を売ったり地域の野菜売ったりと町おこしになればと思い設計しました。

【敷地について】【三重県伊賀市】

伊賀市は三重県の北西部に位置し、江戸時代には藤堂家の城下町や伊勢神宮への参拝者の宿場町として栄えてきました。伊賀忍者や松尾芭蕉のふるさととして知られ、京・大和文化の影響を受けながらも独自の文化を醸成しています。特産品では、伊賀米や、伊賀牛、伊賀焼などが有名で「伊賀ブランド」に認定されています。地域によってさまざまな特徴を持つまちで、「城下町でのまちなか暮らし」や「農産村地域での田舎暮らし」など、ライフスタイルがさまざまある街です。

【設計意図】【問題点】

①　高齢者のための介護が行き渡っていない。②　外国人住民が増えているのにも関わらず住む住居が少ない。

③　観光地・特産物のアピールが少ない

【問題改善点】　①家族で身近に祖父母や曾祖父・曾祖母の介護ができるような住宅にする。

→伊賀市にはこのような住宅が少なく高齢者だけで住んでいる住宅が多いので

今回の計画した住宅がどんどんと広まっていけばいいなと思います。

②賃貸マンション・アパートを増やす。

→このように余っている土地やまだ開拓されていない土地を有効に活用することで

伊賀市にまた人口が増えていき町おこしにもなる。

③　一か所で集中して広めるのではなく雑貨店や地元の人からはじめ若い世代にもつなげていく。

所在地：三重県　伊賀市　生琉里
主な用途：住宅兼賃貸
敷地面積：2914m^2
建築面積：845m^2
延床面積：1312m^2

Location : hurusato igasi miekenn
Main Use : housing and rent
Site Area : 2914m^2
Building Floor Area : 845 m^2
Total Floor Area : 1312 m^2

【伊賀の組みひも】

雑貨広場で伊賀の組みひもや私の曾祖母が満州で作っていた満州水餃子をご近所の方に広めたり一緒に作ったりできると思いました。こうすることで、憩いの場所もでき、地域の活性化にもつながります。

そしてここでは、周りで作っている野菜や果物を売ったりできるようにもしたいと思っています。組みひも体験や餃子作りなど、ほかにもちょっとしたイベントでも使えるような場所に計画しました。

敷地詳細・設計意図

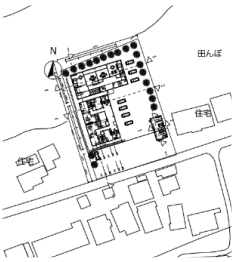
三重県伊賀市生琉里の、人工の大半は高齢者が占めています、が若い世代の方も少なくは、ありません。この敷地の近くには名阪国道が通っており、大阪府、奈良県、京都府、愛知県とすごく交通の便が良く「ベットタウン」とも言われています。なので最近はここの周りには賃貸のアパートやマンションが多く建つようになっています。

【外国人住民の詳細】

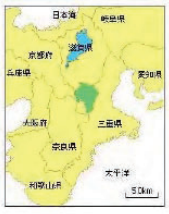
伊賀市は、総人口に占める外国人住民の割合が三重県の中で常に高く、外国人住民の移動が伊賀市の人口動向に与える影響はとても大きいです。その分観光地が多く住みやすい地域とな っています。

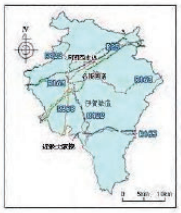
伊賀市には工場も多く、働く場が多いため仕事を求めて、転入してくる外国人住民が多い。また、仕事だけでなく親戚や友達が多く移住している事も住み始める理由として比率が高い。










善光寺五重塔復元案の再現　立川流・善光寺五重塔図より

学籍番号　k19340
名　　前　降簱　優花
指導教員　特任教授　大上　直樹

善光寺　五重塔　復元
立川流　近世社寺　善光寺五重塔図

研究概要

研究目的

本研究は、立川和四郎富棟の復元案である『善光寺五重塔図』の再現を行い、長野県善光寺にかつて存在した善光寺五重塔を復元することを目的とする。『善光寺五重塔図』とは、現在善光寺大勧進に納められている、寛政八年（1796）9 月吉日、諏訪の宮大工立川和四郎富棟が作成した設計案である。復元予定であったが、中止となり実現には至らなかった。

研究方法

長野県善光寺大勧進にて、「善光寺五重塔図」の実寸調査を行った。実寸の値をもとに、

① 匠明塔記集
② 修理報告書（教王護国寺五重塔・室生寺五重塔・醍醐寺五重塔・海住山寺五重塔・明王院五重塔・日光東照宮五重塔・備中国分寺五重塔・善通寺五重塔 8 基）
③ 既往研究
④ 近世社寺設計技法

を用いて復元作業を行う。複数の可能性が現れた場合には、整数比を用いるなどして寸法決定とする。

研究結果として、平面図・立面図・断面図・詳細図・3D を作成する。

既往研究

◇立川和四郎富棟の建築活動と大工集団について
日本建築学会計画系論文集 1994.12 p.p143～152
著：吉澤政己

細川隼人の研究の補正や補完を行い、立川冨棟の施工形態や造営における職人構成冨棟一族や弟子の役割分担、弟子の動向などについて考察している。

◇五重塔の逓減について
本建築学会計画系論文報告集 1990.02 p.p123～131
著：白井裕泰

五重塔における水平系の逓減や垂直系の逓減について述べている。寸法設定をする際に、各層の逓減が近い値になるよう設定した。

◇層塔の構造形式に関する力学的な考察
建築史学 1989 年 13 巻 p.51-75　著：西澤英和・金多潔

古代から近代にかけて、層塔構造の変化について述べている。近世の構造についても述べられている。

立川流

立川和四郎冨棟

本研究のもととなる善光寺五重塔図を描いた人物。諏訪高島藩に代々桶職として勤めた家柄の塚原忠右衛門の次男・和四郎として延享元年（一七四四）三月八日に誕生した。十三歳である宝暦七年（一七五七）に江戸の大工彫物師初代**立川小兵衛富房**の弟子となる。和四郎の師匠小兵衛富房は建築雛形の書物を発行し、かつ建築業績も残す巨匠である。師匠の名の富の字使用と立川姓を許され立川冨棟と名乗り、二十歳の時諏訪に戻った。

立川流大工集団建物


写真 2. 無極寺本堂


写真 3. 白岩観音堂

白岩観音堂・無極寺・光前寺三重塔・諏訪大社秋宮には実際訪れた。特徴としては柱にある獅子と象の木鼻の彫刻や唐破風部分に龍・鳳凰の彫刻が多くみられた。大きく深い彫刻も印象的である。彫刻を施した木を建物にはめ込むことで、隅々と高い位置にまで緻密な彫刻を施すことが出来、立川流の写実的な彫刻にも繋がる

立川冨棟復元案『善光寺五重塔図』について





絵図の中には、右上に信濃善光寺五重塔貳拾分一繪圖、左上に惣高サ貳拾七間三尺餘、惣間四間貳尺貳寸八分、右下に立川内匠冨棟圖之、左下に寛政八丙辰年九月吉日とある。現在善光寺大勧進に所蔵されている。実際に訪れ、実寸を調査した結果を踏まえ今研究を行う。

絵図から、肘木・桁・尾垂木には、彫刻宮大工である立川流らしい壮大な彫刻が施されたこ

とがわかる。　三手先ではあるが、現存する社寺の中でも例を見ない構造であるため、寸法を定めて収まるようにすることが大変困難を要した。

寸法設定

『善光寺五重塔図』より

表２、「善光寺五重塔図」実寸１

	初	二	三	四	五
総間	26.28	23.80	21.50	19.30	17.00
中央間	9.65	9.00	8.20	7.40	6.60
脇間	8.315	7.400	6.650	5.950	5.200
柱径	2.2	2.1	2.0	1.8	1.8
まえづつみ下～下		19.2	18.8	18.7	25.8
台輪下～桁下	5.95	5.90	5.85	5.85	5.80

１間寸法について

表は善光寺五重塔図の実寸である。基壇上から相輪上までの実寸が 165 尺であった。よって、総高さ二十七間三尺より

（165-3+）÷27＝6 となり、**1 間 6 尺**とする。

総間寸法について

総間 4 間 2 尺 2 寸 8 分は、1 間＝6 尺より

4×6+2+0.2+0.08＝26.28

従って、初層総間が 26 尺 2 寸 8 分となる。五重塔は初層と五層の総間の関係を**整数比**にすることから、

初層：五層＝*3：2＝26.28：17.52*

より、五層の総間を **17 尺 5 寸 2 分**とした。

柱寸法について

初層総間の外々（ヲゼ）が 20 尺の裏目（×√2）と推測し、初層総間外々寸法 *20×√2＝28.28427* よりヲゼを 28 尺 2 寸 8 分程度に近づけるため、初層柱径の寸法設定を行う。

『匠明塔記集』本文「*柱太サ門腰二ノ八分算。*」より、匠明内では、**柱の幅＝総間×0.08** である。

26.28×0.08＝2.1024

以上の点を踏まえ、初層柱径を 2 尺 2 寸から 2 尺 1 寸へ変更した。（柱径 2 尺 1 寸の時、ヲゼ 28 尺 3 寸 8 分）

他層の柱径は、『善光寺五重塔図』の実寸とした。

表３、寸法設定その１

	初	二	三	四	五
総間	26.28	23.88	21.76	19.52	17.52
中央間	9.64	8.82	8.12	7.32	6.60
脇間	8.32	7.53	6.82	6.10	5.46
総枝数	41	38	35	32	29
中央枝数	15	14	13	12	11
脇枝数	13	12	11	10	9
一枝寸法	0.64	0.63	0.62	0.61	0.60
柱径	2.10	2.10	2.00	1.80	1.80
高さ		19.20	18.80	18.70	25.80
台輪～桁下	5.90	5.90	5.85	5.85	5.80
茅負下～桁下		0.40	0.60	0.70	0.80

丸桁の出の枝数について

絵図では、側柱から軒の出の寸法が各層すべて等しく描かれている。

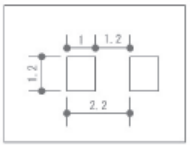
『匠明塔記集』より、五重塔の側柱と丸桁間（丸桁の出）の枝数は **6 枝**である。

室生寺五重塔・醍醐寺五重塔・海住山寺五重塔・明王寺五重塔（23 基中 7 基）の修理報告書を確認した結果、丸桁の出の枝数は 6 枝であった。

しかし、**教王護国寺五重塔・興福寺五重塔は例外**で、通点は 50m を超える巨大な五重塔であることである。

善光寺五重塔は、丸桁の出の寸法が大きく総高 165 尺と巨大な五重塔である。丸桁の出を 6 枝とすると、他の五重塔と比べ一枝寸法が大きくなってしまうため、『善光寺五重塔図』に描かれる丸桁の出は 7 枝に設定する。

垂木・茅負・隅木寸法について



垂木の寸法設定は次の比率で行う。

玉山君の卒業論文に出てくる比率を活用する。

幅：成：垂木間隔＝1：1.2：1.2

成と垂木の間隔が等しくなる。

初層の場合、1 枝寸法 0.64 より

0.64÷2.2＝0.29＝垂木幅

0.29×1.2＝0.349≒0.35＝垂木成

となる。

表４、寸法設定その２

垂木寸法	.29×.35	.29×.34	.28×.34	.28×.33	.27×.33
地棟勾配	0.30	0.38	0.39	0.40	0.40
ヒエン勾配	0.23	0.27	0.30	0.33	0.35
軒の出	9				
茅負	.63×.84	.63×.84	.60×.80	.54×.72	.54×.72
茅負の反り	1.092（1.3本）	1.092（1.3本）	1.200（1.5本）	1.224（1.7本）	1.224（1.7本）
高欄～側柱心	6.3				
隅木幅	0.62	0.62	0.6	0.6	0.6
隅木片中裏目	0.43834	0.43834	0.4242	0.4242	0.4242
茅負成二割増し	1.008	1.008	0.96	0.864	0.864

論止垂木位置による総垂木数の検討

論止垂木について

木負の口脇投げの線上に取り付く飛檐垂木を論止垂木という。軒先から 5 番と 6 番の位置におくと、丸桁真から論止垂木と論止垂木から軒先が整数比になる。なので、2 通りの可能性がある。論止位置や丸桁の出の枝数、一枝寸法の組み合わせで、垂木の総枝数がきれいな本数になる組み合わせを探す。

本論文では、垂木総本数 **2800 本が一番きれいな本数**になる本数であった。

参考文献

・一遍上人絵伝

・著：平内正信　匠明塔記集　慶長 13 年 1608 年

・著：水野耕嗣　諏訪大工・立川冨棟は善光寺で何を作ったのか　飯田市美術博物館　研究紀要 29：67～98（2019.3）

・著：大上直樹・西澤正浩・望月義伸・谷直樹「軒の出と「引込垂木」について　近世軒規矩術の研究 - その2」日本建築学会計画系論文集　第670 号.pp2421-2420.2011.12（第 7 章）

大阪 Port Shelter　～湾岸の津波避難施設計画～

学籍番号　K19342
名　　前　前田 温人
指導教員　小梶 吉隆

Osaka Port Shelter

Student Number　K19342
Name　Haruto Maeda
Supervisor　Yoshitaka Kokaji

1. 背景と目的

今後３０年以内に 70～80%の確率で発生するとされている南海トラフ巨大地震。津波での被害が大きかった東日本大震災での津波による被害者は１４，０００人であり、南海トラフ巨大地震では１６倍以上の２３万人が犠牲になると予想が立てられています。この計画は南海トラフ巨大地震を想定し、新しい避難施設の在り方を提案すると共に、震災、津波について理解を深めることを目的としています。

2.避難施設の課題

・平常時は閉鎖されており、日常利用を想定されていない
・平常時に閉鎖されていることにより地域住民の施設利用に対する理解度が期待できない
・児童公園等の子供の遊び場となりうる空間をつぶして建てられている場合もある
・その効果は被災時の一瞬のみで、通常では有効利用がなされていない
・高齢者などの身体が不自由な方にとって避難が難しい


服岡一時避難所


錦タワー

3.選定敷地と選定理由

3-1　選定敷地

対象とする敷地は、大阪府大阪市此花区梅香１丁目３の梅香東公園とする。

3-2　敷地の特徴

この敷地の東側には河川が流れ、南西には海があるため津波が発生すれば二方向から津波が押し寄せることが想定できるため二方向からの水の流れを考慮して建物を計画していく必要があります。

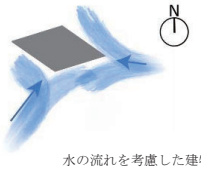


3-3　選定理由

候補地の中で大阪市此花区の敷地を選定した理由として次のことが挙げられます。

・浸水想定が 2m以上(最大 6m)で大きな被害が想定される
・ユニバーサル・スタジオ・ジャパンなど、人が多く集まる地域であり避難施設の設置の重要性が高い
・大阪・関西万博開催により観光客を含め人の動きが大きくなる
・近隣に避難施設の替わりとなるような高層の建物が少ない

以上の理由から大阪市此花区の敷地を選定しました。



水の流れを考慮した建物の外形

4. 核シェルターについて

地図上の国は核保有国でありロシアから日本まで 3600km、中国の北京から日本までは 2000km、北朝鮮からは 1000km ですが、すでに中距離弾道ミサイルの飛距離は 5000km～5500km に達するとされています。



この避難施設は津波による災害だけを想定せず、
地下のシェルターを計画し核攻撃による避難にも対応できるようにしました

所在地：大阪府大阪市此花区梅香 1-3
主な用途：避難施設
敷地面積：3347.93 ㎡
建築面積：603.82 ㎡
延床面積：3135.81 ㎡
キーワード：避難施設、災害、バリアフリー

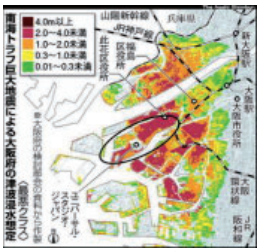
Location : 1-3 Baika Konohana-ku,Osaka-shi, Osaka
Main Use : Evacuation Facility
Site Area : 4012.4 m^2
Building Floor Area : 814.43 m^2
Total Floor Area : 3162.43 m^2
Keywords : evacuation facility、disaster、barrierfree

5.大阪市此花区の被害想定

想定される津波の高さ

大阪市内の中でも此花区は大きな被害を受けると予想が建てられており、最も被害が大きい場所では４ｍ前後の津波が押し寄せることになります。

これらはあくまで想定であり、東日本大震災では予想をはるかに超える津波が押し寄せているため、想定より被害を大きく見積もり、それに合わせた避難所計画が必要になります。



此花区浸水想定

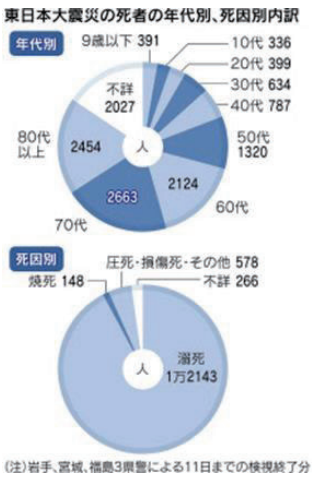


此花区津波避難マップ

6.計画趣旨

５-１　平常時も解放され認知される避難施設

避難施設の課題として災害時の避難以外に用途が無く、地域住民にそれが何の施設であるか認知されていないということがあります。認知されるためにはその施設を使用してもらう必要があるため、集会所としての利用や、地域のイベント、梅香東公園を敷地としていることから、公園、コンビニなどの機能を併設させました。



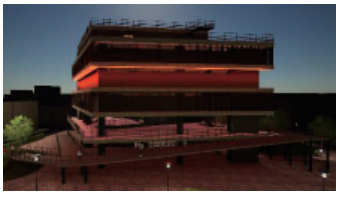
５-２　地震発生時には避難を促すような情報を発信できる施設

東日本大震災では死者のほとんどが溺死であったと報告されています。溺死が起こる原因として挙げられるのは逃げ遅れであり、これまで津波での大きな被害を受けたことが無いことによる、「自分たちは大丈夫」といった心理が働いたことも想定できます。今回の計画では地域住民に避難を促すような機能を持たせたいと考えているため、建物全体が真っ赤に点灯するなど、建築として緊急事態が発生していることを発信できるような計画にしました。

５-３　高齢者が避難しやすい施設

東日本大審査での死者に高齢者が多いことから、高齢者の逃げ遅れが多かったということが考えられます。津波による避難で重要なのは垂直方向に避難することであり、体が不自由な方や足腰の弱い高齢者にとっては体力の消耗が大きい動きと言えます。津波や停電によりエレベーターが使えなくなることも考えられるため、高齢者や車椅子利用者のための勾配の緩いスロープなども計画しました。







参考

日本経済新聞：https://www.nikkei.com/article/DGXNASDG1902Z_Z10C11A4CC1000/、

全国町村会：https:/www.zck.or.jp/site/forum/1280.html ハザードナビ：http://www.imart.co.jp/hazard-kansai-hazardmap.html　　株式会社 浦野設計：http://www.urano-s.co.jp/works/detail/148

絶やさぬ古窯の火

学籍番号　K19343
名　　前　前田仁海
指導教員　安田教授

Keep the fire alive

Student Number　K19343
Name　Hitomi Maeda
Supervisor　Professor Yasuda

敷地

敷地場所は滋賀県甲賀市信楽町にある。信楽町は山に囲まれた盆地であり、夏は涼しく冬は非常に寒い土地である。冬には雪が積もることもある。また、「信楽高原鐵道」というローカル線が通っている。敷地は、そのローカル線の終点である信楽駅付近であり、観光客や地元住民が行き来している。信楽駅から西に坂を上っていくといくつかの窯元が点在している。窯元以外にも、お食事処やカフェなどがあり、休日は自動車の流入が多く、幹線道路が混雑する。ローカル線の利用を促し、本建築が信楽の第一印象かつ信楽の出発点となるよう、敷地を決定した。

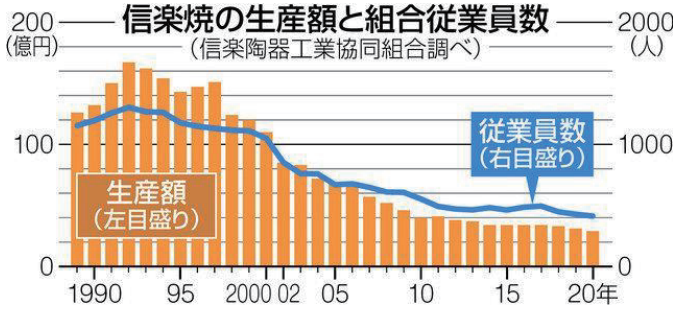






背景

信楽焼の生産額と組合従業員数は減少傾向にある。最も需要があった年は 1992 年で、生産額は約 160 億円にも上る。その需要に伴い、従業員数も 1992 年が最も多く約 1300 人が在籍していた。しかし、1992 年のピーク時を境に、生産額と従業員数は右肩下がりになっている。直近の 2020 年では、生産額は約 20 億円と 1992 年の 1/8 に、従業員数は約 400 人と 1992 年の 1/3 にまで減少している。この傾向を見る限り、2020 年以降も減少し続ける可能性が高い。また、特に深刻なのが後継者不足だ。信楽に点在する窯元も、信楽焼の衰退とともに新人を受け入れるところや子に継がせるところも少なくなっている。



目的

背景にもあるように、このままでは将来、信楽焼の技術が途絶えてしまうかもしれない。いわば信楽焼は絶滅危惧といえる。表題の「絶やさぬ古窯の火」には、信楽焼の技術を継承し、後世に残していくという意味がある。陶芸家には後継者に技術を教える場が、若手には教わる場と職につなげる場が必要である。観光客には信楽焼の魅力にふれる場、地域住民には信楽焼を誇りに思えるような場が必要である。信楽焼を後世に残していくためには、そういったそれぞれの関心や技術、魅力を知ることができる場を設けなければならない。

提案

・共用窯

共用窯を新たなコミュニティの場として形成。陶芸家だけでなく、地域住民や観光客も、作品を持ち寄る。

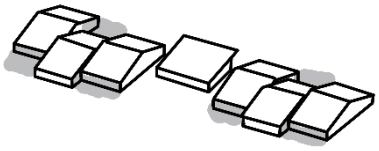
・象徴

陶器の町としての象徴となれるような建築を目指し、観光客の関心や地域住民のシビックプライドを育む。

所在地：滋賀県甲賀市信楽町長野 192
主な用途：窯場・工房
敷地面積：8400㎡
建築面積：3164㎡
延床面積：3164㎡
ｷｰﾜｰﾄﾞ：陶器・伝統工芸・窯

Location : 192,Nagano,Shigaraki-cho,Koka-shi,Shiga
Main Use : kiln-equipped pottery workshop
Site Area : 8400 m^2
Building Floor Area : 3164 m^2
Total Floor Area : 3164 m^2
Keywords : pottery traditional crafts kiln

平面計画
・配置計画
切り妻形のボリュームを 15m ずつ左右にずらす。そこに空間が生まれ、有効にテラスや植栽をいれることができる。



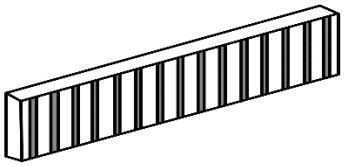
・登り窯
敷地内に共用のかまを設け、信楽焼の作家や観光客、地域住民自らが焼きたい作品を持ち寄れる空間をつくることで、新たなコミュニティの場が生まれる。それぞれの焼成を行う作品に対しての思い入れや、それぞれの世界観を共有することができる。



・中庭
敷地内にオープンスペースを設け、「陶器まつり」や「陶器市」の開催や陶器に触れてもらえる場を作ることで、陶器に対して興味を持ってもらうような場所をつくる。信楽焼の出店や作品の屋外展示を行えるように十分なスペースを確保した。



・建材利用
外壁には、信楽焼を使用したセラミックルーバーを建材として利用しデザイン性や信楽焼の印象を来訪者に与える。内壁には、陶器タイルを貼付し、カフェでは信楽焼の食器を使用する。展示スペースでは風呂釜等のインテリアを展示し、狸や食器だけではない信楽焼の魅力や可能性を広げる。



参考事例
　金沢市民芸術村・職人大学校



所在地：石川県金沢市大和町
構造：木造一部煉瓦造　鉄骨および RC 造
　一般の方が利用できる工房と伝統工芸の後継者を育成する施設が併設されている。

参考文献
・倉知 翔/佐藤 布武,「登り窯以後の窯元の空間利用変遷に着目した窯業集落の空間的特徴」,2020,vol58,p401-404.

・山近 秀樹/小林 正美/川崎 清,「集落の領域形成と構造に関する研究 : 信楽町の事例研究を通して(農村計画)」,1987,vol27,p477-480

・信楽陶器工業組合（2022）,「信楽陶器工業組合」, https://www.593touki.jp/

・金沢市民芸術村（2022）,「金沢市民芸術村」, https://www.artvillage.gr.jp/

・金沢職人大学校（2022）,「金沢職人大学校」, https://k-syokudai.jp/

未来を創る相談所　～自然と人との交流～

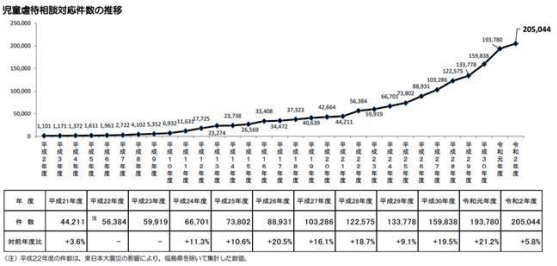
学籍番号　K19344
名　　前　真木祐梨菜
指導教員　小梶吉隆

Counseling office to create the future

Student Number　K19344
Name　Yurina Maki
Supervisor　Yoshitaka kokaji

1. 背景と目的

近年親から子供への虐待で子供が亡くなるニュースやいじめにより自殺というニュースを多く耳にする。このような悲しいニュースが増えた要因の1つとして「コロナ」が関係していると考えられる。家にいる時間が増えると同時に様々な要因でストレスがかかり、そのストレスから子供に虐待をしてしまったり、学校では家庭でのストレスを解消するためにいじめをおこなうのではないかと考えた。そして、それを受けている子供は自分の気持ちを吐き出す場がなく、生きづらさを感じている。この問題は子供に限らず、社会に出て働く大人たちにも当てはまる問題である。長時間の労働により大きなストレスを抱えている人や、社内でのいじめ、パワハラなどを受けている人も多くいる。親からの虐待、学校ではいじめを受けている子供たちや職場でパワハラなどストレスを感じている大人たちの気持ちを吐き出す場所、そして建築に自然を取り入れた心のケアをする相談所を設計する。



年　度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
件　数	44,211	注 56,384	59,919	66,701	73,802	88,931	103,286	122,575	133,778	159,838	193,780	205,044
対前年度比	+3.6%	－	－	+11.3%	+10.6%	+20.5%	+16.1%	+18.7%	+9.1%	+19.5%	+21.2%	+5.8%

（注）平成22年度の件数は、東日本大震災の影響により、福島県を除いて集計した数値。

資料1　参照　統計データ｜子ども虐待について｜オレンジリボン運動 - 子ども虐待防止（orangeribbon.jp）

2. 心のケアについて

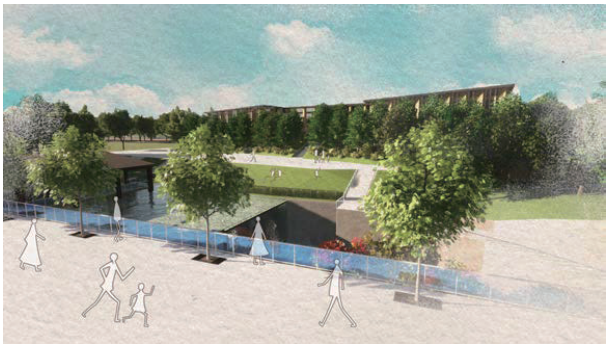
具体的な心のケア方法については、自然を建物の中に取り入れ「五感」を使うことでリラックス効果を感じてもらう計画をおこなった。そして、五感それぞれの空間を計画し、自分にあった空間で自由にリラックスしてもらえるような計画にする。

見る、聴く、嗅ぐ、味わうことには血圧の低下、脳活動の鎮静化の効果が主にある。触ることには普段人工物に触れている時間が多いからこそ、自然のものに触れることによってリラックス効果を感じることができる。そして、中でも嗅ぐということには直接的で大きな作用がある。例えば、杉、ヒバの香りには怒りや緊張の緩和に効果的であり、深呼吸をすることにより樹木から放出されているフィトンチッドを取り入れることができるため効果的にリラックス効果を感じることができる。

フィトンチッドには、α波の発生を促進し、精神安定の効果や、自律神経安定、不眠を解消し、快適な睡眠をもたらす、怒りや緊張を和らげる効果、ストレスホルモンを減少させる効果などがある。フィトンチッドは6月から8月にかけて多く放出され、木材となった後も放出され続ける物質となっている。

そのほかに、人と関わることによって生まれる「絆ホルモン」を利用した広場を計画。小さな子供は自分以外の他人と関わることによって自分の考えや性格などが形成されていき、成長に繋がるため幼いころに人と関わることのできる場は必要であると考えた。

所在地：京都市下京区観喜寺町56-3
主な用途：相談所、宿泊施設
敷地面積：14400㎡
建築面積：3545㎡
延床面積：10580㎡
キーワード：相談所、五感、自然、交流



メインパース



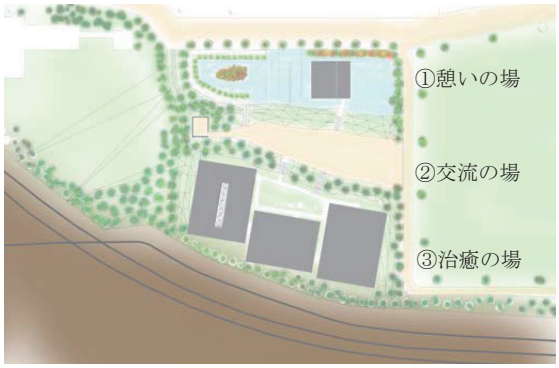
資料2　コロナ禍でパワハラ増加も　ハラスメント大国日本におけるパワハラ・セクハラの状況を世界と比較 - Japan PI

3. 敷地について

今回は、「梅小路公園　いのちの森」部分に建物を計画する。選定した基準としては、アクセスを考え、駅に近いこと、近くに学校があること、人が集まりやすいかどうか、森を作るだけの大きさと自然があることを基準に選定をした。

敷地の計画としては、水族館側から線路側にかけて空間を利用する人を限定し、線路側に行くにつれてコミュニティが親密になるよう計画をする。その空間の変化をつけるために線路側にいくにつれて敷地の高さを高く計画した。①の「憩いの場」は誰でも利用できる五感を使ったリラックス空間を計画し、②の「交流の場」にはさまざま人が利用する広場を計画する。そして、③の「治癒の場」は心の治療を行う人のための相談所兼生活する場を計画する。「交流の場」を中心に、「憩いの場」と「治癒の場」へと分離されるように計画する。そして、「憩いの場」の周りにはリラックス効果と目隠し・防音を目的としてたくさんの樹木で取り囲むように計画をする。この取り囲む樹木の種類に関しては、「サンゴジュ」という品種を使う。サンゴジュは高さ7～8メートル程で、大きなものになると10メートルの大きさになるものもある。そして、防音効果に関しては幅5メートルに渡りサンゴジュを植えることによって、防音効果が発揮されるため、5メートル以上の幅のサンゴジュを建物の周りに植える計画とする。

Location ： 56-3,kangigi,simogyo-ku,Kyoto
Main Use ： Consultation Center,Hotel
Site Area ： 14400㎡
Building Floor Area ：3545㎡
Total Floor Area ：10580㎡
Keywords ： Consultation Center,five senses,nature,alternating current



4. 治癒の場

宿泊施設の構成としては、相談所や学校、食堂の不特定多数の人が利用する建物と1人部屋用の建物と3人・2人部屋用の建物の3つの構成で計画する。建物内には光庭・中間領域を設け、採光と自然を取り込むようにする。また、各部屋につき専用の庭を設け各個人が自由な過ごし方ができる計画とした。また、2，3人部屋に関しては、同じ部屋の中にも個人の空間を確保できるような計画とするが、壁で各個人の空間を仕切るのではなく、カーテンを用いた仕切りとしてルームメイトがいないときはカーテンを開けて空間を広々と使えるようにし、空間の多様性を重視した計画をおこなった。

また、この宿泊施設を普段から使っていない人のための相談所を地下に計画した。入口には木で作った門が連なり利用者を奥に導き、そこから長い地下道を歩き相談所まで続く計画をした。あえて、地下道を長く取った意図としては騒がしい社会から距離を置き、静かな空間を歩きながら自分の気持ちを整理する時間を設けることを目的とした。そして、この相談所から出ていくときは心が晴れた気持ちでいてほしいと考え、大きな階段を設けそこから太陽の光が差し込むようにするなど利用者の心理に配慮した計画となるようにした。

5. 憩いの場

憩いの場には一面に水を張る計画とする。水を張る意図としては、水は様々なものになじむ・広がるということから、様々なコミュニティの広がりを表現している。そして、その水を張った部分では小さな子供が遊べるように計画を進める。

空間構成

「見る」は季節の変化を楽しむことができる空間
四季それぞれで咲く花や樹木を植えたり、空間全体に広がる水が凍るなど広場全体を視覚を使う空間として計画。
「聴く」は川の流れる音などを聴く空間
頭上から水が流れ落ちてくるように計画をし、流れ落ちてくる水がカーテンのような役割を持つことによって、その先に広がる空間に興味を持たせるような役割を持たせた。
「嗅ぐ」は木の香り・花の香りなどを嗅ぐ空間
春は沈丁花、夏はクチナシ、秋は金木犀、冬は蝋梅の四大香木を中心として梅、イチョウなど季節を代表する樹木を植え、その周りを回遊できるように設計した。
「触る」は裸足で芝生の上を歩き回ったりする空間
天井にはすりガラスを一部設け、太陽の光が入り込む計画をした。その時の心情によって太陽のある明るい空間か影の多い落ち着いた空間を選択できるようにした。
「味わう」は季節の食材を生かしたレストランを計画周辺地域に京野菜をした洋食レストランがあるため、和食をメインとしたレストランを計画。

憩いの場　パース


視覚


聴覚


嗅覚


触覚


味覚

【参考文献】

統計データ | 子ども虐待について | オレンジリボン運動 - 子ども虐待防止 (orangeribbon.jp)
コロナ禍でパワハラ増加も　ハラスメント大国日本におけるパワハラ・セクハラの状況を世界と比較 - Japan PI

ライフ図書館
学生と高齢者の為の世代間交流施設

学籍番号 k19345
名　　前　増田修也
指導教員　江本弘

Life Library
Proposal for Intergenerational Knowledge Exchange

Student Number　k 19345
Name　Shuya Masuda
Supervisor Emoto Hiroshi

敷地情報

はじめに近鉄大久保駅から徒歩５分から 10 分圏内にある敷地での図書館計画。現在パチンコ店を建設予定。敷地周辺には教育機関が多くありさらに団地、マンション、一軒家が多くありファミリー層が多く住んでいる。特に団地は、敷地から近い場所に多く建てられている。



問題

1 団地の高齢化

2 勉強する場所がない

3 パチンコ店建設予定

4 未成年の多さ

図書館を計画する背景・問題解決策

最初にパチンコ店を建設することに大きな疑問を抱いた。特にダメなわけでは、無いが場所に問題があった。建設するには、申し分ない広さの敷地だが周辺との関係性があまりよくないと感じた。敷地から離れた場所に教育機関が多くあることから未成年者が多くいると予想される。そのことから年齢制限がある建物をなぜ建てるのか疑問が生まれた。更に敷地と団地の距離は、近く遅くまで営業をしているパチンコ店だと利用者の声や扉があいたときに一瞬漏れる音がトラブルの火種になる可能性が高い。それなら教育にも優しい場所で特に敷地周辺に勉強できる場所がなく家庭の事情で静かに勉強できない人向けの場所さらに現在団地の高齢化が進んでいることで団地に暮らす多くのご高齢の方も老後の趣味として通える図書館を計画することにした。

２つの異なる人生

これから数年後に色んな不安や期待などを背負い社会に出て頑張っていく若者を第一の人生とし先に出て社会に貢献し、これから老後を過ごす予定の方を第二の人生に分けた。

第一の人生（将来の不安を無くす場）

敷地周辺には、多くの団地、マンション、一軒家が多く並びさらに学校が多くその為多くのファミリー層が住んでいる。今回の問題の一つ敷地周辺に学生が勉強できる場所が少ない事だ。遠く離れたマクドか快活クラブしか行くとこがなくどちらもお金がかかる。学校にも図書館は、あるがあまり勉強の参考になる本は、少ない。家庭の事情を抱える学生の為の勉強ができる図書館だけでなく純粋に本が好きな子の為の場所でもある。ただ純粋に本を読むため勉強するため以外にも利用できる場所にしたい。例えば世代間で交流できる場所を作り将来について不安な学生と多くの人生を過ごしてきた人との交流の場所を設ける。交流することで新しく見えてくるものが出てくる。自分の将来に不安を持つ学生が第一の人生をスタートできるきっかけ作りになってもらうための世代間での交流の場の計画を目指す。

第二の人生（孤独を埋める場）

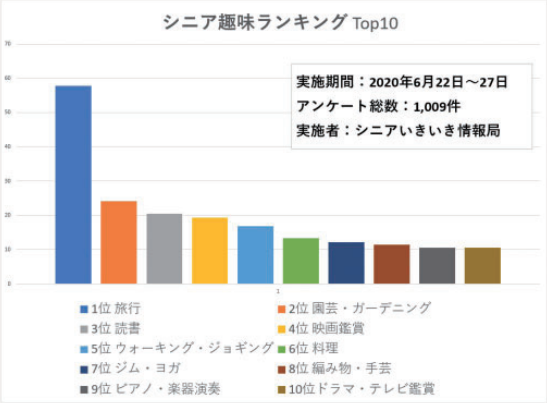
先ほどの話は、若者に対する考え方で今回の話は、高齢者について多く住んでいるのは、若者だけでなくお年寄りの方も多く住んでいる。都市再生機関が昭和 10 年頃にスタートしたプロジェクトの時に多くのサラリーマンが団地を購入しておりその時購入していたサラリーマンは、現在高齢者の枠に入っている。

敷地周辺に多くの団地が建つこの場所には、多くの高齢者の方も住んでいると思われる。定年を迎えると仕事を辞める人と仕事を続ける人そして新しく仕事を始める人で分かれる。そんな中定年退職した人達は、次の人生をスタートしようとしている。第二の人生では、趣味などを謳歌しようとする。そんな彼らの趣味は、様々だ。今回多くの趣味の中でランキング上位に食い込んでいる読書ができるスペースを設けよる事にした。他にも映画鑑賞ができる場所を３階にも設け。第

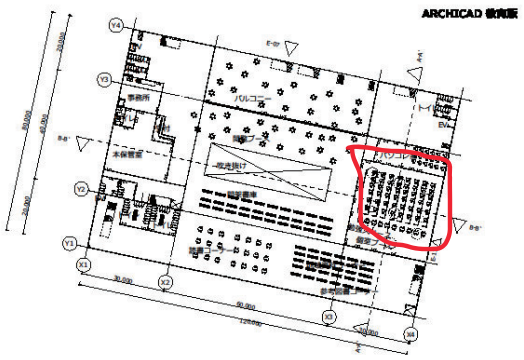
所在地：京都府宇治市大久保町田原
主な用途：図書館
敷地面積：20.546.18 ㎡
キーワード：学生・本・交流

Location : Tahara,okubocho,uji, Kyoto
Main Use : Library
Site Area : 20.546.18 ㎡
Keywords : student/Book/Alternating current

二の人生を謳歌できる為の場所を計画した。



現在人生をスタートしている人スタートする前の人が交流をすることができるスペースがある。読書スペースや視聴覚室では、ただ映画を本を見たり読んだりするだけでなく一緒に見ている人との交流ですでにスタートしている人から新たな趣味やおすすめの作品を話し合って今過ごしている趣味をさらに楽しく過ごしてもらえる交流が出来る。
勉強スペースもまた後ろの方に大きな机を置き年上の人から勉強を教えてもらい年下の子に勉強を教えて色んな交流が出来るし個室ブースでは壁の高さが低いので自然と周りの席に座っている人と目が合うようになっている。
様々なデザインで各部屋ごとに若者と高齢者それぞれがこれから歩む人生のスタートが出来る手助けになるような場所になっている。



２階平面図　赤で囲まれた場所が勉強スペース兼個室ブースになっている。

図書館内３つの用途

１つ目

趣味スペース

１階や２階、３階の様々な場所に読書できる場所がある静かな所から少し騒がしい場所がある。静かな所では、ゆっくり本が読め騒がしいところでは、気にせず本について他の方と離せるようになっている。３階には、視聴覚室がありそこで本から実写化した映画などが放映されている。気になった映画があれば下のフロアで本を借りれる。

２つ目

勉強スペース

２階と３階で１部屋ずつ配置されている。色んな事情で家の中で勉強できない人、皆で勉強したい人、などの受験生の為のスペース。２階は、１人での勉強場所になっていて３階では、友達と楽しく勉強することが出来る。

３つ目

交流スペース

１階にある部屋に地域住民同士の交流や同じ世代の交流や世代を超えた交流が行える場所がある。地域住民同士の交流や新しく利用する人との交流、同じ趣味を持つ者同士の交流が行え特に世代間交流が出来る狙いで計画をした。年齢が大きく離れた者同士の交流は、なかなかできるものでは、無いのでこの場所で貴重な体験になれたらと思う。

これら３つの用途が合わさって地元民や新規で利用する人がまた来たくなるような誰からにも愛された図書館の計画を目指した。

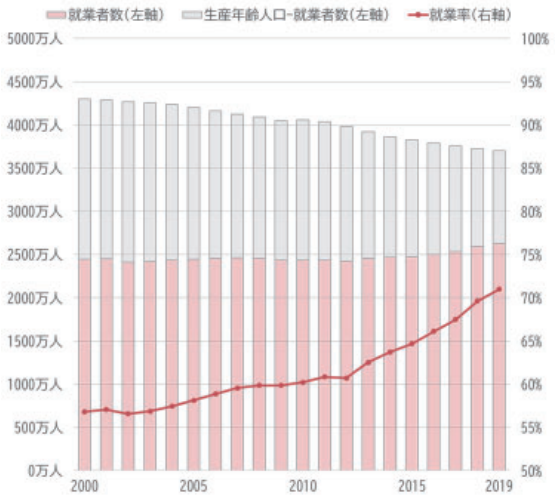
参考資料
団地が抱える問題資料
https://seniorlife-info.net/hobby-for-senior/ranking/
老後の趣味
https://www.osumai-soudan.jp/column/column1304.html
デザインノアイデア　安藤忠雄本の森
http://www.hetgallery.com/childrens-book-forest-nakanoshima.html

中之島保育作戦

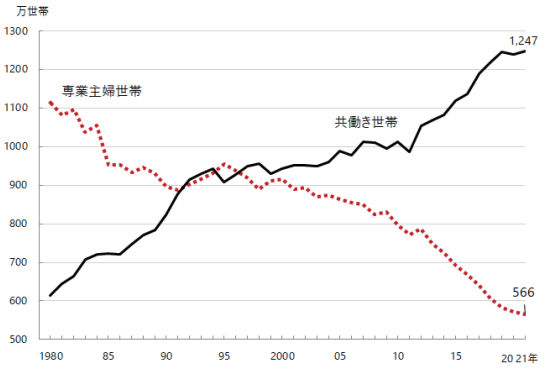
学籍番号　K19346
名　　前　松井　星
担当教員　小梶　吉隆

1. 計画の背景

女性の社会進出が進む現代社会では女性の就業率が年々増加の傾向にある。
それに伴い共働きを行う家庭も年々増加しており働きながら育児に追われる人や、仕事を理由に子供をなかなかもてない家庭が生まれている。
少子高齢化も進む中で、私は子供を持つことに対してもっと前向きでありたい、あってほしいと思った。
また世界的にみると日本は女性の働きやすさなどがまだまだ発展途上であり今後の未来のために私にできる提案はないかと考えた。



上図）女性の就業率と就業者数の推移



上図）専業主婦と共働きの推移

Nakanoshima Nursery Operation

Student Number K19346
Name　　Hikaru Matsui
Supervisor　　Yoshitaka Kokaji

2. 計画の目的

都心のオフィス街に共働きの家庭やシングルマザーなど、子供を育てながら働く人々の救いになるような施設の計画。
子供を通じて堅苦しい社会に風穴をあけ洪雨竜が生まれるような空間づくり。
高層ビルがひしめくオフィス街に都会のオアシスとなるような癒される空間の提供。
変わりゆく時代でこれからの新しい働きかたの提案。

3. 計画敷地

大阪府-淀屋橋


中之島

3. 選定理由

大阪のオフィス街として有名な中之島にアクセスが良く、調べたところ周辺の託児所が充実しておらず新しく創る価値があると思い淀屋橋にした。

4. 敷地の歴史

この土地は緒方洪庵が開いた適塾や重要文化財で日本最古の民間幼稚園である愛珠幼稚園があるなど学問の歴史が深くある。
そのような歴史ある土地でこれからの未来を担う子供たちを育んでいきたいと思いこの土地を選んだ。


愛珠幼稚園


適塾

所在地：大阪府大阪市中央区今橋３丁目」1-7
主な用途：託児所併設型コワーキングスペース
敷地面積：2866 ㎡
建築面積：1137 ㎡
延べ床面積：3221 ㎡
構造：鉄骨造
階数：地上５階
キーワード：託児所　オフィス　商業施設

Location：1-7,Imabasi,Tyuouku,Osaka
Main Use：Office
Site Area：2866 m²
Building Area：1137 ㎡
Total Floor Area：3221 ㎡
Structure：Steel Frame
Number of Floors：5 Floor above ground
Keywords：Office, Nursery, Commercial Facility

5. 計画趣旨

本計画において託児所併設型コワーキングスペースという形態を採用した理由を順に述べていく。まず託児所だが類似する施設として保育園や幼稚園などがあるが今回の計画の一つとして隣接する愛珠幼稚園の存在がある。

子供が本計画の託児所を利用しており成長していくなかで幼稚園への入園を考えたとき、愛珠幼稚園にスムーズに入園できるようにしたいと私は考えた。また託児所は保育園や幼稚園などに比べ営業形態の自由度が高く利用者の様々なライフスタイルに合わせることができるため託児所という形態を採用した。

次にコワーキングスペースだがオフィスではなくコワーキングスペースを採用したのか、従来のオフィスで毎朝決まった時間に出社し定時で帰るというものは誰かがそう定めただけのものにすぎず、子供がいたりするとそういった働き方が難しい人も多い。

そのような働き方はもう古いと私は考え、各々のライフスタイルに合わせた自由な働き方を当たり前にしていきたいと考えた。ならば従来のテナント型オフィスを計画するよりもコワーキングスペースという形を取ることで様々な人に利用してもらえ、尚且つ自由な働き方を提供できると考えた。

また託児所併設型コワーキングスペースに付随する施設としてフィットネスとスパを設けた理由としては継続して利用するのがなかなか難しいこの施設をコワーキングスペースに併設することで仕事の隙間や仕事終わりに利用しやすくしたいと考えたからである。また、継続的に通うことで休日にも利用する人が増えることで休日に閑散とするオフィス街を賑わせる一つの要因となればと考えた。

・配置計画

既存の通路を活かし通り抜けれるよう建物を配置することで様々な方向から敷地に出入りすることができ、また視線が反対道路まで抜けることで視覚的開放感が出るようにした。



6. 各施設概要

・託児所

まず、0 歳から小学生編入までの 6 歳を収容できる空間を完備し幅広い子供の預かりを可能にした。次に、都会の中で自然を感じながらのびのび動ける広場を設け子供がわくわくして過ごせるような空間をデザイン。様々な用途に対応した教室を設け簡単な教室を開けるように計画した。

・コワーキングスペース

まず、新しい働き方を提案するためそれぞれのフロアにコンセプトを設けたコンセプトオフィスを計画した。

高層ビルが立ち並ぶ都会に開放的で自然を感じられる空間をデザインしコロナ禍でリモートワークが増えた中オフィスで生まれるコミュニケーションを活性化させる。また、子供が視界に入る場面を設けることで疲れたときに子供から元気を貰えたり、新しい発想をもらえるきっかけとなる。

・フィットネス&スパ

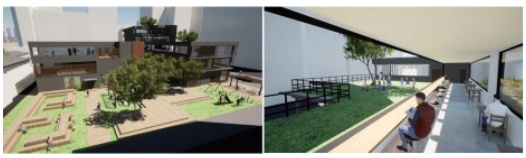
３F トレーニングルームにはトレーニング機材や様々な教室に利用できる他目的ホールを設けヨガ教室やスポーツ教室を開くことができる。

温浴施設では仕事の合間や仕事おわりに利用できサウナも完備している、日頃の疲れをリフレッシュすることが可能。

・外構

ウッドデッキと芝を細かく切り替え自然を感じられるデザインとした。また、通りかかった人が気軽に利用できるパブリックベンチを設け都会の寄りどころになるよう計画した。

託児所正面には遊具スペースを設け通りかかった家族や託児所の子供が遊ぶことができる。



画像引用元

https://www.jil.go.jp/kokunai/statistics/timeseries/html/g0212.html

https://www.farchi.jp/article.php?story=2021082411283051

https://osaka-info.jp/spot/nakanoshima/

https://www.transtructure.com/hrdata/20210525/

https://www.farchi.jp/

京都最古の国際ホテル
也阿弥ホテルの復元考察

学籍番号　K19347
名　　前　松尾　拓海
指導教員　井上　年和

也阿弥ホテル　安養寺　正阿弥
端之寮　也阿弥

1.研究の目的

京都最古の国際ホテルであった、也阿弥ホテルの生誕から終焉までを明らかにする。

2.也阿弥ホテルの概要

也阿弥ホテルは安養寺の元塔頭であった。明治時代風に改築した。安養寺は京都市東山区にある時宗の寺院で円山公園の北東隅に位置する。



（図 1）門から見た写真[注1)]



（図2）

3.研究方法

① 近世、近代にわたる古文書、古写真、新聞記事などが様々なとこに散逸していたのを多く、集めることが出来ました。

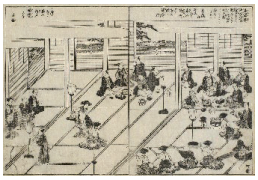
② 年代ごとに整理、分析を行い再現を試みる。

4.安養寺について

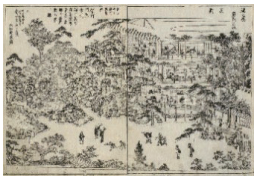
延暦年間（782 年 - 806 年）に最澄がこの真葛ヶ原の北東の地に、桓武天皇の勅命によって開山となり、建てられたと伝えられている。平安時代には荒廃していたが、付近の青蓮院に住んでいた天台宗の慈円（慈鎮和尚）の援助を受けた法然が承安５年（1175 年）にこの地に住み、吉水草庵を建てて浄土宗の教えを広め始めた。南北朝時代となり、時宗の国阿上人が永徳年間（1381 年 － 1383 年）に住職として入って以後は、時宗十二派の一つ、霊山派（現、国阿派）本山正法寺に属し、その末寺となった。

5.近世の也阿弥坊

時宗に改宗後には住持は代々「阿弥」号を名乗り、也阿弥、正阿弥など六つの塔頭すべてに「阿弥」が付いていた。勝興庵正阿弥，長寿庵左阿弥，花洛庵重阿弥，多福庵也阿弥，延寿庵連阿弥，多蔵庵源阿弥の６つがあり、「六阿弥」「円山の六坊」などと呼ばれた。江戸時代には、六阿弥それぞれが民衆へ席を貸す「貸座敷」を営み、その卓越した眺望と林泉美を背景に詩歌連俳、歌舞遊宴の名所地として知られた。



（図 3）多福菴也阿弥図絵（都林泉名所図絵）[注1)]



（図 4）瑞之寮（都林泉名所図絵）[注1)]

江戸時代末期の端之寮です。手前の建物から端之寮、也阿弥奥の建物が重阿弥となっている。図 21 に写っている建物と同じである。



（図 5）江戸時代末期の端之寮の絵図[注2)]

6.也阿弥ホテルの誕生から終焉

① 第１期

明治 12 年(1879)、長崎県出身のガイドであった、井上万吉が京都丸山公園内に也阿弥ホテルを開業した。このホテルは、丸山の安養寺の三坊（也阿弥、連阿弥、重阿弥）を買収して宿と料理屋を営み、とくに外国人用宿として海外でも評判をとった。



（図 6）明治 12 年（1879）以降の也阿弥ホテルの絵図[注1)]

② 第２期


（図 7）門から見た写真[注1)]


（図 8）西の遠方からの写真[注1)]

明治 19 年（1886）に増築し、日本座敷を洋室に改造したもので、室数が 40、各部屋の仕切りはドアではなくカーテンで仕切っていた。丸で囲っている二棟がこの時増築されたと考えられる。

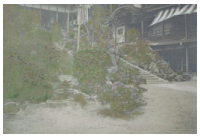
③　第 3 期


（図 9）東から撮った橋の写真[注3)]


（図 10）門からの写真[注1)]

二回目の増築で切妻の屋根の建物が建てられたと考えている。また、この時に橋ができており正阿弥とつながっている。手前の階段は吉水温泉に行くことが出来る。

④　第 4 期


（図 11）庭園の写真[注3)]


（図 12）西の遠方からの写真[注4)]

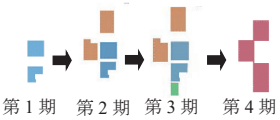
明治 32 年(1899)に焼失して同 34 年(1902) 4 月に再建しており、図 11 と図 12 から右の棟が四階建てになっていて真ん中の建物が三棟になっている。また、図 11 から右と真ん中の棟がつながっているので左の棟ともつながっていると考えられる。煙突ができ、少し洋風要素もあり今までと建築様式が変わっていることから、明治 32 年（1899）に起きた火災による焼失の後に建てられた建物と考えている。

⑤　終焉

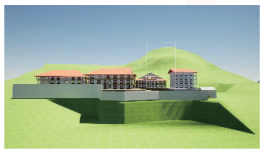
明治 39 年(1906)に再度火災にあっている。三棟とも全焼しており、正阿弥は橋を落としたため燃えなかった。
そのあと明治 43 年(1910)に廃業している。


（図 13）也阿弥ホテル焼失の絵図[注5)]

⑥　変遷を３Ｄに起こしたもの




（図 14）第 1 期　南西から


（図 15）第 3 期　西から


（図 16）第 2 期　南西から

7 現存遺構

これら塔頭も明治維新後の境内の官収や火災で姿を消したが、現在円山公園内にある料亭「左阿弥」、拝殿、庭園の一部は残っていた。



（図 17）左阿弥の写真


（図 18）庭園の一部


（図 19）拝殿の写真

8 結論

明治 12 年に井上万吉によって六阿弥の中の也阿弥、重阿弥、連阿弥の三塔頭を買収して開業した。そして、明治 19 年に北館と西館が増築され、明治 27 年に南館が増築された。明治 32 年に 1 度目の火事に会い焼失した。そして明治 34 年に再建された。この時に三棟の洋風の建物に変わった。そして明治 39 年に 2 度目の火災に会い焼失し、明治 41 年に閉業した。建物は多くの資料が残っていたので ArchiCAD で復元をすることが出来た。

9 参考文献・史料

注１）日文研データベース
注２）立命館大学アート・リサーチセンターARC 浮世絵ポータルデータベース
注３）長崎大学付属図書館
注４）京都百年パノラマ館
注５）日の出新聞
青羽古書店
放送大学
北山アーカイブス
『近世の京都円山時宗寺院における空間構成に関する研究』出村嘉史・川崎雅史・田中尚人
『名勝円山公園の成り立ちと現況』
歴彩館_安養寺関連行政文書

今熊野小学校防災まちづくり

学籍番号　K19348
名　　前　　松村夏実
指導教員　　生川教授

Disaster prevention community development at Imagumano Elementary School

Student Number　K19348
Name　Natsumi Matsumura
Supervisor　professor narukawa

1 研究の背景と目的

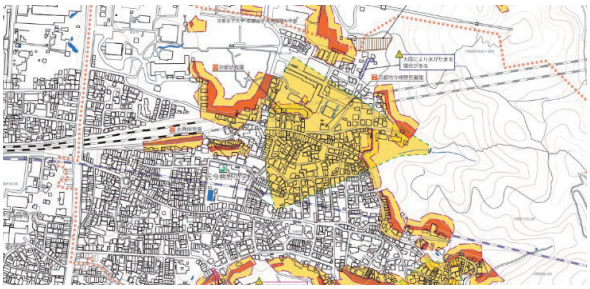
友人との会話の中で地元の小学校が多く統廃合されていることを知った。その出来事は私に廃校を身近に感じさせるもので、その後の校舎など跡地がどうなっているのか興味を持ったことから始まった。全国の小中学校の統廃合は毎年発生し、少子化や市町村合併の影響で進んだものと考えられる。その中でも京都市内は都市部の統廃合が目立つ。1970 年以降、私立校の新設や市内のドーナツ化現象、少子化の影響で進んでいる状況だ。京都市は地域の町衆を単位としつくられた番組小学校が古くからあることで、小学校というものはそこを核として集い・結束するものと認識されてきた。そのため小学校の存在は全国から比べて見てもより重要なものとなっている。

今回は廃校小学校の一つである元今熊野小学校を対象とし、地域の核となる小学校を失った今熊野に新しい核を。より安心で安全なまちづくりを進めているこの場に適した施設を目指す。

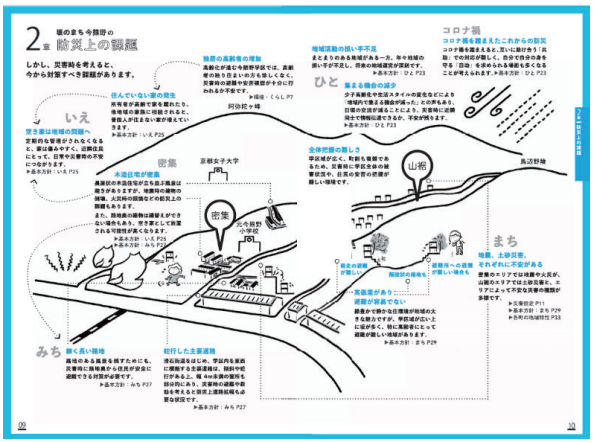
2 今熊野学区の現状

敷地周辺の今熊野学区は住宅街が広がっており、東山の傾斜地に位置している。そのこともあり、京都市の示すハザードマップには土砂災害の発生が想定される地域とされている。選定敷地は避難場所に指定され、災害時の拠点となるためオープンスペースの確保や多くの人を受け入れる体制が必要となる。

それを受け防災の観点から地域を知るために、今熊野学区防災まちづくりチームの作成する「今熊野学区防災まちづくり計画」を参考にした。自然豊かで静かな環境、50m 以上の高低差があり起伏に富んだ地形だ。陶業で栄えた地域のため多くの職人が住まいを求めた結果生まれた路地空間が多くある。普段魅力的なこの環境も、高齢化率の高い東山区にとって避難時に多くの問題を抱えることになる。



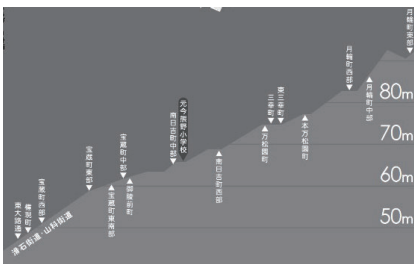
↑京都市ポータルサイトより　今熊野学区ハザードマップ



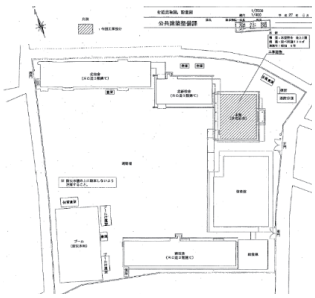
↑今熊野学区防災まちづくり計画より　防災上の課題

3 元今熊野小学校の現状

現在は敷地内に RC 造 3 階建ての北校舎・新北校舎、RC 造 2 階建ての南校舎、木造 2 階建ての本館、体育館、給食棟、プールその他附属倉庫が残っており、敷地内には消防団の今熊野分団が置かれている。2014 年に廃校以降、近隣学校の仮グラウンドとしてや今熊野学区運動会の会場、地域の方への体育館貸し出し、空き家等を扱い東山地域の活性化を目指している NPO 法人の活動拠点などで使われている。それぞれ永続的には使われる見込みはなく、RC 造校舎に関しては全く使われていない。避難所となりうる場として、日常的になじみのある空間であることは重要で、本来なじみのあった小学校という存在は今後地域から遠ざかっていくことが懸念される。



↑今熊野学区　地形断面



↑京都市より配置図面提供



↑今熊野小学校敷地東側より撮影

4 計画内容

これらの分析からそとの人だけでなく地域内の方も立ち寄り利用する体験・交流・宿泊ができる施設、ときに非常時には避難所として変容す

所在地：京都府京都市東山区今熊野南日吉町 27-3
主な用途：交流・宿泊施設
敷地面積：10023m^2
建築面積：6428m^2
延床面積：10000m^2
キーワード：コンバージョン・廃校校舎・防災

Location : 27-3.imagumano.minamihiyosityo-higasiyamaku-kyoto
Main Use : cultural exchange hotel
Site Area : 10023 m^2
Building Floor Area : 6428 m^2
Total Floor Area : 10000 m^2
Keywords : Conservation, closed school building, disaster prevention

る場所の提案をする。長く使われ親しまれてきた木造校舎を中心に体験空間、RC 造校舎を一部継承し可変性のある広いピロティ空間、ピロティ空間上階とその他新設宿泊施設で構成する。住宅街の中につくる施設ということで地域の生活から逸脱しないこと考慮する。

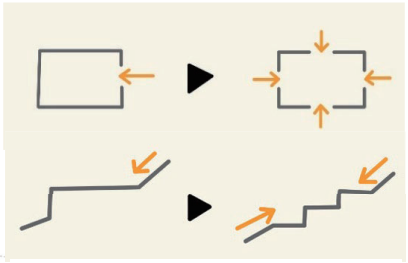
5 計画コンセプト

閑静な住宅街である今熊野地域になじむ「静かな休日」を楽しむ空間とする。体験空間では地域性と静かさを追求し陶芸体験・修行僧体験などを考える。具体的な利用について、敷地北側に保育園があることから補助グラウンドの役割や、周辺地域の学校の研修場所、地域の交流スペース的役割、地域外からの方の体験宿泊施設として考えている。ただし宿泊施設については一般的なホテル等よりルールを設けることを前提に計画展開する。

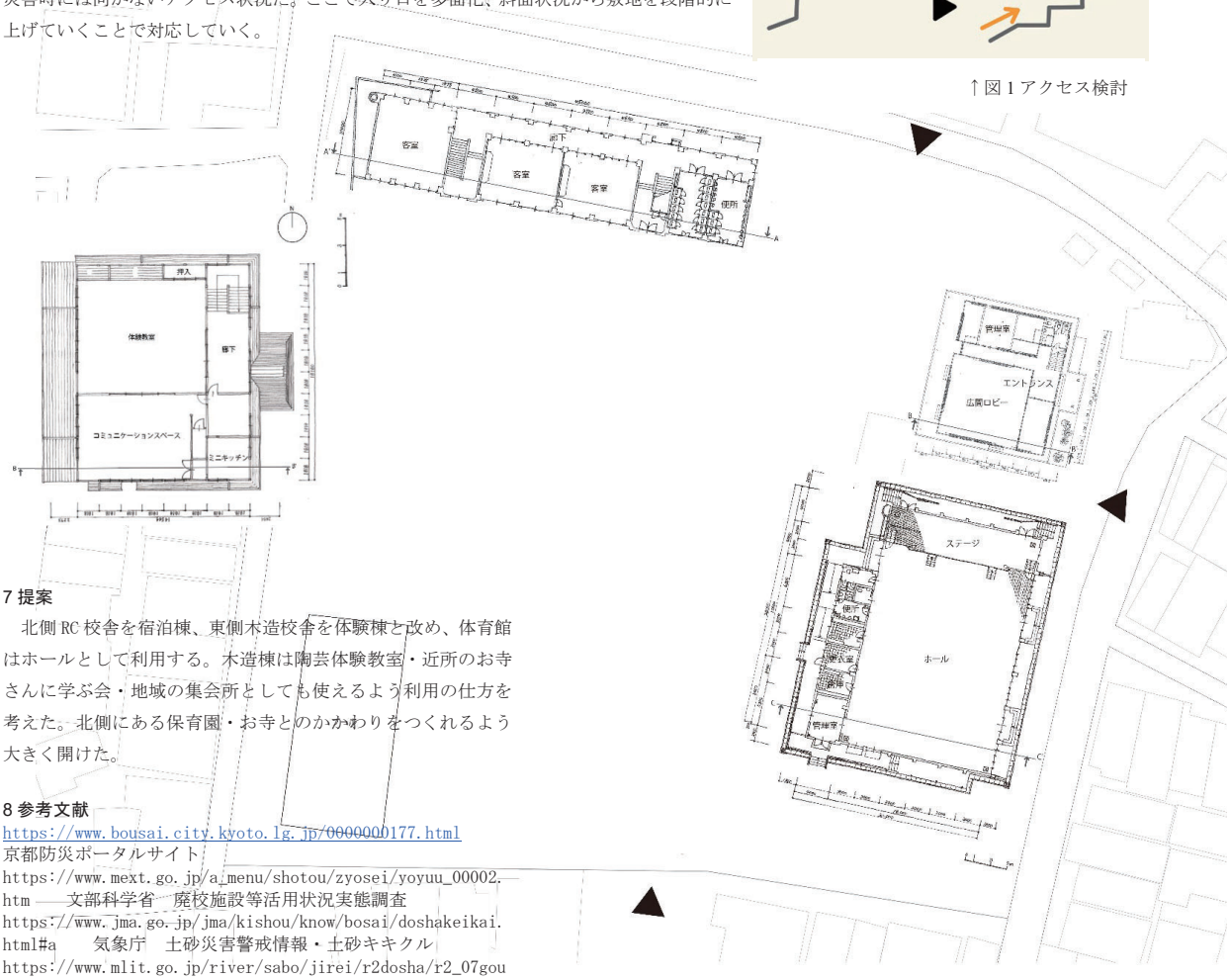
6 検討プロセス

6-1. アクセスについて

現在の入り口が東側の一か所であることから、閉鎖的な印象を受ける。実際に訪れると敷地東側は斜面の高地側に位置し、高齢者が多く細い路地ばかりの周辺状況を考えると特に災害時には向かないアクセス状況だ。ここで入り口を多面化、斜面状況から敷地を段階的に上げていくことで対応していく。



↑図 1 アクセス検討



7 提案

北側 RC 校舎を宿泊棟、東側木造校舎を体験棟と改め、体育館はホールとして利用する。木造棟は陶芸体験教室・近所のお寺さんに学ぶ会・地域の集会所としても使えるよう利用の仕方を考えた。北側にある保育園・お寺とのかかわりをつくれるよう大きく開けた。

8 参考文献

https://www.bousai.city.kyoto.lg.jp/0000000177.html
京都防災ポータルサイト
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyosei/yoyuu_00002.htm　文部科学省　廃校施設等活用状況実態調査
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/bosai/doshakeikai.html#a　気象庁　土砂災害警戒情報・土砂キキクル
https://www.mlit.go.jp/river/sabo/jirei/r2dosha/r2_07gou.html　国土交通省　令和２年７月豪雨による土砂災害発生状況
京都市都市計画局　公共建築企画課　公共施設設計図書提出
今熊野学区防災まちづくり計画　今熊野学区防災まちづくりチーム作成

重ね、重なり、連なり、紡ぐ

稲荷駅改善プロジェクト
学籍番号　K19350
名　　前　水元啓裕
指導教員　山内貴博

Layer, overlap, connect, spin.

Inari Station Improvement Project
Student Number　K19350
Name　Keisuke Mizumoto
Supervisor　Takahiro Yamauti

1 制作背景：稲荷

京都には寺社仏閣や庭園など伝統的建造物があり、多くの魅力を有しており学生の修学旅行地としても有名である。その中でも伏見稲荷は多くの観光客や学生などが訪れ賑わいを見せている。その裏でオーバーツーリズムと呼ばれる観光による地域への悪影響がありその問題は伏見稲荷でも確認される。

伏見稲荷大社は全国に 30,000 社ある稲荷信仰の社の総本山として約 1300 年前に作られたとされる場所であり、五穀豊穣や商売繁盛の神として庶民の信仰を多く集めるようになった。毎月一日に参拝する「一日参り」を遠方からされる方も多く、現代でも広く多くの信仰を集めている。その中でアメリカの旅行専門誌「トラベル・アンド・レジャー」の「世界最高の都市ランキング 2014」や「世界で最も文化的魅力の高い観光都市ランキング 2016」で京都市が 1 位[1]となり京都市全体が注目を集めるようになり、それと同時に日本の観光スポットランキングで上位に選出されるようになり国内外で注目を集めるようになった。

2 現状と課題

With コロナの現在は観光客が戻りつつあり、休日や祝日は参拝者が多く JR 稲荷駅のホームでは人が溢れ返り改札では列ができ、駅自体に多くの問題を抱えている状況である。

本町通では稲荷に参拝する方や地域住民の自動車が歩行者と密接する状況になり危険な状態にあると推察する。

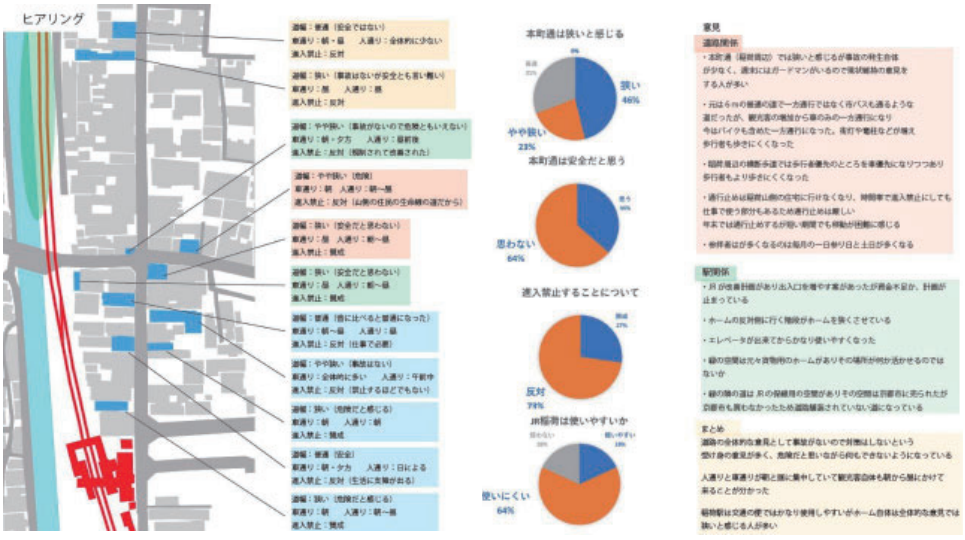


混雑する JR 稲荷駅

他に踏み切り付近では自動車と歩行者がさらに密接した状況になり、過去に自動車のミラーに観光客が接触し問題になったこともあり改善すべき問題であると考える。

3 ヒアリング

この問題は自分の主観が多く、地域で実際に発生している問題はどの部分なのか明確にわからない。対策や問題点など知らない部分を補うためにヒアリング調査を行い、解決方法を模索した。ヒアリングでは地域に寄り添った方を対象にするべきだと考え、伏見稲荷大社付近に店を構える方を対象にした。



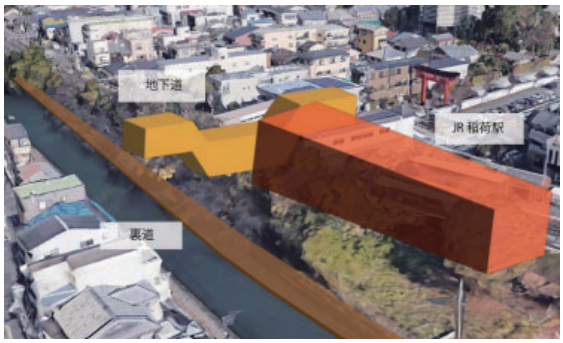
ヒアリング結果

所在地：　京都府京都市伏見区深草稲荷御前町
主な用途：駅舎
敷地面積：4500 ㎡
建築面積：3070 ㎡
延床面積：4770m²
キーワード：オーバーツーリズム、駅舎、道、駐車場

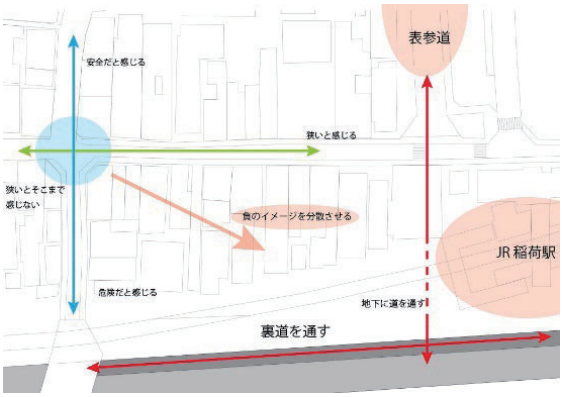
Location ： 612-0881 InariGozen-cho, Fukakusa, Fushimi-ku, Kyoto-shi, Kyoto-hu
Main Use : station building.
Site Area : 4500m²
Building Floor Area : 3070 m²
Total Floor Area : 4770 m²
Keywords : Over tourism、station building、road、parking

ヒアリングでは本町通の安全性や幅が適正かどうかなどを聞き、結果をまとめた。結果として幅は狭いと感じる方が多数（46%）で安全性に関して「安全ではないと感じる方（64%）」となり安全と答えた方は過去に大きな事故はなく、事故がないという部分で答えた部分が多く全体的に危険だということが分かった。次に自動車の排除を検討し時間帯を区切り本町通の通行止めを考えたが、反対（73%）の意見を受け、その理由として地域の高齢化に伴う移動手段が自動車に大きく依存している部分があることや「稲荷山の住民は本町通を通らなければ外に出られない」という意見をいただき稲荷の通行止めはしないような提案をするべきだと考えた。他には JR 稲荷駅の使いやすさについての質問では使いにくい（64%）という意見が多く、質問を開く中で過去に JR 稲荷駅の改善計画があり稲荷駅裏の土地を買収していたことがあったが他の駅の計画が発案され、後回しにされたという話があり JR 稲荷自体問題があると感じているということが分かった。

ヒアリングを進める中で様々な情報をいただき、歩行者優先であるはずの横断歩道では自動車の交通量が多くなったために歩行者が渡りらくなり今では自動車優先になっていることや踏切付近の土地に倉庫用の駅があってその倉庫の土地は稲荷小学校に変わった話などがあり活かせるのではないかと感じた。



位置関係



ダイアグラム

４. ヒアリングから見る解決案

4. 1 道

通行止めはヒアリングの結果からしないように考えた時、新たな選択肢として稲荷駅裏に一本の道を通し人の分散をしようと考えた。本町通は安全に歩けるように歩道の拡幅とデザインを行う。

稲荷大社を参拝する方が無料で使用できる駐車場があるためその駐車場を有料化し、少し離れた第二駐車場を無料開放し交通量の改善を図る。第一駐車場の一部をタクシーロータリーにし、路上駐車を減らすようにする。



配置図

4. 2 駅舎

駅舎は人の流れの中心になるようにし、ダイアグラムから交通の改善にも関わるように設計する。ホームや改札を増やし駅自体の問題解決につながる提案をする。さらに駅南側の広場とし観光客の休憩に利用できる場所とする

参考資料
[1] 高坂晶子「オーバーツーリズム　観光に消費されないまちづくり」学芸出版　2020 年 3 月

ミルミルコフン
—塔の林立による新たな古墳の風景—

学籍番号　k19353
名　前　宮林 智佐
指導教員　人見 将敏

New scenery of ancient tomb by building

Student Number k19353
Name Chisa Miyabayashi
Supervisor Masatoshi Hitomi

制作目的と背景

私の住んでいる堺市は、歴史や伝統産業など様々な魅力がある。しかし、大阪府に年間約１億６０００万人の観光客が訪れている。そのうち、堺市に訪れる観光客は１０００万人だけである。堺市には、２０１９年に世界遺産に登録された百舌鳥古墳群がある。古墳は、堺市だけではなく日本の魅力のひとつだ。そこで古墳に注目し、地元の人と観光客の両社が楽しめるような計画をする。



計画敷地

計画の対象敷地（図 1）は堺市内の東西・南北約４キロメートルの範囲に広がる古墳群エリアである。古墳の周りは、低層の住宅が多い。古墳を歩行者の目線から見ると、その存在は分かりづらい。観光客は古墳の形を見ることができない。この百舌鳥古墳群に含まれている仁徳天皇陵古墳は、堺市の中で一番観光客が訪れており、JR の百舌鳥駅の横にあり利便性が高い。また、この百舌鳥駅は関西空港と大阪市の間にあるため、大阪市へ行く人が寄り道などで気軽に立ち寄ることができる。古墳の周りも地元の人が散歩したりランニングしたりなど多く利用されている。このエリアには、昔ながらの喫茶店やレストラン、堺市博物館や日本庭園など, 多くの施設がある。



計画内容

古墳の前方後円の形が見えるような展望台の役割を持つ塔を提案する。

また、この塔を百舌鳥古墳群エリアに林立させる。そうすることで、多くの古墳を見ることができ、各々の古墳周辺で生活している人たちにも多く塔を利用してもらえると考える。



① 樹を植える

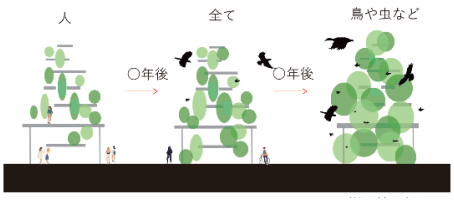
古墳の特徴である樹を塔に植えることで、街をさらに緑化し、この街を自然豊かな街にする。

② 古墳に似せる

古墳のように時間による緑のデザインを塔にも取り入れる。

古墳が建てられた当初は、土盛りの上に石を敷き詰めた状態だった。そこから、墳丘の上に人々が多くの木を植え、長い時間をかけ、古墳は森のような姿に成長した。塔にも木を植えることで、成長し続ける。

また、古墳群は幾何学的な形の古墳が散りばめられている。同じ形の塔をこの百舌鳥古墳群エリアに散りばめる。



③ 塔を利用する動物の変化

塔には、多くの樹が植えられている。そのため、年数がたつにつれ樹が成長し自然があふれる。自然豊かな場所を求めて鳥や虫などが訪れると考える。さらに、年数がたち、自然があふれだすと塔が森となり、鳥や虫たちだけの居場所ができる。

所在地：〒592-0035　大阪府堺市堺区大仙町
主な用途：展望台
敷地面積：8801828.54 ㎡
建築面積：716.04 ㎡
延床面積：1505.2 ㎡
キーワード：自然、景観

Location : 590-0035,Daisen,Sakai-ku,Sakai-city,Osaka
Main Use : Observatory
Site Area : 8801828.54 ㎡
Building Floor Area : 716.04 ㎡
Total Floor Area : 1505.02 ㎡
Keywords : Nature、Scenry

④　新しい用途を作らない

このエリアは、多くの用途の施設がある。そのため、新しい施設を作るのではなく、今ある施設を塔の下部に移設する。また、用途を作らないことで、塔でできることが増えると考える。犬の散歩やランニングの寄り道、周辺学校の発表会や展示会、教室など地元のコミュニティを行う場所として利用できる。

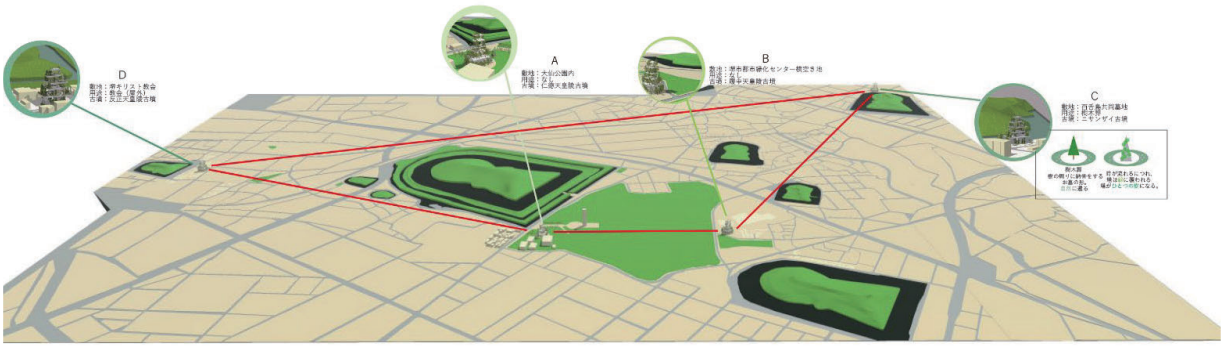


⑤　選定施設

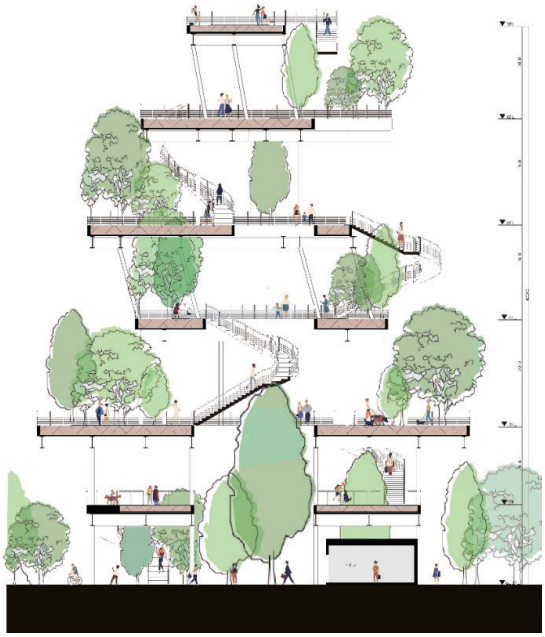
百舌鳥古墳群エリアに４つの塔を建てる。

それぞれ、空き地やお墓キリスト教など古墳の要素に寄せ目的がなくても入れる場所を選んだ。また、全ての塔は各々の古墳に近い場所に配置し塔を上って上から古墳をみたり、古墳の近くまで行ったりできる。





⑥　樹のようなデザイン



塔をテーマの樹のようにデザインした。

各フロアを不規則に配置し、樹の不規則な葉のつき方や成長の仕方をイメージした。また、すべての階段が樹をかこっており、上りながら自然を感じることができる。

フロアの四角と階段の円で古墳の特徴的な形である前方後円の形を表している。

おいしく豊かに生きること

~「食」をコンセプトに「食に関わる人々」のコレクティブハウス~

学籍番号　K19355
名　　前　村田恵未
指導教員　森重幸子

deliciouslife

Student Number　K19355
Name　　MURATA Emi
Supervisor　　MORISHIGE Sachiko

1.計画概要

生きるために最も必要不可欠な「食」を介し、交流することのできるコレクティブハウスを提案する。コレクティブハウスとは北欧発祥の多世帯居住が基本となる住まい方で、それぞれが独立した専用の住居とみんなで使用するいくつかの共有スペースを持ち、生活の一部を共同化する合理的な住まいのことである。コレクティブハウスの中心は住民で机を囲んでご飯を食べるイベント＝コモンミールがある。この特徴を活かし設計を行い、「食」を介して交流するだけではなく地域に開く集合住宅の設計を行う。

2.制作目的

コロナ禍によって人との関わりが見直されていく中、人々の信頼関係や結びつき（社会関係資本）はやはり重要である。その信頼関係や結びつきを円滑にするのが「食」である。「食」を通じた「食で繋がる素朴な関係」をコレクティブハウスで提案する。

コレクティブハウスは共働きが基本となった北欧発祥の住まい方である。近年の日本では共働き世帯が増加傾向にあり、家事をすることが負担となっているケースがある。生活の一部を共同化するキッチンとダイニングを中心とした住まいを提案することで、料理をすることや、誰かが作ったご飯をみんなで食べることができ、人間が人間らしくいられる行為を促す。そこから人々の信頼関係や結びつき（社会関係資本）が結びつくきっかけにもなる。その信頼関係や結びつきを円滑にするのが「食」である。

3.敷地選定

一乗寺公園の一角を対象敷地とする。周辺には叡山電鉄叡山本線
一乗寺駅、修学院中学校、一乗寺保育園などがある。
京都工芸繊維大学、京都芸術大学、京都大学などの大学施設に囲まれていて、
書店や雑貨屋など文化施設と飲食店が点在しています。
京都市内であるため比較的に住みやすくいろんな世帯が集まる場所である。
敷地周辺には飲食店があり、食にこだわりを持つ人、
食に興味を持つ人が集まる場所である。



図 1.対象敷地周辺の地図

4.プログラム

4-1. 外に開くコレクティブハウス

対象敷地は公園としての用途はそのまま残し、周辺住民が敷地に出入りしやすい環境をつくる。それによって、住民同士だけでなく外に開いて交流することができる機会をつくる。その他、マルシェを敷地内の広場で行うことを視野に置いた計画をすることによって住民×住民、周辺住民×住民、食のプロ×住民　様々な組み合わせでスパイスのある日常をつくり出していく。

4-2. 食で繋がる人々

住民はコレクティブハウス特有の「コモンミール」によって「食」を介して交流する他、食のプロ（敷地にお店を持っている人）と交流する。

4-3 二段階のキッチンアクセス

コモンダイニングを通って住戸に入る、住戸内ではキッチンダニングから部屋に入ることで、「食を介して交流する」ことを促しさらに「みんなでたべるご飯」が日常にある生活を実現させる。コモンダイニング、キッチンダイニングは食べ物を食べる・作る行為があふれ出すようなプラン。

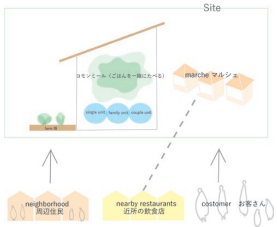


図 2.　プログラムの図

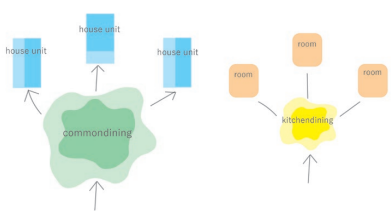
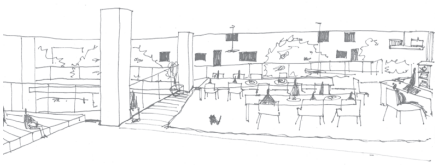


図 3.キッチンアクセス



コモンキッチン・ダイニング内観パース

所在地：京都府京都市左京区一乗寺御祭田町
主な用途：集合住宅
敷地面積：5567m^2
建築面積：1171m^2
延床面積：1208m^2
キーワード：集合住宅・コレクティブハウス・食

Location :　gosaidentyou,itijyouji,sakyouku,kyoto
Main Use : collective house,
Site Area : 5567m^2
Building Floor Area : 1171 m^2
Total Floor Area : 1208m^2
Keywords : condominium, collective house, food

4-4. 4 つのコモンキッチン

コモンキッチンにそれぞれ特徴をつけ、住民がどこを使っても楽しめるようにした。

図、住戸の色分けでのように日常的に使う場合、住民は決まったコモンキッチン・ダイニングを使う。

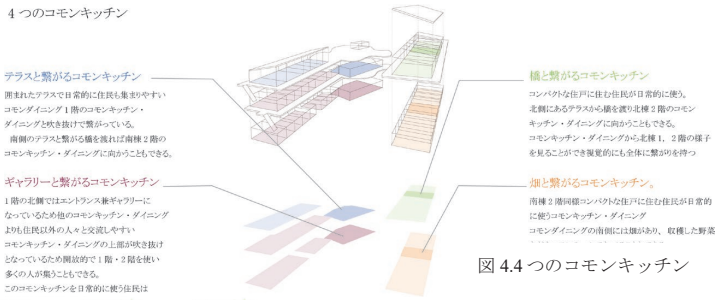


図 4.4 つのコモンキッチン

4-5 住戸詳細

北棟店舗兼住戸プラン

生活しながら小さなお店を営む想定の店舗兼住戸は北が、お客さんの入り口になっていて、椅子を置いたり看板をおいたりできるピロティになっている。中に入ると通り抜けできる土間になっていて、店舗部分を大きく使ったりすることもできる。

南棟住戸プラン

土間は横長のものと縦長のもの 2 種類を計画。住戸の南側には畑を計画し食材をそのまま料理に使うことを想定した。


1 階平面図住戸詳細　北棟店舗兼住戸プラン


1 階平面図住戸詳細　南棟住戸プラン



修学院中学校からの動線をつくり敷地内をオープンな場所とする。
北東側は景観を邪魔しないようにするため、2 階建てにし、西側の広場からも比叡山が見えるよう計画。
北東方向に切った断面


叡山電鉄から敷地内をみた模型写真


北東からみた模型写真


東側から広場を見た模型写真

歴史的建造物における鏡の研究

学籍番号　K19356
名　　前　森　理咲子
指導教員　大上直樹　特任教授

歴史的建造物　鏡　日光
宗教　三千大千世界　光背

研究目的

歴史的建造物の天井などに、鏡が設置されていることがある。この鏡について研究されていることが少なく設置されている理由も明らかにされていない。

なので、時代背景や宗教、鏡の役割を踏まえた上で２D パースなどを使い研究を行うものである。

1　鏡の配置

1-1　平等院鳳凰堂

鏡の配置と数は、身舎天井見上げ図（図 1）の赤い部分 36 枚と黄色部分の 30 枚の計 66 枚だ

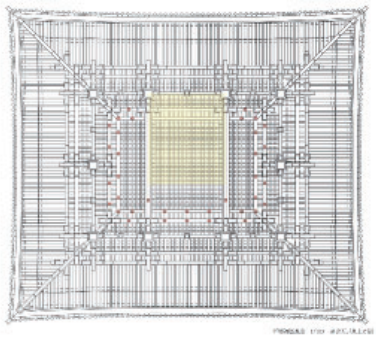


図 1

1-２　三十三間堂

鏡の配置は、南北側の天井見上げ図（図２・図３）と中央天井見上げ図（図 4）に赤い印を付けている場所で、梁の部分にある。目視できた鏡の数は約 136 個だった。

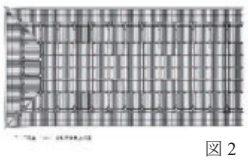


図 2

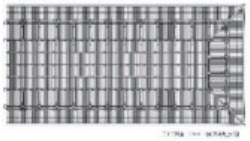


図 3

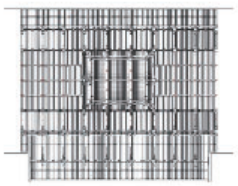


図 4

・研究方法

三つの検討から考察する。

一つ目は、宗教や鏡の本体の意味からの検討

時代にあった宗教と鏡についての比較検討をしていき、歴史的建造物の建てられた年代とその年代の時代背景や信仰されている宗教と照らし合わせ鏡そのものの意味と役割の仮設をたて検討する。

二つ目は、光源設定での検討

平等院鳳凰堂の３D データを使い、光源を設定し鏡にどのように作用するか検討する。

三つ目は、2 次元図面による日光の反射との関係性の検討

軒先や夏至冬至など基準に様々な検討をする。

三十三間堂には千手観音像坐像や 1001 体の千手千手観音像がおり、平等院鳳凰堂は阿弥陀如来坐像がいらっしゃる。千手千手観音は一つずつ鏡をもっていてその鏡や天蓋などとの反射の関係などの検討も行う。

2　考察

2-1　宗教や魔除けとしての鏡の考察

宗教面での仮説は成り立つ。ただ、建築面においては、荘厳具としての役割を証明しようがない。そのため、宗教としての鏡は証明ができず仮説の域を出ない。

魔除けの効果は、そもそも三十三間堂や平等院鳳凰堂の宗派の考え方「すべての人は仏になれる。」や「唱えれば人は救われる。」、極楽浄土などに添えていないのではないかと考えられる。

結果、面白い説だと考えたが様々な疑問が残る。そのため、完全に否定はできないがあまり成り立たない説だろう。

2-2　平等院鳳凰堂における光源設定での考察

太陽の光がある日の光源と月明りの光がある日の光源で、どのように高灯台（平安時代の光源）の光が鏡に作用するか光源設定をして検討を行う。

平等院鳳凰堂に参拝をした際、阿弥陀如来坐像の前に 2 本の蠟燭が置かれていた。なので、置かれていた高灯台（光源）は 2 本と仮定し設定した。


図５　平等院鳳凰堂

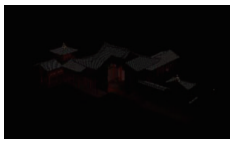


図６　平等院鳳凰堂

太陽のある日は、快晴で東南から日が当たる前提として午前の明るさと設定した。高灯台（光源）は、光が弱く太陽の光の方が強いため３Ｄデータでは観測できない。（図５）

月明りのある日は、快晴の満月の日（0.251x）の明るさに設定した。高灯台は、月明りには負けないが暗く、日の灯っている周りや手元しか見えないと考察できる。（図６）

結果、高灯台は蝋燭と同じく明るさが手元を明るくする程度であるため作用しないと考えられる。

２−３　２次元図面による日光の反射との関係性の考察

前提　夏至冬至、軒下基準の考察

・初めに、三十三間堂　桁行断面図（図７）と平等院鳳凰堂　縦断面図（図８）で夏至と冬至の間の 12：00 の角度かつ軒先を基準に考え鏡に反射する角度を逆算し、検討した。

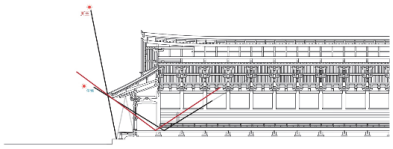


図７　三十三間堂　桁行断面図

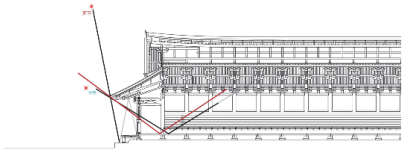


図８　平等院鳳凰堂　縦断面図

夏至と冬至の間の 12：00 の角度かつ軒先を基準にしたとき、平等院鳳凰堂は天井の鏡に反射する角度が多々見受けられる。

鏡に当たった光は阿弥陀如来坐像に向かって反射しているものもある。天井の中心、黄色に色づけた部分には天蓋がありその中央には鏡があるためその鏡に反射する角度も見受けられる。三十三間堂は日の光は入るが床に反射したとしても鏡のある所には反射しなかった

・次に、床を反射した光は天井の鏡に反射し仏像や光背に当たることが分かった。仏像に当たった光は、仏像が持っている鏡や光背などに反射すると仮定し検討を行う

結果、三十三間堂の中央梁行断面図（図 9）は千手観音座像の光背に反射すると参拝者が通る通路に反射する。ということは、西からの光ということになり阿弥陀如来がいるといわれている尊い方向からの光を浴びることとなる。

梁行断面図（図 10）は、軒先を基準にした鏡の反射になると中央梁行断面図のように参拝者の通る通路に光が反射することはない。だが、軒先を基準にせず鏡から逆算すれば比較的どの角度でも午前の時間帯であれば鏡に反射光は当たる可能性は高いため参加者が通る通路に反射する光も多くあるだろう。

平等院鳳凰堂の横断面図（図 17）では反射した鏡は、阿弥陀如来坐像の光背に向かって反射する。その光背は、隙間が空いており木漏れ日のような光の洩れ方をするのではないだろうか。

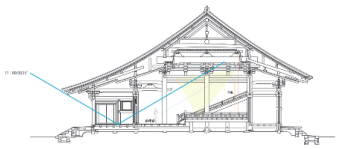


図 9
三十三間堂
中央梁行断面図

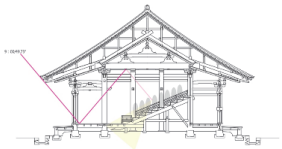


図 10
三十三間堂
梁行断面図

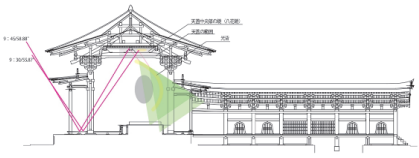


図 11
平等院鳳凰堂
横断面図

３　結論

天井につけられた鏡の意図は、「太陽の光が床に反射した際に天井に鏡がないと最後の検証など成り立たなかった現象であるため光の反射のために設置した。」だと結論をだした。

2 次元図面における太陽の反射の検討により時間や窓、ドアの開き方、仏像の配置によっては、図面通りにいかないこともあるだろう。だが、現時点で反射が一番関係している可能性が高いためである。

今回の論文では、軒先と夏至冬至を基準とし検討を行った。だが、違う基準で検討すれば違う結果が出る可能性もある。鏡のことを調べていく中で、いろいろな昔の鏡を見た背面に綺麗な文様があるものが多く、様々な興味がわいた。今後個人的に鏡について調べていこうと思う。

参考文献・サイト

日本人と鏡 / 菅谷文則　著
鳳翔学叢５ 平等院鳳凰堂天井の伏花鏡 / 久保智康　著
宗教における鏡−日本の鏡を事例として− / 井手直人　著

生身天満宮拝殿の改修履歴

学籍番号　K19357
名　　前　森居優太
指導教員　井上年和

伝統建築　生身天満宮　拝殿
復元　記録　3D

1. はじめに

本研究では生身天満宮拝殿の改修履歴を記録し再建当初の姿を明らかにすることを目的とする。

2-1. 生身天満宮ついて

生身天満宮は京都府南丹市園部町にある。日本最古の天満宮で本殿、回廊１棟、制札が京都府指定文化財に、拝殿、秋葉社が京都登録文化財に指定されている。

この天満宮は延喜元年に菅原道真が生きている間に生祠として祭祀したことから、日本最古の天満宮と言われている。菅原道真の没後、勅諚をきっかけに霊廟を神社と改め祭祀を務める。神社が竣工し正遷宮の式を斎行した時、天暦９年９月７日であったため、天満宮の例祭日と定めた。現在は 10 月第３日曜日に斎行している。（表）

延喜元年に生祠を奉斎してから 25 年ごとにし記念大祭を斎行し、次は令和 9 年に 1125 年記念大祭を控えている。

表　生身天満宮の歴史

創建	延喜元年(901)		武部源蔵日ら、菅原道真の御木像を刻み、生祠を建てて奉遷したのを創祀としている
	延喜３年(903)	2月25日	菅原道真が太宰府で薨じられたため、この生祠を霊廟と改めた
	天暦元年(947)		京都北野の右近の馬場に尊霊を鎮祭している
(徳川時代)	天暦９年(956)	9月7日	かねての霊廟を神社と改め祭祀を務める。神殿が施工して正遷宮の式を斎行した
			現在では２５年に１度、10月第3日曜日に例祭を斎行している
	元和5年(1619)		小出吉親が但馬の出石より社を園部に移され、小麦山に鎮座することとなった
	承応2年(1653)		小麦山に祭られていた生身天満宮は現在地の天神山に遷座された
	天保2年(1831)		天満宮拝殿　建立
	明治６年(1873)	6月	郷社に列する
	明治中期		式年大祭前の天満宮修繕工事
	大正８年(1919)	12月8日	府社に昇格する
	昭和21年(1946)		新憲法制定に伴い社格が廃止され、国家の管理から離れた
	平成11年(1999)		式年大祭（平成14年）前の天満宮修繕工事

2-2. 生身天満宮 拝殿ついて　（写真１）

拝殿は天保 2 年に今の位置に再建され、現在に至るまで 2 回以上の改修が行われた。現在、京都府文化財技術者指導の下で、屋根の葺き替えと部分修理が行われている。



写真１　生身天満宮

3. 調査・復元方法

絵図による資料調査と改修工事への現地調査を行い、現状図面を作成し痕跡調査・史料調査等を元に復元図を作成、そこから 3D モデルの作成をする。

4. 復元考察

野小舞に丸釘と角釘、それぞれの釘穴があったことから、拝殿の屋根の変遷として再建当時から少なくとも 2 度の改修があったことが分かり、そのどちらかで今の桟瓦葺きへと変わったことが分かった。野小舞に残されていたこけら板と嘉衛 5 年の生身天満宮社頭図から変わる前はこけら葺きであったことが推測される。

5. 解体調査

①実地調査の中で釘の種類と釘穴の数、建材の状態からこれまで少なくとも 2 度の改修があったことが分かった。

再建当初：赤
１回目:青
２回目:緑(図１)

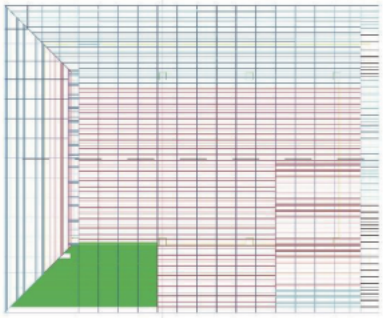


図１　年代別野小舞伏図

②野小舞に全部で 9 枚のこけら板が貼られているのが見つかった。（写真２）

③破風板の一部が瓦に埋まっていた。（写真３）

6. 組み立て調査

① 破風板の勾配が瓦屋根としては急であるのが分かった。（写真４）

② 袖丸瓦が中腹では平らになっている。（写真 4）



写真４　破風板と野地板



写真５　袖丸瓦



写真２　こけら板



写真３　破風板

Renovation history of Ikimi Tenmangu Shrine worship hall　　Yuta Morii, Toshikazu Inoue

7. 史料調査

① 嘉衛５年の生身天満宮社頭図ではこけら葺きか檜皮葺きの屋根で描かれている(図２)

② 明治２８年園部天満宮全景図では瓦葺きで描かれている。(図 3)



図２ 嘉衛５年
生身天満宮社頭図



図３ 明治 28 年
園部天満宮全景図

8. 工事過程

野小舞が全面野地板に替わり、瓦は状態を見て南側と西側に再用し東側は新しい瓦を使用している。



写真４　２月 瓦の解体



写真５　６月 裏甲の改修



写真６　８月 野垂木の改修



写真７　９月 野地板の張りつけ



写真８　１０月 瓦葺き



写真９　１０月 床の部分修理

9. まとめ

生身天満宮は菅原道真を慕う人々の想いによって建てられた日本最古の天満宮として貴重な歴史を持ち、拝殿には、明治中期頃に構造はそのまま屋根葺きが変わった１つの事例として履歴を明らかにし残すことで、文化財の保存方法の資料として生かされることもあるだろう。

11. 現状図・比較モデル

先輩方や丸野君が作成した図面をもとに３ｄモデルを作成した。

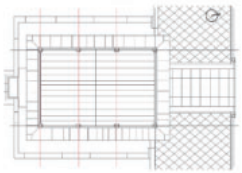


図１３　平面図

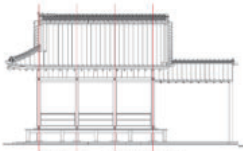


図１４　東立面図



図１１北立面図

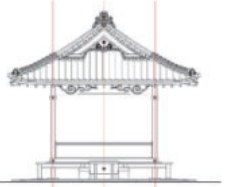


図１２　南立面図

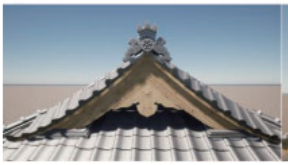


図４　修理前　南より



図４　修理前　北より



図４　修理後　南より



図４　修理後　北より



図４　修理前模型　南東より



図５　修理後模型　南東より

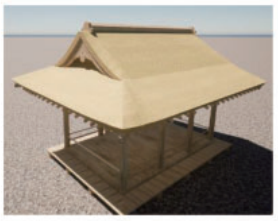


図７　復元模型　南東より



図８　現状軸組　南東より

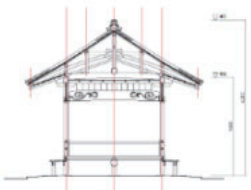


図９　梁行断面図

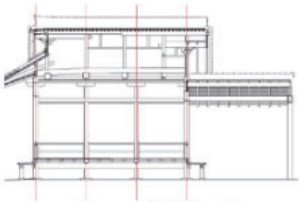


図１０　桁行断面図

近づく自然

～猪名川が生み出す生活の一部～

学籍番号 k19358
名　　前　森本安海
指導教員　安田光男

Approaching Nature

~A part of life created by Inagawa~

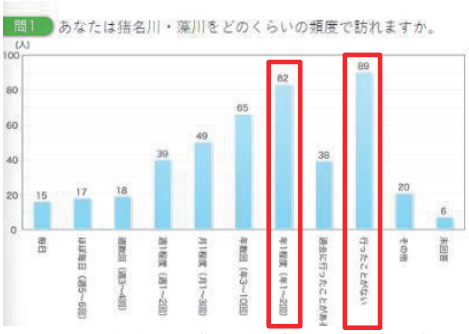
Student Number k19358
Name Morimoto Ami
Supervisor Yasuda Teruo

計画背景・目的

兵庫県川西市を流れる川の 1 つに猪名川がある。

【猪名川について】

猪名川は兵庫県と大阪府の府県境付近を流れる淀川系の一級河川。
過去に廃水、廃液が原因で水質調査の結果全国ワースト 5 位に入った。
しかし、令和 2 年には住民や国土交通省猪名川河川事務所による清掃活動により、過去 10 年間で水質を大きく改善した河川に 3 年連続全国 1 位に選ばれた。
その後水質は綺麗になってきたが、昔は多く見られていた釣り人や川で遊ぶ子供達の姿はあまり見かけなくなり、護岸工事が進むに連れ猪名川を訪れる人も減ってきている。（図 1）



（図 1）引用：猪名川河川事務所によるアンケート結果

生活のすぐそばにある自然と触れ合う環境も減少し、近づきにくい存在になっている猪名川。

猪名川の現状と過去を踏まえ、川西市のシビックプライドとして猪名川の水や地域の自然と近い距離で触れ合うことで地域住民が川に対して意識、興味を持ち、川も人の心も綺麗に今後も水質を維持していくきっかけづくりになる施設を提案する。

計画敷地

敷地場所は猪名川と国道 173 号線が交わる谷の兵庫県川西市多田桜木である。（図 2）
川西市の住民が大阪方面へ向かう際に利用する主要道路は「国道 173 号線」と「川西篠山線」の 2 つがある。
計画敷地を通る国道 173 号線を利用する川西市人口はおおよそ 4 万人。
大阪府との境目付近である為終日交通量が多く、能勢電鉄や阪急バスも通る為交通の便も良い。
また、周辺には住宅街やショッピングモール、店舗も多い為散歩やランニングをしている人も多く見受けられる。

これらのことから、道路を利用していても視界に入り、散歩途中に立ち寄りやすい為多くの住民に影響を与えやすい場所だと考える。



図 2：川西市の地図



図 3：元ある通路と岩の様子



図 4：元ある西側通路の様子

計画内容

公園と商業施設を掛け合わせ、どこにいても川の水や緑の樹木と触れ合える施設を提案する。

どこにいても川の水を感じる計画は、猪名川の水をポンプアップで引き貯水タンクに溜め、そこから建物、敷地を流れ、最終的にもう一度川に戻す。（図 5）　建物、敷地内を流れた水をもう一度猪名川へ戻す際、ゴミ等障害物を取り除く為細い隙間や水草（猪名川周辺に生息しているセキショウを利用）を通過させる。（図 6）
南にある銀橋、東にある国道 173 号線から見える位置に滝を計画することで人々を引き付けるだけでなく、車等の騒音を消す効果を狙っている。
水を人々の近くに流すことで近年近づきにくい存在となっていた猪名川を近くで感じ、子供達も安心して遊べる空間を計画する。また、高低差

所在地：兵庫県川西市多田桜木 1 丁目 1-1
主な用途：公園、店舗
敷地面積：9,898.70m^2
建築面積：4,842.51m^2
延床面積：15,783.34m^2
キーワード：親水空間・未来・自然

Location : 1-1-1,Tadasakuragi,Kawanisi-si,Hyogo
Main Use : Park, Store
Site Area : 9,898.70 m^2
Building Floor Area : 4,842.51 m^2
Total Floor Area : 15,783.34 m^2
Keywords : Hydrophilic, Future, Nature

や水量を変えて敷地内を流れる水を利用し水力発電や室内の温度を一定に保つ方法を現在検討している。

緑の樹木と触れ合う計画は、この計画敷地である兵庫県川西市の特産品である「いちじく（桝井ドーフィン）」を植えることで作物に猪名川の水を利用し、住民が自ら栽培することで、地域交流や猪名川に対して意識が向くことを意図している。現在、猪名川の水は生活用水、工業用水、農業用水、として利用されるまで水質改善されている為、安心して利用できる。

外観は周辺に合わせて計画し、東側は道路やショッピングモールがある為それらに合わせた外観とし、西側は川、山、岩と自然が多い為建物のカタチを凸凹にし、樹木を生やすことで岩、山をイメージした外観とする。

既存の通路、川辺の岩を残して活用することで元々利用していた住民も利用しやすい環境になるよう配慮した。既存の通路と計画敷地内の通路をつなげることで、上下階、屋外広場へ誘導する。

東側に昔あった歩道橋を復元することで、駅やショッピングモールから人を呼び込みやすくする。歩道橋を抜けた先には猪名川やイチジクの木が見えるようになっている為、東側を利用していても西側の雰囲気が少し感じられるように計画している。（図 7）

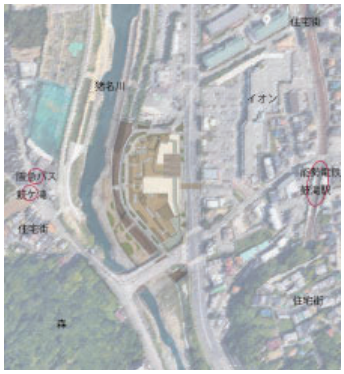


図 4：配置図兼屋根伏せ図

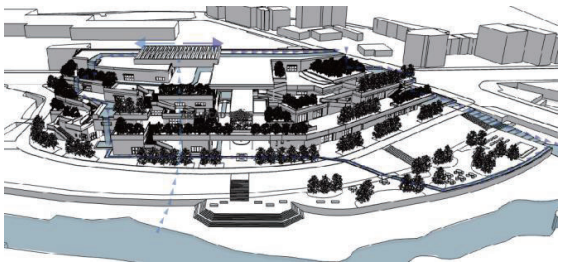


図 5：ポンプアップした水の流れ



図 7：東西方向の動線

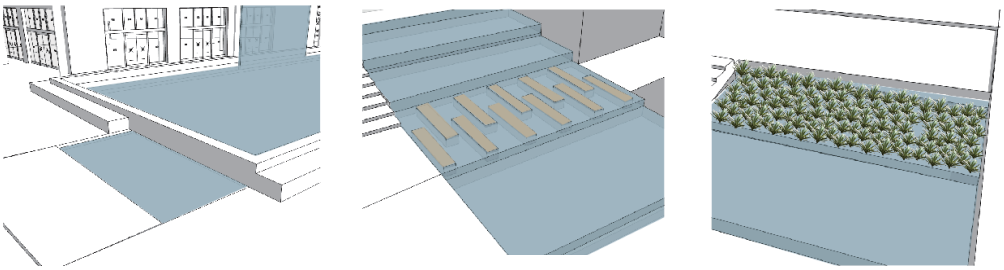


図 6：水を猪名川へ戻す際にゴミ等の取り除き方法

参考文献一部

- 水空間の演出　鈴木信宏
- 猪名川河川維持管理計画書
- 水質汚濁防止法
- 川西の特産品 https://www.city.kawanishi.hyogo.jp/shiseijoho/shokai/kankouannai/top_page/tokusanhin.html
- 猪名川 https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%8C%AA%E5%90%8D%E5%B7%9D
- 猪名川河川事務所 https://www.kkr.mlit.go.jp/inagawa/index.php
- 環境基本法
- 建築物における衛生的環境の保全に関する法律（ビル管理法）

川を居場所に

-観光地化するプレイスメイキング-

学籍番号　K19359
名　　前　森本 紀里佳
指導教員　安田 光男

Make the river home

- Tourism place making－

Student Number　K19359
Name　MORIMOTO Norika
Supervisor　YASUDA　Teruo



はじめに

選定した敷地は、京都府京都市東山区にある白川である。白川は、滋賀県大津市および京都府京都市を流れる淀川水系一級河川鴨川支流の一級河川で、流域のほとんどは京都市東山区および左京区に属している。滋賀県から平安神宮がある岡崎地域を流れ、四条通の北側で鴨川に合流する。川沿いには柳の木が並び、古い石橋が数多く残されている。昔ながらの町並みが残った風情ある場所である。



背景と目的

白川の親水性と街並みに魅力を感じ、この場所を生かし卒業制作をしようと考えた。京都には観光名所が多く存在し、この白川は多くの観光地に囲まれている。

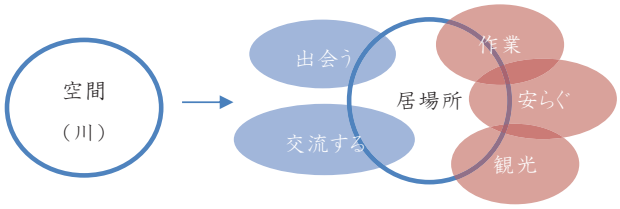
観光地を繋ぐ散歩道としての役割だけでなく、親水性の高さや街並みを活かして川を観光地化できないかと考えた。観光地化するためにプレイスメイキングを行う。

プレイスメイキング

プレイスメイキングは直訳すると、場づくり・居場所づくりだが、既存のコミュニティーを中心にパブリックスペースを再考し、改革するために人々が集まって一緒に描く共通の理念のことをいう。散歩などの場所や時間が許すときに行う活動（任意活動）と他者と交流するなど他者の存在を前提とした活動（社会活動）を充実させた空間を付け加え、非日常の空間を生み出すのではなく、日常の空間の充実を目標として、空間に居場所を作る。既存のこの川を中心として、人が集まり、何かが生まれるスペースをつくり出し、まち一体となって活性化していくきっかけの場になればと思い、計画する。

所在地：京都府京都市東山区　白川
主な用途：複合施設
敷地面積：1175 ㎡
建築面積：1 階 975 ㎡,2 階 695.75 ㎡,3 階 416.5 ㎡,4 階 442 ㎡
延床面積：2529.25 ㎡
キーワード：親水空間・プレイスメイキング・川床・テラス

Location : kyoto-ku,Kyouto-shi,Kyoto Shirakawa
Main Use : Facility
Site Area : 1175 ㎡
Building Floor Area : 1st,975 ㎡,2st,695.75 ㎡,3st,416.5 ㎡,4st,442 ㎡
Total Floor Area : 2529.25 ㎡
Keywords : Hydrophilic space,PlaceMaking,Riverbed



1.地域のコミュニティーの中心として積極的に交流できる場

2.交流することなく、シェアして過ごせる場

3.一人でも自分らしくいられる場

白川で行うプレイスメイキング

観光や散歩道だけでなく、まちづくりのきっかけになるように交流を行える場所に加え、交流せずに空間をシェアできる空間を作る。



白川のプレイスメイキングで生み出す空間

計画イメージ

京都の川床は毎年５月～9 月頃に開放されており、夏の風物詩の一つになっている。年中楽しむことができる川床や様々なレベルのテラスを設けようと考えた。川を中心に視線が集まるように計画する。

建物全体をテラスのように見立て、どの空間・高さからでも白川の景色を楽しむことが出来る。

建物を散歩し、違った高さから見る川の風景を眺めることができる。

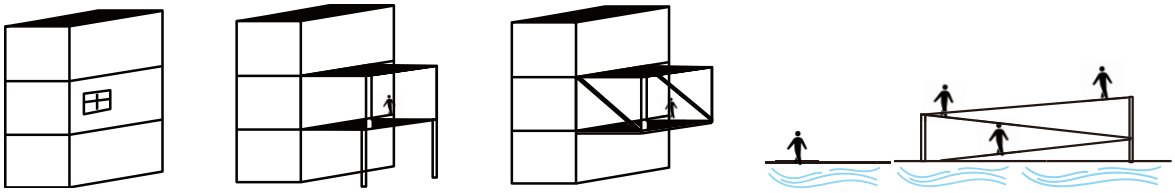
計画敷地

白川と祇園白川に続く道を眺めることが出きる角地を選定した。

白川に乗り出すように建物を作るのは祇園白川方面に置くことで、名所である親水テラスと一本橋の景観を邪魔せずに建てることが出来た。

建物に入っていく道を坂道のようなテラスにすることで、建物を回りながら眺めることができる空間になった。

ダイアグラム



張りだしテラス　　スロープテラス

参考事例

都市空間デザイナー林さんによるプレイスメイキング
https://www.nhk.or.jp/hokkaido/caster/t_seta/slug-n267b78874b46

ソトノバ　sotonoba,place
https://sotonoba.place/20171006table_placemaking

公共Ｒ不動産
https://www.realpublicestate.jp/post/placemaking-interview-1/

・京都府ホームページ
https://www.pref.kyoto.jp

・栗田学区での地域活動の取り組みのご紹介
https://www.pref.kyoto.jp/chiikikokyo/gakusei/documents/cocoshirakawa.pdf

・京都地域商業再生機構認証企業＜株式会社白川まちづくり会社＞
https://www.pref.kyoto.jp/shogyo/cmo/cmo1_shirakawa.html

災害後に生・活きる

学籍番号　K19360
名　　前　森山圭介
指導教員　森重幸子

Survive after a disaster

Student Number K19360
Name Keisuke Moriyama
Supervisor Sachiko Morishige

１．現状

自然災害の多い国、日本では近年だけでも数多くの災害が発生している。中でも頻繁に発生している地震災害では断層が繰り返し活動をし続けており、地震の規模が大きくなるにつれて住宅や道路等が崩壊し、不安定な生活を強いられることになる。災害発生後、人々は長い期間をかけて複数の施設で生活をしていくことになり、まず初めに避難所へと移る。そこから約半年から一年経過後応急仮設住宅へと移り、更にその約二年経過後災害復興公営住宅へと移り住んでいく。その間に説明会や公聴会、意向調査、入居支援等も同時に行い、復興計画へ役立てていく。



図 1　円山町

２．問題点を踏まえた提案内容

長期的な避難生活の中では数々の問題点が挙げられている。バリアフリー化がされていない、慣れない環境で過ごすことによる体調悪化、病院や学校、銀行等まで距離があるなど多くの問題点がありますが、共通して挙げられていた問題点がコミュニティ内での孤立、対人関係の悪化である。この問題点を解決するべく今回､私は平常時から避難訓練を学びながら地域の人々と交流が生まれ、災害後には避難所として利用できる施設を提案する。



図 2　避難所マップ

３．計画地域

大阪府北部に位置する吹田市の千三地区に属する円山町を計画地域とする。円山町内には学校、図書館が無く飲食店の数も少ないが、閑静な住宅街で家族層が多い町となっている。総人口は約二千人弱。近年と比較すると増加傾向にあり、お年寄りの割合が減り、子どもの割合が増えている傾向にある。そんな円山町には指定されている避難所が一つも無く（図 2)、千三地区で行われている防災訓練では応急手当や AED の取り扱い訓練等しか行われていない現状にある。

４．計画内容

平常時では施設に地域の人々の要らなくなった、使わなくなった雑貨や本等を持ち寄ってもらい、防災訓練を体験することで欲しいものと交換が出来る仕組みとし、意欲的に取り組んでもらうと同時に防災訓練を体験しながら交流の生まれる計画とした。また災害時には建物の一部を避難所として用いて、指定避難所の無い円山町の人々が災害後でも安全に暮らせる計画とする。



図 3　計画内容全体スケッチパース

所在地：大阪府吹田市円山町
主な用途：施設
敷地面積：8730m^2
建築面積：
延床面積：
キーワード：施設・避難所

Location : Maruyama-cho Suita City Osaka
Main Use : Facility
Site Area : 8730m^2
Building Floor Area :
Total Floor Area :
Keywords : Facility・Shelter

５．防災訓練

円山町で実際に行われている防災訓練では応急訓練や AED の取扱い等であったため、計画に取り入れる訓練内容は行われていない且つ、必要になる訓練を取り入れた。まずカフェスペースでは地域の人々がカフェのみの利用者も取り入れられるよう、住宅の多い北部に配置をした。建物内には輪を描くような机配置とすることで交流を図り、カフェに加えて防災グッズの展示をすることで少しでも多く訪れた人に防災の意識や興味を抱いてもらう狙いとした。

炊き出しスペースでは災害時に炊き出しを行う以外に、平常時からカフェ利用者の半屋外テラス席や定期的に地域の方々が実際に炊き出しをして、一定量の食事が配られるイベントを開催するスペースとして利用する。続いて消火器取扱い訓練、避難マップ制作訓練では実際に体験をしてもらい、災害時すぐに役立つ訓練として多くの人に体験してもらうためスペースを広く設けた。最後に一階一部と二階には避難生活を体験できるスペースとして利用する。災害後の生活をイメージだけでは分からない気温問題や騒音問題がどれくらいなのか事前に体験をしておくことで実際に避難した際、ギャップが少なくストレスを軽減できると思い避難生活体験スペースを設けた。



図 4　1 階平面図（平常時）

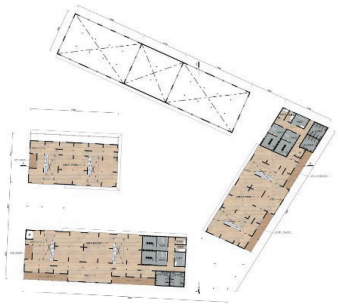


図 5　2 階平面図（平常時）



図 6　避難所生活体験スペース　スケッチパース

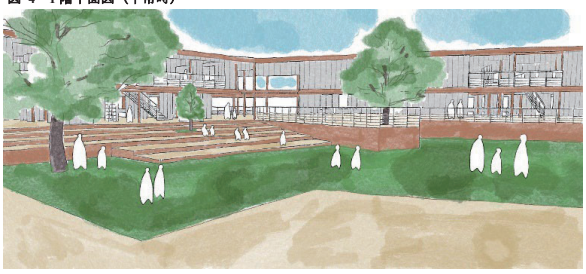


図 7　中庭　スケッチパース



図 8　メイン入口　スケッチパース

６．避難所

災害時、カフェ防災グッズと炊き出しスペース以外の建物を避難所として利用する。避難スペースは 4m×4m の計 16 ㎡を一家族（3～4 人分）4m×2m の計 8 ㎡を 1～2 人分として、合計 328 人の避難が可能な施設とした。一つ一つの空間を可動式間仕切りで区切ることで、平常時には広く開放的な空間となり、災害時には閉じることでプライバシーに配慮した計画とした。



図 9　1 階平面図（災害時）

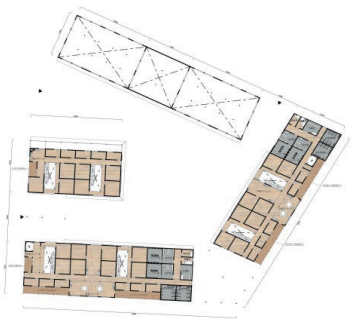


図 10　2 階平面図（災害時）



図 11　16 ㎡一家族 4 人想定レイアウト

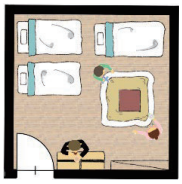


図 12　16 ㎡一家族 3 人レイアウト



図 13　8 ㎡ 2 人レイアウト

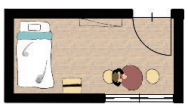


図 4　8 ㎡ 1 人レイアウト

C-STATION -園田サテライトオフィス計画-

学籍番号 K19361
名　　前　安田涼真
指導教員　小梶吉隆

C-STATION -SONODA satellite office plan-

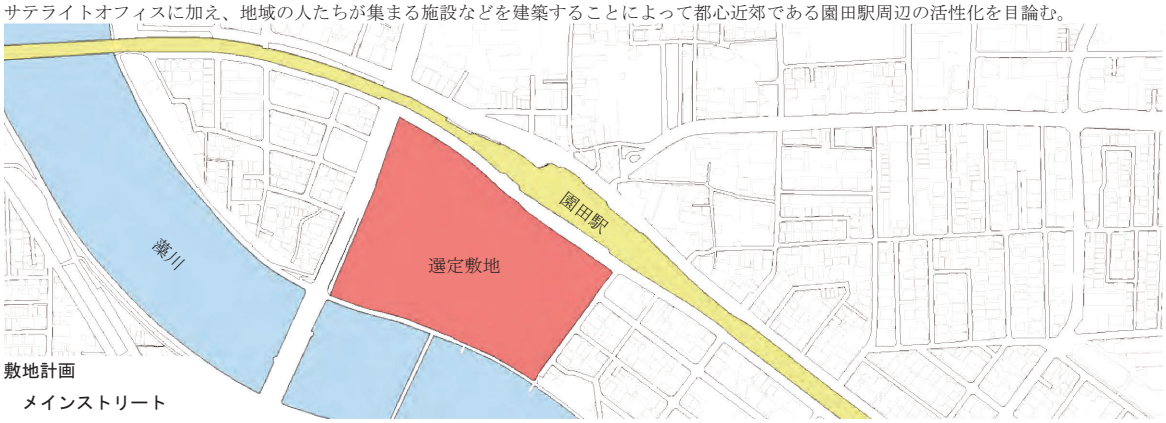
Student Number K19361
Name Yasuda Ryoma
Supervisor Kokaji Yoshitaka

背景

「満員電車」は都市部に勤務する会社員にとって生活のすぐ隣り合わせのものだった。「リモートワーク」これはコロナが流行し、在宅勤務になった者が満員電車という檻の中から解放させてくれた。しかし、リモートワークになると人との直接なつながりが消え、孤独を感じるようになり、一概には素晴らしい環境と言えなくなった。都市に集まりすぎてもダメ。家に居すぎてもダメ。ならば人はどこで仕事をするとベストなのか。私は人々がストレスなく働ける場所として郊外にサテライトオフィスを設計する。郊外にオフィスを建築することによって人が過度に集まりすぎることもなく、家で孤独に仕事をする必要もない。

選定敷地

サテライトオフィスを建築する敷地は私が生まれ育った街である兵庫県尼崎市　阪急園田駅を選定した。尼崎市は関西の主要都市である大阪や神戸にすぐアクセスできる土地でありながら、尼崎市の人口は年々減少しているコンパクトシティ化問題などが挙げられる。この土地にサテライトオフィスに加え、地域の人たちが集まる施設などを建築することによって都心近郊である園田駅周辺の活性化を目論む。



敷地計画

メインストリート

選定敷地は駅前であることから人の流れが非常に重要になる。園田駅は川と川に挟まれた中州の地形であるため、園田駅に向かう人たちはある一定の方向を持っている。選定した敷地の中央南側には歩行者専用の善法寺橋があり、この橋から園田駅に向かって人通りが多くなっている。このような背景から敷地中央にメインストリートを計画する。また、南側は藻川の堤防になっている点や、園田駅が高架式の駅で改札が二階部分にあるという点で高低差をなくすためにメインストリートは屋上の歩道橋となるような計画とする。

広場

敷地には駅前広場、飲食広場、オフィス前広場の 3 つの広場を計画する。

・駅前広場

広場は芝生とし周辺レベルと合わせることによって近寄りやすい計画とした。待ち合わせの場所や、子どもたちが走り回るといった利用を想定する。

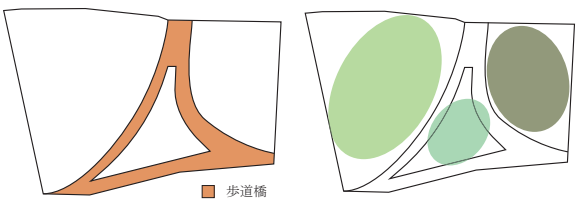
・飲食広場

駅前広場とレベルが同じではあるが広場内は舗装されておりテーブルと椅子が並んでいる。

駅前広場と飲食広場の間に並ぶ飲食店の料理を広場内でも楽しむことができる賑やかな広場を想定する。

・オフィス前広場

オフィス前広場は木々が森のように生えている。一般利用者とオフィスワーカーとの間を樹木によって優しく遮ることによって仕事に集中できる環境を想定する。





所在地：兵庫県尼崎市東園田町９丁目
主な用途：複合施設（主にオフィス、商業）
敷地面積：43760㎡
建築面積：14345㎡
延床面積：10180㎡
キーワード：オフィス・広場・商業施設・駅前・緑地

Location : 9-chome,Higashisonoda-tyou,Amagasaki-shi,Hyogo
Main Use : Complex facility (mainly office and commercial)
Site Area : 43760㎡
Building Floor Area : 14345㎡
Total Floor Area :10180㎡
Keywords : Office, Square, Commercial facility, Station, Green space

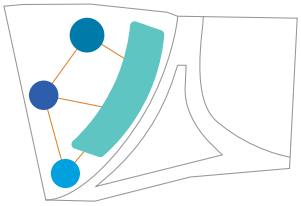
オフィス計画

配置

敷地西側はメインストリートに比べ一通りが少ないため西側にオフィスを設置する。

計画

オフィスの配置はサテライト（衛星）をコンセプトに分棟の計画とする。メインストリートの西側に沿うような形でコアの部分となる本棟を建てる。この本棟は来客者との面談や会議、オフィス利用者の交流の場、コワーキングスペースなどといった共用としての利用を想定する。分棟部分はオフィス前広場内に周辺の木々と調和するような形で作る。この分棟は比較的長期間レンタルするレンタルオフィスと時間単位でレンタルするシェアオフィスの２つの種類のオフィスを計画する。







レンタルオフィス、シェアオフィス、コワーキングスペースの違い

・レンタルオフィス

自分だけが使用できる専用の個室が与えられ、法人登記や住所を利用することができる。会議室などの個室以外の部分は共有の部分となる。

・シェアオフィス

自社だけではない複数の利用者がフリーアドレス形式で使用するオフィス。

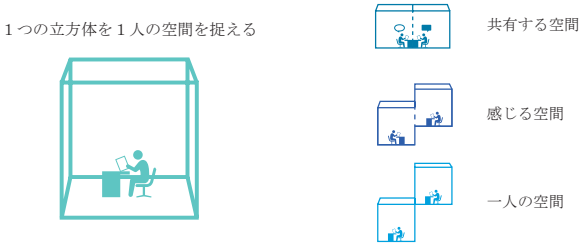
・コワーキングスペース

利用者同士が交流を図り、コミュニティを形成することを目的としたオフィス。シェアオフィスは作業の場で、ワーキングスペースは図書館やカフェのようなオープンな空間のイメージである。

ファサード

オフィスの本棟では飲食広場側とオフィス前広場側の２面で異なったデザインとしている。

飲食広場側は広場から視点が通りやすくするためカーテンウォールを採用している。オフィス前広場側は立法体を立体的に連続させたデザインとした。この立方体を単位空間としてイメージしており、立方体同士を「完全に繋げる」、「半分繋げる」、「繋げない」という３つの手法でそれぞれ共有する空間、感じ合う空間、１人の空間とした。





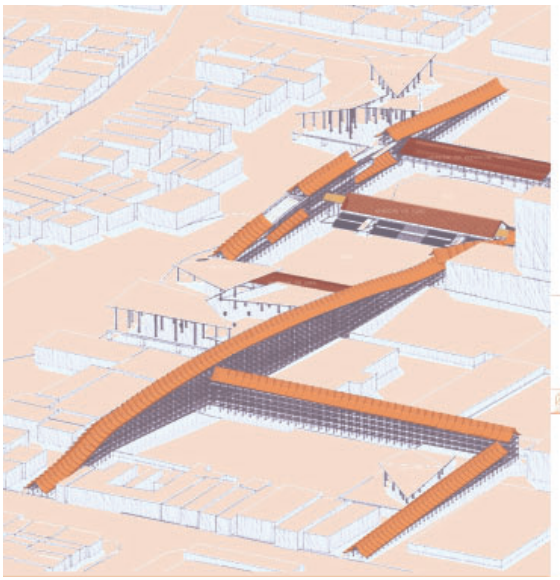
参考文献
・ザイマックス不動産総合研究所 RESEARCH REPORT「大都市圏オフィス需要調査 2022 春」
https://soken.xymax.co.jp/2022/06/15/2206-office_demand_survey_2022s_1/
・シェアオフィス、コワーキングスペース…４つの違い分かりますか？働き方改革に有効なオフィス比較！
https://www.workersresort.com/jp/facility/workstyle-reform/
・レンタルオフィスとは？定義・メリットとデメリットの解説
https://www.k-society.com/rental_office/definition_of_rental-office/

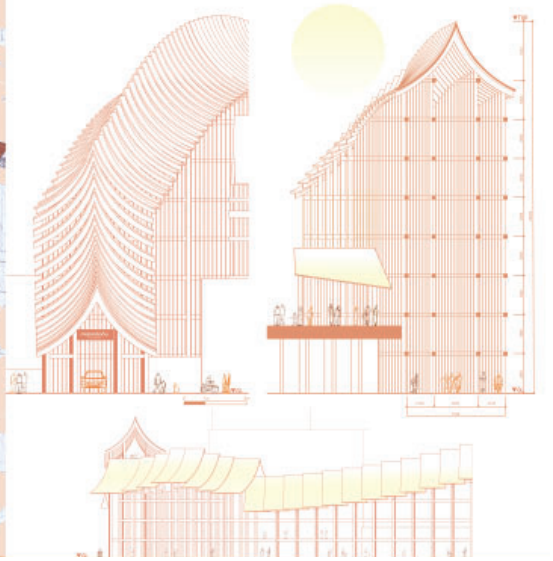
織成—ラオス市場から広げる文化—

学籍番号　K19362
名　　前　矢野　玲
指導教員　宮内　智久

ORINASU

Student Number　K19362
Name　Rei Yano
Supervisor　Tomohisa Miyauchi





1. はじめに

テーマ設定：ラオス

2022 年の 8 月に 1 か月間、母の故郷であるラオスに滞在する機会があった。何度かラオスを訪れたことはあったが、1 人で訪れたことはなかったためとても新鮮であった。今まで私が多く見てきた風景とは異なる場について考え・デザインを試みることで新たな発見が生まれるのではないかと期待をしてこの制作に取り組む。

2.ラオスについて

2－1.地理

ラオスは中国・ベトナム・カンボジア・タイ・ミャンマーに囲まれた内陸国である。面積は 236,800 ㎢で、日本の約 60%の広さである。国土の多くが山岳で森林資源が多いが、急激な森林破壊が問題となっている。タイとの国境には東南アジアで最長の川・メコン川が流れており、ラオス人はメコン川と共に生きている。

気候

熱帯モンスーン気候であるラオスには、雨季・乾季・暑季があり、基本的に年中夏服で過ごすことができる。

乾季が最も過ごしやすく、観光客の数も増加する。

・雨季：6 月から 10 月スコールが降り、気温が少し下がる

・乾季：11 月から 2 月下旬日中は 25℃以上になるが、朝晩は気温が下がる

・暑気：2 月下旬から 5 月日中は 35 度近くまで気温が上がる

2－2.歴史

1953 年までフランスの植民地であったため、フランス文化の影響を受けている。また、ラオスは世界で最も激しい爆撃を受けた国であり、人口 1 人当たりおよそ 1 トンの爆弾が落とされた。不発弾による被害は現在もあり、除去活動が続けられている。

2－3.経済

農業が全雇用の 70%以上・GDP の約 25%を占めている。IMF によると、2021 年のラオスの GDP は 190 億ドルであり、世界で 139 位と高くはない水準である。しかしながら、自給農業を基盤としているため、GDP は低いが食料は豊富であることが特徴である。良質なコーヒーが栽培されているため、コーヒーがラオス最大の輸出農作物となっている。

2－4.人口と民族・宗教

2021 年時点での人口は 733.8 万人、人口密度は約 30 人/㎢であり、約 296 人/㎢であるベトナムと比較すると少ないことがわかる。しかしながら、全人口の 42.9%が 18 歳以下であり ASEAN 加盟国のなかで最も出生率が高く、人口の増加が見込まれている。

ラオスには人口の半分以上を占めるラオ族の他に 50 ほどの少数民族が存在する。宗教は上座部仏教が 60%、アニミズム・その他の宗教が 40%である。朝の托鉢風景を見ると、ラオスで仏教は日本よりも日常に溶け込んでいるように感じられる。

3.ラオスの諸問題

3－1.教育の課題

2016 年までのデータでラオスの識字率は 89%であった。これは、ベトナム（97%）やミャンマー（96%）と比較しても低いことがわかる。2023 年になり識字率は増加していると考えられるが、それでもラオス語を使わない民族等の人々は学校に通ってもラオス語が話せないため、入学したとしても続かずに中退してしまうという問題を抱えている。

所在地：ラオス　ビエンチャン
主な用途：観光施設
敷地面積：156640 ㎡
建築面積：18195 ㎡
キーワード：市場・広場・観光

Location :Vientian Laos
Main Use : Tourist Facility
Site Area : 156640 ㎡
Building Floor Area : 18195 ㎡
Keywords : Market, Park, Sightseeing

３－２.首都の観光

ラオスには美しい自然がたくさんある。1995 年に街全体がユネスコの世界遺産に登録されたルアンパバーンは、街に信号機が一つもなく、文化的で美しい建造物が多く残されているため海外からも注目されている。早朝にはラオスの中でも規模の大きい托鉢風景を見ることができ、「非日常」な時間を過ごすことができる。村上春樹氏の著書に『ラオスに一体何があるというのですか？』がある。これは彼のラオス滞在記であるが、彼はルアンパバーンを訪れて、

“僕がラオスから持ち帰ったものといえば、ささやかな土産物のほかには、いくつかの光景の記憶だけだ。でもその風景には匂いがあり、音があり、肌触りがある。そこには特別な光があり、特別な風が吹いている。何かを口にする誰かの声が耳に残っている。その時の心の震えが思い出せる。それがただの写真とは違うところだ。それらの風景はそこにしかなかったものとして、僕の中に立体として今も残っていし、これから先もけっこう鮮やかに残り続けるだろう。”

と述べている。ラオスでの日常は、海外の人にとって特別なものとなる。2008 年にはニューヨークタイムズの「2008 年に行くべき 53 か所」でラオスが 1 位を獲得した。

そんなラオスの首都は、「世界一何もない首都」と言われるほどにのどかな場所である。寺が点在し、市場に行けば人々のにぎわいを垣間見る。夕方にメコン川に行くと軽快な音楽が大音量で流れており、川沿いを人々が歩く。「何もしない」ならいつまでも滞在できるが、観光を目的とするならば 2 日ほどで全て済ませられる。実際私も、1 か月滞在した中で首都・ビエンチャンの観光は 2 日で満足した。首都に観光客は訪れているが、「ルアンパバーンに行ったことはあるけどビエンチャンに行ったことはない」という人も少なからず存在する。

３－３.文化の継承

ラオスには伝統的な巻きスカートの「シン」というものがある。これはラオスの制服や仕事で着用されていたりする。このシンのほかにも、美しい織物がさまざまにつくられている。その技術の多くは今も若者に受け継がれているが、日本の伝統工芸のように失われつつあるものも存在する。1998 年に日本の NGO がラオスに職業訓練センターを設立するなど、伝統を受け継ぐための活動が行われている。

4.市場から新しさを発信する

今回の設計では、ラオスの「世界一何もない首都」といわれているビエンチャンから文化の発信を行う建築のデザインを考える。

◎敷地：クアディン市場とその周辺

クアディン市場はラオスのゼロキロ地点といわれている凱旋門・「アヌサワリー・パトゥーサイ」から直線距離で 500m、メコン川から 1300mに位置する市場である。右の画像のように昔から人々が集う場であったクアディン市場は、現在でもラオスの人々の生活の一部となっている。また、バスターミナルが隣接しているため人々がアクセスしやすい場となっている。

ここに文化を発信するための建築を設計し、ラオスの市民だけでなく観光客や海外の人も多く訪れるような環境づくりを整える。

◎アーケードからアプローチをかける

市場の周辺敷地を歩き回ると、以下の 2 点が気にかかった。

①市場への入口がわかりづらい

②スコールが発生したとき、市場と市場戸の行き来が不便

まず、①について、クアディン市場はその周辺がビルで囲まれており、入口は集中して歩いていないと見落としてしまうように目立たない。もちろん、現地の人は慣れているので問題がないし、「秘密基地の入口」のようなワクワク感はある。しかしながら、市場に興味をもった海外の人間にとってはとても難しかった。実際に私も入口を自力で探そうとして敷地周辺をうろうろしていたが、同じような境遇であろう外国人 1 人旅行者を何人か見かけた。次に、②について、市場はいくつかに点在して敷地内にある。もちろん傘は持っているが、スコール時はわざわざ傘をさして行き来したり、車に乗るということが不便に感じた。ラオスの人は雨季の期間、雨が降るとその日にもしお出かけの予定があったとしても中止にする人が少なくない。それは、大雨で運転が危険な時もあるが、雨の日に外出するとぬれてしまうというマイナスのイメージが大きいからであると感じた。

以上の問題を踏まえて、アーケードの設計を行うこととした。アーケードを設計することで以下の点の効果を狙う。

1. アーケード入口の明確化
2. 市場を訪れる観光客数の増加
3. 敷地内の交通整備
4. アクティビティを通した交流の促進

また、諸問題を踏まえて 3 つの建築を付随させ、市場と周辺地域をより活発なものとすることを目指す。建築は以下の 3 つとする。

1. 教育と伝統のための建築
2. 観光客のための建築
3. 飲食のための建築

4.建築ができること

ラオスの市場にいままで存在しなかったアーケードを設計することを通して、「建築ができること」を考えさせられた。そこにアーケードがあっていいものか。アーケードは魅力的なのか、と。しかしながら、そこに柱を生み、高く伸ばしていくことで、空が見えていたはずの場所は空があるときよりも高さを感じるようになっているのではないかと感じた。今回の設計で「建築ができること」はそこに新たな「存在」を生むことで人々の発想を豊かにすることである。

参考文献
『ラオス概説』 ラオス文化研究所＝編,『ラオス農山村地域研究』 横山 智・落合 雪野＝編
『地球の歩き方D23　ラオス』『地球の歩き方』編集室＝編,『ラオス初等教育問題と日本の国際協力』 石黒　薫＝著
『アジアのまち再生　社会遺産を力に』山家 京子・重村 力・内田 青蔵・曽我部 昌史・中井 邦夫・鄭 一止＝編
『ラオスの開発状況と成果および課題に関する研究：後発開発途上国からの卒業についての展望』 木下 俊和＝著
『ラオス・ルアンパバーンにおける社会的記憶と景観』 須永 和博＝著

参詣駅の成立とその変容
～社寺参詣を目的とした駅舎建築の研究～

K19364　山川 真生
指導教員　大上直樹　特任教授

駅舎建築　参詣　日本建築
社寺建築　西洋建築　変容

研究目的

鉄道は社寺参詣や観光目的、住宅地化などの多様性を活かし今日に至っている。鉄道最古の事例は新橋(汐留)～横浜（桜木町）間で開業し、途中駅として品川、鶴見、川崎、神奈川の４駅が設けられていた。

本研究では、社寺参詣のために建築された鉄道駅舎を定義とする。事例168駅(同一駅名含む)を対象とし、意匠や社会的背景などについて考察する。

平山昇『鉄道が変えた社寺参詣　初詣は鉄道と共に生まれ育った』交通新聞社　2012年10月、永瀬節治「地域づくりの観点からみた参詣地における「社寺風駅舎」の出現文脈　大正期～昭和戦前期に竣工した 15 駅舎を対象として」日本建築学会大会学術講演梗概集（中国）2008 年 9 月を元に研究を行うものとする。

研究方法

対象とする駅の抽出、参詣駅舎の建築された経緯やデザインなどの変容についての情報を資料や現地調査から収集を行い、駅名、所在地、開業年、改築・改修年、設計者、指定文化財等、参詣元、分類した。

研究対象

1-1　対象とする駅

鉄道省発行『神まうで』『寺まゐり』に記載されているものや駅名に参詣元との繋がりを持っているものなどをもとに全国約 14,020 駅（同一駅名は路線ごとに数える）のうち、モノレールなど特殊なものかつ駅舎が設置されていない駅（過去に設置されていたが現在は撤去済みの場合は撤去前のものを対象とする）は除いた 168 駅(同一駅名含む)

参詣駅の始まり

参詣駅のほとんどは各鉄道会社が設立されると同時に参詣客の輸送に力を入れてきたが、地方によってはばらつきなどあるので参詣駅の始まりを日本鉄道(国鉄)、私鉄、地下鉄の３　会社について紹介する。

2-1　日本鉄道(国鉄

関東→明治神宮や成田山新勝寺、金剛山金乗院平間寺(以下川崎大師とする)は参詣客が多いので優先的に建設された。中でも、川崎大師は徒歩では時間がかかり体力も必要だったため設置が優先され、鉄道開業とほぼ同時期に途中駅として日本初及び関東発の参詣駅として川崎停車場を建設。

関西→1874(明治 7)年に大阪～神戸間が開業し西ノ宮(現西宮)駅、三ノ宮駅を建設し、それぞれ西ノ宮駅は西宮戎神社、三ノ宮駅は三宮神社への玄関として関西初の参詣駅を建設。

2-2　私鉄

関東→1899(明治 33)年、大師電鉄(現京浜急行電鉄)が大師橋付近に大師駅を建設しそこから始まった。1904(明治 37)年品川(八ツ山)～川崎(現京急川崎)～大師(現川崎大師)間全通した。なお関東私鉄初の参詣駅ではあるが、私鉄初は後述の関西が先行開業。

関西→1885(明治　18)年、阪堺鉄道が今宮戎神社付近に難波停車場を建設した。3 年後焼失したがすぐに 2 代目駅舎完成し、1898(明治 38)年、会社合併により南海鉄道となる。世界初のターミナルデパート且つ日本初の私鉄駅並びに私鉄初の参詣駅でもある。

2-3　地下鉄

関東→1927(昭和 2)年、東京地下鉄道(現東京メトロ)が東京一の繁華街浅草に浅草駅を建設し、地下鉄駅では数少ない鉄筋コンクリート造で日本初の地下鉄駅であり日本初の地下鉄参詣駅。

考察

明治以降に参詣駅として全国各地に建築されたうち対象駅100駅についての考察は以下である。

１　建築様式について

（１）参詣元に合わせて社寺風のデザインにしているところがほぼ半分を占めている。
（２）天皇参詣に伴うところはネオ・ルネサンス建築がよく使われている。
（３）重要文化財、登録有形文化財指定されているものは日本建築と西洋建築とで少し日本建築が多いとされる。

２　建築意匠の詳細について

（１）社寺建築には千鳥破風や唐破風、鬼瓦、懸魚、蟇股、欄間などがある。
（２）西洋建築にはテラコッタタイル、ファサード、ハーフティンバー、ハーフラウンド、ドーマーなどがある。
（３）現代では建築家により過去のものとは異なるデザインとして地元材を使用したりする。

３　解体、改築、改修理由について

（１）2代目旧長野駅舎のように規模を大きくするために保存されず解体された。
（２）原宿駅舎のように老朽化したため保存されず一度解体されたが復原された。
（３）彦山（ひこやまえき）駅（福岡県）のように路線自体が経営維持困難となり解体された。

４　社会的背景と参詣駅について

（１）開業こそ参詣駅だったが次第に駅ビル化が進み商業施設などが併設されるようになった。
（三ノ宮駅など）
（２）近年の観光地化により再度木造が普及するようになった。（片瀬江ノ島駅など）
（３）老朽化したが改修工事を経て現存しているものは保存運動などで支援があり文化財指定されている。
（日光駅など）

今後は現地調査したものについての図面などを通してデザインの特徴についてだけでなく既存の他の参詣駅舎など保存、改修等についての記述などを調査検討する必要がある。

参考文献

国立国会図書館関西館デジタルコレクション
https//:ndl.go.jp
『神まうで』『寺まゐり』,鉄道省,1933年

高柳誠也　中井裕
保存運動からみる駅舎建築の市民的価値の形成と変容,景観・デザイン研究講演集,NO.7,2011.12月

矢田智美
まちづくりの視点からみた鉄道駅舎の機能設定に関する基礎的研究

堀谷 尚貴
現代日本の駅舎の外観における地域性の表現手法

永瀬 節治
地域づくりの観点からみた参詣地における「社寺風駅舎」の出現文脈日本建築学会大会学術講演梗概集　（中国）2008年9月

臼井幸彦ほか
鉄道駅の機能複合化とその変遷に関する基礎的研究 -札幌（駅を事例として- 日本都市計画学会学術研究論文集，,PP.595-600,1990年

和田嘉宥
旧 JR 大社駅について,日本建築学会中国支部研究報告集PP.533-536, 1995 年 3 月

大内田史郎
鉄道駅としての役割を終えた旧駅舎の保存・活用について, 日本建築学会計画系論文集,第 85 巻,第 771 号,1141-1148,2020年5月

鈴木貴博, 大川三雄
日本の鉄道駅舎における構造形式と外観デザインに関する一考察, 日本大学理工学部学術講演会論文集,2012年

高山大志(他)
鉄道駅舎のデザインに関する研究 その 1 鉄道駅舎デザイン変遷と残存要因の検証」,日本建築学会大会学術梗概集,2003.9

平山昇『鉄道が変えた社寺参詣』,交通新聞社,2012年

渋谷申博『聖地鉄道めぐり』,株式会社G.B.,2018年6月

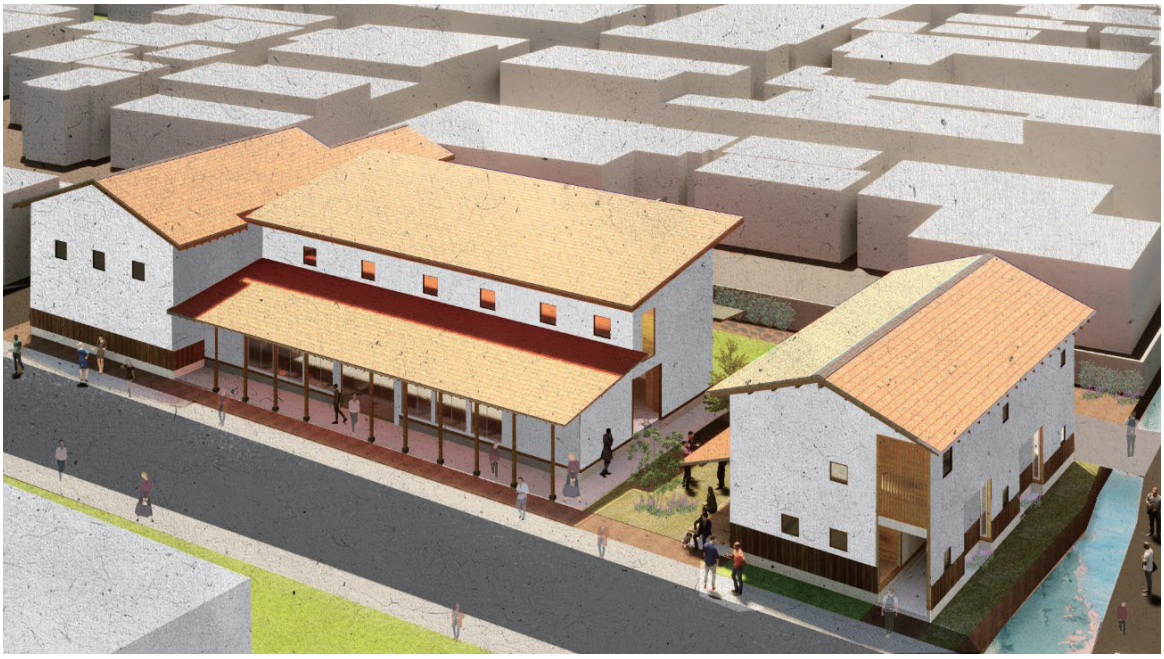
白上貞夫「新勝寺参詣輸送をめぐる成田・総武両鉄道の抗争」『成田市史研究』５号,1978年

人々や産業を活性化させる建築空間と場の創造について

K19365
山口皓太郎
山内貴博

On the creation of architectural spaces and places that enliven people and industry

K19365
Kotaro Yamaguchi



１　背景と目的

私の故郷である鳥取県は豊富な観光資源や農林水産資源が豊富である一方で人口が全都道府県中ワースト一位である。また、魅力度は 42 位という位置にいる。私は建築を学ぶ身として、地元の人々や来県する人々がその場に来る目的となるような空間、場所をつくりたいと考えている。また、このテーマを研究することで今後自分が建築に携わる中でクライアントに設計を提案する場合にもこの研究で得た知見を活かして設計していくことがより良い建築を生み出していくうえで重要だと考えた.

2　計画敷地

鳥取県中部に位置する打吹玉川、（通称：白壁土蔵群）と呼ばれる伝統的建造物群保存地区に位置している。中世から在郷町として栄え、現在は江戸時代初期から大正時代まで商業都市として栄えた地区が現存して 1998 年に保存地区として選定された。この地区の建築物の瓦には石州瓦と呼ばれる赤褐色の瓦が主に使用され、特徴的な風景を成す要因となっている。

３　建築概要

保存地区に指定されたのが比較的最近であるため部分的にコンクリート造の建物が点在しており、風景のつながりが分断されてしまっているエリアが保存地区内に点在している。また地区内の歴史や文化などを知ることのできる場所が保存地区内に現状整備されていないことから、それらを発信できる場として街並みとともに整備することで地域の拠点となる場所を作ることを目的としている



敷地上空写真

所在地：鳥取県倉吉市東仲町 2605

建築用途：カフェ・売店・地域交流施設

敷地面積：1410 ㎡

建築面積：409 ㎡

延床面積：662.4 ㎡

４　建築計画

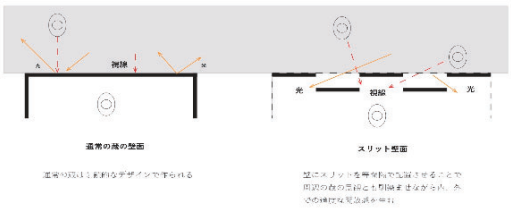
敷地北側が川に面しており、そこの通りにはこの地域のシンボルである蔵が立ち並んでいる。この場所は現在青果店や工芸店の跡地となっているため周辺の街並みに対して浮いた場所となっている。

今回の計画では敷地のシンボルである蔵の景色を連続させながら新しい蔵の提案を行いたいと考えた。蔵部分の設計は壁に等間隔でスリットを設けることで、閉鎖的な蔵の空間を適度に開放的となるような壁面のデザインとしている。大通りに面した売店やカフェなどのある部分は現在も計画地に残る青果店と金物店の躯体を一部活かしながら設計を行い景観面で新しく設計することによるギャップを少なくするデザインとすることでその地域の人々からも受け入れられやすい外観デザインとした。

全体的な空間設計としては動線上に適度に吹抜けを配置することで天井高の低さを感じさせない開放感を感じられる設計とした。

５まとめ

蔵を一から設計するにあたって蔵の現在の利用や設計における様々な事案やデザインを参考にしながら行うことで蔵についての知見を深くすることができた。また、これまで学んでいなかったリノベーションについても学ぶことができた。今回の学びを活かしながら大学院での研究に反映させていきたい。



Location: 2605 Higashinakamachi, Kurayoshi City, Tottori Prefecture

Main use: Cafes, stores, community exchange facilities

Site area:1410 ㎡

Building Floor Area:409 ㎡

Total Floor Area 662.4 ㎡

参考文献

１）　国土技術政策研究所、「歴史まちづくりの特性の見方・読み方」

２）　鳥取市教育委員会（1980）「倉吉商家並修景保存に関する調査報告書」

３）　倉吉観光情報サイト　https://www.kurayoshi-kankou.jp/

４）　新編倉吉市史編集委員会編（1996）「新編倉吉市史 第三巻 近・現代編」倉吉市

５）令和２年度全国国勢調査

６）地域ブランド調査 2022 年版







生物多様性の場を持つ環境共生型住宅

学籍番号　K19366
名　　前　山崎舞花
指導教員　新海俊一

Environmentally symbiotic housing with a place for biodiversity

Student Number K19366
Name　Yamasaki Maika
Supervisor　Shinnkai Syunnichi

1.　はじめに

近年、子どもから大人まで自然に触れる機会が減りつつあることから、中庭を使った生物多様性の場を持つ環境共生型の居住空間をテーマとし、住宅と畑を計画することで子どもから大人までが自然との関わりを持てる空間を提案する。

2.　背景・提案

本計画は祖父母が暮らす住まいを想定したケーススタディである。現在の住まいは住宅と畑が離れているが、今後の高齢化に備えて住宅と畑が近接する住まいを計画する。

本敷地の近くには小・中学校があるため、子どもから大人までが自然との関われる空間を提案する。敷地周辺のエリアは箕面市の中でも 15 歳以下の子どもの人数や割合が上位を占めている。また、住宅街が広がっていることから、小・中学校との関わりや地域との交流の場としても利用できるように計画する。住宅は住み手の高齢化を踏まえて平屋のバリアフリー対応とし、中庭を作ることで住まいの中で生物多様性の場としての自然を感じられるように配慮する。畑では自然のメリットに加えて学力の向上や栄養に関する知識の習得、社会性の育成にもつながるような空間とする。

3.　計画敷地

住所：大阪府箕面市新稲 4 丁目

用途：住宅+畑

敷地面積：1520 ㎡

建築面積：328 ㎡

構造：RC 造

本敷地は、大阪府の北摂豊能地域にあり、大阪市中心部から電車で 30 分ほどの距離であり、新稲は箕面駅から徒歩 15 分ほどの場所である。箕面市は「みどりと子どもを育むまち」というコンセプトを掲げており、箕面の滝や箕面公園をはじめとした地域資源を持ち、1 年を通じて観光客が多数訪れる観光地でもある。また、子育てもしやすいように子どもたちを安心して市内で遊ばせられる環境づくりにも力を入れている。市は、（箕面市ホームページ「第五次箕面市総合計画基本構想」より）将来都市像を実現するために以下の 5 つを目指している。

１.安心・安全でみんないきいき暮らすまち

２.環境共生さきがけのまち

３.「箕面らしさ」を生かすまち

４.子どもも大人も育つまち

５.誰もが公共を担いみんなでつくるまち



図１　敷地周辺図

（ Google Map「 https://www.google.co.jp/maps/?hl=ja 」引用）

さらに春は桜やうぐいす、夏は川遊びや BBQ、秋は紅葉、冬はゆずや雪など四季折々の風情を感じることができ、その季節に応じたイベントも多数行っている市である。箕面市は山の近くにあることから災害時の洪水や土砂崩れ、浸水などの危険性があるため、ハザードマップ（箕面市ホームページ「防災マップ」より）を参考にして比較的危険度が低いところを候補とした。

敷地は以下の 3 つの事項を重視して敷地を選定した。

・都市部から離れすぎていないこと

・周辺で生物多様性の空間を作るための環境があること

・畑が周りにあり空間に違和感がないこと

本敷地の周辺には畑が広がり、近くにため池があるため生物多様性の場を作るための空間として最適である。住宅地や小・中学校、野球場、体育館なども集中しており、人が集まりやすい。

所在地：大阪府箕面市新稲４丁目
主な用途：住宅+畑
敷地面積：1520m^2
建築面積：328m^2
延床面積：328 ㎡
キーワード：生物多様性、環境共生住宅

Location : 4,Niina,Minoo-shi,Oosaka
Main Use : House + field
Site Area : 1520 m^2
Building Floor Area : 328 m^2
Total Floor Area : 328 ㎡
Keywords : biodiversity, Environmentally symbiotic housing

4.　自然と関わることのメリット

自然と関わることのメリットは大きく以下の５つが挙げられる。（1）生き物と触れ合うことで命の温かみや愛着を感じることができる。（2）自然の中で見つけたもので発想力や想像力が養われる。（３）多くの種類の生きもの、植物があり、多様性を知ることができる。（４）自然の中で受け取る癒しが心をほぐして人を健やかに育てる。（５）健康で丈夫な体をはぐくみ、情緒を安定させる。

5.　設計内容

①建物計画

住み手の高齢化を踏まえて平屋のバリアフリー対応とした。住宅と体験農園用の畑を分離するため外壁には窓を設けず、中庭側をガラス張りにし、自家用の畑には開けるよう計画した。また、中庭を作ることで住まいのどこにいても自然を感じられるように配慮した。

②畑計画

地域住民とのコミュニケーションのきっかけとなり子どもから大人までが自然に関わることができる空間として体験農園を計画した。体験農園では農業経験者の指導を受けて、自ら美味しく安心で新鮮な野菜を育てる。ここでは、年に２回程度イベントを開催し、住民相互の交流のきっかけを作る。1 世帯当たり 30 ㎡を 20 区画計画した。

体験農園で栽培する野菜の例を以下に挙げる。

春	ダイコン、ヤブ、コマツナ、ホウレンソウ、タマネギ、ブロッコリー、キャベツ、ニンジン
夏	ダイコン、ヤブ、コマツナ、ホウレンソウ、タマネギ、ブロッコリー、キャベツ、ニンジン
秋	サツマイモ、カボチャ、サトイモ、コマツナ
冬	ホウレンソウ、ブロッコリー、サニーレタス、ニンジン、チンゲンサイ、ハクサイ、長ネギ

③植栽計画

この土地の潜在植生を調査した上で四季を感じられる植栽を選定した。敷地周辺の植生図を参考に以下のような植物や生物を選定した。

植物	コナラ、アベマキ、クヌギ、ヒカサキ、コバノミツバツツジ、ミツバアゲヒ、モチツツジ、ススキ、アキノキリンソウ等
生物	タヌキ、アナグマ、イノシシ、アメンボ、ツクツクボウシ、アオヤンマ、オニヤンマ、ウシガエル、カナヘビ等

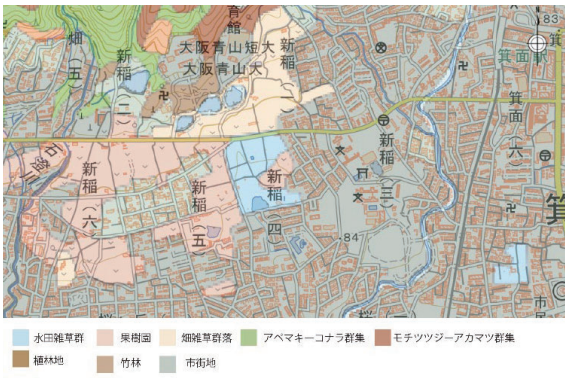


図２　植生図　（参考文献（2）引用）

また、以下の季節を感じられる樹木や一年中楽しめる常緑樹、園芸植物なども選定した。

生垣	青マサキ、カナメモチ
低木	アジサイ、ツツジ
高木	アカマツ、モミジ、カツラ
落葉樹	エゴノキ、梅、ジューンベリー
常緑樹	オリーブ、キンモクセイ
市の木、花	イロハモミジ、ササユリ
四季を感じられる樹木	アオダモ、モミジ、サルスベリ、ハナミズキ、ナンテン

以上のことから本敷地の境界線沿いには常緑樹となるようなキンモクセイやドウダンツツジを植え、中庭では潜在植生のモチツツジやアキノキリンソウ、市の木であるイロハモミジを中心にジューンベリーやカナメモチを植えた。

［参考文献］

1.　箕面市ホームページ　/　https://www.city.minoh.lg.jp/
2.　自然環境調査　/　http://gis.biodic.go.jp/webgis/index.html

（最終閲覧　2023/01/27）

街を家族へ
～岡町商店街に子供の声を～

A town to family
~The children's voice in Okamati shopping street~

学籍番号 K19367
名　　前 山下　拓己
指導教員 根來　宏典

K19367
YAMASHITA Takumi
NEGORO Hironori

1. 背景・目的

近年、子供が幼い頃から親が離婚してしまう世帯が多くなっている。

これは今に始まったことではなく、平成５（1993）年から平成15（2003）年までの10年間に94.7万世帯から139.9万世帯へと約５割増加した後，ほぼ同水準で推移している。厚生労働省「全国ひとり親世帯等調査」によると，平成28（2016）年は，ひとり親家庭数141.9万世帯のうち母子世帯数は123.2万世帯，父子世帯数は18.7万世帯となっており，ひとり親世帯の86.8%が母子世帯である。今ではその中でも大阪府が父子世帯、母子世帯含め、ひとり親世帯が全国トップとなっている。離婚してしまう原因は様々だが、幼い頃から片親から受けた愛情の量と両親から受けた愛情の量とでは、大きな差が出るに違いない。

しかしそんな寂しい思いをさせないために、片親のみならず町全体に住む様々な人からの愛情を受けることによって、多様な価値観の成長に大きくつながると感じる。そんなシェアハウスと子ども食堂兼カフェ、図書館兼自習スペース、さらには周辺施設とつながりが生まれる路地空間を計画する。

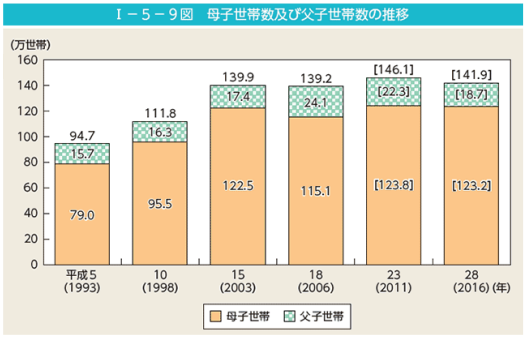


図 1　母子世帯数及び父子世帯数の推移

2. 計画敷地

大阪府豊中市にある岡町商店街とする。この商店街は東側に桜塚商店街があり、その境目に能勢街道と伊丹街道の交わる場所に位置している。昔は、商売が盛んで多くの商人がいたが、日中戦争を機に、日用品が自由に買えなくなったことで、衰え始めた。過疎化した今でも商売は行われているが、シャッターが閉まったまま、かつて繁盛していた活気は見られない。

南側にある原田神社は1300年前から今でも行われている祭りがあり、昔から歴史が深い土地である。



図 2　白線で囲われている場所が計画敷地

3. プログラム

3-1. シェアハウス

背景で述べたとおり、大阪府はひとり親世帯が全国一位を占めており、この岡町商店街の近くに小学校はあるものの、子供の声がほとんど聞こえない。ひとり親世帯の家族同士でつながりが生まれ、さらに商店街全体とつながっていくような徐々に交流の幅が広くなるような住まいのあり方を目指す。



図 3　1階の畳スペースから見たキッチン、カウンター



図 4　1階の畳スペースから見たリビング、ダイニング

また、設計内容としては1階はシェアハウスに住む世帯の共用部分。2,3階は各世帯のプライベート空間とする。1階はウォークスルークロゼットをコアにし、リビングダイニングとワーキングスペースに間仕切りは設けない。視線は遮ることができ、気配は感じる設計にした。1階のキッチンからは、リビングや畳スペース、ウッドデッキまで見渡すことができ、キッチンで料理をしていても、リビングで遊んでいる子どもたちの様子がわかるようにした。通り抜けることもできるため、回遊性があり、気持ちの良い空間になっている。

さらに2,3階の各世帯の部屋は大きく2種類の間取りに分けた。キッチンが2階に来る部屋は、階段を奥に配置し、寝室や個室を3階に配置。もう一つはキッチンを3階に配置し、寝室や個室を2階に配置。

外構では、路地とウッドデッキも繋げることで、シェアハウスに住む子どものみならず、その子供の友人を広場や路地に招けば、そこからさらに繋がりが増え、大人も巻き込まれていくことを狙っている。

所在地：　大阪府豊中市岡町８
主な用途：シェアハウス、カフェ、図書館
敷地面積：　3076.3m2
建築面積：シェアハウス：165.6244m2　カフェ：69.7523m2
　　図書館：72.0447m2
延床面積：シェアハウス：457.1156m2　カフェ：196.1818m2
　　図書館：161.4795m2
キーワード：シェアハウス・子ども食堂・商店街

Location : 8 Okamati, Toyonaka City, Osaka Prefecture
Main Use : share house café library
Site Area :3076.3 m2
Building Floor Area :share house:165.6244m2 café:69.7523m2
　　library:72.0447m2
Total Floor Area :share house:457.1156m2 café:196.1818m2
　　library:161.4795m2
Keywords:share house,children,shopping street

3-2 子ども食堂兼カフェ

子ども食堂を開催するにあたって、近くのスーパーや八百屋にて材料を調達し、街とのつながりを増やす。子ども食堂を開催している時間帯以外はカフェとして地域の人にも開放し、地域の活性化にもつなげる。

３階には屋根のないテラス席を設け、晴天時には開放する。

3-3 図書館兼自習スペース

常時開放して地域の人とも交流が生まれるようにする。図書館を利用するとき、玄関で靴を脱いで利用する。

また２階には段差を設けて子供が自然と奥に行きたがるような設計にすることで、何処で本を読んでもよいスペースとした。

３階には天井高の低い自習スペースを設け、子どもも地域の人も勉強できる。

3-4 周辺施設とのつながり

計画敷地の中央付近に、路地と広場を設け、その路地の入口は子どもが好む狭い道やトンネルのような開口を設けた。大人はあまりそういった道を好まないことを利用して、子どもが多く利用する広場も同時に計画した。



図 5 子ども食堂兼カフェの２階の内観パース



図 6 図書室兼自習スペースの２階の内観パース



図 7 路地から見た住宅群と子ども食堂兼カフェ

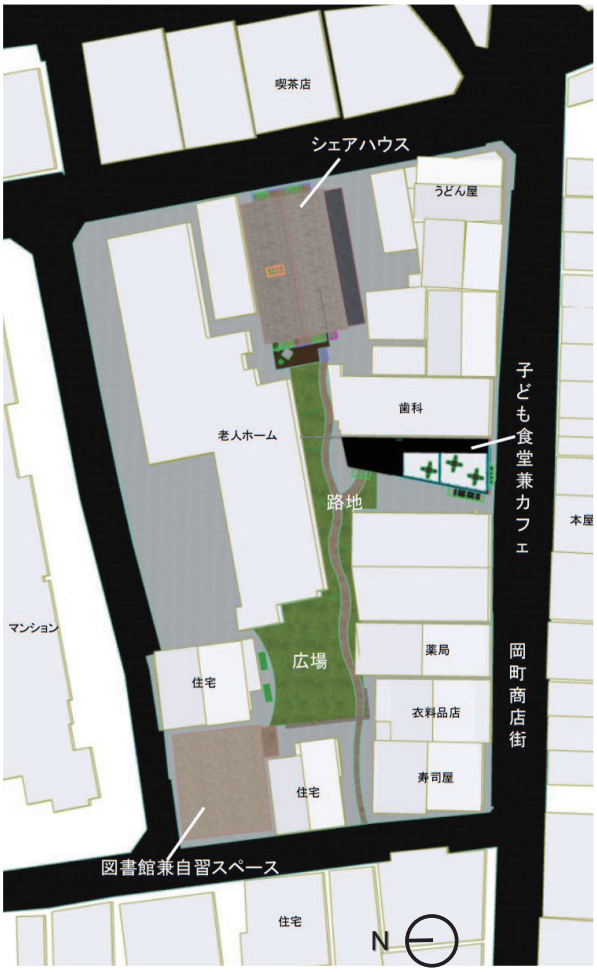


図 8 計画敷地の全体パース

4 参考文献

図１内閣府男女共同参画局：https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/r01/zentai/html/honpen/b1_s05_02.html

五重塔の設計技法の研究

学籍番号　K19369
名　　前　吉田仁美
指導教員　大上直樹　特任教授

五重塔　**林家文書**　**安田家文書**
平面寸法　**高さ寸法**　**枝数**

研究目的

本研究は中世末の木割書と現存遺構の事例を基礎資料として五重塔の設計技法を明らかにすることである。木割書の分析研究としてはいまだ十分に研究が進んでいない初期木割書を読み解き、現存遺構の分析では国宝・重要文化財の五重塔について平面および高さ寸法の決定技法を解明する。

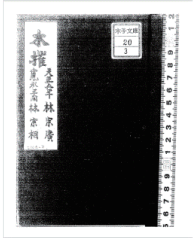
仮説

本論の仮説としては五重塔を設計するには決められた手順がありそれに則って寸法を決定していると推測する。手順には黄金比や裏目などの比率が強く関わっており、それをもとに大きな寸法から順に小さな寸法をきめていると考える。

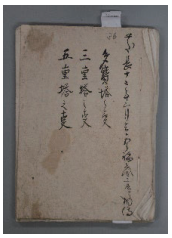
研究対象

本研究で対象とするのは中世末の木割書と現存遺構の五重塔である。中世末の木割書からは重要文化財木子家伝家文書林家文書『木摧』、安田家文書『多宝塔の古又』の二つを選出する。現存遺構の五重塔としては国宝・重要文化財に指定されている 23 基の中から修理工事報告書が確認できた 14 基を対象とする。

重要文化財木子家伝家文書林家文書『木摧』



安田家文書『多宝塔の古又』



対象とする 14 基の五重塔

名前	種別	場所	時代	年代	西暦	総高(尺)	相輪高(尺)	相輪高/総高	全枝数
法隆寺五重塔	国宝	奈良県	飛鳥	—	(709)	107.44	31.97	0.30	868
室生寺五重塔	国宝	奈良県	平安前期	—	(1184)	53.20	15.05	0.28	1,296
醍醐寺五重塔	国宝	京都府	平安中期	天暦 六	952	125.95	42.28	0.34	1,768
海住山寺五重塔	国宝	京都府	鎌倉前期	建保 二	1214	58.43	16.40	0.28	1,504
明王院五重塔	国宝	広島県	室町前期	貞和 四	1348	96.17	25.34	0.26	2,120
羽黒山五重塔	国宝	山形県	室町前期	応安 五	1372	96.37	23.27	0.24	2,128
興福寺五重塔	国宝	奈良県	室町中期	応永 三三	1426	167.70	50.00	0.30	2,432
瑠璃光寺五重塔	国宝	山口県	室町中期	嘉吉 二	1442	98.99	28.10	0.28	2,256
本門寺五重塔	重文	東京都	桃山	慶長 十二	1607	96.52	19.47	0.20	2,376
教王護国寺五重塔	国宝	京都府	江戸前期	正保 元	1644	181.00	50.30	0.28	2,160
最勝院五重塔	重文	青森県	江戸中期	寛文 六	1666	103.10	30.90	0.30	1,448
日光東照宮	重文	栃木県	江戸後期	文政 元	1818	112.00	26.50	0.24	2,128
備中国分寺五重塔	重文	岡山県	江戸後期	文政 十三	1830	113.25	24.71	0.22	2,600
善通寺五重塔	重文	香川県	江戸末期	明治 三五	1902	149.25	41.53	0.28	2,400

木割書の検討

木割書の分析研究では

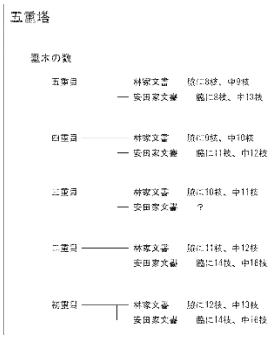
・重要文化財木子家伝家文書林家文書『木摧』
(都立中央図書館蔵)

・安田家文書『多宝塔の古又』　(斑鳩町委員会蔵)

上記の二つをそれぞれ読み下し、分析する。またこれら二つの比較も行い共通している項目がないか調べる。

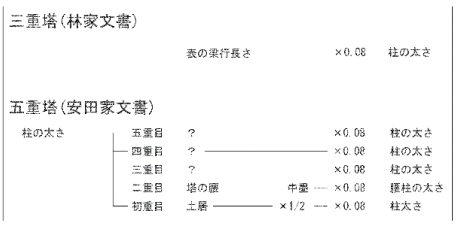
この二つの木割書は中世末に書かれたもので、言葉使いや文字も現代とは異なる。研究するにあたって文字や単語を現在使用されている平仮名・漢字になおし読み下した。そして読み下した文から部材の寸法決定について分かったことを表にまとめ、分析する。基本的に五重塔の記載のみを拾い出すが林家文書『木摧』は 7 行しか載ってなく分析が十分に進まなかったため三重塔についても触れていく。

下の表は林家文書と安田家文書を項目ごとに分け比較したものである。



垂木数の比較では異なる結果となった。林家文書は初重中央間十三枝、脇間十二枝から一枝ずつ減少している。安田家文書は中央間十六枝、脇間十四枝と林家文書に比べて多い。三重目の記載がなく垂木数の変化は判明しないが一定ではない。

柱太さの比較では林家文書は五重塔の記載にはなかったため三重塔から拾い出した。どちらも基準となるものに 0.08 を掛けて求めている。



現存遺構の分析

現存遺構の分析研究は国宝・重要文化財に指定されている 23 基の中から修理工事報告書が確認できた 14 基を対象とする。この研究は総間長さや総高などの主要寸法の分析を進めその決定法を解明することを重視する。総間長さや柱の割振りなどの平面寸法と、柱・土居桁位置の高さ寸法の 2 部に分けて分析を行う。分析するにあたり図面は修理工事報告書に掲載されていた断面・立面図、各層平面図を使用する。入手した図面を CAD データに変換、縮尺を合わせて規模や主要な部材の寸法を計測しそれぞれの比率を求める。出てきた数字を表にまとめ 14 基に共通するかどうかだけではなく、その 1 基ならではの特徴を分析する。

平面寸法決定技法

・土居

各層の総間長さの比率を求めたところ 14 基全てで比率関係が見られた。とくに初重目と五重目で黄金比や裏目となる事例があった。これらから初重から比率によって五重目の総間長さを決定したと言える。

・柱割

柱割では柱をどのように配置するのかを分析する。方法としては中央間と脇間寸法の比率関係を求める。整数比となれば柱位置は総間長さをもとに決定していることになる。分析の結果多くの事例で整数比となった。五層のうち四層で同じ形の比率となった五重塔が 6 基確認できた。

・垂木割

垂木割では中央間と脇間に垂木をそれぞれいくつ架けるのかということと五重塔全体の総数を調べ、法則性がないか分析する。結果柱割をもとに垂木割を決定している事例がいくつかあった。また総垂木数では端数の無い切りの良い数字となる五重塔が 2 基あった。時代が下るにつれて垂木割の決定法が一本化した可能性がある。

高さ寸法決定技法

・土居桁位置

土居桁は側柱の下にあり土台である。高さ寸法を分析するうえで柱下端位置が基準となっていると考え柱位置すなわち土居桁の位置がどのように決定するのかを研究する。結果は全体的に 1 : 1 という比率が共通して見られたが五層全てで揃うことは無く、各層異なる事例もあった。ただ高さ寸法は整数比で表すことができたことから高さを決定するにも比率を用いたと言える。

木割書と現存遺構の比較

林家文書と安田家文書の二つの木割書と 14 基の五重塔の寸法や部材の数を比較する。

・垂木数

垂木数については本門寺五重塔が林家文書と五層全てで一致した。

層	垂木数					
	林家文書		安田家文書		本門寺五重塔	
	中央間	脇間	中央間	脇間	中央間	脇間
五重	9	8	13	8	9	8
四重	10	9	12	11	10	9
三重	11	10	ー	ー	11	10
二重	12	11	16	14	12	11
初重	13	12	16	14	13	12

・勾配

勾配は飛檐垂木勾配、地垂木勾配、尾垂木勾配の三種類を比較する。林家文書は記載が無く瑠璃光寺五重塔は断面図がなかったため対象は安田家文書と 13 基とする。

結果地垂木勾配は同じ数値となる事例、層がいくつかあったが尾垂木勾配は一例もなかった。安田家文書に記載されている勾配は比較的低い勾配であった。

・柱太さ

木割書と現存遺構の柱太さはそれぞれどのように決定するのかを比較する。現存遺構では初重の柱太さを土居、初重の総間長さで割って求めた。木割書の分析で判明した 0.08 と同じ数値となった事例は 6 基ある。他にも 0.07、0.06 と近い数値となった。

名前	初重の柱太さ a	土居　b	a / b	四捨五入
法隆寺五重塔	1.52	21.18	0.072	0.07
室生寺五重塔	0.90	8.06	0.112	0.11
醍醐寺五重塔	1.70	21.89	0.078	0.08
海住山寺五重塔	0.64	9.04	0.071	0.07
明王院五重塔	1.14	14.40	0.079	0.08
羽黒山五重塔	1.20	16.56	0.072	0.07
興福寺五重塔	2.15	29.20	0.074	0.07
瑠璃光寺五重塔	1.40	16.82	0.083	0.08
本門寺五重塔	1.10	15.99	0.069	0.07
教王護国寺五重塔	2.45	31.28	0.078	0.08
最勝院五重塔	1.16	18.92	0.061	0.06
日光東照宮五重塔	1.32	16.00	0.083	0.08
備中国分寺五重塔	1.20	19.56	0.061	0.06
善通寺五重塔	1.71	21.12	0.081	0.08

結論

木割書の分析で初重から上層へ順に書かれていたため設計も初重から行ったと判明した。また現存遺構の分析から初重と五重に黄金比や裏目が見られたためはじめに初重の総間長さを決め次に五重目を決定したと言える。柱割にも比例関係があったことから比率が五重塔の設計において重要であることが判明した。

Rest　Time

学籍番号：K19371
名　　前：渡辺稔史
指導教員：宮内智久

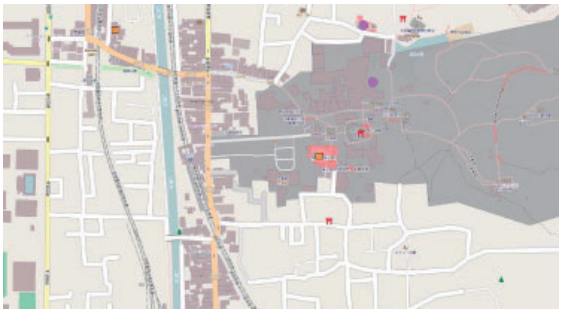
背景と目的

京都市伏見区に 23 年間住んできて感じたことは 2 つある。1 つ目がこの町を訪れる観光客の多さだ。2 つ目が反対にこの町に住む比較的若い世代の住人が町の観光地などに対する認知度や足を踏み入れる頻度の低さだ。まず 1 つ目については、多くの方たちが知るように京都市伏見区には京都を代表する街並みや神社や寺が多く点在しており、ここ十数年の間に伏見稲荷大社を中心として爆発的に増加し日々多くの観光客が際限なく訪れている。次に 2 つ目について、自分が今までこの町で関わってきた周囲の多くの若者がこの町に対しての知識は乏しくほとんどが無関心といってもいいほどでした。そこでさらに活性化することや、伏見区にあまり関心のない多くの若者が現存する観光地や名所に足を踏み入れ理解や親しみを持たせることが今回の制作の目的である。



敷地の選定

住所：京都府京都市伏見区深草稲荷御前町 73



選定敷地は、京都市伏見区の代表的存在となっている伏見稲荷大社。その中の参道沿いに面している広い駐車場(写真 1)です。

Rest　Time

Student Number：K19371
Name：Toshifumi　Watanabe
Supervisor：Tomohisa　Miyauti

敷地と周辺状況

伏見稲荷大社へのアクセスは主に、少し離れた徒歩 10 分ほどの位置にある京阪伏見稲荷駅から続く道と、参道から出てすぐ目の前にある JR 稲荷駅の道からの 2 つである。計画をする JR 稲荷駅からのアクセスは京阪伏見稲荷駅からに比べて少ない印象を受ける。なぜなら、JR 沿線から続く参道には訪れる人たちの目を引く大きな赤い鳥居(写真 2)がたっているがその先の参道には駐車場と参道を分け隔てる塀が続き、殺伐とした雰囲気に感じる。反対に、京阪沿線からのアクセスでは少し小さい鳥居の奥には、商店が本宮まで長く続き参道商店(写真 3)とまで言われ観光客はその方向から入っていくのを多く見る。この違いが上記の印象を与えているように思える。こういった差を埋め、さらに現存する参道商店の賑わった雰囲気とは異なり、地域の人々も何気なく足を踏み入れられるような落ち着いた静寂な雰囲気を醸し出す参道へと変化させ、コロナ禍を脱した後の観光客や地元住民の動きを活性化させるような計画を進めるまた、計画を進めるうえで敷地が JR 稲荷駅とほとんど直接的につながっていることから、駅改札からの展開する敷地の見え方やアプローチ方向をも注視して進めていくことが重要になってくると感じた。

(写真 1)





(写真 2)



(写真 3)

所在地：京都府京都市伏見区深草稲荷御前町 73
主な用途：飲食店・店舗・ギャラリー
敷地面積：1315.82m^2
建築面積：336.39m^2
延床面積：362.89m^2
キーワード：町屋・参道・伏見

Location : 73.　Hukakusainarionnmaetyou.husimiku.kyoutosi.kyoutohu
Main Use : Caffe,Shop,Gallery
Site Area : 1315.82 m^2
Building Floor Area : 336.39 m^2
Total Floor Area : 362.89 m^2
Keywords : Machiya,Sando,Fushimi

計画概要

今回の卒業制作で計画を進めるうえで気兼ねなく立ち寄れるように、木造住宅町屋のような落ち着いた雰囲気の建築を参道へ向けて解放し人の出入りが活発になるようにした。そして敷地に現存する駐車場が参道に沿って縦長に続き本殿に向かっていることを利用し、敷地の中央に同じく街路のような参道だけでなく落ち着いた静観な雰囲気を楽しみながら歩く道(街路)をもう一つ加えて計画した。この道を進んでいくことで「京都市先斗町」のような、裏道で落ち着いた雰囲気の空間を散策できる。この道は計画したカフェ・店舗・ギャラリー・飲食店に囲まれておりゆっくり腰を落として休める空間や伏見区を味わうことができる店舗(お土産屋)・ギャラリーを伏見稲荷大社に向かう道中や、伏見稲荷を立ち去る道中にも立ち寄ることができる。参道に沿って計画した建築は JR 稲荷駅から伏見稲荷の眺望をできる限り確保するため多くを平屋建てとし、現存する駐車場、駐輪場との境界に設けられている塀を撤去し改札から出たとたんに伏見稲荷を味わう事を可能にした。また昼だけでなく、夜も解放されていることを利用して飲食店・カフェも解放しまた違った雰囲気を味わってほしい。



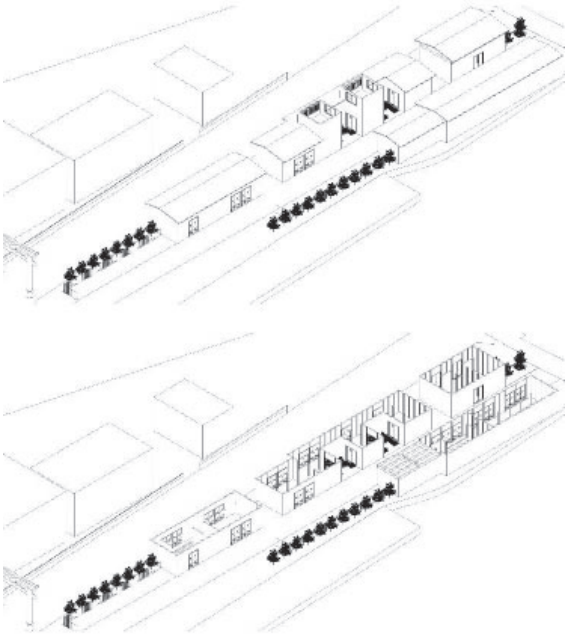
JR 稲荷駅からの突き抜ける参道と建築



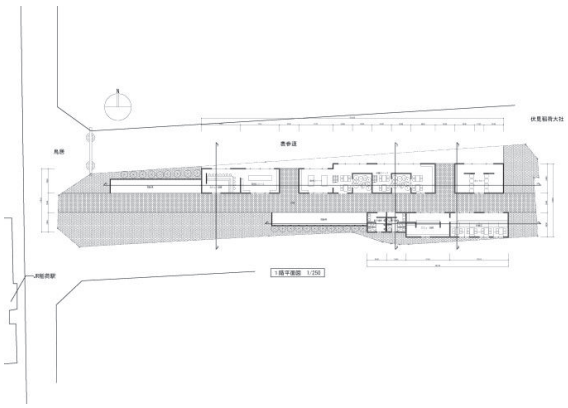
伏見稲荷本殿からの表参道と建築



立面図　1/250



1 階・2 階アイソメ図



コントラスティブ・ハウス
若手お笑い芸人のためのシェアハウス

学籍番号　K19372
名　　前　渡辺龍登
指導教員　江本弘

Contrastive House
A Shared House for Rookie Comedians

Student Number　K19372
Name　WATANABE　Ryuto
Supervisor　EMOTO　Hiroshi

背景・目的



ブレイク前の若手芸人の主な収入源は、芸人としての仕事をこなしながらのアルバイトであり、あまり稼げていない人がほとんどだ。さらに近年では近隣への騒音を避けるため、ネタ合わせ禁止の公園も増えてきている。そこで、生活費用を抑えられ、心置きなくネタ合わせのできるシェアハウスを計画しようと考えた。また、ここ数年で、シェアハウスに居住する芸人も多くおり、芸人向けのシェアハウスも存在している。
ネタ合わせ・ネタ見せのできるホールを設けた、住める稽古場といった形で、笑いの要素ともなる緊張と緩和などを含むコントラストを取り入れたシェアハウスを計画する。

敷地概要

大国町駅から徒歩 5 分、なんば駅から徒歩 12 分に位置する敷地で、最寄りの大国町駅や大阪の中心部へのアクセスが非常に良い。また、浪速区敷津西は詩人、折口信夫の生誕の地であり、選定した敷地内にも折口信夫生誕の地碑が建立されている。



折口信夫選手の地碑

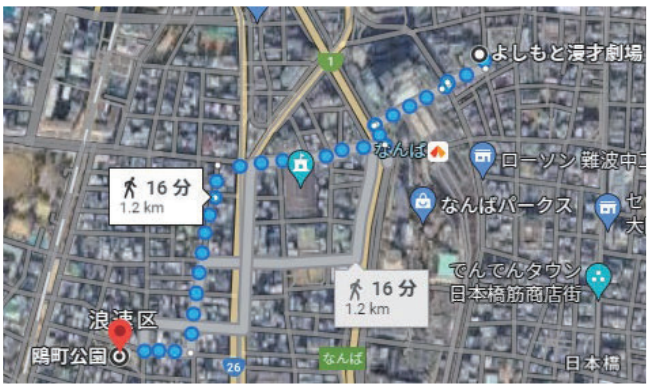
選定理由

入居者の主な活動拠点となる劇場や養成所から近く、公共交通機関へのアクセスが良いため選定した。

ターゲット（入居者）

・若手お笑い芸人
・養成所の生徒



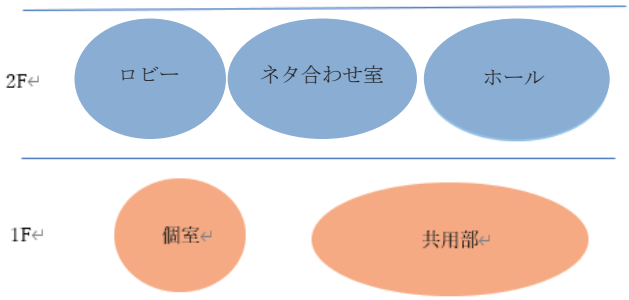


所在地：大阪府大阪市浪速区敷津西１丁目 7-12
主な用途：シェアハウス
敷地面積：1200㎡
建築面積：596.2㎡
延床面積：994㎡
キーワード：シェアハウス、お笑い芸人、稽古場

Location : 7-12,　Shikitunishi,Naniwa-ku,Osaka-shi,osaka
Main Use : Share-house
Site Area : 1200m^2
Building Floor Area : 596.2 m^2
Total Floor Area : 994 m^2
Keywords : Shared-house,Comedians,Rhearsal hall

具体的な用途

1 階は主に各入居者の個室と共用部、２階はネタ合わせ・ネタ見せのできるホールを設け、いつでもネタの練習ををすることができるホールを設けることで、建物内に緊張と緩和を生み出している。





一階を RC 造、二階を木目調サイディングにし、建築としてのコントラストも落とし込み、緊張と緩和を表現している。





鷗町公園入口

参考資料

大阪・兵庫でシェアハウス|class ハウス
http://class-house.com/
吉本 NSC 卒業生が語る NSC での 1 年間
http://katsupd2001.web.fc2.com/index/rennsyuubasyo.html
読め！/浜田雅功
遺書/松本人志　etc.



Starting Point

学籍番号 T21002
名　　前　関優希
指導教員　永井秀幸

Starting Point

Student Number　T21002
Name　　Yuki　Seki
Supervisor　　Hideyuki　Nagai

1. 着想に至るまでの背景

1-1. リニア計画

1962 年から東京―大阪区間の所要時間 1 時間を目標にリニア新幹線構想がスタートした。60 年を超える時をかけていたが、2027 年に御伽話のような存在であったリニア新幹線が東京―名古屋区間にて開通されようとしている。1997 年にリニア新幹線の実験場が宮崎県から山梨県へ移転し現在、実用に向けて調整が行われている［1］。2027 年に開通に向け山梨県ではリニア駅の計画が進められており、計画案が山梨県の公式ホームページに掲載されている。これによると、リニア中央新幹線開通による経済効果は山梨県が最も高くなるとなっており、リニア駅を観光や防災を中心とした交通結節点として計画している。また、次世代モビリティとして、日本版 MaaS や自転車などのシェアサービスなども検討されている［2］。

1-2. コロナ禍と観光業

コロナウイルスにより観光業が大打撃を受けた中で、観光業による経済効果を過度に期待するのは大きなリスクを伴うと考える。東京―山梨区間が現在の 90 分から約 20 分になると言われており首都圏からの観光スポットとして今以上に需要が上がることは必然である。しかし、今後第 2 第 3 のウイルス等による移動の自粛などが行われた際、観光による収入は大きく減少してしまうことも明白であり、観光だけに依存するのはリスクを伴う。

1-3. 首都圏からのアクセス性

首都圏からのアクセスが向上すれば、山梨県から首都圏へのアクセスも向上する。つまりリニア開通後、山梨県へ移住しそこから首都圏、あるいは名古屋方面への通勤・通学をすることができるようになる。加えて、山梨県は半導体などのものづくり産業や燃料電池関連技術に関する研究開発拠点が集まっている。これらの産業を更に発展させる一方、首都圏と名古屋の中間地点に位置し、リニア新幹線を利用することによって両方からアクセスしやすいという利点を生かしアメリカのシリコンバレーに習い「山梨バレー的」なものを整備していくことも可能ではないかと考える。多くの企業が山梨県へ誘致されることにより、移住者が増加し、自然と共にある新たなオフィスとして定着することが可能である。

1-4. 山梨県の現状の課題

現在の山梨県の課題は人口減少であり、その中でも若年層が首都圏を中心に県外へ流出してしまっていることが最大の問題であるに［3］。人口が減少してしまうことによって集落の過疎化や税収の低下、公共施設の需要低下など様々な問題へと発展してしまっている［4］。この課題に対処する為には移住者を増加させる必要がある。そして、そのためには新たに住宅やマンションなどを増やして、ベッドタウン的機能を備えるだけでなく、リニア開通後の山梨県に通勤することができるようオフィスやものづくり産業の工場などを誘致する必要がある。これらの建築物を建てる為に新しく土地を探す必要がある。そして、これらの建築物を立てるために新しく用地を確保する必要がある。その際に、山梨県の観光の魅力の一つでもある自然環境を破壊してしまう可能性がある。建築の建設と、自然環境保護とのバランスも大きな課題の１つであると考える。

2. 計画概要

2-1. 計画概要

これまでの背景から新たな山梨県の拠点となるリニア新幹線の駅を設計することにした。観光客だけでなく移住者が利用することも考慮した駅を設計していく。

所在地：山梨県甲府市大津町 20
主な用途：駅
敷地面積：約 200000m^2
建築面積：約 40360m
延床面積：約 122860m^2
キーワード：リニア・駅・宿泊施設・商業施設

Location : 20,Otsumachi,Kofu-shi,Yamanashi
Main Use : Station
Site Area : 20000 m^2
Building Floor Area : 40360 m^2
Total Floor Area : 122860 m^2
Keywords : Maglev Shinkansen, Station, Hotel, Commercial facility

2-2. 現地調査

リニア山梨駅予定敷地で現地調査を行った。リニア山梨駅予定地は畑になっており一部の敷地をＪＲが管理している状態であった〔図 1〕。敷地南側は工業団地になっており「NEC プラットフォームズ甲府事業所」など、製造業の企業が並んでいる〔図 2〕。また、「アイメッセ山梨」という名称の、産業、ビジネスを支援する公共施設が建っていた〔図 3〕。建設予定敷地は、高速道路とバイパスに囲まれており車でのアクセス性は高かった。周辺を散策したところ、住宅も点在しておりリニア新幹線開通時には は住人の生活環境に配慮する必要がある〔図 4〕。



〔図 1〕JR の管理された敷地



〔図 2〕工業団地名称



〔図 3〕アイメッセ山梨



〔図 4〕敷地北からみえる住宅

2-3. 駅の機能

駅のデザインは武田信玄の家紋を取り入れた四角の形を取り入れつつリニア新幹線の大きさに合わせるようにした。駅の機能は通勤、通学で日常的に駅を使う人と観光や仕事で訪れる人両方に焦点を当てた。駅を日常的に利用する人は東京又は名古屋方面へ 20 分以上リニア新幹線に乗車すると考えられることから車内で朝食を取れるよう店舗を配置した。また、駅を利用する際に立ち寄ることができる学習塾を始めとしたいろいろなスクールや学生活動に含まれる部活動等で需要が見込まれる店舗もいくつか配置した。他にもスーパーマーケットを配置することで仕事帰り等に買い物もすることができ駅を利用することで日常生活をある程度完結させられるように考えた。観光客等に向けては利用が大きく見込まれる為ホーム内に待合室を複数配置した。ゆとりのある動線にすることで人の行き来もしやすく密集しにくくなっている。駅南側はコテージを配置して宿やオフィスとして利用可能になっている。反対側にはブドウ農園を配置しワイナリーにてリニア駅産ワインを作ることができ、ワイン博物館にもなっている。

3. 参考文献

［1］山梨県立リニア見学センターホームページ　リニアの歴史
https://www.linearmuseum.pref.yamanashi.jp/sp/about/history.html
［2］山梨県公式ホームページ　これまでの構想・計画（リニア駅周辺整備関連）
https://www.pref.yamanashi.jp/linearkt/koremade.html
［3］山梨県公式ホームページ　山梨県の推計人口・世帯（令和４年２月１日現在）
https://www.pref.yamanashi.jp/shinchaku/toukei/0402/toukei21.html
［4］公共施設マネジメントにおける合意形成の意義　志 村 直 毅
https://core.ac.uk/download/pdf/228505449.pdf

繋げ繋がる高架下建築

学籍番号 T21003
名　　前 竹元 玲浩
指導教員 人見 将敏

Connected underpass architecture

Student Number T21003
Name Takemoto Akihiro
Supervisor Hitomi Masatoshi

1.はじめに

ゼミ活動で“青木淳の原っぱ遊園地”を読みニューヨークにあるハイラインに出会う。ハイラインはかつて使われていた高架鉄道が廃線となり放置された高架跡を再開発し空中庭園を設計し、ハイラインが整備されたことにより多くの人が訪れハイライン周辺エリアの価値を大きく上げることに繋がった。そこで既存の建物をすべて取り壊し、一から新しいものを計画するのではなく既存の建物に手を加え別の用途を見出す事例に興味を持ち、卒業制作の方針とした。

・経緯

高架下の建築は都心部に多く見られるが都心部から離れたところでは駐車場として利用されるか、そのまま空き地として放置されることが多いため都市部ではないところの高架下に着目し計画を練ろうと考えた。

2. 設計について

2-1 選定敷地

大阪府東大阪市西鴻池町１丁目１６（大阪府東大阪市 JR 鴻池新田駅以西 JR 線高架下）

2-2 背景、現状

大阪市内を走る大阪モノレールは 2029 年を開業目標に、門真市駅から瓜生堂駅までの約 8.9ｋｍの延伸事業を行い、延伸区間途中に新たに４駅を開業する予定でありそのうちの一つである「鴻池新田駅（仮称）」はＪＲ学研都市線との乗換駅として期待されている。しかし両駅はおよそ 500m離れており利便性は劣ってしまう。また両駅間は住宅が多く閑散としており、さらに街灯も少ないため、夜間の歩行は注意が必要となる。その他に JR 線高架下の南側には公立高校があり朝夕は学生が良く通る場所でもあり、周辺に住む人も通勤通学で通る。加えて新駅の開業により乗換駅としての利便性が高まれば、地元住民のみならず多くの人が行き交う場所となる。そして今現在は一部駐車場として利用されているが空き地になっている箇所が目立っている。

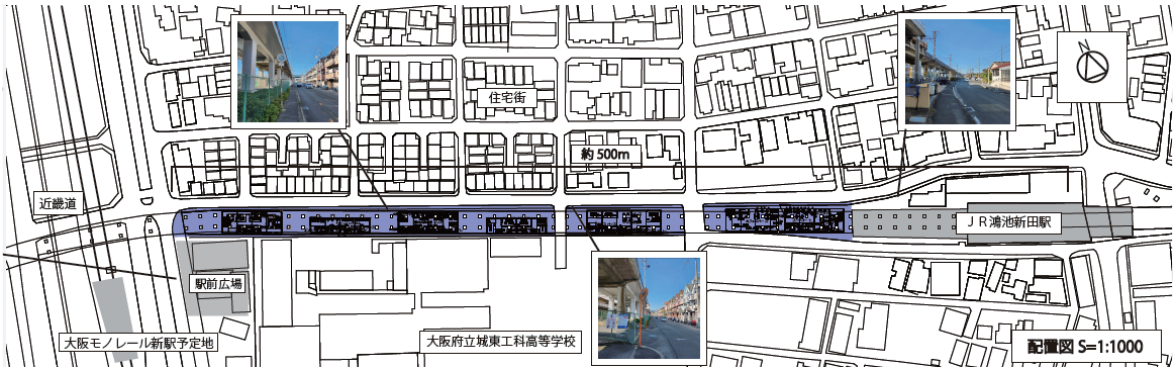


図１：配置図と敷地周辺の状況

2-3 設計意図

選定敷地からみて東側には JR 鴻池新田駅、西側には開業予定の新駅、北側は閑静な住宅街、南側は公立高校である。それにより学生から社会人、主婦の方や高齢者など幅広い年齢層の方が利用出来る施設を計画し、駅と駅を繋ぐだけでなく人と人とも繋がる場所を提供する。高架下は「薄暗く気味が悪い」という従来のイメージを払拭するために、朝から晩まで一日中利用出来るような施設を計画する。かつて高架下を利用してこなかった事をふまえ、建築を通して高架下へ足を踏み入れてもらい、常に高架下を歩行、利用してもらえるような計画とした。

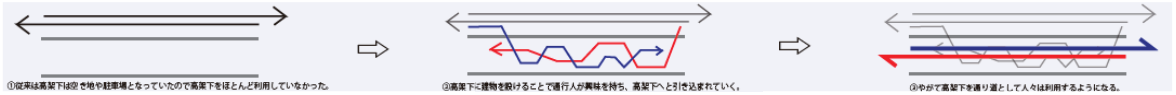


図２：ダイアグラム

所在地：大阪府東大阪市
主な用途：商業施設
敷地面積：4,918.561m²
建築面積：2,464m²
延床面積：4,928m²
キーワード：高架下

Location : Higashi Osaka City, Osaka Prefecture
Main Use : Commercial facility
Site Area : 4,918.561m²
Building Floor Area : 2,464m²
Total Floor Area : 4,928m²
Keywords : Underpass

3. 用途、規模について

3-1 敷地建築情報

区画名	敷地面積（m²）	建築面積（m²）	形式	用途地域
八八区	1491.406m²	768.00m²	鉄骨造	商業地域
八５区	863.462m²	480.00m²	鉄骨造	商業地域
八３区	2563.693m²	1,216.00m²	鉄骨造	商業地域

表１：計画した建物の詳細

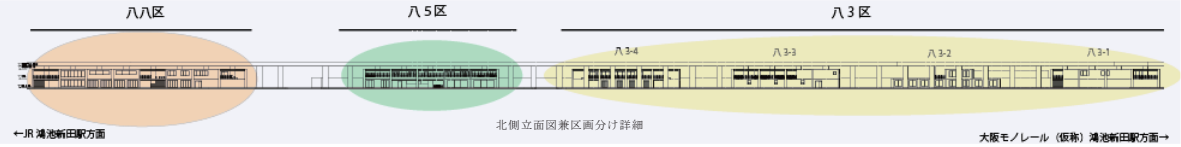


図３：区画分けの詳細

3-2 建築形式

全て鉄骨造で８ｍ×８ｍ、８ｍ×１０ｍ、８ｍ×１２ｍとそれぞれ構造フレームを変えた。

3-3 高架下について

ＧＬから高架下までの高さは6.5m柱の間隔は8.0m、柱の大きさは1.5m角



写真１：実際の高架下の写真

4. 計画内容

4-1 平面図



図４：２階平面図

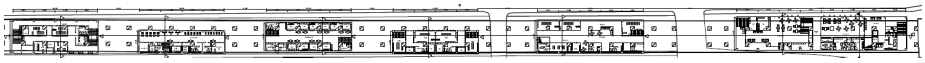


図５：１階平面図



写真２：JR 鴻池新田駅近くの八八区の外観パース



写真３：大阪モノレール新駅近くの外観パース



写真４：とある建物１階の飲食店が立ち並ぶ内観パース



写真５：地元住民や近くの高校生が交流できる所の内観パース

参考文献：

・大阪モノレール延伸事業：https://www.osaka-monorail.co.jp/know/stretching/　・https://osakalshop2channel.jp/blog-entry-830.html

高校生の秘密基地

学籍番号　T21004
名　　前　名原千晴
指導教員　森重教授

はじめに

私は若者の居場所について興味がある。現在自分の居場所があると答えられる若者はどのくらいいるだろう。

実際に若者の居場所について調べてみると、学校という場所が居場所になっている割合が 50%を切っていることが分かった。１日のほとんどの時間学校で過ごすのにも関わらず学生にとっての居場所としての認識がされていないことが分かり、学校自体を学生の居場所にすることはできないかと思い、卒業制作のテーマに決めた。

現在の学校

「クラス替えをきっかけに仲の良い友達と離れ、新しいクラスに馴染めず居場所がなくなったと感じる」という意見や、「一人で過ごすのが好きだが、教室に一人でいると周りの目が気になる」という意見が多くみられた。このような悩みが生まれるのは学校の空間設計に原因があるのではないだろうか。ほとんどの学校が大きな箱の中に効率よく規則正しく箱を並べられたような作りになっていると思う。そのため、それぞれの空間が明確に分けられ、いわゆる閉ざされた空間になってしまっているため、仲のいい友達がいても教室に入ったり、声をかけたりするのに躊躇してしまうのではないだろうか。実際この経験をした人も少なくないだろう。

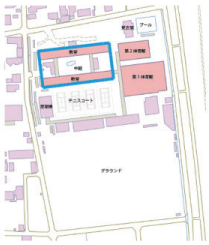
また、一人で過ごすことのできる空間がとても少ないと思う。一人で過ごすことが好きで周りの目も気にならないという学生は教室で過ごすこともできると思うが、周りの目が気になる学生や、クラスに仲のいい人がいなくて一人になってしまい居心地が悪いという学生もいると思う。一人になりたい時には、トイレの個室、図書室、保健室などがあげられていたが、いつでも空いているとは限らない。

そして、先生と生徒が気軽に話すことのできる空間がない。職員室も学生が利用する空間と明確に分けられているため入りづらく、先生に質問したり、相談したくても躊躇してしまったり、たとえ入ったとしても他の先生がいる空間で話さなければならなかった経験がある人もいるだろう。そこで今あげた 3 つの点を改善し、学生の居場所となるような学校を提案する。

計画概要

鳥取県倉吉市下田中 801　敷地面積　47,000 ㎡



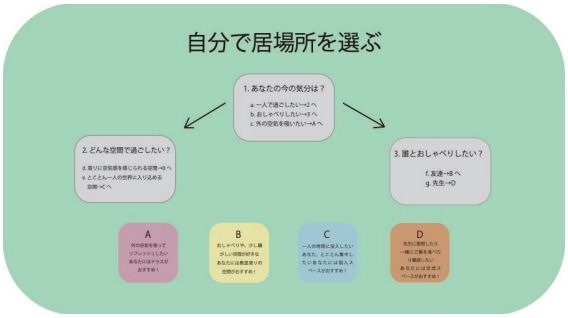


high school student　secret base

Student Number　T21004
Name NABARA Chiharu
Supervisor MORISHIGE Sachiko

計画内容

前提としてこの計画における「秘密基地」とは自分が選んだ空間で自分の好きな過ごし方ができる空間とする。その日その時の気分で過ごしたい空間は違ってくる。しかし従来の学校では過ごす場所、選択肢が限られてしまっているのではないだろうか。そこで自分の意志で過ごしたい空間を選ぶことができるようさまざまな空間を計画する。



A.外とつながる空間

建物外にも外で過ごせる空間を設けた。ここで気分転換や勉強のリフレッシュを図ったり、外でのんびりと過ごしたりすることができる。

B.生徒同士の行き来がしやすい教室計画

従来の片側廊下の明確な区切りのある教室配置ではなく、バラバラに配置することで教室と教室の間での交流を図る。また、壁の一部を取り払うことでクラスというまとまりは残しつつ、他クラスとの繋がりを持たせるように計画する。

C.個人の空間

今までなかった学校の中で一人になれる空間として個人ブースを設ける。これを作る上で完全に孤立した空間にはならないように、上部に空間を持たせ、周りの音が聞こえるようにした。また教室付近、多目的教室側の 2 箇所に配置し、より過ごしたい空間を選べるようにした。

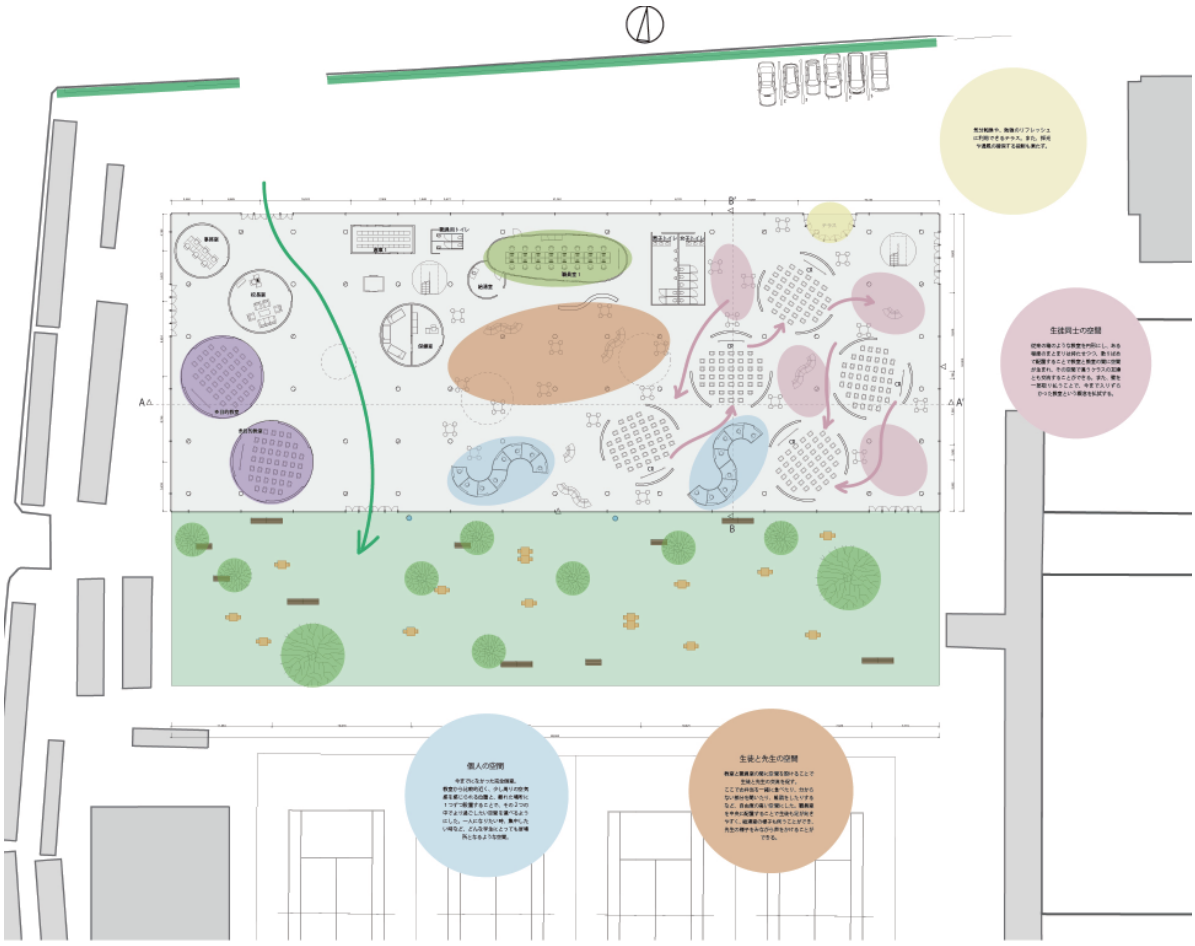
D.生徒と先生の交流

先生が過ごす職員室とは別に、生徒も先生も利用できるオープンな空間を設け、気軽に話したり、質問したり相談ができるような空間を設けた。この空間を建物の中央に配置することで、どこからでも気軽に利用できるようにした。また、普段職員室の様子を感じることは難しいが、周りを一周できる配置になっており、先生が職員室にいるかどうか、今時間はありそうかどうかなど、タイミングを測って声をか

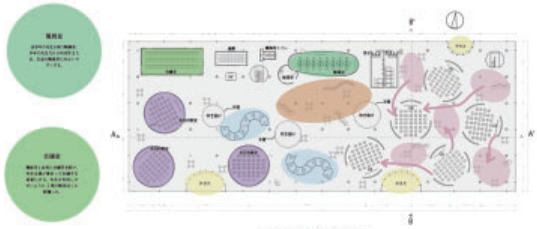
所在地：鳥取県倉吉市下田中 801
主な用途：高等学校
敷地面積：47,000m²
建築面積：2,992m²
延床面積：2,779m²
キーワード：居場所、秘密基地

Location : 801,Shimotanaka,Kurayoshi,Tottori
Main Use : high school
Site Area :　47,000m²
Building Floor Area : 2,992m²
Total Floor Area : 2,779m²
Keywords : whereabouts、Secret base

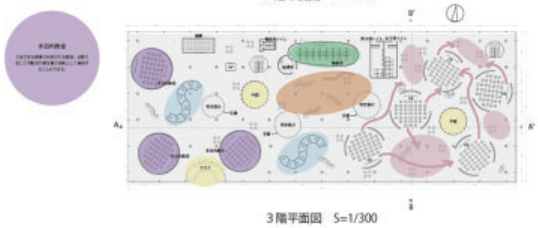
けることができる。



1 階平面図兼配置図　S=1/200



2 階平面図　S=1/300



3 階平面図　S=1/300

学年でまとまりをもたらす職員室

従来は先生全員が集まる職員室だが、学年ごとに設けることで先生同士のまとまりを生み出す。そして、よく顔を合わせる先生がいるフロアになるため、より生徒が先生と生徒の交流スペースに足が向かいやすいように工夫した。全員の先生が集まる際には会議室を利用し、2 階の階段の近くに設けることで行き来がしやすいように計画した。

可動式の壁

多目的教室は必要に応じて可動式の壁を動かして扉の代わりにし、時と場合に応じて閉じた教室としての機能も果たす。

水と布と生きる
星の王子さまミュージアムと音環境

学籍番号　T21005
名　　前　宮島 はるみ
指導教員　人見 将敏

Living with water and cloth
Museum of The Little Prince and Sound environment

Student Number　T21005
Name　Miyajima Harumi
Supervisor　Hitomi Masatoshi

1.制作の動機　―　「音」について

音環境をテーマにした理由は、音楽が好きで、音に関わるモノづくりに携わりたいと考えたからである。

人間にとって音は情報を仕入れる大事なトピックスのひとつである。そんな音に関連して本制作を進めていく。

「星の王子さま」は今の流行の本ではないかもしれない。この話はかつて心に余裕がなかった私にゆとりをもたらしてくれた。この本を知ってもらえる場所を残したいと考え、本計画を進めてきた。是非、多くの子どもに知ってほしい。くわえて、星の王子さまを読んだことがある大人に懐かしいと思ってもらいたい。

2.音環境と音デザイン

音は目には見えない抽象的な現象である。参考とした本には、ピアニストが人の心を整える音の響きを生み出すために、音を捕まえ、作曲するための”生きた事例”が書かれている。音のなかでも、大きく BGM(バックグラウンドミュージック)/空間で鳴らす音と BGN(バックグラウンドノイズ)空間で鳴っている音というふたつの分類がある。この BGM と BGN の足し引きによって、音環境の快適さなどを改善する。また、音のデザインは、音を減らし、響きを調整し、音を増やす、という作業をする。環境音楽制作は、意識に訴えかける「音楽」ではなく、リズム・メロディ・ハーモニー・音色・音量・関係性を鍵として、前意識に溶け込ませる「音」を作る。

本制作は、特に、音の響きの調整・箱の音デザイン・音の関係性（特に自然の音）に着目して、計画を進める。

（参考文献：小松正史著 『人と音が生きる音デザイン』 昭和堂出版）

3.星の王子さま

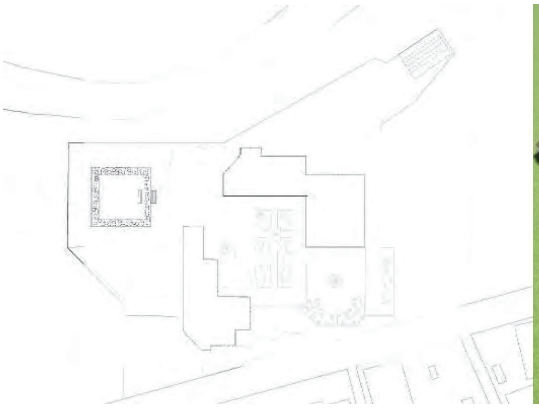
物語は、日常で心から話しあえる人もいない飛行士であるぼくがサハラ砂漠に不時着したときのはなし。小さな星からやってきた王子さまと出会った。王子さまは羊の絵を描いてほしいと言い、ぼくは羊の絵をたくさん描いたが、最終的に羊の入っている箱の絵を描いた。王子さまはぼくが描いて今まで誰にも理解されることのなかった「ゾウを飲み込んだウワバミ」の絵を一目で言い当てた。ぼくは、飛行機の修理をしながら王子さまが旅で訪れたさまざまな星の王子の話を聞いていくうちに、王子さまがかけがえのない存在になっていた。王子さまは地球に来て一年が経ったある日、元いた星に帰る決断をする。

(参考文献：サン=テグジュペリ著 小島俊明訳『新訳 星の王子さま』中央公論新社出版)

4.計画敷地

星の王子さまミュージアム

２０２３年３月３１日に閉園予定。多くの箱根の一角に位置する。現代の流行に乗り切れずに来場者が減少し、重なって新型コロナウイルス感染拡大による更なる来場者数の激減と、建物の老朽化なども理由に挙げられている。





(画像引用　左図/敷地配置 兼 屋根伏図　右図/俯瞰パース(新 Map))

所在地：神奈川県足柄下郡箱根町仙石原９０９
主な用途：テーマパーク
敷地面積：15,000m^2
建築面積：2,140m^2
延床面積：2,140m^2
キーワード：音環境　ランドスケープ　半屋外空間

Location : 909 , Gokusenhara . Hakonr , Ashigaragun , kanagawa
Main Use : Theme park
Site Area : 15,000 m^2
Building Floor Area : 2,140 m^2
Total Floor Area : 2,140 m^2
Keywords : Office, Sound enmironment , Land scape , Outdoor scape

5.設計趣旨

既存する建物を残して、音に配慮しながら、人間の気持ちでふわふわ・もやもやとした柔らかい感じを布で表現し、レストランの改修をおこなった。加えて、大人が静かな処でリラックスするために「水の家」を新設。子供が楽しいのはもちろんのこと、大人のリラックスペースを設ける。では、何故、「水の家」なのか？それは「星の王子さま」がサハラ砂漠に不時着する話で、水は人間にとって大切なひとつの資源で、オアシスだ。程良い水の音や水の波の反射の影は、人間を刺激して癒し効果を与えてくれる。皆様には、この箱根の街の壮大な自然に囲まれて、星の王子さまと共にゆったりとしたオアシスを感じてほしい。

6.計画詳細

星の王子さまミュージアム{新＋旧}

地面と花壇も新たにレンガや石垣を追加した。

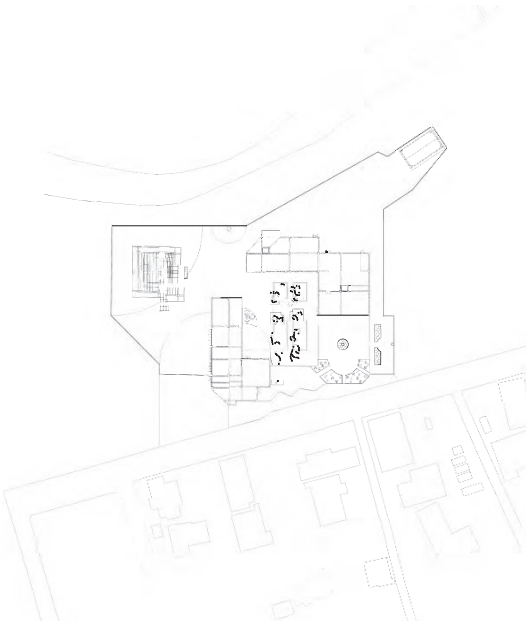
水の家{新}

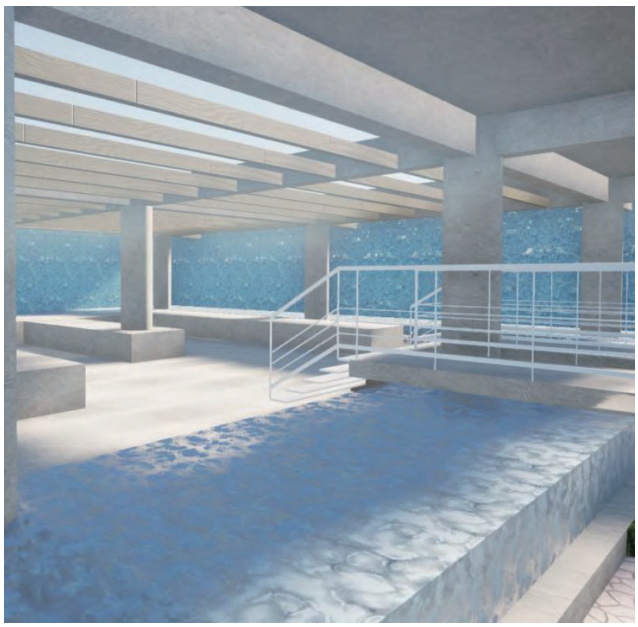
オアシスが癒やしてくれるスペース。天井から壁を伝いながら落ちる水は最高に心地良い音を鳴らす。落ちてきた水を貯めるプールに四方を囲まれており、光の反射の影がどことなく現れる。大人のオアシスなので、コンクリートをそのまま表面に残して既存建物の雰囲気をなるべく壊さないようにした。大きく空いたトップライトと梁にかけた木の隙間から照らす太陽の光は暖かく大人たちを見守ってくれる。木は新設時に切り倒した箱根の森の木を使用し、資源を無駄にしない SDGs も意識した。

レストラン ル・プチ・プランス{改}

レストラン利用者以外も使用できるテラス席の新設をした。テラス席からは、新設した水の家を眺めることができる。水の光の反射の影も少し感じることができる。

レストラン内は、ふわふわとした柔らかい布に囲まれている。人間の気持ちはもやもや・ふわふわとしていて、不安定であることを表現した。白い布は、様々な想像を人生という白いキャンバスを無限大の自分色に染めてほしい、という私の願いを吹き込んだ。





(画像引用　左図/1 階平面図　右図/水の家(内観パース))

TUNAGU -芹橋一丁目街区再生計画-

学籍番号　T21006
名　　前　安澤聖志
指導教員　生川慶一郎

TUNAGU

-Seribashi-icchoume Area revitalization Planning-

Student Number　T21006
Name　Satoshi Yasuzawa
Supervisor　Keichiro Narukawa

1. 背景

本制作は滋賀県彦根市芹橋一丁目の街区再生計画である。滋賀県彦根市は彦根城を中心に発展した都市である。旧城下町の遺構が多く残されており、観光資源の一つとなっている。選定敷地の芹橋一丁目にはかつて足軽が駐在していた。彦根藩の足軽は幕府直属の部隊として優遇されており、全国的に珍しい足軽屋敷があった。現在もその名残で、道幅一間半(約 2.7m)で格子状の土地割や侵攻を監視するくいちがいがある。この街区には足軽屋敷の模倣、継承により建築された古民家が少数現存しているが、足軽屋敷と認定されていない。正確な築年数は不明であるが、ヒアリング調査により築 100 年超と判明している。また、明治以降に建築された長屋や昭和中期頃までの在来工法の民家が点在している特徴がある。旧丁目とよばれる縦の辻ごとに独立した両側町形式のコミュニティを形成している。



写真 1. 既存街区内に所在する足軽屋敷構造の古民家



写真 2. 既存街区西側中辻通り



写真 3. 既存街区東側中辻通りと空き地

2. 芹橋一丁目の現状と問題

少子高齢化や若年層の都市流出に起因するまちづくりの担い手の高齢化、後継者不足が起こっておりコミュニティの衰退が進行している。連鎖的に景観の維持困難、空き家、空き地化。景観にそぐわない箱型住宅の増加しており、この街区が持つ歴史的価値の損失につながる。

3.卒業設計課題テーマ「街区の価値の見える化」

縦のコミュニティを繋ぐ横の道(中辻)に着目し、設計で示すことにより、中辻を中心とした街区の価値の気づきを起こす。その気づきを縦辻へ流入されるようにすることにより、街区全体のコミュニティの結束と、訪問者と交流が起きる街区設計を提案し、更なる活性化を目指す。



図 1.計画敷地

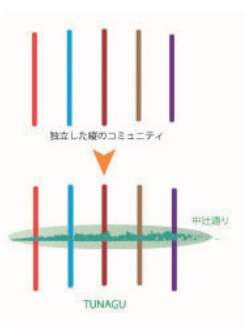


図 2.コミュニティ再編ダイアグラム

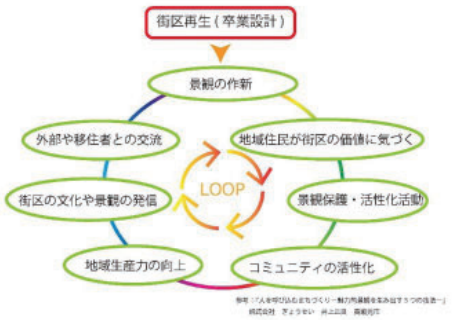


図 3.コミュニティ再生ダイアグラム

3. 街区再生設計

街区再生設計に伴う条件は以下である。
道路幅員：中辻通り 4m(セットバック)
　　縦辻通り:変更なし(約 2.7m)
復元：足軽組屋敷、長屋、木塀などを復元し、当時の景観を取り戻す。
再興：新築で既存の足軽組屋敷、長屋の構造と意匠を基に新築し、街並みを復元。
広場：コミュニティや外部来訪者との交流。
保存、改修：既存の古民家、長屋を改修し、歴史的価値を残す。

3-1. 新築設計案

街区形成当時に存在していた足軽屋敷と長屋の意匠を取り入れつつ、現代の生活に必要な設計を行う。

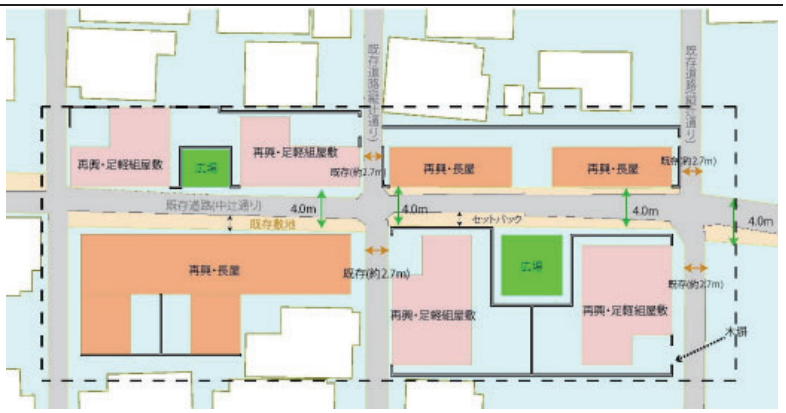


図 4. 街区再生設計に関する例(点線枠内を対象)

所在地：滋賀県彦根市芹橋一丁目
主な用途：住居、事務所、商店など
敷地面積：—
建築面積：—
延床面積：—
キーワード：まちづくり　街区再生 リノベーション コンバージョン

Location : Seribasi-icchoume,Hikone City,Shiga Pre
Main Use : House Office Store etc...
Site Area : —
Building Floor Area :—
Total Floor Area : —
Keywords : Town planning, Area revitalization, renovation, Conservation.

○新足軽屋敷
対象敷地の隣街区(芹橋二丁目)には彦根市から文化財として指定された現存する足軽屋敷が存在しており、現在コミュニティスペース、店舗、住居などに活用されている。調査を行い、結果を表１に特徴を示した。
意匠構造を参考にし、現代の暮らしに沿った『新足軽屋敷』を設計する。


写真 4. 吉居家住宅(既存足軽屋敷)

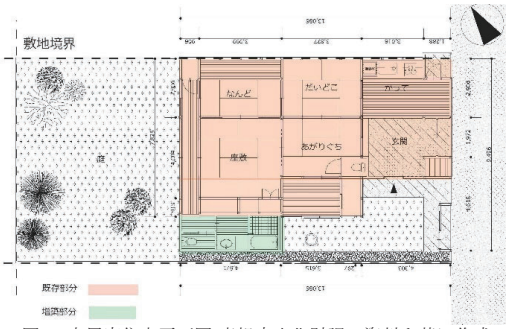


図 5. 吉居家住宅平面図(彦根市文化財課の資料を基に作成)

表 1. 既存足軽屋敷の特徴

「接道型」：母屋が道に接道している。母屋の向きは妻か平入りである。
「平前庭型」：屋敷の前に庭がある。
「厨子二階」：母屋に存在する。
「下屋」：軒が道路境界線に沿ってかかる。
内部構造：「玄関」「台所」「納戸」「座敷」が接続している。
既存のほとんどが水回りの増改築がなされている。
「木戸門」：敷地入口には門をもつ。
「木塀」：道路境界線に沿ってかかる。また敷地境界の役割を持つ。
「辻番所」：ずれた十字路に存在した敵の侵攻を見張る監視所。


画像 1.新足軽組屋敷(住居)


画像 2.新足軽組屋敷とコミュニティ広場

○新長屋：選定敷地内に長屋が多数存在しており、意匠構造を参考に「職住一体型」の長屋を設計する。


画像 3.新長屋(職住一体型)


画像 4 通り抜け可能な通り庭

3-2. 街区全体設計案まとめ

3 と 3-1 で提案した設計案を基にして街区全体を設計した。

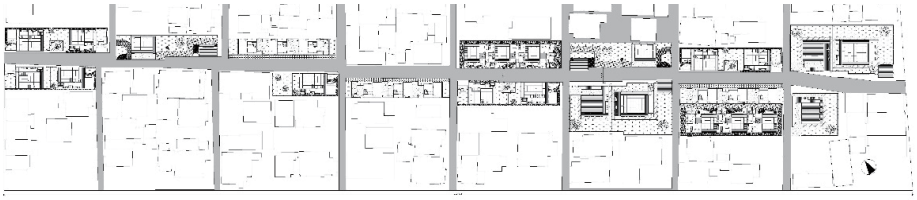
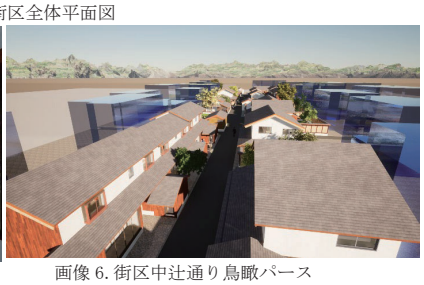


図 6. 街区全体平面図


画像 5. 街区中辻通り東側パース


画像 6. 街区中辻通り鳥瞰パース


画像 7. コミュニティ広場のパース

参考資料：国土地理院,まち遺産ネットひこね『ぶらひこねまっぷ』,彦根辻番所の会 HP,彦根景観フォーラム公益社団法人：彦根観光協会『善利組-彦根市観光ガイド』,コモンズからの都市再生/著：高村学人/ミネルヴァ書房,近江の陣屋を訪ねて/著：中村均/ サンライズ出版.株式会社黒壁の起源とまちづくりの精神/著：角谷 嘉則/創成社,人を呼び込むまちづくり—魅力的景観を生み出す 5 つの技法—』/著：井上正良　長瀬光市/株式会社ぎょうせい.ヒアリング協力： 渡邊様「彦根辻番所の会・会長」,北川様「特定非営利活動法人善利組まちづくりネット・代表」,吉居様「吉居家住宅当主」

WINDMILL

学籍番号　T21007
名　　前　山田　祥永
指導教員　宮内　智久先生

計画概要

「踊る」それは、音やリズムに合わせて身体を動かすことある、と思われがちである。それ故、踊ることへのハードルが高く設けられてしまっているように感じる。この凝り固まった認識をやわらかく言い換えるなら、踊ることは、音が放つオーラやエネルギーを自らの感性と織り交ぜ、自然と身体が動いてしまう現象である、と示すことができるのではないだろうか。

普段、街中で流れる BGM に気持ちが高まったり、何気なく聴いている音楽の BPM に合わせて歩いたり、気づいていないうちに、日常生活の中に思わず踊ってしまうタイミングは多く潜んでいる。



（計画のイメージ画像）

「踊りたくなる場所はどこですか。」ダンサーの友人に尋ねた。彼は、フロアの素材や設備環境の整っているところと答えた。

「踊りたくなる瞬間はいつですか。」ダンス経験のない幼馴染に尋ねた。彼女は、シャッフル再生で好きな音楽が流れたときと答えた。

経験の有無に関わらず、踊りたいという衝動に駆られる瞬間は誰にでもあるはず。普段から踊る人も、踊らない人も、踊りたいけどなかなか踏み出せない人も、誰もが気軽に利用できる「日常に溶け込んだダンススタジオ」があれば。

ダンスへの関心の高まりと問題

ブレイクダンスが 2024 年のパリ五輪の正式種目に選定され、日本でも昨年よりプロダンスリーグの D.LEAGUE が開幕した。また、Instagram や TikTok などの SNS の発達により、人気の曲で「踊ってみた」シリーズが流行しており、ダンス未経験者でも気軽にダンス動画を投稿できるようになった。

2008 年 3 月に改定された新学習指導要領により、2012 年から中学校の体育の授業でのダンスが必修の科目となった。小学校でも表現運動の一環としてダンスの授業がカリキュラムに組み込まれ、現在、子どもたちは義務教育の 9 年間を通してダンスと触れ合っている。

流行が社会を動かし、歌って踊れるアイドルが当たり前となるほどに、ここ十数年でダンスは私たちの生活に少しずつ馴染んでいっているように感じる。

しかし、ダンスの授業が必修化され、上手に踊れることが一種のステータスであるような環境が形成されてしまい、それによって苦しい思いを経験する人もいる。必修化の翌年 2013 年、熊本県のある県立高校で、ダンスの授業内で上手く踊ることができなかった女子生徒（当時 17 歳）が、元同級生に彼女の踊り方やそれに関係のない容姿にまで揶揄われ、自らの命を絶ってしまうという悲しい事件が起きてしまった。

ダンスがきっかけで苦しい思いを体感する人を一人でも減らすことができるような制作を目標とする。

仮説と目的

幼い頃から踊りに慣れ親しんでいる人は楽しくダンスと関わることができても、不慣れな人にとってはそれが難しく感じてしまうこともある。公園のように、踊る人も踊らない人も、踊りたいけれど踊れない人も、老若男女問わず、誰でも気軽に踊ることのできるダンススタジオがあれば、少しは自らが踊ることへのハードルを下げることができるのではないだろうか。ダンスが子どもの習い事としても定着しているのとともに、年配の方にも楽しく身体を動かす手段として注目されている。公園のように利用できるダンススタジオを計画することで、踊ることへの苦手意識を取っ払うこと、有酸素運動や程よい筋肉のトレーニングのきっかけを作ること、利用者同士の新たなコミュニティの形成、そして、私の地元である滋賀県をダンスの力で活性化させることを目的とする。

選定敷地

滋賀県は車での移動が主流であるため、県内のほとんどのダンススタジオは駐車場完備である。鉄道各線の駅から徒歩圏内にあるダンススタジオが多いが、電車の本数が限られていたり、乗り換えが必要でそれに時間を取られてしまったりと、電車での移動が便利とは言い難い。その結果、県外からの利用者は限りなくゼロに近く、地域密着型で新たなコミュニティの形成は容易ではない。

選定した敷地は滋賀県大津市浜大津５丁目にある空き地である。市内のメインの大通りである滋賀県道 18 号大津草津線に面しており、

WINDMILL

Student Number　T21007
Name　Shoei Yamada
Supervisor　Tomohisa Miyauchi

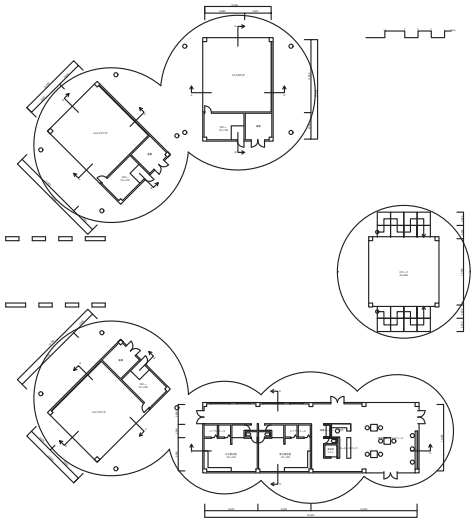
所在地：滋賀県大津市浜大津５丁目
主な用途：空き地
敷地面積：6,400m²
建築面積：870m²
延床面積：870m²
キーワード：ダンス、公園、アクセス

Location : 5, Hamaotsu, Otsu-city, Shiga-pref.
Main Use : vacant land
Site Area : 6,400m²
Building Floor Area : 870m²
Total Floor Area :　870m²
Keywords : Dance, Park, Access

大型商業施設の浜大津アーカスや琵琶湖ホテルなどが隣接している。京阪電鉄びわ湖浜大津駅から徒歩 1 分、JR 大津駅から徒歩 15 分、更には名神高速道路大津インターチェンジから車で 5 分と好立地であり、近隣には市が運営する公営駐車場やコインパーキングが多く整備されているため、県内はもちろん、県外からでも利用しやすい立地であると考える。

計画内容

さまざまな利用者のそれぞれの視点を想像し、「踊りたくなる瞬間」、「リラックスできる場所」、「ありそうでなかった理想の場所」を抽出し計画した。ストリートで練習するダンサーの多くは、どれだけ広い場所でも壁に向かって踊る傾向があるため、開放的でありつつも包まれるような配置計画とした。



〈スタジオ〉

野球やサッカーのように、ダンスがまだまだ人々の日常に馴染みがないのは、ダンサーがダンスの練習をしている姿を見る機会が少ないことが一つの大きな要因だと考える。大きなガラスの窓を採用した全く同じ形状の三つのスタジオは、スタジオの中の風景を外から観覧できるようにする目的と、スタジオ内に太陽光が入るようにする目的を担っている。スタジオごとに方位が異なるため、同じ時間帯でも陽の入り方がそれぞれ違い、繰り返しの利用でも毎回新鮮な気持ちで練習に励むことが可能である。

〈カフェテリア〉

踊り終わったダンサーたちの集う場として、お子様のレッスンの送迎の親御さんの待合室として、散歩で立ち寄った地域の方の休憩所として、利用者のターゲットや目的を絞らず誰もが利用できるカフェテリアを設置した。スタジオ利用者の男女別更衣室には要望の多いシャワーブースを各二箇所ずつ設け、素早く汗を流すことができるよう計画した。更衣室前の通路では、ダンスにまつわるギャラリーとして展示を行い、踊らなくてもダンスを頭で体感できるようなスペースを設けた。

〈ステージ〉

10m 四方の屋外ステージでは、イベント開催時には舞台として活用し、普段は誰でも自由にステージに立つ感覚を味わうことができる場として開放する。当施設のスタジオとほぼ同じ広さであるため、練習の成果が存分に発揮されることを願って計画した。

〈ステップが踏める階段〉

ステージ横に設置した階段ではステップが踏めるよう、2m 四方の正方形を並べて配置した。高さの違いを利用してステップの教え合いっこをしたり、ショーケースでの構成に段差を用いたり、さまざまな活用法がある。

〈音を奏でる屋根〉

ステージ上の屋根はガラス製で、雨の音を楽しんだり、雨の粒を眺めたり、雨の日でも心を解放して踊ることができる。

〈踊りだす壁〉

大通りに面するエントランスのような役割を担う。実際は動くことのない硬い壁であるが、太陽に照らされる面やそれに伴ってできる影、壁と壁との間を流れる風など、自然の要素が硬派な壁と踊りだすことを表している。その姿につられて私たちも思わず踊りだす、そんな循環を願っている。

まとめ

英語で風車の意味を持つ”WINDMILL”は、アクロバティックな技が多いブレイクダンスの有名な技の名前にも用いられている。床に背中をつけながら遠心力を用いて両足を回転させるウインドミルの、放たれるような、しかし吸い込まれるような、そんなダイナミックさに憧れてこの卒業制作の題名に起用した。ダンスにまつわる問題を建築の力で解決することは、幼い頃からダンスをしてきた私にとって非常に趣のある内容であった。一人でも多く、ダンスに興味を持ってもらえたら、踊りだす第一歩を踏み出してもらえたら幸いである。

【編集後記】

本誌は学生が卒業制作、修士研究で作成した梗概の最終提出物を集約して掲載している。書式は建築学会の梗概集を参考にしており、形式は PDF データである。編集は Adobe In Design を使い、京都美術工芸大学附属図書館梗概集編集部会のメンバーで個々のデータをそのまま配置するかたちで行った。学生によってバラツキが生じているが、その点はご容赦いただきたい。内容に関しても文章や引用の不備など未熟な点を多々気づかれるであろうが、御批判、御鞭撻たまわりますようお願いする次第である。号を重ねる中で精度を高めたいと考えている。

京都美術工芸大学卒業制作梗概集　第 1 号

令和 5 年 3 月 31 日　発行

編集　　京都美術工芸大学附属図書館梗概集編集部会
部会長　髙田光雄（副学長・大学院研究科長）
副部会長　山内 貴博（建築学科・付属図書館副館長）
委員　　白鳥洋子（建築学科 ）
デザイン　岡達也（美術工芸学科）

発行　京都美術工芸大学
　　京都府京都市東山区上堀詰町 272
　　075-525-1515

KYOBI
学校法人 二本松学院
京都美術工芸大学